キチタラウ 吉太郎(泉) 歩兵中尉。愛知縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月六日盛京省轉機橋に負傷し、二十日歿す。

キチノジヨウ 吉之丞(芝田) 漁業家。紀伊牟婁郡の人。文政五年一種の鮪綱を創製す。漁人これを用ゐて大利あり。

キチノスケ 吉之助(新宅) 歩兵中尉。廣島縣出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十八年三月盛京省に戰死す。

キチノスケ 吉之助(淺井) 工兵大尉。東京府人。日露戰役に從ひ、明治三十七年八月二十二日盛京省に戰死す。

キチノスケ 吉之助 **タカモリ(西郷隆盛)**

キチヘイ 吉瓶(邑井) 講談師。本名湯美彦太郎。江戸の人。父を助治といひ、札差なり。土橋亭りう馬の門に入り、後邑井吉瓶に就く、明治三十五年師名を嗣ぎ、三十八年四月二十一日死す。年五十一。

キチベエ 吉兵衛(植田) 開拓家。大和の人。北葛城郡に十六町餘の耕地を開き、領主植村伊勢守より褒賜を受く。

キチベエ 吉兵衛(押上) 飛彈高山の志士。名は美登。明治二年歿す。年五十三。

キチベエ 吉兵衛(中原) 勤王家。伯耆橋津の人。家産を傾けて志士を救助し、維新後歿す。明治三十一年贈正五位。

キチベエ 吉兵衛(西) 長崎の譯官。明曆四年葡萄牙交の天文書を譯し、乾坤辨說と題す。

キチベエ 吉兵衛(道具屋) 淨瑠璃道具屋 節の祖。大阪の人。

キチベエ 吉兵衛(中村) 幇間。戲名を二朱判と稱す。俳名一其。江戸の人。明和二年歿す。

キチベエ 吉兵衛(松岡屋) 越前疋田井の人。近江の商家を設き、寄附金を募りて足羽山道を改修す。嘉永六年五月十三日歿す。

キチベエ 吉兵衛(綱屋) 神戸築港の創設者。攝津の人。安政三年神戸村安永新田海岸に築堤を試み、三年にして略成る。將軍家茂、攝海巡視の際、謁を賜ふ。明治二年九月歿す。

キチベエ 吉兵衛(野澤) 義太夫三味線の名手。本名鈴木重藏。豐岐三本松の人。明治四十四年二月二十二日歿す。年七十一。

キチベエ 吉兵衛(道明寺屋) **チウキ(富永仲基)**

キチベエ 吉兵衛(樂) **ノンコ** 嬾古

キチマツ 吉松(竹俣) 歩兵大尉。石川縣人。日露戰爭に從軍中、明治三十八年三月十四日戰死す。

キチヤ 吉彌(上村) 京都の俳優。延寶の頃江戸に下る。

キチヤウ 義長 **ハクヤウ(二山伯養)**

キチヤウサイ 貴暢齋 **ナホマサ(尾崎直政)**

キチユウ 義冲 高僧。大陽と號す。筑前の承大寺、參河の實相寺、洛の善門寺、東福寺、南禪寺に歷住し、參河長興寺及び近江高島清凉寺を開く。文和元年正月十一日寂す。年七十一。

キチエモン 吉右衛門(江見屋) 彩色摺の祖。延享年間の人。

キヂユウ 義重(近藤) 勤王家。名は正愼、曾認向の事に關して捕へられ、安政五年自ら舌を咬みて死す。年四十三。贈從五位。

キヂヨ 祇女 **ギウ** 祇王 の條を見よ。

キツアン 橘庵(田宮) 大阪の儒者。名は仲宣、通稱猶齋太郎。琴樽又琴海と悠然齋、別號東關子、橘庵漫筆、東關子等の著あり。

キツアン 橘庵 **セイビ(北山世美)**

キツイン 橘陰(小橋) 儒者、通稱多助、名は勳。安政年間江戶に住す。

キツウ 義通(高) 眞醫。張福子及び吉田實等と時を同じくす。

キツウン 吉雲 俳人。山本氏。晒窓。四世湖十の門。

キツカ 橘賀 俳人。有日庵。素丸の門。

キツガウキ(吉葛岐) **ガウキ(吉田鰲岐)**

キツガウロ 吉葛廬 **ヨシコト(一柳嘉言)**

キツギダイフ 木接太夫 大阪の人。接木に妙なり。豐臣秀吉之を大阪城に召す。

キツザン 吉山 **ミンテウ 明兆**

キツシ 佶子(藤原) 亀山帝の皇后。山階實雄の女。文永九年薨ず。京極院と稱す。

キツジ 吉次 元祿の俳人。蕉風。

キツシウ 吉岫 **シユンリ 舜利**

キツシウ 吉州 **ボンテイ 梵貞**

キツシウ 橘洲(唐衣) 有名の狂歌師。田安侯の臣。小島氏。通稱源之助。名は潔之、後讓之と改む。酔竹庵、又無禪館と號す。享和二年七月十八日歿す。年六十。

キツシウ 橘洲(畑) 醫。名は惟禎、字は世吉、後徹と改む。天保三年京都に歿す。年六十二。

キツシウサイ 橘秀才 **ハヤナリ(橘逸勢)**

キツシダウ 橘枝堂 **キウギ(河原九疑)**

キツシヤウ 吉祥(津守) 齊明帝の五年遣唐副使となり、高宗に見ゆ。對奏旨に適ふ。客館火を失し、又機者の爲めに陷れられ、西京に囚せらる。

キツシラウ 橘四郎 **クワンス井(松岡環翠)**

キツセイ 橘井佐藤 越後三條の詩人。通稱元昌、弘化頃の人。

キツセン 橘泉 京都の俳人。季吟の門。寛文頃。

キツセン 橘仙(北村) 京都の俳人。寛政二年歿。

キツセン 吉仙 **タイシツ(小幡太室)**

キツソウ 橘窓 **ツネアキラ(橋本經亮) ハウシウ(雨森芳洲)**

キツタラウ 橘太郎(伊藤) 歩兵少佐。愛知縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月七日盛京省に戰死す。年五十七。

キツチヤウラウ 佶長老 **カンシツ 閑室**[死す。

キツネカチ 狐鍛冶 **ケイマロ 敬麻呂**

キツエン 橘園(三宅) 儒者。名は邦、字は元興、或は齋と號す。加賀の人。皆川淇園に從ひ、又長崎に遊ぶ。文政二年八月京師に歿す。年五十三。

キツヲウ 橘翁(平野) 心學者。擅園と號す。心學孝行種百席百話の著あり。慶應中の人。「と稱す。

キツイ 磯亭(石井) 下野の儒者。名は光敦、吉兵衛頃の人。

キツイ 葵亭(小日向) 越後加茂の國漪學者。弘化「に倣ひ、青花磁器を製す。

キツイ 龜亭(和氣) 京都の陶工。肥前有田の陶法其呈 俳人。只哉坊の門。

キツイ 淇亭(上田) 儒者。名は沈、小成と稱す。大和の人。谷三山の門。鳥取藩に聘せらる。明治九年江戸の俳人。小額堂。十二月歿す。

ギツイ 祇貞 **セツケン(大井雪軒)**

キツイ 蟻亭 **ソワホウ(青木宋鳳)**

キツウ 几鳥 **トカウ(神澤杜口)**

ギツツ 義徹(大東) 元彦根藩士。舊名大藏。明治二十三年衆議院議員となり、爾後毎に選擧せられ、三十一年司法大臣となる。三十九年四月八日卒す。年六十四。

キヅラノミヤ 木寺宮 **クニナガシンワウ 邦良親王** **キスヒトシンワウ 康仁親王** **キヂホフイン** 木寺法印 **クワンガ 寛雅** **キテン** 希典 **マレスケ(乃木希典)** **ギテン** 義天 高僧。字は無雲。賀茂氏。山城の人。

支那に入り、雲外等の諸智識に見え、歸朝して建仁寺、南禪寺に歷住す。貞治六年五月二十七日寂す。年七十八。

キトウ 基燈 高僧。周防の人。每日法華を誦すること三十餘部。耳目該通、數十里外を見聞すと云ふ。享年一百四十餘。「亭、眉屋と號す。弘化頃の人。

キトウ 几董 三河吉田の俳人。通稱彌兵衛。九花庵、初世祇德の門。安永八年歿。年五十一。

キトウ 几藤 三河吉田の俳人。通稱源太郎。琴樽又琴海と悠然齋、別號東關子、橘庵漫筆、東關子等の著あり。

キトウ 義董 **柴田** 四條風の畫人。松村月溪の門。人物に長ず。字は威伸、通稱喜太郎。琴樽又琴海と號す。備前の人。京都に住す。文政二年四月五日歿す。年四十。

キトウ 岐東 **倉井** 越後高田の俳人。通稱彌兵衛。九花庵、初世祇德の門。安永八年歿。年五十一。

ギトウ 義統 **レングエドウジ(蓮花童子)**

ギドウサンジ 儀同三司 **カネツナ(藤原笨綱)**

スケノリ(同資教) **サネカ(同實香)** **コレチカ(階貴子)**

(同伊周)

ギドウサンシノハハ 儀同三司母 **タカコ(高階貴子)**

キドウセン 歸童仙 **ゴチクバワ 吳竹坊**

キトク 奇得(梅澤) 石州流の茶人。丹後藩士。松浦鎭信の門。「柳千句の著あり。

キトク 喜得 伊豆の俳人。石橋氏。安靜の門。青園、祇空の門。寶曆四年十一月二十四日歿。一言庵。初世祇德の門。安永八年歿。【二世】仲氏。自在庵、竹隱子、遲日調、鳥なし、竹隱集の著あり。【三世】仲氏。自在庵。初世祇德の門。安永八年歿。年五十一。

キヌガサナイダイジン 衣笠內大臣 **イヘナガ(藤原家長)**

キネイ 其寧(闕) 江戸の貴家。思巷の門に入り、遂に其の嗣となる。本姓落合。字は子永、通稱源藏。南樣と號す。土浦侯に仕ふ。寬政十二年四月二十九日

キヌ 絹 萬葉集の作家。大寶年間の人。

キヌガサ 衣笠 **セワシヤ(福井小車)**

キヌガサナイダイジン 衣笠內大臣 **イヘナガ(藤原家長)**

キネイ 其寧(闕) 江戸の貴家。思巷の門に入り、遂に其の嗣となる。本姓落合。字は子永、通稱源藏。南樣と號す。土浦侯に仕ふ。寬政十二年四月二十九日

發す。年六十八。

キネン 亀年 阿波徳島の俳人。兼井氏。儀年亭と號す。弘化中の人。

キネン 亀年 ランデン(伊東藍田)

キノイラツメ 紀郎女 女歌人。紀朝臣の女。名は小鹿。安貴王に配す。王薨後、大伴家持と通ず。萬葉集及び玉葉集の作家。

キノクワウヂヨ 紀皇女 玉葉集の作家。

キノコ きの子 女歌人。紀伊和歌山藩田源右衛門の妻。文化年間の人。

キノサク 喜之作(加瀬澤) 歩兵中尉。靜岡縣人。日露役に從ひ、明治三十八年三月奉天に戰死す。

ギノスケ 儀之介(森下) 土州藩士。名は茂忠。文久三年南山の擧に加り、縛に就き、元治元年二月十八日斬らる。年三十三。明治三十一年贈正五位。

キノスケ 喜之助(木村) 徳川幕府の臣。寛政九年幕命を奉じ、紀州の人安田泰より製糖法を傳習し、砂糖製作記を著す。

キノスケ 喜之助(伊地知) 三等軍吏。鹿兒島縣人。日清の役に從ひ、病死す。

キノスケ 喜之助(山田) 辯護士。法學士。貴族院議員。大審院判事及び司法次官たり。大正二年二月二十日卒す。年五十五。

ギノスケ 義之助(桑原) 高知藩の勤王家。名は政伸。長州に投じて國事に奔走せしが、慶應元年病歿す。年二十五。明治三十一年贈從五位。

キノナゴン 紀納言 ハセヲ(紀長谷雄)

キノメノト 紀乳母 陽成帝の乳母。名は全子。古今集及び後撰集の作家。

キハイ 其梅 俳人。野村氏。伴松堂と號す。丈石の門。天明八年二月十二日歿。年七十。「鶴庭の門。

ギハウ 祇報 江戸の俳人。荻原氏。螢雪庵、玉窓。

ギハウ 義寶 法師。新後拾遺集及び新撰古今集の作家。

キハク 旣白 ジユサイ 壽永 「作家。

キハク 奇伯 ズヰホワ 瑞麗

キハク 季白(小石) 元俊の父。蓊梅北野市之進。世々小宿供の卷纓なりしが、致仕して姓名を變へ、大阪に住し、茶香和歌連歌を敎へ、傍ら醫術を開き、明和元年歿す。

キハク 希璞(藤井) 勤王家。元有栖川宮の家人。蔕神崎少進、又歌吉。維新後、同宮家令、元老院議官等を經て、明治二十六年歿す。年七十。

ギハク 宜麥 俳人。川路氏。通稱平右衛門。老鴬巢、麥太の門。文政十一年十二月歿。年七十二。

キハクサンジン 旣白山人 チンザンビン(陳元贇) 清軍大主計。佐賀縣人。日露役に從ひ、旅順口附近に戰死す。

キハチ 喜八(塚原) 清軍大主計。佐賀縣人。日露戰に從ひ、旅順口附近に戰死す。

キハチ 喜八(川上) 歩兵大尉。和歌山縣人。日露の役に從ひ、明治三十七年八月二十二日東雞冠山に負傷し、二十四日歿す。

ギハチ 儀八(桃井) 志士。武藏大里郡の人。水戸藩士と往來して、尊攘を議す。事露はれて自首し、幽囚中、病死す。大正元年贈正五位。

ギハチ 儀八(岡田) 歩兵少尉。福岡藩の勤王家。名は致忠。文久三年南山の擧に加り、縛に就き、元治元年二月十八日斬らる。年三十三。明治三十一年贈正五位。

キハチラウ 喜八郎(安田) 福岡藩の勤王家。名は致忠。字は彦愛。宜綽の子。寛延三年十一月十七日歿す。通稱久次郎。遠江有玉の人。

キヒ エヒコ ノミコ 吉備兄彦皇子 景行天皇の皇子。母は八坂入媛皇后。

キヒツウネメ 吉備津采女 萬葉集の作家。天平「年間の人。

キヒノタケヒコ ノミコト 吉備武彦命 四道將軍の一。孝靈天皇三世の孫。崇神天皇の時、吉備の國を征す。

キヒマロ 吉備麻呂(鴨) 和銅養老の間の人。下總守、玄蕃頭、河內守等を經て英作、備前、備中、淡路の按察使となる。「す。延寶頃の人。

キフアン 及庵(武下) 畫人。探圖の門。奥州に住

ギフウ 宜風(遠藤) 俳人。通稱傳一郎。安政年間江戸に住す。

キフカ 及加 俳人。高島氏。通稱善太夫。玄札の從弟。玄札の門。蹲旁集の著あり。寛文頃の人。

キフカン 急閑 語學者。慶長二年抑留を著す。

キフケン 及肩 伊賀の俳人。元祿頃の人。吉蔡門。

キフコサイ 汲古齋 シヤウハ(町田章波)

キフサイ 汲齋(寺崎) 越後新發田の詩人。通稱衛庵。弘化年間の人。

キフサイ 汲齋 ソウテツ(中村宗哲)

キフザウ 翕藏(村上) 歩兵大尉。大分縣出身。日露役に奮軍し、明治三十七年九月三日遼陽に戰死す。

キフスヰ 汲水(大倉) 書家。名は貫爾。文政八年二月京都に歿す。

キフセツ 及雪 畫伯。櫪村齋と號す。螢村の門人。

キフロアン 吸露庵 リヨウタイ(越部涼岱)

キフン 癸貢 チユウシウ(直瀨中洲)

キフン 喜文 大阪の俳人。長谷川氏。千鶴舍。姫州の門。

キブン 喜文 ブンザエモン(大河原文左衛門)

キブン 亀文 江戸の俳人。本多氏。曲直庵。

キブン 季文(高濱) 江戸の儒者。字は固輔。龍山と號す。姫路侯の文學。享和四年三月十日歿す。

キブン 季文(北村) 歌人。季春の子。春水の孫。通稱平吉。江戸の人。法印に叙せらる。嘉永三年二月九日歿す。年七十三。幕府年中行事等の著あり。

キブンセキシユジン 亀文石主人 ホウヘイ(蓬平)

キヘイ 季平(愛甲) 醫學博士。室鳩巢の門人。

キヘイジ 喜平次(池田) 徳川家康の臣。一に喜兵衛に作る。

キヘイジ 喜平次(松村) 歩兵少尉。東京府出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年四月十六日病死。

キヘエ 喜兵衛(坂田) 江戸傳馬町の髪結。芝居を好み、江戸役者評判の始をなす。

キヘエ 喜兵衛(北藤) 荒木又右衛門の從僕。或は武兵衛、又は武右衛門に作る。寛永中、主に從ひ、渡邊數馬の仇を伊賀に復し、敵四人を殺して斃る。

キヘエ 喜兵衛(磯野) 京都の髪結師。升屋小左衛門の子。

キヘエ 喜兵衛 キラクヨウ(舛本喜樂翁) ヒデ

キヘエ 機兵衛(外島) 會津藩士。名は義直。藩主容保を扶けて、公卿及び諸藩の間に奔走す。戊辰の際、京に留り、藩兵を收めて、悉く江戸に逆還す。明治元年三月七日歿す。年四十三。

キヘエ 儀兵衛(吉田) 藏井藩の弓術師範。名は貞則。元祿中の人。

キホウ 亀峰(石丸) 佐賀藩の儒者。名は眞幹、字は「號す。弘化中の人。

キホン 亀年 阿波徳島の俳人。兼井氏。儀年亭と

キホン 亀年 ランデン(伊東藍田)

キノイラツメ 紀郎女 女歌人。紀朝臣の女。名は小鹿。安貴王に配す。王薨後、大伴家持と通ず。萬葉集及び玉葉集の作家。

キノクワウヂヨ 紀皇女 玉葉集の作家。

キノコ きの子 女歌人。紀伊和歌山藩田源右衛門の妻。文化年間の人。

キノサク 喜之作(加瀬澤) 歩兵中尉。靜岡縣人。日露役に從ひ、明治三十八年三月奉天に戰死す。

ギノスケ 儀之介(森下) 土州藩士。名は茂忠。文久三年南山の擧に加り、縛に就き、元治元年二月十八日斬らる。年三十三。明治三十一年贈正五位。

キノスケ 喜之助(木村) 徳川幕府の臣。寛政九年幕命を奉じ、紀州の人安田泰より製糖法を傳習し、砂糖製作記を著す。

キノスケ 喜之助(伊地知) 三等軍吏。鹿兒島縣人。日清の役に從ひ、病死す。

キノスケ 喜之助(山田) 辯護士。法學士。貴族院議員。大審院判事及び司法次官たり。大正二年二月二十日卒す。年五十五。

ギノスケ 義之助(桑原) 高知藩の勤王家。名は政伸。長州に投じて國事に奔走せしが、慶應元年病歿す。年二十五。明治三十一年贈從五位。

キノナゴン 紀納言 ハセヲ(紀長谷雄)

キノメノト 紀乳母 陽成帝の乳母。名は全子。古今集及び後撰集の作家。

キハイ 其梅 俳人。野村氏。伴松堂と號す。丈石の門。天明八年二月十二日歿。年七十。「鶴庭の門。

ギハウ 祇報 江戸の俳人。荻原氏。螢雪庵、玉窓。

ギハウ 義寶 法師。新後拾遺集及び新撰古今集の作家。

キハク 旣白 ジユサイ 壽永 「作家。

キハク 奇伯 ズヰホワ 瑞麗

キハク 季白(小石) 元俊の父。蓊梅北野市之進。世々小宿供の卷纓なりしが、致仕して姓名を變へ、大阪に住し、茶香和歌連歌を敎へ、傍ら醫術を開き、明和元年歿す。

キハク 希璞(藤井) 勤王家。元有栖川宮の家人。蔕神崎少進、又歌吉。維新後、同宮家令、元老院議官等を經て、明治二十六年歿す。年七十。

ギハク 宜麥 俳人。川路氏。通稱平右衛門。老鴬巢、麥太の門。文政十一年十二月歿。年七十二。

キハクサンジン 旣白山人 チンザンビン(陳元贇) 清軍大主計。佐賀縣人。日露役に從ひ、旅順口附近に戰死す。

キハチ 喜八(塚原) 清軍大主計。佐賀縣人。日露役に從ひ、旅順口附近に戰死す。

キハチ 喜八(川上) 歩兵大尉。和歌山縣人。日露の役に從ひ、明治三十七年八月二十二日東雞冠山に負傷し、二十四日歿す。

ギハチ 儀八(桃井) 志士。武藏大里郡の人。水戸藩士と往來して、尊攘を議す。事露はれて自首し、幽囚中、病死す。大正元年贈正五位。

ギハチ 儀八(岡田) 歩兵少尉。福岡藩の勤王家。名は致忠。文久三年南山の擧に加り、縛に就き、元治元年二月十八日斬らる。年三十三。明治三十一年贈正五位。

キハチラウ 喜八郎(安田) 福岡藩の勤王家。名は致忠。字は彦愛。宜綽の子。寛延三年十一月十七日歿す。通稱久次郎。遠江有玉の人。

キハチラウ 喜八郎(澤野) 三絃の名手。大阪の勤從。五卿の大宰府に移されし際、盡力せしかば、藩の佐幕派に讒せられ、慶應元年十月二十三日死刑に處せらる。年三十一。贈正五位。「人。

ギハフバウ 義法房 タメヨシ(源爲義) 三絃の名手。大阪の

キハメ 格(魚住) 醫者。越前福井の人。舊名順方。維方洪庵、坪井信良の門。藩命により長崎に至り、コレラ病治療法を研究す。明治二十七年三月八日歿す。年六十三。

ギハン 宜汎(岡田) 江戸の儒。字は彦愛。宜綽の子。寛延三年十一月十七日歿す。通稱久次郎。遠江有玉の人。

キヒ エヒコ ノミコ 吉備兄彦皇子 景行天皇の皇子。母は八坂入媛皇后。

キヒツウネメ 吉備津采女 萬葉集の作家。天平「年間の人。

キヒノタケヒコ ノミコト 吉備武彦命 四道將軍の一。孝靈天皇三世の孫。崇神天皇の時、吉備の國を征す。

キヒマロ 吉備麻呂(鴨) 和銅養老の間の人。下總守、玄蕃頭、河內守等を經て英作、備前、備中、淡路の按察使となる。「す。延寶頃の人。

キフアン 及庵(武下) 畫人。探圖の門。奥州に住

ギフウ 宜風(遠藤) 俳人。通稱傳一郎。安政年間江戸に住す。

キフカ 及加 俳人。高島氏。通稱善太夫。玄札の從弟。玄札の門。蹲旁集の著あり。寛文頃の人。

キフカン 急閑 語學者。慶長二年抑留を著す。

キフケン 及肩 伊賀の俳人。元祿頃の人。吉蔡門。

キフコサイ 汲古齋 シヤウハ(町田章波)

キフサイ 汲齋(寺崎) 越後新發田の詩人。通稱衛庵。弘化年間の人。

キフサイ 汲齋 ソウテツ(中村宗哲)

キフザウ 翕藏(村上) 歩兵大尉。大分縣出身。日露役に奮軍し、明治三十七年九月三日遼陽に戰死す。

キフスヰ 汲水(大倉) 書家。名は貫爾。文政八年二月京都に歿す。

キフセツ 及雪 畫伯。櫪村齋と號す。螢村の門人。

キフロアン 吸露庵 リヨウタイ(越部涼岱)

キフン 癸貢 チユウシウ(直瀨中洲)

キブン 喜文 大阪の俳人。長谷川氏。千鶴舍。姫州の門。

キブン 喜文 ブンザエモン(大河原文左衛門)

キブン 亀文 江戸の俳人。本多氏。曲直庵。

キブン 季文(高濱) 江戸の儒者。字は固輔。龍山と號す。姫路侯の文學。享和四年三月十日歿す。

キブン 季文(北村) 歌人。季春の子。春水の孫。通稱平吉。江戸の人。法印に叙せらる。嘉永三年二月九日歿す。年七十三。幕府年中行事等の著あり。

キブンセキシユジン 亀文石主人 ホウヘイ(蓬平)

キヘイ 季平(愛甲) 醫學博士。室鳩巢の門人。

キヘイジ 喜平次(池田) 徳川家康の臣。一に喜兵衛に作る。

キヘイジ 喜平次(松村) 歩兵少尉。東京府出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年四月十六日病死。

キヘエ 喜兵衛(坂田) 江戸傳馬町の髪結。芝居を好み、江戸役者評判の始をなす。

キヘエ 喜兵衛(北藤) 荒木又右衛門の從僕。或は武兵衛、又は武右衛門に作る。寛永中、主に從ひ、渡邊數馬の仇を伊賀に復し、敵四人を殺して斃る。

キヘエ 喜兵衛(磯野) 京都の髪結師。升屋小左衛門の子。

キヘエ 喜兵衛 キラクヨウ(舛本喜樂翁) ヒデ

キヘエ 機兵衛(外島) 會津藩士。名は義直。藩主容保を扶けて、公卿及び諸藩の間に奔走す。戊辰の際、京に留り、藩兵を收めて、悉く江戸に逆還す。明治元年三月七日歿す。年四十三。

キヘエ 儀兵衛(吉田) 藏井藩の弓術師範。名は貞則。元祿中の人。

キホウ 亀峰(石丸) 佐賀藩の儒者。名は眞幹、字は

キホウ 亀峯(一柳) 小松藩の家老。伊豫の人。名は蓼堂、通稱胖右衛門、字は悌甫。安政二年二月歿す。

キホウ 奇峯 攝津大阪の刀匠。井上氏。眞政の子。名は眞忠。門兵衛と稱す。天和頃の人。

キホウ 奇峰(八木) 畫人。名は致愛、字は謙佐。明治九年九月京都に歿す。年七十一。

キホウ 其蓬 俳人。野村氏。通稱德右衛門。笑驢庵。白善の門。

キホウ 旗峰 リツサイ(服部栗齋)

キホウ 琦鳳(河村) 京都の畫人。名は致愛、字は謙佐。と號し、嘉永五年歿す。年七十九。

キホウ 蟻鳳(鶴洋) 大阪の三絃家。初名三岡八郎。後竹本播磨太夫と改む。安政元年十月歿す。

ギホウ 儀鳳(黒瀧) 儒者。弘前藩の人。通稱彦助。昌平黌に學び、藩學の敎授たり。藩政の得失を論じて、秩祿を削られ、屏居して死す。

キホク 棋北 俳人。上田氏。尚陽舍、浦丈の門。大

キホク 貴朴 ゴロベエ(八幡風呂五郎兵衛)

ギホク 義牧(林) 遠州流の茶人。大森紋信の弟子。

キマタ 亀萬太 豐田) 歩兵大尉。香川縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月孤軍奮戰して死す。年四十一。

キマタ 木馬太(岩淵) 歩兵少佐。千葉縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、八月二十日盛京省饅眼北方に戰死す。

キミアリ 王有 陸奥鎭草の刀匠。或は承安治承年間の人と。

キミコ 公子(藤原) 後深草帝の中宮。太政大臣實氏の二女。遊義門院貴子内親王を生む。東二條院と號す。永仁元年尼となり、圓鏡智と稱し、嘉元二年歿す。

キミヨリ 公頼(三條) 實香の子。罪あり嬉せられしこと二回。從一位左大臣に進む。天文二十年大内義隆に依り、陶全美の亂に殺さる。年五十七。

キミヲ 君雄(小原) 國學者。通稱八郎右衛門、伐香平と改め、鵬舍、又蘭舍と號す。中尾茂市の子。小原氏を繼ぐ。彦根藩士。大嘗中養父及び本居宣長に學ぶ。同藩和學講師たり。天保六年二月晦日歿す。年八十四。著、彦根歌集、蘭舍集。

キミヲ 公雄(藤原) 左大臣實雄の子。正二位權中

キミコ 君子(石川) 萬葉集の作家。養老中、兵部大輔となり、侍從に遷る。

キミコ 亀美子 彦根藩の家老三浦内膳の妻。國學を好み、享和元年本居宣長の門に入る。

キミサト 公里(豐原) 笙の名手。俗人時光の子。

キミタリ 君足(若櫻部) 萬葉集の作家。

キミテ 君手(和珥部) 壬申の亂、天武帝に從ふ。

キミヒコ 君彦 サンエイ(望月三英)

キミヒト シンワウ 君仁親王 家仁親王の子。小字は胡佐宮。明和七年六月薨ず。年三十八。

キミヒロ 公廣(松前) 慶廣の長子。同家七世の主。寛永十八年卒す。年四十四。

キミマサ 公正(由利) 子爵。蔦繩井藩士。初名三岡八郎。慶應三年召されて京に入り、假太政官代御用掛となる。所謂五ヶ條の御誓文は其の建白に基く。又造幣局を大阪に設け、財政を整理す。東京府知事、元老院議官等を經、明治四十二年四月二十八日薨ず。年八十一。「間の人。

キミマロ 君麿(山田) 萬葉集の作家。天平寶龜年

キミマロ 公麿(國中) 聖武天皇の勅を奉じて東大寺の盧舍那佛を造り、功に依りて從四位下造東大寺次官となり、但馬員外介を兼ね、寶龜五年卒す。

キミヨリ 公頼(三條) 實香の子。罪あり嬉せられしこと二回。從一位左大臣に進む。天文二十年大内義隆に依り、陶全美の亂に殺さる。年五十七。

キミヲ 君雄(小原) 國學者。通稱八郎右衛門、伐香平と改め、鵬舍、又蘭舍と號す。中尾茂市の子。小原氏を繼ぐ。彦根藩士。大嘗中養父及び本居宣長に學ぶ。同藩和學講師たり。天保六年二月晦日歿す。年八十四。著、彦根歌集、蘭舍集。

キミヲ 公雄(藤原) 左大臣實雄の子。正二位權中

納言に至る。後鳥羽帝に殊寵あり。帝崩ずるに及び薙髪して名を顯愛と更む。續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キミヲ 公雄(風早) 參議資楨の子。本名公全。權中納言に至る。天明七年薨ず。年六十七。

キミヲ 公雄(尾上) 國學者。本居大平の門。通稱文治。肥後天草都の人。

キミヲノムスメ 公雄女 女歌人。新後撰集の作家。

キメイ 貴命(百濟) 繼體天皇の女后。鎭守府將軍俊哲の女。基良親王、忠眞親王、基子內親王を生む。仁壽元年卒す。

キメイ 其明(中野) 畫工。昉琳堂、晴々齋と號す。明治二十五年歿す。尾形流略印譜の著あり。

キメイ 箕明 **リユウタク(片倉龍澤)**

ギモン 義門 國語學者。藤井高尙及び本居春庭の門。若狹小濱妙玄寺の僧。天保十四年八月十五日寂す。年五十八。著書、山口栞、活語指南、玉の緒繰分、男信、友鏡等。

ギモン 義門(筑紫) 勤王家。福岡藩士。通稱儀、名は道止、字は伯義。慶應元年七卿のために周旋す。歸藩して譴に遭ひ、窟に蟄し、川を徒渉せんとして溺死す。明治三十五年十一月贈正五位。

キヤウ 羌(財部) 鹿兒島縣人。釜北麓、神代系書記官を歷、明治四十二年四月八日歿す。年六十五。

ギヤウ 岐陽(仲子) 僧者。名は由基、字は士路、文右衞門と號す。山縣周南の門。明和二年六月歿す。

ギヤウ 岐陽(多湖) 水戶の臣。美濃國の人。名は直、字は溫卿、通稱源三郎。正德三年二月六日歿す。

ギヤウ 岐陽 **ハウシウ 方秀** 一年三十七。

キヤウ 享(山口) 步兵中尉。東京府出身。日露役に從軍し、明治三十七年九月二十日旅順に戰死す。

キヤウ 耆陽(三家) 僧者。伊勢の人。名は珙元。道德經會元を著す。

ギヤウア 行阿 **サダイヘ(藤原定家)**

キヤウアン 狂庵 **ビザン(山本眉山)** 儒醫。名は正意、字は敬夫、又杏隱と號す。近江の人。醫を曲直瀨正純に受く。法眼に進む。寬永中弘文院に入り、諸家の系圖を編修し、又別に武家系圖を撰む。寬永十九年十一月二十五日卒す。年五十八。

キヤウアン 堀杏菴 僧。京都の人。文章博士藤原章輔の子。治曆中、僧都に補せられ、叡山三昧院に住す。後拾遺集の作家。

キヤウイ 慶意 高僧。京都の人。醫を曲直瀨正純に學ぶ。後拾遺集の作家。

ギヤウイ 行意 歌僧。三井寺大僧正。關白藤原基房の子。新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、續千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

ギヤウイウ 行祐 法師。南北朝頃。新葉集の作家。

ギヤウイチ 享一(村上) 工學士。愛媛縣人。維新後工務所長。明治三十九年八月十九日歿す。年四十一。

キヤウイン 經因 法師。千載集の作家。

キヤウイン 杏隱 **キヤウアン(堀杏菴)**

ギヤウイン 行胤 法眼に叙せらる。行濟の子。續千載集の作家。

キヤウウンダウ 狂雲堂 **イツテフ(英一蝶)**

キヤウウンホウ 慶雲院 **ヨシカツ(足利義勝)**

キヤウエウ 慶耀 高僧。淨辨の子。書及び和歌を能くす。康和年間の人。

ギヤウオウ 行應 禪僧。名は玄通、樓禪叟、撮芋子と號す。伊豫の人。井上氏。等覺寺に住す。天保二年十一月二十日寂。年七十六。

キヤウカ 鏡河(伊藤) 豐後落の儒者。名は幸猛、字は寬叔。文政十二年歿す。年七十八。

ギヤウガ 行雅 僧正。新續古今集の作家。

ギヤウガ 行賀 高僧。俗姓上毛氏。敎を奉じて唐に入り、唯識を學ぶ。居ること七年にして歸る。延曆二十二年寂す。年七十五。著す所、法華疏、弘贊、略贊、唯識疏等。

ギヤウカイ 行誡 增上寺の住僧。鷹田氏。字は普阿。建運祉立譽と號す。明治十三年總本山智慧院門主となる。又和歌を善くす。二十一年四月二十五日寂す。年八十三。傳語の著あり。後、行誡上人全集刊行せらる。

ギヤウカイ 行海 奧山念流劍術の祖。光明院と稱す。

ギヤウカイ 行海 藤原基光の子。玲瀧の弟。叡山に住し、傍圖畫を作す。

ギヤウカク 行覺 僧。關白經敎の子。安位寺と號す。

ギヤウカク 行覺 **ミチナガ(藤原道長)**

ギヤウカク 法王 **ホフシンワウ 行覺法親王** 後深草天皇の第五皇子。母は藤原公親の女。圓滿院を相

續す。正應六年九月二十二日入寂。年二十一。

ギヤウガン 行巖 高僧。肥後の人。鐵岩及び石平道人に參禪す。豐後鶴崎の外敎信者を敎化す。後、天龍寺を創めて之に居る。元祿十一年十二月八日寂す。年七十一。

ギヤウキ 行鬼 筑前の刀匠。初代左の安吉を看よ。

ギヤウキ 行基 高僧。姓は高志氏。泉州の人。聖武天皇特に敎書を加へ、擢でて大僧正とす。天平二十一年大菩薩の號を賜ふ。二月二日寂。年八十二。拾遺、新古今、新勅撰、續後撰、玉葉諸集の作家。

ギヤウキウ 行休(篠田) **キンケイ(闕口金鷄)**

ギヤウキウ 經救 高僧。林懷に從ひて法相を學ぶ。寬仁三年詔によりて維摩會の講師を司り、又東院に住し、長元年中、興福寺に遷り、權僧都に任ぜられ、寬曆元年五月四日寂す。

キヤウクウ 境空 歌僧。山本實泰の子。新拾遺集及び新續古今集の作家。

キヤウクウ 竟空 **キンアキ(正親町公明)**

ギヤウクウ 行空 高僧。遊觀を好む。到る所、雨夜を厭ず。時人呼びて一宿上人といふ。常に法華を持す。年九十にして鎭西に寂す。

ギヤウクウ 行空 **ヨシザネ(藤原良實)タネミチ(九條植通)**

キヤウクワ 杏花 俳人。高林氏。通稱久十郎。號 蘆園

ギヤウクワウ 行廣 大僧正。玉葉集の作家。

キヤウグダダ 狂談堂 **ロシウ 蘆洲 ロコク**

キヤウクワエン 杏花園 **ナンポ(大田南畝)**

キヤウクワン 行觀 歌僧。續千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今集の作家。

ギヤウガン 行願 **ミチナガ(藤原道長)**

キヤウクンティ 狂訓亭 **シユンスイ(爲永春水)**

ギヤウケイ 行慶 大僧正。白河天皇の第六皇子。母は源敎長の女。三井寺に住し、狛僧正又櫻井僧正と號す。永萬元年薨ず。年六十二。千載集、新古今集、新續古今諸集の作家。

ギヤウケイ 行經 法眼に叙せらる。新千載集及び「新拾遺集の作家。

ギヤウケイ 行敎 高僧。大安寺に住す。「家。

キヤウゲツ 京月 京都清水寺の歌僧。續拾遺の作

キヤウゲツバウ 鏡月房 京都清水寺の法師。承久の役、勳を奉じて宇治に戰ふ。敗れて擒にせらる。

キヤウケン 經賢 歌僧。妙法院印と號す。顯阿の子。新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キヤウケン 行賢 法橋に叙せらる。元祿頃。蕪風。

キヤウケンキダウ 狂言綺語堂 **イツポウ(西澤一鳳)**

キヤウゲンダウ 狂言堂 **ギスケ(三世櫻田治助)**

キヤウコ 鏡湖(大野) 唐津藩の儒者。名は敬、字は子鏡。天保頃の人。

キヤウゴク 京極 大納言基房の女。新後撰集の作

キヤウゴク 京極 ヵ 歌人。後白川帝に仕ふ。

キヤウゴクワンダイジン 京極關白 **モロザネ(藤原公基)**

キヤウゴクダジヤウダイジン 京極太政大臣 **ムネスケ(藤原宗輔)**

キヤウゴクチユウナゴン 京極中納言 **サダイヘ(藤原定家)**

キヤウゴクノミヤ 京極宮 **フミヒトシンワウ(藤原褒子)** 文仁親王

キヤウゴクミヤスドコロ 京極御息所 **ハウシ**

キヤウゴクヤ 京極屋 **ショウロク(屋上松錄)**

キヤウゴクヤシン 京極院 **キツシ(藤原佶子)**

ギヤウゴ ホフシンワウ 行悟法親王 後龜山天皇の第十三皇子。天授三年三井寺長史に補せらる。

キヤウゴン 經嚴 大僧正。一條左大臣家經の子。東寺の長者。

キヤウサイ 狂齋(原) 儒者。漢路の人。名は公遷、字は飛卿、豹藏と稱す。世々稻田家に仕へしが、家を諸弟に托し、井上金峨に從つて折衷學を學ぶ。晩に經理を好み、傳彩となりて修眞と號す。論語傳讀、學庸私衒、狂齋集等の著あり。寬政二年歿す。

キヤウサイ 疆齋(河村) 富山藩の儒者。貫三郎と稱し、名は貫叢。林遯齋、尾藤水竹等の門に遊び、摩島松南に師事して點頭となる。慶應元年五月二十八日歿す。年五十一。

キヤウサイ 狂齋 **ゲウサイ(河邊曉齋)** 集の作家。

キヤウサイ 況齋(岡本) 幕府の儒員。名は保孚、勤右衞門、又縫殿助と稱し、撫誠堂と號す。明治の初め、大學中博士となる。殊に音韻に精し。十一年四月歿す。年八十二。

キヤウサイ 強齋(井澤) 儒。名は剛中、字は子悅、又澄園と號す。播州高砂の人。三宅尙齋の門。寬曆五年四月京都に歿す。年五十一。

キヤウサイ 強齋 **クワンサイ(若林寬齋)**

ギヤウザウ 行造 大和千手院派の刀匠。奈良に住

す。貞元年間の人。或は曰く貞應年間の人と。

キヤウザウ 享三(小藤) 岁兵少佐。神奈川縣出身。明治三十八年戰役に出征し、三十九年一月歿。

キヤウサク 京作 東京省許家畫に戰死す。

キヤウサン 慶算 法印。源俊通の子。新古今集及び新勅撰集の作家。

キヤウザン 京山 戯作者。又狂歌を善くす。京傳の弟。名は百樹、字は鍛機、鍛冶堂と號す。別號方半居士、又鷲山。通稱利一郎、初め鎌山侯に仕ふ。後辭して兄の業を繼ぎ、剃髪して涼仙と號す。安政五年九月二十四日歿す。年九十。著す所、蜘蛛の糸巻等。

キヤウザン 鏡山 古野) 筑前の儒者。名は光軌。「鷹岡藩に仕ふ。

キヤウジ 享二(鷲田) 岁兵少尉。京都府人。日露役に從ひ、明治三十八年三月負傷し、七日死す。

キヤウシウ 慶宗 小野社僧。法眼たり。續千載集の作家。

キヤウジダウ 狂而堂 キカク 其角 [作家。

キヤウジフラウ 京十郎(男女川) カウシラウ (四代松本辛四郎)

キヤウシヤウ 慶政 歌僧。松尾澄月坊上人と稱す。續古今、續拾遺、玉葉、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

ギヤウシヤウ 行生 歌僧。俗稱左衛門尉齋藤基行。基種の子。新後撰集及び玉葉集の作家。

ギヤウシヤウ 行清 石清水檢校。別、崇清の子。續古今集及び續拾遺集の作家。

キヤウシユ 慶珠 長州大寧寺の住持。字は異雪。肥州の龜祥禪師の弟子。

キヤウシユン 悦春 大阪の俳人。岡田氏。通稱大文字屋次郎兵衛。宗田の門。

キヤウシユン 慶俊 高僧。俗姓藤井氏、愛宕山の第一世。天應元年僧都となる。篤興を好む。

キヤウソン 杏村(高橋) 畫人。中林竹洞に學びて山水を能くす。美濃國の人。名は九淵、通稱嘉右衛門、字は景羽、爪雪、塵遠草堂の別號あり。明治元年五月四日歿す。年六十四。

キヤウソン 杏村 俳人。宮澤氏。百花園、風逸。明治二十五年十一月十一日歿す。年六十三。

ギヤウソン 行尊 歌僧。大僧正。參議基平の子。金葉、詞花、千載、新古今、新勅撰、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

キヤウダウ 杏堂(濱田) 大阪の醫。畫を能くす。名は世憲、字は子徹、通稱希庵。蠣仙の別號あり。

ギヤウダウ 强堂 ケン(市村謙) 歌山の畫僧。藤原隆能の次子。精所預となる。

ギヤウチ 行智 文化六年假名遣古意を著す。

キヤウチユウ 慶忠 法印。新勅撰集の作家。

キヤウチユウ 慶中 シウガ 周賀

キヤウヂラウ 强治郎(齋藤) 志士。名は强。元治元年太平山の義擧に加り、軍敗れて捕へられ、十一月三日斬らる。 「と稱す。後、行清と改む。

ギヤウチン 行珍(二階堂) 行憲の子。信濃入道

キヤウヂン 京傳 有名の戯作者。畫及び狂歌を能くす。名は醒、字は百層、初名田藏。岩瀬氏。幼字甚太郎、後傳藏又鼓演と改む。山東庵、醒々老人と稱す。文化十三年九月七日歿す。年五十六。著す所、骨董集、近世奇跡考。の外紹要奏振等小說多し。

キヤウトクヰン 享德院 シヤウケイ(曲直瀨正 慶)

「千宗旦の門人。

キヤウニ 鏡尼 東福門院の侍女。茶道を善くす。

キヤウニチ 慶日 天台山の僧。顯密の教に通ず。

キヤウニン 慶忍 大和東大寺の貫首。僧都に任ぜられ、延曆三年寂す。

ギヤウニン 行忍 薩摩の刀匠。正國の門。寛弘長和年間の人。或は曰く保元國の法師なりと。

ギヤウネン 行念 歌僧。俗名相模二郎時村。平時房の子。新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載諸集の作家。

キヤウハウ 慶芳 禪僧。字は小室。淨智、圓覺、建長の諸寺に移る。晩に正源庵を鹿山に構へて終焉の地とす。永德元年十二月十日化す。

キヤウハン 慶範 僧。越前守藤原安隆の第三子。延曆寺に入りて、慶命に學び、圓戒房僧正と稱す。法性寺座主に補せらる。康平四年五月寂す。年六十五。和歌に長ず。

キヤウハン 慶範 比叡山の歌僧。中原政行の子。後拾遺集及び千載集の作家。

キヤウハン 慶範(土佐) 畫家。經光の子。骨董集等の著あり。

ギヤウブ 刑部(笹治) 槍術家。藤井藩に仕ふ。

ギヤウブキヤウ 刑部卿 ヨシスケ(脇屋義助)

ギヤウブタラウ 刑部太郎 ヨシナリ(源義業)

ギヤウブザエモン 刑部左衛門(柴田) 柴田勘時の一族。天正頃の武士。

ギヤウブノジヨウ 刑部允(矢部) 大友宗麟の家臣。力能く鼎を扛ぐ。去りて龍造寺隆信に仕へし が、又辭して伊藤に入り、西國寺公廣の臣となる。

ギヤウブバウ 刑部房 トシヒデ(須藤俊秀)

キヤウブン 慶文 禪僧。字は回文。駿州御厨寺大聖和尚に就を受け、筆を同州川根鄉に趙て、居り、大永四年寂す。

キヤウヘイ 杏坪(賴) 安藝藩の儒員。名は惟柔、字は千祺、萬四郎と稱す。春水の弟。晩に都合となる。荒師の地を理し、政績あり。天保五年閏四月歿す。年七十九。

キヤウヘイ 鏡平 俳人。熊谷氏。通稱平內。既白

ギヤウヘイ 享平 ショウワン(尾池松灣)

ギヤウヘウ 行表 高僧。善く經を講ず。延曆十六年入寂、年百四十。

キヤウベエ 强兵衛(毛利) 藝州藩士。名は元景。明治元年正月四日鳥羽の役に傷つき、十四日歿す。年三十四。

キヤウベン 享肄 江戸麻布長光寺の僧。和歌を好む。鳥丸家の門。靈鬼抄を著はす。寶曆頃の人。

ギヤウヘン 行遍 仁和寺大僧正。法橋仕高の子。新古今集の作家。

キヤウミヤウ 慶命 大僧正。藤原孝友の子。萬壽五年三月靑蓮院の座主に補せらる。享年七十四。

キヤウモン 慶文 禪僧。駿河智滿寺の開山。字は回天。大殿に從ふ。大永四年四月二十日寂す。

キヤウユウ 慶融 歌僧。法眼に叙せらる。大納言爲家の子。續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

ギヤウユウ 行勇 高僧。高野山金剛三昧院の第二世。建仁寺に移り、再び三昧院に歸り、復齋編寺に移る。北條泰時、淨妙東勝の二寺を建て、之を請じて開祖とす。仁治二年七月五日寂。年七十九。

ギヤウライ 行瀨 大和千手院派の刀匠。奈良に住

ギヤウジユン 行巡 鎭勤寺の座主。頗る道譯あり。

キヤウショ 杏所(立原) 畫家。水戶の人。名は任、字は遠卿。通稱甚太郎。東軒、玉琢舍、香案小史等の號あり。初め月僊に學び、後、文晁、應擧の法を追慕す。書は趙子昂、文徵明の風を學ぶ。天保十一年五月二十日歿す。年五十六。

キヤウジョ 强恕(安藤) 土佐藩の志士。幼名千太郎、後眞之助と改む。文久三年冬、國を脫して長州に客たり。甲子京師の變、戰敗れ、天王山に退きて自殺す。年二十二。贈正五位。

キヤウジョ 慶助 僧。永觀元年醍醐寺の座主となり、東南院座主と號す。在職十三年。

ギヤウジョ 行助 遠歌師。總持房と號す。

ギヤウジョ 行助 モリサダシンワウ 守貞親王

ギヤウジョ 行證 ムネタカシンワウ 宗高親王

ギヤウショウ 經乘 歌僧。仁和寺阿闍梨。新撰集「千載、新拾遺諸集の作家。

ギヤウショウ 行乘 歌僧。澄覺と號す。續千載、新後拾遺集の作家。

ギヤウショウワウ 行助法親王 後光嚴院の第三皇子。三井寺長吏に補せられ、元中三年亮ず。年二十七。

キヤウシン 經深 僧正。新後拾遺集の作家。

キヤウシン 慶深 歌僧。新續古今集の作家。「家。

キヤウシン 慶尋 歌僧。平業守の子。後拾遺集の作家。菊園法師と稱す。九條政基の子。菊園法編寺、長谷寺、橋寺の別當たり。

キヤウシン 行深 法印。法印行任の子。玉葉集及び續千載集の作家。

ギヤウシン 行信 高僧。法隆寺に住し、大僧都に補せられ、長大寺の檀越を管る。天平寶字年中寂す。

ギヤウシン 行眞 高僧。關白道長の第二子。俗名顯長。增賀の弟子。台敎に通ず。

キヤウスケ 强助(兒島) 勤王家。平田篤胤及び藤田東湖の門。下野宇都宮の人。名は綱、蓑原臥上と號す。越智通愼等の老中安藤信正を刺さんとするや資を給して之を助け、爲に捕へられ、文久元年六月三十六日獄中に死す。年二十六。

キヤウスヰ 鏡水(日根野) 高知藩の儒者。名は弘享、字は大卿。通稱惠右衛門、後修平と改む。藩學の教頭となる。最も詩に長ず。四書國字解及び詩集の著あり。安政元年寂す。

キヤウスヰ 京水 飯作者。磐瀨氏。通稱梅作。京山の男。蔣檜を業とす。慶應三年三月九日歿す。年五十二。

キヤウスヰ 京水 俳人。鳥川氏。令德の門。

キヤウズヰ 慶隨 禪僧。字は順翁。丹波國通寺牧翁に就きて薙髮す。明に渡り、歸りて若狹諦應寺を創め、大永五年六月二十日寂す。

キヤウセン 杏仙(武田) 江戸の醫。名は靜、字は信成、榮山と號し、長春院と稱す。寶永二年七月十六日歿す。

「享二年律師に任ぜらる。

キヤウセン 慶遷 園城寺の長吏。源頼親の子。康

キヤウセン 慶運 歌僧。比叡山の律師。字佐大宮司公宣の子。後拾遺、金葉、千載、新古今、續古今諸集の作家。

ギヤウセン 行仙 高僧。密敎を學び、榮ねて念佛三昧を修す。弘安の初め、端坐して化す。

ギヤウゼン 行善 高僧。曾て高麗に入りて法を求め、養老二年國に歸る。

す。貞應頃の人。或は曰く正應頃の人、漢路房と號す。後、伯耆に住すと。

キヤウライダウ 狂雷堂 キカク(榎本其角)

キヤウラウ 郷老 ギヨリン 海保漁村)

ギヤウリ 行理 モトミツ(藤原基光)

キヤウリウ 競流 シウホウ(松尾秀峰)

キヤウリツシ 郷律師 チヤウゼン(細川定禪)

キヤウリバウ 鏡裏坊 俳人。新井氏。通稱宇右衛門。野松、無隣庵、胡笛仙、玄武坊の門。

キヤウリン 杏林(大倉) 越後の詩人。通稱勝庵、弘化頃の人。

キヤウリンダウ 杏林堂 リヤウアン(寺島良安)

ギヤウレン 行蓮 醫師。嘉祿中、鎌倉幕府の醫事「を擧る。

ギヤウレン 行蓮 歌僧。俗名權宗長俊。新後撰、續千載、新千載、新拾遺、諸集の作家。

キヤウロクダウ 狂六堂 サイマロ(椎本才麿)

ギヤウエ 行惠 マサタカシンワウ 昌隆親王

キヤウエン 慶圓 高僧。播磨太守藤原尹文の子。叡山に登り、密敎に精通す。長和二年大僧正となる。寛仁三年入寂。年七十五。

キヤウエン 鏡圓 高僧。後醍醐天皇召して法要を聞ひ、菩提大光國師の號を賜ふ。元亨四年延曆園城東寺南都の諸講師に勅し、清涼殿にて圓と對揚せしむ。圓拜くに無礙の辯を以てす。諸講師乃ち弟子の禮を執る。正中二年入寂。

キヤウエン 櫃園 ヒロタリ(中島廣足)

キヤウエン 薑園 アヅマヲ(佐久良東雄)

キヤウエン 經圓 法印。左大辨家經の子。新勅撰集の作家。

キヤウエン 慶圓 天臺座主第二十四世。尾張守遠真の第三子。叡山に登り、圓實に從ひ、座主に補せられ、三昧院の僧正といふ。寛仁三年九月三日入滅。年七十九。

キヤウエン 慶圓 高僧。九州の人。吉野発仁に隨ひて灌頂法を受く。始め大和練若寺に住し、後同國龍門寺に移る。貞應二年正月二十七日入寂。年八十四。

ギヤウエン 行圓 僧。源國擧の子。本名國輔。三井寺に入り劇學し、智靜及び心譽を師とす。

ギヤウエン 行圓 歌僧。松葉法師と稱す。俗稱丹波守藤原行宗。行忠の子。續後撰集及び續拾遺集の作家。

ギヤウエン 行圓 高僧。專、千手大悲陀羅尼を持念す。又賀茂の楓を以て八尺の尊像を刻み、行願寺を創して之を安置す。玉葉集の作家。

キヤクラウ 遊翁 ソワジユン 宗順

キヤノスケ 木屋之介(生田) 黒田家の勇士。名小介。日向の人。黒田刑部の長子。

キユウ 輝雄 安永頃の俳人。如導門。

キユウカウロ 窮耕廬 シフサイ(三輪執齋)

キユウカン 宮鑑(明浦) 勢州の畫家。最も墨梅に長ず。

キユウジヤウ 宮常(山田) 畫家。字は古夫、尾張の人。

キユウモン 宮門(海賀) 秋月藩の勤王家。名は直求、柔道に通ず。文久二年寺田屋の事に與り、鹿兒島に遊らるる途次斬らる。年二十九。明治二十四年贈正五位。

キユウユウ 弓雄 阿波の俳人。奇淵の門。

キヨ 喜代 奥州の女俳人。乙二の門。

キヨ 喜代(遠田) 歩兵大尉。山口縣出身。日露の役に從ひ負傷し、明治三十八年十月釜山病院に死す。

キヨアキ 清章(蒲原) 漬親の子。池屋三郎。

キヨアキ 清口 周防二王派の刀匠。天文年間の人。

キヨアキ 神見 古刀の鍛工。「初年に改す。

キヨアキ 清秋(田代) 歌人。香川景恒の門。明治

キヨアツ 清厚(河崎) 國學者。通稱惣太夫、伊勢山田の師職。本居春庭及び大平に從ふ。

キヨアツ 清篤(大鐘) 國學者。通稱與兵衞。名古屋の人。文化十二年本居春庭の門に入る。

キヨアリ 清在(喜早) 伊勢の神道家。通稱因幡。姓は度會。田口延經の門。元文元年歿。年五十五。

キヨアリ 清在 周防二王派の刀匠。永正年間の人。

キヨアリ 清有 古刀の鍛工。周防二王派。或は曰く長祿年間の人、清介の子と。

キヨアリ 清有(水谷) 重輔の子。刑部大輔。

ギヨイウ 魚友(金屋) ミツゴラウ(三樹光五郎)

キヨイコ きよい子 女歌人。紀伊侯の年寄。瀧川と稱す。明和年間賀茂眞淵の門に入る。

キヨイヘ 清家(藤原) 歌人。鏡氷の子。相摸守に任ぜらる。康和頃の人。後拾遺集の作家。

キヨイヘ 清家(小田) 加々美長清の子。太郎。

キヨイヘ 清家(源) 資家の子。皇后宮大進。

キヨウアン 恭菴(藤田) 大阪の醫。名は尹、字は蔚宗、一に浮鷗と號す。物產學を戸田無悶子に學ぶ。

キヨウイチラウ 恭一郎(野口) 歩兵少尉。新潟縣出身。日露の役に從ひて負傷し、明治三十七年九月歿す。

キヨウイ ホフシンワウ 興意法親王 陽光院の第五子。本名道尊。園城寺長史となり、熊野三山檢

校、新熊野檢校を兼ね、慶長三年大峰に入る。六年方廣寺別當となる。後、聖光院を白川に建てて居る。元和六年十月薨ず。年四十二。

キヨウイン 恭胤(原) 古河侯の儒員。字は敬仲。後江戸に來りて幕府に仕ふ。寛政五年歿す。

キヨウウン 恭雲(笠原) 土佐藩醫。名は正恒、通稱雲仙。本姓菅原、實は中根之壽の第三子。正固の養子。天保二年三月十五日歿す。年七十七。

キヨウエツ 恭悅(淺田) 醫。下總の人。本姓高安。淺田宗伯に學び、其の養嗣子となる。曾て清國に聘せらる。明治四十二年七月歿す。

ギヨウエンシヤ 凝烟舍 ヤスタリ(村田泰足)

キヨウガ 興雅 僧正。新後拾遺集の作家。

キヨウカク 鞏革(三宅) 儒者。名は道乙、字は子燕、思兵衞と稱す。別號、大道齋、研山樵人、日研山樵。もと合田氏。寄齋の養子。京師の人。延寶三年歿す。年六十一。

キヨウケイ 恭卿(杉田) 藥醫。伯元の子。獨醫方範十卷を著す。文化十一年八月十四日歿。年二十一。

キヨウケン 恭軒 ユキカズ(吉見幸和)

キヨウサイ 恭齋(市川) 江戸の書家。名は三千、字は三千太郎、桃翁と號す。米庵の男。天保四年六月二十七日歿す。年三十八。

キヨウサイ 拱齋 ホクケイ(北溪)

キヨウザウ 製造(時山) 歩兵中尉。山口縣出身。日淸の役に從ひ、明治二十七年七月成歡に戰死す。

キヨウザブラウ 恭三郎(七里) 志士。鎖花と號す。立見尙文の女婿。支那の事情に通ず。日淸日露兩役に從ひて功あり。大正元年八月歿す。

キヨウスケ 恭助(河野) 工兵中尉。山形縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月七日奉天附近の大會戰に參加して、負傷し、十一日歿す。

キヨウスケ 恭助 コウアン(藤森弘庵)

キヨウヂ 清氏(源) 高基の子。但馬守。

キヨウヂ 清氏(細川) 和氏の子。初名元氏、彌八と稱す。正平十四年足利義詮の執事となる。導いで南朝に降り、楠和田等と京師を攻めもなく義詮再び京師を復せしかば讃岐に走り、細川賴之に圍まれて戰死す。新千載集の作家。

キヨウツウ 恭通 ハククワク(遠藤白鶴)

ギヨウネン 凝然 高僧。示觀と號す。戒壇院、金剛山寺、招提寺等に住す。元亨元年九月五日入寂。年六十二。著す所、探玄洞幽抄、五敎章通路記等凡そ千百餘卷。

キヨウヘイ 恭平(大庭) 奥州の浪士。名は巍。幕府の專橫を憤り、文久三年同志と等排院に至り、足利氏の木像を劍ね、之を三條橋に梟す。執へられて斬らる。

キヨウモクサイ 恭默齋 コクメイ(闕克明)

キヨウリ 恭里 センチヤウ 寶田千町)

キヨウレイモンイン 恭禮門院 トミコ(藤原宮子)

キヨウヰ 恭長 山城神護寺の住僧。常に好みて名山靈跡に遊ぶ。寛永七年六月十二日入寂。年六十六。邪正義の著あり。

キヨウイン 巨雲 タメノブ(井島爲信)

キヨエ 清江(佐藤) 元津輕藩の勤定奉行。舊稱英馬。明治三十七年歿す。年七十一。

キヨカゲ 清影(津久井) ヘウサイ(平塚瓢齋)

キヨカゲ 清景(齋藤) 清定の子。出羽守。武者所。

キヨカゲ 清景(闕谷) 地震學者。理學博士。大垣藩より選ばれて大學南校に入り、卒業後、英國に留學す。明治十九年理科大學敎授となる。地震計の發明あり。二十九年一月九日歿す。

キヨカゲ 清景 周防の刀匠。初代二王清綱の子。文歴年間の人。或は清真の子、文應年間の人。

キヨカゲ 清景 備前長船の刀匠。貞和年間の人。或は曰く應永頃の人と。

キヨカゲ 清景 周防二王派の刀匠。吉敷に住す。應永年間の人。或は三世清綱の子、正應年間の人と。

キヨカズ 清一（岩倉）國學者。通稱壯左衛門。伊勢山田の人。文化十三年本居春庭の門に入る。

キヨカズ 清一 薩摩の刀匠。初め、斜木太藏と稱し、後傳右衛門と改む。正清の門。享保年間の人。

カヨカズ 清一 越後高田の刀匠。嘉吉年間の人。

キヨカズ 清員 周防二王流の刀匠。天文年間の人。

キヨカゼ 清風（小川）國學者。本居大平の門。通稱大助。三河吉田の人。

キヨカゼ 清風（先光）歌人。富樫廣藏、鈴木重嶺に學ぶ。明治三十二年九月四日歿す。

キヨカゼ 清風（秋山）儒者。國史に通ず。昌平黌に擧びて、藩主桑名侯の侍講となり、明治七年歿す。年七十七。

キヨカゼ 清風（河村）國學者。通稱縫殿介。伊勢八幡社の神主。文政十一年本居春庭の門に入る。

キヨカゼ 清風（宮村）國學者。本居大平の門。周防吉敷郡の人。

キヨカゼ 淳風（池袋）歌人。日向都城に生る。案山子道舎と號し、京都同志社の教授たり。明治三十三年歿す。年四十四。

キヨカゼ 清風（大塚）歌人。伊豫大洲の家士。通稱林左衛門。文化頃の人。

キヨカゼ 淳風（橋村）歌人。八田知紀の門。舊稱彈正。伊勢山田に生る。明治三十四年歿。年六十八。

キヨカタ 清方（秋月）歌人。豊前秋月藩士。名は種美。字は子章、通稱は平馬、後、左膳と改む。號は「倦」。

キヨカタ 清方（上杉）憲顯の曾孫。房方の第五子。兵庫頭と稱す。永享十一年鎌倉の執事となる。翌年上杉持朝と結城を圍み、嘉吉元年之を陷る。後京師より國に歸る時、途に殺さる。

キヨカタ 清方（大幸）大聖寺藩の儒者。俗稱百助、倩默と號す。太宰春臺の門。

キヨカタ 清方（金原）國學者。通稱壯左衛門。伊勢松ヶ島宮の神主。寛政八年本居宣長の門に入る。

キヨカタ 清方 薩摩藩士の入國に從ひ、移住して伊勢守と稱す。年八十餘、尚ほ槳を執る。刀銘に十六辨の菊章を彫ることを許さる。

キヨカタ 清方 長門二王派の刀匠。嘉永年間の人。

キヨキ 清樹（橘）歌人。大阪の俳人。詳かの門。

ギヨガン 魚眼 大阪の俳人。桑蓬の子。阿波守に任ぜらる。昌泰頃の人。古今集の作家。

キヨキ 清樹（山本）京都の國學者。蕙園と號す。

キヨキ 清樹（鈴木）國學者。通稱驛九郎。名古屋の人。寛政六年本居宣長の門に入る。

キヨキ 許九 産婦の俳人。越江氏。通稱忠藏。阿山人、木導と號す。芭蕉の門。

キヨギミ 清公（菅原）文章博士。遠江介古人の子。大學少允となり、遣唐判官に任ぜらる。歸朝後、諸官に歴任し、從三位に叙せられ、老病の故を以て、牛車に乘り、南庭梨樹の下に至るを聽さる。性仁慈、佛法を信ず。天長九年薨ず。年七十三。凌雲集及び文華秀麗集の集撰に與る。

ギヨクア 玉阿 キヨヌミ（靡外樓清澄）

ギヨクアン 玉庵（蘇我）畫人。玉嶺の子。鷺の畫を能くす。

ギヨクウンケン 玉雲軒 アンシ（三崎安指）

ギヨクウンサイ 玉雲齋 テイウ（貞右）

ギヨクウンシ 玉雲子 カウユウ（豐藏坊孝雄）

ギヨクエイ 玉英（木村）女畫家。通稱やす。字は君華。鴎洲と號す。文化年間の人。

ギヨクエイ 玉榮（狩野）狩野派の畫人。名は左「し」、文政五年歿す。年八十三。

ギヨクエン 玉燕（狩野）畫人。名は季信。休頑の子。

キヨクオウ 旭應 京都の畫人。名は浩。岳陽と號す。

キヨクカ 曲河（清水）江戸の畫人。谷文晁に學びて、花鳥を能くし、後、畫風を一變す。名は晃、字は子章、通江と稱し、文政二年十一月歿。年七十三。

キヨクガ 旭雅（佐伯）眞言宗の高僧。阿波の人。檀僧正に任ぜらる。泉涌寺五十二世の門跡に補し、權大教正に進み、明治二十四年一月三十一日寂す。年六十四。

ギヨクガ 玉牙 俳人。鶴見氏。與竹園、雙鳧の門。

ギヨクガ 玉峨（東）畫人。名は洋、字は大洋、天保十年京都に歿す。年八十七。

ギヨクカイ 玉海 セイサイ（太田晴齋）

キヨクカイ 旭江（淵上）畫家。備前の人。名は穎、字は白竜。名山大川を跋渉すること二十三年、得る所を收めて八卷とし。山水奇觀といふ。後大阪に住し、文化の末年歿す。

ギヨクカウ 玉江（土屋）書家。越前福井藩士。名は貞恒、惣右衛門と稱す。王羲之の書流を能くす。寛永頃の人。

ギヨクカウ 玉岡 禪僧。越前の人。字は如金。別源の室に入り剃髪し、天龍、建仁等の諸寺に歴住す。應永九年八月二十六日寂す。年七十一。

ギヨクカウ 玉岡（山本）土佐の儒者。名は禮、字は文進。文化四年歿、年四十七。著、道仁論辯、玉岡遺稿等。

ギヨクカティ 玉河亭 トモキヨ（小山田與清）

ギヨクカン 玉爛（町田）上野の畫家。名は靈花。

ギヨクガン 玉巖（太田）江戸の儒者。書肆を業とす。通稱和泉屋金右衛門。

ギヨクガン 玉函（古畑）儒者。小田原侯の臣。名は岳、字は子高、又公交、通稱次右衛門。別に長囀樓と號し、晩に不翁と更む。筆達の子。群小の嶺を貿ひ、終に藉を倒らる。江戸に出で、惟を下して徒に授く。晩年明を失ひ、偕に詩を學ぶ。文久三年歿す。

ギヨクキ 玉龜 江戸の俳人。中村氏。春待庵。冬期日歿、年七十一。

ギヨクケイ 玉溪（井上）畫家。白井廣士の門。平助。寛丸齋。道彦の門。

ギヨクケイ 玉溪（桑山）絵伊の南畫家。野呂介石の初年の師。名は嗣榮、字は子綾、通稱左門。

ギヨクケイ 玉桂 キエン（柳澤淇園）

ギヨクゲン 玉鉉 エタウ 慧鐘

ギヨクコ 玉壺 ブンエン（吳文淵） （皐）

ギヨクコシンジン 玉壺眞人 ランカウ（木下蘭皐）

ギヨクセン 玉藻 チセン（岡稚川）詩人。豐後の人。大阪に住す。名は讓、字は吉甫、梅墩の別號あり。淡窗の弟。竜井昔に學ぶ。豊園百家詩稿、梅墩詩鈔の著あり。文久三年歿す。

ギヨクザン 玉山（石田）畫工。大阪の人。名は尚友。畫關月の門。專、板刻畫を畫く。法橋に叙す。

ギヨクザン 玉山（秋山）肥後藩の文學。名は儀、又清柯と號す。詩に長ず。建議して熊本に時習館を建つ。寶暦十三年歿す。年六十二。著、玉山詩集、玉山遺稿。

ギヨクザン 玉山（岡田）畫人。名は修德、又尚、字は子秀。中江藍江に學ぶ。江戸に來り、行く所を知らず。一說に文化九年歿す。年七十六と。

ギヨクザン 玉山（宇都宮）儒者。名は由已、通稱文平。享保九年京都に歿す。年三十。

ギヨクザン 旭山（千手）京都の儒者。名は興成、字は立叡。安政六年歿す。年七十一。

キヨクザン 旭山（馬淵）畫人。名は遺義。嵐山の子。明治二年京都に歿す。

キヨクザン 旭山（戸田）大阪の名醫。備前の人。齋宮と稱し、無問子、百井園の號あり。自ら草醫齋と號す。通稱和泉屋金右衛門。

キヨクザン 旭山（平澤）儒者。山城宇治の人。五助と稱し、字は悌庵、名は元愷。一に兎道山樵の號あり。昌平黌に遊び、後補を降して教授し、尤も力を文章に致す。漫遊文草、華陽皮相等の著あり。寛政三年歿す。

ギヨクザン 玉山（末包）儒學者。藤太郎と稱す。

ギヨクザン 玉山 ヨシトヨ（山名義豐） ヨシヒサ（足利義尙）

ギヨクシ 玉枝 俳人。五洩坊の門。

ギヨクシ 玉洲（岩井）土佐國高知の豪商。名は春和。字は子爾、通稱小平。初め桑泉と號す。家號は今利屋。學を好み書を樂しむ。明和六年九月歿す。年四十四。與江志の著あり。

ギヨクシ 玉洲（矢野）江戸の書家。名は道和。細井廣澤に學ぶ。天明二年十月廿九日歿す。

ギヨクシ 玉洲（桑山）絵伊の南畫家。野呂介石の初年の師。名は嗣榮、字は子綾、通稱左門。

ギヨクシ 玉洲 美濃西莊立教寺の住僧。玉翁の法嗣。禁ねて墨竹の畫を善くす。

ギヨクシツ 玉室 ソウハク 宗珀 ソウバン 宗璠 ユウシュン 融春

ギヨクシヤウ　玉章（川端）　圓山派の畫家。晉室拔擧員。中島來章の門。東京美術學校教授たり。大正二年二月十四日卒す。年七十二。

ギヨクジユアン　玉樹庵　ダガク（小森駝岳）

ギヨクジユサイ　玉樹齋（村上）　河原邊遠州流花道の祖。江戸眞福寺橫畔白魚稻荷の別當。初代寶曆一典の門に入り、遂に一家を成す。明治二十年一月歿す。年八十四。著す所、古我振之花。

ギヨクジユン　玉潤（小林）　下總の女畫人。小林藏六の妻。亦畫を善くす。明治十二年死す。

ギヨクジユンシヤ　玉潤舍　シウジユ（五十嵐秋濤）

ギヨクジユンダウ　玉潤堂　リヨウタク（松本龍）

ギヨクジヨウ　玉繩　俳人。藤氏。以直庵。三世紀逸の門。

キヨクシヨウダウ　旭松堂　ヨシナホ（小栗貞「直」）

キヨクシヨウエン　曲松園　ゲツジン（岩井月人）

キヨクシン　玉岑　ゲンタク（野間文琢）　近江膳所の俳人。菅沼氏。曲水、馬指堂の號あり。蕉門。享保五年七月二十日歿。

キヨクスヰ　玉水（村士）　縐山伜の儒官。淡齋の子。名は宗章、通稱行藏。山岡雪樓に從學して山崎氏の學を祖述す。自ら正大有用の學と稱し、性理を主唱す。安永五年正月四日歿す。年四十四。或は四十一。著す所、松藩客話、玉屑叢稿。

ギヨクセイ　玉成　クワンザン（岡島冠山）　「八。

ギヨクセイ　玉整　トウギヨク　東玉

ギヨクセウ　玉蕉（高橋）　女儒者。通稱滉、字は水臨、一字白華、又書を能くす。玉蕉百絕の著あり。明治元年二月二十七日歿す。年六十七。

ギヨクセフ　玉屑　肥後神宮寺の俳僧。青羅の門。

キヨクセン　曲川　俳人。中西氏。雪鷗亭。悳太の門。

キヨクセン　曲川（山內）　松江の俳人。荒木高麗の門。又茶道に通ず。明治三十六年五月十九日歿す。年八十七。

ギヨクセン　玉蟾（望月）　畫人。名は玄、藤兵衛と稱す。京師の人。描金畫を業とす。初め土佐光成、後山口雪溪を師とし、又狩野元信の風を慕ふ。寶曆五年八月三日歿、年六十三。

ギヨクセン　玉仙（望月）　賓人。詩壇の子。父の手「法を能くす。

ギヨクセン　玉川（小町）　武藏の儒者。名は成、字は溫卿、通稱雄八。著書、道話自修編、西歸風雅。

ギヨクセン　玉川（望月）　畫人。名は輝、字は子瑛。玉仙の男。初め狩嗣に從ひ、後、松林月溪の風を慕ひて一家をなす。嘉永五年六月歿。

ギヨクセン　玉川（玉川）　雜學者。通稱三治。安政年間江戸に住す。

ギヨクセン　玉川　クワウタク（細井廣澤）　ゼンサイ（大森漸齋）　モトノブ（狩野元信）

ギヨクセン　玉泉（金森）　江戸の儒者。名は英、字は世雄、通稱英藏。寬政十一年十一月七日歿す。年四十一。著す所、松藩客話、玉屑叢稿。

ギヨクセン　玉泉（百々）　京都の蒔繪師。善次郎と稱す。安永四年歿す。

ギヨクセン　玉泉（鵜飼）　府中藩士。通稱幾之助、又助、性好古、鑑識に精し。明治二十年五月二日歿す。年八十一。

ギヨクセンアン　玉川庵　ダウセン（清水道先）

ギヨクセンシ　玉泉子　ソウチ（縣宗知）　大阪の俳人。奇瞻の門。

キヨクセン　玉川（玉川）　雜學者。通稱三治。安政年間江戸に住す。

キヨクセン　玉川　クワウタク（細井廣澤）　ゼンサイ（大森漸齋）　モトノブ（狩野元信）

キヨクセン　玉泉（金森）　江戸の儒者。名は英、字は世雄、通稱英藏。寬政十一年十一月七日歿す。年四十一。著す所、松藩客話、玉屑叢稿。

キヨクセン　玉泉（百々）　京都の蒔繪師。善次郎と稱す。安永四年歿す。

キヨクセン　玉泉（鵜飼）　府中藩士。通稱幾之助、又助、性好古、鑑識に精し。明治二十年五月二日歿す。年八十一。

キヨクセンアン　玉川庵　ダウセン（清水道先）

キヨクセンシ　玉泉子　ソウチ（縣宗知）　大阪の俳人。奇瞻の門。

キヨクセン　玉曳

キヨクセン　玉曳　リヤウチン　貞珍　歌尼。幕府の小納戸役高井鍋之助の母。寶曆頃の人。

キヨクソウ　玉窓　スヰキン　翠錦

キヨクソクテイ　旭速亭　テイキツ（細井定橘）

ギヨクダウ　玉堂（浦上）　京師の文人畫家。姓は紀氏。儒醫の人。又書を善くす。文政三年九月四日歿す。年七十六。

ギヨクタウ　玉島　トウカウ（澤田東江）

ギヨクダウ　玉堂　ケンザン（尾形乾山）

ギヨクタン　玉潭（芥川）　越前鯖江藩の儒者。丹丘の男。元澄の二子。天保十三年二月二十日歿す。年五十六。

ギヨクチ　玉池　ソダワイ（谷素外）

ギヨクチユウ　玉仲　ソウシウ　宗琇

ギヨクヂン　玉塵　江戸の俳人。武井氏。黑露庵。

ギヨクデン　玉田　エイシユ　榮琇　「存義の門。

キヨクニ　清國（深栖）　七郎と稱す。上野の住人。保元の亂、源朝の矢に中り死す。

キヨクニ　清邦（松野）　神戸侯の執政。父は濟隆。よく主を助く。文政三年大阪に抵り、四年疾を得、遷りて歿す。年五十四。

キヨクニ　清邦（金子）　出羽上山藩臣。與三郎、又六左衞門と稱し、得所と號す。昌平黌に學び、又火技を高島秋帆に修む。木戸孝允を救ひ、又濟川八郎の擧を謀め、容れられざるに及び、徒を放つて暗殺せしむ。慶應二年十二月二十五日三田薩摩邸に屯する浮浪徒を襲撃し、洩丸に死す。年四十五。

キヨクニ　清邦（平）　濟盛の養子。丹波守。

キヨクニ　清邦　長門の刀匠。玉井直勝の門。安政元治年間の人。「の執權たり。

キヨクニ　清國（島山）　家國の子。修理太夫。關東

キヨクニ　清國　周防二王派の刀匠。吉歌に住す。永正年間の人。

キヨクニ　清國　肥後の刀匠。加藤淸正の偏諱を受く。天正慶長年間の人。

ギヨクブン　玉文（松村）　畫人。名は光淸。明治三年四月京都に歿す。年七十二。

ギヨクホ　玉甫　セウソウ（紹琮）

キヨクホウ　旭峯　サダノブ（松平定信）

キヨクホウ　玉峰（田中）　文化頃の書家。名は篤則。字は子眞、通稱收藏。日本橋木原店に住す。

ギヨクホウ　玉峯（長谷川）　畫人。名は師益。明治十二年京都に歿す。

ギヨクホウ　玉峯　トヨミチ（藤原豐道）　ゴガク

ギヨクホウサイ　玉容齋　シウハ（町田秋波）

キヨクラウサイ　旭朗齋　シユンサウ（勝川春草）

ギヨクラク　玉樂（狩野）　北條氏政の畫師。元信の族姪。名は宗紹。永祿中の人。

ギヨクラン　玉蘭　畫家。池野大雅の妻。名は町。別號葛覺居。德山氏。母は祇園の百合。天明四年九月二十八日歿す。年七十八。

ギヨクランサイ　玉蘭齋　サダヒデ（橋本貞秀）

ギヨクランダウ　玉蘭堂　ウンチク（北向雲竹）

キヨクリツ　曲笠　俳人。國枝氏。大小庵、春來と號す。初世存義の門。

ギヨクリフ　玉粒　ゼンカワ（二世芝全交）

ギヨクリン　玉潾　京都の畫人。名は邃、墨君庵と號し、文化十一年歿す。年六十四。

ギヨクリン　玉麟　畫師。近江の人。僧玉崙に學びて墨竹を能くす。

キヨクレイ　旭嶺（塚田）　儒者。信濃の人。名は行宜。字は延美、幼名慧二、長じて善助、老いて梅翁と稱す。室鳩巢に從學し、支那話を南森芳洲に受く。明和四年歿す。

キヨクレイ　旭嶺（伊倉）　書家。名は茂則。天明三「年京都に歿す。年八十。

キヨクレイ　玉嶺　畫師。名は淸亮。京都豐林寺月溪の弟。明治二年十二月十日歿す。年六「十三。

キヨクロウ　旭樓　サウチク（雙竹）

キヨクワウ　漁光　俳人。初世一漁の門。

キヨクワウ　虛齋　チヤウセイ　長淸

キヨクワン　魚貫　俳人。雪堂。蕨塲の門。新旬兄弟、東千旬、林鹿集の著あり。

キヨクワン　極圓　僧。薩州の人。中村藩の招に應じて長松寺に住す。

キヨケイ　居敬　バイカン（森田梅嶺）　シザン（小畑詩山）

ギヨゲツ　漁月　ショウジユ（岡野松壽）

キヨコ　淸子（大原）　鰹橋天皇の女御。家繼の女。承和八年薨ず。

キヨコ　淸子　命婦。後撰集の作家。

キヨコ　淸子（藤原）　修理亮賴重の女。贈從三位。風雅集の作家。

キヨコ　ナイシンワウ　淸子內親王　後陽成天皇の皇女。右近衞中納言藤原信尙に嫁し、敕平を生む。延寶二年十二月薨ず。年八十三。

キヨサイ　虛齋（茅原）　醫師。名は宛。字は权同。天保十一年京都に歿す。年六十七。

キヨザウ　喜代藏（小田）　小田式機械水雷の創造者。海軍少將。舊居津藩士。吳海軍工廠水雷部長たり。明治四十五年四月二十四日卒す。

キヨサダ　淸定（齋藤）　以邦の子。左衞門尉。

キヨサダ　淸定（山中）　泰定の子。左衞門尉。

キヨサダ　淸定（大江）　定經の子。備前守。

キヨサダ　淸定（坂東）　國學者。本居大平の門。通稱精兵衞、德島の人。

キヨサダ　淸定　長門二王派の刀匠。文明年間の人。

キヨサダ　淸定　新刀の殿工。藤原氏、源一と稱す。山城大掾に拜す。加賀大聖寺の人。

キヨサダ　淸定　大隅種ヶ島の刀匠。神崎金之介と「年間の人。稱す。文化年間の人。

キヨサダ　淸定　薩摩の刀匠。金兵衞と稱す。永祿

キヨサダ　淸定　長門の刀匠。二王の一派、寬文頃。

キヨサダ　淸定　筑前の刀匠。源氏。金剛兵衞の一派、天文頃の人。

キヨサダ　淸眞（源）　長員の子。左衞門尉と稱す。

後鳥羽帝頃の人。

キヨサダ 清貞(島山) 義清の子。阿波守。奥州の「住人。

キヨサダ 清貞 備前長船の刀匠。貞治年間の人。

キヨサダ 清貞 周防の刀匠。二世二王清光の子。吉歌に住す。貞治年間の人。或は曰ふ文應年間の人。後清光と改むと。

「稱す。天正年間の人。

キヨサダ 清貞 大隅種子島の刀匠。神崎金兵衛と稱す。

キヨサダ 清貞(平) 清盛の末子。尾張守。

キヨサダ 清貞(牧野) 齋藤氏。清行の子。左馬允と稱す。武者所たり。

キヨサダ 清貞(源) 隆頼の子。四郎と稱す。

キヨサダ 清貞(岸下) 貫弘の子。

キヨサダ 清貞(川幡) 歩兵中尉。鹿兒島縣人。明治二十七八年戰役に出征し、二十八年四月二日病死す。

「稱す。貞享年間の人。

キヨサダ 清貞 美濃關の刀匠。藤原氏。武藏守と

キヨサダ 清貞 奥州仙臺の刀匠。長俊の子。田代源七郎と稱す。元和寛永年間の人。

キヨサダ 清貞 周防二王派の刀匠。大永永祿年間。

キヨサダ 清貞 薩摩喜入の刀匠。潤光の子。中村與次兵衛と稱す。承應明曆年間の人。

キヨサダ 清貞(丸尾) 磐。通稱眞益。遠江の人。國學を好み、文政七年本居春庭の門に入る。

キヨサダ 清貞 出雲の刀匠。一名浪貞。永正年間。

キヨサダ 清貞 石見長濱の刀匠。康正年間の人。

キヨサダ 清貞 備前古刀の鍛工。或は曰く永正年間の人。

「稱甚左衛門。紀伊和歌山の人。

キヨサト 清里(三上) 國學者。本居大平の門。通稱理三郎。越後黒川に住す。本居春庭授後の門人。

キヨサト 清里(小谷) 國學者。通稱理三郎。越後

キヨサト 清里 周防二王派の刀匠。藤原氏。武藏守と稱す。清盛の子。享保年間の人。

吉歌に往し、又長門にも住す。永享年間の人と。

キヨザネ 清眞 筑前の刀匠。明德年間の人。或は曰く弘安年間の人。二王清貞の子、筑前に住すと。

キヨザネ 清眞 周防の刀匠。二王の流。勝清の子。貞永年間の人。

キヨザネ 清眞 周防の刀匠。二王の流。弘安年間。

キヨザネ 清眞 備前長船の刀匠。貞治年間の人。

キヨザネ 清眞 周防の刀匠。二王の弟。三郎と稱す。或は清平の子。筑前高綱の父と。

キヨザネ 清眞 周防の刀匠。二王の流。弘安年間。

キヨザネ 清眞 長門豐浦の刀匠。玉井城左衛門と稱す。

キヨザネ 清眞 周防二王派古刀の鍛工。或は曰く永享年間の人と。

キヨザネ 清眞(源) 成實の子。建禮門院の藏人たり。

キヨザブラウ 喜代三郎(嵐) 江戸女形の俳優。

キヨザン 許山(後藤) 俳人。通稱忠次郎、一節堂と號し、安政年間江戸に住す。

キヨシ 清(金子) 歩兵少尉。宮城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年奉天附近の大會戰に臨み、二日高崇嶺附近に戰死す。

キヨシ 清(内藤) 通信事務官補。高知縣人。日露の役に勤務し、明治三十八年七月病歿す。

キヨシ 清(黒田) 歩兵中尉。鹿兒島縣出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十七年十月盛京省三魏石山に戰死す。

キヨシ 清(百武) 歩兵中尉。佐賀縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月盛京省來神堡附近に傷き、翌月十七日傷死す。

キヨシ 清(野村) 歩兵中尉。福井縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月大小方士屯に戰死す。

キヨシ 清 シウケイ(渡邊周渓) クニヒコ(貴島清)

キヨジ 喜代次(村尾) 歩兵少尉。香川縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十一月二十六日旅順二龍山に戰死す。

キヨシウ 盧舟(平田) 儒者。通稱一郎。名は敬。實齋樣と號し、安政年間江戸に住す。

キヨシウ 盧舟(松田) 越後新發田藩の詩人。通稱文之助、名は達、弘化頃の人。

キヨシウ 盧舟(前川) 彫刻師。名は利渉。大阪の人。和字を刻して妙を極む。

キヨシウ 盧舟 俳人。黒瀬氏。不讓亭。觸好の門。明和六年六月十六日歿す。年八十。

キヨシウ 盧舟 俳人。小島氏。臺太の門。

キヨシウ 盧舟 コカン 古硯

ギヨシウ 魚洲 俳人。林氏。默鴎庵。存義の門。

の役に從ひ、明治三十八年三月盛京省孤家子附近に戰死す。

キヨシ 清(金子) 歩兵少尉。宮城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年奉天附近の大會戰に臨み、二日高崇嶺附近に戰死す。

キヨシ 清(内藤) 通信事務官補。高知縣人。日露の役に勤務し、明治三十八年七月病歿す。

キヨシ 清(黒田) 歩兵中尉。鹿兒島縣出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十七年十月盛京省三魏石山に戰死す。

キヨシ 清(百武) 歩兵中尉。佐賀縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月盛京省來神堡附近に傷き、翌月十七日傷死す。

キヨシ 清(野村) 歩兵中尉。福井縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月大小方士屯に戰死す。

キヨシ 清 シウケイ(渡邊周渓) クニヒコ(貴島清)

キヨジ 喜代次(村尾) 歩兵少尉。香川縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十一月二十六日旅順二龍山に戰死す。

キヨシウ 盧舟(平田) 儒者。通稱一郎。名は敬。實齋樣と號し、安政年間江戸に住す。

キヨシウ 盧舟(松田) 越後新發田藩の詩人。通稱文之助、名は達、弘化頃の人。

キヨシウ 盧舟(前川) 彫刻師。名は利渉。大阪の人。和字を刻して妙を極む。

キヨシウ 盧舟 俳人。黒瀬氏。不讓亭。觸好の門。明和六年六月十六日歿す。年八十。

キヨシウ 盧舟 俳人。小島氏。臺太の門。

キヨシウ 盧舟 コカン 古硯

ギヨシウ 魚洲 俳人。林氏。默鴎庵。存義の門。

キヨシウシ 盧舟子 イヘヒロ(近衛家熙)

キヨシゲ 清重(葛西) 源頼朝の近臣。清光の子。三郎と稱す。壹岐守。薙髪して壹獄入道といふ。

キヨシゲ 清重(中原) 歌人。光重の子。六位。建久年間の人。千載集の作家。

キヨシゲ 清重(駿河) 源義經の臣。もと讃岐。竹下りし時、其の命を受け、服を變じて鎌倉に入り、靜を護はんとして露はれ、奮闘して死す。

キヨシゲ 清重(鳥居) 畫家。一世鳥居清倍の門。二世市川團十郎の肖像を畫くに巧なり。

キヨシゲ 清重(飯田) 丹波の代官。飯田五郎と稱す。文治頃の人。

キヨシゲ 清重(紀) 時輔の子。兵衛大夫と稱す。

キヨシゲ 清重(曾禰) 重光の子。孫五郎。

キヨシゲ 清重(長野) 五郎と稱す。射を善くす。

「年間の人。

キヨシゲ 清重 長門二王派の刀匠。萩に住す。元祿頃の人。

キヨシゲ 清重 遠江古刀の鍛工。藤原氏。實歷年間の人。

キヨシゲ 清重 長門の刀匠。二王の末。弘化年間。

キヨシゲ 清繁 石見濱田龍藏山の刀匠。吉井入左衛門と稱す。吉井濟則の裔。寛政五年武藏に來り、手柄山正繁に從ひ、明年郷に歸る。

キヨシゲ 清鎭 周防二王派の刀匠。又濟綱と共に安藝に住す。寛文年間の人。

キヨシゲ 清重 石見の刀匠。手柄山の門人、濟成の初代。天保弘化年間の人。

キヨシゲ 清重 加賀小松の刀匠。文錄年間の人。

キヨスケ 清輔(紀) 貫濟の子。尊卿法眼の著あり。奥儀鈔、袋草子、和歌題林等の撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、續古今諸集の作家。

キヨスケ 清助 薩摩波平の刀匠。佐藤氏。永正天明年間の人。

キヨシゲ 清重 石見の刀匠。元祿年間の人。

キヨシゲ 清重 大阪の刀匠。藤原氏。近江守。本國美濃關。秀辰の父。櫓兵衛と稱す。寛永年間の人。

キヨシゲ 清重 周防二王派の刀匠。友清の子。應安年間の人。或は明德年間の人。濟仲の子。或は永享年間の人と。

キヨシゲ 清重 周防二王派の刀匠。吉歌に住す。正平年間の人。

キヨシゲ 清重 備前二王派の刀匠。本國長門萩。寛永頃の人。

キヨシゲ 清茂(飯田) 歌人。冷泉家の門。通稱小原太。幕府の異力。寶歷頃の人。

ギヨシゲツ 清茂 陸奥仙臺の刀匠。天明年間の人。

ギヨシゲツ 魚日 伊賀の俳人。西澤氏。元祿頃。

ギヨシゲツケン 盧實軒 ジンエモン(岡田甚右衛門) 「帳考の門。

ギヨジフ 魚十 俳人。河島氏。通稱七兵衛。百花庵。

キヨシマ 清島(小林) 國學者。通稱兵馬。伊勢松坂の人。享和二年本居春庭の門に入る。

キヨシマ 清島(本居) 國學者。通稱左傳士。大平の次子。文政四年歿す。

キヨシユク 盧淑 リクシ(中井履軒)

キヨスク 清輔(藤原) 歌人。顯輔の子。正四位皇太后大進。參長門守に至る。二條帝の勅を奉じて續詞花集を撰す。業成る頃、帝崩ずるを以て勅選に入らず。時人之を惜む。奥儀鈔、袋草子、和歌題林等の著あり。治承元年卒す。千載、新古今、新勅撰、續後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、續古今諸集の作家。

キヨスク 清輔(紀) 貫濟の子。尊卿法眼の著あり。奥儀鈔、袋草子、和歌題林等の著あり。治承元年卒す。千載、新古今、新勅撰、續後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、續古今諸集の作家。

キヨスク 清助 薩摩波平の刀匠。佐藤氏。永正天明年間の人。

キヨスケ 清助 古刀の鍛工。周防二王流。
キヨスケ 清資(近藤) 右馬頭遠篆の子。左馬頭。
キヨスケ 清軸 薩摩の刀匠。永正年間の人。
キヨスケ 清右 薩摩の刀匠。波平の一派。永正年間の人。或は清左と同人なりと云ふ。
キヨスケ 清左 薩摩鹿兒島の刀匠。波平の一派。永正年間の人。佐藤氏。或は曰く享祿年間の人と。
キヨスケ 清左 薩摩の刀匠。友安の門。正應永仁年間の人。
キヨスケ 清左 周防二王流の刀匠。永正年間の人。
キヨスケ 清佐 薩摩谷山波平の刀匠。天和年間。
キヨスケ 清介 周防二王流古刀の鍛工。或は云く吉數に住す。寶徳康正頃の人。或は曰く一清の子。明應年間の人。
キヨズミ 清純(馬淵) 大分藝藩。福岡藝出身。明治十年三月三十一日豊前に戰死す。
キヨズミ 清澄(塵外樓) 江戸の狂歌師。石川雅望の男。一名英年、字は芝之、通稱俊三郎。狂名一に阿玉。天保十五年四月歿す。
キヨズミ 清澄 大和菩提山新刀の鍛工。
キヨスヰ 去水 俳人。旦堂。素丸の門。「頃の人。
キヨスエ 清季(橘) 藏人。左衞門尉と稱す。元暦
キヨスエ 清季 スエヒロ(源季廣)
キヨセ 清瀬 女歌人。土井伊豫守の年寄。明和年間
質屋眞淵の門に入る。
キヨセツ 漁雪 俳人。井田氏、以蔵坊の門。
キヨセン 巨撰 ツネヨ(初代小佐川常世)
ツネヨ(二世小佐川常世)
ギヨセン 魚川(吉田) 浮世繪師。又彫刻に長ず。
キヨソウ 巨宗 リヤウチン 耳珍

キヨソン 漁村(游保) 儒者。名は元備、字に鄰老、別名耙之、字は春農、通稱章之助、一に傳藏雄と號す。上總の人。泰雲の子。慶應二年九月十八日歿す。年六十九。
ギヨソン 漁村(中川) 彦根藩の儒臣。通稱録郎、名は釋、字は子驍。學を平尾義に受く。嘉永六年藩主直弼外交の可否を藩吏に問ふ。管言ふ爽擴ふべしと。漁村獨り其の請を許すべしと答ふ。安政元年十二月歿す。
キヨタケ 盧堂 江戸の俳人。
キヨタケ 猗道 江州膳所の俳人。神尾氏。一晶の門。
ギヨタケ 魚堂 俳人。肉氏。北溟舍、玉華庵。二世蕉の門。
キヨタケ 清高(蘆名) 三浦氏。笃貴の子。三郎太郎と稱す。元暦頃の人。
キヨタカ 清高(佐々木) 宗清の子。隱岐守護。元弘三年五月九日父子四人自刃す。
キヨタカ 清高(壬生) 有高の子。左衞門尉と稱す。建武三年に戰死す。
キヨタカ 清孝(源) 盛孝の子。花山帝頃の人。
キヨタカ 清孝(観世) 観世家二十二代の猿樂師。初名三十郎、縣部と稱す。古實に精し。明治二十一年歿す。年五十二。
キヨタカ 清隆(逸見) 清光の四男。平井四郎と稱す。後鳥羽帝頃の人。
キヨタカ 清隆(加々美) 長清の子。大倉與一。
キヨタカ 清隆(黒田) 維新の功臣。伯爵。陸軍中將。鹿兒島藩出身。蕉翁子介。明治元年伏見鳥羽に轉戰し、奥羽及び函館征討の參謀たり。參議、開拓使長官、農商務大臣、外務大臣、樞密院議長等に歷任し、三十三年九月薨ず。年六十一。
キヨタケ 清武(松平) 將軍徳川家宣の弟。本名吉忠、又清宣。越智姓清の第に生る。越智氏を嗣ぐ。通稱熊之助、後、平四郎、主善、又民部と改む。侯爵に列し、族松平に復し、館林城に徙り、右近將監となる。享保九年九月卒す。年六十二。
キヨタダ 清忠(藤原) 左近衞中將從輔の子。家を坊門と稱す。從二位左大辨參議に叙任す。延元三年卒す。藤原定房と並びて信愛せられ、屢勲間を蒙る。撰千載集及び新葉集の作家。
キヨタダ 清忠(鳥居) 畫家。一世鳥居清信の弟子。江戸米澤町に住す。
キヨタダ 清忠 長門の刀匠。玉井用三郎と稱す。二王の流。機清の子。故ありて別家す。寛政年間の人。
キヨタダ 清忠 周防の刀匠。二王流。永享年間の人。或は曰く文明頃の人、吉數に住すと。
キヨタダ 清忠 周防二王派の刀匠。清眞の門。治承年間の人。或は至徳年間の人。清長の子。或は元徳頃の人、吉數に住す。或は二王清長の子、應長年間の人なりと。
キヨタダ 清忠(大中臣) 清世の子。祭主に任ぜらる。長禄年間の人。
キヨタダ 清忠(牧野) 光清の子。刑部丞。
キヨタダ 清忠(佐伯) 歌人。六位。拾遺集の作家。
キヨタダ 清忠(藤原) 歌人。直方の子。五位。後撰集及び拾遺集の作家。
キヨタダ 清忠 ヤスタカ(松平康孝)
キヨタダ 清繩(齋田) 國學者。通稱縣助。伊勢山田の人。天明六年本居宣長に從ふ。
キヨタダノムスメ 清忠女(藤原) 女歌人。拾遺集の作家。

キヨタネ 清種 薩摩古刀の鍛工。或は曰く谷山波平の一派、文龜年間の人と。
キヨタネ 清種 周防二王流の刀匠。永祿年間の人。
キヨタネ 清胤(志那) 江州志那に住し、志那刑部と稱す。天文十二年三月死す。
キヨタネ 清胤 サコン(島左近)
キヨタミ 清民(草野) 國語學者。金澤の人。文學士。日本文法の著あり。明治三十二年九月歿す。年三十。
キヨタラウ 喜世太郎(岩井) 江戸の俳優。延享
キヨタリ 清足(山中) 國學者。通稱要助。江戸淺草に住す。寛政八年本居宣長の門に入る。「住す。
キヨチカ 清親(月直) 浮世繪師。天和年間京都に
キヨチカ 清親(二階堂) 清眞の子。武者所。
キヨチカ 清親(下河邊) 高倉宮の臣。藤三郎。
キヨチユウ 居中 高僧。嵯山と號す。源氏。遠江の人。復び元に入る。元弘二年詔を奉じて南禪寺に住し、後、建仁寺、圓覺寺、建長寺を歷、齡年鹿山の側に瑞雲庵を結ぶ。貞和二年二月六日寂。年六十九。
キヨツグ 神次 遠江古刀の治工。或は備中の人と。
キヨツグ 神次 近江の刀匠。貞宗の門。有國と同人。
キヨツグ 清次 播磨三木都吉河の刀匠。享徳年間。
キヨツグ 清次 播磨の刀匠。光信の子。永正年間。
キヨツグ 清次 備中青江の刀匠。又播磨三木に住す。文應年間の人。
キヨツグ 清次 周防二王派古刀の鍛工。或は曰く又長門に住す。天文年間の人と。
キヨツグ 清次 長門二王派の刀匠。一名戸祐。玉井氏。清眞の子。伊賀守金道の門。元文年間の人。
キヨツグ 清次(親世) 觀世派猿樂師の祖。春日神社の禰宜。平姓、服部氏。後、奥阿彌といふ。足利氏に從ひ、大和結崎を領し、應永十三年五月十五日歿す。年五十二。
キヨツグ 清次 相摸の刀匠。久義の門。文政年間。
キヨツグ 清次 美濃關の刀匠。二王三郎と稱す。又安藝に住す。寛文年間の人。
キヨツグ 清常(大橋) 國學者。通稱伊兵衞。石見三隅の人。天明三年本居宣長の門に入る。
キヨツグ 清常(朝山) 歌人。香川景樹の門。九條家の諸太夫たり。藏六堂と號す。弘化三年歿す。年六十四。
キヨツネ 清常 和泉加賀四郎派の刀匠。友次の子、明徳年間の人。或は曰く、永祿元龜年間の人と。
キヨツネ 清常 尾張の刀匠。藤原氏。天和年間の人。
キヨツネ 清常 筑後の刀匠。青木清繩の子。元治年間の人。
キヨツネ 清常 薩摩波平の刀匠。清友の子。中村清右衞門と稱す。天文弘治年間の人。
キヨツネ 清恒 周防二王流古刀の鍛工。或は曰く天文年間の人と。
キヨツネ 清經(能勢) 十郎。後白河帝頃の人。
キヨツネ 清經(鳥居) 畫家。一世鳥居清信の門人。
キヨツネ 清經(平) 重盛の三子。左近衞中將。參議に投じて死す。
キヨツネ 清繩(大伴) 萬葉歌人。天平寶字年間。
キヨツネ 清繩(石見長濱の刀匠。天文年間の人。
キヨツネ 清繩(前田) 加州藩の家老。土佐守と稱す。寛延寶暦の間、大槻傳藏の異國を察し、横山藏人と共に其の好を破る。
キヨツネ 清繩(佐々木) 歌人。秀滿の子。隱岐守護。新千載集の作家。
キヨツネ 清繩(時田) 光平の子。入郎と稱す。文治二年誅せらる。
キヨツネ 清繩(二階堂) 維綱の子。岡部權守。
キヨツネ 清繩(藤原) 清衡の子。秀衡の伯父。
キヨツネ 清繩(佐々木) 篤綱の子。式部丞。
キヨツネ 清繩(岸本) 俊綱の子。孫九郎と稱す。射を善くす。
キヨツネ 清繩(大江) 美濃守定綱の次男。次郎。
キヨツネ 清繩(一階堂) 維綱の子。岡部權守。
キヨツネ 清繩(藤原) 清衡の子。秀衡の伯父。
キヨツネ 清繩(佐々木) 篤綱の子。式部丞。
キヨツネ 清繩(岸本) 俊綱の子。孫九郎と稱す。
キヨツネ 清繩(大江) 美濃守定綱の次男。次郎。
キヨツネ 清繩(一世) 周防の刀匠。永正年間。
キヨツネ 清繩 周防二王派の刀匠。又清繩に作る。
キヨツネ 清繩 建仁元久年間の人と。仁王派の祖。或は曰く、清眞の子なりと。
キヨツネ 清繩 丑三郎と稱す。夏喜貞永年間の人。清繩の子。周防に住す。
キヨツネ 清繩 筑後の刀匠。青木五郎と稱す。繩俊

役、槍木に出征し、明治三十八年八月三十日戦死す。

ギヨドウ 魚洞 元祿の俳人。蕉門。

キヨトキ 清時(加々美) 長崎の子。

キヨトキ 清時(千田) 仲崎の子。修理亮。

キヨトキ 清時(大佛) 歌人。北條氏。時直の子。右馬助に任ぜらる。擯拾遺集の作家。

キヨトシ 清利 大和千手院の刀匠。天永年間の人。求は曰く兼林と同人なりと。

キヨトシ 清俊(中原) 畫家。右史生に任ず。大音會の時、主基の屏風を畫く。

キヨトシ 清俊(一世) 仙臺の刀匠。田代金十郎と稱す。清貞の子。寛文年間の人。(二世) 永俊の門人。田代作左衛門と稱す。後宗家を相續して名を永重と改め、久右衛門と稱す。元文頃の人。

キヨトシ 清俊 對馬の刀匠。藤原氏。又薩摩に住す。寛文年間の人。

キヨトシ 清利 大和の刀匠。大永年間の人。或は曰く清友(橘) 奈良麻呂の第二子。檀林皇后の父。身長六尺二寸。眉目畫くが如く、學止閑雅。文學に通ず。仁明天皇即位するや、外祖父たるを以て正一位を贈らる。

キヨトモ 清友 薩摩鹿兒島の刀匠。中村小二郎と稱す。又大隅に住す。佐藤清左の門。永正大永年間。

キヨトモ 清共(清原) **ナオエ(竹川直衛)** 虚亭 禪僧。能登畑興寺の住職、字は月龍。堂山に師事す。始終の所を知らず。

キヨナ 清名(久保) 國學者、通稱質夫。遠江相良の人。文化十四年本居春庭の門に入る。

キヨナ 清魚(早川) 國學者。薩島の人。本居大平の門。通稱唐吉郎。

キヨナカ 清仲(二階堂二師清の子。遠江守。

キヨナカ 清仲 局訪二王派古刀の鍛工。或は曰く清正の子、貞治年間と。求は鄰吉年間と。

キヨナガ 清長(伊藤) 三和流劍法の祖。初名傳三郎、後十郎左衛門と改む。水戸家に仕ふ。元祿十年九月九日歿す。年七十。

キヨナガ 清長 因幡の刀匠。小鍛冶派。應安年間。

キヨナガ 清長 美濃岐阜の刀匠。藤原氏。元祿年間。

キヨナガ 清長 美濃關の刀匠。天正年間の人。

キヨナガ 清長 大和の刀匠。正平年間の人。

キヨナガ 清長 大和の刀匠。保昌の族。貞和年間。

キヨナガ 清長 局訪の刀匠。二王の流。清行の子。

キヨナガ 清長 局訪の刀匠。二王の流。正平年間。

キヨナガ 清長 周訪の刀匠。二王の流。清景の子。吉數に住す。建治正應年間の人。(二世) 周訪の刀匠。景長の子。正安年間。

キヨナガ 清長 因幡の刀匠。景長の門人なりと。

キヨナガ 清長(山野) 上杉家の臣。但馬介と稱す。大永頃の人。

キヨナガ 清長 遠州掛川の住人。森氏。通稱小左衛門。立圓の門。寛文頃の人。しのぶ草の著あり。

キヨナガ 清長(高力) 徳川氏の臣。初字新三。後與左衛門と稱す。天正十八年岩槻城に封ぜらる。慶長十三年正月卒す。年七十九。

キヨナガ 清長(鳥居) 畫家。三世鳥居清滿の弟子。關市兵衛、又新助と稱す。清滿死後、その家の絶えんことを痛み、自ら師家に入りて、鳥居四世を稱し、更に清滿の女婿の子を養ひて、鳥居五世清綠とす。森藤波平の刀匠。天正年間の人。

キヨナガ 清長(小瀬) 津田信成の臣。字は三郎二郎。天正二年長島の役に戰死す。

キヨナガ 清長(高辻) 兵部卿。長成の子。乾元二年薨ず。年六十七。

キヨナガ 清長(源) 光長の子。五郎と稱す。

キヨナガ 清長(源) 定國の子。伊豫國に徙さる。

キヨナガ 清永(齋藤) 長定の子。三郎左衛門尉と稱す。吉野朝頃の人。

キヨナガ 清永 周訪の刀匠。二王の流。應永年間。求は曰く又長門に住すと。

キヨナガ 清修 筑後久留米の刀匠。初名武國。源朝臣越後守、下坂總市と稱す。正德四年京師に上り、伊賀守金道の門人となり、受領の時、清修と改む。銘に十六辨の菊章を打つ。

キヨナガ 清艮(山崎) 勤王家。維新の際、弘前の藩論を一定して大義を唱ふ。明治二十四年七月四日歿す。年七十九。

キヨナガ 精長(河邊) 神道家。大中臣秀長の孫。惟仁清の子。大宮司、神祇少副を經て貞享五年歿す。年八十八。

キヨナハ 清躍(大伴) 萬葉歌人。天平寶字年間。

キヨナホ 清直(布勢) 寶龜九年遣唐使となりて唐に赴き、延曆の初、兵部大輔上總介に任ぜらる。

キヨナホ 清直(井上) 徳川幕府の吏。備後守と稱す。通稱新右衛門。川越聖鎭の弟。外國奉行、小普請奉行、軍艦奉行となり、慶應三年十二月歿す。

キヨナホ 清直(御巫) 國學者。伊勢の人。通稱將曹。姓は石部。世々皇受宮に仕ふ。足代弘訓に學び、敎部省に出仕し、神宮權禰宜となる。明治二十七年七月三日歿す。年八十三。

キヨナホ 清直(志賀) 陸軍一等主計。滋賀縣出身。明治三十七八年戰役に從ひ、三十七年十月病死。

キヨナホ 清直(志摩) 海軍大尉。舊鹿兒島藩士清雄の子。日淸の役に從ひ、明治二十七年九月黃海に戰死す。

キヨナホ 清直 長門萩新刀の鍛工。二王の派。

キヨナホ 清尙 周訪二王流古刀の鍛工、或は曰く明應年間の人。吉數に住すと。

キヨナリ 清成(和氣) 侍醫、典藥頭、圖書頭等に歷「任す。

キヨナリ 清成(和氣) 武人。將監淸澄の子。雄殿介と稱す。明應頃の人。

キヨナリ 清成 (一世) 石見の刀匠。長谷川道作と稱す。(二世) 嘉永年間の人。(三世) 安政元治年間の人。

キヨナリ 清成(上木) 歌人。通稱莊四郎。飛彈高「山に住す。文化年間の人。

キヨナリ 清成(吉田) 子爵。薩摩藩士。幼名己之丈。元治元年家老新納刑部に從ひて英國に赴き、明治三年歸朝す。米國全權公使、元老院議官、樞密顧問官を歷て、二十四年八月三日薨ず。年四十七。

キヨナリ 清業(藤原) 淸隆の子。左近將監。鳥羽帝頃の人。

キヨナリ 清生(木場) 薩摩藩の志士。舊稱傳內。維新後、宮內權大錄たり。明治二十四年歿。年七十六。

キヨナリ 清生 薩摩喜入の刀匠。通稱中村兵次郎。後小兵衛と更む。淸方の子。文化年間の人。

キヨナリ 清作 薩摩波平の刀匠。永正年間の人。

キヨナリノムスメ 清成女 女歌人。後撰集の作家。

キヨヌシ 清主 **トシザネ(千家俊信)**

キヨノ 淨野(坂上) 田村麿の子。弘仁中、陸奥鎭守將軍に拜す。後、陸奥出羽の按察使となり、大に治積あり。右馬頭、右兵衛督、叅因幡相摸守を經て、嘉祥三年卒す。年六十二。

キヨノ 清野(橘) 清友の弟。性嘉欲。交野に隱居す。權林太后の叔父たるを以て、天長中、從四位上を授けらる。享年八十。

キヨノ 清野(荒井) 歌人。通稱孫兵衛。文化年間の人。

キヨノカタ 喜與方 將軍家宣の側室。佐藤二郎左衛門の女。又左京方と稱す。名は輝子。家權を生む。家宣薨ずるに及び、薙髮して月光院と號す。寶曆二年九月十九日薨ず。歌を好む。事玉葉の著あり。

キヨノブ 清信(二階堂) 清延の子。右近府生に任ぜらる。

キヨノブ 清延(戶部) 鳥羽天皇の笛の師範。正清の子。右近府生に任ぜらる。

キヨノブ 清延 石見の刀匠。永正年間の人。

キヨノブ 清宜 (一世) 美濃關の刀匠。藤原氏。近江守。寬永元祿年間の人。(二世) 備中守。寬文元祿年間の人。

キヨノブ 清宜 **キヨタケ(越智清武)** 歌人。雅樂頭。新後拾遺集の作家。

キヨノブ 清宜(齋藤) 淸景の子。刑部丞。冷泉帝「の時の龍口たり。

キヨノブ 清宜 美濃關の刀匠。文祿年間の人。

キヨノブ 清信(鳥居) 畫家。鳥居派の始祖。江戶の人。庄兵衛と稱す。菱川派より出でて一家をなす。常に歌舞伎の招牌を畫く。又江戶繪と稱する一枚刷の繪を作る。享保十四年歿す。四年歿。

キヨノブ 清信 畫人。周文を學び、又狩野家の風を「樂丸。

キヨノブ 清信 攝津大阪の刀匠。一名淸光。疋田氏。太兵衛尉。寬文年間の人。

キヨノブ 清信 古刀の鍛工。周訪二王の派。或は曰く明德の人、又長門にも住すと。

キヨノブ 清信 薩摩の刀匠。淸方を晉よ。

キヨノブ 清意 薩摩の刀匠。元平の門。通稱牧助太郎。文化年間の人。

キヨノリ 清則 備前の刀匠。文明年間の人。

キヨノリ 清則 古刀の鍛工。二王の流。備前岡山に住す。

キヨノリ 清則 周訪の刀匠。天文年間の人。

キヨノリ 清則 薩摩谷入の刀匠。通稱中村木工之丞。四世淸右衛門の子。文祿慶長年間の人。

キヨノリ 清則 (一世) 出雲の刀匠。通稱助七郎。吉則の子。始め備前吉井に住し、後出雲に徙り、吉則と更む。吉井の吉則を晉よ。(二世) 初代淸則の子。藤原氏。文安寬正年間の人。或は曰く永享康正年間。求は曰く文明年間の人。又曰く初め吉井に住し、後出雲に移ると。(三世) 長祿文明年間の人。(四世) 永正年間の人。(五世) 永祿年間の人。

キヨノリ 清則 大和千手院の刀匠。一名淸利。又兼林といふ。淸宗の門。應安年間の人。「間の人。

キヨノリ 清則 石見の刀匠。出羽に住す。應永年間の作家。

キヨノリ 清德(緒方) 齋藤本澤士。西南の役、三等警部を以て從ひ、明治十年六月薩摩に戰死す。

キヨノリ 清庸 薩摩の刀匠。淸方の二子。池鳥氏の養子。淸人と稱す。文化年間の人。

キヨノリ 清範(河合) 十郎鏡廣の子。幾藏太郎。

キヨノリ 清範(藤原) 歌人。五位。續後拾遺集の作家。

キヨノリ 清儀(中路) 步兵中佐。千葉縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月奉天附近の戰に負傷し、四十年三月死す。

キヨノリ 清憲(山本) 步兵中尉。山口縣出身。日露の役、明治三十八年三月盛京省五百牛泉に戰死。

キヨノリ　清炬（小中村）　國學者。文學博士。舊稱金四郎。又金右衞門、後、將監。三河の人。原田次郎八の子。小中村氏に養はる。伊能穎則、本居内遠に從ひ、制度律令を修む。紀藩學教授、幕府和學所講師たり。明治十五年大學教授となり、東京學士會員に列し、二十三年貴族院議員に勅選せられ、二十八年十月十日卒す。年七十四。歌道音樂略史、隔蓂廬雜考等の著あり。

キヨハク　虛白（幸若）　幸若の曲の名人。白也の子。德川家光の時、招かれて曲を奏す。

キヨハク　擧白　俤人。　百壁氏。芭蕉の門。元祿九

キヨハクケン　虛白軒　ソウシツ（六世千宗室）

キヨハクダウ　擧白堂　チヤウセウ（木下長嘯）

キヨハチラウ　喜代八郎（吉見）　勤王家。水戸藩士。幕譴により藩に幽閉せられ、慶應元年十月二十五日死に處せらる。

キヨハル　清治（宇野）　大和源氏。七郎親治の子。

キヨハル　清治（大内）　仲治の子。三郎と稱す。

キヨハル　清治（佐藤）　歩兵少尉。宮城縣出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十八年三月盛京省大檢樹堡に戰死す。

「新後拾遺集の作家。

キヨハル　清春（藤原）　歌人。清業の子。丹後守。

キヨハル　清春（近藤）　江戸の浮世繪師。鳥居清信の門。通稱勘五郎。吉原細見記、江戸歌舞伎狂言等の戲著をなし、又始めて泥畫を画く。正德頃の人。

キヨハル　清春　周防二王派の刀匠。寶德頃の人。

求は曰く、永正大永頃、又曰く、長門にも住すと。

キヨハル　清春　阿波海府の刀匠。應永頃の人。又應仁頃の人ともいふ。

キヨヒコ　清彦（大鹽）　歩兵中尉。鳥取縣人。日露の役、旅順攻圍軍に從ひ、明治三十七年十月十二日三塊石山に戰死す。

キヨヒコ　喜代彦（岡崎）　海軍兵曹長。和歌山縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年五月十五日旅順口に戰死す。

キヨヒコ　清彦（鈴木）　歩兵少尉。東京の人。日露戰役の際、明治三十七年九月二十日旅順に戰死す。

キヨヒコ　シンワウ　清彦親王　後柏原天皇の第四子。母は豐芳門院。永正十五年出家。法號は尊獻。後、尊鎭と改む。天台座主に補し、十九年九月薨ず。

キヨヒサ　清壽（田中）　江戸の金工。文治頃の人。

キヨヒサ　淨久　山城京の刀匠。來氏の一派。信國の族。永享頃の人。或は曰く文安頃の人と。

キヨヒサ　清久（宇佐美）　三河三郎と稱す。元弘頃の人。

キヨヒサ　清久　山城信國派の刀匠。文安頃の人。

キヨヒサ　清久　周防二王派の刀匠。文明頃の人。

キヨヒサ　清久（岩橋）　國學者。本居大平の門。通稱五郎右衞門。紀伊和歌山の人。

キヨヒサ　清秀（中川）　攝津の人。瀨兵衞と稱す。後信長に降り、茨木城に居る。天正嶽に屬し、後信長に降り、茨木城に居る。佐久間盛政攻苦鬪して死す。

キヨヒサ　清秀（高木）　三河の人。源氏。水野信元に仕へて武功あり。慶長十五年七月歿。年八十五。

キヨヒサ　清秀　筑後の刀匠。青木氏の第三世。

キヨヒサ　清秀　薩摩の刀匠。天文弘治頃の人。

キヨヒサ　清秀（池端）　舊鹿兒島藩士。明治十年三月十二日肥後段山に戰死す。

キヨヒサ　清秀　マサヒデ（平子政秀）

キヨヒデ　清品（向井）　國學者。通稱三郎兵衞。伊勢慥柄の人。明和の頃、本居宣長に從ふ。

キヨヒト　清人（紀）　文章博士。和銅中、國史の修撰に與る。右京亮、治部大輔、武藏守に歷任す。天平勝寶五年卒す。萬葉集の作家。

キヨヒト　淨人（蘇大養）　萬葉歌人。天平勝寶七年下總少目に任ぜられ、弘仁十五年從五位下に至る。

キヨヒト　シンワウ　清仁親王　花山天皇の皇子。彈正尹に任ぜらる。後拾遺集の作家。

キヨヒラ　清衡（藤原）　秀郷七世の孫。檀太郎と稱す。永保三年源義家に屬して家衡武衡を出羽に攻めて、之を滅し、陸奥押領使となる。國人稱して、御館と云ふ。平泉に卒す。

「の作家。

キヨヒラ　清衡（大中臣）　歌人。南北朝頃。新葉集

キヨヒラ　清平（杉原）　恒清の子。四郎兵衞と稱す。

キヨヒラ　清平（江見）　平家の侍。太郎と稱す。元曆頃の人。

キヨヒラ　清平　豐後の刀匠。天和頃。

キヨヒラ　清平　薩摩波平の刀匠　天和頃。

キヨヒラ　清平　周防二王派古刀の鍛工。文明頃。

キヨヒラ　清平　豐後の刀匠。承久頃。或曰く、天承頃、又天仁頃、又正中頃、又元曆頃。

キヨヒラ　清平（一世）　加賀金澤の刀匠。藤原氏。高平の四子。江戸八幡山及び相摸小田原に住す。元祿年間の人。（二世）八幡山に住す。寶永頃。

キヨヒロ　清廣　小田原の刀匠。永正天文頃の人。

ギヨフウ　御風　秋田の俤人。通稱秋山卯吉。別號俤翠堂、應齋。郡奉行たり。慶應二年正月二十六日歿す。年七十三。

キヨフサ　清房（佐々木）　醫師。守晴の子。三郎。

キヨフサ　清房　美濃の刀匠。永正頃の人。

藤原氏、元祿頃と。

キヨフサ　清房　陸奥の刀匠。永保頃。又天福頃。

キヨフサ　清房　周防二王古刀の鍛工。嘉慶頃。

キヨフサ　清房　讃岐の刀匠。建保頃。

キヨフサ　清房　醫學寮入の刀匠。寶永頃。

キヨフサ　清房（二階堂）　右馬允經清の三男。四郎太夫と稱す。

「後鳥羽帝頃の人。

キヨフサ　清房（紀）　清重の子。右衞門尉と稱す。

キヨフサ　清房（鍋島）　肥前本莊の人。通稱孫四郎。享祿二年龍造寺家兼を援けて、杉筑業等を破るを以て、家兼大に悅び、孫女を妻はす。後、龍造寺周家の嘉嘯と相倡し、その遺孤を擁育す。入道して剛意と稱す。

「弟子。

キヨフサ　清房（中島）　浮世繪師。鳥居三代清倍の門。

キヨフサ　清房（宮澤）　國學者。通稱右近。信濃大宮明神の神主。寬政八年本居宣長の門に入る。

キヨフサ　清房　ケンモツ（三好監物）

キヨフミ　清文　歌人。五位。千載集の作家。

ギヨフン　魚汶　江戸の俤人。雪中庵孝太の門。玄峯堂。初名魚文。前號三級亭。

ギヨホ　魚輔　大坂の俤人。蘆井氏。紹巴の門。

キヨマ　喜代馬（久松）　高知藩の志士。名は重知。紆徒を斡殺せしため、慶應二年刑せらる。年三十一。

キヨマ　喜代馬（佚岡）　歩兵少尉。高知縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十一月二十六日旅順東鷄冠山に戰死す。

キヨマ　喜代馬（矢野）　歩兵少佐。高知縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月十三日盛京省楊城案に戰死す。

キヨマサ　清政　中川）　小笠原政長の子。遠江守。

キヨマサ　清政（鳥居）　畫家。清長の弟子。俤優の似顏を畫くに巧なり。

キヨマサ　清政　周防二王派の刀匠。貞應頃の人。

求は曰く延元、又一に滴正に作ると。

キヨマサ　清雅（藤原）　歌人。定長の子。中納言。玉葉集の作家。

キヨマサ　清雅（和氣）　檜作賢。築丹波介。

キヨマサ　大和古刀の鍛工。貞應頃の人。或はの人と。

キヨマサ　清正　大和の刀匠。延元頃の人。

キヨマサ　清正　和泉の刀匠。永和頃。或は延德頃、の人といふ。

キヨマサ　清正　備後の刀匠。文永頃。或は長享頃、の人といふ。

キヨマサ　清正　周防二王派古刀の鍛工。

キヨマサ　清正　長門二王派の刀匠。元祿頃。

キヨマサ　清正　古刀の鍛工。肥後の產。文祿頃。

キヨマサ　清正（藤原）　歌人。兼輔の子。左少將に任ず。

キヨマサ　清正（加藤）　豐臣家の忠臣。小字夜叉若、後虎之助と改む。尾張の人。清忠の子。慶長七本槍の一人。征韓の役、先鋒となり、二王子を虜にし、嚮導す。小西行長石田三成之を猜忌し、秀吉に讒す。遠に召還せらる。慶長二年正月再び朝鮮に入る。慶長庚子の亂、國に就きて西海諸州の兵に備ふ。慶長十六年卒す。年五十一。或は五十一。

キヨマサ　清正（篠原）　入條流馬術家。幾部と稱す。

君猿隱嵐の門人。

キヨマサ　清正　ハンノスケ（天野半之助）

キヨマサ　清正母（藤原）　女歌人。後撰集の作家。

キヨマス　清倍（鳥居）　畫家。鳥居派二世。江戸の人。初代清信の子。庄助と稱す。世に大和掾師と云ふ。寶曆十三年二月歿す。

キヨマス　清益（大關）　高增の第二子。美作守と稱す。父に先もて歿す。

キヨマル　清丸（瀧の屋）　狂歌師。通稱長岡。清兵衞。神田小柳町の町代。梅の屋の門人。明治三十年五月二十三日歿す。年七十四。

キヨマロ　清麿（大中臣）　意美麻呂の子。右大臣に至る。朝儀國典に暗熟し、數朝に歷事して儲ることなし。延歷七年薨ず。年八十七。

キヨマロ　清麿　江戸の刀工。虎徹と名聲を等くす。

キヨマロ　清麿（和氣）　備前藤野郡の人。輔治眞人の姓を賜ふ。稱德帝佛道鏡を寵す。時に太宰の主神中臣習宜阿曾麻呂、神官と稱し、道鏡を皇位に即けんと圖る。帝清麻呂をして神意を受けしむ。歸りて我が國開闢以來君臣の分定まれり。無道の者は速に誅すべしと奏す。道鏡怒りて姓名を別部穢麻呂と改め、大隅に流す。先仁帝の即位するや、召還せられ、姓を和氣朝臣と賜ふ。天應十八年卒す。年六十七。民部省侍及び和氣譜を撰す。明治三十一年贈正一位。

キヨミ　清海（宮日）　國學者。肥後天草郡の人。本居大平の門。通稱左馬輔。

「の門。通稱熏藏。

キヨミ　清海（長江）　國學者。德島の人。本居大平

キヨミ　清海(大井)　駿河島田の神主。通稱日向。和歌を好む。文化年間の人。
キヨミ　神見　古刀の鍛工。
キヨミ　淨三(文室)　長親王の子。始め智努と稱す。天平勝寶四年姓を文室眞人と賜ふ。天平寶字五年名を淨三に改む。八年御史大夫神祇伯に進む。孝謙帝の崩後、吉備眞備等淨三を立てんと欲せしが、固く拒みて肯かず。神護景雲年中薨ず。
キヨミツ　清光(武田)　義濟の子。太郎と稱す。
キヨミツ　清光(豊島)　康家の子。三郎と稱す。
キヨミツ　清光(武田)　新羅三郎義光の孫。信義の父。面極めて黒く、人呼びて黒源太といふ。
キヨミツ　清光　蒔繪の名工。花園帝の時、日吉神社の調度を命ぜらる。
キヨミツ　清光　丹波宮田の刀匠。建武前の人。或は天文頃、又天德頃ともいふ。
キヨミツ　清光　〔一世〕備前長船の刀匠。嘉吉頃の人。〔二世〕應永頃の人。或は永享頃。〔三世〕天文頃。〔四世〕永祿頃。或は寛正頃。又天文頃。
キヨミツ　清光　備前の刀匠。永祿頃の人。長船與三左衞門尉。
キヨミツ　清光　備前の刀匠。永祿頃。長船彦兵衞。
キヨミツ　清光　備前の刀匠。永祿頃。長船彌右衞門尉。
キヨミツ　清光　備前の刀匠。永祿頃。長船孫兵衞。
キヨミツ　清光　備前古刀の鍛工。長船八右衞門尉。
キヨミツ　清光　備前古刀の鍛工。長船源右衞門尉。
キヨミツ　清光　備中田之口の刀匠。永祿頃。
キヨミツ　清光　大和千手院派古刀の鍛工。元應頃。又文保正中頃の人といふ。「命長左衞門尉。
キヨミツ　清光　美濃の刀匠。大永天文頃の人。壽
キヨミツ　清光　越前藩の刀匠。嘉永頃。
キヨミツ　清光　〔一世〕加賀の刀匠。藤原氏。明應頃。或は明德頃、或は應永頃、又寶治三年八十四にて歿すといふ。〔二世〕應永頃。或は應仁頃、又永正二年六十五にて歿すといふ。
キヨミツ　清光　〔一世〕加賀金澤の刀匠。元和頃。〔二世〕藤原氏。寛文頃。〔三世〕元祿頃。
キヨミツ　清光　〔一世〕越中高岡の刀匠。元和頃。〔二世〕藤原氏。延寶頃。
キヨミツ　清光　播磨明石の刀匠。享保頃。
キヨミツ　清光　〔一世〕周防の刀匠。正安頃。〔二世〕正中建武頃。〔三世〕貞治頃。
キヨミツ　清光　周防二王派の刀匠。天文頃。
キヨミツ　清光　薩摩喜入の刀匠。慶長年間。
キヨミツ　清盈　長門二王派の刀匠。元祿正德年間。
キヨミツ　清盈　薩摩の刀匠。文化頃の人。
キヨミツ　清滿(鳥居)　畫家。鳥居派三世。濟倍の三男。半三と稱す。天明五年四月歿す。
キヨミツ　清滿(伊藤)　國學者。通稱靱負。田安侯の臣。寶曆九年賀茂眞淵の門に入る。
キヨミチ　清道　京都の刀匠。通稱龜三郎、吉道の後を承けて同名に改む。天明弘治年間の人。
キヨミチ　清道　周防二王派古刀の鍛工。永正年間。
キヨミチ　清通(長井)　國學者。通稱武吉。伊勢松坂の人。寛政十二年本居宣長の門に入る。
キヨミネ　清峯(鳥居)　〔五世〕鳥居派の畫家　濟滿の女婿。關濟長に學び、歌舞伎畫看板、番附、繪雙紙等を描く。明治元年十一月歿す。〔六世〕五世の次子。初名濟房。明治二十七年(或は二十五年)歿す。
キヨムネ　清宗　大和千手院の刀匠。重弘の弟。文治年間の人。或は天福年間、又承久年間。後美濃赤坂に移ると云ふ。
キヨムネ　清宗　大和千寺院の刀匠。義廣の子。或曰く、重永の門。康元年間の人。後美濃赤坂に住すと。
キヨムネ　清宗　周防二王派の刀匠。文明頃。
キヨムネ　清宗(小笠原)　馬術家。持長の子。文明十年二月十八日歿す。年五十二。
キヨムネ　清宗(平)　宗盛の長子。累進して正三位右衞門督に至る。父と共に近江篠原に斬らる。
キヨムネ　清宗(菅谷)　織田信長の臣。永祿年間、南蠻寺建立の奉行たり。
キヨムネ　清宗(松平)　德川家康の臣。竹谷氏。濟善の子。與二郎と稱し、後玄蕃允と改む。慶長十年十一月十日歿す。年六十八。
キヨムネ　清宗(千葉)　大和十津川の勤王家。通稱定之助。天誅組の軍に周旋す。又鷲尾隆聚の高野山に據るや、その參謀となる。明治三十五年六月二十日歿す。年八十四。「守と稱す。
キヨムネ　清宗(小笠原)　持長の子。又二郎。信濃
キヨムネ　清宗(源)　陸奥守賴濟の子。山城守。
キヨムネ　清宗(蘆名)　盛政の六男。
キヨムネ　清宗(狩野)　四郎忠宗の子。三郎と稱す。
キヨムネ　清宗(源)　上野介家宗の子。山城守。
キヨムラ　清邑(海老)　歩兵中尉。京都府の人。明治三十七年日露の役に從ひ、十一月二十八日旅順二百三高地に戰死す。
キヨムラ　清村(溝杭)　源氏。資濟の子。十郎。
キヨモト　清元(逸見)　源氏。義清の子。三郎。
キヨモト　清元(高野)　平藏と稱す。大永頃の人。
キヨモト　清元　周防二王流の刀匠。應仁年間。
キヨモト　清元　古刀の鍛工。薩摩谷山波平の人。
キヨモト　清基(平)　康賴の子。左衞門尉と稱す。

承久の變、官軍に屬し、弟俊職と鎌倉に斬らる。
キヨモト　清元(鳥居)　浮世繪師。濟長の門。三郎助と稱し、雪光齋と號す。文化頃の人。
キヨモリ　清盛　古刀の鍛工。康曆年間。
キヨモリ　清盛　長門二王流の刀匠。享保年間。
キヨモリ　清盛　筑前金剛流の刀匠。源氏。天文年間の人。
キヨモリ　清盛(平)　忠盛の長子。母は白河帝の宮女。保元及び平治の亂に功あり。仁安二年從一位太政大臣に拜せられ、翌年剃髮して、淨海と稱す。治承三年後白河法皇を鳥羽に幽し、翌年都を福原に遷す。驕恣專橫、上下怨望す。養和元年熱病に罹りて薨ず。「は永和年間」の人。
キヨヤス　清安　薩摩古刀の鍛工。文明永德年間(或
キヨヤス　清安(山田)　歌人。香川景樹の門。薩摩藩士。通稱一郎左衞門。秋園、又作樂園と號す。奸臣を除かんとして事露れ、嘉永二年自刄を命ぜらる。年五十六。「濟右衞門。文化年間の人。
キヨヤス　清保　薩摩の刀匠。濟生の子。通稱中村
キヨヤス　清泰　周防二王派の刀匠。天文年間。
キヨヤス　清泰　阿波の刀匠。應仁年間の人。
キヨヤス　清康(德川)　信忠の長子。小字竹千代。足利氏に代らんとする志あり。西上せんとして、天文二年十月兵一萬を率ゐて森山に次す。偶、安部正豐に弑せらる。
キヨヤス　清康(安宅)　冬康の第二子。或は曰く冬康の猶子なりと。河內守と稱し、由良城に居る。天正八年池田之助來り攻む。力盡きて降る。信長之に舊領を與ふ。須本城に在りて病死す。
キヨヤス　シンワウ　清保親王　貞敬親王の子。出家して濟範と稱し、東大寺の別當となる。天保十三年事に坐して皇統を除かれ、職を停めらる。
キヨユキ　氷行　應永年間の人。備前長船の刀匠。
キヨユキ　清行(加々美)　小笠原氏。長濟の子。彌二郎と稱す。
キヨユキ　清行(牧野)　齋藤氏。定任の子。
キヨユキ　清行(二階堂)　濟仲の子。鹿四郎と稱す。射を善くす。
キヨユキ　清行(安倍)　歌人。安仁の子。讚岐守に任ぜらる。寛平頃の人。古今集の作家。
キヨユキ　清行(紀)　有行の子。興風の孫。三郎。
キヨユキ　清行(木間)　國學者。遠江平川の人。本居大平の門。通稱春城。
キヨユキ　清行　加賀の刀匠。藤原氏。文明年間。
キヨユキ　清行　古刀の鍛工。周防二王派。濟重の子。或は曰く應永永享年間の人と。「間の人。
キヨユキ　清行　豐後高田の刀匠。藤原氏。天文年
キヨユキ　清行　薩摩古刀の鍛工。濟左の子。元應年間の人。或は曰く延慶年間の人と。
キヨユキ　清行　薩摩喜入の刀匠。濟貞の子。正房の門。貞享年間の人。或は曰く天正年間の人と。
キヨユキ　清行(宮城)　リヱモン(柴田理右衞門)
キヨユキ　清之　周防二王派の刀匠。寶德年間。
キヨユキ　清之(木村)　國學者。紀伊和歌山の人。本居大平の門。通稱七太夫。
キヨユキ　清之(小寺)　國學者。一に濟先に作る。通稱常陸介。號は楢園、又雲齋。備中笠岡の人。世々其の邑稻荷神社の祠官たり。文政三年閏六月歿す。年八十。
キヨユキ　清之(觀世)　能役者。二世鐵之丞の子。梅若家の養子となりて、六郎と稱す。後、梅若家を去り、宗家濟廉を輔く。能役者の系圖編纂に力を盡す。明治四十二年六月十六日歿す。年六十一。
キヨヨ　清世(大中臣)　親世の子。祭主に任ぜらる。應永十六年薨ず。年六十五。
キヨヨシ　清義(逸見)　經知の子。源太と稱す。射を善くす。「頃の人。
キヨヨシ　清義(畠山)　家國の三男。左近將監　康曆
キヨヨシ　清義　古刀の鍛工。備前長船の人。
キヨヨシ　清善(松平)　德川家康の臣。竹谷氏。與二郎、後玄蕃允と稱す。天正十五年(一に十六年)五月二十三日死す。年八十三。一に八十二。の人。
キヨヨシ　清能(唐橋)　在良の子。加賀守。保延頃
キヨヨシ　清吉　攝津の刀匠。寛文天和年間の人。
キヨヨシ　清吉　備前長船の刀匠。應永永享年間。
キヨヨシ　清吉　薩摩の刀匠。天文年間。或は曰く元龜年間の人。「間の人。
キヨヨリ　清仍　古刀の鍛工。周防二王流。天文年
キヨライ　去來　俳人。肥前に生る。向井氏。平次郎、又次郎太夫と稱す。名は兼時、又義焉。京に住し、落柿舍と號す。蕉門の高弟。寶永元年九月十日歿。年五十三。伊勢紀行、旅寢論、湖東問答、去來抄等の
ギヨラク　魚洛　俳人。許六の門。「著あり。
キヨリウ　去留　若狹の俳人。津田氏。信德の門。青葉山の著あり。
ギヨリウ　漁柳(濱)　大阪の狂言作者。通稱鑓野村助。瀬川路考の名を借りて狂言を作る。白頭丸、柳漁庵、惠闘、羅亭駒人等の別號あり。
キヨリウ　巨柳(古滿)　蒔繪師。五世休伯の門人。もと木村氏。特に古滿の氏を稱することを許さる。餘暇、機械人形を造る。天明年間歿す。
キヨリツ　巨立　コリフ(倶々館湖鯉鮒)

ギヨロ 魚路(笠井) 江戸の俳人。初世涼門の門。初め玉字といふ。名は重。號は翠松齋、飛来軒。

キヨロク 許六(森川) 彦根の俳人。名は百仲。字は羽官。通稱五助。五老井、菊阿佛の號あり。芭蕉門の高弟。正徳五年八月二十六日歿。年六十。韻塞、篇突、俳諧問答、宇陀法師、歷代滑稽傳、風俗文選等の著あり。

キヨエン 麥遠 加賀の俳人。通稱才田屋四郎兵衛。「鬩吏の門」

キヨラ 馴雄(藤原) 仲麻呂の子。天平勝寶三年遣唐留學生となり、歸朝後、父の事に坐して隱岐に流され、寶龜中、本位本姓に復して但馬守となり、延暦中、大學右大舍人、陸奥鎭守に歷任す。

キヨラ 潔夫(村上) 歌人。通稱三介。伊勢の人。文化の頃。醫津伊丹に住す。

キヨラ 清雄(長崎) 國學者。通稱三左衛門。伊勢上野藩士。文政十年本居春庭の門に入る。

キヨラ 清雄(松室) 國學者。本居大平の門。美濃守と稱す。京都の人。

キヨラ 清雄(笠因) 伊勢松坂蔵國社の神主。出雲守と稱し、和歌を善くす。文化年間の人。

キヨラ 清雄(亦野) 岁兵中尉の山口縣出身。日露役に從軍し、明治三十七年八月三十日盛京省早飯屯南方に戰死す。

キヨラ 清雄(中村) 岁兵少佐。德島縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十月揚城塞に戰死す。

キヨラク 虛屋 シヤウチウ 性宙

キヨンド 清人(廣瀨) 岁兵少尉。日露の役に從ひ、明治三十七年十月旅順に戰死す。

キライアン 歸來庵 メイケイ(若代名溪)

キラク 喜樂(浮世) ハルミチ(千代春道)

キラク 喜樂(中山) ショウジユ(尾上松壽)

キラク 喜樂 ショウジユ(尾上松壽)

キラクヲウ 喜樂翁(升本) 資産家。本名得兵衛。江戸に生る。維新の際、土地を賣買して巨萬の富を得。明治四十年九月十三日歿。年八十六。

キラクヲウ 喜樂翁 イウセイ(堀江友聲)

キラツパウ 鬼拉房 越後の俳人。以哉坊の門。

キラノクワンジヤ 氣良冠者 マレヨシ(源希義)

キラン 鬼卵 小銳家。東海道日坂の人。中山氏。又大須賀氏。翠枝亭、又知白と號し、狂歌をも善くす。文政六年二月二十三日歿。年八十三。

キラン 其瀾(小川) 儒者。名は蘭、字は竟卿、小字萬甫、又城山と號す。志摩波切の人。齋藤拙堂、安積艮齋、羽倉簡堂に從ひ、昌平黌に學ぶ。文久二年九月歿す。年三十四。著、其瀾遺稿。

キリクヒノソウジヤウ 伐株僧正 リヤウカク

ギリフ 蟻粒 江戸の俳人。冠氏。我何坊、梅亭、道途庵、素陽處と號す。島得器に從ひ、後、燕々社素粒に關す。

キリマロ 桐麿(井上) 越後の歌人。齋藤彦麿の門。通稱仁兵衛。桐齋と號す。文化頃の人。

キリヤウ 寄良(岡田) 柳園、滄洲と稱す。江戸の人。文政九年歿。

ギリヤウ 義亮 國語學者。石上(寛政十年刊)を著す。

ギリヤウ 義亮 畫伯。月峯の男。京都豐林寺に住す。

ギリユウ 義龍(河北) 養家。名は論。京都の人。「文化十年歿す。年六十五。

ギレイ 規禮(龜岡) 畫家。字は子茶、通稱吾十郎。京師の人。應擧の弟子。

ギレイ 龜齡 マンネン(竹林萬年) 舊名古屋藩主。明治十七年侯爵に叙せられ、同年英國に留學す。二十三年貴族院議員に列し。四十一年五月薨ず。

ギレイ 宜令 俳人。田中氏。自然庵と號す。二世山花の門。「月歿す。

キロク 騏六 尾州の俳人。聽盞の門と。文化七年八

キロク 騏六(世木) 山口藩の志士。名は義安、憂應元年俗論黨と戰ひて死す。年三十一。明治三十五年贈正五位。

キロク 熹六(吉田) 新聞記者。德島縣の人。號庵と號す。叔父志摩に養はれ、慶應義塾に學ぶ。明治十九年歐米に遊ぶ。後朝野新聞、民報等に寄す。二十四年十一月三十日仙臺の客舍に歿す。年三十二。

キロク 喜六(世木) 岁兵少尉。京都府出身。明治三十七八年戰役に從軍中、負傷し、三十九年四月死す。

キロク 喜六 マサトシ(佐川田昌俊)

ギロク 祇王 母及び妹の祇女と共に白拍子たり。近江蓋須郡中比村に生れ、平清盛に召さる。後、寵を佛御前に奪はれ、母子三人倶に尼となりて庵を嵯峨野に結ぶ。時に祇王年二十一、祇女十九、母四十五。

キワウマル 鬼王麿 田羽の刀匠。永歷頃の人。或は曰く長和、又康治頃、陸奥森房の子と。又友長と同人と。

ギヰン 祇尹 江戸の俳人。通稱小笠原理右衛門。御先手與力たり。名は長堅。櫻花房、此花仙、松蔭舍と號す。自在庵祇徳に從ひ、又、神谷玄武坊の門に入り、寛政十二年四月五日歿す。

ギヰン 義尹 肥後大梁山大慈寺の住僧。字は寒巖。後鳥羽天皇の皇子。順徳天皇の第。宋に遊び、歸りて永平寺第三世となる。正安二年寂ず。

ギヰン 義尹 伊勢松坂養泉寺の僧。國學を好み、文化十二年本居春庭の門に入る。

キエモン 喜右衛門(高橋) 奇人。武州川越の人。江戸に出でて幕府の士横田新五兵衛の家に仕ふ。健歩、人に過ぎ、又書法を好み、路上小盥の除、空海の墨本を展玩す。晩年林鵞峯の門に入り、後往く所を知らず。

キエモン 喜右衛門(幾乃字屋) 小田原の人。江戸に來り、所謂倉の物屋を始む。

キエモン 喜右衛門(内藤) 越前福井の米問屋。屋號布屋。藩儒高野春華に學び、理財に長ず。文化八年金千兩を藩廳に獻じて教育の資に充つ。

キエモン 喜右衛門(岡谷) 大和吉野郡下市村の人。寶暦四年、和人參の製造販賣を許さる。

キエモン 喜右衛門(森) 勤王家。名は純信。字は子須、梅溪と號す。鼎の子。近江膳所に生れ、篠崎小竹、藤澤東畡等に學び、後、昌平黌に入る。又兵學を修む。藩校の教授たり。藩論一變して獻に下り、慶應元年十月二十一日自殺を命ぜらる。年三十七。

キエモン 喜右衛門 ナホマサ(尾崎直政)

キエモン 喜右衛門(佐々木) 海軍軍醫少監。大正元年十二月二十六日歿す。

ギエモン 儀右衛門(中川) 若狹の人。朝正齋義業と號す。文政十年始めて和製唐紙を造り、又綾十間横五間の紙を製して寶業紙と云ふ。天保元年歿。

ギエモン 儀右衛門(兼子) 画打。其の面を弟子打と稱す。出目滿壽の門人。江戸に住す。

ギエモン 儀右衛門(鳥居) 安藝尾の道の篤行家。名は守廣。字は子瑤。文化中歿す。

キエン 杞園 ツネノブ(高階經宣) (一頁本)

キエン 龜園 キヨキ(山本清樹)

キエン 葵園(坂本) 醫者。村上佛山の門人。名は亮別。字は高亮、白遷居士と號す。明治十四年歿す。年五十五。

キエン 葵園 ザンボ(宮本元甫)

キエン 奇淵 大阪の俳人。菅氏。花屋庵。大黒庵。二柳の門。天保五年歿。年七十六。

キエン 淇園(渡邊) 醫。名は弘。字は新左。天明五年京都に歿す。

「設。春蚕の門人。

キエン 淇園(植村) 江戸の儒者。名は正直。字は希麻呂の孫。新羅に入り、鍼術を學びて歸り、皇極天皇元年鍼博士に擧げらる。

ギヲンニヨゴ 祇園女御 白河天皇の宮人。後之助、後、萬助、多内、金吾、又金四郎。鄕里に教授し、後、伊勢長島藩侯に聘せらる。

キン 欽 クワウテイ(岡田煌亭)

ギン 閻(佐伯) 海軍大佐。舊長島藩士。日露戰役に吉野艦長として從軍し、明治三十七年五月軍艦春日と衝突沈沒の際に歿す。

キンアキ 公明(正親町) 公通の孫。大歌所別當たり。寛政二年仙院別當に轉ず。

キンアキ 公明(藤原) 歌人。實仲の子。大納言に任ぜらる。續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

キンアキ 公明(後藤) 弓の上手。宗明の子。西山五郎と稱す。今出川と稱す。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新續古今等の作家。

キンアキ 公顯(藤原) 衆實の子。右大臣となり、元亨元年薨ず。

キンアツ 公篤(江島) 歌人。篤時の子。平氏。遠江守。玉葉集の作家。

キンアミ 金阿彌 美濃國の刀匠。或は金阿に作る。兼弘の子。貞治頃の人。

キンアリ 公有(藤原) 歌人。實遠の子。中納言。

キンイチラウ 金一郎(高橋) 岁兵少尉。新潟縣

人。日露戦争に従軍中、明治三十八年三月病没す。

ギンイチラウ 銀一郎(吉岡) 歩兵少佐。長野県出身。日露戦役に従軍し、明治三十八年三月十日盛京省北陵に戦死す。

キンイヘ 公家(加々美) 公定の子。多波戸次郎と稱す。

キンイヘ 公家(伊奈) 冨扶の子。中三郎と稱す。

ギンウ 吟雨 俳人。柳花坊。寸長の門。

キンウヂ 公氏(唐橋) 公良の養子。上總介。文永年間の人。

キンエ 公兄(藤原) 正親町實雅の子。内大臣たり。天文二十三年出家して紹巴と稱す。

キンエイ 欣榮 カテイ(間野可亭)

キンエイ 金英 キクコ(卜部菊子)

キンエダ 公條(三條) 實隆の子。實枝の父。右大臣に至り、天文十二年致仕。翌年二尊院に入りて僧となり、仍覺と號し、勝境を歴遊して、風雅を事とし、財利置しきに至れども意とせず。紀行數種あり。永祿六年十二月薨す。年七十七。稱名院と號す。

キンカ 琴雅(高橋) 俳人。新日庵と號し、安政年間江戸に住す。

キンカ 金鵞(梅亭) 小說家。江戸の人。通稱瓜生熊三郎、名は政和。吾妻雄兎子、鷲渓隱士の號あり。後、圃々珍聞の記者となる。又狂歌を善くす。明治二十六年歿す。

キンガ 金峨(井上) 江戸の儒。名は立元。字は純卿、文平と稱す。別に考槃齋、柳塘閑人の號あり。觀瀾の子。川越藩、井上圖書等に學び、後、折衷學派を起す。天明四年六月十六日歿、年五十二。著、周易彙考、尚書髄字註、毛詩逸說、論語集說等。

ギンカ 吟霞 俳人。堀内氏。松風亭。仙恆の門。天明四年八月一日歿。年六十一。

キンカイ 金海 チユウジ(星田仲次)

キンカウ 錦江(成島) 徳川幕府の驛下。もと平井氏、成島道雪の嗣となり。道筑と稱す。名は鳳卿、字は歸徳、又子鵬、芙蓉道人の別號あり。父職を襲きて坊主たり。享保中、將軍に侍講す。寶曆十年歿す。集詳說、猿蓑注解等の著あり。

キンカウ 錦江 俳人。九世其日庵。馬場氏。七部あり。

キンカウ 錦紅 ケイリウ(藤田景龍) カウシラウ(四代松本幸四郎)

キンカウ 金江 享保中の俳人。

ギンカウ 銀岡(尾崎) 尾崎流書道の祖。名は敬孝、又廣安。字は玄儀、伴右衛門と稱す。天明六年五月歿。年五十七。

キンカウ 錦行(德田) 水戸の儒臣。字は子驥、五衛門と稱す。增子叔時に學ぶ。寛保二年史館總裁となり、明和八年十二月歿す。

ギンカウ 銀江 ゲンブン 玄文

ギンカウ 吟香(岸田) 作州津山の人。明治七年始めて新聞紙を東京に發行し、自ら主筆となる。東京日々新聞これなり。後專ら精錡水の販賣に從事す。東亞同文會の設立に發起する所あり。三十八年六月七日歿す。年七十三。

キンガク 琴壑(佐野) 岡田藩の儒臣。湯淺常山に學び、後林鵞峯の門人となる。名は元璋、字は世瑞、通稱大介。建議して數學館を設け、その教授に擧げらる。文化八年正月十四日歿す。

キンカゲ 公景(大江) 歌人。公成の子。單人正。元人頃の人。千載集の作家。

キンカゲ 公隆(藤原) 歌人。實明の子。大納言。玉葉、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンカタ 公方(惟宗) 明法博士。天曆中、檢非違使たり。當時の法律、概ね其の手に成る。又本朝月令を著す。

キンカタ 公賢(藤原) 左大臣實泰の子。後醍醐帝の龍絶廉子の腹父たるを以て、累進して從一位右大臣兼春宮傅となる。後又後光嚴院に事ふ。嘉慶二年薨ず。園太曆、皇代暦、歴代暦要鈔の著あり。續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンカズ 公數(洞院) 藤原氏。實泰の子。權大納言左近衛大將に至る。文明二年官を辭し、八年薨ず。

キンカズ 公量(藤原) 吉野朝の臣。實春の子。參議たり。康安元年卒す。年七十三。

キンカズ 公員(橘) 秋田景盛の一族。藤峯興一と稱す。寶治元年六月三浦の戰に死す。

キンカツ 公勝(藤原) 歌人。實俊の子。中納言。

キンカネ 公兼(藤原) 歌人。實俊の子。大納言。新後拾遺集の作家。

ギンカフ 銀甲(小川) 浦賀の俳人。通稱忠兵衛、後、十左衛門、又藤左衛門と改む。寛政二年正月十九日歿す。年七十三。

キンキチ 金吉(石井) 歩兵少佐。茨城縣人。日露の役、旅順攻圍軍に從ひ、明治三十七年十一月二十六日松樹山に戰死す。

ギンキチ 銀吉(清水) 陸軍二等軍吏。岡山縣出身。明治二十九年七月臺灣土匪討伐に際し、太平溝に戰死す。

キンキヨ 公清(佐竹) 季盛の子。上有智と號す。

キンキヨ 公清(佐藤) 公光の子。左衛門尉。

キンキヨ 公清(佐々木) 泰信の子。源三と稱す。

キンキヨノツマ 公清妻(藤原) 女歌人。風雅集の作家。

キンギヨ 琴魚(檠亭) 小說家。通稱殿村耕吉。名は道香。馬琴の門。伊勢松坂の人。天保二年十一月二十一日歿す。年四十四。

キンクワ 金華(平野) 守山侯の儒員。陸奥の人。通稱源右衛門。名は玄中。字は子和。徂徠に學び、家貧にして書籍を藏せず。享保十七年歿す。

キンクワザン 錦光山 陶工。通稱鍵屋 彌右衛門。小林氏。正保二年陶竈を洛東粟田口に開く。

キンクワウシヤ 錦光舍 リウセン(錦光山柳仙)

キンクワウダウ 金光堂 モリチカ(井上守親)

キンクワダウ 錦花堂 リワシ(北村隆志)

ギンクワダウ 吟花堂 バンザン(瓜木晩山)

キンクワバウ 槿花坊 ギヰン 祇尹

キンクワラウ 槿花翁 オニツラ 鬼貫

キンケイ 琴卿(川田) 儒者。名は資深。字は君潤、號に雄琴と號す。江戸の人。初め蒔田公に仕へ、後、大洲侯に仕ふ。

キンケイ 金溪(南川) 儒醫。名は維遷、字は士長、又次撲と號す。伊勢の人。荻野侯に聘せらる。

キンケイ 金溪 畫家。名は良敏。初め周文に學び、後、宋人牧溪の風を慕ふ。

キンケイ 金溪(奇々羅) 俳作者。初め醫を以て上野七日市侯に仕ふ。本名畑秀顯。字は溢雲。燕石樓、又觀要道人と號す。文化六年正月二十一日歿す。年四十三。

キンケイ 金鷄(關口) 江戸の書家。大觀流。名は興貞。字は行休、通稱嘉兵衛。上野の人。藤繁後、沙彌行休と號す。故ありて篠田姓を冒し、より、時人之を篠田大觀流と呼ぶ。寶曆十三年正月十九日歿す。年七十九。

キンケイ 琴溪(菊池) 詩家。名は保定、字は士固、通稱琢左衛門、晩に海莊と號す。紀州の人。明治十四年一月十六日東京に歿す。年八十三。著す所、秀餐樣集、琴溪山房集、海莊集等。

キンケイ 琴溪(中神) 醫。近江の人。名は元璋、字は世瑞、通稱大介。建議して數學館を設け、その教授に擧げらる。文化八年正月十四日歿す。

ギンケイ 銀鷄(畑) 醫。金龜の子。名は時貸、字は節烏、燕石樓と號す。狂歌狂文を善くす。青童書華の著あり。天保年間の人。

キンケン 琴軒 チクセキ(長町竹石)

キンコ 琴古(黑澤) (初世) 尺八の名手。江戸の人。明和八年四月二十三日歿す。(二世) 文化年間歿す。

キンコ 金吾(小野) 長藩の志士。名は資吉。慶應二年幕兵を防ぎて戰死す。年三十。贈從五位。

キンゴ 金吾(佐久間) 歩兵中尉。宮城縣出身。明治三十七年八月旅順に戰死す。贈從二位。

キンゴ 金吾(服部) 歩兵少尉。宮城縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十月樹城塞に戰死す。

キンゴラウ 金五郎(寶生) 謠樂脇方の名人。明治三十八年二月歿す。

キンゴラウ 琴後翁 ハルミ(村田春海)

キンサイ 勤齋(小龜) 京都の儒者。名は益美、字は叔華。

キンコ 金吾將軍 ヨリイヘ(源賴家)

キンゴシヤウグン 金吾中納言 ヒデアキ(小早川秀秋)

キンコト 公言(今出川) 勤王家。權中納言。竹内式部の事に坐して落飾を命ぜられ、松壽と號す。安永五年薨ず。贈從二位。

キンコク 金谷(石川) 大坎御門家の儒員。名は貞、字は大乙、通稱賴母。南宮大湫の門人。著す所、唐音唐詩、唐音脇差等。

キンコク 琴谷(杉山) 詩人。清の長子。名は筠、字は大成、通稱梨右衛門。別號觀堂、消夏樓。

ギンコク 銀谷 俳人。山崎氏。蘆月庵。初世小知(一家)の門。

キンコク 金谷(横井) 畫家。大津の人。嘉村に學びて其の風を得たり。中頃、名古屋に住す。

キンコク 金谷(狹生) 柳澤侯の文學。名は道濟、字は太樂。伊三郎と稱し、後惣右衛門と改む。徂徠の兄伯達の子。徂徠の女を娶りて其の後を繼ぎ、家譜を墜さず。安永五年九月二十九日歿、年七十四。著、洪範笠法、興邦服制、三器考草、樂律考證等。

キンコク 金谷(横井) 畫家。大津の人。嘉村に學びて其の風を得たり。中頃、名古屋に住す。

キンコク 金谷(石川) 大坎御門家の儒員。名は貞、字は大乙、通稱賴母。南宮大湫の門人。著す所、唐音唐詩、唐音脇差等。

キンコク 琴谷(杉山) 詩人。清の長子。名は筠、字は大成、通稱梨右衛門。別號觀堂、消夏樓。

ギンコク 銀谷 俳人。山崎氏。蘆月庵。初世小知(一家)の門。

キンゴシヤウグン 金吾將軍 ヨリイヘ(源賴家)

キンゴチユウナゴン 金吾中納言 ヒデアキ(小早川秀秋)

キンコト 公言(今出川) 勤王家。權中納言。竹内式部の事に坐して落飾を命ぜられ、松壽と號す。安永五年薨ず。贈從二位。

キンゴラウ 金五郎(寶生) 謠樂脇方の名人。明治三十八年二月歿す。

キンゴラウ 琴後翁 ハルミ(村田春海)

キンサイ 勤齋(小龜) 京都の儒者。名は益美、字は叔華。

キンゴ 金吾(瀨川) カウシラウ(四代松本幸四郎) 「寶曆頃の人。」

ギンコ 吟子 女歌人。幕府小姓組小濱吉之丞の母。

ギンゴ 銀吾(篠井) 歩兵大尉。石川縣出身。明治三十七八年戰役に從ひ、三十七年八月旅順に戰死す。

ギンコウ 吟口 江戸の俳人。夏目氏。成美の弟。

キンコク 金谷(狹生) 柳澤侯の文學。名は道濟、字は太樂。伊三郎と稱し、後惣右衛門と改む。徂徠の兄伯達の子。徂徠の女を娶りて其の後を繼ぎ、家譜を墜さず。安永五年九月二十九日歿、年七十四。著、洪範笠法、興邦服制、三器考草、樂律考證等。

キンサイ 勤齋(益田) 篆刻家。名は滂。字は萬頃、通稱重藏。江戸下谷に住す。文化年間の人。
キンサイ 勤齋 コレカネ(龜井茲監)
キンサイ 欽哉(隨朝) 儒者。下總高岡の人。名は達、字は子善。通稱揆一。若水の養子。朝川善庵の門。膳藩敎授に盡力し、後閑居、諸生を敎授し、明治二十六年六月十二日歿。年六十二。
キンサイ 欽齋(石井) 儒醫。通稱欽四郎、名は孝愛。川越藩士。安政年間江戸に住す。
キンサイ 欽齋(宮澤) 儒者。名は安重、幀夫と稱す。尾張の人。長島藩に仕ふ。安永六年歿す。年六十三。諸經傳講義の著あり。
キンサイ 謹齋(平元) 出羽の儒者。秋田藩に仕ふ。名は淸、字は恒卿。明治九年歿す。二十二史類覽、周易考等の著あり。
キンサイ 琴齋 カトウ(十寸見河東)
キンサイテイ 欽哉亭 シユントク(林春德)
キンザウ 金藏(牧之瀨) 海軍機關士。鹿兒島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年九月十八日旅順口外に戰死す。
キンザウ 金藏 ガイザン(安井益山)
キンザウ 金造(河村) 歩兵少尉。新潟縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、十月十三日盛京省揚城寨附近に戰死す。
キンザウ 金造(廣瀨) 歩兵中尉。愛知縣出身。征臺の役に從ひ、明治三十九年五月病死す。
キンザウ 近藏(大橋) 歩兵少尉。愛知縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、八月三十一日盛京省首山堡附近に戰死す。
ギンザウ 銀藏 ダンザウ(七代市川團藏)
キンサク 勤作(森) 福岡藩の志士。名は通寧。慶應元年藩議により自刄を命ぜらる。年三十五。明治三十五年贈正五位。
キンサク 金作(山下) (初代)大阪の俳優。李江と號す。初名山下文五郎。山下又四郎の門人。二世又四郎と號す。女形の名人。寛延三年七月二日歿。(二代)初代の養子。初め中村半太夫と稱す。大阪の人。里紅と號す。寛政十一年九月十三日歿、年六十七。(三代)初名芳澤太郎。明和中の人。(四代)初名嵐三藏、又三勝。安政中の人。
キンサク 金策(千屋) 勤王家。名は孝成。土佐の人。醫を緒方洪庵に學ぶ。慶應三年山陰遊說の際、美作の守兵と鬪ひて自刄す。年二十三。贈正五位。
キンサダ 公定(洞院) 藤原氏。內大臣實夏の子。從一位左大臣。應永六年薙髮して元貞といひ、即日薨ず。謚して後中園と稱す。尊卑分脈を編む。
キンサダ 公定(藤原) 權中納言經家の子。政務に練達し、又笙を善くす。備前美作權守、皇太后宮權太夫を兼ね、康和元年薨ず。
キンサダ 公貞(後藤) 公則の子。信濃守。
キンサト 公鄕(阿曾沼) 公綱の子。八郎。
キンザネ 公實(藤原) 歌人。實季の子。大納言に任ぜらる。續拾遺、金葉、詞花、千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。
キンザネ 公誠(平) 歌人。元平の子。周防守。寛弘年間の人。拾遺集及び詞花集の作家。
キンザブラウ 金三郎(都筑) 志士。名は峯重。江戸幕府の與力斧次郎の養子。朝幕の間に介して苦心焦慮す。佐渡奉行、浦賀奉行に歷任し、安政五年歿。
キンザブラウ 金三郎(伊藤) 歩兵大尉。東京府の人。明治三十七年日露戰役に從ひ、九月二十日盛京省太平溝東南高地に戰死す。
キンザブラウ 金三郎(淺羽) 海軍大佐。舊幕臣幸勝の次男。明治三十七年日露戰役に從ひ、平遠艦長となり、九月十八日鳩海出動中、敵の水雷に觸れ、艦と共に歿す。年四十四。
キンザブラウ 金三郎 マサヲ(杉山正夫)
ギンザブラウ 銀三郎(江口) 歩兵中尉。愛知縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年八月病死す。
キンザエモン 金左衛門(高畑) 加賀の物產家。元文二年片山傳右衛門と加賀國產物志を著す。
キンザエモンノジヨウ 金左衛門尉 ナガハル(小笠原長治)
キンザン 琴山 チンジユ(村井椿壽)
キンザン 金山(靑木) 儒者。名は督輔、字は士條。佐渡の人。山本北山の門。文政元年九月九日歿す。年三十八。著す所、山林餘響。
キンザン 金山 大和千手院派の刀匠。弘長頃の人。
キンザン 金山 山城三條の刀匠。吉家を見よ。
キンジ 金次(加藤) 歩兵大尉。山形縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、十一月旅順赤坂山に戰死す。
キンジ 錦二(三浦) 江戸の小說家。一名白雲洞山人。或は曰ふ畜工芳政の匿名なりと。天保中の人。
キンジ 錦次(瀨川) カウシラウ(四代松本幸四郎)
ギンシ 銀獅 安永天明の俳人。京都に住す。
ギンシ 吟市 (初世)俳僧。安住院の住職。尊瀧和尙。季吟の門。天和年間歿す。(二世)津久見氏。江戸の人。初世の門。「衛門。弘化頃の人。
ギンシ 吟糸(渡邊) 越後小千谷の俳人。通稱治左
キンシウ 金秋(林) 陸軍三等軍吏。兵庫縣出身。

日清の役に從ひ、二十八年病死す。
キンシウ 琴洲 俳人。相良氏。通稱周右衛門。
キンシウ 琴洲 ヨシノ(榊原芳野)
キンシゲ 公茂(藤原) 太政大臣實重の子。文保元年內大臣となり、正中元年薨ず。押小路と稱す。續千載集及び新千載集の作家。
キンシゲ 公茂(城島) 勤王家。豐前英彥山座主の家人。一山の擧に加りて捕へられ、慶應元年牢死す。明治二十四年贈從五位。
キンシゲ 公重(藤原) 歌人。通季の子。少將。永萬年間の人。詞花、千載、新勅撰、風雅諸集の作家。
キンシゲ 公重(藤原) 竹林院前內大臣と稱す。實衡の子。風雅、新拾遺、新續古今諸集の作家。
キンシゲ 公重(高松) 歩兵少佐。東京の人。日露戰爭に從ひ、明治三十七年七月二十六日戰死す。
キンシ ナイシンワウ 欣子內親王 後醍醐帝の皇女。續後撰、風雅、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。
キンジフラウ 金十郎(梅村) 工兵少佐。埼玉縣人。臺灣總督府陸軍局在職中、病に罹り、明治二十九年十二月歿す。
キンジフラウ 金十郎(保田) 歩兵少佐。岡山縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年八月三十日盛京省水泉附近に戰死す。
キンシヤ 芹舍 俳人。八木氏。件木園。蒼知の門。明治二十三年一月二十三日歿。年八十六。
キンシヤ 巾車 江戸の俳人。初世桃翁の門。
キンジヤウ 金城(米谷) 儒者。伏見に住す。名は寅、字は一虎、通稱次郎。桃郎、また似月堂と號す。文政七年五月十七日歿す。年六十七。
キンジヤウ 金城(長崎) 弘前藩の儒臣。名は弼、字は子直、慶助と稱す。文政中、昌平黌に入りて齋長たり。安政中、藩主及び嗣子の侍講となる。
キンジヤウ 錦城(細井) 書家。名は知雄。通稱文右衛門。廣澤の孫。江戸に住し、文化五年歿す。年五十七。
キンジヤウ 錦城(太田) 儒者。名は元貞、字は公幹。才佐と稱す。加賀大聖寺の人。老中吉田侯及び、加賀侯に仕ふ。文政八年四月二十三日江戸に歿す。年六十一。著、周易詳說、尚書精義、詩講義、毛詩六義考、左傳杜解料謬、九經談等。
キンジヤウ 琴城 ハンチ(岩本範治)
キンジヤウテイ 錦章亭 イツガ(水谷逸雅)
キンジヤク 欽若 セイケイ(山本淸溪)
キンシヨ 琴所(澤村) 儒者。名は維顯。字は伯陽。通稱九內(一に宮內)。世々彥根侯に仕ふ。伊藤東涯に從學し、又、物徂徠の書を得て復古の學を修む。元文四年正月九日歿す。年五十四。
キンシヨ 琴諸 ギトウ(柴田義董)
キンシヨ 琴書 スヱシゲ(久保季茲)
キンシヨ 錦所 モチブミ(山田以文)
キンシヨウ 琴松 俳人。如囊架。初世琴風の門。
キンシヨウ 錦舛(市川) カウシラウ(五代六代松本幸四郎)
ギンシヨウ 吟松 俳人。中村氏。花月庵。淡々の門。享延二年歿。
キンシラウ 金四郎(湖出) 長唄の名人。市十郎の父。元祿中歿す。
キンシラウ 金四郎(石川) 水戸藩士。文久元年五月二十八日夜、山崎信之介等と品川東禪寺の英人館を襲ひて捕へられ、翌年八月十七日江戸の獄中に病死す。
キンジラウ 金次郎(杉浦) 水戸の臣。江戸の人。名は利貞。後、通稱を弘作と改む。因循先生と稱す。元文五年六月隱居、江戸深川に住す。
キンジラウ 金次郎(北村) 拜書家。劇場の背景を畫き、新派劇大道具の刷新を圖る。明治四十一年四月六日歿す。年二十七。
キンジラウ 金次郎(荒井) 天保時代の小說家。相模の人。千客亭柏琳と稱す。
キンジラウ 金次郎(伊賀) 歩兵中尉。愛媛縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年八月九日盛京省大孤山の戰に傷き、翌日歿す。
キンジラウ 金次郎(萩谷) 水戸の志士。名は昌知。武田伊賀の擧に加り、慶應元年斬らる。年二十七。贈從五位。
キンジラウ 金次郎 ソントク 尊德(二宮)
キンジラウ 欣二郎(佐藤) 歩兵少尉。新潟縣出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十八年三月盛京省達子堡附近に負傷して歿す。
キンスケ 公助(下毛野) 孝子。藤原兼家の從臣。武則の子。右近の馬場に賭射して勝たず。父怒って撻つ。伏して之を受け、父の力弱りたるを歎く。
キンスケ 公助(藤原) 伊賀守公季の男。三河守。續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。
キンスケ 公相(藤原) 實氏の子。弘長元年太政大臣に任じ、文永四年薨ず。冷泉と稱す。
キンスケ 金助(太田) 歩兵少尉。三重縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月七日盛京省李官堡に戰死す。
キンスケ 公輔(唐橋) 在濟の子。式部大輔に任ぜらる。仁治頃の人。
キンスケ 公輔(河本) 國學者。もと三宅氏。備前

岡山の人。天保三年六月十八日歿す。年五十八。

キンスケ 公扶(伊那) 爲扶の子。林源太と稱す。

キンスミ 公澄(佐藤) 公簡の子。帶刀太夫。

キンスヰ 金水(關口) 儒者。名は貫。字は士幸。武藏生麥村の人。

キンスヰ 金水(松亭) 江戸の戯作者。中村氏。名は保定(一に輔年に作る)。通稱源八。別號猿窓道人。文久二年十二月十二日歿す。年六十六。

キンスヰ 琴水 俳人。止々齋。初世宗瑞の門。

キンスヰ 芹水(平尾) 彦根の儒者。名は義。字は子益、路卿、辨次郎と稱す。又獨樂齋の號あり。閑居自適、諷咏自ら娯む。雨夜の燈、國語考等の著あり。天保八年歿す。

キンスヰ 錦水(二宮) 岩國藩の儒。名は子容。龜井昭陽、松崎慊堂に學び、藩の督學に擧げらる。殊に三禮に精し。明治七年歿す。

キンスヰ 錦水 俳人。梅人の門。

キンスヰ ヒカル(井上光) **ウンアン**(秋吉雲庵)**ヨシカタ**(稻垣義方) 俳人。

キンスエ 公季(藤原) 閑院家の始祖。右大臣師輔の子。治安元年太政大臣に任じ、牛車を允さる。長元二年薨ず。甲斐公に追封し、仁義と諡す。

キンスエ 公季(伊賀) 木工頭。公光の子。

ギンセキ 吟石 俳人。山田氏。井龜軒。檢石の門。

キンセツ 襟雪 岐阜の俳人。元祿頃の人。蕉門。

キンセツ 吟雪 **フサノブ**(富川房信)

ギンセツアン 吟雪菴 **レウカン**(三宅丁閑)

キンセン 錦川(仁科) 江戸の畜人。通稱吳平。名は盛、字は子明、後琴浦と改む。文化十一年歿す。

キンセン 錦川 江戸の俳人。珪山の門。

キンセン 錦川(三宅) 津藩の儒臣。名は昌綏、字は君靜。天保六年歿す。年六十五。

キキセン 琴川 **マサモト**(杉浦正職)

キンソン 錦村(青木) 儒者。通稱敬藏。名は先孝。字は思孝。明治七年五月十五日歿す。年五十八。

キンタ 金太植木屋) 江戸の植物家。文政十年草壽助と號す。

キンタ 金太(植木屋) 木奇品家雅見を著す。

キンタイ 琴臺(山内) 毛利廣規の次子。名は廣邑、字は士英。山内氏の養子となる。物氏の學を崇ぶ。延享三年歿す。年二十三。

キンタイ 琴臺(山下) 畜家。名は蘇謙、字は子益、五竹と號す。通稱謙藏。文化年間の人。

キンタイ 琴臺(東條) 江戸の儒者。文左衛門と稱す。先哲叢談續篇、儒林小史、近藤遠志等の著あり。高田藩神原侯に聘せられ、明治の初年龜戸神社の祠官となる。十一年九月歿す。

キンタイ 琴臺 ジンリ(佐々木仁里)

キンタイ 琴臺(諸葛) 儒者。名は龜。字は君調、實髮山人と號し、次郎太夫と稱す。下野の人。上野輪王寺宮の侍讀たり。又姬路侯に仕ふ。晩も廢黜の學に精し。律曆全編、奚齋收藏、讀騷語、大學考、墨子箋、古碑考等の著あり。文化七年十一月十七日歿。年六十三。

キンタイ 銀臺 シヲカタ(細川重賢)

キンタイシヤ 錦袋舍 **ホクサイ**(葛飾北齋)

キンタイフ 金太夫(渡邊) 武田氏の臣。天正十年三月信濃高遠に戰死す。

キンタイフ 金太夫(高畑) 居合の名手。名は信安。龜井藩士。享保頃の人。

キンタイフ 金太夫 **サダノリ**(堀貞則) 漢學者。成島司直の門。蕃書調所、昌平黌の教授。明治三十三年四月十三日歿す。

キンタウ 琴堂 天明頃の俳人。

キンタウ 欣堂 江戸の小說家。尚栗樓、本饒山人、又欣堂山人と號す。又謠曲を善くし、天保三年賣田壽助と號す。九年二月十九日歿す。年四十二。

キンタウ 欽堂(戶田) 大垣侯の三子。分家阿波守の家を嗣ぎ、放逸、遊を破り、著作を生業とし、明治二十三年八月歿す。

キンタウ 謙堂 **サケイ**(古賀茶溪)

キンタカ 公孝(藤原) 實基の子。太政大臣に進む。後燕大寺と稱す。嘉元三年薨ず。新後撰、玉葉、續千載諸集の作家。

キンタカ 公高(巨勢) 巨勢派の畜人。一に金高に作る。佛像人物をまとす。

キンタカノムスメ 公孝女(藤原) 女歌人。玉葉、後拾小路と稱す。新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンタダ 公忠(源) 歌人。大藏卿國紀の二男。字多帝の皇孫。延喜十一年昇殿を許され、後、辨官に進み、蔵井辨と稱す。後撰、拾遺、新古今、新勅撰、續後撰、玉葉、新千載、續後拾遺、新千載、新續古今諸集の作家。

キンタダ 公忠(巨勢) 畜家。巨勢氏の第三世。相見の子。天暦中の人。來女正に任ぜらる。

キンタダ 公忠(三統) 歌人。大外記に任ぜらる。天慶頃の人。後撰集及び續後拾遺集の作家。

キンタネ 公嵐(藤原) 實淳の子。左大臣。後野宮と稱す。大永六年出家、蘇穢と稱し、同年薨ず。

キンタネ 公種(藤原) 歌人。實名の子。大納言。新續古今集の作家。

キンタフ 公任(藤原) 關白賴忠の長子。詩歌音樂長ぜざるなし。正二位大納言兼按察使に至る。世に四條大納言と稱す。晩年祝髮して僧となる。北山鈔、新撰髓腦、和漢朗詠集の著あり。長久二年薨ず。年七十六。拾遺、後拾遺、詞花、千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新後撰、續古今、續拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンチ 錦治(中山) 步兵少尉。佐賀縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月首山堡に戰死す。

キンチ 金治(衞藤) 步兵少佐。大分縣人。日露戰役に從ひ、二〇三高地に負傷し、明治三十七年十二月一日歿す。

キンヂ 金治(篠田) **ゴヘイ**(並木五瓶)

ギンヂ 銀治(岡田) 騎兵少尉。東京府人。日露戰役に從ひ、明治三十八年十月二日戰死す。

キンチカ 公親(藤原) 實親の子。弘長元年內大臣に任ぜらる。後三條と稱し、劇髮して白川入道と云ふ。續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。

キンチヤウケン 錦頂軒 **ブンリウ**(錦文流)

キンヂユウラウ 金重郎(會澤) 步兵中尉。奘城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十一月二十六日旅順松樹山に戰死す。

キンツグ 公繼(藤原) 左大臣實定の三子。元仁中、從一位左大臣に進み、安貞元年薨ず。野宮と稱す。新古今、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。

キンツグ 公繼(藤原) 內大臣實宗の子。その妻賴朝の長ぜざるなし。正二位大納言兼按察使に至る。世に四條大納言と稱す。晩年祝髮して僧となる。北山鈔、新撰髓腦、和漢朗詠集の著あり。長久二年薨ず。年七十六。拾遺、後拾遺、詞花、千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新後撰、續古今、續拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンツグ 公貫(坂部) 國學者。本居大平の門。通稱鵜太夫。紀伊和歌山の人。

キンツラ 公連(洞院) 西園寺實遠の子。實遠公數ふ。續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。

キンツラ 公連(正親町) 季秀六世の孫。狂歌を善くす。豐元天皇の時の人。

キンツラ 公貫(坂部) 國學者。本居大平の門。通稱鵜太夫。紀伊和歌山の人。

キンヅン 芹田 **ノリト**(毛利登人)

キンドウ 金洞 俳人。木村氏。初世小知の門。

キンドウ 金洞 詩僧。名は智仙。安政年間、江戸谷中長善寺に住す。

キンツナ 公綱(源) 宗綱の子。伊豆守。

キンツナ 公綱(馬淵) 佐々木氏。實定の五男。五郎と稱す。

キンツネ 公經(藤原) 內大臣實宗の子。その妻賴朝の一位太政大臣に叙任し、劇變して名を覺勝と更め、寬元二年薨ず。西園寺、又、今出川と稱し、時人、新檜大將といふ。新古今、新勅撰、續後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンツネ 公經(藤原) 太宰帥重尹の子。實は宮內少輔成尹の子。尤も琵琶を巧にし吟詠を事とす。主殿頭兼河內守たり。康和元年卒す。後拾遺集の作家。

キンツネ 公弊(伊藤) 國學者。通稱平右衞門。名古屋の人。寬政元年本居宣長の門に入る。

キンツム 公積(正親町三條) 勤王家。權中納言たり。竹內式部の事に關し、落飾を命ぜられ、杯水と號し、安永六年六月薨ず。明治二十四年贈從一位。

キンツラ 公連(洞院) 西園寺實遠の子。實遠公數ふ。續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。

キンツラ 公知(中村) 實大村藩士。實稱毅齋、又知一郎、悟堂と號す。慶應元年藩命を受けて京都に出で、國事に奔走。維新後、判事に歷任し、明治三十八年歿す。年六十五。

キントキ 公時(藤原) 歌人。實綱の子。大納言。新拾遺集及び新續古今集の作家。

キントキ 公時(藤原) 歌人。實國の子。中納言。千載、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キントキ 公時(坂田) 源賴光の臣。相模足柄山に生れ、主馬佐と稱す。實力あり。

キントキ 公時(北條) 時章の子。左近太夫たり。文永九年叛きて殲死す。

キントキ 金時(池田) 京師の町奉行。嘗て大災の後、米價既に低落せしに、森商要相謀りて遞價を減ぜず。金時其の魁首の家に至り、之を斬る。寬政元年七月任滿ちて江戸に歸る。

キントシ 公敏(藤原) 歌人。實泰の二子。大納言たり。元弘元年八月笠置山に供奉し、十月出家、法名宗蜜、時に年四十。續千載、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キントシ 公俊(藤原) 實時の子。太政大臣たり。後野宮と稱す。新續古今集の作家。

キントモ 公朝(藤原) 實宣の子。左大臣。慈光寺と號し、天正十八年薨ず。

キントモ 公知(中村) 實大村藩士。實稱毅齋、又知一郎、悟堂と號す。慶應元年藩命を受けて京都に出で、國事に奔走。維新後、判事に歷任し、明治三十八年歿す。年六十五。

キントモ 公知(姉小路) 勤王家。右少將に任ず。攘夷を決行せんとし、詔を受けて近畿の海防を巡視す。偶幕臣勝安芳に兵庫に會し、海防の容易の業にあらざるを聞き、歸りて復命す。時人に惡まれ、文久三年五月二十日獄ケ辻に刺さる。幾ばくもなくして薨ず。年三十。明治二十九年正二位を贈らる。

キントヨ 公豊(藤原) 稱名院内大臣と稱す。實綱の子。新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キントンキヨ 金曉居 クワザン(渡邊崋山) 名は真武、字は子安、通稱小兵衛。三世琴風の門。

キンナ 公名(藤原) 實永の子。太政大臣。新續古今集の作家。

キンナカ 公中(數見) 國學者。通稱秀次郎。紀伊和歌山の人。寛政十一年本居宣長の門に入る。

キンナガ 公長(大中臣) 歌人。公定の子。從二位に叙せらる。金葉集の作家。

キンナリ 公成(藤原) 中納言實成の子。權中納言に至る。後拾遺集及び金葉集の作家。

ギンニヨ 闇如 越前松樹院の僧。佛學に精し。文化元年二月二十五日寂す。年七十五。

キンノジヨウ 錦之丞 ヨシナガ(松平慶永) 後拾遺集の作家。

ギンノスケ 銀之助 カクダウ(松平確堂)

キンノブ 公信(藤原) 歌人。弘光の子。中納言。

キンノブ 公信(源) 歌人。五位。新拾遺集の作家。

キンノブ 金信(德大寺) 實久の子。從二位左大臣に至る。後光明天皇の酒宴を過させ給ふを諫めて、御劍を賜はる。延寶三年落飾して淨覺と稱す。天和元年七月薨ず。

「の軍に戰死す。

キンノブ 公信(泉) 公衡の子。六郎と稱す。和田

キンノリ 公敎(藤原) 太政大臣實行の長子。雅量あり。寛保元二年内大臣に拜し、永曆元年薨ず。金葉、詞花、千載、續後撰、續拾遺諸集の作家。

キンノリノハハ 公敎母(藤原) 女歌人。後三條内大臣の母。藤原顯季の女。金葉集の作家。

キンノリノムスメ 公敎女(藤原) 女歌人。玉葉集の作家。

キンパ 芥坡(田中) 詩文家。近江彦根の人。名は榮、通稱秀次郎、中川驛の門。明治十五年歿す。年六十八。

キンパチラウ 金八郎(志賀) 徳川幕府の奥右筆より屠張、水戸、越前三侯の罪案を糾すことを命ぜられ、應ぜずして自刃す。

キンヒデ 公秀(藤原) 實躬の子。内大臣。入條入道と稱す。新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

キンヒラ 公衡(藤原) 太政大臣實兼の子。延應二年左大臣となり、慶長四年薨ず。竹林院と稱す。玉葉、風雅、新續古今諸集の作家。

キンヒラ 公衡(藤原) 歌人。公能の子。從三位に叙せらる。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、新拾遺、新續古今諸集の作家。

キンヒロ 公廣(坂戸) 則明の子。左衞門尉。

キンヒロ 公廣(西園寺) 實清の子。左衞門太郎と稱す。毛利元就に降り、天正十年遂に亡ぶ。

キンヒロ 公燃(唐橋) 在親の子。從三位。康曆三年落飾して淨覺と稱す。

「の軍に戰死す。

キンフ 欽文 トシヒロ(堀利熙) 徳川幕府の奥右筆より屠張、水戸、越前三侯の罪案を糾すことを命ぜられ、應ぜずして自刃す。

キンフン 欽文 金平佐々 名は真武、通稱小兵衛。三世琴風の門。

キンプウ 琴風 俳人。柳川氏。白鷗堂。芭蕉の門。享保十一年二月七日歿す。爪作の著あり。

キンプウ 金風 〔一世〕俳人。二世琴風の門。〔二世〕篠田氏。通稱小兵衛。琴風の門。〔三世〕篠田氏。小兵衛。二世琴風の門。

キンフサ 公房(藤原) 經宗の子。建長元年薨ず。

キンフミ 公文(石山) 醫。字は章卿、瀛洲、又鵜東庵と號す。近江の人。詩歌文章に通ず。年六十六。著、各醫按逕、鍼灸醫談、鍼話術、鵜東詩文稿等。

キンブミ 公文(黑川) 國學者。本居大平の門。通稱彦右衞門。伊勢四日市の人。

キンフユ 公冬(三條) 實冬の子。右大臣に至り、後、剃髮して後白河入道と號す。

キンペイ 金平佐々 久留米藩の勤王家。名は真武、茂民の役、官軍に從ひ、北海道立野石に戰死す。年二十五。贈正五位。

ギンペイ 銀平(津島) 歩兵大尉。山梨縣人。日露戰役に從ひ、明治三十九年一月病歿す。

キンペヱ 金兵衛(小西) 實曆明和頃の人。蕉門志手原村に陶窯を開きて、志手原燒を創む。

キンボ 琴浦(里川) 尺八の名手。文化十三年六月二十一日歿す。

キンボ 琴浦 キンセン(仁科錦川)

キンボウ 金峯(田中) 大阪の儒者。幸城の子、名は樂美、通稱右馬三郎。文久二年六月二十八日歿す。年十九。

「稱金次郎。玄光亭と號す。

キンボク 金墨 江戸の小說家。文政時代の人。通稱

キンマウ 金毛 俳人。芳澤氏。言水の門。方設、芳充翁の號あり。延享三年十一月二十六日歿。年八十。海音集の著あり。

キンマサ 公雅(藤原) 紹宏院贈内大臣と稱す。實豊の子。新續古今集の作家。

キンミチ 公通(藤原) 歌人。通季の子。大納言。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續拾遺、玉葉、新拾遺諸集の作家。

キンミチ 公通(正親町) 從一位大納言たり。晩年書を好み、白玉翁、又風水軒と號す。享保十八年七月十二日薨ず。年八十一。

キンミチ 公道 照本藩の刀匠、荻氏。嘉永年間。

キンミツ 公光(藤原) 歌人。季成の子。中納言。

キンミツ 公光(藤原) 後白川院前右大臣と稱す。實季の子。新續古今の作家。

キンムネ 公宗(藤原) 内大臣實衡の子。その先、公經以來、北條氏と結びて權勢を專にす。北條氏滅ぶるに及んで、當時の弟泰家を推して、亂を作さしめ、又帝を錦室に弑せんと計る。事露れ、出雲に流さる。發するに望み、名和長年に誅せらる。續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後撰、新後拾遺諸集の作家。

キンムネ 公宗(藤原) 歌人。實雄の子。中納言に任ぜらる。續古今集及び玉葉集の作家。

キンムネノハハ 公宗母(藤原)カスガ 春日

キンムネノムスメ 公宗女(藤原) 女歌人。風雅集及び新千載集の作家。

キンムラ 公城(德大寺) 勤王家。權中納言たり。竹内式部の事に坐して、寶曆十年落飾を命ぜられ、櫛渓と號し、天明二年薨ず。年五十三。明治二十四年贈從一位。

キンメイ 均明 大阪の俳人。通稱遠屋源右衞門。宗因の門。櫻千句の著あり。

キンメイ テンワウ 欽明天皇 諱は天國排開廣庭。實化天皇の第。母は手白香皇后。在位三十三年。壽六十二。

キンモチ 公望(巨勢) 書家。巨勢家の第四世。公忠の門。天元中の人。遣唐正使に任ぜらる。

キンモト 公基(藤原) 太政大臣實氏の子。文永十一年薨ず。京極右大臣、又萬里小路右大臣と稱す。續後撰、續拾遺、新後撰、玉葉諸集の作家。

キンモト 公幹(深谷) 歌人。冷泉家の門。通稱一郎右衞門。田沼玉霞頭の臣。寶曆頃の人。

キンモリ 公守 藤原) 左大臣實雄の子。正安元年太政大臣となる。山本と稱す。續拾遺、新後撰、續千載、新拾遺、風雅、新千載、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンヨシ 公眞 唐橋) 公輔の養子。式部權大輔。文應元年薨ず。年六十六。

キンヨシ 公義(北條) 泰時の末子。後に出家す。

キンヨシ 公義(藥師寺) 高師直の臣。橋顯隆の子。正平中、薙髮して元可と號し、高野に入る。又和歌を善くす。新千載、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンヨシ 公能(藤原) 實綱の子。大炊御門と稱す。永曆元年右大臣 任ず。應保元年薨ず。詞花、千載、新古今、新勅撰、續後撰、新後撰、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

キンヨシ 公熙(滋野井) 歌人。天明元年九月七日卒す。年四十九。

キンヨシ 公資(大江) 歌人。清公の子。兵部大輔に任ぜらる。長久元年卒す。後拾遺、金葉、千載、諸集の作家。

キンヨリ 公賴(唐橋) 公氏の子。刑部大輔。

キンヨリ 公賴(細川) 俊氏の長子。入郎と稱す。正平頃の人。

キンヨリ 公賴(橘) 歌人。廣相の子。中納言。天慶二年薨ず。年六十五。後撰集及び新勅撰集の作家。

キンヨリ 公賴(山家) 通稱清兵衞。初め伊達政宗の臣なりしが、其の男秀宗の宇和島に封ぜらるるに當り、其の老職に任ず。好臣大橋右膳等の讒に因り、元和六年六月三十日暗殺せらる。年四十二。秀宗其の忠を追懷し、神に祀る。

キンラ 金羅(夜雪庵) 〔一世〕俳人。燕村の門。篠崎氏。〔二世〕東氏。蛾眉山人。機川の門。寛政六年正月五日歿。〔三世〕近藤氏。慶應三年十二月二十七日歿。年六十九。〔四世〕通稱近藤榮次郎。三世金羅の門。明治二十七年十月三日歿。年六十五。

キンラチ 金埒(馬場) 江戸の狂歌師。家號錢屋。俗に大阪屋其兵衛と稱す。又蘭洲樓の號あり。四方側狂歌四天王の一人。文化四年歿す。

キンリ 錦里(伊藤) 越前侯の儒臣。名は精、字は若夏、通稱莊次郎、又鳳陽と號す。平安の人。龍洲の子。安永元年三月九日歿す。年六十三。著、遯翠館集、尊山草、尊海草等。

キンリ 錦里 **ジュンアン(木下順庵)**

キンリュウサンジン 金龍山人 **シュンス井** 春水 **シンロテイ** 振鷺亭

キンリヨウ 金陵(金子) 江戸の畫人。名は允圭。字は君璋、日南亭と號す。谷文晁の門人。文化十四年二月九日歿す。

キンリヨウ 金陵(芳野) 儒者。名は世育、字は叔果、又龍宇と號す。通稱愚三郎、後、立藏と更む。下總の人。父を南山といふ。龜田鵬溯に學ぶ。弘化四年田中藩本多侯に仕ふ。文久二年昌平黌の儒員となり、兩番上次に班す。明治の初年、中博士に進む。明治十一年八月五日歿す。年七十七。

キンリヨウ 金龍 畫人。狩野元信に學ぶ。

キンリン 金麟(兒玉) 儒者。名は利貞、字は宗因、又梅庵と號す。薩摩の人。藩侯光久及び綱貴の侍讀たり。梅花百詠世に行はる。

キンリンシ 錦隣子 **ベイセン(久保田米僊)**

キンレイ 琴嶺 俳人。關氏。平安園、桐窓、昔々庵。四世一漁の門。

キンレイ 琴嶺(瀧澤) 松前侯の醫員。馬琴の子。天保六年五月歿す。年三十八。

キンレイ 琴嶺(佐野) 岡田藩の儒者。神吉主膳、安積艮齋に學ぶ。晉慶の孫。名は元方、字は子順、通稱小助、敬學館の教授たり。萬延二年二月歿す。

キンレイ 金嶺(西村) 畫人。藍江に學びて、山水人物を善くす。

キンレイシャ 金嶺 **チカゼ(紀千風)**

キンレイシャ 金令舍 **ミチヒコ(鈴木道彦)**

キンロ 琴驢(岡島) 江戸の小說家。名は長盆。字は哲甫、竹の家、又丹舍と稱す。通稱芳右衞門。幕士近藤金之丞の臣。琴を以て侯に從ひ、岡三島(一に山島)といふ。又狂歌を能くす。

キンロギヤウジヤ 近路行者 **テイショウ(都賀庭鐘)**

キンロク 金六(三穗) 水戸の志士。名は弘光、變名山形半六。田丸直允に薦して捕へられ、慶應元年斬らる。年二十二。贈從五位。

キンエモン 金右衞門(野中) 造林家。鼓肥藩士。寬政八年植木方となり、弘化二年に至る間、杉樹の栽培百二十餘萬本に及ぶ。

キンエモン 金右衞門 **カネヒデ(岡野包秀)**

ホクケイ(岩鵜北溪)

キンヲサ 公脩(藤原) 歌人。實敬の子。中納言に任ぜらる。擣千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新古今諸集の作家。

く

クアン 愚庵 畫家。牧溪の風を學ぶ。

グアン 愚庵 僧。俗名天田五郎。鐵眼と稱す。磐城國平の人。京都清水、伏見桃山に居り、明治三十七年一月十七日病歿す。年五十一。

クイチ 矩一(後藤) 步兵中尉。山口縣出身。日露戰役に出征し、明治三十八年三月奉天に戰死す。

クイチ 九市(片山) **アイスケ(木村愛之助)**

クイチ 九市(入江) 長州藩士。名は弘毅。一に兒玉百之介と稱す。元治の擧、敵彈に中りて斃る。

クイチ 九一(內田) 寫眞師。名は重。長崎の人。明治八年二月歿す。年三十二。

クイチ 九一(百濟) 砲兵大尉。山口縣出身。日露役に從ひ、明治三十七年八月二十二日旅順に戰死。

クウア 空阿 俳人。瓢壺店。蠡村の門。

クウア 空阿 俳人。利濟庵。蓉也堂。士朗の門。

クウア 空阿 **チゲツ** 遲月

クウアン 空菴(松本) 醫師。名は濟、次郎と稱す。玉翁の子。白井曦庵に學び、名を折九と改む。叔母の緣故を以て大文通佛院瑞柱の家を嗣ぎ、後島津家久に聘せられ、全庵と改む。更に永井直濟に知られ、雄州高視に赴き、蠡庵と號し、又氏を森と改む。醫元に見え、奈庵性善といふ。延寶六年二月四日歿。年七十七。

グウイ 竭夷 **シス井(秋元子帥)**

クウオウ 空應 **トキモチ(町尻說望)**

クウカイ 空海 高僧。佐伯氏。讚岐多度津郡の人。父は田公、母は阿刀氏。入唐して慧果阿闍梨に見え、其の敎を受く。弘仁七年高野山に金剛峯寺を建て、承和二年三月二十一日寂す。年六十二。延喜二十一年弘法大師の號を贈らる。性靈集、文鏡秘府論の外佛敎に關する、著作甚だ多し。新勅撰、新千載、風雅諸集の作家。

クウカイ 空海 茶人。眞能の門。或は曰く眞相に從ふと。通稱右近。後其の法を荒木道陳に傳ふ。俗に呼びて大師といふ。

クウクウ 空々(宿谷) 琴の名人。名は愼、字は默甫、喜太郎と稱す。江戸の人。田安家の士。幸田親益に從ひて越師の琴法を受け、蘭室と名を齊しうす。文化八年七月二十一日歿。年七十七。

クウクウアン 空々菴 **チキ** 智暉

グウクウワイダウ 寓繪堂 **クワザン(渡邊崋山)**

クウクワウ 空光 仁明天皇時代。畫工。殊に佛像を善くす。

クウゲ 空花 盲詩人。大羅侍郎の門。下野の人。下野を氏とす。江戶に出で按摩を業とす。

クウゲウ 空曉 歌僧。新拾遺集の作家。

グウゲンダウ 寓言堂 **ミチカゼ** 三千風

クウコク 空谷 **ミヤウオウ** 明應

クウザン 空山 **サダヒラ(矢部定衡)**

クウシ 空子 **ダンセイ** 元政

クウシヤウ ホフシンワウ 空性法親王 大覺寺の門主。伏見院の第二子。母は藤原秀子。天正十六年誕生して法親王となり、瑞龍と號す。慶安三年八月薨ず。年七十八。

クウシン 空心 **ケイチユウ** 契沖

クウスイ 空翠 **ヤタエモン(新納彌太右衞門)**

クウセイ 空晴 法相宗の高僧。昌海の弟子。仲算の師。東大寺喜多院に住し、天德元年十二月九日寂す。年八十。

クウセウ 空照 僧。越前の人。二兄共に加賀藩のために戰死す。藩主空照をして後を繼がしめんとせしが、其の母之を肯ぜずして出家せしむ。前田侯、地を賜ひて波着寺を建てしめ、後又小龍野の地に移らしむ。

クウセキ 空石 **セウヤウ(龜井昭陽)**

グウソウ 隅叟 **トモチカ(浦野知周)**

クウソン 空存 大阪の俳僧。蕉翁の門。寬文年中歿。夢見草の著あり。

クウタイ 空體 醫僧。建曆年間の人。

グウタウ 藕塘(志毛) 江戸の儒者。名は正應。字は子健。通稱秀三郎。

クウチユウ 空中 **ミツシゲ(高橋光重)** **ダウハチ(高橋道八)**

クウチユウアン 空中庵 **クワウホ(本阿彌光悅)**

クウチユウサイ 空中齋 **クワウエツ(本阿彌「甫」光悅)**

クウドウ 空洞(桑原) 京都の書家。名は守雄。字は嶽陽、別號方外閑人。合田晴軒に性理の學を受く。延享元年五月六日歿す。年七十二。

クウタイ 偶東 **カツヨシ(奈佐勝皐)**

グウトウ 空籌(吉田) 醫。一名順昌。世に容れられざるも晏如たり。

クウニ 空二 江戸の俳人。四世桃隣の門。加藤氏。

クウニ 空二 **モロミチ(屋代師通)**

クウニン 空仁 歌僧。大中臣定長の子。千載集及び新後撰集の作家。

クウネン 空念 僧。越前國足羽郡南山村誓門寺の開基。俗名寺木甚左衞門。享保十六年七月十五日寂す。年七十七。

クウハイダイシヤウ 空拜大將 **スミトモ(藤六物)** 勤王僧。大和の人。森新吾後六物と稱し、遂に之を氏とす。

クウマン 空滿(六物) 醫者。名は如晦、字は季明、通稱金剛五郎。錦城の第五子。詩を巧にす。天保六年十二月晦日歿す。年三十四。

グケイ 愚溪 **アキヲ(山本章夫)** **ジヤウエ** 淨

グケイ 俱慶 **ヒロズミ(住吉廣澄)** 〔慧

ググウ 公曉 雖倉鵜岡八幡の別當。飯賴家の第二

クイチ 矩一(後藤) 步兵中尉。山口縣出身。日露戰役に出征し、明治三十八年三月奉天に戰死す。

クイチ 九市(片山) **アイスケ(木村愛之助)**

クイチ 九市(入江) 長州藩士。名は弘毅。一に兒玉百之介と稱す。元治の擧、敵彈に中りて斃る。

クイチ 九一(內田) 寫眞師。名は重。長崎の人。明治八年二月歿す。年三十二。

クイチ 九一(百濟) 砲兵大尉。山口縣出身。日露役に從ひ、明治三十七年八月二十二日旅順に戰死。

クウア 空阿 俳人。瓢壺店。蠡村の門。

クウア 空阿 俳人。利濟庵。蓉也堂。士朗の門。

クウア 空阿 **チゲツ** 遲月

クウアン 空菴(松本) 醫師。名は濟、次郎と稱す。玉翁の子。白井曦庵に學び、名を折九と改む。叔母の緣故を以て大文通佛院瑞柱の家を嗣ぎ、後島津家久に聘せられ、全庵と改む。更に永井直濟に知られ、雄州高視に赴き、蠡庵と號し、又氏を森と改む。醫元に見え、奈庵性善といふ。延寶六年二月四日歿。年七十七。

グウイ 竭夷 **シス井(秋元子帥)**

クウオウ 空應 **トキモチ(町尻說望)**

クウカイ 空海 高僧。佐伯氏。讚岐多度津郡の人。父は田公、母は阿刀氏。入唐して慧果阿闍梨に見え、其の敎を受く。弘仁七年高野山に金剛峯寺を建て、承和二年三月二十一日寂す。年六十二。延喜二十一年弘法大師の號を贈らる。性靈集、文鏡秘府論の外佛敎に關する、著作甚だ多し。新勅撰、新千載、風雅諸集の作家。

クウカイ 空海 茶人。眞能の門。或は曰く眞相に從ふと。通稱右近。後其の法を荒木道陳に傳ふ。俗に呼びて大師といふ。

グウミヤウ 蝿名 俳人。治山の門。九華庵と號す。

クウヤ 空也 高僧。名は光勝。天曆二年、延喜に從ひて得度し、洛東に六波羅蜜寺を建て天祿三年九月十一日寂す。年七十。拾遺、千載、新勅撰諸集の作家。

グエウ 弘曜 僧。雲飾寺に居り、經論を究め、八十六にして寂す。

グエキ 愚益 元祿頃の俳人。蕉門。

グエン 求厭 僧。豐臣秀賴の遺子といふ。出家して三緣山に寓し、四方を巡遊して後、伏見に住す。元祿中寂す。

クカ 玖珂(朝枝) 周訪吉川侯の儒臣。名は世美、字は德濟。通稱善次郎。伊藤東涯の門に學び、能く華音に通じ、小說を解す。

クガク 久學 **ユウテイ** 毓眞 「人。

クガヒメ 玖賀媛 仁德天皇の宮女。大和國葛田の

グキウ 愚丘 **メウチ** 妙智

グキマル 久喜丸 俳人。闌史の門。

グキヨク 愚極 東福寺普源院の住僧。書畫を善くす。名は聲才。聖一國師六世の法孫。

ククサンジン 狗々山人 **センクワ(笠亭仙果)**

ククノチノカミ 久々能智神 志那都比古神の第。木を司る。菊理媛と同神。

グクワン 愚寬 **ミチツム(東久世通積)**

グクン 具訓(小林) 京都の畫人。蘭溪と號し、嘉永四年歿す。年四十九。

グケイ 愚溪(大田) 醫者。名は如晦、字は季明、通稱金剛五郎。錦城の第五子。詩を巧にす。天保六年十二月晦日歿す。年三十四。

グケイ 愚溪 **アキヲ(山本章夫)** **ジヤウエ** 淨

ヒロズミ(住吉廣澄) 〔慧

グケイ 公曉 雖倉鵜岡八幡の別當。飯賴家の第二

子。幼名善哉。叔父貞朝右大臣となりて、拜賀の禮を鶴岡社に行ふ時、父の讐を覗ずと呼びて、之を弑し、己も亦殺さる。年十九。

グケン 虔軒(富田) 岡山の儒臣。名は玄亘。池田光政の侍講たり。貞享四年六月歿す。

クコク 駒谷 テルタケ(槇島照武) チヤウシユク(吉田長叔)

クコエン 枸杞園 テウタウサイ 趙陶齋

グゴン 功巖 ゲンサク 玄策

グサイ 愚齋 ロクベエ(清水六兵衛) シウテ

グサイ 具齋 シタガフ(源順)

クザウ 九藏(加藤) 藩林家伊勢貞丈都の人。文化五年歿す。

クサカハタヒヒメ 草香幡梭姫 大草香皇子の妹。履中天皇の后となりて中蕃姫を生み、後、雄略天皇の妃となる。又の名、橘姫、長日賞命、若日下命。

クサカベワウジ 草壁皇子 天武天皇の皇子。母は鸕野皇后。皇太子となり、持統天皇の三年四月薨ず。年二十八。日並皇子尊と稱す。天平寶字二年八月岡宮御宇天皇と追尊す。文武元正二帝の父。

クサノヤ 孔舍農舍 **マサキ(芳賀眞咲)**

クサハル 草春(高向) 歌人。拾遺集の作家。

クサモリ 草守(池田) 俳人。通稱藤兵衛。安政年間江戸に住す。

クサヤス 草安 薩摩谷山の刀匠。安久の子。寛治「頃の人。一に草保に作る。

クサヤス 草安 薩摩の刀匠。延元頃の人。

グザン 愚山(松本) 京師の儒者。名は慎。字は幻憲。才次郎と稱す。大阪に住す。天保五年十一月歿。年八十餘。著、愚山詩文稿、蹄文須知、老子評註、六書辨正等。

グザン 愚山(脇屋) 儒者。名は長之。字は子善、儀一郎と稱す。豊後小浦の人。三浦梅園、中井竹山の門。寛政十年肥後侯に仕へ、文化十一年歿す。年五十一。著、愚山集。

グザン 愚山(木村) 越後の儒者。名は巍。字は遜志、通稱左次郎。明治三年歿す。年六十八。

グサンジン 愚山人 **バキン 馬琴**

クシアカルタマノミコト 櫛明玉命 天太玉命の臣。出雲玉作の祖。天照大神に八尺瓊曲玉を獻ず。

クシイハマドノカミ 櫛石窓神 御門の神。一名天石戸別神、また豊石窓神。天孫降臨の時、大神の勅を奉じて之に隨從す。

クシウ 矩州 俳人。椎本氏。五彩堂と號す。芳室の門。哀些集、清逸集等の著あり。

クシツ 久室 **ゲンチヤウ 玄長**

クシツヌワケノワウ 櫛角別王 景行天皇の皇子。母は播磨稻日太郎姫皇后。

クシフラウ 九十郎(池田) 新潟縣の人。明治十年二等少警部を以て、西南の役に從ひ、七月十六日負傷し、十月一日歿す。

クシフラウ九十郎 カネヒデ(岡野包秀) ノブツネ(松本信庸) ヤストシ(本多康俊)

クシヤ 愚舍 カラタチ(江南亭唐立)

クシヤクダウ 孔雀堂 タンソウ(清田儋叟)

クシヤクロウシユジン 孔雀樓主人 タンソウ(清田儋叟)

グシン 虔臣(宮永) 越中の人。半儀半佛道人、又大倉と號す。皆川淇園と講學を研鑽すること數年。後佛に歸して高野山に上り、安政二年四月四日歿す。年五十八。大學斷疑、中庸斷疑扇易乾坤彙解の著あり。

グシン 愚心 イウテン 紘天

クスケ 九助(文珠) 山城伏見の人。町內の年寄役たり。町奉行小堀和泉守政方の苛虐を憤り、九屋九兵衛等と共に之を江戸に訴ふ。政方職を免ぜらる。九助等亦重罰を訴ふるに坐し、江戸に糾問中、天明八年正月四日牢死す。

クスジ 楠次(上田) 高知藩の志士。名は元永。戊辰の役、官軍に從ひ、宇都宮に戰死す。年三十二。明治三十一年贈正五位。

クスネ 葛根(宇都宮) 國學者。通稱角之丞。尾張藩島の社家。文化十年本居宣長の門に入る。

クスノシン 楠之進(田島) 贋童兵大尉。高知縣人。日露戰爭に從軍中、明治三十八年四月病死す。

クスノスケ 楠之助(田中) 勤王の志士。河內の農家の子。名は純信。侍從中山忠光に從ひ、大和の擧敗れ、遂に捕へられて、元治元年七月二十四日斬らる。年二十二。明治三十五年贈從五位。

クスヒコ 楠彦(田尾) 機關長。高知縣出身。日露戰役、金城丸に乘組み、明治三十八年八月航海中バラロング號と衝突して死す。

クズマロ 訓儒麿(藤原) 仲麻呂の子。天平寶字中、父の命を以て中宮の鈐印を奪ふ。仍りて坂上刈田麻呂に射殺さる。

クスヰ 駒水(松田) 儒者。弘前藩の士。名は正卿。通稱常藏、山崎道神に學ぶ。刑律の吏、赤石安右衛門、菊池寛司等と寛政律を編す。又、兵論、駒水筆談の著あり。

クスリ 藥(書) 壬申の亂、弘文帝の詔を奉じて兵を東國に徵し、不破に拠り、敵に敗へらる。

クスリ 藥(境部) 壬申の亂、兵に將として村國男依と戰ひ、敗れて死す。

クスリコ 藥子(藤原) 平城帝の尚侍。中納言種繼の女。恩寵渥し。鹽嶺帝位に即くに及び、平城上皇をして再び踐祚せしめ、己れ后位に居らんと圖る。帝、藥子の罪狀を暴露して官位を奪ふ。上皇痛憤し、藥子藥を仰ぎて死す。

クスヲ 楠緒(大塚) 女小說家。文學博士保治の妻。明治四十三年十一月九日歿す。

クセキ 駒石(石作) 儒者。信濃福島の邑主山村氏に事ふ。名は貞、字は子幹、通稱貞一郎。南宮大湫の門。更才あり。寛政八年正月十四日歿す。年五十七。著す所、翠山樓集、寒莖集、勸學言志編等。

クセダジヤウダイジン 久世太政大臣 **トモミチ(源具通)**

グゼン 愚禪 俳人。三世立志の門。

クソウ 久曾 源作の女。古今集の作家。

グソウ 愚叟(土岐) 幕府の士。名は朝旨。字は承之。豊前守と稱す。七千石を領す。

グダウ 愚堂 高僧。寛永五年妙心寺に出世し、後水尾天皇及び後陽成正親町の兩上皇に召され、國師號を賜はり、萬治二年寂す。年八十三。

グダウ 愚堂(小森) 醫。名は安。通稱宗二。薔薇園と號し、文久二年京都に歿す。年五十九。

グダウ 愚堂 俳人。人見氏。芥坪軒。暢好の門。享保十五年七月十七日歿。年四十八。

クダラノミヤニアメノシタシロシメシシ スメラミコト 百濟宮御宇天皇 **ジヨメイテンワウ 舒明天皇**

クチウド 口人(櫻根) 越前の鐵工。天正時代の人。

クチヨクヲウ 愚直翁 **セキジヤウ(井田石城)**

クヂラ 鯨(河內) 儒者。高麗安劉王の後裔。持統天皇の時、大學博士たり。

クヂラ 鯨(庵井) 壬申の亂、弘文天皇に從ひ、兵に將として敗走す。天武天皇の時、大伴欽貞を斬ち、利あらず早世す。又書を善くす。新古今、新勅撰、續古今、新後撰、玉葉、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クツザン 屈山 **シヅヒロ(小室重弘)** 儒者。名は秉。字は孔均。京都に住み、明和七年歿す。年二十七。

グテイ 愚亭 **バンリ(帆足萬里)**

クデウクワンパク 九條關白 **タダイヘ(藤原忠家)** 「忠家」

クデウサダイジン 九條左大臣 **ミチナガ(藤原通長)**

クデウシヤウコク 九條相國 **コレミチ(藤原伊通)** 「通」

クデウゼンカフ 九條禪閤 **タネミチ(九條種ミチ(藤原伊通)** ノブナガ(藤原信長)

クデウダジヤウダイジン 九條太政大臣 **コレ**

クデウナイダイジン 九條內大臣 **ヨシミチ(藤原通)** 「ワウ」 仲恭天皇

クデウハイテイ 九條廢帝 **チユウキヨウテン**

クデウヰン 九條院 **テイシ(藤原呈子)**

クナイ 宮內(伊吹) 近江京極高峯の家人。永正頃。

クナイ 宮內(油川) 天正三年五月長綠に戰死す。

クナイ 宮內(高松) 彦根藩の兵學者。もと橫田氏。代官となり、鉛奉行を兼ぬ。

クナイ 宮內(熊谷) 德川光圀の臣。政治に與る。

クナイ 宮內(伊勢) 淨瑠璃伊勢島節の祖。江戶の人。虎屋源太夫の門。後剃髮して節齋と號す。

クナイ 宮內 延喜皇太后の女房。拾遺集の作家。

クナイ 宮內 延喜皇太后の女房。拾遺集の作家。

クナイ 宮內(伊吹) 近江京極高峯の家人。永正頃。

クナイ 宮內(油川) 天正三年五月長綠に戰死す。

クナイ 宮內(高松) 彦根藩の兵學者。もと橫田氏。代官となり、鉛奉行を兼ぬ。

クナイ 宮內(熊谷) 德川光圀の臣。政治に與る。

クナイ 宮內(伊勢) 淨瑠璃伊勢島節の祖。江戶の人。虎屋源太夫の門。後剃髮して節齋と號す。

クナイヤウ 宮內卿 女歌人。後鳥羽天皇の宮女。巨勢宗澄の外孫。右京大夫細光の女。歌に熱心して早世す。又書を善くす。新古今、新勅撰、續古今、新後撰、玉葉、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クナイキヤウ 宮內卿 女歌人。少將筆敎の女。後鼈戰帝に仕ふ。續拾遺集の作家。

クナイキヤウ 宮內卿(長宮) 擔所たり。天正十二年六月長谷寺の爭鬪に死す。

クナイキヤウホフイン 宮內卿法印 **タンイウ(狩野探幽)**

クナイザエモン 宮內左衛門(吉岡) 吉岡流柔術の祖。或は云ふ水戶の人と。 「隆」

クナイタイフ 宮內大輔 **ウヂタカ(小笠原氏)**

クニ 國 (初世) 京都の女優。もと出雲大社の巫女。世に出雲のお國といふ。名古屋山三と通じて、女優の長となり、文祿中その技を秀吉に賞せられ、正保の初めに歿す。(二世) 初世の子。洛東祇園の南林に芝居を興行す。 「よ」

クニ 國 孝女。左兵衛の四女。サユリ(小百合)を見よ。

クニ 邦(日尾) 荊山の繼室。石井氏。和歌を荊山に學び、後之に嫁す。溫良貞淑、貧困の間に家事を治め、先妻の子亘子を撫育す。明治十八年歿す。

クニアキ 國明 山城の刀匠。寬元年間(一に嘉禎、又延喜)の人。 「文和年間」の人。

クニアキ 國明 山城の刀匠。來氏。應安年間(一に會津の刀匠。享和年間の人。

クニアキ 國明 肥後菊池古刀の鎚工。天文年間の人。 「和頃の人。

クニアキ 國明 會津の刀匠。村田繼藏と稱す。享

クニアキ 國章(藤原) 歌人。元名の子。從二位。拾遺集の作家。

クニイヘ 國家(栗田口) 鍛工。入國の子。通稱彌九郎。平治中、大和國城上郡珠市に住す。

クニイヘ 國家 山城粟田口刀匠の始祖。林氏、藤原氏。通稱彌九郎。後鳥羽天皇の番鍛冶奉行たり。

クニイヘ 國家 越中宇多流の刀匠。應永後の人。

クニイヘ 國家 備中山内水田派の刀匠。天正慶長年間の人。

クニイヘ 國家 備前古刀の鍛工。長船に住し、後、備中に移る。天文年間(一に永德年間)の人。

クニイヘ 國家 備後の刀匠。初代一乘の門。永享年間の人。

クニイヘ 國家 肥後の刀匠。貞治年間(一に正平)の人。國村の子。康安元年殁。年六十三。

クニウヂ 邦氏(藤本) 京都の書家。司直の弟子。甲斐守、書博士に任ず。明和二年十月殁す。

クニウヂ 國氏(今川) 源義家六代の後胤。足利義氏の次男。今川と號す。

クニオク 國興 備津の刀匠。延寶年間の人。

クニオシ 國忍(玉造部) 萬葉集の作家。天平寶龜年間の人。

クニオシトミノカミ 國忍富神 「母は伊弉知彌神。鳥鳴海神の子。

クニオミ 國臣(牛野) 勤王家。號岡潛士。次郎と稱す。幼字吉之吉、乙吉、又吉。月迺舍、友月庵、柏舍、鵬翮軒の號あり。安政五年攘夷の命下るや屏息倪びて國を去り、月照を携へて西郷隆盛に依る。追兵至り、遁れて京に入り、島津久光と相結托し、機を待て幕府間諜の師を起さんと謀る。捕らはれて、元治元年斬に就く。

クニカズ 國量(津守) 歌人。國夏の子。五位。新千載、新後拾遺、新續古今、諸集の作家。

クニカズ 國算 山城の刀匠。來氏、貞和年間の人。

クニカズ 國多 伊豫今治の刀匠。元治年間。

クニカズ 國一 尾張の刀匠。三阿彌と稱す。慶長年間の人。

クニカズ 國一 越中宇津濱の刀匠。明應年間の人。

クニカズ 國一 肥後菊池の鍛工。天文年間の人。

クニカズ 國十 古刀の治工。五十山國十と云ふ。

クニカズ 國貫(清原) 枝賢の子。大藏卿に任ぜられ、慶長十九年殁す。年七十一。

クニカタ 國方 大隅の刀匠。奥國平の門人。種子島に住す。享保年間の人。

クニカツ 國勝 (初世) 紀伊の刀匠。初名重勝。通稱五郎三郎、文珠の稱を冒す。四世重國の子。元文年間の人。(二世) 紀伊に住し、文珠金助と稱す。明和安永年間の人。

クニカツ 國勝 肥前の刀匠。藤原氏。文保年間。

クニカツ 國勝 肥前の刀匠。萬治年間の人。

クニカツ 國勝 古刀の鍛工。藤原氏。後、正國と改む。「藤原氏。天正年間の人。

クニカド 國門 肥後同田貫の刀匠。真宗の子。文永弘安年間の人。

クニカド 國門 大和の刀匠。文明年間の人。

クニカド 國門 古刀の鍛工。三河中原の人。

クニカド 國門 肥後菊池の刀匠。天文年間の人。

クニカネ 國兼 和泉古刀の鍛工。通稱泉次郎。貞治年間の人。

クニカネ 國兼 加賀の刀匠。貞景の門人。延文永德年間の人。

クニカネ 國兼 加賀の刀匠。永正年間の人。

クニカネ 國兼 伊豫古刀の鍛工。享祿年間の人。

クニカネ 國包 大和千手院派の刀匠。永元年間の人。或は曰く備前の人。力王の門。建長年間の人と。

クニカネ 國包 (一世) 仙臺の刀匠。藤原氏。通稱本郷源藏。慶長寛永年間の人。(二世) 通稱本郷右衞門。正保三年家督す。山城守。(三世) 通稱本郷源次郎。延寶元年家督す。(四世) 通稱本郷源十郎。元祿元年家督す。(五世) 通稱本郷三郎兵衞。元祿十一年家督す。(六世) 通稱本郷權十郎。元祿十六年家督す。(七世) 通稱本郷源次郎。正德五年家督す。(八世) 通稱本郷、實歷五年家督す。(九世) 通稱半藏。實歷五年家督す。(十世) 通稱源之助。實歷十三年家督す。

クニカネ 國包 仙臺の刀匠。嘉永元治年間。

クニカネ 國包 備前の刀匠。永延年間(一に寛弘頃)の人。

クニキヨ 國清(島田) (初代) 越前福井の刀匠。山城守藤原氏。松平忠昌、福井へ入部の時、越後高田より從ひ來る。(二代) 初代の次子。通稱新兵衞。初め國宗といふ。元祿十三年七月四日殁す。年七十八。

クニキヨ 國清(貴島) 岩兵中尉。鹿兒島縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月三十日戰死す。

クニキヨ 國清(粟田口) 鍛工。國綱の子。通稱藤四郎。天德中の人。

クニキヨ 國清 山城粟田口の刀匠。林藤四郎と稱し、後四郎兵衞と更む。國家の四子。元歷建仁年間の人。

クニキヨ 國清 山城粟田口の刀匠。左近國綱の門。弘安年間の人。

クニキヨ 國清 大和當麻の刀匠。有法師の子。延文年間の人。

クニキヨ 國清 大和當麻の刀匠。俊行の子。嘉曆年間の人。或は曰く建治年間の人と。

クニキヨ 國清 大和當麻の刀匠。貞治年間の人。

クニキヨ 國清 大和古刀の鍛工。千手院の流。文保頃の人。

クニキヨ 國清 常陸北條の刀匠。吉左衞門尉と稱す。松岡に住す。或は曰く國次と同人なりと。

クニキヨ 國清 越前の刀匠。藤原氏。伊勢守と稱す。

クニキヨ 國清 新刀の鍛工。藤原氏、越中の人。播磨守。

クニキヨ 國清 越中宇多流の刀匠。初代國久の子。或は曰く正長頃の人。又長祿頃の人。國長の子と。

クニキヨ 國清 備中古刀の鍛工。或は曰く水田流。天文年間の人と。

クニキヨ 國清 伯耆の刀匠。長義の父。長承年間。

クニキヨ 國清 肥後菊池の刀匠。延喜初代國吉の子。

クニキヨ 國清 肥後菊池の刀匠。延喜國次の子。正平年間の人。

クニキヨ 國清 右馬之允と稱す。應安年間の人。

クニキヨ 國清 肥後菊池の刀匠。國末の子。應永正長年間の人。或は曰く國時の子。又國村の子と。

クニキヨ 國清 薩摩の刀匠。祖元金右衞門と稱す。法城寺吉國の銘名なり。

クニキヨ 國清 (初世) 越前福井の刀匠。初名助宗。藤原氏。島田吉右衞門と稱す。山城大掾、後守と改む。本國は備濃松代。助宗の子。京の堀川國廣に從ふ。元和年間の人。刀銘に菊一文字を彫る。

クニキヨ 國清 (二世) 吉左衞門。山城守。又京に住す。寛文頃の人。

クニキヨ 國清 (三世) 吉五郎。後市左衞門と更む。山城守。寛文中、早世す。

クニキヨ 國清 (四世) 新兵衞と稱す。五世國清の宗と更む。九八郎と稱す。山城守。享保年間の人。

クニクラ 國藏 京の刀匠。貞永年間の人。

クニコ 邦子(藤原) 後水尾帝の宮人。贈左大臣基音の女。新中納言典侍と稱す。定敏親王及び豐元帝を生む。延寶五年三宮に進じ、同年薨ず。新廣義門院と追尊す。

クニコ 久邇子 貴德頃の女歌人。農鋪番頭渡邊源次郎の女。

クニコ ナイシンワウ 邦子内親王 後高倉院の第二女。後堀河天皇の准母。母は北白河院。承久三年十一月二十五日內親王宣下。安嘉門院と號す。法名正覺。弘安六年九月四日薨ず。年七十四。

クニコ 國子(秋元) 女慈善家。

クニゴラウ 國五郎 ブンゴ(吉田豐後) 岁兵大尉。福岡縣山身。日露の戰に出征し、明治三十七年十一月戰死す。年三十四。

クニザウ 國造(熊谷) 岁兵大尉。福岡縣山身。日露の戰に出征し、明治三十七年十一月戰死す。年三十四。

クニザウ 邦藏(荒川) 明治二十四年福井縣知事に任ぜられ、後內務省縣治局長に轉じ、幾もなくして辭す。三十六年十月十一日卒す。

クニザウ 邦藏 クニノブ(渡邊邦伸) 山城粟田口の刀匠。國延の門。忠二郎と稱す。建長七年殁す。年五十二。或は曰く弘安年間の人。又嘉禎年間の人。中次郎と稱す。粟田口國吉の門と。

クニサダ 國定 田羽の刀匠。明應年間の人。月山と改む。寛文年間受領す。

クニサダ 國定 越前の刀匠。寛永年間の人。

クニサダ 國定 備前長船の刀匠。守重の子。正中嘉曆年間の人。守重の門。

クニサダ 國定 備前古刀の鍛工。應永年間の人。長船に住す。

クニサダ 國定 肥後の刀匠。兵衞尉と稱す。應永年間の人。或は曰く延喜派、至德年間の人と。

クニサダ 國定 (初世) 備中水田流の刀匠。源氏。大月左次兵衞と稱す。越前大掾。又薩津當田備後藏山に住す。寛文年間の人。(二世) 平九郎、後與左衞門と改む。越前大掾。貞享元祿年間の人。大阪、江戶及び備前に住す。(三世) 與五郎。備前に住す。元文享保年間の人。(四世) 左七。備前に住す。元文年間の人。

クニサダ 國定 會津の刀匠。藤原氏。古川氏。河內大掾。孫四郎綱房の次子。正保年間。

クニサダ 國定 肥後の刀匠。應永年間の人。或は曰く菊池延喜派。國資の子。明德年間の人。又應安年間の人と。

クニサダ 國貞 肥後延喜派の刀匠。國泰の次子。大隅の刀匠。日高伸左衞門と稱す。

クニサダ 國貞 薩摩國平の門。享保年間の人。

クニサダ 國定 (初世) 會津の刀匠。古川孫太夫と稱す。寛文中國定と改む。(二世) 初め次郎兵衞、後孫太夫と改む。元祿十年殁す。(三世) 三太夫と稱し、又會津に住す。後藥を廢す。

クニサダ 國貞(獄川) (初代) トヨクニ 豐國 [二世] 浮世繪師。一雄齋と號す。初め一蓼齋國政し、後四郎兵衞と更む。國家の四子。元歷建仁年間の人。

クニキヨ 國清 山城粟田口の刀匠。左近國綱の門。弘安年間の人。

クニキヨ 國清 大和當麻の刀匠。有法師の子。延文年間の人。

クニキヨ 國清 大和當麻の刀匠。俊行の子。嘉曆年間の人。或は曰く建治年間の人と。

クニキヨ 國清 大和當麻の刀匠。貞治年間の人。

クニキヨ 國清 大和古刀の鍛工。千手院の流。文保頃の人。

クニキヨ 國清 常陸北條の刀匠。吉左衞門尉と稱す。松岡に住す。或は曰く國次と同人なりと。

クニキヨ 國清 越前の刀匠。藤原氏。伊勢守と稱す。

クニキヨ 國清 新刀の鍛工。藤原氏、越中の人。播磨守。

クニキヨ 國清 越中宇多流の刀匠。初代國久の子。或は曰く正長頃の人。又長祿頃の人。國長の子と。

クニキヨ 國清 備中古刀の鍛工。或は曰く水田流。天文年間の人と。

クニキヨ 國清 伯耆の刀匠。長義の父。長承年間。

クニキヨ 國清 肥後菊池の刀匠。延喜初代國吉の子。

クニキヨ 國清 肥後菊池の刀匠。延喜國次の子。正平年間の人。

クニキヨ 國清 右馬之允と稱す。應安年間の人。

クニキヨ 國清 肥後菊池の刀匠。國末の子。應永正長年間の人。或は曰く國時の子。又國村の子と。

クニキヨ 國清 薩摩の刀匠。祖元金右衞門と稱す。法城寺吉國の銘名なり。

クニキヨ 國清 (初世) 越前福井の刀匠。初名助宗。藤原氏。島田吉右衞門と稱す。山城大掾、後守と改む。本國は備濃松代。助宗の子。京の堀川國廣に從ふ。元和年間の人。刀銘に菊一文字を彫る。

クニキヨ 國清 (二世) 吉左衞門。山城守。又京に住す。寛文頃の人。

クニキヨ 國清 (三世) 吉五郎。後市左衞門と更む。山城守。寛文中、早世す。

クニキヨ 國清 (四世) 新兵衞と稱す。五世國清の宗と更む。九八郎と稱す。山城守。享保年間の人。

クニクラ 國藏 京の刀匠。貞永年間の人。

クニコ 邦子(藤原) 後水尾帝の宮人。贈左大臣基音の女。新中納言典侍と稱す。定敏親王及び豐元帝を生む。延寶五年三宮に進じ、同年薨ず。新廣義門院と追尊す。

クニコ 久邇子 貴德頃の女歌人。農鋪番頭渡邊源次郎の女。

クニコ ナイシンワウ 邦子内親王 後高倉院の第二女。後堀河天皇の准母。母は北白河院。承久三年十一月二十五日內親王宣下。安嘉門院と號す。法名正覺。弘安六年九月四日薨ず。年七十四。

クニコ 國子(秋元) 女慈善家。

クニゴラウ 國五郎 ブンゴ(吉田豐後) 岁兵大尉。福岡縣山身。日露の戰に出征し、明治三十七年十一月戰死す。年三十四。

クニザウ 國造(熊谷) 岁兵大尉。福岡縣山身。日露の戰に出征し、明治三十七年十一月戰死す。年三十四。

クニザウ 邦藏(荒川) 明治二十四年福井縣知事に任ぜられ、後內務省縣治局長に轉じ、幾もなくして辭す。三十六年十月十一日卒す。

クニザウ 邦藏 クニノブ(渡邊邦伸) 山城粟田口の刀匠。國延の門。忠二郎と稱す。建長七年殁す。年五十二。或は曰く弘安年間の人。又嘉禎年間の人。中次郎と稱す。粟田口國吉の門と。

クニサダ 國定 田羽の刀匠。明應年間の人。月山と改む。寛文年間受領す。

クニサダ 國定 越前の刀匠。寛永年間の人。

クニサダ 國定 備前長船の刀匠。守重の子。正中嘉曆年間の人。守重の門。

クニサダ 國定 備前古刀の鍛工。應永年間の人。長船に住す。

クニサダ 國定 肥後の刀匠。兵衞尉と稱す。應永年間の人。或は曰く延喜派、至德年間の人と。

クニサダ 國定 (初世) 備中水田流の刀匠。源氏。大月左次兵衞と稱す。越前大掾。又薩津當田備後藏山に住す。寛文年間の人。(二世) 平九郎、後與左衞門と改む。越前大掾。貞享元祿年間の人。大阪、江戶及び備前に住す。(三世) 與五郎。備前に住す。元文享保年間の人。(四世) 左七。備前に住す。元文年間の人。

クニサダ 國定 會津の刀匠。藤原氏。古川氏。河內大掾。孫四郎綱房の次子。正保年間。

クニサダ 國定 肥後の刀匠。應永年間の人。或は曰く菊池延喜派。國資の子。明德年間の人。又應安年間の人と。

クニサダ 國貞 肥後延喜派の刀匠。國泰の次子。大隅の刀匠。日高伸左衞門と稱す。

クニサダ 國貞 薩摩國平の門。享保年間の人。

クニサダ 國定 (初世) 會津の刀匠。古川孫太夫と稱す。寛文中國定と改む。(二世) 初め次郎兵衞、後孫太夫と改む。元祿十年殁す。(三世) 三太夫と稱し、又會津に住す。後藥を廢す。

クニサダ 國貞(獄川) (初代) トヨクニ 豐國 [二世] 浮世繪師。一雄齋と號す。初め一蓼齋國政

と稱す。後二世豐國の號を繼ぐ。實は三世なり。明治十三年七月二十日歿す。年五十八。

クニサダ 國眞 山城粟田口の刀匠。一名吉宗 國眞の二子。備後二郎と稱す。天福年間の人。或は曰く國宗の子と。

クニサダ 國貞 山城の刀匠。鞍馬關の派。天正文祿年間の人。

クニサダ 國貞 江戸法城寺派の刀匠。橘氏。次郎左衛門。但馬守。元祿年間の人。

クニサダ 國貞 越中の刀匠。國光の四子。延文年間の人。國光の門。

クニサダ 國貞 越中宇津流の刀匠。應永年間の人。

クニサダ 國貞 備前の刀匠。直宗の流 國眞の子。建保年間の人。或は曰く初代國眞の二子。一名國吉。備前次郎。文曆嘉禎年間の人。又國眞の弟。承久頃の人と。

クニサダ 國貞 或は國定に作る。備前長船の刀匠。應永年間の人。

クニサダ 國貞 備中成羽村水田流の刀匠。享保年間の人。

クニサダ 國貞 伊豫の刀匠。國吉の子。建武年間の人。或は曰く永和年間の人。國吉の二子と。

クニサダ 國貞 豐後の刀匠。兵衛尉。應永年間。

クニサダ 國定 (初世) 大阪の刀匠。藤原氏。和泉守。もと日向飫肥の人。堀川國廣の門。慶安年間の人。法名道和。 (二世) 井上氏。和泉守と稱す。日向飫肥の士。名を眞明と云ふ。初代の養子。晩年眞改と號す。學を好み、熊澤の門に遊ぶ。明曆寬文年間の人。 (三世) 彈右衛門と稱す。和泉守。眞改の次子。元祿頃の人。後日向國飫肥の士となる。

クニサト 邦達(久保田) 德島藩士。通稱和助。和歌を好む。文化年間の人。

クニサト 國鄕(長沼) 劍士。眞心影流。山田光德の三子。四郎左衛門と稱す。

クニサト 國里 新刀の鍛工。藤原氏、美濃國の人。

クニザネ 國眞(津守) 歌人。國夏の子。五位。風雅集及び新後拾遺集の作家。

クニザネ 國實 山城粟田口の刀匠。國友の門。建保年間の人。或は曰く安貞頃の人、後三條に住す。國友の六子。勢田六郎の門。元仁年間の人。又國眞の子。文保年間の人なりと。

クニザネ 國實 鍛工。源氏。江戸及び尾州に住す。元祿年間の人。

クニザネ 國實 丹波の刀匠。國眞の子。元亨年間の人。或は曰く嘉元文保年間の人。布次に住す。國眞と同人なりと。

クニザネ 國眞 山城粟田口の刀匠。一名國宗。備前權守と稱す。直宗の孫。眞宗の子。承久貞應年間。

クニザネ 國眞 山城の刀匠。來國俊の子。藤五郎と稱す。正和年間の人。文保二年歿す。年五十二。或は曰く來の一派、本國大和。德治頃の人と。

クニザネ 國眞 山城の刀匠。建武前の人。

クニザネ 國眞 大和の刀匠。藤四郎と稱す。或は曰く京に住す。天保年間の人。又藤五と稱す。來國俊の門なりと。

クニザネ 國眞 美濃大垣の刀匠。元祿年間の人。

クニザネ 國眞 越中宇多流の刀匠。國清の子。明應年間の人。或は曰く國成の次子。大永年間の人。國光の門。同名二世に逮ぶ。又文安頃の人と。

クニザネ 國眞 丹波の刀匠。建武前の人。或は曰く藤八郎と稱し、布次に住す。嘉元文保年間の人。正國の子。或は國延の門。或は國實と同人なりと。

クニザネ 國眞 播磨の刀匠。角國の子。長久年間の人。俊行の子。康平年間の人。

クニザネ 國眞 播磨の刀匠。建武前の人。小川の一派。正中年間の人。

クニザネ 國眞 備前の刀匠。仁平年間の人。

クニザネ 國眞 (一世) 備前の刀匠。直宗の子。承安年間の人。備前權守と稱す。承久貞應年間の人。一名國宗。 (二世) 承元年間の人。備前に住す。或は曰く一名國直。又國永。備前太郎。後備前權守と稱す。初代國眞の子。文曆年間の人と。

クニザネ 國眞 備中水田流の刀匠。延寶年間の人。

クニザネ 國眞 豐後の刀匠。了戒と冒稱す。享祿年間の人。

クニザネ 國眞 (初世) 備前福岡の刀匠。行國の子。曆仁年間の人。助行の三子。或は曰く文治年間の人。又、行國の門人なりと。 (二世) 建治年間の人。 (三世) 嘉元正和年間の人。

クニシゲ 國茂 奧州涌谷の刀匠。初名包重。二世國包の門。寬文年間の人。

クニシゲ 國繁(由眞) 成繁の子。小字新六郎。信濃守式部大輔と稱す。天正十一年北條氏政の招に應じ、終に圍せらる。後豐臣及び德川氏に從ひ、寬永十六年二月卒す。

クニシゲ 國繁 石見井原の刀匠。貞享元祿年間。

クニシゲ 國蕃 伊豫の刀匠。國吉の子。永和頃の人。或は曰く文安頃の人と。

クニシゲ 國重(歌川) 浮世繪師。一龍齋と號す。通稱源藏。二世豐國と號し、後國重に復す。天保六年十一月歿す。年五十九。

クニシゲ 國重 山城大宮の刀匠。永延年間の人。

クニシゲ 國重 山城の刀匠。本國は備中。水田の流。新刀の作者。或は曰く寬文頃の人と。

クニシゲ 國重 攝津の刀匠。池田鬼神丸と號す。本國は備中。水田流。長兵衛と稱す。二世河內守國助の門。池田に住せるを以て之を氏とす。寬文天和年間の人。又江戸、岩城、秋田、及び薩摩にても鍛作す。

クニシゲ 國重 鎌倉の刀匠。長谷部氏。新藤太郎と稱す。二世新藤國光の長子。後山城に住す。嘉曆年間の人。或は曰く正和頃の人、後國光と改む。又弘長年間の人、乾元元年歿す。年三十二と。

クニシゲ 國重 武藏下原の刀匠。重氏の子。文明長享年間の人。

クニシゲ 國重 武藏下原の刀匠。藤原氏。山本氏。六左衛門と稱し、後外記と改む。但馬守に拜す。元祿年間の人。

クニシゲ 國重 江戸の刀匠。源氏。大月太兵衛と稱す。水田流。享保年間の人。幕府の命を奉じて鍛作す。

クニシゲ 國重 武藏の刀匠。源氏。水田流。大月傳五郎と稱す。享保元文年間の人。

クニシゲ 國重 新刀の鍛工。武藏下原の一派。山本市右衛門と稱す。

クニシゲ 國重 加賀の刀匠。辻村五世兼若の嫡女の子。四郎三郎と稱す。元祿享保年間の人。

クニシゲ 國重 美濃赤坂千手院派の刀匠。孫右衛門と稱す。建武年間の人。

クニシゲ 國重 美濃の刀匠。應安年間の人。

クニシゲ 國重 美濃の刀匠。國行の子。永祿年間の人。或は曰く仙阿の弟子、孫左衛門と稱す。明德頃の人と。

クニシゲ 國重 上野の刀匠。京の長谷部國重の三世。始め攝津天王寺に住し、本州に移る。康應應永年間の人。又越後にて作る所あり。

クニシゲ 國重 出羽矢島藩の刀匠。宮崎茂吉と稱す。安政元治年間の人。

クニシゲ 國重 生駒氏の刀匠。宮崎茂三郎と稱す。安政元治年間の人。

クニシゲ 國重 越前の刀匠。應安年間の人。又重國の子。淸泉寺に住す。永德年間の人。槍鉾薙刀を作るに上手なり。或は曰く應永嘉吉間の人。

クニシゲ 國重 越中宇多流の刀匠。正長永享年間の人。或は曰く國光の五子。延文年間の人と。

クニシゲ 國重 越中の刀匠。康應年間の人。

クニシゲ 國重 新刀の鍛工。出雲松江の人。高麗治兵衛と稱す。大明京と同人なり。

クニシゲ 國重 水田流の刀匠。石見に住し、大月六太夫と稱す。元祿年間の人。

クニシゲ 國重 播磨姬路の刀匠。津田氏。半兵衛と稱す。寬文年間の人。

クニシゲ 國重 播磨姬路の刀匠。多田氏。八郎兵衛尉と稱す。宗重の族。貞享元祿年間の人。

クニシゲ 國重 關流の刀匠。初名吉重。高橋氏。喜右衛門尉と稱す。吉重の子。播磨明石に住す。元祿年間の人。

クニシゲ 國重 備前の刀匠。康永年間の人。或は曰く安永の弟、新太夫と稱し、長船に住す。正和年間の人。又文和頃の人。本國大和なりと。

クニシゲ 國重 古刀の鍛工。備前長船の人。永正年間の人。

クニシゲ 國重 備中荏原の刀匠。河野與太郎爲家の子。初め與八郎と稱す。別家して大月三郎左衛門と更む。後左衛門尉辰房國重と稱す。享祿天文年間の人。或は曰く松山水田の祖なりと。

クニシゲ 國重 備中荏原の刀匠。大月氏。又三郎と稱す。天文天正年間の人。

クニシゲ 國重 備中の刀匠。井原拾助と稱す。文祿年間の人。或は曰く水田の一派、井原に住す。天正慶長年間の人と。

クニシゲ 國重 備中荏原の刀匠。大月氏。淸八と稱す。元和年間の人。

クニシゲ 國重 備中水田の刀匠。三郎兵衛國重の門。大月左兵衛と稱す。江戸に下り、名を國光と改む。明曆年間の人。

クニシゲ 國重 備中水田の刀匠。茂右衛門尉と稱す。八郎左衛門國重の門。又備前岡山に住す。寬文延寶年間の人。

クニシゲ 國重 備中水田の刀匠。源氏。大月傳七郎と稱す。山城大掾に拜す。又美作津山に住す。貞享享保年間の人。

クニシゲ 國重 備中水田の刀匠。源氏。大月與八郎と稱す。享保年間の人。

クニシゲ 國重 新刀の鍛工。橘氏、大月又太郎と稱す。備中水田の人。

クニシゲ 國重 備後鞆山の刀匠。水田流。大月傳右衛門と稱す。

クニシゲ 國重 備中の大月與五右衛門國重の子。又三好に住す。元祿年間の人。

クニシゲ 國重 豐後の刀匠。國宗の子。應永年間。

クニシゲ 國重 豐後新刀の鍛工。本國は備中。水田の人。

クニシゲ 國重 肥前佐賀の刀匠。源氏。貞享年間。

クニシゲ 國重 肥後延壽流の刀匠。國綱の子。文龜永正年間の人。

クニシゲ 國重 古刀の鍛工。肥後菊池の人。國家の子。兵部と稱す。康曆永德頃の人。

クニシゲ 國重 肥後同田貫の刀匠。隈本に住す。國日出の門。享和文化年間の人。

クニシゲ 國重 日向の刀匠。庄太夫と稱す。慶長年間の人。

クニシゲ 國重 (初世) 山城の刀匠。五條坊門猪熊に住す。長兵衛と稱す。元大和千手院の一派。相

クニスケ　国助（津守）　歌人。攝津住吉社の神主。

クニスケ　国助（遊佐）　国平の子。四位に叙せらる。續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クニスケ　国助　一に助國に作る。小山の庶族。畠山氏に屬す。寛正元年九月畠山義就を助けて、畠山政長の兵と戰ひ、神南山嶽に死す。

クニスケ　国助　江戸和田戸山の刀匠。一名國次。來求は曰く助長の子。延文年間の人と。

クニスケ　国助　備前長船の刀匠。嘉慶年間の人。

クニスケ　国助　古刀の鍛工。肥前の人。

クニスケ　国輔（櫻）　勤王の志士。武藏舘屋村の人。慶應年中、江戸三田の薩藩邸に入り、同志と相謀り、大事を擧げんとして成らず。屠腹して死す。年二十五、元年贈從五位。

クニスケ　国介　古刀の鍛工。大和の人。

クニスケ　国介　一に國助、或は國佐に作る。奥州仙臺國重の門。大月新筆郎と稱す。後阿波に移る。萬治年間の人。（二世）與五郎右衞門と稱す。又備後阿波に住す。延寶年間の人。

クニスケ　国資　山城粟田口の刀匠。國友の門。貞享元祿年間の人。

クニスケ　国資　備中の刀匠。眞次の族。建仁年間。

クニスケ　国資（初世）　肥後の刀匠。延寶國村の子。應安年間の人。或は曰く國泰の子。應安年間の人。永德二年殁す。年五十七と。（二世）肥後菊池住。

クニスケ　国資　山城粟田口の刀匠。弘安年間の人。

クニスケ　国介　一に國助、或は國佐に作る。奥州仙臺國重の門。大月新筆郎と稱す。後阿波に移る。萬治年間の人。（二世）與五郎右衞門と稱す。又備後阿波に住す。延寶年間の人。

クニシゲ　国重（初世）　備中水田の刀匠。大月又七と稱す。後八郎兵衞と改む。元祿年間の人。（二世）大月八郎左衞門と稱す。正德享保年間の人。

クニシゲ　邦成（伊達）　男爵。舊仙臺藩の支族。亘理の城主。通稱藤五郎。邦直の弟。戊辰の役後、減封せられ、北海道の拓殖に從事せんことを請願し、宰臣村額允と謀りて舊臣を移住せしむ。明治十七年十一月二十九日卒す。年六十四。

クニジユマル　国壽丸　シゲノリ（渡瀨繁詮）

クニシロワケ　國背別　景行天皇の皇子。母は皇妃襲武媛。

クニスケ　国助（津守）　歌人。攝津住吉社の神主。國平の子。四位に叙せらる。續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クニスケ　国助（遊佐）　一に助國に作る。小山の庶族。畠山氏に屬す。河内守と稱し、若江城に居る。寛正元年九月畠山義就を助けて、畠山政長の兵と戰ひ、神南山嶽に死す。

クニスケ　国助　江戸和田戸山の刀匠。一名國次。來求は曰く助長の子。延文年間の人と。

クニスケ　国助　備前長船の刀匠。嘉慶年間の人。

クニスケ　国助　古刀の鍛工。肥前の人。

クニスケ　国輔（櫻）　勤王の志士。武藏舘屋村の人。慶應年中、江戸三田の薩藩邸に入り、同志と相謀り、大事を擧げんとして成らず。屠腹して死す。年二十五、元年贈從五位。

クニスケ　国資　山城粟田口の刀匠。弘安年間の人。

クニスケ　国資　古刀の鍛工。備中の刀匠。眞次の族。建仁年間。

クニスケ　国資（初世）　肥後の刀匠。延寶國村の子。應安年間の人。或は曰く國泰の子。應安年間の人。永德二年殁す。年五十七と。（二世）肥後菊池住。

クニズミ　国純　山城粟田口の刀匠。吉光の門。或は曰く丹波石見に居る。嘉元年間の人。又延光の門。應長文保年間の人と。

クニズミ　国住　古刀の鍛工。陸奥の人。

クニズミ　国住　江戸の刀匠。薩藩の士。國吉の門に遊び、多く槍鉾を作る。天明文化年間の人。

クニスケ　国季　山城粟田口の刀匠。弘安年間の人。

クニスケ　国末　山城粟田口の刀匠。久國の門。建保年間の人。或は建長年間の人。又建治年間の人と。

クニスケ　国末　山城の刀匠。來國俊の子。元應年間の人。又相摸比企谷に住し、比企來と稱す。或は曰く乾文年間の人。來六郎と稱す。國俊の三子。又國行の二子。文保頃の人と。

クニスケ　国末　古刀の鍛工。大和の人。善く長刀を作る。

クニスケ　国末　古刀の鍛工。備前長船の人。永正年間の人。或は曰く正慶年間の人と。

クニスケ　国末　備中青江の刀匠。重末の子。建仁年間の人。或は曰く正慶年間の人と。

前に移る。應永年間の人。

クニスエ　国末　肥後の刀匠。延文年間の人。延壽派。國時の子。四郎と稱す。或は曰く應永年間の人。一說に國村の子。建德元年六十一にして死すと。

クニスエ　国末　肥後菊池延壽派の刀匠。天文頃。

クニスエ　国末　薩摩波平の刀匠。文永弘長年間。

クニタイウ　国太夫（吾妻）　三統家。二代目常磐津文字太夫に學び、初め大和太夫と稱し、天明年間、兼太夫と改め、後齒と絕ちて國太夫と稱す。

クニタイウ　国太夫（都）　**ブンゴノジョウ**（宮古路豐後掾）

クニタカ　邦隆（土佐）　土佐宗家の畫人。經隆の子。畫所預となり、從五位下豐前守に任ず。遺墨に佛畫多し。文永中の人。

クニタカ　国真（津守）　歌人。國貞の二子。五位。新後拾遺集及び新葉集の作家。

クニタカ　国隆（朝岡）　寶曆頃の歌人。通稱新七郎。幕府の小姓組。

クニタカ　国高　攝津の刀匠。仁兵衞と稱す。延寶「年間の人。

クニタカ　国高　越中宇多派の刀匠。應永年間。

クニタカ　国高　肥後菊池の古刀の鍛工。延寶派。

クニタカ　国隆　豊後の刀匠。藤原氏。山上氏、播磨守と稱す。森に住す。國助の門。寛文年間の人。

クニタカ　国山　國包派の刀匠。奥州仙臺に住す。天和年間の人。

クニタカ　シンワウ　国高親王　貞常親王の子。天明六年、後土御門天皇の猶子となり、親王宣下。式部卿に進み、出家して、享祿五年三月薨ず。年七十七。

クニタケ　邦武（宮崎）　國學者。通稱龍藏。伊勢久居の人。文政九年本居春庭の門に入る。

クニタケ　国武（戸田）　國學者。平田篤胤の門。宇都宮の人。鬼貫と號す。

クニタケ　国武　京三條の刀匠。藤原氏。吉則の末。出雲守吉武の父。嘉河國賀の門。寛永年間の人。

クニタケ　国武　大和都山の刀匠。初名國包。村田權兵衞と稱す。後大和守と稱す。菅原氏。中河内の門。貞享元祿年間の人。

クニタケ　国武　新刀の治工。青龍子と號す。慶應「見よ。

クニタケ　国武　薩摩の刀匠。根元金右衞門吉國を或は曰く弘長頃の人。長給に住すと。

クニタケ　国忠　備前の刀匠。建治弘安年間の人。

クニタダ　国忠　筑前の刀匠。左の一派。永享年間。

クニタダ　シンワウ　国忠親王　貞建親王の子。寛永三年親王宣下。後、兵部卿に遷み、寶暦九年五月薨ず。年二十九。

クニタネ　邦胤（千葉）　下總千葉城主。胤實の子。千葉介と稱す。天正十六年其の臣鹽田萬五郎に刺されて死す。

クニタフ　国任　古刀の鍛工。河内の人。

クニタフ　国任　陸奥の刀匠。

クニタラウ　国太郎（依田）　砲兵中尉。神奈川縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月二十六日旅順二龍山に戰死す。

クニタラウ　国太郎（板持）　步兵大尉。島根縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年十月病殁す。

クニタラウ　国太郎（白梁）　步兵少尉。島根縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年十月沙河の戰闘に負傷して死す。

クニタラウ　国太郎（戸山）　國學者。平田篤胤の門人。長谷部氏。山城に住す。文和貞治間の人。或は曰く貞和頃の人。又國信の子。明應年間の人。後、攝津天王寺に住すと。（三世）二世國重の子。長谷部六郎右衞門尉と稱す。後攝津天王寺又伊丹に住す。應永年間の人。

クニシゲ　国重（初世）　江戸の刀匠。下谷に住す。藤原氏。山城守と稱す。武藏大郎の門。後入道して一虎と號す。寛延明和年間の人。（二世）藤原氏。山城守と稱す。明和安永年間の人。江戸に住す。

クニシゲ　国重（初世）　備中水田の刀匠。左兵衞尉重の子。大月三郎兵衞と稱す。慶長年間の人。（二世）三郎兵衞尉重の子。大月氏。與五郎と稱し、有明と號す。寛永年間の人。（三世）大月氏。勝兵衞と稱す。寛文年間の人。水田に住す。

クニシゲ　国重（初世）　備中の刀匠。初代三郎兵衞尉重の門。大月新筆郎と稱す。後阿波に移る。萬治年間の人。（二世）與五郎右衞門と稱す。又備後阿波に住す。延寶年間の人。

クニシゲ　国重（初世）　備中水田の刀匠。大月又七と稱す。後八郎兵衞と改む。元祿年間の人。（二世）大月八郎左衞門と稱す。正德享保年間の人。

クニシゲ　邦成（伊達）　男爵。舊仙臺藩の支族。亘理の城主。通稱藤五郎。邦直の弟。戊辰の役後、減封せられ、北海道の拓殖に從事せんことを請願し、宰臣村額允と謀りて舊臣を移住せしむ。明治十七年十一月二十九日卒す。年六十四。

クニジユマル　国壽丸　シゲノリ（渡瀨繁詮）

クニシロワケ　國背別　景行天皇の皇子。母は皇妃襲武媛。

クニチカ　國親　江戸の金工。通稱士屋喜助治。東雲齋、安昌、雲喜亭、雲峯、龜堂等の別號あり。

クニチカ　國近　山城粟田口の刀匠。五條坊門に住す。弘安正應年間の人。或は曰く吉光の門。永仁嘉元年間の人。又越屋年間の人。

クニチカ　國近　古刀の鍛工。能登寶來の人。

クニチカ　國近　一名助近。薩摩谷山波平の刀匠。延文年間の人。

クニチヨ　國千代（大須賀）　タダツグ（松平忠次）「武藏。

クニチワケ　國乳別　景行天皇の皇子。母は皇女襲武媛。

クニツグ　國次　山城の刀匠。來秀次の子。永德明德年間の人。或は曰く建武頃の人。來國秀の子と。

クニツグ　國次　山城鞍馬關派の刀匠。三世吉次の子。永正年間の人。

クニツグ　國次　京都の刀匠。菅原氏。貞享年間の大和の刀匠。包貝の門。手掻の一派。建武年間の人。

クニツグ　國次　大和長谷の刀匠。字多の末。弘化林氏。八郎左衞門と稱す。武藏大掾、後守と更む。初代河內守國助の次子。寛文延寶年間の人。

クニツグ　國次　相模の刀匠。藤原氏。左衞門尉と稱す。永正年間の人。

クニツグ　國次　江戸の刀匠。和泉守と稱す。越前守國綱の後裔。元祿頃の人。銘に鍋丸を彫る。

クニツグ　國次　武藏五日市の刀匠。寛永安政年間。戸山に住す。

クニツグ　國次　美濃の刀匠。應永後の人。

クニツグ　國次　仙臺の刀匠。大友傳三郎と稱す。

クニツグ　國次　陸奥津輕の刀匠。三之丞と稱す。

クニツグ　國次　備中古刀の作者。源氏。

クニツグ　國次　備中の刀匠。播磨守と稱す。後備後福山に移る。寛文年間の人。

クニツグ　國次　筑後柳川の刀匠。藤原氏。鬼誠長衞の門。

クニツグ　國次　豐後の刀匠。國重の子。文明年間。

クニツグ　國次　肥前の刀匠。國廣の門。寛文年間。

クニツグ　國次　肥後の刀匠。藤原氏。佐衞門尉と稱す。元弘年間の人。

クニツグ　國次　肥後菊池延壽派の刀匠。國末の子。賴母之助と稱す。應安年間の人。或は曰く應安年間の人。同名二世なりと。

クニツグ　國次　肥後熊本の刀匠。又江戸に住す。藤原氏。山城守と稱す。延寶年間の人。

クニツグ　國次　日向の刀匠。姉川國富の第二世。元祿年間の人。

クニツグ　國次　薩摩の刀匠。藤原氏。李左衞門正（初世）山城の刀匠。源氏。來氏。長谷部氏を稱し、三右衞門と稱す。來國俊の門。世稱して鎌倉の來と云ふ。元應元德年間の人。或は曰く正和頃の人。國行の外孫と。（二世）源氏。來氏。初名國秀。鎌倉に住す。正慶年間の人。

クニツグ　國次　（初世）美濃の刀匠。山田關の一派。文明應年間の人。銘字國を國に作る。故に世之を民國次と呼ぶ。（二世）永正享祿年間の人。美濃に住す。銘字父と大同小異。

クニツグ　國次　（初世）陸奥名取の刀匠。藤原氏。河內守。晩に休緣と號す。田代清貞の門。又江戸に住す。寛永延寶年間の人。（二世）大友總十郎と稱す。正德享保頃の人。（三世）大友藤助と稱す。七世國包の門。寶曆頃の人。

クニツグ　國次　（初世）越前下坂派の刀匠。藤原氏。山田七郎兵衞。山城大掾と稱す。大和大掾正則の長子。寛永五年法橋に叙し、高綱と號す。明年六十五歲にして歿す。銘菊花を彫る。（二世）其助と稱す。寛永六年山城大掾と稱す。越前、京、江戶、信濃、松代に住す。銘赤菊を刻す。（三世）七郎兵衞と稱す。寛文元年山城大掾と稱す。

クニツグ　國次　（初世）紀伊粉川派の刀匠。應永年間の人。銘の國字圀に作る。故に世之を善戶國次と呼ぶ。或は曰く永享長祿年間の人。又則實の子。明應年間の人。又本國大和と。（二世）明應永正年間の人。紀伊に住す。銘の字體父と異なり。

クニツグ　國繼　大和古刀の鍛工。寶治年間の人。

クニツグ　國繼　靈津の刀匠。神刀丸有銘を看よ。

クニツグ　國繼　越前の刀匠。藤原氏。下坂氏。後京仁に移る。寛永年間の人。

クニツグ　國繼　備前の刀匠。基包の子。治暦承保「年間の人。

クニツグ　國繼　備前長船の刀匠。助高の子。寛治年間の人。或は國綱に作る。

クニツグ　國繼　備前の刀匠。保元平治頃の人。

クニツグ　國繼　備前福岡の刀匠。則宗の門人、備前太夫、又太郎左衞門と稱す。後信濃善光寺にて削髮し、悟と號る。文治建久年間の人。

クニツグ　國繼　備前の刀匠。初代國宗の子。建長頃の人。

クニツグ　國繼　豐後古刀の鍛工。紀の派。弘安頃「の人。

クニツグ　國繼　肥後菊池の刀匠。延喜の末。天文年間の人。

クニツグ　國亞　日向穆部の刀匠。田中國昌を看よ。

クニツグ　國壬　河內の古刀の治工。

クニツナ　國繩　備前の刀匠。建武頃の人。

クニツナ　國綱（宇都宮）　豐臣秀吉の臣。廣綱の子。小字彌三郎、一に權太郎に作る。後三郎左衞門と改め、下野守と稱す。慶長十二年十二月卒す。

クニツナ　國綱　山城粟田口の刀匠。藤原氏。林氏。國家の六子。隱岐の番鍛冶に徵され、藤六郎と稱す。元久年間鎌倉幕府の命に應じ、相摸山內に移住す。名刀鬼丸の作者。或は曰く一名善明、又神祖と稱すと。

クニツナ　國綱　山城粟田口の刀匠。吉光の弟子。又藤原氏。

クニツナ　國綱　山城粟田口の刀匠。源氏。初代忠綱。大和の刀匠。寶治建長年間の人。

クニツナ　國綱　大和古刀の鍛工。紀の派。弘安頃の人。或は藤六國綱と同人と。

クニツナ　國綱　出羽永居の刀匠。國秀の子。享和年間の人。

クニツナ　國綱　古刀の鍛工。遠江の人。或は曰く貞永年間。又建長頃の人。或は藤六國綱と同人と。

クニツナ　國綱　三河の刀匠。國盛の子。永享年間の人。或は曰く應王寺の一派、中原氏なりと。又正安年間の人。

クニツナ　國綱　伊賀の刀匠。貞治年間の人。

クニツナ　國綱　伊賀の刀匠。左兵衞尉と稱す。音阿彌の子。

クニツナ　國綱　越前下坂の刀匠。藤原氏。又江戶に住す。貞享年間の人。新作の銘に對鶴を彫る。

クニツナ　國綱　越中宇多派の刀匠。文明年間の人。

クニツナ　國綱　備前の刀匠。光宗の子。延久承保年間の人。或は曰く助高の子。永久保安年間の人と。

クニツナ　國綱　備前の刀匠。元暦頃の人。

クニツナ　國綱　備前長船の刀匠。三郎國宗の次子。太郎左衞門と稱す。文永弘安年間の人。後信濃善光寺の僧となる。

クニツナ　國綱　備前の刀匠。元弘頃の人。

クニツナ　國綱　一名國宗。備前長船の刀匠。景光の子。彌五郎と稱す。正平頃の人。或は曰く守助の門。元中年間の人。同名二世ありと。

クニツナ　國綱　備前長船の刀匠。國綱を看よ。

クニツナ　國綱　備中足守の刀匠。水田流。應兵衞國重の門。水田五郎兵衞と稱す。延寶年間の人。

クニツナ　國綱　阿波德島の刀匠。新刀の作者。

クニツナ　國綱　豐後高田の刀匠。利成の子。康治仁平年間の人。或は曰く承安年間の人。行平の父と。

クニツナ　國綱　豐後古刀の鍛工。或は曰く紀の派。有平の子。文暦頃の人。或は長承年間の人。又國繩に作るとも。

クニツナ　國綱　豐後紀の派の刀匠。光恒の子。乾元年間の人。或は曰く承久年間の人と。又國繩に作る。又同名二世なりと。

クニツナ　國綱　豐後の刀匠。或は國繩に作る。一名行平。平氏。大和守と稱す。又京及び備中に住す。寛永年間の人。

クニツナ　國綱　「三郎四郎と稱す。應安頃の人。

クニツナ　國綱　肥後の刀匠。延喜國友の子。兵衞尉と稱す。

クニツナ　國綱　肥後の刀匠。延喜三郎四郎と稱す。延喜の末孫。菊池に住す。國泰の子。文明年間の人。或は曰く應永頃の人と。

クニツナ　國綱　「薩摩に住す。

クニツナ　國綱　新刀の作者。野村薩摩之丞と稱す。

クニツナ　國綱　新刀の作者。橫田氏。作左衞門尉と稱す。

クニツナ　國綱　（初世）肥後菊池の刀匠。延喜初代國吉の子。左衞門尉と稱す。正平年間の人。或は曰く延文貞治頃の人。又國綱に作る。或は應永年間の人。國時の次子。或は貞治四年に歿す。年六十九と。（二世）初代國綱の子。菊池に住す。永德年間の人。或は曰く正長永享年間の人と。

クニツナ　國綱（粟田口）　有名の鍛工。國賴の孫。有國の弟。通稱藤六。左近將監と稱す。後鳥羽上皇に從ひて隱岐に赴き、五六兩月の番鍛冶たり。其の歸るに及びて、鎌倉に歸る。建長七年歿す。年九十三。

「古今集及び撰古今集の作家。

クニツネ　國經（藤原）　歌人。長眞の子。大納言。

クニツネ　國經　備前直宗派の刀匠。國綱の子。永仁德治年間の人。

「應安元年歿。年六十五。

クニツネ　國常　肥後の刀匠。延喜の流。國信の子。作之進と稱す。上野守。萬治年間の人。（二世）初め下野守と稱し、後上野守に改む。貞享年間の人。美濃に住す。

クニツネ　國常　加賀新刀の鍛工。吉兵衞尉と稱す。

クニツネ　國恒　越前下坂派の刀匠。初名國宗。藤原氏。出羽大掾と稱す。寛文年間の人。又京及び大阪にて造る。

「掾と稱す。延寶年間の人。

クニテル　國照　武藏法城寺派の刀匠。橘氏。伯耆大**クニテル　國照**　薩摩山城派の刀匠。橘氏。根元平入と稱す。傘右衞門吉國の子。寶曆年間の人。

クニテル　國輝　攝津大阪の刀匠。藤原氏。出羽大掾と稱す。延寶年間の人。

クニテル　國輝　大阪の刀匠。初名國英。小林氏。肇之助と稱す。初代河內守國助の四子。寛文十一年伊勢大掾と稱す。明年守に更む。

クニテル　國輝　（初世）伊豫松山の刀匠。初名長清。藤原氏。三好太郎兵衞と稱す。藤四郎長國の門人。寛文の初年、和泉大掾と稱し、國輝と改む。（二世）初名輝政。五郎右衞門と稱す。本攝津大阪の松山に移り、三好國輝の後を承け、和泉守國輝と稱す。（三世）藤四郎。和泉大掾と稱す。京の二世久道の門人。（四世）藤四郎と稱す。松山に住す。（五世）初名長次。庄右衞門と稱す。明和年間の人。

「集集の作家。

クニトキ　國時（平一）　歌人。時國の子。陸奥守。玉造人。小林國輝の門。陸奥守輝政と稱す。元祿中、伊豫

クニトキ　國時　大和當麻の刀匠。正安頃の人。或は曰く弘文永頃の人。俊行の子なりと。

クニトキ　國時　山城の刀匠。堀河國廣の門。寛永年間の人。

クニトキ　國時　古刀の鍛工。備前長船の人。

クニトキ　國時　豊後の刀匠。國宗の子。應永年間。

クニトキ　國時　肥後菊池延壽派の刀匠。延壽三郎と稱す。

クニトキ　國時　肥後菊池の刀匠。延壽國村の子。

クニトキ　國時　肥後菊池の刀匠。大寺氏。寛文年間。

クニトキ　國祝　肥後菊池の刀匠。國日出の門。文化年間の人。

クニトキコタチノカミ　國常立神　天地剖判の時、始めて地上に生ぜし神。

クニトシ　國利　大和の刀匠。治曆年間の人。

クニトシ　國利　備前の刀匠。文保年間の人。國長の子。永仁德治年間の人。長船に住す。或は正應年間の人。或は曰く文和年間の人と。

クニトシ　國利　土佐の刀匠。木村代四郎。上野大掾（初世）幾鍬の刀匠。濱房の子。寶治年間の人。或は曰く正應年間、又正中年間の人。高市に住し、藤五郎と稱す。或は嘉祿頃の人と。（二世）初代の子。弘長年間の人。幾鍬に住す。

クニトシ　國俊（宇野）　伊豆の人。元弘三年楠松圓心と共に六波羅を攻む。

クニトシ　國俊　山城綾筒の刀匠。來氏。孫太郎國俊の門。正中年間の人。生國は大和。

クニトシ　國俊　山城の刀匠。了戒と曾稱す。應永年間の人。

「年間の人。

クニトシ　國俊　出羽の刀匠。月山と曾稱す。明應

クニトシ　國俊　丹後國の刀匠。來氏。紫貞の子。來孫太郎國俊の門。元應年間の人。或は曰く貞和年間の人と。

クニトシ　國俊　丹後國の刀匠。國光の子。國俊の孫。應永年間の人。

「年間の人。

クニトシ　國俊　豊後玖珠の刀匠。國宗の子。應永

クニトシ　國俊　肥後菊池延壽派の刀匠。國日出の子。田中綠之助と稱す。文化年間の人。

クニトシ　國俊　新刀の鍛工。源氏。近江守と稱す。

クニトシ　國俊　江戸の刀匠。源氏。岩井鬼神丸と稱す。

クニトシ　國俊　（初世）山城の刀匠。源氏。來氏。孫太郎と稱す。來國行の子。正應嘉曆年間。或は弘安正應年間、又は弘長文永頃の人。世に二字國俊と呼ぶ。或は曰く老後國行と稱すと。（二世）初代の子。孫太郎と稱す。永仁年間の人。或は曰く建武年間の人と。

クニトシ　國年　山城の刀匠。來氏。國行の門。貞

和年間の人。或は曰く國俊の門。櫛笥に住す。廉安頃の人。生國大和。或は文和三年歿。年三十一と。

クニトシ　國歲　國一に作る。山城の刀匠。來氏。國行の三子。元應年間の人。或は曰く國俊の門。正和頃の人。元弘元年歿す。年五十五と。

クニトミ　國富　日向の刀匠。井上眞改の門。天和年間の人。

クニトミ　國富　長門萩の刀匠。一名元喜。源氏。初め藤原氏。佐波大掾、後佐渡守と稱す。又江戸及び陸奥出雲に住す。寛永萬治年間の人。

クニトミ　國富　薩摩の刀匠。奥國平の門。濱田仲八と稱す。享保年間の人。

クニトモ　國納　出羽米澤の刀匠。初名綱道。文政年間の人。

「演段拾遺を著す。

クニトモ　國具（奥村）　堺の數學者。寛延三年算法

クニトモ　國友（粟田口）　國家の長子。通稱奥左衞門。一に藤左衞門に作る。藤林と號す。後鳥羽院の六月の番鍛冶たり。建保元年歿す。年六十七。

クニトモ　國友　大和古刀の鍛工。千手院の派。

クニトモ　國友　奥州津輕の刀匠。吉世の子。享保年間の人。

クニトモ　國友　越中宇多派の刀匠。友則の子。永德年間。或は曰く貞和年間の人。國光の門。同名三世に遙ぶと。

クニトモ　國友　越中宇多の刀匠。二世國宗の門。寛德年間の人。或は曰く應永頃の人と。

クニトモ　國友　備前の刀匠。德治頃の人。雲生を着よ。

クニトモ　國友　備前長船の刀匠。應永年間の人。

クニトモ　國友　備前長船の刀匠。文明年間の人。

クニトモ　國友　備中の刀匠。天文永祿年間の人。

クニトモ　國友　伊豫の刀匠。國永の弟。正中年間。

クニトモ　國友　新刀の鍛工。土佐の人。藤原氏。

クニトモ　國友　肥後の刀匠。藤原氏。左衞門尉と稱す。

クニトモ　國友　肥後菊池の刀匠。

クニトモ　國友　肥後菊池の刀匠。隼人と稱す。延喜年間の人。

「治年間の人。

クニトモ　國儔　陸奥盛岡藩士。治刀を善くす。元刀匠。藤原氏。越後守と稱す。慶長寬永年間、山城一條堀河に住す。もと日向飫肥の人。

クニトモ　國儔　刀匠。藤原氏。出羽大掾と稱す。

クニトヨ　國豊（津守）　歌人。五位。新撰古今集の

「を看よ。

クニトラ　國虎　江戸の刀匠。一名國彦。源氏。竹中一德齋と稱す。嘉永安政年間の人。

クニトラ　國虎　奥州磐城の刀匠。井上眞改の門。藤原氏。和泉守と稱す。貞享正德年間の人。

クニナカ　國中　越中宇多流の刀匠。延德年間の人。

クニナガ　國長（親部）　歌人。稱覺。資長の子。四位。新千載諸集の作家。

クニナガ　國長（源）　歌人。四位。左馬頭。參康の子。新後撰、玉葉、續後拾遺、續千載、風雅、新千載、新拾遺諸集の作家。

クニナガ　國長（多治見）　美濃の人。土岐業頼の一族。四郎二郎と稱し、藏人たり。後醍醐天皇の北條高時を鉄せんとするや、業頼と共に京師に參直し、謀に與りしが、事洩れ、家を圖されて死す。

クニナガ　國長（歌川）　浮世繪師。通稱權千之助。一雲齋と號す。江戸の人。文政年中歿す。年四十餘。

クニナガ　國長　山城粟田口の刀匠。有國の族。孫太郎と稱す。寛元年間の人。

クニナガ　國長　山城の刀匠。香原氏。長吉の子。京都に住す。正平頃の人。

「頃の人。

クニナガ　國長　大和古刀の鍛工。千手院の派。元曆

クニナガ　國長　攝津の刀匠。寛文年間の人。

クニナガ　國長　奥州の刀匠。慶長年間の人。

クニナガ　國長　越前金津の刀匠。權三と稱し、殿得と號す。建武年間の人。或は曰く延慶頃の人。又元應年間の人。

クニナガ　國長　能登笠師の刀匠。應永年間の人。

クニナガ　國長　越中宇多の刀匠。長綠年間の人。或は曰く文明頃の人。又國房の子。應永、又正平年間の人と。

クニナガ　國長　越中の刀匠。天正年間の人。

クニナガ　國長　越中の刀匠。寛文年間の人。

クニナガ　國長　備前の刀匠。直宗の流。國眞の子。

「の子。建長年間。

クニナガ　國長　古刀の鍛工。備前長船の人。國永の子。正應年間。

クニナガ　國長　伊豫の刀匠。藤原氏。本國は奥濃。

クニナガ　國長　伊豫の刀匠。寛文年間の人。

クニナガ　國長　豊前楠森の刀匠。石田政助と稱す。

天保弘化年間の人。

「年間の人。

クニナガ　國長　肥後同田貫の刀匠。藤原氏。慶長

クニナガ　國長　（初世）山城の刀匠。來氏。來國俊の門。國永の子。

攝津中島に住す。中島來と稱す。元

徳年間。或は正和文保年間の人。（二世）初代の子。中島に住す。後備前に移住す。正平應安年間。或は延元貞和年間の人。（三世）二世の子。中島に住す。永享年間。或は延文年間の人。

クニナガ 國長（初世）美濃の刀匠。藤原氏。赤坂千手院の祖。延文永徳年間の人。或は曰く赤坂千手院の派。泉水の子。道印と號す。建長年間。或は正應頃の人。（二世）初代の子。美濃に住す。應永年間の人。或は曰く文永年間。或は正應年間。或は文保又は文和年間の人。（三世）美濃に住す。永享年間の人。或は曰く康應頃の人と。（四世）赤坂に住す。明應年間の人。

クニナガ 國長 ゴンザウ（金津權三）

クニナガ 國永 山城三條派の刀匠。有國の子。國太郎と稱す。寛仁長元年間の人。或は保元年間の人と。

クニナガ 國永 山城の刀匠。彌太郎と稱し、四條に住す。長暦頃の人。或は曰く三條派。源太郎と稱す。又天喜康平年間の人と。

クニナガ 國永 山城五條の刀匠。兼永の子。秦氏。彌太郎と稱す。天喜年間の人。

クニナガ 國永 山城の刀匠。來氏。吉太郎と稱す。孫太郎國永の門。文保元應年間の人。

クニナガ 國永 大和の刀匠。東大寺乙太郎と稱す。古刀の作者。或は曰く重弘の弟。文治建久年間の人。二王の門。源氏。河内守と稱すと。

クニナガ 國永 攝津の刀匠。天和貞享年間の人。源氏。武藏守と稱す。

クニナガ 國永 武藏の刀匠。寶永年間の人。

クニナガ 國永 陸奥の刀匠。光長の子。正暦年間。

クニナガ 國永 陸奥鮫草の刀匠。正泰の門。承保年間。或は康暦年間の人。

クニナガ 國永 陸奥南部の刀匠。山内氏。新藤國義の門。正徳年間の人。享保十六年歿す。

クニナガ 國永 備前の刀匠。直宗の流。太郎と稱す。寶治年間の人。

クニナガ 國永 備前長船の刀匠。行利の門。寛元年紀伊の刀匠。武藏江戸に移る。一に國長に作る。高木氏。天和年間の人。

クニナガ 國永 伊豫の刀匠。國吉の弟。正安年間の人。或は曰く照覺の門。又文和年間の人。

クニナガ 國永 筑前の刀匠。保安年間の人。

クニナガ 國永 筑後三池の刀匠。或は曰く義行の子。保安頃の人。

クニナガ 國永 肥後の刀匠。延喜の頃。菊池に住す。

クニナガ シンワウ 邦永親王 後二條天皇の長子。正中二年三月二十日薨ず。年二十。

クニナガ シンワウ 邦良親王 クニフサシンワウ 邦永親王 貞致親王の子。靈元天皇の第六子。享保十一年一品に進み、奉ぎて薨ず。年五十一。

クニナツ 國夏（津守） 歌人。攝津住吉社の祭主。後醍醐帝の北條氏を討ずるや、敕して平定を祈らむ。北條氏滅びて從三位に陞る。幾くもなくして卒す。撰千載、續後撰、風雅、新千載、新拾遺、新續古今、續拾遺、新後撰、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クニナホ 國直（大森） 國學者。通稱邦三郎。伊勢人。浮世庵烟柳樓と號す。後青川四郎兵衛といひ、翫樂齋と號す。文化天保年間の人。

クニナホ 國直（伊達） 蒼仙盛澤主の一門。岩出山の基主。戊辰の亂後、伊達邦成と謀りて北海道開拓に盡力し、明治二十四年一月十二日歿す。

クニナホ 國直 山城古刀の鍛工。或は曰く備前。京に在りし時の名なりと。或は備前國長の四子。備前四郎と稱し、六波羅に住す。嘉祿仁治年間の人と。

クニナホ 國直 常陸笠間の刀匠。中葉國安の門。川田鍛兵衛と稱す。又江戸に住す。文化年間の人。

クニナホ 國直 伯耆の刀匠。本國は備前。貞和年間の人。或は曰く正平年間。同名二世なりと。

クニナホ 國直 播磨の刀匠。貞應頃の人。小川に住す。

クニナホ 國直 元治年間の刀匠。渡邊重次郎と稱す。

クニナホ シンワウ 邦尚親王 貞崇親王の子。母は宇喜多秀家の女。寛永三年親王宣下。承應二年十一月薨ず。年四十一。

クニナリ 國成（和氣） 醫。典藥少允。參三河守。

クニナリ 國成 越中宇多派の刀匠。國正の子。文明年間の人。或は曰く明應頃の人と。

クニノクヒザモチノカミ 國之久比奢母智神 速秋津日子神の子。天之久比奢母智神の第。

クニノクラドノカミ 國之闇戸神 大山津見神の第六子。天之闇戸神の第。

クニノサギリノカミ 國之狹霧神 大山津見神の第四子。天之狹霧神の第。

クニノサッチノカミ 國之狹土神 大山津見神の第二子。天之狹土神の第。

クニノジヨウ 國之丞（金井） 志士。摂玉縣大里

郡の人。筑波及び太平山の擧に應じて轉戰し、武田耕雲齋に從ひて加賀藩の軍門に降り、斬らる。年十八。大正元年贈從五位。

クニノスケ 國之助（大和） 長州藩士。名は眞利。初め彌八郎と稱す。江戸留守居に擢でらる。辭して航海に從事す。横濱の夷館を燒かんと欲し、事露れて止む。後世子の番頭となり、直目附に轉ず。元治元年捕へられ、十二月十九日斬らる。年三十。明治二十四年贈正四位。

クニノスケ 國之助（西岡） 勤王家。下野の人。元治元年藤田小四郎等の擧兵に與し、十月古河藩の兵と戰ひて死す。

クニノスケ 國之助（池谷） 步兵中尉。靜岡縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月十日盛京省魚鱗堡に負傷し、同十一日歿す。

クニノブ 國延 山城古刀の鍛工。來氏。或は曰く文明年間の人。或は曰く國吉の子。藤一郎、後五郎左衛門尉と稱す。相摸縣倉に移住し、左馬允と稱す。文暦仁治年間の人。又國吉の門。弘長建治年間の人と。

クニノブ 國信（源） 歌人。顯房の子。權中納言。金葉、詞花、千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、續後拾遺、風雅、新千載、新續古今諸集の作家。

クニノブ 國信（武田） 初守彦太郎。治部少輔、大膳太夫と稱す。康正二年安藝國佐伯郡を領し、毛利照元、大内敎弘等の軍と兵を交へ、應仁元年相川勝元に屬し、屢京師に戰ふ。文明三年小濱城に居り、延徳二年六月卒す。

クニノブ 國信（狩野） 畫家。狩野氏第十四世。探秀と號し、後紺渕と改む。實は探牧の子。泰信に養れて宗家を繼ぐ。

クニノブ 國信 ドウゲン（狩野洞元） 山城大宮の刀匠。保安年間の人。

クニノブ 國信 山城了戒派の刀匠。來氏。正慶年間「武年間の人。

クニノブ 國信 山城綾小路の刀匠。定則の子。應永年間の人。

クニノブ 國信 山城五條の刀匠。長谷部氏。初代國重の子。綾小路彌太郎と稱す。正平頃の人。國重の弟。

クニノブ 國信 武藏水田流の刀匠。大月左衛門と稱す。山城大掾に拜す。與左衛門國定の子。又備中備後越後に住す。元祿年間の人。

クニノブ 國信 陸奥盛岡の刀匠。源氏。新藤平兵衛と稱す。元祿年間の人。

クニノブ 國信 越中宇多派の刀匠。天文年間の人。

クニノブ 國信 備前長船の刀匠。圓房の門。永享嘉吉年間の人。

クニノブ 國信 肥前の刀匠。文明年間の人。

クニノブ 國信 肥後菊池延壽派の刀匠。延壽國守の第。或は曰く國村の弟。正平十七年歿す。

クニノブ 國信 肥後菊池延壽派の刀匠。延壽國守の第。或は曰く國村の弟。正平十七年歿す。天明中國信に改む。文化元年歿す。年六十四。

クニノブ 國信 刀匠。三ツ田茂助と稱す。國重の門。元治年間の人。

クニノブ 國伸（渡邊） 歌人。通稱邦藏。武藏葛飾郡西大輪村の人。戸賀崎寫道に學ぶ。安政元年十二月四日歿す。年四十七。

クニノブ 國信 肥後菊池延壽派の刀匠。國村の門。五世の孫。初名生茂。田中八左衛門と稱す。天明中國信に改む。文化元年歿す。年六十四。

クニノブ 國信 刀匠。三ツ田茂助と稱す。國重の門。元治年間の人。

クニノブ 國信 ドウゲン（狩野洞元） 山城大宮の刀匠。保安年間の人。

クニノブ 國信 山城了戒派の刀匠。來氏。正慶年間「武年間の人。

クニノブ 國信 山城綾小路の刀匠。定則の子。應永年間の人。

クニノブ 國信 山城五條の刀匠。長谷部氏。初代國重の子。綾小路彌太郎と稱す。正平頃の人。國重の弟。

クニノブ 國信 武藏水田流の刀匠。大月左衛門と稱す。山城大掾に拜す。與左衛門國定の子。又備中備後越後に住す。元祿年間の人。

クニノブ 國信 陸奥盛岡の刀匠。源氏。新藤平兵衛と稱す。元祿年間の人。

クニノブ 國信 越中宇多派の刀匠。天文年間の人。

クニノブ 國信 備前長船の刀匠。圓房の門。永享嘉吉年間の人。

クニノブ 國信 肥前の刀匠。文明年間の人。

クニノブ 國信 肥後菊池延壽派の刀匠。國村の門。德治頃の人。或は曰く國村の弟。正平十七年歿す。

クニノブ 國信 肥後菊池延壽派の刀匠。延壽國守の第。五世の孫。初名生茂。田中八左衛門と稱す。天明中國信に改む。文化元年歿す。年六十四。

クニノブ 國信 刀匠。三ツ田茂助と稱す。國重の門。元治年間の人。

クニノブ 國伸（渡邊） 歌人。通稱邦藏。武藏葛飾郡西大輪村の人。戸賀崎寫道に學ぶ。安政元年十二月四日歿す。年四十七。

クニノミクマリノカミ 國之水分神 速秋津日子神の第。

クニノミヤニ アメノシタシロシメシシ スメラミコト 恭仁宮御宇天皇 シヤウムテンワウ（聖武天皇）

クニノリ 國則 山城京五條の刀匠。左衛門尉と稱す。嘉祿年間の人。或は貞應年間、又は貞觀年間。

クニノリ 國則 備前の刀匠。元歴以前の人。

クニノリ 國則 備前の刀匠。片山鳥飼の子。後備中に住す。永德年間の人。同名二世に及ぶ。

クニノリ 國則 備中古刀の鍛工。弘家の子。片山正平頃の人。

クニノリ 國則 備中の刀匠。松山水田流の祖。大「永年間の人。

クニノリ 國則 攝津の刀匠。源氏。延寶年間の人。

クニノリ 國法 伊豫の刀匠。永享年間の人。或は曰く國吉の子。長祿年間の人と。

クニノリ 國德 山城堀川派の刀匠。橋氏。寛永年間の人。「寛永年間の人。

クニノリ 國德 伊豫宇和島の刀匠。通稱源次郎。

クニノリ 邦矩（川北） 國學者。通稱四郎兵衛。伊勢津の人。文政七年本居春庭の門に入る。

クニノリワウ 邦憲王 貞陽宮。明治四十二年十二月八日薨ず。年四十三。

クニバシラ 國柱（白尾） 國學者。本邑宣長の門。薩摩藩士。通稱嘉藏、飯川、又瑞穗と號す。藩主重豪の命を蒙りて成形圖說を著す。文政四年二月十五日歿。年六十。

クニハル 國春 攝津の刀匠。源氏。市左衛門と稱す。祐春の門。貞享頃の人。

クニハル 國春 田羽矢島の刀匠。宮崎重吉と稱す。國重の門。元治年間の人。

クニハル 國治 大和の刀匠。弘長年間の人。或は曰く千手院派、十市に住すと。來氏。武五郎と稱す。

又武藏江戸に住す。正德年間の人。

クニハル 國治 仙臺の刀匠。太衛源太左衛門と稱す。元祿年間の人。

「應永頃の人。

クニハル 國治 肥後の刀匠。永正大永年間の人。

クニヒコ 國彦(貴島) 薩摩の人。幼名卯太郎。後清と改む。陸軍少佐たり。職を辭して、西南の亂に與す。遂に敗死す。

クニヒコ 國彦 倂人。飯塚氏。胡蘆庵國甫の門。

クニヒコ 國彦(澄川) 國學者。本居大平の門。通稱繁右衛門。石見三隅の人。

クニヒコ 國彦(平田) 勤王の志士。名は高邦、字は彦通。長州の人。文久三年七卿を護して歸國し、元治甲子の變に奮戰して死す。

クニヒコ 國彦(梁田) ゼイガン(梁田蛻巖) クワアン(松井蝸庵)

クニヒコ 邦彦(遠谷) 國學者。本居大平の門。通稱平八。紀伊日高郡の人。

クニヒコ 久爾彦(佐々木) 海軍中軍醫。大正二年二月十二日歿す。

クニヒサ 國久 山城粟田口の刀匠。有國の門。貞應年間の人。求は曰く有國の流。又五郎と稱し、後弘安頃の人と。

クニヒサ 國久 山城古刀の鍛工。來氏。求は曰く子或の族。信濃に住し、右馬允と稱す。正慶年間の人。吉永の子と。

クニヒサ 國久 攝津の刀匠。源氏。二世伊勢守國吉の門。貞享年間の人。

「寛文年間の人。

クニヒサ 國久 奥州若林の刀匠。二世國包の門。

クニヒサ 國久 備前の刀匠。磨仁頃の人。

クニヒサ 國久 古刀の鍛工。備前長船の人。文明年間の人。

クニハル 國久 伊豫古刀の鍛工。求は曰く國盛の流。應永年間の人。

「應永頃の人。

クニヒサ 國久 肥前高來の刀匠。天文元龜年間の人。

クニヒサ 國久 肥前の刀匠。永正大永年間の人。

クニヒサ 國久 新刀の鍛工。友山入道と號す。

クニヒサ 國久(初世) 越中宇多流の刀匠。初代國宗の子。應永享年間の人。求は曰く國房の三子。

クニヒサ 國久(二世) 初代の子。寶德年間の人。求は應安年間の人。國時と稱す。

クニヒサ 國久(三世) 文明年間の人。

クニヒサ 國久(四世) 弘治年間の人。

クニヒサ 國久(尼子) 經久の第二子。紀伊守と稱す。天文九年尼子晴久に屬して吉田に戰ひ、伯耆に入り、武田常信を援て還る。是より威武大に振ふ。世之を稱して新宮黨といふ。人あり晴久に告げて曰く國久頃日毛利元就に通ずと。晴久危懼し、天文二十三年十一月遂に國久を殺す。

クニヒサ 國久(津守) 歌人。國量の二子。五位。

クニヒサ 國尚(金春) 幕臣。通稱之丞、又總左衛門と改め、川井與左衛門と改め、小普請役に至り、享保十三年十一月五日歿す。年四十九。

クニヒデ 邦秀(大島) 陸軍中佐。靜岡縣人。明治九年十月十二日熊本山口藩岡三縣の賊徒追討の役に戰死す。

クニヒデ 國秀 山城粟田口の刀匠。國清の門。承久頃の人。求は國吉の次子、左近太郎と稱す。

クニヒデ 國秀 山城の刀匠。來國次の子。二世來國次と同人なり。求は曰く彦太郎と稱す。與國五年間の人。

クニヒデ 國秀 伊豫古刀の鍛工。求は曰く國盛の流。應永年間の人。

クニヒデ 國秀 肥前高來の刀匠。天文元龜年間の人。

クニヒデ 國秀 山城の刀匠。和泉守と稱す。文化頃の人。

クニヒデ 國秀 相模の刀匠。橘重人と稱す。一貫齋の門。

クニヒデ 國秀 奥州二本松の刀匠。又武藏江戸に住す。古山東藏と稱す。水心子正秀の門。後宗次と改む。

クニヒデ 國秀 出羽永居の刀匠。水心子正秀の門。加藤勘四郎と稱す。享和年間の人。

クニヒデ 國秀 越前の刀匠。應仁年間の人。求は曰く越中宗津派。

クニヒデ 國秀 備前古刀の鍛工。求は曰く正平頃の人。後備中片山に移る。

クニヒデ 國秀 備中古刀の鍛工。求は曰く貞應年間の人。青江に住す。求は元曆文治年間の人と。

クニヒデ 國秀 備中青江の刀匠。則國の子。正平頃の人。

クニヒデ 國秀(田中) 肥後の刀匠。初名國延、晩に國日出に改む。延喜國村の末孫。國信の子。田中善助と稱す。水心子の門。文化頃の人。

クニヒデ 國秀 肥後の刀匠。延喜の齋。國秀の二世。嘉永元治年間の人。

クニヒデ 國日出 肥後の刀匠。田中國秀を見よ。

クニヒト 國人(多治比) 萬葉集の作家。天平八年從五位に叙せられ、十年民部少輔に任ぜらる。

クニヒト 國人(武生) 王仁の孫。萬葉集の作家。遠妊を賜り、又改めて史姓を賜はる。

クニヒラ 國平(津守) 歌人。經國の子。住吉社の禰宜。攝津守に任ぜらる。續後撰、續古今、續拾遺、後撰、新撰千載、續後拾遺、新後拾

遺、新續古今諸集の作家。

クニヒラ 國平(近藤) 讃岐守護職。通稱七郎。國澄の次子。源賴朝に仕へて治績あり。

クニヒラ 國平(野口) 國學者。本居大平の門。通稱平兵衛。伊勢一志郡の人。

クニヒラ 國平 山城の刀匠。長谷部氏。初代國重の子。延文年間の人。求は曰く初代國重の次子。正慶建武年間の人。延文二年歿す。年四十九。求は初代國重の門。猪熊に住すと。

クニヒラ 國平 陸奥の刀匠。賴安を見よ。

クニヒラ 國平 攝津の刀匠。眞改の門。後日向飫肥に移る。藤原氏。河崎作兵衛と稱す。國義の父。寬文正德年間の人。

クニヒラ 國平 加賀の刀匠。陀羅尼派、家弘の父。藤原氏。松戸吉兵衛と稱す。貞享貿永年間の人。

クニヒラ 國平 加賀の刀匠。文化文政年間の人。

クニヒラ 國平 加賀の刀匠。彌崎清次郎と稱す。弘化嘉永年間の人。

クニヒラ 國平 越中宇多流の刀匠。明應年間の人。求は曰く文安頃の人と。

クニヒラ 國平 豐後府内高田の刀匠。藤原氏、山城大掾と稱す。寬文年間の人。初名義行。

クニヒラ 國平 薩摩の刀匠。藤原氏。初名忠金、次に包善、後國平と更む。奥太郎、次郎左衛門父總兵衛と稱す。奥忠清の從弟。其の門に學び、後總左衛門正房に從ふ。元祿寶曆年間の人。

クニヒロ 邦廣(松前) 本廣の第六子。同家十一世の主。志摩守。寬保三年卒す。年三十九。

クニヒロ 國弘(大中臣) 畫人。主稅吏生。

クニヒロ 國弘 山城の刀匠。承元年間の人。求は曰く左近國綱の門。粟田口に住し、後加賀に住す。寬喜年間の人。求は國綱の子、藤源次と稱し、山内に住す。天福嘉祿年間の人。求は國綱の別名と。

クニヒロ 國弘 京古刀の鍛工。一に國廣に作る。應安頃の人。

クニヒロ 國弘 大和の刀匠。應永年間の人。求は曰く千手院の派。嘉元頃の人と。

クニヒロ 國弘 攝津の刀匠。貞享頃の人。堀川國廣四世と同人ならん。

クニヒロ 國弘 相模山内の刀匠。平治頃の人。爲相模の刀匠。國廣と同人。求は曰く二世國房の次子と。

クニヒロ 國弘 備前の刀匠。永延寬仁年間の人、古流の祖と。

クニヒロ 國弘 備前長船の刀匠。應永年間の人。求は曰く廣直の門。求は廣直の子、延元又應安頃の人。又京に住すと。

クニヒロ 國弘 安藝の刀匠。本國は筑前、左の派。康永年間の人。安藝の左と稱す。

クニヒロ 國弘 筑前の刀匠。左定行の子。求は左の婿。求は左の族。求は吉弘の子といふ。正平頃の人。

クニヒロ 國廣(小林) 大阪の人。下總國海邊新地に移り、開墾を勉め、淺草海苔を製し、鉅萬の富を成す。慶長九年江戸淺川に西光寺を建つ。元和年間歿す。

クニヒロ 國廣 山城一條の刀匠。信濃守と稱す。永祿年間の人。求は曰く天正年間の人。日向より上京し、一條堀川に住すと。

クニヒロ 國廣 山城古刀の鍛工。來氏。

クニヒロ 國廣 永享年間の刀匠。長谷部氏。來の一古刀の鍛工。大和龍門の人。「派。

クニヒロ 國廣 相模の刀匠。一に國弘に作る。江間藤源次太夫と稱す。助眞の子。永仁正和年間の人。求は曰く助眞の門。正中二年歿す。年五十二と。

クニヒロ 國廣 相模鎌倉の刀匠。長谷部氏。二世新藤五國光の子。元德年間の人。求は曰く後國光に改むと。求は國光の次子。新藤次郎と稱す。弘長年間の人。求は文保元年歿、年六十四。求は正中建武頃の人と。

クニヒロ 國廣 相模の刀匠。天文年間の人。

クニヒロ 國廣 武藏の刀匠。延寶年間の人。

クニヒロ 國廣 越前福井下坂派の刀匠。藤原氏。山城守と稱す。寬文延寶年間の人。銘に菊又は葵草を刻む。

クニヒロ 國廣 筑前古刀の鍛工。應永以前の人。

クニヒロ 國廣 豐後高田の人。古刀の鍛工。平氏。

クニヒロ 國廣 豐後古府の刀匠。源氏。又山城に住す。文祿慶長年間の人。

クニヒロ 國廣 肥前の刀匠。廣貞の子。筑廣の父。橋本六郎左衛門と稱す。正保慶安年間の人。

クニヒロ 國廣 肥後同田貫の刀匠。上野介と稱す。天文天正年間の人。

クニヒロ 國廣 肥後菊池古刀の鍛工。

クニヒロ 國廣 日向古屋の刀匠。又宮崎に住す。天正年間の人。堀川國廣と同人。

クニヒロ 國廣 (初世) 日向飫肥の刀匠。藤原氏。信濃守と稱す。京輝忠明壽の門人。山城一條堀川に住す。石田氏の招聘に應じ、近江佐和山に住す。豐臣氏征韓の役、釜山に航して作る所あり。歸朝後復京師に住す。新刀治工の祖。天正慶長年間の人。二

世三世共に京に住す。（四世）一に國弘に作る。京に住し、後攝津に移る。元祿年間の人。

クニヒロ 國廣 （初世）奥州中村の刀匠。二世信高の門。源氏。三善勘七と稱す。寛文年間の人。（二世）來氏。又三善氏と稱す。中村に住す。丹後守兼道の門。元祿年間。

クニヒロ 國廣（川俣） 歩兵少佐。鹿兒島縣人。明治三十七年日露の役に從ひ、八月二十四日旅順盤龍山に戰死す。

クニヒロ 國寛 武藏江戸の刀匠。貞享元祿年間。

クニヒロ 國博 越前下坂派の刀匠。又江戸に住す。元祿年間の人。

クニヒロ 國博（津守） 歌人。五位。新續古今集の作家。

クニフサ 國房 山城の刀匠。應永年間の人。或は曰く來の一派。錦小路に住す。貞永頃の人と。

クニフサ 國房 山城の刀匠。來氏。寛德年間の人。

クニフサ 國房 若狹の刀匠。或は又次郎慶源の名なりといふ。

クニフサ 國房 備前の刀匠。應永年間の人。或は曰く長船に住すと。

クニフサ 國房 伊豫の刀匠。天正年間の人。

クニフサ 國房 伊豫宇和島藩の治工。小野岩次郎と稱す。江戸麻布に住す。安政元治年間の人。

クニフサ 國房 筑前古刀の鍛工。或は曰く左の門。平戸左衛門佐と稱す。貞和頃の人と。

クニフサ 國房 肥前古刀の鍛工。或は曰く平戸左衛門尉と稱す。筑前の國房と同人。左の門人。故に平戸左と稱す。貞和年間の人と。

クニフサ 國房 薩摩新刀の鍛工。藤原氏。

クニフサ 國房 （初世）越中字多派の刀匠。本國は大和。入道國光の子。或は曰く後國安と改むと。正平年間の人。（二世）初代國房の子。越中に住し、字多と冒稱す。應永頃の人と。（三世）越中に住し、字多と冒稱す。應仁年間の人。

クニフサ 國房 （初世）伊豫宇和島の刀匠。初名國林。藤原氏。石見守と稱す。豐後高田の刀匠續正（或は鎭政に作る）の門。寛永年間の人。（二世）初名國林。筑後大掾と稱し、後守に改む。初代大和守吉道の門。寛文年間の人。伊豫に住す。（三世）通稱小市。筑後守と稱す。一竿子忠綱の門。貞享年間の人。伊豫に住す。

クニフサ 國房 （初世）肥後菊池の刀匠。延壽初代國吉の子。正平年間の人。或は曰く延壽の一派。八郎と稱す。兵衛三郎國綱の門。永和頃の人。或は國綱の子。正長享德間の人と。（二世）應永年間の人。菊池に住す。

クニフサ 國維 大阪の刀匠。初名吉重。中頃道雅に更む。源氏。後藤原に改む。相模守と稱す。二世丹波の門。後伊豫今治に住す。寛文年間の人。

クニフサ 國英 出雲の刀匠。源氏。河内守と稱す。寛文延寶年間の人。

クニフサ 國房（藤原） 歌人。鎌倉時代の人。後拾遺、千載、新古今諸集の作家。

クニフサ シンワ 邦房親王 邦輔親王の子。本名邦良。正親町天皇の猶子となり、後伏見家を繼ぎ、天正三年親王宣下。後、式部卿に遷み、元和七年十一月薨ず。

クニフヂ 國藤（津守） 歌人。五位。新續後拾遺集の作家。

クニフネ 國船 古刀の鍛工。山城の人。橋氏。

クニフユ 國冬（津守） 歌人。攝津住吉社の神主。集外歌仙と稱せらる。從二位左近將監に至る。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クニヘイ 邦平（平木） 歩兵中尉。熊本縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月孤家子に戰死す。

クニマサ 國正（野原） 國學者。本居大平の門。通稱中務。紀伊在田郡の人。

クニマサ 國正 江戸の刀匠。元祿年間の人。橘氏。法城寺但馬守と稱す。

クニマサ 國正 元祿年間の刀匠。源氏。通稱文右衛門。近江守と稱す。奥州中村の人。江戸に住す。秀辰の門人。

クニマサ 國正 越中の刀匠。二世國房の子。正長永享年間の人。二に國政に作る。或は曰く國久の次子、長祿年間の人と。

クニマサ 國正 備後の刀匠。助國の子。應永年間の人。或は曰く正平頃の人。國房の子、三原に住すと。

クニマサ 國正 備後三原の刀匠。初代は應仁年間の人。二世は永正大永年間と。

クニマサ 國正 備後尾の道の刀匠。正阿彌兵衛と稱す。嘉永安政年間の人。

クニマサ 國正 伊豫今治の刀匠。弥友次と稱す。永心子の門。文化年間の人。「天保嘉永年間の人。

クニマサ 國正 豐後高田の刀匠、小林宇入と稱す。

クニマサ 國正 肥後延壽派の刀匠。正平年間の人。或は曰く正中頃の人と。

クニマサ 國正 肥後菊池延壽派の刀匠。應安年間の人。或は曰く國經の子。康永二年に生れ、應永中歿すと。

クニマサ 國正 （初世）武藏の刀匠。橋氏。法城寺氏。通稱其之丞。元祿年間の人。（二世）其之丞と稱す。實永年間の人。（三世）源兵衛と稱す。文化年間の人。

クニマサ 國正 （初世）伊豫の刀匠。國吉の子。應長年間の人。（二世）明德年間の人。伊豫に住す。（三世）明和年間の人。（六世）源兵衛と稱す。文化年間の人。

クニマサ 國正 （初世）伊豫の刀匠。國吉の子。應長建武年間の人。（二世）初代の子。正平頃の人。伊豫に住す。（三世）明德年間の人。伊豫に住す。

クニマサ 國正 伊豫宇和島の刀匠。《初世》藤原氏。通稱市兵衛。駿河守と稱す。安定の門。寛永年間の人。《二世》通稱市右衛門。貞享年間の人。伊豫に住す。

クニマサ 國正 豐後竹田の刀匠。法城寺氏。八兵衛と稱す。貞享年間の人。《二世》十太夫と稱す。享保年間の人。豐後に住す。

クニマサ 國政（歌川） 江戸の似顔繪師。通稱萬助。一齋齋と號す。文化七年十一月晦歿す。年三十八。

クニマサ 國政 新刀の鍛工。山城一條堀川の人。國安を晉よ。

クニマサ 國政 越中宇多派の刀匠。文安年間の人。或は曰く大永年間の人と。

クニマサ 國政 肥後菊池延壽派の刀匠。正壽の子。

クニマサ 國昌 肥後延壽本延壽派の刀匠。天明享和年間の人。

クニマサ 國昌 日向藝の刀匠。一名國堂。田中該泊庵と號す。堀河國廣の父。永祿天正年間の人。或は又國政に作る。

クニマサ 邦正（源） 醍醐帝の孫。重明親王の子。左京大夫たり。青侍從と號す。世に青常といふ。拾遺集の作家。

クニマス 國升 攝津の刀匠。寛文年間の人。

クニマス 國增 美濃岐阜の刀匠。初名助と稱す。

クニマス 國增 播磨姫路の刀匠。永祿間の人。

クニマス 國益（佐伯） 領吏。寶德中、河内守となる。

クニマス 國益 伊豫古刀の鍛工。正中年間の人。或は曰く國永の子。康曆頃の人と。

クニマス 國益 土佐高知の刀匠。本國は攝津大掾と稱す。吉國の養子となり、延寶中山口と改む。衛門。上野大掾と稱す。

クニマツマル 國松丸 ナホマサ（松平直政） 一圓齋、五彩齋、翻蝶庵と號す。文政年間歿す。年三十餘。

クニミ シンワ 邦省親王 後二條天皇の第二皇子。母は參議宗親の女。三品、彈正尹、兵部卿（一に式部卿）に遷み、天授元年九月十七日薨ず。續千載、續後拾遺、鳳雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クニミチ 國滿（杉浦） 國學者。儒松の人。阿波守と稱す。寶茂實潤の門。

クニミチ 國滿（歌川） 江戸の浮世繪師。一齋齋と號す。初代豐國の門弟。

クニミチ 國道（津守） 歌人。國冬の神主。嘉曆三年卒す。玉葉、續千載、續後拾遺、新續古今諸集の作家。

クニミチ 國道 山城の刀匠。二世出羽大掾國路を稱す。實永年間の人。（三世）源兵衛と稱す。寶永年間の人。（四世）初名光正。藤五郎と稱す。元文年間の人。（五世）明和年間の人。（六世）「る。

クニミチ 國道 伊豫吉田の刀匠。源氏。山城守と稱す。又山城宗に住す。新刀の鍛工。

クニミチ 國道 土佐の刀匠。木村久太郎と稱す。久國の嫡流。水心子正秀の門。寛政年間の人。

クニミツ 國光 山城の刀匠。逸士太郎と稱す。建長年間の人。

クニミツ 國光 山城粟田口の刀匠。源氏。來氏。寛元延寶年間の人。

クニミツ 國光（津守） 歌人。越中守。康基の男。仁安三年從五位下に叙せらる。千載集の作家。

クニミツ 國光（粟田口） 鎌倉の鍛工。國綱の子。通稱新藏五。元和元年歿す。年六十三。

クニミツ 國光 山城粟田口の刀匠。左兵衛尉と稱す。則國の子。建長年間の人。或は曰く仁治年間の人。藤兵衛と稱す。或は國部兵衛と稱す。或は則國の門。寛喜貞永頃の人と。

「武前の人。

クニミツ 國光 山城の刀匠。源氏。來氏。寛文延寶年間の人。

クニミツ 國光 山城粟田口の刀匠。源氏。來氏。寛「稱す。延寶年間の人。

クニミツ 國光 山城の刀匠。源氏。二村氏。左近と

稱す。實永年間の人。（三世）源兵衛と稱す。享保中藤原氏に改む。（四世）初名光正。藤五郎と稱す。元文年間の人。（五世）明和年間の人。（六世）

治十年西南役に從ひ、三月四日吉次嶽に戰死す。

クニミチ 邦道（品川） 東京府出身。西南の役、警部補を以て從ひ、豐後國白杵に戰死す。

クニミチ 國路 山城の刀匠。藤原氏。來氏。出羽大掾と稱す。堀川國廣の門。寛永年間の人。

クニミチ 國通（大伴） 繪人の子。天長中、陸奥出羽按察使、相摸武藏守たり、五年卒す。年六十一。

クニミチ 國通（藤原） 歌人。泰通の子。中納言。新勅撰集の作家。

クニミチ 邦通（藤原） 京師の人。伊豆に流寓して賴朝と善し。賴朝氏を擧ぐるに方り、山木の地形を圖して賴朝に與ふ。後年、政所の職員となる。

クニミチ シンワ 邦道親王 貞清親王の子。兄邦尚親王の嗣となり、慶安三年親王宣下。太宰帥に任じ、承應三年七月薨ず。年十八。

クニミツ 國滿（杉浦） 國學者。儒松の人。阿波守と稱す。寶茂實潤の門。

クニミツ 國滿（歌川） 江戸の浮世繪師。一齋齋と號す。初代豐國の門弟。

クニミツ 國光（津守） 歌人。越中守。康基の男。仁安三年從五位下に叙せらる。千載集の作家。

クニミツ 國光（粟田口） 鎌倉の鍛工。國綱の子。通稱新藏五。元和元年歿す。年六十三。

クニミツ 國光 山城粟田口の刀匠。左兵衛尉と稱す。則國の子。建長年間の人。或は曰く仁治年間の人。藤兵衛と稱す。或は國部兵衛と稱す。或は則國の門。寛喜貞永頃の人と。

「武前の人。

クニミツ 國光 山城の刀匠。逸士太郎と稱す。建長年間の人。

クニミツ 國光 山城粟田口の刀匠。源氏。來氏。寛文延寶年間の人。

クニミツ 國光 山城の刀匠。源氏。二村氏。左近と

クニミツ 國光 山城の刀匠。藤原氏。元祿 正德年間の人。

クニミツ 國光 大和の刀匠。幸王太郎と稱す。保

クニミツ 國光 大和の刀匠。高市に住し、保昌五郎と稱す。後貞光、又貞宗と更む。弘安頃の人。或は曰く弘長頃。又文保頃の人と。

クニミツ 國光 大和宇多郡の刀匠。後越中に住す。故入道と稱す。文保年間の人。越中宇津派の祖。或は曰く宇多國光と稱すと。

クニミツ 國光 攝津の刀匠。武藏守國次を省よ。

クニミツ 國光 古刀の鍛工。三河に住す。中原派。

クニミツ 國光 相摸鎌倉山内の刀匠。國光の長子。初名國重。新藤太郎と稱す。建武頃の人。或は曰く弘長頃の人。乾元元年歿す。年三十二と。

クニミツ 國光 武藏水田派の刀匠。初名國重。大月左兵衛と稱す。本國は備中産原。三郎兵衛國重の門。慶安寛文年間の人。

クニミツ 國光 紀伊の刀匠。藤原氏。三崎太郎と稱す。江戸四谷に住す。安政元治年間の人。

クニミツ 國光 美濃赤坂千手院派の刀匠。國長の子。應永年間の人。或は曰く國長の門。

クニミツ 國光 美濃の刀匠。康暦頃の人。

クニミツ 國光 陸奥岩城吉田村の刀匠。平氏。安政元治年間の人。

クニミツ 國光 越前の刀匠。橋氏。助右衛門と稱す。法城寺派。又江戸に住す。貞享年間の人。

クニミツ 國光 越中宇多派の刀匠。應永後の人。

クニミツ 國光 古刀の鍛工。藤右衛門と稱し、宇津古入道と號す。越中磯波郡三日市村の人。或は曰く本國は大和。文保頃の人。丹波畠の刀匠。來氏。元享頃の人。

クニムネ 國宗 越前の刀匠。藤原氏。享保年間の人。五世國清を省よ。

クニムネ 國宗 藤原氏。田羽大掾と稱す。越前の刀工。後武藏江戸淨瑠璃坂に移住す。延寶貞享年間の人。

クニムネ 國宗 因幡鳥取の刀匠。延寶年間の人。

クニムネ 國宗 伯耆の刀匠。備前國宗の門。弘安頃の人。或は曰く老後國宗入道と號すと。嘉元頃の人。或は三世元眞の子。寶治頃の人と。或は中の久備太郎國宗と同人と。

クニムネ 國宗 備前長船の刀匠。長光の門。久太郎と稱す。文保頃の人。「名。國綱を省よ。

クニムネ 國宗 備前長船の刀匠。彌五郎國綱の後と多し。明治三十五年歿す。年七十四。

クニミツ シンワウ 邦光親王 邦永親王の子。享保十年踐祚天皇の猶子となり、親王宣下あり。出家して叢周と稱す。三井寺長吏に補し、元文五年六月薨ず。年二十九。

クニムネ 國宗(櫻島) 建久六年奈良大佛殿再建の時の木工長たり。

クニムネ 國宗 山城粟田口の刀匠。國綱の後と稱す。東正成の門。寛文年間の人。

クニムネ 國宗 備前長船の刀匠。林氏。彦左衛門尉と稱す。茂右衛門國宗の子。享保年間の人。

クニムネ 國宗 備中青江の刀匠。建武年間の人。或は曰く實治頃の人と。

クニムネ 國宗 豊後の刀匠。明德年間の人。或は曰く友行の門と。

クニムネ 國宗 豊後の刀匠。藤原氏。豊前守と稱す。寛文年間の人。

クニムネ 國宗 肥後菊池古刀の鍛工。延壽派、國綱の子。正平頃の人。或は曰く初代國綱の三子。正長永享年間の人と。

クニムネ 國宗 肥後延壽派の刀匠。國友の子。隼之進と稱す。寛正年間の人。

クニムネ 國宗 薩摩の刀匠。喜右衛門行寛の後名。〔初世〕三河の刀匠。中原氏。嘉元頃の人。或は曰く京の二世國光と同人。或は國俊の子。永和頃の人。或は國俊の弟。遠士太郎と稱す。元亨文和頃の人。又貞正と號すと。

クニミツ 國光 美作の刀匠。本國筑前。左の安吉の弟。安藝島廣(一に息廣)及び美作に移る。延文頃の人。或は曰く筑前國房の子。建武頃の人と。

クニミツ 國光 備前の刀匠。建武前の人。或は曰く永年間の人と。

クニミツ 國光(藤原) 權中納言資朝の子。小字は阿新。年十三にして父の仇、本間氏を殺す。後、左兵衛佐となり、終始吉野朝に屬す。正平十六年足利義詮を討ちて之に克つ。

クニミツ 邦光(新田) 神道錄成派管長。舊稱竹澤寛三郎。勤王の大義を唱へ、維新の際、建白せしこと多し。明治三十五年歿す。年七十四。

クニミツ シンワウ 邦光親王 邦永親王の子。享保十年踐祚天皇の猶子となり、親王宣下あり。出家して叢周と稱す。三井寺長吏に補し、元文五年六月薨ず。年二十九。

クニムネ 國宗(櫻島) 建久六年奈良大佛殿再建の時の木工長たり。

クニムネ 國宗 山城粟田口の刀匠。國綱の後と稱す。東正成の門。寛文年間の人。

クニムネ 國宗 備前長船の刀匠。林氏。彦左衛門尉と稱す。茂右衛門國宗の子。享保年間の人。

クニムネ 國宗 備中青江の刀匠。建武年間の人。或は曰く實治頃の人と。

クニムネ 國宗 豊後の刀匠。明德年間の人。或は曰く友行の門と。

クニムネ 國宗 豊後の刀匠。藤原氏。豊前守と稱す。寛文年間の人。

クニムネ 國宗 肥後菊池古刀の鍛工。延壽派、國綱の子。正平頃の人。或は曰く初代國綱の三子。正長永享年間の人と。

クニムネ 國宗 肥後延壽派の刀匠。國友の子。隼之進と稱す。寛正年間の人。

クニムネ 國宗 薩摩の刀匠。喜右衛門行寛の後名。〔初世〕三河の刀匠。中原氏。嘉元頃の人。或は曰く京の二世國光と同人。或は國俊の子。永和頃の人。或は國俊の弟。遠士太郎と稱す。元亨文和頃の人。又貞正と號すと。

クニミツ 國光 美作の刀匠。本國筑前。左の安吉の弟。安藝島廣(一に息廣)及び美作に移る。延文頃の人。或は曰く筑前國房の子。建武頃の人と。

クニミツ 國光 備前の刀匠。建武前の人。或は曰く永年間の人と。

クニミツ 國光(藤原) 權中納言資朝の子。小字は阿新。年十三にして父の仇、本間氏を殺す。後、左兵衛佐となり、終始吉野朝に屬す。正平十六年足利義詮を討ちて之に克つ。

クニミツ 邦光(新田) 神道錄成派管長。舊稱竹澤寛三郎。勤王の大義を唱へ、維新の際、建白せしこと多し。明治三十五年歿す。年七十四。

頃の人。豊王寺派。〔二世〕建武年間の人。三河に住す。

クニムネ 國宗 〔初世〕陸奥會津の刀匠。松軒の門。弘化元治年間の人。〔二世〕元治年間。

クニムネ 國宗 〔初世〕越中宇多派の刀匠。國光の子。國房の弟。佐衛門尉(一に右衛門尉)と稱す。正平頃の人。〔二世〕初代國宗の子。越中に住す。應永永享頃の人と。〔三世〕越中に住す。永享寶德年間の人。或は文明頃の人。光心と號すと。〔四世〕越中に住す。明應天文間の人。

クニムネ 國宗 〔初世〕備前の刀匠。直宗の流。新田庄和氣に住す。初代國眞の三子。備前三郎と稱す。後京に住し、又相摸に下る。貞永年間の人。或は曰く正嘉弘安頃の人。又文暦嘉祿頃の人と。長船に住す。正應延慶年間の人。

クニムネ 國宗 クニキヨ(島田國清)

クニムネ 國棟 越前下坂派の刀匠。又京堀川に住す。元和年間の人。

クニムラ 國村 山城の刀匠。來氏。建武年間の人。

クニムラ 國村 肥後菊池の刀匠。弘村の子。延壽太郎と稱す。京の來國行の外孫。來氏と稱す。弘長年間の人。或は曰く正中元年歿す。年六十四。

クニムラ 國村 肥後の刀匠。藤左衛門尉と稱す。延壽初代國吉の子。菊池に住す。正平頃の人。

クニムラ 國村 肥後菊池延壽派の刀匠。應永後の人。藤左衛門尉と稱す。或は曰く藤左衛門國村の子。國吉の孫。應永頃の人と。

クニモチ 國用(藤原) 歌人。季方の子。陸奥守。永延頃の人。拾遺集の作家。「集の作家。

クニモチノムスメ 國用女(藤原) 女歌人。拾遺

クニモト 國幹(篠原) 鹿兒島の人。維新の際、陸軍少將、近衛長官たり。後隱居に從ひて靜岡歸國し、倶に兵を擧げ、明治十年三月吉次越の戰に重傷を負ひて死す。

クニモト 國基(津守) 歌人。住吉社の神主。世に藤豐の神主と稱す。又尊の名手にて藤井戸と號す。康和五年七月卒す。年八十。後拾遺、金葉、詞花、新古今、續拾遺、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クニモト 國本 伊豫の刀匠。國貞の子。貞治應安年間の人。或は曰く明德頃の人と。

クニモト 國本 肥後菊池延壽派の刀匠。

クニモト 國元 攝津の刀匠。藤原氏。

す。天和年間の人。

クニモト 國元 肥後菊池延壽派の刀匠。

稱す。國安の子。永享年間の人。或は曰く永延頃の人と。

クニモト 國元 肥後菊池延壽派の刀匠。

子。應永頃の人なりと。

クニモリ 國守 備前の刀匠。正應年間の人。

クニモリ 國守 古刀の鍛工。備前長船の人。

クニモリ 國守 紀伊田邊の刀匠。藤原氏。又伊勢津に住す。寛永承應年間。

クニモリ 國守 肥後の刀匠。應安年間の人。

クニモリ 國守 肥後菊池延壽派の刀匠。國政の子。左兵衛尉と稱す。弘治年間の人。

クニモリ 國守 薩摩波平の刀匠。文暦年間の人。

クニモリ 國守(紀) 常陸介眞人の侍醫。內藤正。

クニモリ 國盛(平) 鼓盛の子。越後守。元暦二年阿波美馬郡祖山に移り住む。

クニモリ 國林 相摸の刀匠。大永享祿年間の人。

クニモリ 國林 伊豫宇和島の刀匠。初代國房を省よ。

クニモリ 國森 越中宇多流の刀匠。國宗の子。應永年間の人。

クニモリ 國盛(伊豆) 三島大社の宮司。康和年間。

クニモリ 國盛 山城大宮の刀匠。彌六と稱す。安和年間の人。

「は曰く永延頃の人と。

クニモリ 國盛 山城大宮の刀匠。永萬頃の人。或

クニモリ 國盛 山城大宮の刀匠。建保年間の人。

クニモリ 國盛 三河中原の刀匠。平三郎と稱す。應永年間の人。或は國盛と同人。應永頃の人なりと。或は建武頃の人と。

クニモリ 國盛 美濃關の刀匠。國守を省よ。

クニモリ 國盛 出羽秋田の刀匠。大宅氏。嘉永安政年間の人。

クニモリ 國盛 越中宇多流の刀匠。應永年間。

クニモリ 國盛 備前の刀匠。國盛の孫。助盛の子。文應年間の人。或は曰く長和頃の人と。

クニモリ 國盛 備前長船の刀匠。園助の子。應永年間の人。

クニヤス　邦保(村山)　國學者。本居大平の門。通稱久平次。長齡の人。

クニヤス　國康(山本)　越前の鍛工。伊勢大掾。

クニヤス　國泰　山城の刀匠。來氏。來國俊の門。文保頃の人。

クニヤス　國泰　山城の刀匠。來氏。永正年間の人。

クニヤス　國泰　大和高市の刀匠。來氏。永正永祿年間。相摸の刀匠。新藤五三郎と稱す。

クニヤス　國泰　圖光の三子。德治頃の人。或は曰く日光の法師大遠房と同人なりと。或は建武二年殁す。年六十四と。

クニヤス　國泰　肥後菊池延壽派の刀匠。永享年間。

クニヤス　國泰　肥後延壽派の刀匠。國日出の子。天保年間の人。

クニヤス　國泰　越前の刀匠。藤原氏。山本氏。肥後大掾、伊勢大掾、又伊勢守と改む。寛文延寶年間の人。

クニヤス　國泰　〔初世〕肥後の刀匠。延壽國村の三子。延慶建武間の人。〔二世〕肥後菊池に住す。正平年間の人。

クニヤス　國泰　〔初世〕攝津大阪の刀匠。初代國助の三子。肥後守。小林源左衞門と稱す。萬治延寶年間の人。〔二世〕通稱安之丞。肥後守と稱し、大阪に住す。天和元祿年間の人。

クニヤス　國安(遠谷)　歌人。香川景樹の門。蓬廬舊士。明治二十二年殁す。年六十五。

クニヤス　國安(粟田口)　鍛工。久國の弟。通稱藤三郎。山城守といふ。元曆中の人。後鳥羽天皇の四月の番鍛冶たり。

クニヤス　國安　山城の刀匠。來氏。來國俊の婿。元德建武年間の人。或は曰く後鼬路三立崎に移住し、鼬に燕路房と號す。之を鼬路來と稱すと。

クニヤス　國安　山城堀河の刀匠。初名國改。國廣の弟。慶長寛永年間の人。生國は日向飫肥。

クニヤス　國安　大和高市の刀匠。來氏。應永永享年間。或は永德頃の人。「名二世に及ぶ。

クニヤス　國安　大和高市の刀匠。天授頃の人。同名光忠一世に越前の來と稱す。正平元中年間の人と。〔二世〕初名光忠。初代國安の子。天授應永間の人。越前に住す。或は貞治頃。或は應永永享頃の人。或は正平元年殁。年三十九と。

クニヤス　國安　攝津兵庫の刀匠。弘治年間の人。

クニヤス　國安　遠江橫須賀の刀匠。初名三秀。中孫初藏と稱す。後武藏江戸に住す。水心子正秀の門人。文化元年國安と更む。

クニヤス　國安　陸奥會津の刀匠。清太郎と稱す。同國初代兼定の門。元和年間の人。

クニヤス　國安　越中守派の刀匠。正平頃の人。

クニヤス　國安　越中守多派の刀匠。應永永享年間の人。

クニヤス　國安　但馬法城寺派の刀匠。正平頃の人。

クニヤス　國安　出雲の刀匠。三世高麗彌九郎と稱す。大明京國安と題す。新刀の鍛工。

クニヤス　國安　備前直宗流の刀匠。國眞の五子。稱す。嘉祿曆仁頃の人。或は曰く後相模山内に移り住む。四郎と稱す。建治頃の人と。

クニヤス　國安　淡路の刀匠。來國末の門。三立崎に住す。正安頃の人。或は曰く國末の婿なりと。

クニヤス　國安　淡路の刀匠。淡路房の弟。後淡路房と號す。

クニヤス　國安　土佐の刀匠。應永年間の人。

クニヤス　國安　豐後玖珠の刀匠。國重の子。嘉吉「刑部と稱す。應永頃の人。

クニヤス　國安　肥後菊池延壽派の刀匠。時末の子。

クニヤス　國安　〔初世〕越前の刀匠。千代鶴派の祖。京の來國行の孫。國歲の子。千代鶴丸と稱す。貞和年間の人。或は曰く元弘正慶年間の人。或は應永三年殁す。或は曰く京の來國安の門。藤原氏。初名光忠一世に越前の來と稱す。正平元中年間の人と。〔二世〕初名光忠。初代國安の子。天授應永間の人。越前に住す。或は貞治頃。或は康永貞和。或は應永永享頃の人。或は正平元年殁。年三十九と。

クニヤス　國保(石塚)　下野の人。初め醫を業とす。後醫業に忘し、寛延三年京都に出でて西陣織の法を學び、後足利に歸りて龜紋織を創む。

クニヤス　國保　大和奈良の刀匠。藤原氏。出羽守と稱す。包保の末裔。後江戸に移住す。延寶年間の人。「貞享元祿年間の人。

クニヤス　國保　武藏の刀匠。藤原氏。文珠と稱す。包保の門。

クニヤス　國安(歌川)　江戸の浮世繪師。通稱安五郎。一鳳齋と號す。天保七年殁す。年三十餘。

クニヤス　國安(千代鶴)　越前武生の刀工。越前來と號す。元德元年七月二十三日殁す。年八十二。

クニヤス　シンワウ　國康親王　仁明天皇の皇子。母は宮人藤原賀登子。四品に叙せられ、虛嗣のために出家す。昌泰元年三月薨ず。

クニヤス　シンワウ　邦康親王　世平親王の長子。康平元年親王宣下。二品中務卿に進む。

クニユキ　國辛　攝津尼ケ崎の刀匠。堀川國廣の門。寛永年間の人。

クニユキ　國進　肥前敬位派の刀匠。永正大永年間。

クニユキ　國之　備前の刀匠。藤岡一文字の族。後相摸山内に移住す。建長正應年間の人。

クニユキ　國行(藤原)　歌人。有親の子。諱陵頭。永

保頃の人。後拾遺集及び金葉集の作家。

クニユキ　國行　山城の刀匠。來氏。太郎と稱す。西圓に住す。來國吉の子。弘安頃の人。元寇と戰す。或は建長頃の人。

クニユキ　國行　山城の刀匠。來氏。正平年間の人。或は曰く初名末行。

クニユキ　國行　山城古刀の鍛工。了戒と冒稱す。「明應年間の人。

クニユキ　國行　大和の刀匠。元曆前の人。

クニユキ　國行　大和當麻の刀匠。兵衞尉と稱す。正和年間の人。當麻の祖。或は曰く寛元頃。又正應頃の人ともいふ。同名二世に至ると。

クニユキ　國行　大和當麻派の刀匠。正中頃の人。

クニユキ　國行　美濃西郡の刀匠。蓼命と冒稱す。蓼命の祖。貞治年間の人。

クニユキ　國行　美濃の刀匠。又四郎兼邦の子。享祿天文年間の人。「國重の子と。

クニユキ　國行　越前の刀匠。藤原氏。正平頃の人。

クニユキ　國行　越中の刀匠。應永年間の人。

クニユキ　國行　越中の刀匠。友弘の子。明應頃。

クニユキ　國行　備前福岡一文字派の刀匠。左衞門佐と稱す。正應正和年間の人。或は曰く弘長頃の人と。

クニユキ　國行　備前豐原の刀匠。左衞門佐と稱す。康歷頃の人。

クニユキ　國行　備中水田流の刀匠。天文年間の人。

クニユキ　國行　豐後府內高田派の刀匠。藤原氏。大和守と稱す。寛文年間の人。

クニユキ　國行　肥後の刀匠。正平年間の人。或は曰く菊地延壽流。永德頃の人と。

クニユキ　國行　日向飫肥の刀匠。源氏。日高治助と稱す。貞改の門弟。享保年間の人。

クニユキ　國行　新刀の鍛工。田中休右衞門と稱す。

クニユキ　國行　〔初世〕美濃兼坂千手院派の刀匠。蓬壽の人。

クニユキ　國行　〔初世〕左衞門二郎と稱す。美濃に住し、後信濃に移り。又越中に轉住す。宇津國久の門。

クニユキ　國代　薩摩の人。

クニユキ　國行　〔二世〕正平頃の人。

クニヨシ　國義(久田)　夢兵少尉。愛知縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月田義屯に戰死す。

クニヨシ　國義(和田)　日向の鍛工。彈正と稱す。井上國眞の門。國平の子。寛文頃の人。

クニヨシ　國義(高井)　京都の鍛工。初世信濃守信吉の二男。豐後守と稱す。近江虎根また若狹小濱に住す。寛文頃の人。

クニヨシ　國義　山城の刀匠。源氏。高井氏。豐後守と稱す。初代信吉の弟。寛文の末、若狹小濱に移る。又彦根に住す。

クニヨシ　國義　攝津の刀匠。源氏。通稱平右衞門。備前守と稱す。二世河內守國助の門。寛文年間の人。

クニヨシ　國義　大阪の刀匠。源氏。和田氏。彈正忠と稱す。井上彈右衞門國眞の門。後日向飫肥に移り住む。寶永享保年間の人。

クニヨシ　國義　奧州盛岡の刀匠。源氏。新藤氏。通稱治郎兵衞。本國は筑前福岡。延寶中武藏江戶に下り、南部氏の刀匠となり、天和元年盛岡に移住し、元祿十一年卒す。

クニヨシ　國義　大隅の刀匠。姉川氏。日向の國富「年間の刀匠。

クニヨシ　國義　平氏。和田氏。駿河守と稱す。寬文年間の人。

クニヨシ　國吉　山城の刀匠。來氏の祖。來太郎國行の父。來氏。仁治年間の人。或は曰く寬喜頃。或は正元文永年間の人と。

クニヨシ　國吉　山城粟田口の刀匠。藤原氏。左兵衞尉と稱す。則國の子。寶治弘長間の人。或は曰く嘉祿仁治年間。或は建長弘安年間の人。或は右兵衞尉に作る。文永四年六十四歲にして殁す。

クニヨシ　國吉　山城の刀匠。來氏。應安年間の人。或は曰く國光の子。建武頃の人と。

クニヨシ 國吉 大和古刀の鍛工。或は曰く山城の刀匠。神龜年間の人と。

クニヨシ 國吉 大和刀匠。藤原氏。越中守と稱す。包國の一派。郡山に住す。元祿年間の人。

クニヨシ 國吉 尾張の刀匠。武五郎と稱す。元祿年間の人。

クニヨシ 國吉 三河中原の刀匠。國綱の子。長祿年間の人。或は曰く嘉元頃の人と。

クニヨシ 國吉 武藏の刀匠。橘氏。法城寺氏。通稱彌兵衞。後宅太夫と改む。近江守と稱す。正次の門。貞享年間の人。

クニヨシ 國吉 武藏江戸の刀匠。藤原氏。東叡山の麓に住す。山城守國重の門。安永寛政年間の人。

クニヨシ 國吉 江戸下谷の刀匠。相模造と稱す。文政年間の人。

クニヨシ 國吉 生駒氏の刀匠。江戸本所に住す。國秀の門。

クニヨシ 國吉 美濃古刀の鍛工。大永年間。

クニヨシ 國吉 美濃川戸の刀匠。上野守と稱し、後丹後守と改む。壽命と冒稱す。寛文年間の人。

クニヨシ 國吉 奥州波岡の刀匠。橘氏。通稱傳右衞門。相摸守と稱す。江戸法城寺派。元祿年間。

クニヨシ 國吉 越中宇多派の刀匠。初代國久の子。永享頃の人。或は曰く二世國久の子。延德頃の人。或は國友の子。天授應永年間の人。同名三世相承くと。

「軍の族。」

クニヨシ 國吉 越後椿川の刀匠。應永年間の人。國久の門。

クニヨシ 國吉 越後府中の刀匠。天文年間の人。

クニヨシ 國吉 但馬法成寺の刀匠。天正年間の人。

クニヨシ 國吉 石見古刀の鍛工。文明年間の人。

クニヨシ 國吉 石見の刀匠。天文年間の人。

クニヨシ 國吉 石見の刀匠。邑知郡高見に住す。

クニヨシ 國吉 薩摩の刀匠。國平の門。貞永年間。

クニヨシ 國吉 播磨の刀匠。國眞の子。永保年間。

クニヨシ 國吉 播磨小川の刀匠。年間の人。

クニヨシ 國吉 備前長船の刀匠。文治年間の人。或は曰く仁治頃の人。長船藤兵衞尉「頃の人。

クニヨシ 國吉 備前の刀匠。初代國宗の子。永仁頃の人。

クニヨシ 國吉 備前の刀匠。雲次を看よ。

クニヨシ 國吉 備後の刀匠。永享嘉吉年間の人。或は曰く蒜田派一乘三原の族。或は行吉の子。同名二世に及ぶと。

クニヨシ 國吉 備後三原の刀匠。

クニヨシ 國吉 備後五日市の刀匠。文明年間の人。

クニヨシ 國吉 古刀の鍛工。阿波の人。或は曰く「年間の人。

クニヨシ 國吉 延德年間の人と。

クニヨシ 國吉 濃紋の刀匠。又越前に住す。正和頃の人。

クニヨシ 國吉 伊豫の刀匠。照覺と號す。正應年間の人。備後を作るに巧なり「年間の人。

クニヨシ 國吉 伊豫の刀匠。二世國正の子。永享年間の人。

クニヨシ 國吉 筑前の刀匠。西遷を看よ。

クニヨシ 國吉 古刀の鍛工。肥前平戸の人。

クニヨシ 國吉 肥後の刀匠。國吉の孫。國村の子。

クニヨシ 國吉 延喜太郎と稱す。應永永享年間の人。

クニヨシ 國吉 肥後延喜派の刀匠。次郎と稱す。

クニヨシ 國吉 應永頃の人。

クニヨシ 國吉 肥後菊池の刀匠。通稱田中右七郎。延喜と冒稱す。國信の子。享和年間の人。「の人。

クニヨシ 國吉 (初世) 京の刀匠。源氏。伊勢守と稱す。與名を念佛次郎兵衞と云ふ。攝津大阪に移り、又伊勢桑名に住す。寶永年間の人。(二世) 和泉守又伊勢守と稱す。延寶年間の人。通稱治助。元祿年間の人。(三世) 通稱治助。元文頃の人。(四世) 通稱善助。元文頃の人。

クニヨシ 國吉 (初世) 大和の刀匠。金王丸と稱す。或は曰く千手院派。嘉元年間の人。或は正安頃の人。若新と號す。正中建武年間の人。

クニヨシ 國吉 (初世) 肥後の刀匠。延壽二郎。左衞門尉と稱す。延壽國村の子。元德年間の人。或は曰く與國正平年間の人。或は弘村の次子。或は建治正安年間の人と。(二世) 正平年間の人。肥後に住す。

クニヨシ シンワウ 邦世親王 邦良親王の子。式部卿。新千載及び新拾遺集の作家。

クニヨリ 國頼 粟田口の鍛工の組。大和に住す。林氏。名は與。康治中の人。

クニヨリ 國頼 山城の刀匠。源氏。左馬允と稱す。永仁年間の人。或は曰く元仁頃の人。粟田口に住すと。

「或は曰く文祿頃の人と。

クニヨリ 邦頼 武州下原の刀匠。天正年間の人。

クニヨリ シンワウ 邦頼親王 邦思親王の同母弟。本名德明。出家して寛賢と稱し、東大寺別當となり、又、遷俗して伏見家を繼ぎ、兵部卿に任じ、享和三年二品に進み、尊いて薨ず。年七十。

クニヨリヒメ 國依媛 口持臣の妹。仁德帝の皇后に仕ふ。

クニワウマル 國王丸(二本松) 義継の子。二本松城主。建武年間の人。足利尊氏と交へて終に敗れ、天正十四年成を行ひ、城を火して會津に奔り、天正十七年蘆名盛重に殺さる。

クニワウマル 國王丸 ウチナホ(北條氏直) 北條氏政の子。天正十八年豊臣秀吉の小田原攻めに際し、父と共に降る。秀吉の女督姫を娶る。慶長五年關ヶ原の役に東軍に屬し、上野國沼田城を守る。戰後、下總國佐倉城主となる。寛永十年歿。年五十三。

クニワウマル 國王丸(大中臣) 式部少丞兼攝津守。文章得業生より擢でられて、祭主神祇大副となる。

クニヲ 國雄(酢屋) 狩野派の畫人。通稱平十郎。敏夫齋と號す。大阪の人。

クニヲ 國雄(岡本) 歩兵少尉。熊本縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十二月十一日傷死す。

クニヲ 國男(瀬川) 歩兵大尉。愛媛縣出身。日露戰役に從軍中、三十七年八月大孤山に傷死す。

クニヲ 國男(齋藤) 海軍少佐。大正二年一月十七日歿す。

クニヲ 國雄(林) 江戸の國學者。一に眞棹と稱し。常磐舍と號す。通稱主稅。本居宣長の門。文政二年二月二十七日歿す。年六十二。

クニヲ 邦男(田中) 勤王家。大和十津川の郷士。名は通鳳、初め主馬藏と稱す。中山忠光の軍に加り、捕はれしが、還れ歸り、正親町三條實愛につき建議す。慶應元年禁獄に繋せられ、翌年再び脱れしが、十二月九日絞死す。年三十五。明治二十四年十二月贈正五位。

クニヲ 邦雄(筑尾) 薩摩藩士。工科大學舍監たり。明治三十九年一月十五日歿す。年六十一。

クネンバウ 九年坊 ヘキゼンテイ 壁前亭 大和當麻の刀匠。友綱を看よ。

クノリ くのり 愚白 禪僧。和泉成合寺の始祖。字は雲山。月舟和尚の弟子。肥後の人。

クハチ 九八(田坂) 工兵大尉。廣島縣人。日露戰役に從軍中、明治三十七年十月八日傷死す。

クハチラウ 九八郎(野村) 歩兵少佐。東京府出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月盛京省小東溝河近に戰死す。

クヒ 咋(大伴) 金村の孫。崇峻推古兩朝に歷仕し、「大德に至る。

クヒザモチノカミ 久比奢母智神 速秋津彦の子。國之水分神の弟。

クヒノア 首信 京都葵園町の名族。信は其の名。首とは其の美をいふ。力士御所櫻長兵衞の女。

クブツ 句佛(三谷) 俳人。垣齋の子。通稱善助。

クブツ 九佛(坂) 大和の醫。源氏。名は正幹。戊辰の役、板垣退助の軍に屬し、陸軍大尉に任ず。五年病國の情勢を觀察す。征韓論の起るや、職を辭し、岩倉其視を刺さんとし成らず。七年一月十七日斬に處せらる。年三十四。

クマキチ 熊吉(岡崎) 山口藩明倫館の會計吏。嚴密にして私なし。元治元年七月十九日京變に死す。年三十三。

クマキチ 熊吉(還山) 歩兵中尉。岡山縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十月盛京省三道牆子に戰死す。

クマキチ 熊吉(工月) 歩兵少尉。廣島縣出身。日露の戰に出征し、明治三十七年十月廿六日戰死す。

クマキチ 熊吉(佐藤) 歩兵少尉。宮城縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年八月傷死す。

クマゴラウ 熊五郎(關内) 水戸藩の志士。名は德光。武田伊賀に屬して囚へられ、慶應元年斬らる。年三十三。贈從五位。

「みて歿す。

クマゴリ 熊凝(大伴) 天平中、相摸に使し、道に病子。國之水分神の弟。

クマジラウ 熊次郎 孝子。大阪天龍の鍛工兼の子。父死し、母病に臥す。弟馬之助と共に孝養怠らず。遂に官の賞賜を得。時に天明五年二月。兒年十四。弟年十。

クマジラウ 熊次郎(有吉) 勤王の志士。山口藩士。名は良明。字は子德。吉田松蔭の門に入り、高杉晉作等と交を結ぶ。元治元年七月十九日京師の變、長州利あらず。熊次郎等、鷹司邸に入り、建白する所あり。敬に屆まれて自殺す。年二十二。

クマジラウ 熊次郎(元森) 山口藩の志士。名は幹、放哉と號す。戊辰の役、東北征討に向ひ、堰内に傷き死す。年二十五。贈正五位。

クマジラウ 熊次郎(長嶺) 陸軍三等主計。山口縣出身。日露の役に從ひ、明治三十九年九月病歿す。

クマタラウ 熊太郎(千屋) 勤王家。警者。緒方都藏の門。名は孝樹。土佐和倉の人。元治元年藩廳に迫りて斬らる。年二十七。贈從五位。

クマタラウ 熊太郎(小田) 志士。名は尚則。武藏埼玉郡の人。父を竊島久兵衞といひ、家農を以て里正たり。祖小田切重の姓を復して小田氏とす。文久三年家を出で長州藩邸に投ぜしが、元治元年水戸に

クマヒコ 熊彦 松城主。建年兵を伊達正宗と交へて終に敗れ、天正十四年成を行ひ、城を火して會津に奔り、天正十七年蘆名盛重に殺さる。

クマワウマル 國王丸 式部少丞兼攝津守。文章得業生より擢でられて、祭主神祇大副となる。

クマヲ 國雄(酢屋) 狩野派の畫人。通稱平十郎。敏夫齋と號す。大阪の人。

クマヲ 國雄(岡本) 歩兵少尉。熊本縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十二月十一日傷死す。

クマヲ 國男(瀬川) 歩兵大尉。愛媛縣出身。日露戰役に從軍中、三十七年八月大孤山に傷死す。

クマヲ 國男(齋藤) 海軍少佐。大正二年一月十七日歿す。

クマヲ 國雄(林) 江戸の國學者。一に眞棹と稱し。常磐舍と號す。通稱主稅。本居宣長の門。文政二年二月二十七日歿す。年六十二。

クマヲ 邦男(田中) 勤王家。大和十津川の郷士。名は通鳳、初め主馬藏と稱す。中山忠光の軍に加り、捕はれしが、還れ歸り、正親町三條實愛につき建議す。慶應元年禁獄に繋せられ、翌年再び脱れしが、十二月九日絞死す。年三十五。明治二十四年十二月贈正五位。

クマヲ 邦雄(筑尾) 薩摩藩士。工科大學舍監たり。明治三十九年一月十五日歿す。年六十一。

クネンバウ 九年坊 ヘキゼンテイ 壁前亭 大和當麻の刀匠。友綱を看よ。

クノリ くのり 愚白 禪僧。和泉成合寺の始祖。字は雲山。月舟和尚の弟子。肥後の人。

クハチ 九八(田坂) 工兵大尉。廣島縣人。日露戰役に從軍中、明治三十七年十月八日傷死す。

クハチラウ 九八郎(野村) 歩兵少佐。東京府出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月盛京省小東溝河近に戰死す。

クヒ 咋(大伴) 金村の孫。崇峻推古兩朝に歷仕し、「大德に至る。

クヒザモチノカミ 久比奢母智神 速秋津彦の子。國之水分神の弟。

クヒノア 首信 京都葵園町の名族。信は其の美をいふ。力士御所櫻長兵衞の女。

クブツ 句佛(三谷) 俳人。垣齋の子。通稱善助。

クブツ 九佛(坂) 大和の醫。源氏。名は正幹。戊辰の役、板垣退助の軍に屬し、陸軍大尉に任ず。五年病國の情勢を觀察す。征韓論の起るや、職を辭し、岩倉其視を刺さんとし成らず。七年一月十七日斬に處せらる。年三十四。

クマキチ 熊吉(岡崎) 山口藩明倫館の會計吏。嚴密にして私なし。元治元年七月十九日京變に死す。年三十三。

クマキチ 熊吉(還山) 歩兵中尉。岡山縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十月盛京省三道牆子に戰死す。

クマキチ 熊吉(工月) 歩兵少尉。廣島縣出身。日露の戰に出征し、明治三十七年十月廿六日戰死す。

クマキチ 熊吉(佐藤) 歩兵少尉。宮城縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年八月傷死す。

クマゴラウ 熊五郎(關内) 水戸藩の志士。名は德光。武田伊賀に屬して囚へられ、慶應元年斬らる。年三十三。贈從五位。

クマゴリ 熊凝(大伴) 天平中、相摸に使し、道に病

「みて歿す。

クマジラウ 熊次郎 孝子。大阪天龍の鍛工兼の子。父死し、母病に臥す。弟馬之助と共に孝養怠らず。遂に官の賞賜を得。時に天明五年二月。兒年十四。弟年十。

クマジラウ 熊次郎(有吉) 勤王の志士。山口藩士。名は良明。字は子德。吉田松蔭の門に入り、高杉晉作等と交を結ぶ。元治元年七月十九日京師の變、長州利あらず。熊次郎等、鷹司邸に入り、建白する所あり。敬に屆まれて自殺す。年二十二。

クマジラウ 熊次郎(元森) 山口藩の志士。名は幹、放哉と號す。戊辰の役、東北征討に向ひ、堰内に傷き死す。年二十五。贈正五位。

クマジラウ 熊次郎(長嶺) 陸軍三等主計。山口縣出身。日露の役に從ひ、明治三十九年九月病歿す。

クマタラウ 熊太郎(千屋) 勤王家。警者。緒方都藏の門。名は孝樹。土佐和倉の人。元治元年藩廳に迫りて斬らる。年二十七。贈從五位。

クマタラウ 熊太郎(小田) 志士。名は尚則。武藏埼玉郡の人。父を竊島久兵衞といひ、家農を以て里正たり。祖小田切重の姓を復して小田氏とす。文久三年家を出で長州藩邸に投ぜしが、元治元年水戸に

赴き、田丸等と共に筑波山に籠り、捕へられて、十月九日斬らる。年二十二。大正元年贈正五位。

クマタラウ 熊太郎(菊池) 農學士。札幌農學校卒業。岩手縣の人。組岡千葉等の中學校に教職を執る。後、勸業銀行盛衰役、大同生命保險會社取締役等を經、四十一年九月十七日歿す。年四十五。

クマタラウ 熊太郎(小島) 歩兵少佐。和歌山縣出身。日露戰役に出征し、明治三十八年三月奉天に戰死す。

クマツチ 熊槌(弘中) 砲兵中尉。山口縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十月病死す。

クマツチ 熊槌(町口) 歩兵中尉。山口縣出身。日淸戰役の際、深く敵地に入りて軍情を探る。明治二十七年八月十日遂に捕はれて殺さる。年二十八。

クマノシン 熊之進(下瀨) 山口藩の志士。名は賴高、又猛彦。文久三年生野の擧に加りて戰死す。年二十一。明治三十五年贈從五位。

クマノシン 熊之進(木村) 會津藩士。名は重光、字は中羽、號は蕉陰。戊辰の變に首として帶刀を唱へて聽かれず。軍に從ひて、白河天王寺山中に戰ひ、屠腹して死す。年五十二。

クマノスケ 熊之助(卒野) 歩兵中尉。東京府出身。明治二十八年征臺の軍に從ひ、九月病死す。

クマノスケ 熊之助 キヨタケ(越智淸武)

クマノスケ 久馬之助(小田) 歩兵少佐。鳥取縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月五日盛京省柳匠屯に戰死す。

クマヒコ 熊彦(高橋) 歌人。香川景樹の門。蒹葭と號す。婦夢の子。明治十三年歿。

クマヒコ 熊彦(深柄) 海軍少佐。鳥取縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十二月旅順に戰死す。

クマワウマル 熊王丸 **クマワカマル 阿王丸** 秦松光籟の臣。宇野六郎の子。一に熊王丸に作る。正平年中、光籟等、楠正儀と戰つて敗死し、六郎も倶に死す。是に於て正儀を刺して、父の仇を報ぜんとせしが、却つて其の恩義に感ぜられ、出家して正覺と云ふ。

クマワカマル 阿新丸 **クニミツ(藤原邦光)**

クマヰ 熊猪(村田) 海軍少尉。高知縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十五日吉野艦沈沒の際に死す。

クマヲ 熊雄(竹志田) 勤王の志士。肥後の人。文久三年中山忠光の擧に加り、劍を撫して死す。年十八。明治三十五年贈從五位。

クマヲ 熊雄(星野) 歩兵中尉。佐賀縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月一日戰死す。

クマヲ 熊雄(米澤) 工兵少佐。東京府出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十二月三十一日旅順松樹山に負傷して死す。

クミキチ 九見吉(松島) 歩兵少尉。福島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月八日盛京省遼化屯に戰死す。

クミコ 紐兒 萬葉集の作家。天平寶龜年間の人。

クミコ 九三子(松本) 伊勢津藩士只右衞門の女。國學を好み、寬政十年本居宣長の門に入る。

クメ 來目 用明天皇の子。聖は皇后穴穗部間人。推古天皇の十年、征新羅將軍に任ぜられ、筑紫に至りて病に罹り、明年二月薨ず。

クメコ 久米子 士井伊筑守の妻。和歌を好み、明和の頃、賀茂眞淵の門に入る。

クメセン 久米仙 大和國吉上郡の人。仙術を學び飛行自在を得しが、一日、衣を洗へる婦人の陰の白きを見て感念を起し、人界に墮落せりといふ。

クメゼンジ 久米禪師 **ゼンジ 禪師**

クメタラウ 粂太郎(中村) 所作事の名人。嵐門十郎の子。家名丹波屋。俳名錢長。享保四年京都大和山座に出で、名を中村吉十郎と稱す。安永六年七月歿す。

クメノカタ 久免方 德川氏の外戚。稻葉定淸の女。寶延四年六月落飾。十一月櫛田邸に從ひ、安永六年十一月二十八日卒す。

クメノスケ 久米之助(勸世) 宗玄の子。

クメノスケ 久米之助(堀) 會津藩士。戊辰の役、若松城の圍を受くるや、主命を奉じて米澤に使し、同盟前約の決行を迫る。米澤藩、兩端を持して決せず。久米之助、米澤藩主に一書を遺して九月四日自刃す。年三十一。

クメノワクゴ ヲケノイハスワケノ スメラミコト 來目稚子裏祁石巢別天皇 **ケンソウテンワウ 顯宗天皇**

クメハチ 粂八(荒井) 歩兵中尉。神奈川縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年十二月傷死す。

クモヰ 雲井 吉原金井三左衞門の紺妓。俳諧を素外に學び、佐々木文山の筆跡を慕ひ、又文を善くす。文化頃の女。

クラ 倉(富貴樓) 横濱待合茶屋の女主人。明治四十三年九月十一日歿す。年七十五。

クラウ 九郎(進士) 足利家の近臣。三好長慶の殺屋を憎み、天文二十年三月十四日之を斬りしも、傍人に支へられて死す。

クラウ 九郎(平澤) 尾張侯の臣。仕官の間、陶器を

作る。世に九郎燒と稱す。文化年間の人。

クラウ 九郎(山本) 勤王の志士。薩州藩士。文久二年伏水の擧に與し、二十三日戰死す。

クラウ 九郎(中村) 勤王家。長州藩士。名は楠旭。白水山人と號す。梁川星巖、梅田源次郎、賴三樹三郎等と交遊し、輦下の事情を偵知して藩に報ず。元治元年の變に罪を得て斬に處せらる。明治二十四年正四位を贈らる。

クラウ 九郎(別府) 薩擧の人。陸軍大尉たり。病に因りて職を辭し、鄕に歸りて私學校に在り。西鄕隆盛の兵を擧ぐるや、其の小隊長となる。城山陷るに及び、出でて降る。

クラウ 九郎(加藤) 讀賣新聞記者。元眞宗の僧。滴圓と號す。明治二十三年一月二十三日歿す。

クラウ 九郎(片山) **アイノスケ(木村愛之助)** **スケサダ(本間資定)**

クラウハウグワン 九郎判官 **ヨシツネ(源義經)**

クラウヒコ 九郎彦(村上) 砲兵大尉。熊本縣出身。明治三十四年一月三十一日歿す。

クラオイ 藏老(春日) 萬葉歌人。和銅七年常陸介に任ぜらる。

クラキチ 倉吉(安達) 歩兵中尉。宮城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月盛京省に戰死す。

クラザウ 倉藏(田中) 歩兵少尉。三重縣人。日露戰爭に從軍中、明治三十七年八月三十一日戰死す。

クラジ 倉次(吉川) 歩兵中尉。山形縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、九月二日盛京省黑英臺に負傷し、翌日歿す。

クラジマロ 藏下麿(藤原) 右大臣百川の第。惠美仲麻呂を討つて功あり。從三位に進む。光仁帝の立つや、定策の議に與る。兵部卿、東宮太夫、太宰帥、參議等に拜し、貴龜六年卒す。

クラタ 內藏太(池) 志士。土佐小高坂の人。安井息軒に學ぶ。名は定謙。別名和川左馬之助。慶應二年五島神にて溺死す。年二十六。贈從四位。

クラタ 內藏太(渡邊) 志士。名は暢。介亭と號す。幼名久之助、後、廉輔、遜、終に內藏太と改む。長州藩士渡邊定輔の第。最も劍に長ず。文久二年公武周旋掛となる。右筆に擧げられ、機密に參與す。元治元年蛤御門の變に起り、獄に下されて、十二月十九日斬らる。年二十九。明治二十四年正四位を贈らる。

クラタ 倉太(小林) 歩兵中尉。日露戰役に出征航海中、明治三十七年六月歿す。

クラタラウ 藏太郎(中山) 歩兵大尉。大阪府出身。日露の役に從ひ、明治三十七年五月南山に戰死。

クラタラウ 倉太郎(時廣) 歩兵少尉。廣島縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月旅順東鮫臺山に戰死す。

クラノウダイジン 藏右大臣 ムラジコ(蘇我連子)

クラノジヨウ 內藏允(芳賀) 池田輝政の右筆。大阪の役に功あり。晩年國事に參與す。

クラノジヨウ 內藏允 ノブタカ(松平信孝) 常陸大中の勤王家。明天皇の妃。石姫の同母妹。石上皇子を生む。「人。

クラノシン 內藏進(白石) 常陸大中の勤王家。宮內少輔登の子。豐臣秀賴に仕ふ。元和元年大阪の役に斃れて死す。

クラノスケ 內藏助(近藤) 天然理心流の劍術の祖。名は良裕。遠江の人。

クラノスケ 內藏助(山崎) 陸軍一等軍醫。蚕木縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月六日盛京省鞍山屯に戰死す。

クラノスケ 內藏助 ヨシラ(大石良雄)

クラノスケ 內藏之助 メイゲン(小倉明原)

クラノスケ 藏之助 クマオミ(岡熊臣)

バイシヤ(三枡梅舍)

クラノナイシ 藏內侍 女歌人。後醍醐の作家。

クラノメ 藏部女 女歌人。中臣宅守の妻。萬葉集の作家。

クラハシ 藏橋(遠藤) 國學者。本居大平の門。通稱は權兵衞。米澤の人。

クラミツ 藏滿(遠藤)

クラミツハノカミ 闇御津羽神 **ヒノヤギハヤヲノカミ 火之夜藝速男神** を見よ。

クラモチノイラツメ 倉持娘子 女歌人。萬葉集の作家。

クラヤマツミノカミ 闇山津見神 **ヒノヤギハヤヲノカミ 火之夜藝速男神** を見よ。

クラワカヤヒメ 倉稚綾姬 宣化天皇の女。欽明天皇の妃。石姫の同母妹。石上皇子を生む。「人。

クランド 藏人(木村) もと藏進下野城主。織田氏、尾張に勃興して、隣國を併呑するに及びて、地を避けて藤堂氏の臣田中林齋に依り、田中平右衞門と改む。文祿の役、林齋と與に軍に從ふ。

クランド 藏人(橫山) 加賀侯の太夫。大權得藏の變に前田淸濃と共に藩の爲に死す。

クランド 藏人 ノブタカ(松平信孝)

クランド 藏人(丸女) 神賀流劍法

の祖。上泉伊勢に親炙し、其の秘術を極む、後、西國に移る。
クリ 栗 孝貞の婦。甲斐田中村安兵衛の妻。藩府之を賞し、黄金若干を賜ふ。
クリクマワウ 栗隈王 難波皇子の子。天智天皇の時、太宰帥となる。天武天皇の二年、兵政官長となり、四年薨ず。
クリノモト 栗本 サンヤウ(山陽堂山陽)
クリノヤ 栗廼屋 カスヰ(港崎可粋)
クル 久留(陽侯) 初め僧となり、運徳と號す。文武帝其の材藝を嘉し、詔して還俗せしめ、姓名を賜ひ、大隅守となす。養老中、大隅の隼人反して之に死す。
クルマソウ 車僧 シャウコ 正虎
クルマル 久留丸(錦) 江戸の戯作者。一亭、長亭、五蘭と號す。文化文政頃の人。
クロカミ 玄上(藤原) 諸葛の子。從三位參議。書を善くす。承平三年薨ず。
クロゲンダ 黒源太 キヨミツ(武田清光)
クロジラウ 九郎二郎(瀬田) 茶人。瀬田掃部正正忠の子。掃部形と稱する大形の茶杓を製す。
クロダノイホドノミヤニアメノシタシロシメシスメラミコト 黒田廬戸宮御宇天皇 カウレイテンワウ 孝靈天皇
クロタヘ 黒當(丈部) 萬葉集の作家。川相の族。天平寶龜中の人。
クロトヒシキブ 黒鳶式部 戯作者。又狂歌を善くす。岩瀬京傳の妹。天明年中、年二十に滿たずして歿す。
クロヌシ 黒主(大伴) 延喜年間の歌人。古今、後撰、拾遺、續後拾遺、新千載諸集の作家。
クロヒト 黒人(高市) 天平寶龜年間の歌人。萬葉、玉葉、新拾遺諸集の作家。
クロヒト 黒人 トシカネ(梅本敏兼)
クロヒメ 黒媛 履仲天皇の妃。葦田宿禰の女。市邊押羽皇子、御馬皇子、青海皇女を生む。天皇の五年九月薨ず。
クロヒメノイラツメ 黒媛姫 天智天皇の宮人。栗隈徳萬の女。水主内親王を生む。
クロベヱ 黒兵衛(音羽屋) 陶工。もと濟閑寺に住し、寶曆年間清水に移り、磁器を製す。之を清水燒といふ。
クロベヱ 九郎兵衛(佐田) 兵法家。因幡の人。初め九郎左衛門と稱す。阿波の細川氏に仕へ、既にして木津に退居し、後、又、阿波に歸る。
クロベヱ 九郎兵衛(稲田) 蜂須賀の家人。大阪冬の役に勇名を顯す。
クロベヱ 九郎兵衛(大野) 赤穂侯の老臣。貪婪怯懦、主家の滅後出亡す。終る所を知らず。
クロベヱ 九郎兵衛(莅戸) 米澤藩士。名は鵬、字は士雲。藁井孝徳に就きて經濟を研究す。藩主治憲を助けて老職となり、漸く國富を致す。
クロベヱ 九郎兵衛(古市) 瀧川一益の臣。
クロベヱ 九郎兵衛(葛野)(初代) 葛野流大皷の祖。名は定之。徳川家康に召され、後紀州侯の臣となる。
クロベヱ 九郎兵衛 カツマサ(堀勝政)
クロマサ 玄理(高向) 武内宿禰の後裔。推古天皇の十六年、遣隋使に從ひて、隋に留學し、三十三年を經て歸り、大化二年國博士となる。白雉五年遣唐押使となり、遂に唐に卒す。
クロマロ 黒麿(忌部) 萬葉歌人。天太玉命の後。天平寶字六年内史局助となる。
クロマロ 黒麿(大伴) 萬葉歌人。天平勝寶延曆年間の人。右京少進に至る。
クロヱモン 九郎右衛門(富田) 劍客。富田流の祖。越前朝倉氏の家人。名は長家。大儒勘解由左衛門の門。
クロヱモン 九郎右衛門(加藤) 徳川家康の臣。初め玄蕃と稱す。景元の子。慶長五年伏見城を守る。八月朔、鼓櫓延燒す。九郎右衛門之を消さんと欲し、適火藥に中り、地に墜ちて死す。
クロヱモン 九郎右衛門 カゲアツ 景惇
クロンド 黒人(濱邊) 狂歌師。江戸芝の書舗。通稱三河屋半兵衛。入花と稱し、點料を徴するは、この人に始まる。綽名を齒までの黒人と呼ぶ。
グワアウ 臥央 尾州の俳人。櫻田氏。曉臺の門。文化七年六月歿。
クワアン 蝸菴(松井) 出雲の儒者。名は邦彦、別號御獎、一に鷲と名く。字は之國、源太夫と稱す。松江藩に仕ふ。著、周易程傳備考、尚書二典備考、論語備、書俚語、孫子集解等。
クワアン 花庵 カネト(船曳鐵門)
クワイ 懐(豊浦) 老子學者。長門の人。字は子玉、被褐翁と稱す。天明中、上總東金に帷を下す。老子道德經妄言の著あり。
クワイアン 快庵(大森) 甲斐の儒者。名は欽、字は舜民。
クワイアン 快庵 メウキヤウ 妙慶
クワイアン 快安 ミンザン(中江岷山)
クワイアン 槐安 禪僧。備中國淸寺、美濃多治見永得寺住職。明治三十八年十二月化す。
クワイアン 槐菴(脇田) 醫師。名は信親、字は杢菴、條左衛門信貞の子。印牧玄順及び、森川宗園に學ぶ。松山侯に聘せらる、寛永四年九月歿す。年六十六。

クワイアン 槐菴(堀) 儒者。名は正乙。寛文七年十二月京都に歿す。
クワイアン 塊茶 タイクワイ(富川大晦)
クワイイン 槐陰(青木) 儒者。安政年間江戸に住す。
クワイイン 槐隆 アリノリ(三角有紀)
グワイイウダウジン 臥遊道人 ゼング 全愚
クワイウンダウ 槐雲堂 トウレツ(山崎董烈)
クワイエン 悔焉 チヨウゼン 澄禪
クワイガ 快雅 比叡山大僧正。續古今集の作家。
クワイカク 快覺 三井寺の阿闍梨。藤原俊相の子。後拾遺集の作家。
クワイカン 快閑(姉小路) ナガタカ(藤原長隆)
クワイギ 快宜 元祿頃の俳人。
クワイキヤウ 快慶 畫人。法眼に叙せられ、常に佛像を畫く。
クワイギヤウ 快行 ケウゾン 敎存
クワイクワイ 會々(佐竹) 京都東山の畫人。池大雅の門。通稱貞吉、字は應祿。寛政二年歿。年五十三。
クワイクワイ 噲噲 キイチ(鈴木其一) バイシユラウ(寶酒郎)
クワイケイ 快慶 佛工。運慶の父。康慶の弟子。法橋。法名阿彌陀佛。刀法絶妙の稱あり。
クワイケイ 檜溪(河田) 儒者。通稱朴。踏雲と號す。島原藩士。安政年間江戸に住す。
クワイケイアン 懐惠菴 シャウタク(里村昌琢)
クワイゲツダウ 懐月堂 江戸の浮世繪師。慶長元和以前、足利氏の頃か。恐らくは其の以前より代々業を繼ぎ來れるものにて、唯一人の稱にあらじ。
クワイケン 槐軒(信夫) 江戸の儒者。名は顯祖。通稱眞五郎。別號壽山。一橋卿に仕へ、天保三年閏十一月歿す。年六十七。
クワイゲン 快玄 江戸深川正覺寺の僧。延享年間、賀茂眞淵に從ひて國學を修む。
クワイサイ 悔齋(竹村) 江戸の人。名は算、字は伯賀、通稱海藏。某侯に仕へしが、藩宰の權を專にし、政を亂るを憤り、彈劾して用ゐられず、辭し去つて詩文自ら娯みしが、一日醉ひて歸り、路上、藩宰に遇ひ、之を刺殺し、家に歸りて自殺す。
クワイサイロウ 快哉樓 ソウブン(森川曾文)
クワイサウ 懐奘 禪僧。京師の人。姓は藤原。黄門爲實の孫。字は孤雲。永平寺の道元に從學し、後その住職となる。
クワイザウ 回藏 ケイホ(守元溪圃)
クワイザン 晦山(佐々木) 書家。志頭麿の男。父に學ぶ。
クワイザン 悔山 タウイン(鹽谷宕陰)
クワイザン 快山 畫人。殿樹宿鷹を畫く。樹石は狩野元信を學び、鷹は土佐の風致を宗とす。
クワイシ 槐市 伊賀の俳人。中尾氏。元祿頃。
クワイシウ 懐州 シウタン 周潭
クワイジヤウ 快淨(本間) 佐渡の密僧。州の神宮寺に入り、快輪に就いて得度す。諸國を行脚して傍註四書一萬部を施す志あり。明治三十三年四月二十日歿す。年七十三。
クワイジユ 懐壽 比叡山の僧都。後拾遺集の作家。
クワイシユウ 快修 大僧正。比叡山天臺座主。中納言俊忠の子。千載集の作家。
クワイシユンアン 回春庵 サンパク(西三博)
クワイシヨウ 懐松 リウラウ(松崎柳浪)
クワイシン 快心 エイフク(奥村永福)
クワイジン 懐尋 歌僧。金葉集の作家。
クワイシンサイ 會心齋 セイセン(狩野晴川)
クワイスケ 魁介(武田) 水戸正義派の士。名は正瑞。慶應元年二月四日武田耕雲齋と共に死刑に就く。
クワイセイ 快晴(高田) 元尾張犬山藩士。舊稱治右衛門。戊辰の役功あり。明治八年歿す。年六十八。同三十六年贈正五位。
クワイセン 快川 セウキ 紹喜
クワイゼン 快禪 碁僧。加賀國小松の人。幼にして賀國寺の沙彌となりしが、性魯鈍、學べども進まず。ただ老僧の客と碁を圍む毎に、傍に侍りて默々熟視し、遂に名手となり、江戸に出でて傳通院に寓居す。
クワイソウ 魁叟 エイバイ 永梅 リヤウキヤウ 長慶
クワイソウ 槐窓 イウイウ(河原悠々)
クワイソン 快尊 高野山の問答講を再興す。文政元年七月化す。年七十六。
クワイダウ 槐堂(淡海) 勤王家。醍醐家に仕へて板倉筑前介と稱す。幕兵に捕へられて、獄に下りしが、後赦され、明治十二年歿す。贈正五位。
クワイヂユウ 快住 伊勢飯福田寺の住持。國學を好み、寛政九年本居宣長の門に入る。
クワイナン 槐南(森) 詩人。文學博士。春濤の子。名は公泰。字は大來、泰次郎と稱す。菊如澹人、說詩人、秋波禪侶の號あり。修史局、宮内省に出仕し、晩年東京文科大學講師たり。明治四十四年三月七日歿す。年四十九。唐詩選評釋、古詩平仄論等の著あり。
クワイホ 誨輔 セキアン(田邊石菴)
クワイホン 槐本 歌人。萬葉集の作家。
クワイライシ 魁雷子 セイイチ(古川精一)
クワイリ 會理 畫僧。宗叡禪師に學び、佛畫に巧みなり。延長六年十二月東寺の長者となる。

クワイエン　槐園　ダンズ井(宇田川玄隨)
クワイエン　槐園(喜多村)　幕府の醫官。考證の父。

クワイエン　懷園　比叡山の僧。源道濟の子。後拾遺「巢の作家。
クワイラウ　快翁　サダザネ(安藤定實)　ザンシュン　玄俊

クワイン　華陰(巨野)　京師の儒者。自ら其の氏を修して良とす。名は芸之。字は伯耕。平助と稱す。醫鼓の人。林鳳岡の門。東叡山王府に仕へ、後、尾藩王に賓たり。明和七年四月殁。年七十二。私諡して文惠といふ。著、華陰良論、詩評集解、華陰文集等。

クワイン　華陰　モトアキラ(水野元朝)
クワイン　花陰　ヒロタケ(近藤廣武)
クワイン　華隱　畫家。周文の風を學び、後、宋人牧溪を慕ひて、觀音の像を畫く。

クワイン　花隱(廣瀨)　畫家。名は自勝。睡足園と號す。櫻花を得意とす。文政頃の人。

クワウ　瀧(荻田)　夢兵少佐。岡山縣人。日露役に從ひ、明治三十八年三月五日王官鎭に戰死す。

クワウ　鑛(原田)　東京地方裁判所判事。明治四十五年五月二十八日卒す。年四十二。

クワウ　宏(有村)　夢兵少尉。鹿兒島縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年八月三十一日盛京省首山堡に戰死す。

クワウ　晃　アウケイ(林鷺溪)　キシユン(諸葛一歸春)
クワウ　皦　テイウ(林樸宇)
クワウア　皜　ウザエモン(森宇左衞門)

クワウア　光阿　平文師。正和四年朝命を奉じ、近江日吉神社造營に從事す。

クワウア　筧阿　俳人。三好氏。素丸の門。

クワウアン　廣安(中山)　醫者。名は定實。もと田中氏。天保三年十二月京都に殁す。年六十三。

クワウアン　光意　ギンカウ(尾崎銀岡)　人。容貌閑雅、音韻清亮。講席に臨む毎に道俗傾聽す。大同中、最勝會の座主となり、弘仁五年三月、寂す。年七十八。

クワウイチ　光一(宮川)　騎兵大尉。藉井縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年九月一日盛京省三又河南方に戰死す。

クワウイチ　光一(岸田)　夢兵少尉。東京府人。明治三十七年日露戰役に從ひ、十一月二十六日旅順松樹山に負傷し、二十八日殁す。

クワウエイ　陳瑛　釋僧。月庵と號す。能登永光寺の明肇禪師に參し、後、同國永禪寺の第一世となる。

クワウエイ　光映(竹林坊)　天台宗の僧。豐後の人。叡電瀨樹、又一如庵と號す。慶應四年公現親王に扈して近郊に難を避く。後延曆寺の座主に補す。明治二十七年金臺院に寂す。

クワウエツ　光悅(本阿彌)　刀劍鑑定家。太虛庵、自德翁、空中庵、德友齋等の號あり。多賀宗春の子。本阿彌光心の養嗣。諸道に通ず。書は近衞關白龍山公(武は栗田宮尊能法親王といふ)に師事し、更に一家の風を出して、平安三筆の一たり。畫は海北友松に學び、之に土佐風を加味して光悅風を興す。又、蒔繪器等に秀で、更に纖部流の茶道に通ず。自ら了寂院と號して、洛北鷹峰に居り、又一寺を建てて光悅寺といふ。寛永十四年二月三日歿、年八十一。

クワウオン　廣恩　高僧。吉野に住し、法華を講ず。

クワウオンヰン　光恩院　タカチカ(藤原孝親)　畫家。江戸の人。神一戰の門。文政十二年生る。

クワウカイ　宏海　鎌倉淨智寺の僧。號は南淵。宋に入り、歸朝して建長寺乙庵に依る。金峰山に出世す。勅諡眞應禪師。

クワウカク　テンワウ　光孝天皇　仁明天皇の第三子。諱は時康。母は藤原澤子。文德、齊和、陽成の三帝に歷事して一品式部卿に至り、遂に藤原基經に擁立せらる。在位三年にして崩ず。壽五十八。御製、古今、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、玉葉、續後拾遺、風雅諸集に出づ。

クワウカク　テンワウ　光格天皇　東山天皇の曾孫。典仁親王の第六子。諱は兼仁。母は成子內親王。明和八年九歲にして卽位。在位三十七年。天保十一年十一月崩ず。壽七十。

クワウカモンヰン　皇嘉門院　マサコ(藤原聖子)　シゲコ(藤原重子)

クワウガン　廣巖　福泉院の住持。信州の人。名は橫寬。物徂徠と親し。正德四年十二月五日化す。

クワウキ　光軌　キヤウザン(古野鏡山)

クワウギウ　黃牛(松田)　儒者。名は三龍。字は有孚。別に不二庵、擇善堂と號す。信州新町の人。家世々醫たり。後本天山に學び、文政元年藩校の教授たり。六年にして辭し去る。以後閉戶して讀書す。周易玉契の著あり。又書法を善くす。

クワウキクジユエン　黃菊壽園　タダヒデ(水野忠英)

クワウギモンヰン　廣義門院　ヤスコ(藤原寧子)
クワウキヨク　テンワウ　皇極天皇　敏達天皇の曾孫。茅渟王の子。舒明天皇の皇后となり、天皇崩後、卽位して、飛鳥淨見原宮に在り。在位三年、位を輕皇子に讓りて、自ら皇祖と稱す。

クワウクウ　光空　高僧。近江の人。金勝寺に居りて、法華を講ず。

クワウクウ　黃華(葉室)　肥後藩の儒員。直次郎と稱し、字は敬興。昌平黌に學び、藩主の侍講となる。天保二年三月二十七日殁す。年四十一。

クワウクワアン　黃花庵　ショウロク　升六

クワウクワウ　光晃(後藤)　金工。眞乘の子。名は光年。通稱源之丞。

クワウクワク　黃鵠(三浦)　儒者。字は修齡、又王齡。一に坦齋と號す。曇徵の人。梅園の子。杵築藩仁仕ふ。文政二年正月十日殁す。年五十六。著、擾夷私論、坦齋詩文集等。

クワウクワン　光宣(篠山)　武藝の達人。幕府に仕ふ。通稱吉之助。山鹿流の兵法、一刀流の劍術、澁川流の拳法、大島流の槍術、遊雪の射、信直の御、皆其の印可を得。殊に槍術に達し、又、歷算に通ず。寬政二年七月二十二日殁す。年七十五。

クワウクン　光訓(松岡)　クワンスヰ(松岡環翠)

クワウケイ　璜溪(板倉)　江戸の儒者。名は安世。字は美仲。通稱安右衞門。一に帆丘と號す。復軒の子。物徂徠の門。

クワウケイ　篁溪(中村)　水戸の儒臣。通稱新八郎。名は顯言。字は伯行。初め春帆と號す。林鳳岡に學び、水戸義公に仕へ、彰考館の編輯を總裁す。正德元年二月殁す。

クワウケイ　皇慶　高僧。橘廣相の曾孫。性空法師の姪。叡山に登りて修業し、西國に遊びて、景雲阿闍梨に學ぶ。永承四年七月入寂。年七十三。

クワウケイ　廣計　エンモク(古田淵默)
クワウケン　光謙　高僧。字は蟲空。俗姓岡村氏。筑前福岡の人。叡山に登りて聖覺寺及び星光院に住し、師妙立和尚の嫉疾を受けて、聖護院の有門庵に住し、又叡山の安樂院に移り、晩年、尾藩の請に應じて、元文四年十月四日寂す。年八十八。

クワウケン　光兼　ジツニヨ　實如
クワウケン　光賢(加賀美)　醫。海軍軍醫、橫須賀海軍病院長、海軍々醫總監を經て、宮中顧問官、常宮周宮御用掛を命ぜらる。明治四十年四月入日卒す。年六十二。

クワウケン　黃軒(平田)　シザン　宏源　字は覺齋。大參覺と稱す。大藤幽谷、會澤正志齋の門人。觀音寺の政應、如周、齋命院の盧田氏。京都の人。觀音寺の政應、如周、齋命院の吳茶、東寺の宗弘等に學び、天和二年十一月十四日寂す。年五十七。

クワウゲン　光源　僧。安居院法印聖覺の孫。權大僧都長惠の子。叡山に住し、權少僧都に任ぜられ、文永二年五月二十一日、衆徒を率ゐて園城寺を燒き、南都に遷居せしが、官の搜索嚴なるため自殺す。後拾遺集の作家。

クワウゲンヰン　光源院　ヨシテル(足利義輝)
クワウコ　廣湖(高橋)　畫家。肥後の人。通稱久馬。初名天鹿。松本楓湖に學ぶ。尤も王朝時代の風俗に長ず。明治四十五年六月二日殁す。年三十八。

クワウコ　黃狐　リヤウサイ(田中良齋)
クワウコク　光國　シユンギヨク　舜玉
クワウゴンヰン　光嚴院　後伏見天皇の太子。名は量仁。母は廣義門院。後醍醐天皇の巡狩するや、高時に擁立せらる。在位二年にして、後醍醐天皇歸洛し、位を退き太上天皇と稱す。後髮雅して光智といひ、無額と號し、貞治三年崩ず。著五十一。風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クワウサ　光佐　ケンニヨ　顯如
クワウサイ　篁窗(編)　詩人。通稱左司馬。名は方。岩附藩士、安政年間江戸に住す。
クワウサイ　篁窗(皆川)　儒者。名は允。字は君猷。猷藏と稱す。京師の人。淇園の子。平戶侯に仕へ、文政二年七月殁す。年五十八。著窗文集の著あり。
クワウサイ　光西　歌僧。續後撰集の作家。
クワウサイ　光濟　醍醐大僧正と稱す。大納言賢明の子。新後拾遺集の作家。
クワウサイ　廣齋(千手)　日向の儒者。もと三浦氏。名は興訒、字は一靜、通稱八太郎。高鍋藩に仕へ、文政二年殁す。
クワウザン　光三(大東)　陸軍三等主計。大阪府の人。明治三十七年日露戰役に從ひ、十月病死す。
クワウザン　光三(太田)　陸軍三等軍醫。愛知縣人。日淸戰役に從ひ、明治二十八年七月病死す。
クワウザン　光造(荒牧)　夢兵大尉。兵庫縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十月三十一日東鷹近山の戰に傷き、十一月二日殁す。
クワウザンヰン　光源院　ヨシテル(足利義輝)
クワウシ　鑛三(山口)　海軍中尉。靜岡縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年七月三日旅順口外に戰死す。
クワウサウゴンヰン　ノミヤ　廣壯嚴院宮
ソンセウホフシンワウ　尊昭法親王
クワウサク　光作(福田)　夢兵少佐。石川縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月溟河に戰死す。
クワウサク　宏作(飯田)　東京辯護士會長。蓼仙臺藩士。司法省法學校出身。大正元年十二月十五日殁す。年五十七。
クワウサツ　光刹　サブロベエ(本阿彌三郎兵

クワウザン 黄山(田) 南畫家。名は光順。酒肆を
クワウザン 黄山(中島) 儒者。二本松藩士。名は
淳、字は大初。維新後、新潟縣大屬となる。明治三
年歿す。
クワウザン 黄山(關口) 江戸の書家。關鳳岡の
門。金鶚の子。名は忠貞、字は世篤、通稱貞助、後
嘉平と改む。學を太宰春臺に受け、尤も魏晉六朝の
典誥に精し。幕府に仕へしが、辭して教授を業と
す。延享二年四月十八日歿す。年二十八。
クワウザン 黄山 **リウアン**(畑柳安)
クワウザン 廣山 **ジヨヤウ** 恕陽
クワウザン 光山 **ヨシノリ**(足利義敎)
クワウザン 晃山 京の俳人。爪木氏。艸山の子。
クワウザン 晃山(石川) 畫工。名は晃、字は士晃、
通稱宗助、髻髪山人と號す。谷文晁の門。明治二年
二月二日歿す。年四十九。
クワウシ 廣司(伊原) 歩兵中尉。長野縣人。明治
三十七年日露の役、旅順攻圍軍に從ひ、九月二十二
日戰死す。
クワウシウ 篁洲(榊原) 紀州侯の儒官、貢洲の
父。幼字小太郎、名は玄輔、字は希顏、和泉の人。
もと下山氏。外父の氏を冒す。木下順庵に學び、制
度の學に委し。寶永三年正月歿す。年五十一。
クワウシウ 黄洲 **ハクガ**(新井白蛾)
クワウシウホン ノミヤ 廣修院宮 **ソンエイホフシンワウ**(尊瑛法親王)
クワウシヤウ 黄裳 **ソクケン**(石王塞軒) **ウン**
クワウシヤウカク 黄裳閣 **シザン**(大高阪芝
山)
クワウジユ 光壽 鞆の名手。梨本氏。江戸の人。

クワウタラウ 鐵太郎(柴田) 陸軍三等軍醫。愛
知縣出身。日清戰役に從ひて明治二十七年十月大東
溝に病死す。
クワウタラウ 光太郎(木田) 歩兵少尉。東京府
人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月九日盛京省
田義屯に戰死す。
クワウタン 蛟潭 **ケンジ**(豐田謙次)
クワウヂヤウ 光定 高僧。俗姓賀氏。伊豫風早郡の
人。傳教大師に學ぶ。外典の學に通ず。朝廷の崇信、
極めて厚く、天安二年八月寂す。
クワウチヤウサイ 黄暢齋 **ナホマサ**(尾崎直
クワウチユウ 黄中(香川) 歌人。德大寺家に仕
ふ。初名京椙。景平の子。文政四年十一月九日歿
す。年七十七。
クワウチン 廣椿 肥後大慈寺の禪僧。字は大恕。
同國宇土郡の人。廣澄庵に退居して寂す。
クワウテイ 煌亭(岡田) 上總の儒。名は欽。別號
南嶺。或は南嶽。字は秀三。彦助と稱す。天保九年
四月十日歿。年四十七。
クワウテイ 光鼎 **クワウザン**(田黄山)
クワウテウホフシノハハ 光朝法師母 因幡守
橘行平の女。後拾遺集の作家。
クワウト 廣渡 **シンカイ** 心海
クワウトク 廣得 備後の俳人。藤井氏。通稱織屋
與一郎。立圃の門。
クワウトク 廣德(中尾) 江戸の儒者。正藏と稱
す。字は士尚。寛延三年七月歿す。
クワウトク 光篤 丹波圓通寺の住僧。字は竹馬。
佐竹義澄の子。一休に學ぶ。文明三年九月化す。
クワウトン 篁墩 **ケンジ**(豐田謙次)

クワウトン 篁墩(吉田) 江戸の儒者。自ら氏を修
して吉と言ふ。井上金峨の門。名は讓、字は學儒、
又學生、初名坦、坦藏と稱す。世々水戸藩士。
故ありて祿を奪はれ、姓名を變じて佐々木坦藏と
いひ、江戸に出でゝ儒となる。後、初氏に復す。考
證學を首唱し、寛政十年九月朔日歿す。年五十四。
著、論語集解考異、眞本古文孝經孔傳、
眞本墨子考、左傳杜解補正、骨董小說等。
クワウナン 濱南 **コクメイ**(關克明)
クワウニン 天皇 **テンワウ** 光仁天皇 天智天皇の
孫。施基皇子の第六子。名は白壁。稱德天皇崩ずる
や、大臣永手等に迎へられて立つ。平城に都し、在
位十二年、位を太子に讓り、尊いで崩ず。壽七十三。
クワウネン 光然 **ミツヨリ**(藤原光賴)
クワウハンクワ 廣牛窩 **セイクワ**(藤原光賴)
クワウハンモンヰン 光範門院 **スケコ**(藤原
資子)
クワウヒン 光品(桑島) 靈刀家。慶應三年御即
位の際、寶劍を研磨し、伊勢大掾に補せらる。又海
宮術に秀で、門下三千餘に達す。明治四十四年四月
九日歿す。年七十二。
クワウフン 黄文(加納) 京都の畫人。明治二十四
クワウヘイ 宏平(石川) 海軍中軍醫。宮城縣人。
明治三十七年日露戰役に從ひ、九月三日旅順口附近
に戰死す。
クワウホ 光甫(本阿彌) 光悅の孫。光瑳の子。空
中齋と號す。茶香を嗜み、陶器を製す。丹青の道
は祖翁の蹟を學ぶ。茶は流祖吉田氏に從ふ。天和二
年七月二十四日歿。年八十二。
クワウホ 廣甫(末生齋) 未生流挿花の祖。上田
氏。名は正行。大阪に住す。文久元年七月十日歿。

「業とす。晉祿の門。

クワウシヨ 篁所(岡田) 長崎の儒醫。名は穆、字
は清風。通稱恒庵。大可山人、修竹吾廬、小綠天と
號す。學を宇都木靜區、野田笛浦に修め、醫を多紀
醫廬に學ぶ。明治三十六年二月十
四。
クワウジヨ 光助 僧。延文年間醍醐寺座主となる。
クワウジヨ 光助 僧。筆蹟の長子。幕府の若年寄た
房(二に貞牧)の女。法印權大僧都に任ぜられ、顯成
就院と號す。法名順如。應仁二年大谷本願寺の法嗣
となり、父に先ちて歿す。
クワウシヨウ 光勝(大谷) 本願寺の住職。近衞忠
熙の猶子。明治五年華族に列せらる。二十七年一月
十五日寂す。年七十八。法號嚴如。
クワウシヨウ 光勝 **クワヤ** 空也
クワウシヨウ 光乘(後藤) 金工。乘眞の子。名は
光家。法眼に叙せられ、家祓三作の一と稱せらる。
元和六年三月十四日歿。年九十二。
クワウシヨウホン 光勝院 **ヨリハル**(細川頼
クワウシン 光眞 甲斐廣瀨寺の住僧。字は國學。
以鮎の法嗣。永祿元年寂す。
クワウシン 光信 **ジユカン**(黒川誾閑)
クワウセイ 光清 石清水の別當。法印たり。顯清
の子。金葉集の作家。
クワウセイ 廣成(山脇) 畫人。東原庵と號し、天
保十年八月京都に歿す。年七十一。
クワウセウホン ノミヤ 光照院宮 **ソンジヨウ**
ニンワウ(尊乘尼王)
クワウセン 廣泉(物部) 名醫。伊豫の人。醫博士
兼典藥允より侍醫に遷り、仁壽寮副の間、次侍從と
なり、貞觀の初め、從五位下に累進し、參河權守
に遷正となる。享年七十六。藥養要訣の著あり。
クワウセン 廣川 **キウジヨ**(螢九如)
クワウゼン 光漸 **ダワオク**(山中道億)
クワウゾウ 光增 面打の名手。主藤人道光貞の子。
角坊少進入道といふ。秀吉の命を受けて、假面五を
作る。後山城日野に移住す。
クワウソン 黄村(向山) 詩人。通稱栄五郎。一色
眞淨の第三子。向山源太夫の養子。幕府の若年寄た
り。千坂兼雄に漢學を學ぶ。慶應三年佛國公使とな
る。明治三十年八月十二日歿す。年七十二。
クワウソン 篁村 **ヂユウレイ**(島田重禮)
クワウソン 光村(鈴木) **ヘツトウサク**(二世
平秩東作)
クワウソン 光尊(大谷) **ミヤウニヨ** 明如
クワウダイホン 光壑院御室 **ダウジヨ**
ホフシンワウ 道助法親王
クワウダウ 廣道 高僧。俗姓楠氏。大日寺に居り
て、專心念佛す。
クワウタク 光澤(大谷) 京都本願寺の法主。廣如
と稱す。勤王の志厚く、維新の際金員を獻ず。明治
四年八月寂す。年七十四。同三十四年贈從二位。
クワウタク 廣澤(細井) 書家。初め通稱を辻斐
庵、號を鏡窓といふ。年三十にして細井氏と改む。名
は知慎、字は公謹。廣澤、息軒、蕉林庵、玉川、奇勝
堂等の號あり。次郎太郎と稱す。京師幾戰の人。儒
を坂井橋畔に學び、又文衡山の書法を北島雪山に受
く。儒を以て柳澤吉保に事へしが、讒に逢ひて致仕
す。是より登書法を修め、幕府に登用せらる。享
保二十年十二月二十三日歿。年七十八。著書、紫微
字機、篆體異同歌、觀鷺百詠、字林長歌、筆法稱名、
諸體記。

クワウリョウ　廣陵　俳人。高橋氏。通稱庄右衛門。宗鑑の門。

クワウリン　光琳(尾形)　畫家。名は方祝、又道崇。叙明、通稱、伊亮、青々堂、長江軒等の號あり。京都の人。染物を業とし、通稱雁金屋藤重郎。又勝六。狩野常信に學び、野村宗達の風を倣ふ。又古土佐及び本阿彌光悦を慕ひ、茶道蒔繪に巧なり。享保元年六月二日歿。年五十六。或は六十二。

クワウリン　光林　高僧。南禪寺に住す。關提其の法嗣。放牛と號す。應安六年八月寂す。

クワウレンシヤ　光蓮社　レウフウ　了風

クワウロ　晃露(雀部)　俳人。初音園と號し。安政年間江戸に住す。

クワウ井　光威(大谷)　京都西本願寺の門主。光澤の養子。勤王家。維新の際金三千兩を献ず。明治元年歿。年四十三。德如と諡す。

クワウエン　篁園(野村)　儒者。名は直温、字は名玉。別に夢莊と號す。德川幕府に仕へ、昌平黌の儒員たり。肄名高し。天保十四年三月歿。年六十九。

クワウエン　皇圓　比叡山功德院に住す。源姿の師。扶桑略記の著あり。

クワウン　畫雲　畫人。名は良、字は子良。雅樂助と稱す、天開翁の贅婿。有栖川親王府の臣。

クワウン　臥雲　ヤウエン(竹内楊園)　リヤウユフ(有馬涼友)

クワウンロウ　畫雲樓　ガンリヤウ(岸良)

クワエン　花艷　タケシフラウ(永木竹十郎)

クワカ　爪下　俳人。坂上氏。通稱長輔。風々曲と號す。竿秋の門。

クワカイ　花海(中川)　俳人。通稱傳兵衛。日一亭と號し。安政年間江戸に住す。

クワカイダウ　和諧堂　リツシ(高井立志)

クワカウ　華岡(伊藤)　江戸の醫家。名は雲道、字は子行。通稱壽藏。安永五年十一月二十九日歿。年六十八。著、容衆堂集、華岡印譜等。

クワカウ　鵠好　江州膳所の俳人。元祿頃の俳人。蕉門。

クワカウ　臥高　元祿頃の俳人。

クワカウシヤ　花香舍　ソウシン(志野宗心)

クワカク　和角　蕉風の俳人。元祿頃。

クワカク　華嶽(奥山)　彦根藩の儒者。名は洪建、字は子樹、通稱右膳。別號曙月樓。寛政元年九月歿。年六十二。

クワガク　華岳　キヤウコク　京國

クワガクサイ　畫學齋　ブンテウ(谷文晁)

クワギウ　蝸牛(武守)　角力の行司。五太夫の裔。初名伊之助。相撲赤膏といふ藥を製す。八十三歳にして歿す。小野川と同時代の人。

クワキフ　和及　俳諧。三上氏。露吹庵。直唱法師四。雀森、水くきの岡、藤波集、ひこばえの著あり。と號す。常辰の門。元祿五年正月十八日歿。年四十

クワキヤウジン　畫狂人　ホクサイ(葛飾北齋)

クワギン　和吟　俳人。別所氏。常春の門。寶曆八年正月三日歿。年七十三。

クワキンコジ　畫錦居士　ツネヨリ(東常縁)

クワクエイ　鵠英　明和安永頃の俳人。

クワクエイ　鵠永　サイクワク(井原西鵠)

クワクエイ　廓榮　イウアン　遊庵

クワクカイ　鵠海　サンシヤ　傘車　安東永年の女。畫家。父に從つて長崎に遊び清人陳葦香の門生となる。

クワクカウ　鵠耕(前田)　羅井藩の儒。葉庵の季子。名は鵬、字は子立。松平宗矩の侍醫たり。寶曆五年十一月九日歿。年三十三。

クワクカウ　鵠巢(倉澤)　書家。名は和榮。

クワクカウ　鵠巢(元岡)　儒醫。通稱三棄、飄々釣人と號し、安政年間江戸に住す。

クワクカウ　鵠峯　井メイ(廣島維明)　ガウハク(五十川剛伯)　ジヨサイ(河野恕齋)

クワククツ　鵠屈　ドワアン(古賀侗庵)

クワクケイ　鵠溪(牛島)　肥後の數學者。名は穎房、字は仲賢、宇平太と稱す。著す所の算書三十六卷あり。天保十一年八月歿。

クワクケイ　鵠橋　タイジユン(柚木太淳)　ケイサイ(佐井圭齋)

クワクゲツ　郭月　俳人。容多村氏。卜雪の養子。

クワクゲツダウ　鵠月堂　トシノブ(奥村利信)

クワクゲン　廓元　醫。厚擧と稱す。字は春鷺。孝道勝化鈔を著す。

クワクサイ　鰻齋　センアン(久保田泉庵)

クワクサイ　鵠巢(畑)　儒者。名は雛鶴、字は士器。文政十年京都に歿す。年八十。

クワクサウ　鵠巢　ソアン(久須見疎庵)

クワクザン　鵠山龜田)　加賀金澤の畫人。又詩を能くす。

クワクザン　鵠山(石井)　佐賀藩の儒者。名は有。字は仲車。侍講たり。詩に長ず。寛政元年四月九日歿す。年四十七。

クワクザン　鵠山　リウケイ(畑柳敬)　イウケン(人見友元)　キウカウ(細井九皐)

クワクシ　鵠士　畫永頃の俳人。蕉風。

クワクシウ　鵠州　グンエツ(櫻井元悦)　センアン(上月朝庵)

クワクシツ　鵠室　ハルヲ(佐々木春夫)

クワクジヤウ　鵠城(齋藤)　江戸の儒者。名は敬夫、字は子儼、通稱宇八郎。

クワクジヤウ　鵠城(五井)　江戸四谷の儒者。名は守篤、字は子醇。文化年間の人。

クワクジヤウ　鵠城(恩田)　古河侯の儒臣。名は越碩、字は大猷、通稱啓吾。享和四年歿。年六十六。

クワクジヤウ　鵠城　シノブマロ(佐藤神符麿)

クワクシヤクケン　蠖尺軒　サンセキ(谷村三夕)

クワクジユ　鵠壽(梅屋)　江戸の狂歌師。通稱諸田亦兵衛。初め吉田佐吉と云ひ、老後、雅翁と號す。元治元年正月十二日歿す。年六十二。

クワクジン　鵠人　江戸の俳人。初世沽山の門。

クワクジン　鵠人　俳人。森川氏。並笛齋と號す。仙鶴の門。寛延三年三月朔日歿。年五十二。

クワクセイ　鵠聲　三河の俳人。元祿頃。

クワクセン　鵠川(岡田)　畫家。名は儀、守は民則、通稱勇藏。住日と號す。閑林の子。幕士。

クワクセン　鵠船(吉村)　詩人。通稱喚次郎。阿波藩士。安政年間江戸に住す。

クワクセンラウ　鵠仙老　セツソン　雪村

クワクソウ　鵠叟(三國)　越前三國の富豪。もと森氏。藩命により三國を氏とす。名は直定、後直正と改む。通稱與兵衛。嘉慶して鵠叟といふ。老中酒井忠進に召されて、理財の事を諮問せられ、又加州藩より大阪藏元を命ぜらる。嘉永七年八月二十二日歿す。年八十二。「吉次と稱す。

クワクソン　鵠村(金子)　加賀の儒者。名は有契、長信、通稱彌八。もと引頃氏。山縣周南、服部南郭等に從學す。佛籍に通じ、又雜礼を善くす。安永二年正月二十四日歿す。年六十五。その妻、赤鴛行を以て稱せらる。

クワクダウ　鰻堂(北條)　儒者。名は士伸。通稱永二郎。雉を江戸石町に下して教授す。

クワクダウ　鰻堂(山田)　儒者。名は政茜、字は實成。米澤藩士。古賀侗庵に從ひ、昌平黌に入る。執政竹股英作に知られ軍則を正す。後故ありて職を辱はれ、安政六年上山侯松平山城守に遇へられ、留ること三年。國に歸るや、再び禁錮せられて、歿す。年五十九。

クワクダイ　鵠臺(瀧)　儒者。長門藩の侍醫。名は長信、通稱彌八。もと引頃氏。山縣周南、服部南郭等に從學す。佛籍に通じ、又雜礼を善くす。安永二年正月二十四日歿す。年六十五。その妻、赤鴛行を以て稱せらる。

クワクダウ　鰻堂　セイイチ(村田精一)

クワクダウ　鰻堂　俳人。四山の門。

クワクダウ　鵠堂(蕨)　大阪の儒者。名は平、字は太平。寶永二年十月一日歿す。年七十七。

クワクダウ　廓堂(菊池)　笹山藩の儒士。名は展、通稱順助。天保元年八月十三日歿す。

クワクダン　鵠灘(加々美)　儒者。熊本の處士。名は貞一、字は仲精、通稱又太郎。子弟に教授す。詩書を能くし、又射に通ず。寛延四年六月二十日歿す。年四十八。

クワクテイ　鵠汀(岡)　儒者。長門藩の侍醫。名は蓼齋、字は元路、通稱總左衛門、閒上老圃の號あり。早く父を失ひ、季父道堅に養はる。初め雲水に從ひ、後江村北海に從ふ。性至孝にして幕府より貢を受く。文化八年正月十八日歿す。年七十六。

クワクテイ　鵠汀(窪井)　儒者。山縣周南の門。名は惟恭、一に惟忠、字は良祐。長門の人。明和天明頃。

クワクテイ　鵠汀　ソブン(森川曾文)

クワクテイ　鵠亭　畫師。雛代熊斐の門。名は淨光、字は海眼。初名淨慧、字は惠達。即是、壺米庵、五字庵、白羊山人、南窓結等の別號あり。黄檗山の塔頭、榮養院に住す。

クワクドン　鵠盤　禪僧。字に雪山。一庭の門弟。常陸長興寺及び肥前皓臺寺に住し、慶安二年寂す。

クワクネン　鵠年(赤松)　京師の畫人。字は玄賓。岸駒に學ぶ。「西鵠の門。

クワクヘイ　鵠平　俳人。下山氏。通稱喜右衛門。

クワクホ　鵠步　俳人。元祿頃。蕉風。

クワクホ　鵠峯　ガウハク(五十川剛伯)　メイジユ　明壽

クワクメイ　鵠鳴(岡田)　河内の儒者。名は皐、字は子人、通稱多聞。大内熊耳に師事す。寛政三年七月歿す。年五十六。著す所、老子考文、續莊子、鵜鳴舍文集。

クワクメイ　鵠鳴　俳人。松田氏。通稱與吉。西竹庵の門。

クワクラウ　鵠里　俳人。成美の門。

クワクリ　鵠老　俳人。天明頃。曉臺の門。

クワクリヤウ　鵠梁(林)　儒者。武藏の人。名は長禰、通稱伊太郎。松崎慊堂長野豐山に學び、甲府の教官となる。又遠江中泉の代官として治績あり。羽州幸生の銅坑を管す。明治十一年東京に歿す。

クワクリヤウ　廓亮　高僧。字は大潤、彷圓と號す。安藝の人。博覽多能。武藝伎藥に渉る。深諳說の衣鉢を傳ふ。文化元年五月四日寂す。

十月二十八日歿す。年七十一。

クワクレイ 鶴嶺(山崎) 畫家。名は謙淵、字は君魚。大阪の人。後京師に住す。圓山應擧に學び、花鳥を能くす。

クワクレイ 鶴嶺 俳人。深川氏。皐窓と稱す。四世「世謌十の門。

クワクレツ 鶴冽 ヒロナツ(住吉廣夏)

クワクロ 郭露 仙臺の俳人。安達氏。陸友庵と號す。弘化頃の人。

クワクロウ 鶴樓(增田) 詩人。名は助、字は伯舉、助右衞門と稱す。江戸の人。家世々醫鋪たり。新井白石の門。客を客び、晝夜共に携ず。安政四年十二月三日歿。(或は實曆元年六月三日)。

クワクワキンホフィン 花果院法印 コシュン(北村湖春)

クワクエン 鰻園 シゲアヤ(門脇重綾)

クワクヲウ 鶴翁 畫家。鶴州の子。父に學ぶ。名は亮、字は公明。

クワクヲウ 鶴翁(鹿島) 鹿島大宮司。名は則寛。通稱右衞門、後大和と改む。歌を善くす。明治七年十一月二十七日卒す。年八十九。

クワクヲウ 鶴翁 ヨシトモ(壺井義知) セイロ(北靜廬) センクワク(堀内仙鶴)

クワクヲウ 廓翁 ソウシウ 宗周

クワクイ 果郷(村松) 越後の儒者。名は英之。蘆溪の第四子。百官一班の著あり。

クワクイ 華溪(横山) 畫人。名は佶平。元治元年京都に歿す。年四十九。

クワクイ 華溪(稻葉) 江戸の書家。名は貞隆、通稱兵吉。寛政十二年十二月二十七日歿す。

クワクイ 華溪 ケイブン(松村景文) 「歿す。

クワクイ 花溪(八田) 佛畫師。明治十四年京都に

クワジヤウ 華城(田中) 大阪の儒者。名は頗美。通稱内記。文久頃の人。

クワシュ 果守 歌僧。石山寺大僧正と稱す。中國相國公實の子。新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

クワシュク 花叔 俳人。春日氏。橘隱。士朗の門。

クワシュン 過春 俳人。石川氏。芙蓉園、梢々庵、自得庵。三世一漁の門。

クワシンサイ 和椎 俳人。堀尾氏。初名和專。歿而庵と號す。二世調和の門。

クワセウ 華沼(岩瀨) 大垣の儒者。通稱中藏。佐藤一齋の門。明治三年の頃歿す。

クワセウテイ 花咲亭 テイトク(松永貞德)

クワセン 戈仙(比喜田) 茶人。松齋と號す。北村遺鄰の弟子。

クワセン 化千 女俳人。本著庵。初世謌十の妻。享保十四年歿。

クワゼン 果然 江戸の俳人。反故齋。甲斐庵、風木子。安永頃。

グワゼン 瓦全 俳人。柏原氏。五升庵、蠅夢。

クワソン 轉村 サイタン(木下犀潭) 「の門。

クワダウ 華堂(上田) 畫家。近江の人。白井廣土

クワダウ 華堂(木田) 畫家。美濃の人。名古屋に住す。明治十二年歿す。

クワダウ 華堂 ミツザウ(脇光三)

クワダウ 和道(鈴木) 江戸の書家。もと常陸龍ケ崎の人。通稱富五郎。文化八年五月七日歿す。

クワツ 謐(關谷) 砲兵大尉。愛知縣出身。日淸の役に出征し、明治二十七年傷死す。

クワツ 謐(會田) 步兵中尉。福島縣人。日露戰役

仁に從ひ、明治三十八年三月盛京省瀋陽電に戰死す。

クワツアン 活庵 リユウミン(佐藤隆眠)

クワツクワウ 月光 大和の刀匠。安則を見よ。

クワツケンシ 活劍子 センリヤウ(菊岡沾涼)

クワツコク 月國 尾張の刀匠。永延年間の人。

クワツコク 月國 尾張の刀匠。慶安年間の人。

クワツサイ 活齋(杉山) 江戸の儒者。北溪の門。名は方。字は子淳、さた廉夫、通稱宇八郎と號す。天明三年五月二十八日歿す。

クワツサイ 活齋(近藤) 今尾藩の儒者。中村碧齋の門。長門の人。山澤炎右衞門の子。國島氏を繼ぐ。

クワツサイ 月西 尾張の刀匠。應安年間の人。

クワツサイ 月西 (二世) 筑後の刀匠。治安頃の人。(二世) 日向に住す。月西貞行と云ふ。

クワツサン 月山 常陸の刀匠。榮廣を見よ。「人。

クワツサン 月山 常陸東條高田の刀匠。應永後の陸奥の刀匠。應永後の人。一說(二世) 建久年間の出羽國の刀匠。鬼王丸の子。或は曰く永承頃の人。羽黒山の山伏なりと。(二世) 初代の子。貞應年間の人。或は曰く承保頃の人。一族、豐前、出雲、丹波に住す。

クワツサン 月山 出羽の刀匠。明應年間の人。

クワツサン 月山 天福頃の丹波の刀匠。出羽月山「の一族。

クワツサン 月山 天福の頃豐前の刀匠。出羽月山

クワツザン 月山 古刀の鍛工。薩摩の人。

クワツシ 月氏 河内の刀匠。永延頃の人。

クワツシヨ 活所(那波) 紀伊侯の儒官。名は方、字は道圓、後氏を納、名を胤と改む。慥齋の門。正保五年正月歿す。年五十四。

クワツジヨ 月助 出羽山形の刀匠。延歷年間の人。

クワツジヨウ 月乘 伯耆の刀匠。日乘の子。元慶年間の人。

クワツシン 月心 越後の刀匠。桃兵吉坊と稱す。

クワツス井 活水(守山) 資下者。名は順成、一名誠、字は如期、猶三郎と稱す。浪花の商賈の子。江戸本所に住し、文化四年四月歿す。

クワツス井 活水 リフセツ(熊谷立設) 通稱傳右衞門。長門の人。氏を繼ぐ。

クワツセウ 月小 陸奥の刀匠。永延年間の人。或は世安と同人なりといふ。

クワツダウ 活堂(丸山) 水戸の儒者。雲平と稱す。佐々宗淳に學ぶ。系譜の學に精し。諸家系圖纂、花押藪等の著あり。

クワツダウ 活堂 ヨシヨ(吉田令世)

クワツツウ 謐通(野田) 陸軍主計總監。貴族院議員。舊脈本藩士。日淸役の功によりて、華族に列せらる。男爵。大正二年一月六日薨ず。

クワツトウシ 活東子 ゴイチ(逢磨屋五一)

クワツナウ 括囊 マスナリ(大關增業) キクシン(留主希賢) セツサイ(增山雪齋)

クワツナウダウジン 括囊道人 クワテイ(岡本花亭)

クワツニフ 月入 古刀の鍛工。陸奥の人。

クワツネン 謐然 ブンユウ 文雄

クワツメイ 月明 永曆頃の奥州の刀匠。或は曰く鬼王丸と同人なりと。

クワツレイ 臥溪 ショウスイ(井出松翠) 花溪藏主 畫家。文明頃の人。中井藍江の門。

クワツレイ 臥月(佐武) 大阪の畫人。

クワツレツ 臥月齋 ヤスラ(北岡野洲長)

クワツロ 臥月堂 ヒロミチ(石野廣道)

クワツケン 花縣 俳人。一に春秋齋、經機隣、田東庵と號す。寛政十二年四月七日歿す。年六十五。

クワツゲンドウ 花源洞 ツギホ 纘穗

クワツコウ 花紅 俳人。醉月庵。寸長の門。

クワツコク 華谷 シンサイ(佐和幸齋)

クワツサイ 花祭(原) 肥前の儒者。名は五、字は士五太夫と稱す。明和六年歿す。

クワツサイ 臥齋 ショウス井(井出松翠)

クワツザウ 華藏 ギドン 義壘

クワツザン 華山(久津見) 江戸の儒者、徂徠の門人。名は茂治、字は京國。通稱吉左衞門。又華岳と號す。三河苅谷侯の世臣。

クワツザン 華山(島津) 儒者。名は義猷、字は琴玉、寛政五年三月京都に歿す。

クワツザン 華山(長川) 江戸の儒者。名は寶藏、字は亮、字は公明。

クワツザン 華山(渡邊) 畫家。志士。名は定靜、字は子安、一字伯登、通稱登。又寓檜堂、全樂堂、昨非庵、蠅翁芝山。業を山本北山に受く。文化四年歿す。

クワツザン 華山(横山) 畫人。名は佶平。元治元年京都に歿す。年四十九。

クワツザン 華山(横山) 畫家。京師の人。名は一章。字は燕朗。岸駒を師とし、松村月溪を慕ふ。天保八年三月十七日歿す。年五十四。

クワツザン 華山(熊本) 江戸の儒者。詩を服部南郭に學ぶ。自ら綉して無氏と云ふ。名は元勝。字は君玉、又自號と號す。

クワツザン 華山(上野) 家書。越中の人。名は可保。父の鳴泉草堂を紹ぎて子弟を敎ふ。李顒の聞あり、藩より褒賞せらる。明治六年三月歿す。

クワツザン 和山 ソウケン(橋林宗建)

グワツサンジン 讚賛人 ガクスケ(綿馬屋嶺輔)

クワツザンソウジヤウ 花山僧正 ヘンセウ 遍照

クワツザン 華山天皇 冷泉帝の太子。諱は師貞。母は皇后懷子。圓融帝の譽を受けて位に即く。龍姫藤原低子卒す。帝思慕して痩愛し、入覺と號す。寛弘五年崩ず。壽四十一。御製は、後拾遺、詞花、千載、新古今、續古今、續拾遺、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集に出づ。

クワツザンサンダイジン 「ツネ(藤原忠經)

クワツザンサンダイジン 花山院右大臣 タダ

クワツザンサンサキノナイダイジン 花山院前内大臣 モロツグ(藤原師繼)

クワツザンサンダイナゴン 花山院大納言 モロカタ(藤原師賢)

クワツザンサンダイヤウダイジン 花山院太政大臣 タダマサ(藤原忠雅)

クワツザンサンナイダイジン 花山院内大臣 モトツグ(藤原基嗣)

クワツシテイ 花枝亭 ラクグワン 樂玩

クワツジヤウ 花城 俳人。三橋氏。通稱勘右衞門。文尺齋。三世鳖和の門。

クワテイ　花蹄　俳人。牧氏。茶桃瀞。二世今映の門。
クワテイ　果亭(兒玉)　南畫家。田能村直入の門。信濃の人。大正二年一月十六日歿。年七十三。
クワテイ　和亭(瀧)　南畫家。東京の人。大岡雲峰、沙門鐵翁、又漁人陳逸舟等に學ぶ。安政元年幕府に仕へ、明治六年着色の巨幅を作り、墺國博覽會に出品して賞を受く。三十四年九月二十六日歿す。
クワテイ　和亭　シユンスヰ(賴春水)　「の人。
クワテイ　和鼎　ミネラ(成島峯雄)　畫師。通稱相模。越後忠次郎と稱す。豐州、醒齋、詩瑣、括囊道人等の號あり。忠貞の男。水野忠邦に關けられ、後信濃中邑ヂとなる。天保十二年勘定吟味役に超遷し、勘定奉行に昇る。嘉永三年八月二十七日卒す。年八十三。
クワテイ　花亭　ソウホ(山科宗甫)　ヨシミツ(足利義滿)
クワテイ　華庭　リヤウテン　亙椿
クワテイシジン　花亭主人　キヤウデン　京傳
クワテキサイ　化笛齋　センクワク(堀内仙鶴)
クワテン　花顚(三熊)　畫人。名は思孝、字は海笑、又介堂、主計と稱す。長崎の月湖に學ぶ。傍ら俳諧を能くす。最も櫻花を愛して奇行多し。幾近世畸人傳を著す。寛政六年八月二十六日歿す。年六十五。
クワテン　花顚(川上)　幕府旗下の士。表右筆組頭。名は由之、字は季禮、通稱謙三郎、別號默猷道人。撓藤にして剛直なり。明治二年十月七日歿す。年六十六。
クワトウカウ　和東郊　トウカウ(和智東郊)
クワネン　和年　俳人。半井氏。通稱長兵衞。名は栞篤。立圃の門。

クワネン　和年　京都の俳人。織屋立圃の門。
クワハウ　顆卯　アイキチ(木村彌吉)　「の門。
クワハク　花伯　俳人。大傑氏。蕪風の俳人。元祿頃。北越の人。
クワヘイ　和平
クワベイコジ　醬餅居士　ソウイン(中島棕隱)
クワボク　花木　大阪の俳人。鷺笠の門。
クワボク　禾木　シユンザウ(柳河春三)
クワマウ　臥孟　シユンザウ(柳河春三)
クワメイ　蝸名　俳人。西氏。快盛坊と稱す。越後明和七年三月十二日歿。
クワメウダウジン　畫猫道人　天明寛政年間の奇人。白儂と名づく。年六十餘、長身禿頭、詑足袒樓、筆一枝を携へ、市中に高く呼び、よく猫を畫く。周防華浦の人。周南に學び、荻澤の書記となる。明和八年十二月二十八日歿。年七十八。
クワヤウ　華陽(白井)　畫人。岸駒の門。岸駒を能くす。名は景、字は士潤。越後の人。書樂委賠を善す。
クワヤウ　華陽(川村)　江戸の儒者。名は榮壽、字は萬年、通稱琢八。井上金峨の門。天明七年歿す。年四十九。
クワヤウ　華陽(八田)　儒者。三河の人。名は縣、字は猗氏、大二郎と稱す。金峨に學び、自ら晦す。淺草觀音の境内に僑居す。周易說統、書經解統、詩經古義解等の著あり。文政中に歿す。
クワヤウ　華陽(中島)　畫人。名は富壽。明治十年十二月京都に歿す。年六十五。
クワヤウ　華陽　ガンク　岸駒　マサヨシ(尾崎雅嘉)　チユウシウ(野田中洲)　タダノリ(本多忠憲)　シタク(中根子瀧)　バイドウ(前田梅洞)
クワヤウケン　華陽軒　サンリウ(中山三柳)
クワヤウコジ　花陽居士　エンシウ(雨森炎洲)
クワラクテイ　和樂亭　カリヤウ(佐々木震梁)
クワラン　サイ　花籃齋　シゲマサ(北尾重政)
クワリ　花里　俳人。遠水氏。炎鏡齋。隆志の門。明和七年三月十二日歿。
グワリヨウ　臥龍　メイカ(關明霞)　ブンザン(佐々木文山)
グワリヨウエン　臥龍園　ウメマロ　梅麿
グワリヨク　禾力　俳人。齋藤氏。名は玄眞。梅盛の門。
クワリン　果隣　儒。東大寺に學び、後弘法大師に從ふ。高雄山神護寺に住し、又金剛峰寺に入りて、秘法を精修し、大師遷後、伊豆修禪寺に住す。
クワリンテイ　花隣亭　リヤウシヨウ(明石屋涼松)
クワレイダウジン　華嶺道人　ホウタン　鳳潭
クワエン　果園(佐久間)　國學者。秋山光彪の門。通稱種次郎。小倉藩士。明治二十五年四月歿す。年
クワヲウ　花翁　シヂツナ(吉田重綱)　「四十一。
クワヲウ　化翁(中山)　醫者。名は義弘。寛政九年十一月京都に歿す。年七十七。
クワヲク　花屋(岩本)　蘭學者。通稱五一、名は蛙鷹。安政年間江戸に住す。
クワヲク　華屋　エイドン　英蠻
グワヲク　瓦屋　ノウクワウ　能光
クワン　寬(小河)　醫。肥前長崎の人。字は仲栗、號は天門。性剛直。寶曆十一年尾張に歿す。年五十。
クワン　寬(佐藤)　工兵中尉。宮城縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十八年三月盛京省官屯に戰死す。

クワン　寬　ハウアン(森田藻庵)
ハウサイ　(安享年七十八。
クワン　完(堀)　熊本藩の家老。一名勝、字は君裕。
クワン　完(林)　步兵少尉。長野縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十二月戰死す。
クワン　觀　ホクケイ(荻生北溪)
クワン　煥　サウセツ(宮原蒼雪)　ミンザン(岡)
クワンア　貫阿　俳人。中山氏。通稱文平。劍雲庵。
クワンア　觀阿　ヤストキ(北條泰時)
クワンアミ　觀阿彌　キヨツグ(觀世清次)
クワンイ　觀意　歌僧。俗名四郎左衞門尉基永。齋藤基高の子。續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載諸集の作家。
クワンイ　寬意　高僧。敎賢親王の子。東寺の長者に補せられ、寬和三年六月十六日寂す。年四十八。
クワンイ　寬伊　歌僧。新拾遺集の作家。
クワンイウ　寬祐　歌僧。源公忠の子。拾遺集の作家。
クワンイチ　貫一(小田)　衆議院議員。安藝の人。廣島市長となる。明治四十二年七月二十二日歿す。年五十四。
クワンイチ　貫一(田中)　步兵中佐。東京府の人。日露戰役に從軍中、明治三十七年十二月二十八日旅順二龍山に戰死す。
クワンイチ　寬一(守屋)　步兵大尉。山梨縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月二十六日盛京省龍子溝に戰死す。
クワンイチラウ　貫一郎(小野)　陸軍三等軍醫。大分縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年十月二十二日病歿す。

クワンイチラウ　寬一郎(小倉)　海軍少佐。東京府出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年十二月旅順口方面に戰死す。
クワンイチラウ　貫一郎(竹内)　步兵少佐。東京府人。日露戰役に從軍中、明治三十七年八月日東鐵道北山北砲臺に戰死す。
クワンイチラウ　頑一郎(黑田)　伊勢龜山藩の勤王家。名は孝富。戊辰の役、大總を主唱せしが、反對派に殺さる。年三十五。明治三十八年明治三十七年十二月旅順口方面に戰死す。
クワンイン　寬印　比叡山の僧。源信に學ぶ。
クワンイン　ホフシンワウ　寬胤法親王　後伏見天皇の第七子。叡修寺に入り、永和二年薨ず。年六十八。風雅集及び新千載集の作家。
クワンウ　盥雨　俳人。有門庵。五筑坊の門。
クワンウン　觀雲　ジオン　慈音
クワンエイ　完瑛(西山)　儒者。芳園の子。名は謙、字は子受、謙一郎と稱す。後藤松陰の門。明治三十年八月歿す。仕ふ。
クワンエウ　寬耀　歌僧。高雄山に住す。新千載集及び新拾遺集の作家。
クワンオウ　頑鴎(甲賀)　儒者。淀藩に仕ふ。名は粲、字は叢蹊、小字總左衞門。鶴汀、捫窩、開上光隱と號す。文化八年正月十八日歿す。年七十六。
クワンオン　シヤ　觀音舍　メイリヨウ(佐脇明龍)
クワンオンヰンソウジヤウ　觀音院僧正　ヨケイ　餘慶
クワンオンヰンタイコウ　觀音院太后　マサコ　昌子
クワンオンヰンダイジヤウダイジン　觀音院太政大臣　キンナ(藤原公名)

クワンイチラウ　寬一郎(小倉)　海軍少佐。東京府出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年十二月旅順口方面に戰死す。
クワンイチラウ　貫一郎(竹内)　步兵少佐。東京府人。日露戰役に從軍中、明治三十七年八月日東鐵道北山北砲臺に戰死す。
クワンイチラウ　頑一郎(黑田)　伊勢龜山藩の勤王家。名は孝富。戊辰の役、大總を主唱せしが、反對派に殺さる。年三十五。明治三十八年明治三十七年十二月旅順口方面に戰死す。
クワンイン　寬印　比叡山の僧。源信に學ぶ。
クワンイン　ホフシンワウ　寬胤法親王　後伏見天皇の第七子。叡修寺に入り、永和二年薨ず。年六十八。風雅集及び新千載集の作家。
クワンウン　盥雨　俳人。有門庵。五筑坊の門。
クワンウン　觀雲　ジオン　慈音
クワンエイ　完瑛(西山)　儒者。芳園の子。名は謙、字は子受、謙一郎と稱す。後藤松陰の門。明治三十年八月歿す。仕ふ。
クワンエウ　寬耀　歌僧。高雄山に住す。新千載集及び新拾遺集の作家。
クワンオウ　頑鴎(甲賀)　儒者。淀藩に仕ふ。名は粲、字は叢蹊、小字總左衞門。鶴汀、捫窩、開上光隱と號す。文化八年正月十八日歿す。年七十六。
クワンオン　シヤ　觀音舍　メイリヨウ(佐脇明龍)
クワンオンヰンソウジヤウ　觀音院僧正　ヨケイ　餘慶
クワンオンヰンタイコウ　觀音院太后　マサコ　昌子
クワンオンヰンダイジヤウダイジン　觀音院太政大臣　キンナ(藤原公名)

クワンカ　灌河　俳人。鴻月樓。三世淵十の門。
クワンカ　灌河　俳人。澤氏。雨靜庵。二世乾什の門。
クワンガ　菅雅　俳人。吾牛齋。完來の門。
クワンガ　觀鷺(永田)　詩書家。名は忠原、字は復平。東皐、鬃郁道人の別號あり。平安第一の人物と稱せらる。觀鷺詩集の著あり。寬政四年歿す。
クワンガ　寬雅　僧。源大納言雅俊の子。俊寬僧都の父。木寺法印と稱す。
クワンカイ　觀海(松崎)　儒者。篠山侯の執政。名は惟時、字は君修、又子默。才藏と稱す。白圭の子。太宰春臺の門。安永四年十二月二十三日歿。年五十一。
クワンカイ　觀海　ヨシトキ(北條義時)
クワンカウ　貫考　俳人。桃花庵。去來の門。
クワンガウ　桓豪　歌僧。比叡山天台座主。岡崎大僧正と稱す。新千載集及び新拾遺集の作家。
クワンカウサイ　寬耕齋　ツネノブ(狩野常信)
クワンカク　桓覺　歌僧。岡崎權僧正と稱す。中園相國公賢の子。新千載集及び新拾遺集の作家。
クワンカク　觀覺　シヂトキ(北條重時)
クワンカク　冠岳(沖)　畫家。土佐の人。江戸に住す。狩野派に學ぶ。明治九年七月歿す。
クワンガク　冠嶽　シユクメイ(內田叔明)
クワンカダウ　觀荷堂　ロアン(小澤蘆菴)
クワンカンコク　管甘谷　カンコク(管谷甘谷)
クワンキ　觀喜　儒。大和の人。常に彌陀の名號を唱へ、古塔數十を修繕し、自ら材を曳き土を運び、又路人に加助せしむ。
クワンギ　貫義(山名)　住吉派の畫家。通稱大助。東京美術學校教授、帝室技藝員たり。明治三十五年

六月十一日歿す。

クワンギウ 關牛(鄙) 大阪の畫家。天保中の人。關月の子。名は德風。字は子儀。

クワンキウアン 官休庵 ソウシユ(千宗種)

クワンギクワウヰン 觀喜光院 ミチミ(中院通躬)

クワンキジノミヤ 歡喜寺宮 エイキヤウニワウ「永享尼王」

クワンキシンヰンノミヤ 觀喜心院宮 ブンキヤウニワウ 文享尼王

クワンキチ 鑵吉(渡邊) 歩兵少尉。愛知縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月一日戰死す。

グワンギヤウ 願行 畫僧。よく不動の像を畫く。筆法宅間佳吉に似たり。東山泉涌寺、東寺遍照心院、金剛三昧院等に住す。

クワンキヨ 寬居 ヒロノリ(足代弘訓)

クワンギヨ 貫魚(守住) 畫家。德島藩士。壯時、紫宸殿聖賢障子に朝賀の圖を畫く。明治二十三年十月帝室技藝員を命ぜらる。二十五年二月二十六日大阪に歿す。年八十五。

グワンキヨク 頑極 高僧。近江清涼寺に住す。

クワンキエンノセツシヤウ 歡喜園攝政 カネタダ(藤原兼忠)

クワンクウ 寬空 高僧。俗姓文室氏。河內の人。神日の弟子。宇多上皇に密灌を稟け、東寺の長者に補せらる。蓮臺寺僧正、又香隆寺僧正といふ。

クワンクウ 闕空 ジヨテン 徐天

クワングダウ 驩虞堂 セイカウ(梅澤西郊)

クワンクワイ 寬快(荒木) 畫家。通稱彌次右衞門。片桐桐隱の門。安政七年正月歿す。年七十二。

クワンケイ 灌畦(犬口) 大阪の本草家。寶曆四年製品辨惑を著す。

クワンケウ 觀敎 僧都。源公忠の子。拾遺集及び新續古今集の作家。

クワンゲウ 寬曉 堀河天皇の皇子。仁和寺に住し、華藏院大僧正と稱す。保元四年正月寂す。

クワンゲダツアン 觀解脫庵 クワンザン 觀山

クワンゲツ 關月(鄙) 大阪の畫家。初め月岡雪鼎に學ぶ。名は德基、字は子温、通稱原二、一に院二、蕉楊齋と號す。法橋に叙せられ、伊勢參宮名所圖會及び山海名所圖會を著し、寬政九年十月二十一日歿す。年五十一。

クワンゲツ 觀月 マサオキ(葛卷昌興)

クワンケン 觀賢 高僧。大和般若寺の開祖。俗姓秦氏。讃岐の人。聖寶阿闍梨の高弟。延喜十九年醍醐寺の座主に任ぜられ、延長三年僧正となり、六月寂す。年七十三。

クワンコ 寬古 筑前の俳人。以哉坊の門。

グワンコサイ 翫古齋 ソウゴ(松尾宗五)

クワンサ 寬佐 連歌師。東井坊と號す。豐後の人。

クワンサイ 寬齋(若林) 儒者。名は進居、初め弦齋と號す。通稱新七。平安の人。淺見絅齋の門に入り、又神道を玉木葦齋に學ぶ。和歌を能くす。享保八年五月三日歿。年四十五。

クワンサイ 寬齋(服部) 儒者。江戶の人。木下靖恭の門。通稱藤五郎。字は紹卿。名は保庸。將軍家宣の侍講たり。享保六年歿す。

クワンサイ 寬齋(久代) 越後高田藩の儒者。名は景寬、彌三郎と稱し、寬保三年歿す。

クワンサイ 寬齋(貝原) 福岡藩の醫員。名は利貞。篤信の父。寬政五年十二月歿す。

クワンサイ 寬齋(畠山) 儒者。播磨の人。通稱政五郎。那波魯堂の門。

クワンサイ 寬齋(相馬) 書家。通稱伊三郎、又茂濟。津輕の人。三十餘歲にして明を失ふ。文久二年九月歿す。年七十二。

クワンサイ 寬齋(市河) 儒者。名は世寧、字は子靜、一字嘉祥、通稱小左衞門。半江、江湖詩老等の號あり。林祭酒正良の門に入り、昌平黌學員長となる。寬政三年富山侯に徵され、文政三年七月十日歿。

クワンサイ 寬齋(森) 四條派の畫家。徹山の養子。京都の人。勤王の志厚し。明治二十七年六月二日歿。年八十一。

クワンサイ 寬哉(古滿) 蒔繪師。巨柳の門人。もと坂內氏。特に古滿氏を稱することを許さる。通稱重兵衞。坦齋また坦叟と號し、狂歌を嗜む。寬政四年十月二日歿す。

クワンサイ 寬哉 蒔繪師。寬哉の子。俗稱重兵衞。薙髮して、坦哉と改む。天保六年四月二十日歿す。年二十九。

クワンサイ 環齋(鎌田) 儒者。名は玄同、字は子德、生白堂と號す。藤原惺窩の門。寬永五年歿す。

クワンサイ 渙齋(松井) 詩人。名は濤、字は秋水、通稱儀藏。江戶の人。安政元年二月十三日歿。年四十九。

クワンサイ 完齋(勝見) 江戶の金工。名は恭世、通稱辰二。端信廬の門。造幣局に出仕し、貨幣を彫刻すること十數年。明治二十九年九月歿す。年六十五。

クワンサイ 觀齋 ドウミヤク(畠中銅脈)

クワンサイ 貫齋(多湖) 松本藩の儒者。名は安元、字は公信、通稱大藏。崇敎館助敎授となる。

クワンサイ 貫齋 リユウサ(內山隆佐)

グワンサイ 願細 僧。もと質豐の侫倖。飛鳥寺の側に草庵を結びて居る。七十五歲にして寂す。

グワンサイニ 願西尼 源信法師の妹。禁戒を持し、法華經を讀むこと數萬部、又孤獨に惠施す。

クワンサウ 關雙 俳人。龍門司。九々庵。關叟の門。

クワンザウ 完造(石津) 歩兵中尉。大阪の人。日露戰役に從ひ、明治三十七年五月二十六日南山に戰死す。

クワンザウ 寬藏(古藤) 歩兵少尉。東京府出身。日露役に出征し、明治三十八年三月奉天に戰死す。

クワンザウ 歡藏(請川) 歩兵少尉。和歌山縣出身。日露戰役に出征し、明治三十八年三月奉天に傷死す。

クワンザウ 歡藏(野田) 歩兵少尉。熊本縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月唐家屯に戰死。

クワンザブラウ 寬三郎(豐田) 歩兵少尉。岡山縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年十月海中に投じて死す。

クワンザブラウ 寬三郎(竹澤) クニミツ(新田「邦光」)

クワンザン 完山 畫人。宋の毛益を學ぶ。よく彩色の狗子を畫く。

クワンザン 環山 俳人。竹內氏。一萬堂。初世沾「山の門」。

クワンザン 冠山(岡島) 儒。名は璞、字は援之、後玉成と改む。岡太夫と稱す。長崎の人。始め譯士たり。稗史に通ず。享保十三年正月二日歿。年五十五。著、唐話纂要、唐譯便覽、雅俗類語、華音唐詩選、通俗水滸傳、小說讀法等。

クワンザン 冠山(池田) 因幡國主の支封。名は定常、字は君倫。縫殿頭と稱す。當時文學を以て佐伯侯毛利高標、仁正寺侯市橋長昭と竝び稱せらる。文政十二年七月九日卒す。

クワンザン 冠山(小笠原) 江戶の儒。名は謙。字は益卿、通稱仲、又樂易道人と號す。小倉侯の臣。文政四年四月二十一日歿。年五十九。

クワンザン 歡山 大阪の茶人。藤村正齋の門。爹々庵、漸玉庵、解脫庵等の號あり。

クワンザン 觀山(松本) 醫者。名は光之。文化十三年京都に歿す。年六十九。

クワンザン 觀山(松宮) 儒者。名は復仍、主鈴と稱す。明和六年三月江戶を逐はれ、安永九年六月二十四日歿す。年九十五。

クワンザン 關山 エゲン 慧玄 ソウキヨウ 宗恭

クワンザン 關山(福島) 畫家。名は之、字は仲貫。「山水を能くす。」

クワンザン 關山(植平) 俳人。通稱進之助、昇旭堂、又有陽庵と號し、安政年間江戶に住す。

クワンサンホン 管三品 フミトキ(菅原文時)

クワンシ 寬翅 肥前の俳人。以哉坊の門。

クワンシ 灌子(藤原) 倚侍。續後撰集の作家。

クワンシ 冠子(吉田) 狂言作者。文三郎と稱す。寶曆時代の人。

クワンジ 冠二(吉田) (二世) 傀儡師。初め桐竹紋三郎と稱す。享和二年五月十五日歿。年五十七。(三世) 初め吉田東九郎と稱し、陸奧大掾といふ。俳號冠壽。四世西川伊三郎の後を嗣ぎ、然も伊三郎を稱せず。明治五年正月五日歿す。年六十二。

クワンジ 冠二(吉田) イサブラウ(西川伊三郎)

クワンジ 寬二(小河) 機關士。長崎縣人。日露戰役に從ひ、常陸丸に乘組み、明治三十七年六月十五日敵艦の襲擊を受けて戰死す。

クワンジ 寬次 ヨシヒデ(鈴木良榮)

クワンジ 還兒 俳人。東氏。菊庵。四世湖十の門。

クワンジ 完似 天明頃の俳人。曉臺の門。

クワンジ 莞爾(丸岡) 歌人。鹿持雅澄の門。土佐の人。社寺局長、高知縣知事たり。明治三十一年三月六日歿す。年六十三。

クワンジ 官次(小川) 勤王家。名は好雄。土佐の人。元治元年清岡道之助等の擧に與し、九月五日斬首せらる。年二十一。明治三十一年贈從五位。

クワンジ 官次(高橋) 陸軍一等獸醫。新潟縣人。日淸戰爭に從ひ、明治二十八年九月五日病死す。

クワンシウ 歡秀 名古屋淨光院の僧。國學を好み文化十年本居春庭の門に入る。

クワンシウ 寬宗 歌僧。律師。新後拾遺集の作家。

クワンシウ 喚舟 畫人。

クワンシウサイ 寬衆齋 マサユキ(堀正之)

クワンジフラウ 寬十郎(大伴) 江戶の小說家。一掃齋と號す。文化元年歿す。

クワンシヤ 完車 俳人。晋年の子。晋遐湖十の父。

クワンシヤ 寬車 エンジヤウ 圓常

クワンシヤウ 寬昌 高僧。播磨書寫山の住職。平敎盛の季子。榮西禪師の弟子。又、菅原爲長に儒學を學ぶ。

クワンシヤウ 煥章 コクザン(小田穀山)

クワンシヤウコウ 菅相公 コレヨシ(菅原是善)

クワンシヤウダウ 渙象堂 ジエモン(寺師次右「衞門」)

クワンシヤウホフシンワウ 寬性法親王 高僧。伏見天皇の第三子。花園天皇の同母弟。仁和寺に入り、總法務に任ぜられ、六勝寺主を兼攝す。貞和二年九月晦日寂す。年五十八。

グワンジヤク 翫雀(中村)(二代) 江戶の俳優。中村福助の養子。家名成駒屋、俳名芝翫。萬延元年歿す。

クワンシュ 桓守　歌僧。比叡山天台座主。岡崎貫乗院大僧正。山本相國公守の子。續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。

クワンジュ 冠譽(吉田)　「冠(二)」

クワンジュ 歡脩　圀城寺の座主。俗姓紀氏。叡山の靜緬に啟きて、密灌を受く。藤原道長、之を崇信して爲に淨妙寺を建つ。寛弘五年七月八日寂す。年六十四。

クワンシュウ 關修　助眞が遠江に在りし時の刀銘。又陸奥の刀匠。元暦頃の人。吉次と同人なりといふ。

クワンジュウ 貫從　俳人。戸田氏。當日坊。風化「庵」。貫考の門。

クワンジュウ 勸修寺僧正　ガケイ

クワンジュウ 勸修寺內大臣　雅慶

クワンジュウジナイダイジン 勸修寺內大臣　タカフヂ(藤原高藤)

クワンジュウジ 勸修寺宮　ツネアキ(藤原經明)

クワンジュウジ ノミヤ

クワンインホフシンワウ 寬胤法親王

コウコウホフシンワウ 恒弘法親王

サイシンホフシンワウ 濟深法親王

ジャウシンホフシンワウ 常信法親王

クワンシュン 寬舜　書家。西遊房と號す。山城八幡の人。建保頃。

クワンシュン 桓舜　高僧。延暦寺に入りて慶圓に學ぶ。貞圓、日助、遇救と共に台山四傑の一。貧しきこと甚し。

クワンジョ 寬助　仁和寺の住僧。源師賢の子。經範の第子。性信親王の法脈を嗣き、東寺法務大僧正となり。天治二年正月十五日寂す。年六十九。

クワンジョウ 寬乘(後藤)　金工。後藤氏の支族。圀乘の次子。名は光利。通稱八郎兵衞。法橋に叙せられ、承應二年六月十五日歿す。

クワンショウサイ 歡松齋　タワエフ(飯塚桃葉)

クワンショウサイ 寬松齋　イッテン　一典

クワンジラウ 舘次郎(萬古)　陶工。伊勢桑名の人。柿沼文則と稱す。天明中江戸に來り、小梅村に一窯を作り、樂燒を製す。世に古萬古と呼ぶ。

クワンジラウ 寬二郎(西)　陸軍大將。子爵。薩藩鬼島藩士。日清日露の兩役に戰功あり。明治四十五年二月二十七日歿す。年六十七。

クワンシン 寬信　高僧。大藏卿藤原資房の子。醍醐寺第九世の住僧。永治元年東寺一長者權大僧都に補せらる。書を善くす。續後撰集の作家。

クワンシン 歡深(芝)　永享中の佛書師。南都に住し、春日の繪所となる。世に芝法眼と稱す。

クワンシン 歡眞　高僧。大和葛城郡の人。光智に隨ひて華嚴を學び、談論に長ず。詔ありて維摩會の講師に擧げられ、權律師となる。東大寺に住し、長元二年三月十九日寂す。年七十九。

クワンスヰ 環翠(三宅)　國學者。別號遵生軒、菴刀と號す。官位俗訓、本朝年代記等の著あり。

クワンスヰ 環翠(松岡)　畫家。名は貫、字は廷倫、抗翁と號す。又詩を善くす。

クワンスヰ 觀水(木下)　儒者。名は靜、字は正直。文化十二年京都に歿す。年六十三。

クワンスヰ 觀水　イックワンサイ(松原一貫齋)

クワンスヰ 諼水(杉浦)　世々甲府の番士。名は良庸。天保五年作事密領となり、慶應二年江戸に移りて軍艦の屬員を勤む。明治五年歿す。年七十一。

グワンスヰ 玩水(國島)　書家。越前福井の酒造業。又商業を巧にす。文化九年七月六日歿す。年五十三。

クワンスヰケン 歡水軒　ナンレイ(鈴木南嶺)

クワンスヰケン 環翠軒　ノブカタ(清水宣賢)

クワンスヰシ 觀水子　ゲンショウ(向井元升)

クワンスヰダウ 圓水堂　ヨシチカ(小方其近)

クワンスヰダウ 觀水堂　チヤウア　丈阿

クワンスヰエン 環翠園　ナンザン(南部南山)

クワンシン 寬諍　高僧。寬空の弟子。東寺長者たり。西院僧正と號す。天元二年十一月十一日寂す。年七十九。

クワンセイ 歡盛　書僧。東大寺英濃公と稱す。源平時代の人ならん。

クワンセイ 歡淸　サモン(水谷左門)

クワンセイ 玩世道人　セツガン　雪巖

グワンセイダウジン

グワンセキ 翫碩(坪田)　莽容。寶永七年琉球人來朝の時、井上因碩と共に島津家に招かれて、使臣仲原筑登之按を關はす。

グワンセキ 頑石(渡邊)　大阪の書家。名は貫、字は廷倫、抗翁と號す。又詩を善くす。

グワンセキ 頑石　シユクメイ(內田叔明)

クワンセキ 觀雪　キクマロ　菊麿

クワンセツ 頑雪齋　トンアン(宇都宮遯庵)

グワンセツサイ 觀遠　歌僧。金葉集の作家。

クワンセン 寬全親王　中御門天皇の第六子。政宮といふ。仁和寺を繼ぎ、延享四年二月薨じて名を遵仁と改め、五月薨ず。年十二。

クワンソ 官鼠　伊豆の俳人。六花庵。臺太の門。

クワンソウ 貫宗(伊藤)　京都金閣寺の長老。尾張の人。幼名宗一。蘐稱館を創設し、金閣寺保存會を起す。明治四十一年二月二十五日寂す。

クワンソン ホフシンワウ 寬尊法親王　大覺寺の門主。龜山天皇の皇子。初名寬獻。僧正に任ぜられ。西院と號す。風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

クワンダウ 寬堂(赤澤)　醫。通稱寬輔。明治七年「十二月京都に歿す。

クワンダウ 觀道　禪僧。字は昭叟。周防平野村眞覺寺の住僧。天明二年報專雲公に謁して弟子となり、師の滅後、力學怠らず、諸處に講說し、文政五年八月二日寂す。年七十一。

クワンダウ 觀堂　キンコク(松山琴谷)

クワンダウ 貫堂(河田)　儒臣。名は淵、字は伯、通稱貫之助。大日附に遷む。維新後、靜岡藩少參事たり。又德川家の家扶となる。明治三十三年三月十一日歿す。年六十六。

クワンダウ 完堂　俳人。牧氏。桂窓。三世冬映の門。

クワンダウ 完堂(阿部)　儒者。通稱泰佐。名は傳。安政年間江戸に住す。

クワンタラウ 菅太郎(松原)　海軍中尉。京都府出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十二月十三日旅順方面に戰死す。

クワンタンホフシノハハ 寬湛法師女　女歌人。中納言公顯の妻。後撰集の作家。

クワンヂ 官治(田中)　勤王の志士。對馬藩士。元治元年佐幕黨に殺さる。

クワンヂ 寬治(山口)　步兵少尉。長野縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月十二日戰死す。

グワンチ 願知　眞宗の僧。越前荒井の人。俗名井上筑前守遠仲。德正寺の開基。大永七年正月二十八日寂す。年八十九。

クワンチバウ 歡知房　俳人。金子氏。通稱九郎兵衞。可舟。博和房の門。

クワンヂヤウ 觀定(獅子吼)　大僧正。美濃の人。江戸增上寺に學び、武州八王子大善寺、東京深川靈巖寺に居る。明治十二年朝旨により山黑谷金戒光明寺に住す。三十二年一月十一日年八十一。

クワンチュウ 寬忠　高僧。敦固親王といふ。眞元寺長者たり。池上僧都といふ。眞元二年四月二日寂す。年七十二。

クワンチュウ 觀中　高僧。名は中諦。相國寺に住す。明に入りて學ぶ。應永中寂す。

グワンチュウ 頑中　ヒロナホ(住吉廣尙)

クワンティ 關亭　デンセウ　傳笑

クワンテイ 岡野州艮)

クワンテウ 寬朝　大僧正。敦實親王の次子。醍醐の遍照寺に居て、密學を興す。世に廣澤留派と稱す。封百戶を受く。長德四年六月寂す。

クワンテウ 寬兆(松林)　南都の俳人。入戸侯に仕ふ。字助と稱し、三峯館と號す。

クワンテウ 寬兆　俳人。松橋氏。通稱宗助。乙二は傳譽。法遠社と號す。

クワンテツ 觀徹　僧。字は傳譽。法遠社と號す。俗姓安武氏。洗後の人。常陸大念講寺に住す。耶蘇敎徒により、長崎に寺を建て、耶蘇敎徒を改宗せしむ。慶安四年寂す。年六十家光に召されて恩賜あり。

「堂と號す。

クワンド 完度(辻)　劍形工。新四郎と稱し、永川派。

クワンド 官奴　俳人。前田氏。結硯。梅人の門。

クワンドウ 關東　建長頃の遠江の刀匠。或は曰く陸奥に住すと。又菅次と同人。又元暦頃の人。又南仲と同人なりと。

クワンドウ 還童(藤田)　元小倉藩士。舊名淸。通稱權兵衞。安政年間、藩主の意を承け、供御の補充を斡旋し、叡感に預る。明治十年歿す。年六十四。

クワンドクケン 觀德軒　ヒデカズ(森川秀一)

クワンドクヰン 寬德院　將軍德川吉宗の正室。伏見宮仁親王の女。眞宮と稱す。寶永三年三月入輿、同七年六月薨ず。

クワンネン 寬念　歌僧。詞花集の作家。

クワンノジヨウ 貫之丞(稻田)　志士。名は楨成。堺浦俘人皆殺の驚與。明治元年二月二十三日妙國寺にて屠腹を命ぜらる。

クワンバイ 觀梅(立野)　儒者。名は範運、字は安正。文政九年九月京都に歿す。

クワンバチ 關八(五十嵐)　越後村上藩の志士。名は佐淳。戊辰の役、勤王の說行はれざるを憤りて自殺す。年四十八。贈從五位。

クワンヒ 完美　俳人。交氏。獨步庵、光風園。

クワンヒン 寬敏　太樂厩隆寺の別當。藤原遠憲の第九子。平治の亂、父に連座して上野國に流さる。

クワンブウ 官楓　俳人。關氏。平生庵。初世冬映の門。

クワンブウ 貫風　京都の俳人。加藤氏。娄門子と號す。貞德の門。步行神を編す。

クワンブン 煥文　チアン(佐々木池菴)

クワンペイ ホフワウ　寬平法皇　ウダテンワウ

クワンペエ 宇多天皇　官兵衞(佐川)　鍋島藩出身。明治十年西南役、一等大警部を以て從軍中、肥後黑川に戰死す。

クワンペン 寛遍 高僧。大僧正寛助の弟子。東寺長者。大僧正に陞り、仁安元年六月三十日寂す。年六十七。

クワンポ 寛輔(齋藤) 醫者。石渡宗伯の第十二子。醫學を緒方洪庵の塾に學び、其の塾頭となる。幕末に際し、四方の志士と交る。藩命により歸府して同藩醫學振興策順の後を承けたれども、その素志に非ざるを以て、憂憤疾を成し、文久三年五月二十日寂す。年二十七。

クワンポウ 冠峰(伊藤) 儒者。名は一元、字は吉甫。伊豫の人。天明中寂す。年七十餘。著、自放編、寇準文集、修竹園詩等。

クワンポフ 寛法 ヒロアキシンワウ 熙明親王 諱は山部。母は高野夫人。初め山背國乙訓郡長岡に都し、後平安に遷る。在位二十四年。壽七十。陵名に依つて柏原天皇と云ふ。

クワンメイ 喚明 シウ井(守屋秀緯) 歌人。律師。新千載集及び新後拾遺集の作家。

クワンユウ 寛裕(鈴木) 大阪の儒者。字は仲舒、齋伯と號す。自ら其の氏を修して鈴と云ふ。

クワンヨ 願譽 ジヤウセイ 淨清

クワンライ 完來 俳人。大島氏。雲中庵四世。空華、野狐窟と號す。寛太の門。文化十四年四月十八日寂す。年七十。寛太文集、秋の夜、水の面、報恩集の著あり。

クワンラン 貫蘭 俳人。紫雪庵、梅月庵。寛太の門。

クワンラン 觀瀾(大塚) 高鍋藩の儒者。名は靜氏。字は子儉。通稱太一郎。別號梅後、擷齋、叢扁子、考槃窟。精齋の子。文政八年九月二十日寂す。年六十五。著、本藩實錄、藩祖事略、本藩系譜、本朝正學溯源錄、諸老略傳等。

クワンラン 觀瀾(三宅) 儒者。名は貞明、字は用晦、又端齋と號す。通稱九十郎。石庵の第。京師の人。淺見絅齋不下順庵に學ぶ。水戸義公に仕へて、史館の總裁となり。終に幕府の博士となる。享保三年八月二十六日寂す。中興鑑言、興湖談集、觀瀾文集、烈士報讐錄等の著あり。

クワンラン 觀瀾 ハクケイ(松崎白圭)

クワンランダウ 觀瀾堂 マサヨリ(富森正因)

クワンリ 寛里(下條) 俳人。分草庵。松浦藩士。

クワンリ 觀理 僧。天德四年醍醐寺の座主となり、安政年間江戸に住す。

クワンリ 冠里 イツペウアン 一瓢庵 東南院權僧都と稱す。天延二年三月寂す。年八十一。

クワンリ 闕里 ノブトモ(安藤信友)

クワンリウ 願流 サマノスケ(松林左馬助)

クワンリツアン 觀立庵 キクタン(千柄菊旦)

クワンリユウ ホフシンワウ 寛隆法親王 伏見天皇の第二子。仁和寺を繼ぐ。初め覺寬、また覺助と稱す。寶永四年九月十四日薨ず。年三十六。

クワンレン 寛蓮 僧。谷稱橋長利と肥前藤津郡大村の人。癈髮後、寛平法皇に侍し、殊遇を蒙り、洛北に彌勒寺を創す。

クワンレン 觀蓮 三河吉田實形院の修驗。國學を好み、寛政十二年本居宣長の門に入る。

クワンレン 願蓮 歌僧。新後拾遺集の作家。一名關克。字は美卿。江戸の人。又詩文を善くす。享保十二年寂す。年六十五。曼後鳳士記を註し、又幕命を奉じて曼後國誌を編す。

クワンロク 勸勒 醫僧。一に觀勒に作る。もと百濟の人。推古天皇の時、歸化して曆術等の書を獻ず。詔して諸生をして從學せしむ。後、僧正に任ぜらる。

クワンエ 桓惠 大僧正。新後拾遺集の作家。

クワンエン 灌園(皆川) 儒者。名は元、字は君猷。文政二年七月京都に寂す。年五十八。

クワンエン 灌園(岩崎) 江戸の本草家。名は常正、一に萬。字は士方。通稱源藏。玄堂と號す。草圖譜、救荒本草通解、草木育種等の著あり。

クワンエン 灌園 セツサイ(增山雪齋) キヤウサイ(井澤强齋)

クワンエン 觀圓 クワンシン 歡眞

クワンヲウ 完翁 ギケン(中野撝謙)

クワンヲウ 寬翁 クワンサイ(若林寬齋)

クワンヲウ 頑翁(太田) 京都の儒者。名は義、字は伯毅。榮助と稱す。

グワンヲウ 頑翁 カンコサイ(大森甘古齋)

クエハヤ 蹴速(當麻) 垂仁天皇の朝の勇力者。大和當麻邑の人。野見宿禰と力を角して敗死す。

クン 勳 リユウセン(清田龍川)

クンアン 君安 キンボウ(田中金峯)

クンイ 君彝 コンロン(山井崑崙)

クンイク 君毓 アンセイ(劉安生)

クンエイ 君英 タイシツ(小幡太室)

クンエイ 君盈 ヨウコク(岡松甕谷)

クンエン 君燕 ケイザン(堀景山)

クンカイ 薰海(高木) 眞宗の僧。越前坂井郡磯水村淨光寺に住す。福井佛教中學長たり。明治四十一年二月十一日寂す。

クンガン 君巖(富永) 江戸の儒者。名は正冕。號は長南。明和三年十一月寂す。

グンカン 軍監(太田垣) 但馬竹田城主。天正八年羽柴秀吉の軍を邀退す。

キグン 軍記(野村) 入戸藩士。名は崇執、字は子

範、語圃と號す。差額、衆側用人たり。天保四年因蔵に遇ひ、農民蜂起す。公に禀を繳、翌年圍所に死す。

クンキ 薰義(權藤) 海軍大尉。大分縣出身。日露戰役に出征し、明治三十七年六月旅順口外に戰死す。

クンギヨ 君魚 クワクレイ(山崎鶴嶺)

クンギヨク 君玉 サウロ(龍草廬)

クンクワウ 訓光 日向長持寺の開祖。字は泰芳。

グンクワク 群鶴(廣瀨) 石工。雕鏤を能くす。文化六年寂す

クンクワン 君觀(中野) 儒者。近江の人。彦根藩に仕ふ。名は儀矩。平馬と稱す。

クンケイ 君桂(市川) 畫家。名は邁、字は君哲、又眞龍と號す。江州の人。京師に住す。

クンゴラウ 薰五郎(重岡) 衆議院議員。伊豫の人。司法省法律學校出身。佛國に留學す。第三高等中學校教授、外務省商務局長、法典調査會委員たり。明治三十九年六月二十一日寂。年四十五。

クンサイ 薰齋 マサハル(北尾政春)

クンサウ 君相 ライザン(松本徠山)

グンザウ 群造(飯田) 志士。常陸眞壁郡木戸村の里正。名は利貞。元治元年筑波山の變に神衛隊の副將たり。幕軍に降り、十一月獄中に死す。

グンザウ 軍藏(森脇) 國學者。神國立敎篇、神道學語、勢語要記抄等の著あり。

クンサン 君贊 ショウヤウ(岡永松陽)

クンザン 君山(松本) 儒者。一に松平氏に作る。名は秀雪。字は子龍。通稱太郎左衛門。詩を善くす。尾張侯の奥祐筆たり。天明三年四月十八日寂。年八十七。著、毛詩鬲、群書品節、博覽錄要、年中行事故實考等。

クンザン 君山(小野) 儒。名は明。字は子興、五郎と稱す。後藤芝山に學ぶ。片山兼山に學ぶ。

クンザン 君山(中村) 儒者。一名關克。字は美卿。江戸の人。又詩文を善くす。享保十二年寂す。年六十五。曼後鳳士記を註し、又幕命を奉じて曼後國誌を編す。

クンザン 君山(大澤) 儒者。

クンザン 君山(深澤) 三日月藩の儒者。名は岡公。和漢の學に通ず。文化六年寂す。

クンザン 君山 セウシウ(小永井小舟)

クンジツ 君實 トウカウ(和智東郊)

クンシヤウ 君章 ネイシヨ(岡田寧處)

クンシヤウ 君峰 ケン(古川謙)

クンシヤク 君綽 クワン(堀完)

クンシヤク 君錫 セツカエン(井川雪下園)

クンジユ 君樹 ザウロク(藏六) ヤザエモン(山路彌左衛門)

クンシユウ 君脩 クワンカイ(松崎觀海)

クンシヨウ 薰松(遠藤) 歩兵少尉。鳥取縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月五日盛京省柳匠屯に戰死す。

クンシヨウ 軍勝 出羽の刀匠。永正年間の人。或は曰く陸奥の刀匠。月山の一派なりと。

クンシロウ 君子樓 ヨシスケ(西川吉輔)

クンズヰ 君瑞 ウンム(越智雲夢) 儒者。名は安享。一字通卿、字は仲吉、島汀逸夫と號す。

クンセツ 君節(櫻井) 儒者。名は行善。通稱直記、通稱彦之允。世々水戸の臣。彰考館の學士となり、後、敎授に進み、文化二年四月九日寂す。年四十。

クンセン 君選 セツサイ(增山雪齋)

クンソク 君測 キンダイ(諸葛琴臺)

クンソク 君則 ランタク(森蘭澤)

グンダイフ 郡太夫 セキジヤウ(岡井赤城)

ケンシウ(岡井曠州)

クンタク 君鐸 キシユン(諸葛歸春)

クンダク 薰道 青松寺の住持。字は高嚴。明曆二年寂す。

グンタウサイ 軍刀齋 ガンリウ(石川嵓流)

クンタク 君澤 トウシウ(佐野東洲)

クンタツ 君達(關) 僧中の儒者。依田利用の門人。名は政方。

クンタツ 君達 タイセウ(惠美大笑)

グンタラウ 軍太郎(田中) 廣島藩の勤王家。名は正雄。十津川及び生野の擧に加り、後補へられ、慶應二年薨去せらる。年二十五。贈正五位。

グンタラウ 軍太郎(木村) 關擧者。下總佐倉藩士。航海術に精しく、又兵書を翻譯す。明治初年寂す。

グンタラウ 軍太郎 シゲオミ(三好重臣)

グンチ 郡智(三瀧) 數學者。關孝和の門。

グンチ 郡治(吉田) 歩兵少尉。福島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十二月三日旅順二〇三高地に戰死す。

クンチユウ 君中 チクカウ(細井竹岡)

クンヂン 君田 アウス井(美馬櫻水)

クンバイ 薰梅 閨秀歌人。加茂眞淵の門。

グンパウ 群芳(矢島) 畫家。名は行善。通稱直記、

グンパチ　軍八(新納)　醫學博士。陸軍大尉たり。

西南の亂に與し、城山に自刃す。

グンペイ　群馬亭　ホクサイ(葛飾北齋)

グンピ　君美(中根)　高遠侯の儒臣。信濃の人。名は經世。字は君美。愛太夫と稱す。蘇竹園集の著あり。文化二年八月殁す。

グンピ　君美　ハクセキ(新井白石)

グンプウ　薫風(南)　元徳島藩の志士。明治十二年殁す。年四十四。

グンペイ　君平(蒲生)　勤王家。下野宇都宮の人。本姓藤田氏。名は秀實。一名夷吾。君平は其の字。別字君藏、通稱伊三郎。修靜庵と號す。山陵志を作り、幕府に告げて其の修復を圖らんと欲し、又不恤緯を著し、開老に上りて邊防の事を論ず。天資忠孝。義に勇にして奇節あり。文化十七年七月五日殁す。年四十六。一に四十七。贈正四位。

グンペイ　君平　レイソウ(劉冷窓)

グンペエ　軍兵衛(河田)　上杉景勝の家臣。雜津守と稱す。勇力あり。羽柴秀吉誘ふに厚利を以てす。軍兵衛之に應じ、景勝に斬らる。

グンペエ　軍兵衛(山口)　吉田流の射術家。吉田印西の門。徳川忠直に仕ふ。

グンペエ　軍兵衛(伊庭)　劍客。名は秀業。常同子と號す。徳川幕府の臣。文政天保年間の人。

グンペエ　軍兵衛市橋　マンエモン(園野萬右衛門)

グンユウ　君裕　トウヤウ(津阪東陽)　ソモン(山村蘇門)

グンリユウ　君龍　ユウキン(永谷雄琴)

クンリン　君綸　クワンザン(池田冠山)

クンレイ　君嶺(伊藤)　儒者。もと龜田氏。播磨の人。龜井滄の儒臣伊藤錦里の養子。名は榮吉、字は士喬、通稱文四郎。寛政八年五月二十日殁す。

け

ケイ　敬(長谷川)　勤王家。元名古屋藩士。蟄藏。明治十九年殁す。年七十九。贈正五位。

ケイ　圭(本堂)　警部補。岩手縣人。西南の役に從ひ、明治十年三月十七日鹿兒田原坂に戰死す。

ケイア　敬阿　ガクシン　學信

ケイア　慶阿　ベンギヨク　辨玉

ケイアイ　景愛　尼。無外また無著と號す。初名千代野。陸奥守城泰盛(一に秋田城介義景)の女。金澤貞時に嫁し、夫の殁後、薙髮して京に抵り、佛光に謁し、寶蓉精舍を構へて居る。上杉氏、二階堂氏等、爲に景愛寺を建つ。日面和尚といふ。

ケイアミ　藝阿彌　永享頃の畫人。

ケイアミ　景阿彌　文政中の畫人。

ケイアン　慶安　醫。京師の人。世々足利氏の同朋たり。

ケイアン　敬菴(佐藤)　江戸の儒者。名は惟孝。字は士友、又綏卿、通稱新介、別號冬嶺、寶暦五年五月二十六日殁す。

ケイアン　溪庵(鎬木)　商樂家。畫人。名は機嵐、通稱卯三郎。江戸の人。梅溪の孫。明治三年九月二十五日殁す。年五十二。

ケイアン　桂菴　禪僧。周防山口の人。猛烈の學を傳ふ。土御門天皇の勅を奉じて明國に入り、文明五年歸朝。薩摩坊津に着きしに、天下亂れて京に歸るを得ず。島津侯忠昌その學德を聞き、桂樹院を建てて住せしむ。後、東錦庵に隱棲し、永正五年六月十五日寂す。年八十二。

ケイアン　桂菴(古林)　醫。名は正温。見眞、又蕃仙房と號す。播磨飾磨の人。聖庵の子。家方を受け、又曲直瀬正純に學ぶ。黒田如水の客となり、後大阪に學舍を設けて教授す。明暦三年九月十七日殁す。年七十九。著書、書藥眞方、雜經式聞。

ケイアン　桂安(近藤)　醫者。丹波の人。小兒の治療に熟し、丹波兒醫と稱せらる。後光明天皇の少時、屢驗を奉りしかば、即位の後、特に法印に叙せられ、壽伯院の號を賜はる。

ケイアン　圭庵　イハク　伊白

ケイイウ　慶友　ボクヤウ(牛井卜養)

ケイイウ　慶祐(蘇我)　醫者。和氣眞長に學び、半陽軒閲翁と號す。

ケイイウ　慶祐　ジユセン(蘇我壽仙)

ケイイウ　慶遊　ノブタカ(初世信高)

ケイイチ　景一(大庭)　歩兵少佐。山口藩士。明治三十七年日露戰役に從ひ、六月二十七日分水嶺に戰死す。

ケイイチラウ　敬一郎(中島)　歩兵大尉。宮城縣出身。日露の軍に從ひ、明治三十七年十月本溪湖附近に戰死す。

ケイイチラウ　啓一郎(伊藤)　歩兵中尉。愛知縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、十月十二日遼東省沙河堡に戰死す。

ケイイツ　桂逸　武藏龍穩寺の住職。字は格翁。善慶及び能仁の弟子。

ケイイン　桂陰(佐藤)　詩人。通稱唐一、名は養、字は君正。愛遊と號し、安政年間江戸に住す。

ケイイン　桂陰(棚谷)　笠間藩の儒臣。名は元善、字は元卿、又は蕉庵。鳳陽、天香齋等の別號あり。明治初年大學に召さる。國史攝要の著あり。明治十五年十月殁す。

ケイイン　桂陰　サダノブ(出雲路定信)　タダアキ(渡忠秋)

ケイイン　景印　高僧。鐵牛と號す。無爲元和尚に從ひて出家す。元亨中、元に入りて留ること十餘年。伊藤の觀念寺を開く。勅諡法源禪師。

ケイイン　契因　カイオン(紀海音)

ケイウ　敬宇(中村)　英學者。文學博士。江戸の人。初め儒學を修め、安政二年徽典館の學頭となり、大年將軍上洛中、侍講を命ぜらる。是より先、桂川周甫に蘭學を受く。慶應二年英國留學を命ぜられ、歸朝後、靜岡學問所一等教授に任ず。明治六年同人社を開き子弟を教育す。女子高等師範學校長、文科大學教授、貴族院議員等を經て、二十四年六月七日卒す。年六十。其の著譯、西國立志篇、自由之理等、廣く世に行はる。

ケイウ　經羽　俳人。雨角氏。通稱吉兵衛、萬嶽の門。

ケイウンケン　溪雲軒　カイコク(根岸鼾谷)

ケイウンサン　慶雲院　ヨシカツ(足利義勝)　タダナホ(酒井忠直)

ケイエキ　啓益(香月)　醫。名は則眞。牛山、貞庵、又被髪翁と號ず。元文五年三月十六日殁す。年八十五。著、牛山方考、牛山活套、老人養草等。

ケイオウ　慶應(鈴木)　歩兵中尉。千葉縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月六日盛京省奉錦堡に戰死す。

ケイオン　慶恩(住吉)　畫家。春日隆親の次子。光長の弟。幼名聖壽麿。雜津住吉の繪所となりて、住吉に住し、之を氏とす。法眼に叙せらる。後、京の春日に移る。建仁中の人。

ケイガ　慶賀(川原)　畫工。最も寫生に長ず。天保七年屋賀寫眞草を著す。

ケイカイ　景戒　大和國興福寺の僧。唯識を習ひ、兼ねて梵學の造詣に深し。日本國現報善惡靈異記を著す。

ケイカウ　敬孝　ギンカウ(尾崎銀岡)

ケイカウ　敬皎　セワズ井(久世寄瑞)

ケイカウ　桂皐(西野)　儒者。越中富山の人(名は元俊、一に高俊、字は士明、通稱文右衛門。安永七年殁。

ケイカウ　テンワウ　景行天皇　垂仁天皇の第三子。諱は大足彦忍代別尊。母は日葉洲媛。景向宮に卽位し、日代宮及び高穴穗宮に遷る。在位六十年。壽一百六。

ケイカウサンカンパク　景皓院關白ノブヒサ藤原信尙)

ケイカク　繼覺　禪僧。紀伊の人。源氏。梅山本公に從ひ、後佛陀寺を主り、諸緣寺に移り、又越前松隱寺の開山第一世となる。應永二十年九月寂す。

ケイガク　圭岳(原田)　四條風の畫家。武藏に住す。安政年間の人。

ケイガク　景岳　サナイ(橘本左內)

ケイガク　桂巖　エイシヤウ　英昌　エハウ　慧方

ケイガンゼンモン　桂岩禪門ノリアキ(上杉憲秋)

ケイギ　敬義(中井)　江戸本町の商賈。書を好み、漢英昌を學びて叢堂と號す。通稱鄕右衛門、字は伯直。春星、小笠山樵等の號あり。俗名乙平。又狂歌を大屋裏住に學びて靈鹿秋人と稱す。文政四年七月殁す。春星閑話及び詩鈔あり。

ケイギ　敬義(辻)　歩兵中尉。熊本縣出身。日露戰役に從ひ、明治三十七年九月遼濛溝に戰死す。

ケイギ　敬義(原科)　歩兵少尉。靜岡縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十月遼陽に病死す。

ケイギ　敬義　アンサイ(山崎闇齋)

ケイギ　奚疑　俳人。堤氏。新月庵、長齋庵と號す。富屋の門。

ケイギ　奚疑　シウケン(山名脩軒)　ホクザン(山本北山)

ケイギ　奚疑(島田)　英學者。名は曼。夙くウェブスターの辭書を譯す。

ケイギ　契疑　禪僧。字は克補。三河龍拜寺の字岡龍師に依りて悟道し、擧いで其の席を襲ぎ、大永三年去りて往く所を知らず。

ケイキウ　敬休(恩田)　高知藩國老深尾氏の家士。通稱次八。後蘇と稱す。實暦年間、深尾氏の家政を幹し、後、文武頭取職を以て經書を侍講す。

ケイキウ　桂久　歌人。徽音記の門。又書を善くす。

ケイキチ　稽吉(久貝)　二等少警部。東京府出身。西南の役に從軍し、明治十一年五月八日肥後久木野に戰死す。

ケイキヤウ　景嬌(壹島)　高鍋藩の儒者。克巳と稱す。藩の教授たり。後、用人となる。弘化三年十二月殁す。

ケイキヨ　桂居(三浦)　儒者。名は務義、字は子傳。安政七年正月京都に殁す。年四十三。

ケイギヨク 慶玉　李子。出羽國田川早田村の人。元文五年頭主之を嗣して米を賜ふ。

ケイキヨダウジン　輕擊道人　ハウイツ（酒井抱一）

ケイキンサイ　綱錦齋（中村）　小說家。名は甘一、通稱平吾、一に三近子と號し、寛保元年十一月京都に歿す。年七十一。

ケイキンエン　景金園　**ヒロユキ**（住吉廣行）

ケイクラウ　敬九郎（牟田）　陸軍中將。舊佐賀藩士。義孝の長子。日露の役、第三軍砲兵部長として功あり。大正二年一月二日卒す。年五十九。

ケイクワ　瓊華（倉田）　京都の女畫人。名は入實。寛政十二年歿す。年三十六。

ケイクワウ　桂光（中根）　德川家康の臣。參河の人。通稱平左衞門、名は正照。三方原の役、奮戰して死す。

ケイクワウ　繼光　**ユキヒロ**（土佐行廣）

ケイクワウテンワウ（慶光天皇）　**スケヒトシンワウ**　典仁親王

ケイクワウヰン　桂光院　**トモヒトシンワウ**（智仁親王）

ケイクワウヰンワウダイジン　景光院右大臣　**ハルスエ**（今出川晴季）

ケイクワク　慶廓　伊勢松坂常念寺の僧。國學を好み、文政二年本居春庭の門に入る。

ケイクワダウ　瓊華堂　**ホクカイ**（駿岡北海）

ケイクワン　敬管（木下）　儒者。順庵の長子。

ケイクワン　鷄冠　女俳人。蕪雨菴、不麻坊、天地庵と稱す。心祇の門。江戸吉原の遊女。

ケイケイ　慶京　**ヨシミチ**（久保敬道）

ケイゲツ　桂月　**シウザン**（櫻井舟山）

ケイゲツアン　渓月庵　**セウミン**（杉岡睿眠）

ケイゲフ　敬業（增田）　儒者。もと松居氏、名は尙正、字は久甫。大和の人。五條の豪家增田氏に養はるゝ。屋號吉野屋、石王塞軒に學ぶ。實學を學び、よく世益を圖る。

ケイゲフ　敬業（大塚）　富山藩の儒官。水石と號し、新左衞門と稱す。古賀精里に學ぶ。又繪筆を能くす。明治七年九月歿す。年五十四。

ケイケン　警軒（坂田）　漢學者。名は文平、字は夫卿、館中の人。阪谷朗廬、木下犀潭、安井息軒に學ぶ。高等師範學校及び斯文會等の講師となる。衆議院議員に當選すること二回。明治十二年八月十五日歿す。年六十二。

ケイケン　敬軒（河崎）　儒者。名は鯤、字は良佐。文政元年五月二十七日歿す。

ケイケン　桂彦　藥劑。常陸の人。字は彦屋。玖峯に學び、甲斐神祿及び慶長寺に住す。天文八年正月二十五日寂す。年九十六。

ケイゲンダウ　慶元堂　**ラウセン**（荒川典山）

ケイコ　慶子（中村）　俳優。所作事に精達す。

ケイコ　慶子（大浦）　長崎の茶商。嘉永六年始めて見本として、英米及びフラビヤに輸出す。明治十七年農商務省より賞賜を受く。同年四月歿す。

ケイコ　經岡　**テンパウ**（小川天保）

ケイコ　陘孤（篠崎）　儒者。名は英武、字は司直、一字和卿。上總の人。太田錦城に學ぶ。孫子發微の著あり。

ケイゴ　桂悟　高僧。字は了庵。三浦老人と號す。

ケイゴ　桂五　俳人。金森氏。通稱市之進。名古屋の人、陸進の門。文化九年二月九日歿。

ケイゴアン　桂五菴　**ホフサク**　法策

ケイコウ　荊口　美濃大垣の俳人。宮崎氏。芭蕉の門。元祿頃。

ケイコウ　鷄口　俳人。谷口氏。二世木螺庵、獅子眠。享和二年七月十二日歿。年八十五。

ケイコク　惠谷（矢部）　江戸の儒者。名は惠、字は鄰人、通八郎と稱す。論語三家定說考、大學集義、中庸集義等の著あり。

ケイコク　京國　**クワザン**（久津見華山）

ケイゴク　圭嶽　**シユハク**　圭白

ケイゴラウ　經五郎（香月）　薩佐賀藩士。明治二年大學校に入り、翌年海外に留學し、經濟學を修む。征韓論沸騰の際、江藤新平に與し、明治七年四月斬らる。年二十六。

ケイコロウ　稽古樓　**アウコク**（龜田鵬谷）

ケイサ　惠佐　俳人。幕本氏。通稱久兵衞。名は久惠。京都の人。貞室の門。寛文頃。

ケイサイ　敬齋（武居）　福島藩の學頭。名は端、字は正甫。平井藍嶺の子。初め渡邊方盤に學び、後江戸に出でて古賀精里、柴島石梁に學ぶ。安政二年九月四日歿す。年七十一。

ケイサイ　敬哉（山田）　憲兵少尉。熊本縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年九月十四日病死す。

ケイサイ　惠齋　**リヤウアミ**（村田其阿彌）

ケイサイ　惠齋　**マサハル**（北尾政春）

ケイサイ　景齋　畫家。尊舟に學ぶ。石見の人。

ケイサイ　綱齋（淺見）　京都の儒者。名は安正。近江高島の人。初め藍水を築とし、高島順良と稱す。後山崎闇齋の門に入りて儒となる。清貧苦學。母に事へて至孝。諸侯其の風を聞きて、見んと欲する者多く、太上天皇亦之を召見す。固辭して出でず。正德

元年十月歿す。年六十。

ケイサイ　綱齋（綾部）　最後朴齋藩の儒者。名は安正、字は伯章、一字椎木。道弘の子。後、郡宰となる。會賴西大に儆う。綱齋敎治の法を織して有司の皆に仲ひ、職を齎め、食邑を減はる。寛延三年歿す。年七十五。

ケイサイ　綱齋　**ミンザン**（水野岷山）

ケイサイ　駒齋　**センリ**（海東千里）

ケイサイ　圭齋（宇都宮）　儒者。字は文甫、三的と號す。由的の子。吉川家の文學たり。京師に住す。享保九年八月二十日歿す。年三十。

ケイサイ　圭齋（大西）　畫家。名は允、字は叔明。圖梁、一號烟客、小海道人と號す。谷文晁の門。

ケイサイ　圭齋（佐井）　醫。名は稚純、鷄樓と號し、文化六年京都に歿す。年七十五。

ケイサイ　圭齋（吉雄）　醫。長崎の人。本邦種痘術の開祖。嘉永元年六月和蘭國軍醫モムニツキ氏に學ぶ。後、陸軍一等軍醫正たり。明治二十七年三月十五日歿す。年七十二。

ケイサイ　獻齋　**セイシサイ**（會澤正志齋）

ケイサイ　磬齋　**モトツネ**（吉弘元常）

ケイサイ　蔀齋（鍬形）　**マサハル**（北尾政春）

ケイサイ　渓齋　**エイセン**（池田英泉）

ケイサイ　繪齋（沖）　儒者。初め竹內氏、次に松永氏、後本氏を稱す。武生藩に仕ふ。安政中歿す。年六十五。

ケイサイ　瓊齋　**ナガアキ**（衣川長秋）

ケイサイ　桂齋　**スケユキ**（梨木祐之）

ケイザイ　圭三（柴田）　佛語學者。大和宇陀郡の人。明治三年開成所の敎官となり、七年宮崎縣中學に準職す。三十年十二月歿す。年五十九。

ケイザイ　啓藏（鈴木）　陸軍一等軍醫。栃木縣人。日露戰爭に從ひ、明治三十八年三月二日病死す。

ケイザウ　慶造（吉田）　陸軍二等軍醫。宮城縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年九月二日病死す。

ケイザウ　慶造（小貫）　步兵少尉。東京出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月三日歿す。

ケイザウ　慶藏（丹野）　工兵中尉。宮城縣出身。日露の役、旅順攻撃に加り、明治三十七年八月二十日水師營に戰死す。

ケイザウ　景藏　**コウ**（矢田堀鴻）

ケイザウ　啓三（樋口）　步兵中尉。德島縣出身。日露役に從ひ、明治三十七年十月三塊石山に戰死。

ケイザウ　敬藏（伊藤）　勤王の志士。長州藩士。名は正直。元治甲子の京變、慶司郎中に戰死す。

ケイザウ　敬藏（西村）　勤王家。但馬の人。名は溫。字は仲淼。家資を捐して、有志を救ひしこと多し。明治二十四年歿す。年七十九。贈正五位。

ケイザブラウ　敬三郎（村田）　步兵少尉。大阪府出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月二十二日旅順東鉢龍山に戰死す。

ケイザブラウ　馨三郎（小山）　勤王家。名は惟馨。下野眞岡の人。藤田小四郎に屬して事敗れ、慶應元年斬らる。年十九。明治四十年贈從五位。

ケイザブラウ　桂三郎（菅野）　海軍大尉。福島縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十二月三日戰死す。

ケイザン　圭山（堀）　安藝侯の儒臣。修いふ。名は正超、字は君燕、號助と號す。立庵の子。

ケイザン　景賛　醫師。永祿頃の人。盤効秘要方の

ケイザン　景山（堀）　俳人。林氏。摩訶窓、憲太の門。

ケイザン　啓山　俳人。道彦の門。

ケイザン　啓山　**マサヒラ**（桃澤匡衡）　「保頃。

ケイザン　慶山（大原）　長崎の畫家。平安の人。享

ケイザン　埜山　セワキン　紹瑾

ケイシ　敬之　楠原）書家。越前福井藩士。通稱七左衞門。關思恭の門。寛政八年十月十二日歿す。年

ケイシ　敬之　ハウアン（荻生方菴）［七十四。

ケイシ　馨子　後三條天皇の皇后。後一條天皇の女。始め中宮となりて、弘徽、登華の兩殿に居り、後三條天皇踐祚の時、落飾となり、後改めて皇后といふ。寛治七年九月崩ず。年六十五。

ケイシ　慶士　俳人。林氏。獲林齋。其梅の門。

ケイシ　慶至　ヒロモリ（住吉廣守）

ケイジ　慶宇　禪僧。字は顯窓。傑堂に學ぶ。越後の人。上杉遵實に招かれて、雲洞寺の開祖となる。後同國慈光寺に住す。永享五年正月十五日寂す。

ケイジ　啓宇　俳人。潘山の門。文桂舍と號す。

ケイジ　敬二（細山田）　海軍中尉。宮崎縣人。日露戰役に從軍し、明治三十七年十二月十三日旅順口方面に戰死す。

ケイジ　圭二（田中）　三等少警部。鹿兒島縣人。西南役に從軍し、八月三十一日戰死す。

ケイシウ　圭洲（飛島）　儒者。名は潤、一に溜に作る。字は子醇。長崎の人。中西淺湖に學ぶ。寶曆五年十月歿す。

ケイシウ　桂州　ダウリン　道倫

ケイシウ　桂舟　ヒロナガ（板谷廣長）

ケイシウ　桂舟　國岡の俳人。元祿。蕉風。

ケイシウ　契舟　カイシウ（紀海音）

ケイシウ　慶舟　ヒロマサ（板谷廣當）

ケイシウ　景秀　高制。字は遠叟、南禪寺に住す。天正八年寂す。年八十五。

ケイシ　ナイシンワウ　瓊子内親王　後醍醐帝の皇女。新千載集、新續古今集、及び新葉集の作家。

ケイシ　ナイシンワウ　惠子内親王　代明親王の女。拾遺集、新古今集の作家。

ケイジフラウ　啓十郎（伊吹）　歩兵中尉。大阪府人。明治三十七年日露の役に從ひ、八月二十二日東鯵山に戰死す。

ケイシャウダウ　綱尚堂　ハウシウ（雨森芳洲）

ケイジダウ　敬時堂　バンセイ（太田晩成）

ケイシチラウ　敬七郎　ナガミチ（小笠原長行）

ケイシツ　桂質　非ハウ　蘐芳

ケイシツ　桂室　非ハウ　蘐芳

ケイシツ　圭叱　畵家。

ケイジツサンジン　慧日山人　チクウ（岡島竹「塢」）

ケイシャウイン　桂昌院　クニフサシンワウ　邦房親王　タマノカタ　玉之方

ケイシャク　桂勺　俳人。元祿頃。蕉風。

ケイシュ　景種　畵人。雪舟及び周文の法を學ぶ。通稱兵郎。

ケイジュ　敬壽（川島）　雜學者。通稱藤治。東雲舍と號す。

ケイシュン　景俊　俳人。昌英の門。

ケイシュン　慶春（芝）　文明中の佛畵師。南都に住す。世に芝法眼と稱す。

ケイシュン　景春（南部）　富山侯の文學。字は國華。詩及び書畵を善くす。享保二年歿す。

ケイジュアン　桂樹庵　ヨウザン（小野庸山）

ケイシュク　景叔　畵家。雪舟の畫法を學ぶ。石見の人。

ケイシュザ　慶首座　茶人。南坊流の祖。千利休の門。堺南宗寺塔中集雲庵の第一世。名は宗慶、後宗啓と改む。

ケイジュキン　慶壽院　將軍足利義晴の室。義輝の母。近衞關白尚通の女。永祿八年三好義興、松永久秀等叛して幕府を圍む。義輝火を放ちて自殺し、慶壽院もまた火中に投じて死す。

ケイジュキン　慶壽院　サネナガ（四圍寺實永）

ケイシヨ　敬所（村田）　儒者。名は欽、字は子節、七右衞門と稱す。一に致堂と號す。伊勢四日市の豪家。嘉永七年歿す。年二十八。

ケイシヨ　敬所（猪飼）　京都の儒者。名は彦博、字は文卿。岩垣龍溪の門人。津侯に聘せらる。弘化三年十一月十日歿す。年八十餘。

ケイシヨ　敬所（中井）　篆刻家。帝室技藝委員。名は肇之、字は資同、溝邑と號す。明治十二年內旨を奉じて御歷三類を謄刻す。四十二年九月二十九日歿す。年七十九。

ケイシヨ　桂嶼　ホケン（桂川甫賢）

ケイシヨ　桂渚　キミヲ（風早公雄）

ケイジヨ　圭徐　禪僧。尾張の人。字は大透。正燈の門弟。浦田利家に招かれて、實國寺の開祖となる。後、長船院に退き、慶長三年九月二十日歿す。年七十四。

ケイジヨウ　桂乘（後藤）　金工。名は光傳。享和四「年歿す。

ケイシヨキ　啓書記　シヤウケイ　祥啓

ケイジラウ　啓二郎（松本）　歩兵少尉。石川縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年二月二十七日盛京省孤家子に戰死す。

ケイジラウ　慶次郎（小松）　歩兵中尉。愛知縣出身。日露戰役に出征し、明治三十八年八月病死す。

ケイジラウ　慶二郎（前田）　トシマス（前田利太）

ケイジラウ　鉾次郎（桂）　陸軍一等軍醫。滋賀縣人。日清戰役に從ひ、明治二十八年八月一日病死す。

ケイジラウ　敬次郎（雨宮）　實業家。甲斐の人。明治四十四年一月二十一日歿す。

ケイシン　敬信　尼。古今集の作家。

ケイシン　敬信（熊切）　歩兵大尉。東京府出身。日露の戰に出征し、明治三十七年九月二十日戰死す。

ケイシン　敬心　畵人。可翁の風を學ぶ。

ケイシン　敬愼（青山）　フミヲ（芙蓉亭文雄）

ケイスケ　圭介（小南）　江戸の儒家。名は克、天明七年九月二十四日歿す。

ケイスケ　圭介（伊藤）　植物學者。理學博士。男爵。名古屋の醫西山玄道の次子。幼名佐仲。錦窠と號す。藩の奧醫に擢でらる。維新後、東京大學教授たり。明治三十四年一月二十一日卒す。年九十九。著す所、泰西本草名疏、救荒植物便覽、本邦博物學起源沿革說、花史雜記、救荒植物集說有、菴植物集說等。

ケイスケ　圭介（大鳥）　福密顧問官。男爵。舊幕臣。維新の際、榎本等と函館に脫走し、軍敗れて禁錮せられしが、後赦さる。明治四十四年六月十四日薨ず。年七十九。

ケイスケ　啓助（山田）　東京龍紋氷室の主人。明治四十五年二月二十七日京都に歿す。年六十九。

ケイスケ　桂助（勝）　大阪の狂言作者。明治三十六年一月三日死す。年四十七。

ケイスケ　惠助（井上）　出雲國神門村高濱の人。寶曆中、居村風沙の害を被るを憂ひ、樹木を栽培して之を防ぐ。

ケイスケ　計介（谷村）　熊本鎭臺の伍長。日向諸縣郡の人。西南の亂、賊の圍を衝いて使命を果し、後田原坂に戰死す。

ケイスケ　敬助（加藤）　舊福井藩士。日本鑛業會理事。明治四十五年四月十日歿す。年五十九。

ケイスケ　敬助　サウセキ（落合雙石）

ケイスズ井　景端（森下）　黑住教副管長。立太郎と稱す。享保二年歿す。

ケイソ　計太（宮永）　歩兵大尉。新潟縣出身。明治二十九年七月四日土匪討伐に際し、北斗に戰死す。

ケイタ　慶太（福井）　陸軍二等軍醫。岡山縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十月沙河に戰死す。

ケイタ　啓多　俳人。百駱駝。吾山の門。

ケイタ　啓太（池邊）　疱瘡家。熊本藩士。名は常春、如泉と號す。伊能忠敬及び高島秋帆父子に從事す。天保十三年秋帆の事に坐して獄に下る。後赦さる。明治元年八月歿す。

ケイタイテンワウ　繼體天皇　應神天皇五世の孫。彦人主王の子。諱は男大迹。武烈天皇崩後、群臣に迎へられて即位し、山城筒城に都す。後、磐余玉穗宮に在り。在位二十五年。壽八十二。

ケイタク　桂堂　カウリン　香林　ザンサ　原佐

ケイタク　奎堂（松本）　勤王家。備者。名は卿、字は士權。謙三郎と稱す。三河の人。刈谷藩士井氏に仕ふ。昌平黌に學び、後京都に歸り、維を張れて徒に授く。文久三年中山侍從を奉じ、自ら軍事を督して兵を大和に擧ぐ。九月二十四日敗れて自殺す。年三十四。著、奎堂文稿、奎堂遺稿あり。

ケイダウ　敬室　ザン（諸木蔀山）

ケイダウ　敬道　マサユキ（山本正之）

ケイタラウ　慶太郎（畠山）　工兵少尉。宮城縣出身。明治二十八年征臺の役に從ひ、十一月病死す。

ケイタラウ　慶太郎（松崎）　歩兵中尉。福岡縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月九日鄂士

ケイソン　景孫　セヴサイ（岡節齋）

ケイソン　溪村（臼杵）　福岡藩の儒者。名は緝匡、字は子愼、又子順、通稱辰之進。鑛古の二子。文化十年三月二日歿す。年四十二。

ケイソン　繼尊　歌僧。法印。新續古今集の作家。

ケイソン　桂乘（後藤）　金工。名は光傳。享和四

ケイラウ 稽翁 **タイヂン(岡太古)** **ボクセツ** 木 **ケイラウ** 桂翁 **テイケン** 貞兼 「節」 **ケイラク** 慶屋 **チヤウセウ** 定紹 **ゲウ** 堯(庄田) 歩兵少佐。石川縣出身。日露戦役に従軍中、明治三十七年十月戦死す。

ケウイチ 堯一(布上) 海軍大軍醫。佐賀縣出身。日露の役、軍艦三笠に乗組み、明治三十八年九月彈藥庫爆發に因りて死す。

ゲウイン ニフダウシンワウ 堯胤入道親王 直常親王の子。圓融房に入りて劇髪す。二品天臺座主。享祿三年三月薨ず。

ゲウ 暁雨(大日) 江戸淺草蔵前の札差。俠客。十八大通の一。通稱大口屋治兵衛。實屠七年、年六十餘、名を暁翁と改む。後、高輪にて歿す。

ゲウウン 暁雲(大木) 越後の歌人。通稱與十郎。弘化年間の人。

ゲウウン 暁雲 **イツテフ(英一蝶)**

ゲウウンサイ 暁雲齋 **シユンミン(速水春眠)**

ゲウカウ 堯孝 歌僧。連歌を能くす。頓阿の裔。堯尊の子。權大僧都法印となり、常光院と號す。永享中、藤原雅世の新撰古今和歌集を撰するや、和歌所開闔たり。康正元年七月歿す。年六十五。

ケウカク 教覚 讃岐僧。德大寺大納言實盛の子。將軍足利義教の猶子。母は右衛門督基親の女。享德四年五月五日座主に任ぜらる。

ケウカク 教覚 相撲の刀匠。廣次の號。

ゲウキヨウ ホフシンワウ 堯恭法親王 靈元天皇の第十八子。母は右衛門佐局。乙宮と稱し、後襌宮と改む。名は久寛。妙法院に入り天臺座主となり、一品に陞り、生事を許され、明和元年閏十二月四日薨。年四十八。

ゲウクウ 堯空 **サネタカ(三條西實隆)**

ケウエ 教壊 畫僧。左中將藤原敦行の子。與福寺の林慎に従學し。山城久世郡小田原に閑居す。俗に「節」

ケウシヨウ 喬松(太田) 儒者。字は天璐、通稱繩祿郎。錦城の第六子。明治五年六月九日歿す。

ケウシヨウ 堯勝 歌僧。新後拾遺集の作者。

ゲウジヨ ホフシンワウ 堯恕法親王 **サダトシシンワウ** 定敏親王

ケウシン 教眞 延暦寺の僧。義學を業とし、旁ねて念佛三昧を修す。

ケウシン 堯臣 **ハクケイ(松崎白圭)**

ケウジン 教尋 高僧。俗姓平氏。大和の人。實生と號す。智行深厚たり。壁邊身者、之に師事し、傳法院を建て、其の第一座に居らしむ。常に實生院に寓し、永治元年三月二十三日寂す。

ゲウジン 堯尋 歌僧。堯孝の父。常光院と號す。僧都。新後拾遺集及び新續古今集の作家。

ケウスケ 教介(小林) 歩兵少尉。山口縣出身。日露戦役に出征し、明治三十八年八月病死す。

ケウズ井 教隨 伊勢森本田中寺の僧。國學を好み、文化十五年本居春庭の門に入る。

ケウセイラウ 暁晴翁 **ケンカダウ(木村兼葭堂)**

ケウセン 喬遷 遠江相良藩の儒者。名は良潔、字は宗伸。明和年間の人。

ケウゼン 教禪 書僧。佛師定朝の父。治暦四年補佛師僧綱に任ぜられ、承保二年三月寂す。

ケウセン 暁泉 **イツダウ(闕白逸堂)** 權僧正。後醍醐天皇五世の孫。小倉宮の子。安祥寺寺務を兼帶す。

ケウソウ 教尊 權僧正。後醍醐天皇五世の孫。小倉宮の子。安祥寺寺務を兼帶す。

ケウゾン 教存 僧。僧中の人、快行と稱し、鳳床山人と號す。擔腳珠譯格、同補遺を等す。

ケウソン 堯尊 畫僧。俗姓巨勢氏。藏人有永の孫。三河法橋有尊の長子。南都一條院の僧人となり、安藝法印といふ。建長三年正月五日與正 等蘊の命を以て稱尊を改く。

ケウソン ホフシンワウ 堯尊法親王 貞敦親王の子。母は太政大臣藤原實春の女。後奈良天皇の猶子となり、妙法院に入り、一身阿闍梨となる。天文十九年天臺座主に補し、二十二年七月之を辭す。

ケウタイ 教待 天安頃の高僧。圓城寺に住す。

ケウダイ 暁臺 名古屋の俳人。久村氏。蓮阿坊日尼の門。通稱平兵衛。暮雨庵、龍門、買夜子と號す。寛政四年正月二十日歿。年六十一。

ケウチ 堯智 永正中の歌僧。堯恵に學ぶ。

ケウチユウ 教中(菊池) 勤王家。宇都宮藩士。通稱介司、別號貝軒、又淡如。文久二年河野鯤三等を援けて安藤信正を要撃せしむ。事露れ、獄に投ぜらる。後釋されて歿す。年三十五。詩を好み書畫を能くす。淡如絆妙の著あり。

ケウチユウ 堯忠 歌僧。堯恵法印の子。權少僧都。

ケウテン 堯田(大島) 書家。名は信、字は立卿、もと矢島氏、世々阿部侯に仕ふ。明治十八年十月歿す。

ケウナン 蟠南(平部) 蒼鉄肥藩の儒者。通稱長介、名は俊夏、字は温卿。古賀侗庵の門。日向私史、日向紀記の著あり。明治二十三年歿す。年七十六。

ケウニヨ 教如 本願寺第十二世の僧。名は光壽。顯如の長子。初めて新門跡と稱す。慶長七年本願寺を二派に分ち、教如、東本願寺の開祖となり、權僧正に補せられ、十九年十月五日薨す。年五十七。

ケウニン 教仁(百濟) 桓武天皇の妃。武鏡の女。

ゲウニン 堯仁 歌僧。新續古今集の作家。

ゲウニン 堯忍(龍院王) 東叡山の執當。幕府祺下の士。堯運の弟子となり、新事變の際輪王寺宮に隨從して仙臺に走り、捕へられしが、後許される。越後國分寺に退き、明治十六年九月十四日寂す。年六十七。

ケウニン ホフシンワウ 教仁法親王 **コウハウシンワウ** 弘保親王

ゲウニン ホフシンワウ 堯仁法親王 後光嚴院の皇子。妙法院に住す。天台座主

ケウネン 喬年 **ツウテイ(帆足通楨)**

ゲウネン ホフシンワウ 堯然法親王 妙法院の宮。後奈良天皇の第六子。俗名常嚴、母は勾當内侍。天文元年閏八月二十二日薨す。年六十七。

ケウハク 堯泊 高僧。堯孝に就いて歌を學ぶ。

ケウハフ 教法(百濟) 桓武天皇の女御。承和七年十月一日卒す。

ケウハン 教範 歌僧。仁和寺權僧正。從三位範春の子。續拾遺、新後撰、玉葉、續千載諸集の作家。

ケウヘイ 教平(太田) 歩兵少尉。宮崎縣人。日露戦役に従ひ、明治三十八年三月奉天に戦死す。

ゲウミン 堯民 **ケイコ(荒井晴湖)** 勤王家。豊前英彦山の修驗。本覺坊英山と稱す。一山の擧に加りて捕へられ、元治元年歿する。年四十七。明治三十五年贈正五位。

ゲウミン 堯仁 歌僧。新續古今集の作家。

ゲウミン 堯忍(龍院王) 東叡山の執當。幕府祺下三河法橋有尊の長子。南都一條院の僧人となり、安藝法印といふ。建長三年正月五日與正 等蘊の命を以て稱尊を改く。

ゲウミン 堯珉(宇津宮) 勤王家。豊前英彦山の修驗。本覺坊英山と稱す。一山の擧に加りて捕へられ、元治元年歿する。年四十七。明治三十五年贈正五位。

ゲウミン 堯孝に學ぶ。

ゲウヨ 堯譽 歌僧。堯孝に學ぶ。

ケウレウ 教了 甲斐長延寺の僧。頴子の子。慶長十八年大久保長安の事に坐して父と共に伊豆に流る。「古今集傳授を受く。

ゲウエ 堯慧 僧。堯孝法印の門に入りて歌を學び、山法皇に師事し、長暦二年大僧都となり、翌年天台座主に任ぜられ、永承二年六月十日寂す。年七十。後拾遺集の作家。

ケガレマロ 穢麿(部) **キヨマロ(和氣清麿)**

ゲキ 外記(三島) 細川頼之の家臣。主に殉死す。

ゲキ 外記(津田) 石州流の茶人。宇宙庵幸孫に學びて其の法を能くす。

ゲキ 外記(柴田) 仙臺の家老。伊馬守宗朝の養子。實は佐竹規榮の子。名は朝意、初め申務、また内藏介と稱す。原田甲斐の怨を受け、寛文十一年三月二十七日法庭に傷けられて死す。年六十三。

ゲキ 外記(内田) 江戸の醫。名は士鋼、字は世卿、南山と號す。寛政十二年六月歿す。

ゲキ 外記(夏目) 奥平美作守の臣。寛文中、姉の夫奥平内藏之助の謀、奥平隼人を牛込に討つ。實、藏を聚る罪を以て大島に流す。後赦に遇ひて還り、井伊氏に仕ふ。

ゲキ 外記(薩摩) 淨瑠璃家。二代目座頭次郎左衛門の弟子。一に虎屋永岡の弟子といふ。長門太夫の甥。初め小大夫と稱し、後外記と改め、遂に外記節を創め、江戸堺町に操座を興行す。

ゲキ 外記(松平) 徳川幕府の寄院番士。初め内記といふ。名は思寛、幼名歴太郎。弓馬の術に熟し、且つ性剛直、常に將軍の實を察るを以て、同僚に忌まれ、文政六年四月駒場野の鷹狩に導めらる。外記之を含み、二十二日殿中にて同僚四人を斬りて自殺す。年三十三。

ゲキ 外記(大和田) 水戸正義派の儒員。武田耕雲斎に従ひて越前に入り、屢諫元年二月七日死に臨せらる。

ゲキ 外記 **マサツグ**(井上正巍) **トモキヨ**(小山田與清) **キヨクス井**(菅沼曲翠) 〔望〕

ゲキリヨシユジン 逆旅主人 **マサモチ**(石川雅望) 狂歌師。

ケサ 袈裟 貞徳源渡の裳。小字は阿部勝。母は衣川氏。通稱嘉右衛門。字は伯望。呉春、尤伯、又存白と號す。京師の人。初め大西酔月を師とし、後與謝蕪村に學ぶ。文化八年七月十七日歿。

ケサウヰンノダイソウジヤウ 華藏院大僧正 **クワンゲウ** 寛曉

ケザウヰンノミヤ 華藏院宮 **シヤウエホフシンワウ** 聖惠法親王

ケサタラウ 解佐太郎(大林) 歩兵少尉。愛知縣人。日露役に従ひて戰死す。

「慶」

ゲダツシヤウニン 解脱上人 **ギヤウキヤウ** 貞光 **リヤウエン** 良圓 **クワウエイ** 光映

ゲツアン 月菴 **アンブウ** 鞍風 **ソウクワウ** 宗

ゲツイウ 月友 畫僧。雪舟の風を學ぶ。

ゲツイウ 月悠 羽後最上の儒人。石山氏。知足齋と號す。弘化頃。

ゲツイン 月因 **シヤウショ** 性初

ゲツカイ 月海 **バイサヲウ** 賣茶翁

ゲツカウ 月江 **オウワン** 應雲 **シヤウブン** 正

ゲツカン 月鑑 **キヨトン** 虛亭

ゲツキヨ 月居 儒人。江森氏。竹巢と號す。義村の門。文政七年九月十七日歿。道の便の著あり。

「文」

ゲツクツ 月窟 **セウヤウ**(龜井昭陽)

ケツグワイ 傑外 **ウンエイ** 雲英

ゲツクワウテイ 月光亭 **ボクセン**(牧墨僊)

ゲツクワウヰン 月光院 **キヨノカタ** 喜與之方

ゲツクワモンヰン 月華門院 **ソウシナイシンワウ** 綜子内親王

ゲツケイ 月溪 佐渡相川の儒人。通稱武右衛門。

ゲツケイ 月溪(松村) **シヤウチヨウ** 聖澄 畫家。四條風の開祖。名は春。通稱嘉右衛門。字は伯望。呉春、尤伯、又存白と號す。京師の人。初め大西酔月を師とし、後與謝蕪村に學ぶ。文化八年七月十七日歿。

ゲツケイ 月桂(中山) 越後の儒人。通稱源吾。弘化「年間の人。

ゲツケイ 月桂 **リフジヨウ** 立乘

ゲツケイ 月華(佐藤) 越後の歌人。通稱茂左衛門。弘化年間。

ゲツケン 月軒 **テンイ**(高天漪) 畫と儒と學ぶ。應擧と親交あり。文化八年七月十七日歿。年七十。

ゲツゲイ 月桂(中山) 越後の儒人。通稱源吾。弘化「年間の人。

ゲツケイ 月桂 **リフジヨウ** 立乘

ゲツクワ 月華(佐藤) 越後の歌人。通稱茂左衛門。弘化年間。

ゲツケン 月軒 **テンイ**(高天漪) 畫と儒と學ぶ。應擧と親交あり。文化八年七月十七日歿。年七十。

ゲツコ 月湖 長崎の畫家。熊代熊斐の門。

ゲツコ 月湖 醫僧。明暨寺、又潤德寺と稱す。明に入りて錢塘に寓し、醫を以て行はる。著す所、盆九集、濟除方あり。

ゲツサ 月裟 儒人。奇瀾の門。

ゲツサイ 月齋 儒人。大内氏。反古庵。岐什の門。

ゲツサイ 月齋 **ハマオミ**(清水濱臣) 儒人。山村氏。初め盤古と號す。

ゲツサウ 月巢 儒人。山村氏。たばこ盆、影と我の著あり。

ケツザン 傑山 **ダウイツ** 道逸 畫家。名は利興、通稱嘉太の門。更科紀行、たばこ盆、影と我の著あり。

ケツザン 月山(松尾) 彫金家。名は利興、通稱嘉六、號は東窓亭。明治八年京都に歿す。

ゲツサン 月山(菱川) 安房の儒者。宗勛と稱す、字は士崇、名は在。佐倉藩に仕へ、文化十三年歿す。博覽一旨、小家珍說の著あり。

ゲツシ 月枝 儒人。省氏。橋稱國。四世佛外の門。

ゲツシ 月枝 **ダイテウ** 大潮 儒人。省氏。橋稱國。四世佛外の門。

ゲツシウ 月舟 伊勢洞津天然寺の住僧。越前藤井の人。眞遠紅等の著と號し、初め洞津平野頭頸寺に住す。享保二十年正月六日寂す。年五十一。

ゲツシウ 月舟 但馬美含郡内通寺の住僧。書畫を能くす。

「ソウリン」 宗林

ゲツシウ 月舟 **ソウコ** 宗胡 **ジユケイ** 壽桂

ゲツシウ 月洲(巖垣) 京師の儒者。名は曉、字は六藏。もと岡田氏。明治六年九月四日歿す。年六十六。

ゲツシヤウ 月性 勤王僧。字は智圓。清狂と號す。周防の人。同國妙圓寺に住す。頻に海防の事を思ひ、長藩の益田、福原、浦の三士に愛せらる。人呼んで海防僧といふ。安政五年五月十一日寂す。年四十二。

ゲツシユ 月守 儒人。神田氏。通稱遊齋右衛門。雪音盧と號す。憲太の門。

ゲツシユン 月春 **ユウカン** 融鑑

ゲツシヨ 月渚 **ニツクワ**(田中日華)

ゲツシン 月岑(齋藤) 國學者。名は孝成、通稱市左衛門。松濤軒、靈巢、白雲堂等の別號あり。祖父長秋及び父宗孝の遺志を繼いで、江戸名所圖會を完成し、又、東都歲時記、餘間類篇等の著あり。明治十一年三月六日歿す。年七十五。

ケツシンシ 欠伸子 **ソウグワン** 宗玩

ゲツセイ 月婿 **ボクサイ** 墨齋

ゲツセイ 月生 儒人。木村氏。通稱七平。執中庵と號す。五世宗瑞の門。

ゲツセウ 月照 勤王僧。洛東清水寺成就院の住職。名は忍向。初名宗久。久丸と稱す。近衛忠熙に歎いて歌を學ぶ。後職を弟信海に讓り、西郷隆盛と兄弟の交を結び、幕吏に追跡せられて、九州に奔り、安政五年十一月十一日薩摩灘に沈みて死す。年四十六。

ゲツセウ 月曉 **コハク** 虎白

ゲツセウ 月樵(張) 尾張名古屋の畫家。彦根の人。名は行貞、字は元啓。人物花鳥に長ず。天保三年六月歿す。

ゲツセン 月笙 禪僧。字は崇恬。別號遲思讓弟知。日叙す。年五十九。正信偶錄を著す。

ゲツセン 月僊 畫僧。初め應擧の門に入り、後、雪舟の筆意を倣ふ。名は元璟、字は群巒。伊勢山田叙照寺に住す。文化六年正月十二日歿す。年八十九。

ゲツセン 月船 **シヤバク** 遮莫

ゲツセン 月泉 **シヤウイン** 性印 **リヤウイン**

ゲツソウ 月叟 儒人。寶井氏。晉齋、むかし坊と號す。四世一漁の門。

ゲツソウ 月窓(谷口) 畫家。名は世遠、字は孟泉、痴絕庵と號す。月僊の門。慶應元年四月歿す。

ゲツソウ 月窓 **メイタン** 明潭

ゲツソン 月村 儒人。大和郡山城主。紫十庵と稱す。

ゲツソンサイ 月村齋 **ソウセキ** 宗碩

ゲツタイ 月黛(八見) 儒人。通稱耕朔、櫻寓居と號し、安政年間江戸に住す。

ケツダウ 傑堂 **ノウシヨウ** 能勝

ゲツダウ 月堂(榊原) 名は照成、字は子成、越中守と稱す。世々駿河久能山の祭祀を司る。書畫を嗜む。安政五年九月二十九日卒す。年六十一。儒林鑒賞の著あり。

ゲツダウ 月堂 **ソウキ** 宗規

ゲツタン 月潭 禪僧。肥後國の人。寛政六年生る。法を肥後雲巖院大方に嗣ぎ、相模國海蔵寺に居る。世に海蔵月潭と稱す。

ゲツタン 月潭(松井) 畫家。名は有政、字は子鳳、通稱靜兵衛。文化年間の人。

ゲツタン 月潭 儒人。清水氏。友松軒。西武の門。

ゲツチ 月池 **ホシウ**(桂川甫周) **コクキヨウ**(桂川國興) **デンセウ** 傳笑

ゲツテイ 月庭 儒人、通稱三輪直九郎。墓光庵と號す。尾張藩士。

ゲツテイ 月庭 **シウラウ** 周朗

ケツデン 傑傳 **ゼンチヤウ** 禪長

ゲツデン 月殿 **シヤウケイ** 昌桂

ゲツデン 月田 **ソウシユ** 宗種

ゲツボ 月浦 畫僧。觀音の像を善くす。祥啓に似て風致之に過ぐ。

ゲツボウ 月峰 儒人。長喜庵。文雅の門。

ゲツボウ 月峰 畫僧。名は辰亮、別號霜潤。京都東山雙林寺長喜庵に住す。池大雅に學び、世に其の二代目を以て見せらる。天保十年十一月九日寂す。年八十。双佩詩を善す。

ゲツボウ 月逢 **エンケン** 圓見

ゲツボウ 月峰 **レウネン** 了然 **ギリヤウ** 義

ゲツヨウ 月翁 **ハルアキ**(河野春明) 儒人、通稱津江林藏、四谷庵と號す。明治九年歿す。

ケヌ 毛野(小野) 毛人の子。妹子の孫。持統文武の兩朝に仕へ、遣新羅使、太宰大貳、中納言等を經て和銅七年薨ず。

ケヌ 毛野(近江) 襲醫天皇の二十一年敎を奉じて任那を征す。筑紫國造磐井、海路を扼す。因りて兵を交へて誅ふ。二十三年安羅官府に赴き、召遣の途に病死す。

ケヌ 毛野(田中) 國學者。高崎藩士。又太郎と稱す。高崎藩神名帳、同別帳、上野志の著あり。

ケハヤ 蹴速 **クエハヤ**(當麻蹴速) **ゲバシヤウグン** 下馬將軍 **タダキヨ**(酒井忠清)

ゲフカイ 業海 **ホンジヤウ** 本淨

ゲフゲン 業言 尾張の儒人。芭蕉の門。

ゲフゲン 敎修(津田) 歩兵中佐。龍岡縣出身。日露戰役に従ひ、太子河附近にて負傷し、明治四十年三月歿す。

ケフヘイ 脇平(小野寺) 歩兵中尉。岩手縣出身。日露戰役に従軍し、明治三十八年一月二十八日盛京省蘇屯堡に戰死す。

ケフヘイ 俠平(福田) 山口藩の志士。名は公明、悠々と號す。戊辰の役、東征に従ひ、鎭定の後歿す。年四十。明治三十一年贈正四位。

ケフマウサイ 頬毛齋 **ミツノブ**(鴛川充信) 萬葉年間の女。

ゲミヤウブ 外命婦(安曇) 萬葉集の作家。天平

ケラノクワンジヤ 氣良冠者 **マレヨシ**(源希義)

ケン 獻 **ゴンベイ**(松本文平) 歩兵大尉。群馬縣出身。日露戰役に従軍し、明治三十七年八月二十三日旅順東鷄冠山に戰死す。

ケン 賢(柳川) 歩兵中尉。鹿兒島縣人。明治二十七年日清戰役に従ひ、九月十五日平壤總攻撃に戰死す。年三十一。

ケン 建(保母) 島原藩の勤王家。名は景光、通稱纖之進、後建と改む。平田鐵胤の門。十津川の擧に加り、元治元年斬らる。年二十三。贈従五位。

ケン 建(竹下) 歩兵中尉。福井縣人。日露役に従軍中、明治三十七年八月二十四日戰死す。

ケン 建(今井) 歩兵中尉。鹿兒島縣人。明治二十七年日清戰役に従ひ、九月十五日平壤總攻撃に戰死す。年三十一。

ケン　謙（鎌田） 儒者。京都の人。字は由益。菅原支同の長子。元禄八年歿す。年七十五。

ケン　謙（古川） 數學者。字は君歸、新之丞と稱し、芳春と號す。父氏清に學ぶ。天保八年六月二十一日歿。年五十五。

ケン　謙（大館） 志士。上野の人。舊稱謙三郎、號城と號す。古賀侗庵の門。慶應三年宗家新田俊純を推して勤王の兵を擧げんと欲し、捕へらる。明治八年歿す。年五十二。

ケン　謙（市村） 漢學者。水香、又强堂と號し、明治三十二年京都に歿す。年五十七。

ケン　謙（宇野） 步兵少尉。石川縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月三日盛京省沙岑堡附近に戰死す。

ケン　謙（北澤） 步兵少尉。長野縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、十二月一日旅順二百三高地に戰死す。

ケン　謙セイケン（井上靜軒） クワンザン（小笠原冠山）

ケン　憲（秋時） 江戸の儒者。字は習之、通稱辰之進、小丘園と號す。天明三年七月十八日歿す。

ケン　憲シュントウ（林春東）

ケン　視（渡邊） 舊堺縣出身。西南の役、警部補を以て從軍し、明治十年五月三日負傷して死す。

ゲン　弦（三谷） 步兵少尉。千葉縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月三十日遼陽に戰死す。

ゲン　元（鮫島） 日向の人。西南の役、西鄉隆盛に與し、官兵に捕へられて斬らる。

ゲン　元（小野寺） 步兵大尉。宮城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十一月二十八日旅順二〇三高地に戰死す。

ゲン　原（廣瀨） 陸軍三等軍醫。岐阜縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月死す。

ケン　暦（岡本） 陸軍三等主計。鳥取縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年九月十二日病死す。

ゲン　源（高原） 實歷年間、遺蹟錄事となる。

**ゲン　源（伊勢山田檜垣前司の女。國學を好み、天明七年本居宣長の門に入る。

ゲン　支ギョクセン（望月玉蟾）

ケンア　卷阿（二世） 僧人。如雪庵、浮雲菴。楠居の門。（二世）萬年氏。如雪庵。一世の門。

ケンア　兼阿 長享年間の美濃の刀匠。或は曰く、兼師の子、康正年間の人と。

ケンア　見阿 平文師。正和四年勅を奉じて近江日吉神社の遷宮に從事す。

ゲンア　支阿 俳人。多賀庵。六合の門。

ゲンアイ　彦愛ギハン（岡田宜汎）

ゲンアイ　幻庵（北條） 箱根權現の別當。名は長綱。早雲の第三子。

ゲンアン　支庵 利休と同時の茶人。

ゲンイ　健易 高僧。東福寺に住し、東漸と號す。應永二十年寂す。

ケンイ　顯意 高僧。竹林寺の住持。幼名澄瑩、字は道敎。平氏。薩摩の人。上洛して竹山の僧上人に依りて孕業を學ぶ。嘉元二年五月十九日寂す。年六十七。楷定記、淨土宗要、竹林鈔等の著あり。又和歌を善くす。新後撰集の作家。

ケンイ　支醫　タンス井（名護屋浜水）

ゲンイ　源意 法眼。新撰古今集の作家。

ゲンイ　源意 歌僧。法印。法眼源守の子。新千載、新拾遺、新後拾遺集の作家。

ゲンイ　支以（前田） 名は宗尙。初め叡山の僧たり。信長に仕へ、後秀吉に從ひ、五奉行の一人となる。慶長七年卒す。

ケンイウ　兼有 僧。皇太后宮大進日野有範の次子。見眞大師の兄。善法院律師、又侍從阿闍梨と稱し、その第行兼と共に天台三井の流を汲む。

ゲンイウ　幻遊 元祿の俳人。薰風。

ゲンイウ　支宥 高僧。京都眞言宗智積院の住持。其の中興の第一祖。字は寬性、下野飯上城主藤付氏の子。南都三非叡山に學ぶ。將軍家康の殊遇を受く。慶長十年十月四日寂す。年七十七。

ゲンイウイン　殿有院　イヘツナ（德川家綱）

ゲンイク　兼郁（猪苗代） 連歌師。伊達侯より俸祿を得、京師に住す。法橋に任ぜらる。享保十年正月二十七日歿す。

ゲンイク　元育　アンセイ（劉安生）

ケンイチ　研一（矢野） 海軍機關少監。愛媛縣出身。明治三十七年五月三日第三回旅順閉塞に從ひ、戰死す。

ケンイチ　健一（野澤） 陸軍二等軍醫。長野縣出身。日露の役に從ひて負傷し、明治三十八年六月死す。

ケンイチ　顯一（廣瀨） 海軍少佐。佐賀縣人。日清日露の役に從ひ、明治三十七年五月乘艦吉野沈沒の際に死す。

ケンイチ　憲二（井手） 步兵少尉。佐賀縣出身。日露役に從ひ、明治三十七年十一月六日負傷して死す。

ケンイチラウ　賢一郎（今井） 步兵少尉。岐阜縣人。明治三十七年日露の役、旅順攻圍軍に從ひ、十一月二十六日營盤山に戰死す。

ゲンイチラウ　源一郎（伊舟城） 勤王の志士。名は敎美、通稱宗一郎。嵯峨落人。草薙の說を唱へ。

千種家の臣春川肇及び舊臣家里新太郎を殺害し、元治元年十二月二十六日自刃を命ぜらる。年三十五。贈正五位。

ゲンイチラウ　源一郎（福地） 舊幕臣。櫟翁、又夢の舍主人の號あり。幕府の譯官となりて歐米を巡遊し、學舍を創めて英佛語を敎授す。次いで東京日々新聞の主筆となり、又立憲帝政黨を組織す。曉年文藝に親み、歌舞伎座を起して其の座主となる。幕府衰亡論、幽本春日局等の著あり。明治三十五年十月歿す。

ゲンイチラウ　源一郎（南合） 海軍少尉。東京府出身。日清の役に從軍し、明治二十八年七月戰歿す。

ケンイン　兼印 美濃關の刀匠。文安年間の人。一に兼卿に作る。

ケンイン　建尹（伴） 弘前藩の儒。通稱才助。字は元尹。經濟に長じ、經濟字書と稱せらる。施設宜しきを得、藩に九年の儲あるに至る。雛肋集の作あり。寬政前後の人。

ゲンイン　ホフシンワウ　彦胤法親王 後柏原天皇の第五子。母は贈從二位源行子。俗名覺恒。梶井に入りて僧となる。

ゲンウフ　源右府　ヨリトモ（源賴朝）

ケンエイ　兼英 畫人。文殊半身像を畫く。

ゲンエイ　支睿 高僧。初め安澄に禮びて大安寺に在り、唯識論に通達す。西大寺の住職に補せられ、天長四年九月禁中の速仙佛供養に、空淵等と共に講主たり。又睦峨天皇の勅を奉じて、三論大義緣を撰す。

ゲンエイ　源英　ヨリシゲ（松平賴重）

ゲンエイ　元英（狩野） 鍛井藩の繪師。元照の姜腹の子。貞享三年三月六日歿す。

ゲンエイ　支英　ナガチカ（金森長近）

ゲンエウニ　支瑤尼　ミツコナイシンワウ　光子内親王

ケンエキ　謙益　フルミチ（小野古道）

ゲンエツ　支悅（橫川） 算術家。吉田光由の門人。

ゲンエツ　支悅（井關） 醫。名は常甫。元祿十二年京都に歿す。年八十二。

ゲンエツ　元悅（櫻井） 京都の醫。名は光章、鶴洲と號す。年六十六。

ゲンエツ　賢悅　シゲン（賀川子支）

ゲンエツ　源緣 歌僧。後拾遺集及び金葉集の作家。

ゲンエン　源延 畫僧。相模走水の人。澄憲に從學し、同國松田郡に西明寺を創す。

ケンオウ　賢應 元興寺の高僧。大和國の人。法相を研鑽し、因明を極め、當時宗匠の才と稱せらる。貞觀十一年三月六日短命にして寂す。

ケンガ　嚴家 高僧。藤原家綱の子。東寺に居り、大僧正に任ぜられ、又醍醐寺の座主たり。多病のため隨心院に退居し、延喜元年十一月三日寂す。

ゲンカ　元可　キンヨシ（藥師寺公義）

ゲンカ　支賀 京都の俳人。小谷氏。通稱甚太郎。名は文惠。立醉子と號す。貞德の門。四季の友、道ゝれの著あり。

ゲンカ　元賀 畫人。墨畫を能くす。

ケンカイ　憲海　キイチ（吉岡鬼一）

ケンカイ　兼海 高僧。字は淨法。密嚴尊者の德を慕ひて、入しく師事し、其の弘法を翼贊す。後推されて、其の第二世となりしが、終る所を知らず。

ゲンカイ　支海 高僧。奧隱小松寺の住持。法華及び大佛頂呪を持し、預め死期を知りて寂す。

ゲンカイ　元海 僧。源雅俊の子。大僧都。醍醐寺座主。保元元年八月十八日寂す。年六十四。

ゲンカイ　元海　マサタカ（堀田正高）

ゲンカイ　元愷（青木） 彦根藩の儒者。名は殷、通稱善之丞。南黨と號す。龜井元風及び古賀侗庵に學び、又兵學に通ず。文政十年七月歿す。年三十三。

ゲンカイ　元愷　ヒヤクサイ（渡邊百濟）　ジヤウザン（小栗常山）

ゲンガイ　元凱（荻野） 朝廷の醫。字は子原。左仲と稱し、臺州と號す。金澤の人。古方を唱へ、曲方の刺絡を能くす。尚藥に補し、河內守と稱す。文化三年四月二十日歿。年七十。

**ケンカウ　兼好　卜部兼顯の三男。吉田に居る。文才あり、又和歌に秀づ。後宇多帝に仕へて左兵衛尉たりしが、帝の崩御を聞きて剃髮す。正平五年二月十五日寂す。年六十九。著、徒然草あり。續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

ケンカウ　賢幸（麻生） 步兵中尉。愛媛縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年五月二十六日南山に負傷し、二十九日歿す。

ゲンカウ　元綱 俳人。岡部氏。通稱十左衛門。岸和田の人。蕉文孫。

ゲンカウ　元孝（多紀） 醫者。蘭溪の父。濟春館を建てて敎授す。

ゲンカウ　支康 僧。時衆法印の子。幼名多賀鶴。大納言資康の猶子。大納言法印といひ、檀大僧都澄定閣と號す。應永元年錦織寺の宗務を嗣ぎ、永享十二年十月十四日寂す。年六十九。

ケンカウ　賢康 伏見の俳人。粟田氏。貞德の門。

ゲンカウ　支康 高僧。奧隱小松寺の住持。法華及び大佛頂呪を持し、預め死期を知りて寂す。

ゲンカウ　支浩（岩永） 江戸の人。享保二十年名物紀錄を著す。

ゲンカウ　元杲　高僧。京都の人。雅樂頭藤原農省の子。醍醐寺元方に就きて得度し、南都に學び、詔によりて内供奉となり、東宮に侍す。東寺長者、大僧都に進む。永延二年延命院を創立して退居し、長徳元年二月十七日寂す。年八十五。

ゲンカウ　元高(劉)　廣島の儒。文政中、塾に住す。

ゲンカウ　元衡　ゲンカウ(井上南皐)

ゲンカウ　元皓　ダイテウ　大潮

ケンカク　兼覺　法眼。源季兼の子。千載集の作家。

ケンカク　顯覺　歌僧。俗名官少納言入道。新千載集の作家。

ケンガク　劍嶽(山田)　越後長岡藩の儒者。名は政術、通稱愛之助。弘化年間の人。

ゲンカク　源覺　大僧正。金葉集の作家。

ゲンカク　玄覺　僧。藤原師實の子。大僧正。無縁寺、山階寺の兩別當たり。

ゲンカク　玄覺　歌僧。律師。續拾遺、新後撰、新續古今諸集の作家。

ゲンカク　玄格(大野)　富山藩の儒醫。名は蘆晉、竹端と號す。則號庚金、又保精庵。享年六十。

ケンカク　覗嶽(小宮山)　儒者。休庵の二男。名は昌通、さた通稱、字は羽儀、通稱忠兵衛。林檉宇に學び、父の後を繼ぎて二本松侯に仕ふ。後、江戸に出て東江散人、又未醒翁と號す。享保十五年七月十二日歿す。年六十七。

ゲンガク　玄岳　カウザウ(藻寄行藏)

ゲンカク　嚴覺　僧。參議源基平の子。大僧都に任ぜられ、劉修寺、安祥寺の兩務を兼帶す。

ゲンカクサイ　元覺齋　トミマサ(本多富正)

ケンカダウ　兼葭堂　ソンサイ(木村巽齋)　大阪の戲作者。名は明啓、通稱彌四郎。狂名、鹿の舍眞秋、又聽の鐘成。来會志留坊一輝。鶴鳴會、聽晴會、漫戲堂と號す。

醫油醸造家和泉屋太兵衛の子。丹波福知山に遊び、人民の爲に訴狀を草し、萬延元年十二月十九日獄中に死す。年六十八。著す所、雜津名所圖會、兼葭堂雜錄、猪著聞集、滑稽漫遊等。

ゲンカダウ　源合　古刀の鍛工。薩摩の人。

ゲンガン　兼巖　ゲンセイ(向井元成)

ゲンガン　玄鑑(曲直瀬)　醫者。玄朔の子。字は墨淵。初め親縄と稱す。後、父祖の稱、道三を襲ふ。父に學び、當時の醫宗たり。將軍秀忠の眷遇を受け、典藥助に任ぜられ、兵部大輔と稱す。勅により今大路家と號し、剃髪して玄鑑といふ。寛永三年歿す。

ゲンカン　元頴(有馬)　京都の醫。後、紀伊藩に仕ふ。僑寓論神辨の著あり。

ゲンカン　元簡(丹波)　徳川氏の醫官。寛政文政間の人。

ゲンキ　賢貴　百濟の藝工。雄略天皇の七年召されて、韓樣の鏡を作る。

ケンキ　兼鬼　古刀の鍛工。

ケンキ　憲基　歌僧。比叡山法印。慈賢の子。新後撰、玉葉、續千載諸集の作家。

ケンギ　見宜　ケイアン(猪苗代)　連歌師。享和三年六月京都に歿す。年八十四。

ゲンキ　源琦　キ(駒井琦)　畫家。通稱長兵衛。

ゲンキ　元規　畫家。通稱博吉。肥前長崎に住す。安永中歿す。沈南蘋の傳眞を得て、花鳥を善くす。

ケンキ　玄基(齋藤)　元弘の亂、六波羅に幕して戰死す。

ゲンキ　元基　キウハウ(相馬九方)

ゲンキ　元淇　畫家。通稱博吉。肥前長崎に住す。安永中歿す。沈南蘋の傳眞を得て、花鳥を善くす。

ケンキ　健吉(片岡)　政友會總務委員。奮高知藩士。明治六年海軍中佐に任ぜらる。二十三年代議士となり、爾來、每回當選し、第十二議會以來、議長に擧げらる。三十六年十月三十一日歿す。

ケンキチ　健吉(和田)　歩兵少尉。香川縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十二月傷つきて死す。

ケンキチ　鍵吉(神原)　劍客。幕臣。勇谷修友に直心影流の劍法を學び、講武所師範役たり。明治三年下谷車坂にて餓歿す。年六十五。

戰役に從ひ、明治三十八年三月奉天に戰死す。

ゲンキ　玄規(程田)　江戸の醫。駿河沼津の人。文政頃。

ゲンキ　玄駿(松平)　俳人。越前國井藩の家老。名は正敏。莊兵衛、主馬、後、兵庫と改む。東花坊に學び、故人庵と號す。明和三年八月十六日歿す。年六十四。著書、黒鵜集あり。

ケンキウ　見休(松木)　茶人。織田目前に學ぶ。

ケンギウ　見牛　ジカン(今井似閑)

ゲンキウ　玄球　高僧。丹波の人。字は天琛。弘誓寺、鈎鬼禪師に依りて得度し、京の雙日山に入りて大藏を司り、曇徴崇禪寺及び播磨須禪寺を開き、永和三年六月二十六日寂す。年六十八。

ゲンキウ　元休　ミツザネ(出日満眞)

ケンギダウ　顯義堂　ハルサト(村田春郷)

ケンキチ　賢吉(鈴木)　砲兵少佐。靜岡縣人。日露戰爭の際、明治三十八年三月負傷して歿す。

ケンキチ　憲吉(平田)　歩兵大尉。廣島縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年九月遼陽に戰死す。

ケンキチ　建吉(牧山)　一等軍醫正。石川縣人。獨逸に留學す。明治四十二年六月三十日卒す。年五十七。

ケンキチ　健吉(片岡)　政友會總務委員。奮高知藩士。明治六年海軍中佐に任ぜらる。二十三年代議士となり、爾來、每回當選し、第十二議會以來、議長に擧げらる。三十六年十月三十一日歿す。

ケンキチ　健吉(和田)　歩兵少尉。香川縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十二月傷つきて死す。

ケンキチ　鍵吉(神原)　劍客。幕臣。勇谷修友に直心影流の劍法を學び、講武所師範役たり。明治三年下谷車坂にて餓歿す。年六十五。

ケンキチ　鍵吉(松山)　歩兵少尉。愛知縣出身。明治三十五年十一月臺灣匪徒討伐に戰死す。

ケンキチ　謙吉(小松)　岡藩の儒。名は恕、千年と號す。安政六年十二月歿す。

ケンキチ　謙吉(豊島)　歩兵少尉。福島縣出身。日露戰役に從ひ。明治三十七年十一月旅順二百三高地に戰死す。

ケンキチ　謙吉(徳永)　砲兵中尉。佐賀縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月五家房に戰死す。

ケンキチ　謙吉(中島)　歩兵少尉。東京府出身。日露の役に從ひ、明治三十七年六月常陸丸に乘組み、玄海灘航行中、敵の襲撃を受けて戰死す。

ケンキチ　謙吉(小原澤)　歩兵大尉。東京府出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月六日劉家窩棚に戰死す。

ケンキチ　謙吉(殖田)　海軍少佐。東京府出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月戰死す。

ケンキチ　謙吉　ソウケン(笠松宗謙)

ゲンキチ　源吉(山口)　歩兵少尉。新潟縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月十四日歸家屯に「貞室の門。元祿頃。

ケンキツ　兼吉　伊勢の俳人。廣瀬氏。通稱喜三郎。

ゲンキモン井ン　玄鄰門院　ヨシコ(藤原宗子)

ゲンキヤウ　彦卿　セイザン(狄生青山)

ゲンキヤウ　元鏡　サネヒロ(洞院實熙)

ゲンキヤウ　元慶　大山寺の別當。藤原茂規の子。後拾遺集の作家。

ゲンキヤウ　玄享(中山)　醫者。字は永貞、或は學通、安永八年五月京都に歿す。年八十三。

ゲンキヤウ　源慶　歌僧。千載集の作家。

ケンキヤウ井ン　乾享院　シゲウヂ(足利成氏)

ゲンキヨ　玄魚(梅素)　通稱喜三郎。父の名を襲ぎて實名とす。畫書の操觚に巧なるを以て、經師職を止め、備書家となる。明治十三年歿す。

ケンキヨウ　謙恭(神田)　伊勢龜山の醫。通稱主計。國學を好み、享和年間本居春庭の門に入る。

ゲンキヨウ　元恭(廣瀬)　國方醫。名は鵬。字は禮卿、藤園又天目山人と號し、明治三年十月京都に歿す。年五十。

ケンキン　憲欽(佐藤)　舊出羽龜田藩の家老。字は千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

ゲンキン　玄欣　武藏龍穩寺の住僧。字は喜洲。天文五年寂す。

ケンクウ　兼空　歌僧。深草上人と稱す。風雅、新後拾遺集の作家。

ケンクウ　源空　淨土宗の祖。法然と號す。漆氏。美作國稻岡の人。時國の子。叡山及び黒谷に學び、後源信の往生要集を見て、大に喜び、遂に所習を棄てて專ら淨土專念の宗を唱へ、洛東吉水に移り、一旦讃州に流されしが、建暦元年赦されて歸り、二年正月二十五日寂す。年八十。玉葉、撰千載、續後拾遺、新千載、新後拾遺諸集の作家。

ゲンクウ　玄鵠(黒田)　物產家。文政三年石總論

ゲンクワアン　謙光庵　リヤウアミ(村田良阿)

ゲンクワウテイ　玄光亭　キンボク(金墨[一瓢])

ゲンクワウサイ　玄黄齋(森)　奇人。武藏小鹿野村の產。身幹長大にして常に道服を着す。歳八十餘、一日二十五里を步す。視力明敏。蚤及び蚋刺に巧なり。殊に其の彫刻微細を極め、肉眼にて視る能はず。明治十七年狹父の暴徒に蹂し、親貧を通撫す。十八年歿。年九十七。印施譜の著あり。「を著す。

ゲンクワク　玄鵠(黒田)　物產家。文政三年石總論

ゲンクワダウジン　幻華道人　ナンコク　南谷

ゲンクワイ　元瀧　姫路の俳人。元祿頃。蕉風。

ケンケイ　賢憬　興福寺の住僧。尾張の人。興福寺及び東大寺に學び、又地理學に精し。延曆十二年平安奠都の際、勅を奉じて遷都を定め、同年仲冬寂す。

ケンケイ　賢慶　畫人。法眼。「年八十九。

ケンゲイ　兼藝　歌僧。伊勢少掾古之の子。大和城上郡の人。古今集の作家。

ゲンケイ　源慶(左文字)　長門の鍛冶。貴阿の孫。

一に其の子に作る。岡崎正宗の弟子。文和五年歿す。年八十。
ゲンケイ　源慶　畫家。巨勢氏の支族。有宗の末弟。法眼に叙せらる。宅磨長賀と共に當麻寺新曼多羅の事に預かり、畫圖未だ成らずして卒す。其の子源尊、繼いで其の任に當る。建仁年中の人。
ゲンケイ　元啓　ゲツセウ(長月樵)　ナンシヤウ(伊藤南昌)
ゲンケイ　元經(糟谷)　陸軍大尉。舊金澤藩士。明治十年西南の役に從ひ、四月肥後滴水村に戰死す。
ゲンケイ　元敬(五十嵐)　畫師。浚明の第二子。
ゲンケイ　元圭　禪宗の高僧。字は方涯。駿河濟見寺に出世し、後鎌倉建長寺に遷る。應安年間の人。
ゲンケイ　元圭　ハクザン(中根白山)
ゲンケイ　玄溪(寺井)　淺野長矩の醫臣。大石良雄に從ひて復仇の事を參畫す。子玄達をして江戸に赴かしめ、以て同志の病を護せしむ。後年侯伯の招聘あるも皆應ぜず。正德元年歿す。
ケンケイ　彥敬　ゲンランサイ(增井玄覽齋)
ケンケイ　劍溪　セウチ　紹智
ゲンケウ　元喬　ナンクワク(服部南郭)
ゲンケン　幻憲　グザン(松本愚山)
ゲンケン　元堅(多紀)　幕府の奧醫。桂山の次子。字は赤柔、茝庭、又三松と號す。法印に進み、樂真院と號す。安政四年二月十四日歿す。
ゲンケン　源賢　僧。源滿仲の子。童名美女丸と稱す。延曆寺に學び、擧措狡惡なりしが、後僧源信に事へ、節を折りて法を學び、遂に得る所あり。多田法眼と號す。後拾遺集の作家。
ゲンゲン　原元　近江の俳人。伽房。原松の門。
ゲンゲン　玄々(田邊)　書家。名は憲、字は伯表。安政五年京都に歿す。年六十五。
ゲンゲンイチ　玄玄一　俳人。竹內氏。竹窓と號す。吾山の門。文化元年八月二十五日歿。年六十三。俳家奇人談の著あり。
ゲンゲンサイ　玄々齋　ゲンタイ(松井元泰)
ゲンゲンシ　玄々子　ジヨウエン　乘圓
ゲンゲンヲウ　玄々翁　ジヨウエン　乘圓
ケンコ　硯湖(佐藤)　越前福井の篆刻家。通稱賀吉、字は思誠、別號尙古齋、彫蟲居。宮內省文學御用掛たり。明治二十三年六月二十日歿す。年六十。
ケンコ　兼虎(秦)　儒者。長門の人。字は子熊、滋山と號す。
ケンコ　兼枯　美濃關の刀匠。弘治年間の人。
ケンゴ　賢悟　僧。藤原氏範の第三子。南都唐招提寺に入り、律部の高德たり。並關法金剛院に住し、明德二年十二月二十三日寂す。年八十四。
ケンゴ　研五(天野)　步兵少尉。廣島縣人。日露戰役に從ひ、明治三十九年十月五日病歿す。
ケンゴ　堅吾(上野)　舊熊本藩士。名は在方。維新の際、諸隊大允たり。明治九年敬神黨の亂、蜂起に參し、熊本鎭臺を襲ひて銃丸に中り、自殺す。
ゲンコ　玄虎　禪僧。字は大癡。武藏の人。伊勢淺香淨眼寺の第一世。永正二年七月二十三日寂。
ゲンコ　原古　禪僧。細川氏の族。名は瞽。三桑、又丹波三叟と號す。等持相國の兩寺に居り、相國寺の德濟軒を剏む。文明七年阿波國桂林寺に寂す。
ゲンコ　玄古　ノブタケ(馬場信武)
ゲンコ　幻呼　俳僧。鎌倉圓覺寺に住す。大顚和尙、千長老と稱す。貞享元年正月寂す。
ゲンゴ　弦吾(府川)　兵學家。姬路藩士。名は通猷、海岸備要校正の著あり。
ゲンゴ　源吾(甲賀)　掛川藩士。名は秀虎。矢田堀景藏の門に入りて航海術を學び、軍艦役となり、軍艦頭並に任ぜらる。慶應四年榎本武揚等と函館に脫走して官軍に抗す。南部宮古灣の戰に殪る。年二十八。
ゲンゴ　源吾(大高)　赤穗四十七士の一人。忠雄。俳諧を好くし、子葉と號す。元祿十五年死を賜はる時年三十二。
ゲンコウ　元弘(江馬)　蘭方醫。字は子道松齋と號す。もと溫井氏。大垣藩に仕ふ。文政三年歿す。
ゲンコウ　元厚(堀)　醫。名は貞恕、寶曆四年正月京都に歿す。年六十九。
ゲンコク　源谷(溝口)　書家。曉谷の子。名は成住、通稱庄司。嘯齋、嘯軒、自玄堂と號す。文化十一年九月十三日歿す。年三十三。
ゲンコク　玄國　タメスケ(藤原爲相)
ゲンゴザエモン　源五左衞門(鹿島)　兵學者。一に傳左衞門に作る。入道して久閑と號す。武田信玄之を召して軍事を談らしめ、親ら筆記す。
ゲンゴサエモン　源五左衞門　タカツナ(渡邊高綱)　テルヤス(市川輝康)　タカモロ(小山高師)
ゲンゴベヱ　源五兵衞(薩摩)　慶安中の町奴。幡隨院長兵衞の徒に入り、捕へられて死に處せらる。
ゲンゴラウ　元五郞(淺尾)　京師の俳優。享保中の人。
ゲンゴラウ　源五郞(高梨)　上杉謙信の臣。川中島の戰に死す。
ゲンゴラウ　源五郞(渡邊)　江戸弓町の名主。寶曆年間、賀茂眞淵の門に入る。
ゲンゴラウ　源五郞(松田)　實業家。石川島造船所監査役十八銀行頭取、衆議院議員たり。又長崎に

商業學校及び商業會議所を起す。明治三十八年歿す。年六十六。
ゲンゴエモン　源五右衞門(片倉)　赤穗四十七士の一。名は高房。享年三十七。
ケンゴン　顯嚴　僧。中原廣忠の子。東寺の長者。東大寺の別當たり。
ケンコンバウ　乾坤坊　リヤウサイ　良齋
ゲンサ　元佐(狩野)　畫人。或は元休に作る。松榮及び休白に學ぶ。
ゲンサ　元佐　モトスケ(櫻井基佐)
ゲンサ　原佐　禪僧。字は桂堂。美濃天德寺宗寄の法嗣。下總總寧寺に住す。
ゲンザ　源左(左文字)　筑前の刀匠。建武頃の人。
ケンサイ　謙齋(加藤)　平安城東の醫者。名は忠實、字は衞愚、別號鳥巢道人。三河の人。享保九年正月歿す。年五十六。著す所、醫者雀、病家示訓、鎌倉實記。
ケンサイ　謙齋(大藏)　儒者。名は讓、字は謙甫、始め龍河と號す。信濃飯田の人。櫻木誾齋及び柴野栗山の門。天保十五年七月歿す。年八十八。
ケンサイ　謙齋(吉田)　儒者。佐竹藩士。名は里美、字は千秋、通稱藤右衞門、一に麥鶴、又孤松館と號す。寬政七年十二月歿す。年五十二。
ケンサイ　謙齋(矢口)　幕臣。名は浩、武藏本莊の人。もと森田氏。監察に進む。安政中、竹田野州に從ひ、樺太に渡る。戊辰の亂、函館に據り、尋いで官軍に降る。後赦され、明治十一年頃歿す。
ケンサイ　謙齋(安田)　醫。大和の人。明治八年十一月歿す。年四十八。
ケンサイ　謙齋　ヤウセン(羽黑養潛)
サクゲン　策彥　キヨクザン(千手旭山)
ケンサイ　研齋(中西)　江戸の書家。通稱原吾、名は惟寅、字は子恭、小湲堂と號す。
ケンサイ　研齋(杉本)　書家。京師の人。董其昌に倣ひ、更に一家の風を成す。
ケンサイ　研齋(松元)　書家。名は正名、字は順叔。天保三年京都に歿す。年六十五。
ケンサイ　研齋(織田)　醫。書を能くす。通稱盛雅、和神樓と號し、安政年間江戸に住す。
ケンサイ　研齋(猿渡)　醫。武藏府中の人。伊東門下の高弟。會津外十六諸侯の抱醫となる。維新後、日本橋濱町に私立病院を設く。明治四十一年三月歿す。年八十五。
ケンサイ　兼載(猪苗代)　連歌師。宗祇に學び、其の讓を受けて花の下と稱し、又耕閑齋と號す。奧州猪苗代小田方村の人。
ケンサイ　健齋　イウセキ(山本友石)
ケンサイ　乾齋(中江)　三河の儒者。名は豊民。字は子來、準之助と稱し、後隆盛と改む。吉田藩に仕ふ。周易斷義、周易比例考の著あり。
ケンサイ　憲齋(中川)　書家。通稱文、名は文彰、字は聘卿、日本書堂と號す。慶應二年歿す。
ケンサイ　見西　トキアキラ(北條時章)
ケンサイ　兼齋(中垣)　小田原藩の儒臣。名は秀實、字は仲成。戊辰の役、藩兵官軍を箱根に防ぐ。謙齋之を聞き、江戸より走せ歸り、侯を諫めて王師を迎へしむ。後、少參事に任じ、明治九年歿す。
ゲンサイ　弦齋　オウテイ(小川鷗亭)　クワンサイ(若林寬齋)
ゲンサイ　玄哉(辻)　和泉堺の茶人。武野紹鷗の門。
ゲンサイ　玄宰(田中)　會津藩の老職。初名玄堅、通稱小三郞、加兵衞、また三郞兵衞と改む。三世に歷仕し、關藩の士弟を奬勵して向學の志を起さしむ。寬政頃の人。
ゲンサイ　玄齋(桂)　相阿彌流の盆景家。桂齋賢の門。又裏千家の茶を能くし、隨時庵と稱す。明治十二年歿す。
ゲンサイ　玄齋(溝口)　茶人。宗佐に學ぶ。京師の人。
ゲンサイ　玄齋　チユウリヤウ(松岡仲良)　ソウシツ(三世宗室)
ケンザウ　顯三(河野)　志士。名は通寬、字は士威、初め越智通弘と稱す。外國奉行堀利熙の食客たり。利熙、安藤老中を諫めて死せし後、顯三同志と謀り、名を三島三郞と變じ、文久二年正月十五日老中を阪下門外に要擊して其の背を斫る。守衞來り救ひて顯三を刺す。年二十五。
ケンザウ　賢藏　僧。名は利淳。越前三國町眞宗大谷派淨願寺の住職。利峯の子。文政七年七月二十七日寂す。年六十二。
ケンザウ　賢造(磯島)　步兵少尉。富山縣人。日露戰役に從ひ、明治三十九年三月十一日病歿す。
ケンザウ　研三(一川)　岐阜縣士族。明治三年大藏省に出仕し、十七年一等技師に進み、二十一年八月五日歿す。
ケンザウ　憲三(山上)　砲兵少尉。大阪府出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年十月十六日病死す。
ケンザウ　健三(尾崎)　勤王家。名は孝基。鳥取藩士。治宗の長子。同藩景山龍造に學ぶ。遂に國を去り、姓名を變じて磯前豊、又磯來と稱し、四方に奔走す。文久三年大和の義擧に加りて捕へられ、元治元年二月十六日斬らる。年二十四。
ケンザウ　健三(高橋)　新聞記者。江戸の人。石齋の子。歐洲に遊び、歸朝後、官報局長となりしが、後、

大阪朝日新聞の主筆となり、明治三十二年七月二十一日歿す。

ケンザウ　健三(川口)　陸軍二等主計。兵庫縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、十一月八日盛京省全家圍子に負傷して歿す。

ケンザウ　健藏(伊藤)　水戸正義派の黨與。慶應元年二月四日越前にて死に處せらる。

ケンザウ　健藏　クワンサイ(松井渙齋)

ケイケン(井上靜軒)

ケンザウ　謙三(淵上)　勤王家。名は納利。始め三太郎と稱す。三條家の守衞となり、扈從して太宰府に到る。人に疑はれ、憤懣して自殺す。明治三十五年從五位を贈らる。

ケンザウ　謙三(富岡)　步兵中尉。神奈川縣出身。日露役に從ひ、明治三十七年十月盛京省抄河に戰死す。

ケンザウ　謙藏(三牧)　勤王家。名は秀胤。尾張の農民。幼時、江戸淺草光德寺の新坂意たりしが、還俗して京都に入り、但馬の義擧に加る。京都六角の獄に繫がれ、慶應元年正月病死す。年二十七。

ケンザウ　謙藏(齋藤)　東京下谷池の端仲町の古本屋、琳瑯閣の主人。繪卷の人。明治四十年十二月歿す。年五十八。

ケンザウ　謙藏(向田)　步兵少佐。東京府出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十二月一日旅順二〇三高地に戰死す。

ケンザウ　鎌藏(荻野)　步兵中尉。兵庫縣人。明治二十九年一月二十一日蚤蝨に戰死す。

ケンザウ　堅藏　ビンゴノスケ(兒島備後介)

ゲンザウ　源藏(桐原)　武田信賢の臣。嘉吉元年九月赤松滿祐と播磨人丸隊に戰ふ。

ゲンザウ　源藏(赤塊)　赤穗四十七士の一人。名は重賢。淺野長矩に仕へて馬廻となる。後、姓名を變じて高畑源五右衞門といふ。享年三十五。

ゲンザウ　源藏(太田)　德川幕府の徒士。膂力あり、劍を善くす。常に俠客を以て自ら任ず。事を以て玄界島に流竄せらる。

ゲンザウ　源藏(由井)　與津の人。眞人を見んとして足柄山に登り、精行數年、終に道訣を授けらるといふ。

ゲンザウ　源藏(山本)　大阪の國學者。乘加の神道「を唱導す。

ゲンザウ　源藏(安藤)　茶人。彦根の人。名は英重、初名鼎澤。後、京師に遊び、其休宗佐に從ふ。

ゲンザウ　源藏(中島)　盛岡藩士。維新の際、藩主に說くに大義を以てす。藩若損山佐渡、佐幕を主張し、諫議と違衡して、王師に抗す。佐渡源藏を促し、倶に南行して大阪に抵らしむ。源藏其の夜、遺書を裁して屠腹す。明治三年詔して其の忠節を旌し、祭粢料二百金を賜ふ。

ゲンザウ　源藏　テンボ(松山天姥)

トウケイ(井上東溪)　ガウガク(茂呂鼇岳)

ハクロク(桃白鹿)　ナンボク(初代鵜屋南北)

モクアミ(二代古川默阿彌)

ゲンザウ　源三(市岡)　海軍少尉。東京府人。日露戰役に從ひ、明治三十七年五月十五日軍艦吉野沈沒の際死す。

ゲンザウ　源三　ヒロモト(江田廣基)

ゲンザウ　諺藏(勝)　狂言作者。河竹能進の子。初め濱助と稱す。明治三十五年十月二十七日歿す。

ゲンザウ　諺藏(勝)　モクアミ(古河默阿彌)

ゲンザウ　玄藏　チクイツ(井上竹逸)

ゲンザク　玄朔(曲直瀨)　腎。後、正紹と稱す。勅により、父の名溫三を稱し、又東井と號す。叔父正盛の養嗣となる。正親町帝に謁を上り、法印に進み、延命院の號を賜はる。後、延喜と改む。晩年秀忠に從ひ江戸に赴く。寛延八年十二月十日歿す。年八十三。著、醫方明鑑、延喜撮要、濟民記、本草畧、異名記、天正記、續天正記等。

ゲンザク　玄策　禪僧。字は功嚴。備後大澤寺の亘海に從ひて悟道し、後其の寺を嗣ぐ。又同國松河に製勝院を創立す。永正十一年寂す。

ゲンザク　玄策(寺井)　ゲンドウ(井上源洞)

ゲンザツ　玄札　伊勢山田の俚人。貞德の門。高島氏。江戸に來りて醫を業とす。元祿二年十二月十四日歿。年八十三。十種千旬の著あり。

ケンザブラウ　健三郎(田中)　筑紫州藩士。維新の際、兄正元と共に王事に勤む。後外交官、宮家家令等に歷任し、明治四十一年一月二十九日歿す。年六十四。

ケンザブラウ　謙三郎(左野)　勤王家。名は義通。福岡藩士。文久三年同藩士中村某、脫藩の罪を以て捕へられしかば、其の獄を破りて之を救ふ。事顯はれて死に處せらる。年二十六。

ケンザブラウ　謙三郎(伊藤)　陸軍二等獸醫正。宮城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十九年六月八日病死す。

ケンザブラウ　謙三郎　ケイダウ(松本奎堂)

ケン(大舘謙)

ケンザブラウ　兼三郎(樋口)　三等軍醫。獸醫縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年六月負傷し、翌年三月死す。

ケンザブラウ　賢三郎　ゴソウ(岡本晤叟)

ゲンザブラウ　源三郎　文政中、兄權之助、其の主、上田左太夫のために仇を報いし時、之を助く。

ゲンザブラウ　源三郎　蒔繪師。奈良の人。元祿年間大に行はる。人倫訓蒙圖彙、摺金書奉(後、蒔繪大全と改題す)を著す。浮世繪類考に據れば、西鶴の作の插畫は多く其の筆にかかるといふ。

ゲンザブラウ　源三郎(水野)　步兵中尉。福島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月二十七日盛京省什家嶺附近に戰死す。

ゲンザブラウ　源三郎(本鄕)　步兵中佐。東京府人。日露戰役に從ひ、明治三十七年八月二十一日旅順東鷄冠山に戰死す。

ゲンザブラウ　源三郎　ヤストシ(松平康俊)

ゲンザミ　玄佐美(田村)　步兵大尉。福島縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年七月盛京省石門嶺附近に戰死す。

ゲンザエモン　源左衞門　肥後同田貫の刀匠。菊地に住す。元亀年間の人。

ゲンザエモン　源左衞門(畑野)　武田氏の臣。天正十年二月高遠の戰に死す。

ゲンザエモン　源左衞門(勝村)　馬術家。名は好利。德川秀康及び忠昌に仕ふ。

ゲンザエモン　源左衞門(水野)　陶工。美濃の人。正保二年會津侯に仕へ、奥州大沼鄕本郡村に陶場を開く。これ會津燒の起源なり。

ゲンザエモン　源左衞門(伊奈)　德川家康の臣。天正三年五月二十一日長篠の役に戰死す。

ゲンザエモン　源左衞門(右近)　江戸の俳優。坊主小兵衞と同時の人。

ゲンザエモン　源左衞門(山中)　德川幕府の大番組。性豪邁、任俠の風あり。正保中、罪を以て死に「宅磨流兵術を創む。

ゲンザエモン　源左衞門(宅磨)　大阪の數學者。

ゲンザエモン　源左衞門(武田)　步兵大尉。宮城縣人。日露役に從軍中、明治三十八年九月三日盛京省に戰死す。

ケンザン　兼山(菅野)　儒者。名は彰。字は直養、通稱彦兵衞。武藏埼玉郡の人。伊藤仁齋及び三宅尚齋の門。享保年間歿す。年六十八。

ケンザン　兼山　マサヒサ(堀正尙)　ホウゴ(木村鳳梧)　ショウイン(後藤松陰)

ケンザン　覲山(今城)　松本藩の儒者。名は世嗣、字は公紀、通稱嗣右衞門。寬政文化年間の人。

ケンザン　見山(島田)　劍客。豊前中津の人。天保中、江戸の男谷某、榊川の大石某と共に名あり。

ケンザン　見山(樹岩)　もと明人。天正の頃、歸化して豊後國の大友家に客たり。書事に精しく、狩野永德兄弟の師。

ケンザン　見山　ミチツナ(中院通維)　ミチツネ(中院通經)　マサムツ(堀田正睦)

ケンザン　謙山(眞田)　書家。名は行直、通稱宋之助。德川幕府の臣。

ケンザン　乾山(尾形)　畫人。宗謙の季子。光琳の弟。名は深省。尚古、習靜堂、紫翠、豊海、陶隱等の號あり。兄に學ぶ。又陶器に巧に、世に乾山燒といふ。和歌及び點茶を能くす。寬保三年六月二日歿。十一。

ケンザン　乾山(橫田)　儒者。武藏巢鴨の人。名は椎孝、通稱順藏、文政十二年九月歿す。年五十六。

ケンザン　乾山(倉石)　越前高田の畫人。米山の門に學ぶ。

ケンザン　乾山(尾形)　畫人。宗謙の季子。光琳の弟。名は深省。尚古、習靜堂、紫翠、豊海、陶隱等の號あり。兄に學ぶ。又陶器に巧に、世に乾山燒といふ。和歌及び點茶を能くす。寬保三年六月二日歿。十一。

ケンザン　乾山(橫田)　儒者。武藏巢鴨の人。名は椎孝、通稱順藏、文政十二年九月歿す。年五十六。

ケンザン　兼山(青地)　加賀藩の儒。名は齋賢、字は伯牧、通稱藏人、又讓水と號す。もと本多氏。室鳩巢に就き、兼山秘策、江戸の儒者。名は世璠、字は叔瓚、通稱東邊、一に冬邊。折衷學を唱ふ。天明二年三月二十九日歿す。年五十三。著、古文孝經參說、大學古義、中庸古義、尚書類考、左氏鴻律。莊子類說等。

ケンザン　兼山(片山)　江戸の儒者。名は正武、字は子德、通稱主計。武藏藩士眞壁氏の男。嗣氏を嗣ぐ。京に遊びて山陽を見る。天保二年七月十九日歿。年三十一。

ケンザン　原山(戶部)　高知藩の儒臣。世々數樂詩曲を以て繼仕す。原山赤冶に京に上り、旁ら小野鵞山に儒を、玉木葦齋に神道を學ぶ。寬政七年十二月歿す。

ケンザン　兼山(野中)　土佐藩の重臣。傳右衞門と稱す。名は此、字は眞禮。谷時中に學び、殖產厚生の利を拓く。津呂御崎の暗礁を碎きて給餉に便し、海蝕及び魚介の養殖等を圖る。然れども德量を缺き、寬文三年腹斷せられて歿す。

ケンザン　元三　リヤウゲン　眞源　「の作家。

ゲンザンミ　源三位　大膳太夫敎賴の女。新古今集

ケンザンミ　源三位　ヨリマサ(源賴政)

ケンザンロウ　見山樓　ゴンサイ(安積艮齋)

ケンシ 兼芥　美濃の刀匠。袋包の子。天文年間の人。

ケンシ 謙之(増田)　儒者。字は登夫、阿波の人。中村惕斎に学ぶ。

ケンシ 謙之(關)　明治十四年の頃、明治日報編輯を主宰し、後、司法省御用掛、検事たり。四十年三月歿す。年五十四。

ケンシ 謙氏(大舘)　上野新田郡の人。古賀侗庵に学ぶ。文久三年幕府浪士を募る時、之に應じて、山岡鐵太郎等と浪士組の首領たり。後、郷里に帰りて、挙兵を企て、囚へらる。明治元年釈され、八年五月歿す。年五十二。

ケンシ 謙次(豐田)　勤王家。名は美稲、較潭と號す。近江の人。慶應元年長門に赴く途次、津山藩士に殺さる。年三十四。贈正五位。

ケンシ 謙次(木村)　志士。常陸天下野の人。北海探險の功あり。文化八年歿す。年八十。明治四十年贈正五位。

ケンジ 謙次(細堀)　陸軍三等軍醫正。福井縣人。日露戰役に従ひ、明治三十八年一月病死す。

ケンジ 謙二(太田)　歩兵少尉。兵庫縣人。日露戰役に従ひ、明治三十八年三月奉天大會戰に負傷し、十九日歿す。

ケンジ 建次(柳井)　高知藩の勤王家。名は友紋。脱して長州に奔り、元治元年七月禁門の變に加りて戰歿す。年二十三。贈正五位。

ケンジ 健二(福家)　歩兵中尉。香川縣出身。日露の役に負傷して死す。

ケンシ 元志　元祿の俳人。蕉風。

ケンシ 元志　禪僧。字は峯中。小足氏。肥後の人。

ケンジバウ 玄二房　俳人。吉田氏。鷹一、旭卷、紅白仙と號す。玄武の門。

ケンジフ 乾什(一世)　俳人。岩本氏。鴻足菴、千歳兒。治州の門。寶暦九年二月十七日歿。(二世)岩本氏。鴻足菴。木童、琵琶園。二世雲齋の門。

ケンジフラウ 源十郎 **マサヅラ(本多正貫)**　舊熊本藩の勤王家。家。始め長之、後に眞卿、又勤と改む。砲術を高島秋帆に學ぶ。明治十三年歿す。同三十一年贈從四位。

ケンシヤウ 見性　歌僧。新後撰集の作家。

ケンシヤウ 賢障 **ケンゼン** 賢禪

ケンシヤウ 顯性　平文師。花園天皇の時の人。

ケンシヤウ 玄昌(土生)　江戸の醫。野馬の人。七味人參奇應丸の方を傳ふ。文政頃。

ケンシヤウ 玄昌(清水)　遠州流の茶人。竹村鷺庵の門。龍鱗齋と號す。天明四年四月十六日歿す。

ケンシヤウ 玄昌 **ブンシン** 文之

ケンシヤウ 玄性　僧。字は荅深。密說に精しく、飼雜抜群、妙音院に住して學生を誘導す。

ケンシヤウ 玄章(箕浦)　土佐藩の志士、通稱猪之吉、佛山と號す。詩書に巧なり。藩主容堂に愛せらる。明治元年二月泉州堺を警備す。同十五日同港碇泊の佛艦乗組兵暴行をなせしかば、部下に命じて之を鉄砲せしむ。佛國公使大に怒り、政府に迫りて元凶以下を刑せん事を要む。同二十三日妙國寺にて割腹す。

ケンシヤウ テンワウ 元正天皇　天武天皇の孫。文武天皇の同母姉。諱は氷高、のち氷高と改む。在位九年。壽六十八。御製新拾遺集に出づ。

ケンシヤウ ニワウ 元昌尼王　後水尾天皇の第九女。母は京極局。進宮と稱す。慶安二年大聖寺に入りて得度す。寛文二年九月五日薨。年二十六。

ケンジヤウ 玄常　高僧。平氏。上野の人。比叡山に上りて出家す。法華を持し、兼ねて悉曇あり。のち播磨雪山に移りて精修し、臻め死期を知りて、諸友に別を告げ、誦經して寂す。

ケンジヤウ 玄常(山本)　山本流剣法の祖。後、三夢入道と稱す。大友豊後守に仕へしが、其の滅後浪人す。

ケンジヤウ 玄常 **キヨサイ(茅原虚齋)**

ケンジヤウ 元讓(町田) **ナホツナ(若杉直綱)**

ケンジヤウサイ 源匠齋(上杉)　有名の木匠。主殿頭と稱す。慶應二年相馬西山邑の地藏堂に寓鳥草木を彫刻す。

ケンシヤウバウ 賢正仿 **チヤウシウ** 定秀

ケンシヤウボン ナイダイジン トキフサ(萬里小路時房)

ケンシユ 健守　歌僧。拾遺集の作家。

ケンシユ 賢珠　歌僧。新後拾遺集の作家。

ケンシユ 謙譽　僧。比叡山安樂院の惠徹に學ぶ。越前三國町智敬寺に住し、安政三年三月十二日寂す。年五十八。

ケンジユ 兼壽　高僧。本願寺の第八世。蓮如上人といふ。圓兼の子。中納言兼郷の猶子。永享三年得度して中納言法印と號す。山城國山科に本願寺を再造し、明應八年三月二十五日化す。年八十五。

ケンジユ 兼譽(猪苗代)　連歌師。農松軒。法眼。元祿七年五月八日歿。

ケンジユ 賢壽(高橋)　陸軍三等軍醫。群馬縣人。日露戰爭に従ひ、遼陽に病んで東京に死す。

ケンジユ 玄俊　禪僧。字は快翁。天眞に學ぶ。石見水谷寺及び伊賀興禪寺の第一世たり。應永年間伯耆那に遊び、天寧寺の楚石琦和尚に依る。檀越菊地持朝、成道寺を建てて開祖となす。享年八十三。

ケンジユ 玄俊(小石)　醫。名は道、字は有素、大愚、碧霞山人と號す。渓輪元潛及び永富獨嘯庵に學び、後、前野良澤、杉田元白等に就いて蘭醫の說を究め、晩年京都に隱れ、文化五年歿す。年六十六。

ケンジユン 玄俊(里村)　京都の連歌師。寛文四年歿す。年五十。

ケンジユン 玄俊　禪僧。字は峯中。周防の人。「遍照金剛」の諡を賜ふ。

ケンシユン 元司(高岡)　陸軍一等軍醫。千葉縣人。北清拳匪の亂に出征中、病死す。

ケンシユン 彦子(藤原)　四條帝の后。攝政教實の女。仁治三年三宮に准ぜられ、寛元元年宣仁門院と號す。出家して淸淨阿と稱し、弘長二年薨ず。

ケンシユン 玄旭　曹洞宗の僧。越中礪村の人。俗姓中村。字は慈鮮、即一と號す。加賀の大乘寺に住し、明和元年十月九日寂す。年七十五。

ケンシユン 玄旨 **フヂタカ(細川藤孝)**

ケンシユン 玄之 **ウンカク(千葉芸閣)**

ケンシユン 玄子 **ソウジユン(吉田宗恂)**　京都の醫。通稱三伯。元文三年歿す。年五十三。

ケンシユン 源司(酒井)　歩兵少尉。福岡縣出身。日露役に従軍中、明治三十七年十月三家子に戰死す。

ケンシユン 源次 **テルヨシ(水野照喜)**　俳人。安原氏。貞室の男。承應中歿す。年十五。

ケンシユン 源七(春藤)　能の脇師。源七の子。庶次の第二子。宗臨の弟。子孫春藤を氏とす。

ケンシユン 源七(金春)　脇師の祖。幼名春藤。善風と稱す。補正行に従ひて四條院に戰ふ。敵に混じて師直を狙ひ、顚れて殺さる。

ケンシユン 源七(梅村)　書家。名は清茂。烏山巽甫に従ひ、明治十年三月肥後に戰死す。「の門人。

ケンシユン 源七(林)　西南の役、警部補を以て軍に「子。天す。

ケンシユラウ 源七郎(狩野)　畫人。松榮の第三子。

ケンシユツ 憲實　歌僧。法印に叙せらる。隆承の子。續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

ケンシユツ 元室　俳人。天明頃。

ケンシユツ 玄室 **ソウシツ(一、四、六世千宗室)**

セキラウ 石翁

ケンシ ナイシンワウ 娼子內親王　後朱雀天皇の次女。母は陽明門院。加茂齋院となり、狂齋院と稱せらる。左大臣源俊房に配す。

ケンシン 原周　下總關宿藩の住職。字は學仲、周超の法嗣。

ケンシン 源秀　歌僧。俗名高畠河守重茂。新後拾遺集の作家。

ケンシン 元洲(關)　尾張の儒者。名は源、字は公德、通稱達治。文化三年歿す。年五十四。

ケンシン 元秀　尼。豊元天皇の女。母は宮人藤原氏。龜宮といふ。寛永四年十二月林丘寺に入り、剃髪して松嶺といひ、寛暦二年六月寂す。年五十七。

ケンシン 元周(片倉)　醫。字は深甫、相摸の人。著、儀禮新書、藏病試効、醫脈彙編、屠蘇考等。

ケンシサイ 玄之齋 **コレノブ(狩野惟信)**

ケンシチ 源七　芙蓉閣の刀匠。兼行の門。文明頃。

ケンシチ 源七　攝津高槻の士。暴戻放蕩、遂に馬諤となる。一旦感悟して、叡山大慈院の僕となり、後穴を穿つて入定す。

ケンシチ 源七(春藤)　能の脇師。源七の子。庶次の第二子。宗臨の弟。子孫春藤を氏とす。

ケンシチ 源七(金春)　脇師の祖。幼名春藤。善風と稱す。補正行に従ひて四條院に戰ふ。敵に混じて師直を狙ひ、顚れて殺さる。

ケンシチ 源七(梅村)　書家。名は清茂。烏山巽甫に従ひ、明治十年三月肥後に戰死す。「の門人。

ケンシチラウ 源七郎(狩野)　畫人。松榮の第三子。

ケンシツ 憲實　歌僧。法印に叙せらる。隆承の子。續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

ケンシツ 元室　俳人。天明頃。

ケンシツ 玄室 **ソウシツ(一、四、六世千宗室)**

セキラウ 石翁

ケンシ ナイシンワウ 娼子內親王　後朱雀天皇の次女。母は陽明門院。加茂齋院となり、狂齋院と稱せらる。左大臣源俊房に配す。

ケンジ 玄守　三井寺法印。續千載集の作家。

ケンジ 元壽　京都智積院の住僧。字は長存。下野の人。將軍家康及び秀忠の殊遇を受け、又太上法皇に召されて、宮中に講筵を開き、僧正に補せらる。慶安元年閏正月十三日寂す。年七十四。

ケンジユ 彦修(中根)　算暦家。名は下、通稱安之丞。寶暦十一年八月京都に歿す。

ケンシユク 謙叔(中川)　備前侯の臣。權左衞門と稱す。中江藤樹に學ぶ。

ケンジユク 儼塾(森)　水戸侯の儒官。名は尙謙、字は利渉、一に不染居士と號す。通稱亀之助。播津の人。蓼庵の子。松永昌易に學ぶ。義公に召されて國史編輯に預り、享保六年三月十三日歿。年六十九。讀法資治論、儼塾集の著あり。

ケンシユン 堅俊　僧。權大納言藤原俊光の子。賢宣の孫。大僧正、三寶院主。延文二年閏七月十六日寂す。年五十九。風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

ケンシユン 兼舜　歌僧。法印。新拾遺集の作家。

ケンシユン 顯俊　法印。續千載集及び新千載集の作家。

ケンジユン 憲淳　歌僧。大僧正。大納言爲世の子。玉葉、續千載、風雅諸集の作家。

ケンシユン 元俊(小石)　醫。名は道、字は有素、大愚、碧霞山人と號す。渓輪元潛及び永富獨嘯庵に學び、後、前野良澤、杉田元白等に就いて蘭醫の說を究め、晩年京都に隱れ、文化五年歿す。年六十六。

ケンシユン 玄俊(里村)　京都の連歌師。寛文四年歿す。年五十。

ケンシユン 玄俊　禪僧。字は快翁。天眞に學ぶ。石見水谷寺及び伊賀興禪寺の第一世たり。應永年間伯耆那に遊び、天寧寺の楚石琦和尚に依る。檀越菊地持朝、成道寺を建てて開祖となす。享年八十三。

善龍泉寺に住す。

ゲンシュン 元春(田代) 米子藩松平相模守の醫員。國學を好み、享和元年本居宣長の門に入る。

ゲンシュン 玄俊 駿河靜勝院の禪僧、字は雲鷹。永正十三年寂す。

ゲンジュン 玄恂(芳村) 醫。字は和中。寶歷七年十二月京都に歿す。年八十。

ゲンジュン 玄順(實生) 三河國田原藩の醫員。名は金吉。天保八年六月十日歿す。年六十六。撰著草

ゲンジュン 元順 元祿の俳人。 〔の著あり。

ケンシュンモンイン 建春門院 シゲコ(平滋子) 〔子〕

ケンショ 賢初 書人。狩野元信の門。

ゲンジョ 元恕 俳人。山岡氏。元隣の從弟。寛文延寶頃の人。季吟の門。撰俳諧仕樣の著あり。

ゲンジョ 玄如 岡山の歌僧。香川景樹の門人。

ゲンジョ 賢助 大僧正。太政大臣淸隆公守の子。左大臣山科實雄の孫。弘安三年生る。東寺一長者。醍醐座主。玉葉集の作家。

ケンジョウ 憲乘(龍本坊) 書家。又畫を能くす。乘津の嗣。昭乘の三世。藤堂氏。元祿五年正月六日寂す。

ケンジョウ 顯乘(後藤) 後藤氏第七代の金工。通稱理兵衞。名は正繩、一に正經。法橋に叙せられ、寛文二年正月二十八日歿。年四十八。一に七十八。

ゲンショウ 原松 俳人。加藤氏。肆々菴。其角の門。寛保二年正月五日歿。年五十八。星月夜、正風輪の著あり。

ゲンショウ 元松 シンセツ(狩野眞說)

ゲンショウ 玄證 高野月上院の住僧。證印の弟子。閻觀房と稱す。又醍醐に入り、範果に學ぶ。宜秋門院の平産を祈り、傳燈大法師位に進む。詩書を善く

ゲンショウ 玄勝 歌僧。俗名齋藤加賀守滿榮。基能の子。新千載集及び新拾遺集の作家。

ゲンショウ 元升(向井) 儒醫。肥前の人。名は立松、字は泰伯、號水子と號す。萬治元年京都に上る。後水尾上皇の詔を奉じ、襲を獻じて賜あり。延寶五年十一月朔日歿す。年六十九。

ゲンショウ 玄松 ゲンショウ(向井元升) 歌僧。法眼に叙せらる。大納言

ゲンショウ 源承 公家の子。撰拾遺、新後撰、玉葉、撰後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

ゲンショウ 玄仍(里村) 連歌師。紹巴の子。心前と號す。慶長十二年四月二十三日歿す。年三十七。

ゲンショウ 玄乘(後藤) 金工。後藤氏の支族。乘眞の二男。名は光繩、通稱嘉兵衞。文祿四年六月九日歿す。

ゲンショウ 玄玖 能の子。新千載集及び新拾遺集の作家。

ゲンショウ 元升(向井) 儒醫。肥前の人。名は立松、字は泰伯、號水子と號す。萬治元年京都に上る。後水尾上皇の詔を奉じ、襲を獻じて賜あり。延寶五年十一月朔日歿す。年六十九。

ゲンショウ 玄松 ゲンショウ(向井元升) 歌僧。法眼に叙せらる。大納言

ゲンショウ 源承 公家の子。撰拾遺、新後撰、玉葉、撰後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。

ゲンショウ 玄仍(里村) 連歌師。紹巴の子。心前と號す。慶長十二年四月二十三日歿す。年三十七。

ゲンショウ 玄乘(後藤) 金工。後藤氏の支族。乘眞の二男。名は光繩、通稱嘉兵衞。文祿四年六月九日歿す。

ゲンジョウ 鍵次郎(鬼頭) 歩兵少尉。愛知縣人。明治三十七年日露役に從ひ、十月二十七日病死。

ゲンジロウ 賢次郎(飯塚) 陸軍一等軍醫。東京府人。明治三十七年日露役に從ひ、十一月五日病死す。

ゲンジロウ 謙次郎(加藤) 志士。越中泊町の人。

ゲンジロウ 謙次郎(梅) 法學博士。東京法科大學韓國法典調査委員長として京城滯在中、明治四十三年八月二十日卒す。

ゲンジロウ 謙次郎 シウタツ(谷村周達) 初め右兵衞丞盛時と稱す。天正十年德川家康に從ひて功あり。後、故に國屋源四郎といふ。元和五年十二月十六日歿。年五十一。

ゲンシロウ 源四郎(山彦) (初代) 三拉家。もと村上氏。相州の人。木村又入の門に入り、江戸劇を自得し、元祿十寸見河東以下四世の相万として名あり。寶歷六年五月二十日歿。(二代) 初め長藏と稱し、後、秀次郎と改む。初代源四郎の門人。劇變して存信と號す。寛政年中歿す。(三代) 二代の子。通稱秀次郎。

ゲンシロウ 源四郎 トミマサ(本多富正)

ゲンジロウ 源次郎(新藤) 伊勢國澁田見乙部の城主。織田信長に叛き、大阪に遯居し、關ケ原の役、西軍に屬す。「びて奈眞に住す。

ゲンジロウ 源次郎(土門) 茶人。古市澄胤に學

ゲンジロウ 源次郎(梅田) 勤王家。京師の儒者。名は定明。一名義質、號は雲濱、又蘭庵。安政五年賴三樹等と共に幕吏に捕縛せられ、六年九月十四日獄舍に死す。年四十四。

ゲンジロウ 源次郎(青木) 歩兵中尉。愛知縣人。日露役に從ひ、明治三十八年三月盛京省に戰死す。

ゲンジロウ 源次郎(大給) イヘノリ(松平家彥) 儒。紫樓

ゲンシロウ 種彥 〔乘〕

ケンシン 堅信 艦醐理性院の住僧。大藏卿宗時の子。大夫阿闍梨と稱す。上野阿闍梨寶心の嗣となり、後、名を靜璽と改む。正和頃の人。

ケンシン 憲深 僧。侍從通成の子。建久三年生る。極樂坊と號し、三寶院門跡となる。

ケンシン 顯深 僧都。新後拾遺集の作家。

ケンシン 顯眞 高僧。文治六年綸旨を奉じて延曆寺の座主となる。建久三年十一月寂す。年六十三。著、西觀內科

ケンシン 顯眞 建長元年天台座主に補せられ、大願の座主と號す。

ケンシン 見眞 シンラン 親鸞

ケンシン 謙信 テルトラ(上杉輝虎)

ケンジン 顯尋 法橋。撰拾遺集の作家。

ゲンシン 殿信 書僧。法印。行嚴と號す。白河天皇の朝に奉仕す。

ゲンシン 源信 高僧。俗姓卜部氏。大和國葛城郡の人。正親の子。叡山に登り、慈慧大師に事へて顯密の敎を究め、橫川に居り、一乘要訣、往生要集等の書を著し、又每に彌陀來迎の畫を作り、且つ彌陀の像を彫刻す。寬仁元年六月寂す。年七十六。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。

ゲンシン 源心(平賀) 僧。遠淡海野口の城主。武藏守と稱す。武田信虎の族。天文五年信虎、氷り閉み克たず。子晴信等中に乘じて之を攻む。源心妻子を殺し、奮戰して死す。

ゲンシン 源心 高僧。寶體山壁度の弟子。永承三年延曆寺の座主となり、八年寂す。年八十三。後撰、飼花、千載諸集の作家。

ゲンシン 源深 法印。玉葉集の作家。

ゲンシン 現心 サヘエ 佐兵衞

ゲンシン 元眞(坂) 本草家。享和元年救荒野譜便覽を、文化六年屋漏堂花譜を著す。

ゲンシン 元眞 フミヲ(井上文雄)

ゲンシン 元震 セキホ(岡野石園)

ゲンシン 元辰(大塚) 連歌師。京都に住み、延寶元年寂す。年六十。

ゲンシン 玄心(里村) 京都の連歌師。元祿元年「殺す。

ゲンシン 玄眞(宇田川) 津山侯の醫員。槐齋と號す。天保五年十二月寂す。年六十六。著、醫範提綱、和蘭眼鏡、遠西名物考等。

ケンシン 玄慎 ギンカウ(尾崎銀岡)

ケンシン 玄信 僧。字は興國。新皇寺の天叟に依りて悟道し、奉いて其の住持となり、後慶河國大平鄕に桃源寺を創立し、應永元年寂す。

ゲンシン 玄信(山脇) 朝廷の侍醫。字は道作。正節の子。曲直瀨正琳に學ぶ。元和中、中和皇后に奏して法印に叙せられ、養壽院の卒産を祈り、傳燈大法師位に進む。

ケンシン 堅助(北代) 堺浦佛人殺殺の黨與。名は正勝。明治元年二月二十三日妙國寺に屠腹す。

ケンシン 賢輔(吉田) 薦幕府の儒官。名は彦信、竹里と號す。通稱定吉。田邊石庵及び、古賀茶溪に學び、又英學を修む。大藏省及び文部省に入り、貨幣史、日本敎育史を編す。明治三十六年六月十九日歿。年五十六。

ゲンシン 源助(齋藤) 大友宗麟の臣。天文十三年葡萄牙の商船に乘じて去り、彼の國に病死す。

ゲンシン 源助(出目) 德川幕府の面打。則繩の子。常庵、又常心坊と稱す。江戸八町堀坂本町に住す。越前出目家の三世。子孫本所五ツ目に住し、五ツ目出目と稱せらる。

ゲンシン 源介(新島) 文學士。歩兵少尉。東京の人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十月旅順寺兒溝に傷きて死す。

ゲンシン 源助(雛屋) ジョリウ(山崎如流)

ゲンシン 源助 カイモン(赤崎海門)

ケンシン 軒水 俳人。談林風。

ゲンシン 玄水 ゲンリン(山岡玄隣)

ゲンシン 元水 元祿の俳人。蕉風。

ゲンシン 元梁 元祿の俳人。蕉風。

ゲンシン 源水(松井) 曲獨樂の名人。本名松井芳五郎。江戸在練馬の農民。十四代源水の門に入り、文久三年十五代を嗣ぐ。明治三年洋行し、四十年一月二十六日歿す。年七十四。

ゲンズ井 玄隨(宇田川) 津山侯の侍醫葉侍讀。名は晉、字は明卿、晩に槐園と號す。蘭學を修む。夏政九年十二月十八日歿す。年四十三。著、西說內科

逸要、東西病考、遺西名物考、西洋醫言、蘭謳假載、蘭畔辨髦、西文矩等。
ゲンズイ 玄瑞(山田) 茶人。古田織部の門。
ゲンズヰ 玄瑞(久坂) 勤王の志士。名は通武、通稱義助。江月齋又秋湖と號す。長藩の醫たり。國事に奔走し、姓名を變じて松野三平と稱す。元治の擧に諸軍を指揮して京に入り、鷹司邸に自殺す。年二十六。
ゲンズヰ 元瑞 オウアン(吉田應安)
ケンセイ 兼正 元祿頃の俳人。
ケンセイ 健正(永田) 舊姫路藩の志士。河合惣兵衛と共に國事に奔走す。維新後、専ら實業界に力を盡す。明治三十六年従五位に叙せられ、同年十二月歿す。年六十四。
ケンセイ 見西 トキアキラ(北條時章)
ケンセイ 賢正 畫人。梵様の墨筆を善くす。
ゲンセイ 源淸(樋口) 筑後の富豪。甚藏と稱す。士籍に列す。寛正七年久留米藩學校を起す議ありしかば、獨力資を辨ぜんことを乞ひて許さる。明善堂是れなり。八年十一月歿す。
ゲンセイ 元政 高僧。俗稱石井吉兵衛。名は日政、また日峯。不可思議、妙子、幻子の號あり。平安の人。彦根侯井伊直孝に仕へ、後、妙顯寺の日豊上人に從ひて僧となり。山城國深草に居り、瑞光寺と稱す。持律嚴正、親に仕へて至孝、寛政八年二月十八日歿す。年四十六。博覽強記、旁ら國學に通ず。著書、扶桑隱逸傳、釋門孝子傳、草山和歌集、元々唱和等。
ゲンセイ 元正 京都の俳人。柴田氏。通稱半左衛門。貞德の門。天神奉納集の著あり。
ゲンセイ 元盛 歌僧。新千載集の作家。
ゲンセイ 元成(向井) 儒醫。字は叔明、兼㲋と號す。元升の二子。長崎の人。享保十二年歿す。
ゲンセイ 元成 モクアン(那波木庵)
ゲンセイ 玄盛(猪苗代) 中村藩の連歌師。神道に通ず。
ゲンセイ 玄清 禪僧。越前の人。字は一字。慈眼寺の通幻、宗令、良秀等に歷參し、應永六年能登雲門寺の法嗣となり、翌年五月十二日寂す。年四十七。
ゲンセイ 玄晟 禪僧。京師の人。精神の胤。騒亂に因り、遁れて東福寺に入る。源翁和尚に從ひて筑紫に往き、後、伯耆退林寺の主となり、應永二十三年寂す。年六十九。
ゲンセイ 現成 奇僧。俗稱龜次郎。始め江戸花川戸に住し、船頭を業とす。文化十三年三月三日佃沖の汐干に履はれ行き、髑髏を拾ひしより、水死人發見次第、埋葬弔養をなし、文政三年剃髮、後、本所に庵を結び、病人貧者等を救養し、又念佛說敎を行ひ、弘化四年正月十八日寂す。
ケンセウ 顯昭 歌僧。藤原顯輔の子。淸輔の弟。法橋に叙せらる。著、日本紀歌註、古今和歌集鈔、袖中鈔あり。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。
ケンセウ 兼消 美濃國關の刀匠。大永年間の人。
ケンセウ 兼抄 美濃國關の刀匠。天文年間の人。
ゲンセウ 元紹 セキジヤウ(岡野石城)
ゲンセウ 元紹(里村) 連歌師。紹巴の義子。
ゲンセウ 玄紹 ニツシウ 日秀
ゲンセウ 玄昭 僧。興福寺の別當。右大臣近衛兼嗣の子。
ゲンセウ 玄昭 高僧。慈覺大師及び長意座主に學び、朝廷の崇信厚し。七十二歳にして寂す。
ゲンセウ 元昭(柴山) バイサヲウ 賣茶翁
ゲンセウ 玄照 畫僧。周文を學びて布袋を畫くに妙を得。又牧溪を慕ひて其の風を能くす。
ゲンセキ 玄磧(土生) 幕府の醫。獨人シーボルトの能く眼病を治するを知り、嘗て賜はる所の葵紋服を窃に贈りて、其の方と相易ふ。事露れて江戸を逐はる。
ゲンセキ 玄磧(里村) 連歌師。京都の人。染習園と號し、文政四年歿す。
ゲンセキ 元碩 ホクシヨ(松島北渚)
ゲンセキ 元石 リヤウセン(奈須涼泉)
ゲンセキ 言石 俳人。下村氏。紫藤軒と號す。言水の門。
ケンセツ 見雪 僧。字は鷲山。龍泰寺に居り、晩に龍雲寺に退き、貞享二年九月十日寂。年六十。
ケンセツ 謙節 チヤウカウ(伊藤長衡)
ゲンセツ 玄節(横井) 福井藩醫。元祿四年二月二十九日死す。
ケンセン 賢仙 高僧。字は基山。俗姓藤原氏。將軍足利氏、周防に安國寺を創して住持せしむ。大守大内弘世その德を羨望し、數刹を開きて演法の地となす。文和元年寂す。年八十六。
ケンセン 顯詮 歌僧。法印。新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。
ケンセン 賢禪 醫僧。一に賢障に作る。鎮西に行はる。安永三年藤原兼實の招に應じて京師に居る。
ゲンセン 源泉 高僧。播磨國の人。道戒高深にして、名京師に聞え、長久四年宮中に召されて最勝會の戒師となり、天喜元年延暦寺の座主に補せらる。三年寂。年七十九。
ゲンセン 源全 歌僧。叡山に在り。玉葉、風雅、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。
ゲンセン 原泉(由美) 儒者。名は希賢、字は子善、筑前の人。方圓の子。貝原益軒に學び、又書に長

ず。後、徂徠及び東野等に就く。加賀侯に仕へて四君の侍講たり。明和九年歿。年八十一。
ゲンセン 元選 僧。後醍醐天皇の皇子。(一說に滿良親王の入道後の名なりと)字は無文。與國中、元に入り、後美濃三河等に居り、元中七年閏三月遠江方廣寺に寂す。年六十八。
ゲンセン 元泉(奈須) 福井藩の繪畫師。洞雪の三男。名は昭成。文政三年歿す。年六十一。
ゲンセン 元仙(狩野) 駿河臺狩野第三世の畫人。福信の男。名は方信。寶暦元年五月六日歿す。年六十七。
ゲンセン 玄川(里村) 連歌師。京都の人。種心齋と號し、文政元年歿す。年八十二。
ゲンセン 玄泉(川又) 醫。名は有常、字は子德。北平と稱す。水戸の人。後、都垂に移る。安永四年三月二十九日歿す。年七十七。
ゲンセン 玄仙(飯田) 醫。一に玄泉に作る。名は棟隆。福祿齋と號す。京師の人。
ゲンセン 玄仙(神田) 醫。日東魚譜、本草考、璽稲經註、難經原好等の著あり。
ゲンセン 玄仙(曾我) 畫人。越前守と稱す。能く龍を畫く。
ゲンセン 玄仙(蛭田) 產醫。陸奥白河の人。名は克明、字は至德。其の術大に關東に弘まる。寛政時代の人。
ゲンセン 彥仙(巨勢) 儒。名は正純。德川幕府の臣。從五位下大和守。本朝儒宗傳を著す。
ゲンゼン 源全 法眼。新後拾遺集の作家。
ゲンゼン 元善(有木) 備前沼隈の醫。名は吉。山陽東洋の門人。吐納暇言の著あり。
ゲンゼン 元然 元祿の俳人。蕉風。
ゲンソ 元素 ゴガク(福原五岳)
ケンソウ 健叟 シブツ(坂士佛)
ケンソウ 顯慤 ケイジ 慶字
ケンソウ 乾叟 ゼンジユン 禪淳
ゲンソウ 賢慤 ジヤウシユン 常俊
ゲンソウ 原叟 ソウサ(千宗佐)
ゲンソウ 玄叟 レウイ(角倉了意)
ゲンゾク ノミヤ 還俗宮 ホクリクノミヤ 北陸宮
ケンソウ テンワウ 顯宗天皇 履仲天皇の孫。市邊押磐皇子の子。大和國近明日香八釣宮に在り。在位三年。壽四十八。其の御製、續古今集に出づ。
ゲンソン 源尊 畫僧。巨勢氏の支族。源慶の子。嘉禎の頃、法眼に叙せらる。
ケンタ 健太(弘瀬) 高知藩の志士。名は年定、文久三年藩議によりて自刄を命ぜらる。年二十八。明治二十四年贈從四位。
ゲンタ 源太(山崎) 歩兵中尉。宮城縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月楊子屯に戰死す。
ゲンダ 源太 カゲスヱ(梶原景季)
ゲンタイ 元泰(柴田) 江戸の醫。名は直簋、字は子温、東皐と號す。性耿介。病者に對して仁愛を盡す。後、擢でられて西丸の醫院に入り、法眼に叙せられ、文化六年十一月二十四日歿す。年七十二。
ゲンタイ 元泰(東條) 江戸の醫。名は汝享、字は伯通。寛延四年八月歿す。
ゲンタイ 元泰(松井) 製墨家。奈良の人。通稱五郎助。字は貞文。長江、又玄々齋と號す。元規の子。父の業を承け、舊例により和泉掾に叙せらる。中御門帝の御墨を調進し、又靈元法皇に古墨を獻じ、千歳松の異名を賜はる。寛保三年三月十六日歿す。年五十五。墨譜、古梅園墨談等の著あり。
ゲンタイ 元泰(松本) 伯耆米子の蘭方醫。鳥取藩に初めて種痘を行ひ、或は國防の策を藩主に建ず。明治十三年九十四歳を以て歿す。
ゲンタイ 玄岱 テンイ (高天漪)
ゲンタイ 玄齋(久米) 茶人。三谷宗鎭の弟子。
ゲンタイ 玄對(渡邊) 畫人。名は崳、字は延輝。松蠢、また林麓草堂と號す。通稱又藏。江戸の人。湊水の男。後薙髮して内田玄對といふ。文晁に學ぶ。文政五年四月四日歿。年七十四。
ゲンダイ 玄臺 ランス井(田村藍水)
ゲンダイ 元臺(坂上) 本草家。元文二年人參譜を著す。
ゲンダイフ 源太夫(虎屋) 淨瑠璃家。薩摩淨雲の門。虎屋丹後太夫、丹波太夫、長門太夫と與に四天王と稱せらる。江戸境町に操芝居を興行す。寛文中の人。
ケンタウ 見桃 チソク(古林知足)
ケンダウ 賢道(田中) 熊本の人。西南の亂に際す。數後、自由主義を主張す。又韓國王妃事件に坐して獄に錮せらる。後、布畦移民會社を組織す。明治三十四年八月二十七日歿す。年四十七。
ケンダウ 乾堂 トクホン(長田德本)
マスネ(河村益根)
ケンダウ 乾堂(小曾根) 篆刻家。御璽及び國璽を鐫す。長崎の人。名は榮。又山を開き海を埋めて、新に小曾根町の一廓を造る。明治十八年十一月二十七日歿す。年五十八。
ケンダウ 鎌堂 俳人。巨富園。素丸の門。
ケンダウ 研堂(緒方) 洋方醫。備中の人。緒方洪庵と兄弟の約をなして門生の敎導を輔く。明治元年少博士に補せらる。四年七月九日歿す。年五十六。
ケンダウ 研堂(星) 書家。舊會津藩士。俊吾と稱す。加須屋磐梯に學ぶ。明治二年十一月二十三日歿す。年七十七。草書格の著あり。

ケンタウ　玄當　カアン(淀屋个庵)
ケンダウ　玄道(矢野)　國學者。通稱茂太郎。愛媛縣の人。平田篤胤の門に入り、古賀侗庵に漢學を學ぶ。明治元年神祇官出仕、大學中博士たり、又宮内省に入り、專ら御系譜編纂に從事す。明治二十年歿。年六十五。著、神典翼、皇典翼、國史私記遺記、正保野史等。
ケンダウ　玄堂　もと長藩の士。普化僧となり、京都大佛妙暗寺に住す。甲子の變に獄に下る。後赦され、慶應三年大阪に歿す。
ケンダウ　玄堂　バイヲク(松山梅屋)
ケンダウ　言道　ヨシカ(都長香)
ケンタク　堅卓　江戸駒込還元寺第八世の住僧。名は雪岩、雪山と號し、淨運社立攀と稱す。元文五年十月十八日寂す。
ケンタク　玄澤　畫師。大和國菩提山に住す。周文
ケンタク　玄澤　バンス井(大機磐水)
ケンタク　玄琢(南條)　小西行長の臣。關ケ原の役、肥後宇土城を守る。加藤清正之を陷れしが、其の勇武に感じて五千石を與ふ。
ケンタク　玄琢(野馬)　德川幕府の醫。京都の人。白雲老人と稱す。曲直瀨正都に學ぶ。慶長十五年御藥を獻じて壽昌院の號を賜はり、法印に叙せらる。群芳類纂の著あり。正保二年十月十四日歿す。
ケンタク　玄琢　セイケン(野間靜軒)
ケンタザエモン　源太左衛門(眞田)　越前家に仕へ、元祿十三年播磨に死す。
ケンタツ　彦達(遠水)　裏千家の茶人。宗達の長男。分家して寂室と號す。文化十三年歿す。
ケンタツ　元達(比喜田)　茶人。意好齋と號す。戈仙の弟子。

ケンタツ　玄達(島海)　醫。延享中、庄内侯に仕ふ。江戸の人。
ケンタツ　玄達　ジョアン(岡磐庵)　チヤウアン(細合張庵)
ケンタヌシ　源太主　藤太主と共に大和の吉野に居り、布衣烏帽子の姿にて、數を斷ち、密呪を持し、顛る佛方の妙を得。後、終る所を知らず。
ケンタロウ　健太郎(中垣)　勤王の志士。久留米藩の卒。中山忠光の擧兵に投じ、捕へられて、元治元年二月京都に斬らる。
ケンタロウ　健太郎(太田)　志士。駿河三保神社の神官。戊辰の役、志心隊を組織して、勤勞多かりしが、遂に賊に暗殺せらる。年二十四。
ケンタロウ　賢太郎(士井)　步兵少尉。岡山縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月遼陽の戰に負傷して死す。
ケンタロウ　源太郎(朝倉)　勤王の志士。水戸藩士。初名廣高、景行。又通稱を彈正と改む。落主屋敷に從ひて國事に奔走す。元治元年甲子の變に軍駕に從ひて京都に上り、慶應元年四月敎賢に斬らる。年三十四。
ケンタロウ　源太郎(兒玉)　陸軍大將。子爵。舊德山藩士。西南日淸の兩役に功あり。後、第三師團長、臺灣總督、陸軍大臣等に歷任し、日露の役、參謀次長として奮策宜しきを得。三十九年四月參謀總長に補し、七月二十四日薨ず。年五十五。後、其の勳功に依りて嗣子秀雄を伯爵に陞せらる。
ケンタン　玄端(杉田)　蘭醫。尾張の醫師。幡頭侶琅の子。杉田立卿の門に入り、其の實子成卿の讓となり、家を繼ぐ。字は元甫。泰嶽、肥船、櫻所、臥雲居、蕉谷齋、精勤書屋と號す。翻譯御用頭取に累進す。維新後、駿府に移り、同藩の陸軍學校敎授方を命ぜられ、病院を開く。後、學士會院會員に列し、二十二年十月十日歿す。年七十二。
ケンタン　元端(小石)　蘭醫。元俊の子。名は鼎、履圃、秋嶽、蘭齋、江軒等と號す。京都の人。大槻玄澤の門。又、究理の學に精しく、傍ら詩文書等に長じ、艶年久留米侯に仕へ、嘉永二年二月十日歿す。年六十六。
ケンタン　元端(向井)　朝廷の醫。字は履信、仁齋子と號す。元升の長子。法印に叙せられ、盛善院の號を賜はる。正德二年歿す。
ケンタン　元湊(谷口)　國學者。字は大雅。大和郡山の人。季吟の門。和歌を善くす。寬保二年歿、年六十六。
ケンタン　元旦(島田)　江戸の畫工。字は孝充。文化年間の人。
ケンタン　玄旦(高橋)　茶人。織田有樂の門。
ケンチ　賢智　歌僧。閑花集及び千載集の作家。
ケンヂ　健治(豐田)　勤王の志士。名は美稻。本名廣田健之助。近江池田村の處士。長州に入りて周旋す。元治の擧に堺町帝手の一人たり。慶應二年五月備前に擒死す。
ケンヂ　健治(野村)　步兵中尉。新潟縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月楊士屯に戰死す。
ケンヂ　謙治　ネワコク(小野寺鳳谷)
ケンヂ　謙次(澁谷)　砲兵少尉。磐井縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十八年三月負傷して死す。
ケンチ　元知　京都の俳人。西田氏。通稱三郎兵衛。貞德の門。拾玉集の著あり。
ケンチ　玄知(岸)　田舍侯の茶博。
ケンチ　玄智　京師慶證寺の住僧。河內國願宗寺に

生る。撰師に學ぶ。寶政六年十月四日歿。年六十一。
ケンチ　玄智(千田)　德川綱吉の侍醫。出羽國最上郡の人。字は子駿、大圓堂また匠精軒と號す。井上玄徹に學びて、岡嶺侯に仕へ、遂に將軍に拔擢せられ、法眼に叙せらる。傍ら醫學を好む。享保十四年三月一日歿す。年六十七。
ケンチ　嚴智　高僧。初め法相三論を學び、後雲祥に從ひて華嚴を受く。天平の末年、勅を奉じて華嚴敎を講ず。
ケンチヤウ　元長(田村)　德川氏の醫官。名は善之、西湖と號す。慶安小識、豆州諸島物產圖說、物品彙考等の著あり。寬政中の人。
ケンチヤウ　元長(寺尾)　醫者。名は長、號は棚外。弘化四年京都に歿す。年六十七。
ケンチヤウ　玄長　武藏正覺寺の開山。字は久室、相模の人。宗鳳の弟子。總持寺に出世し、天文十三年六月二十三日寂す。
ケンチヤウ　玄長(人尾)　醫。京師の人。延寶元年「十一月歿す。
ケンチヤウ　玄長　ハマオミ(清水濱臣)
ケンチヤウ　元長(佐藤)　醫。會津の人。字は賜蕡、應渠と號す。牛痘の理を講究して之を會津に行ふ。嘉永四年幕府の醫學館敎授たり。明治十五年茨城縣下要溫知病院長に聘せられ、三十四年八月七日歿す。年八十。
ケンチヤウ　元丈(野呂)　醫。伊勢の人。名は實夫、蓮山と號す。醫を山脇玄修に、本草を稻生若水に學ぶ。享保中、幕命を受けて臨物類繁增補に從ひ、後舉げられて醫官と爲る。寶歷十年歿す。
ケンチユウ　堅仲　江戸の俳人。寬延頃の點者。
ケンチユウ　劍仲　セウチ　紹智
ケンチユウ　賢仲　ハンテツ　繁哲

ケンチユウ　賢忠　アリタダ(六條有忠)
ケンヂユウ　乾重　俳人。初世乾峯の外舅。
ケンチユウ　源忠　法眼。新拾遺集の作家。
ケンチユウ　嚴中　シウガク　周噩
ケンチユウ　元沖(上田)　儒者。字は大眞、生々生と號す。博覽強記、詩歌を好む。法橋に叙せられ、元祿十三年播磨に死す。
ケンチユウ　元澄(餘)　醫。京都の人。東庵、又松岳と號す。博覽強記、詩歌を好む。法橋に叙せられ、元祿十三年歿す。年五十一。
ケンチユウ　元澄　ショウガク(大內松岳)
ケンチユウ　元澄(古川)　金工。吉次郎と稱す。初號聖喬。橫谷宗珉の門。江戸馬喰町に住す。
ケンチン　元珍　元祿の俳人。瀧風。
ケンチン　玄珍　シユンコ(狩野春湖)
ケンチン　元椿　ヒヤクセツ　百拙「京都に歿す。
ケンチン　元陳(吉田)　畫家。京都の人。寬政七年「吉袋東洞の門。播磨の人。名は榮信。
ケンテツ　玄哲(有馬)　醫。字は素問。瑞庵と號し、寬文五年京都に歿す。年八十五。
ケンテツ　元哲　ソウテツ(中村宗哲)　幕府の醫官。發現と號す。
ケンテツ　玄徹(井上)　大阪の醫者。名は榮信。
ケンテツ　玄徹(里村)　連歌師。玄仍の男。傍ら蹴を能くし、法眼に叙せらる。
ケンツウ　玄通(三木)　兵學家。水戸藩士。陸右衛門と稱す。佐久間立齋に學び、藥成って子弟に敎ふ。旁ら書を善くす。
ケンテイ　謙亭(小宮山)　儒者。江戸の人。名は昌世、字は君延、通稱杢之進。晏龕の門。
ケンテイ　謙亭　マツナヘ(巖垣松苗)
ケンテイ　謙貞　ヨシノブ(小林義信)
ケンテイ　健亭　ハルニハ(本居春庭)
ケンテイ　顯亭(久田)　國學者。本居大平の門。通稱卿右衛門。紀伊和歌山の人。
ケンテイ　筴庭(猪苗代)　連歌師。文化十四年十一月京都に歿す。年六十六。
ケンテイ　源貞　醫師。天文中、精選絡用方を著す。
ケンテイ　元亨(岡本)　儒。名は十寶。秋田の人。村瀨蔣亭に學ぶ。
ケンテイ　元禎　ジヤウザン(湯淺常山)
ケンテイ　元定　僧中の俳人。馬越氏。通稱熏郎右衛門。立圃の門。
ケンテイ　玄真(岡野井)　京師の醫。寬永二十年朝鮮人容膝山、江戸に朝す。玄貞之に聞ひ、得る所あり、醫學を研究し、萬用不求筴を著す。
ケンテイ　玄真　チンイン　塵隱　シリヨウ　子龍
ケンテイ　言聽　京都の俳人。濟水氏。通稱四郎左衛門。貞室の門。
ケンテキ　元的(里村)　連歌師。元珞の養子。
ケンテツ　玄哲(有馬)　醫。字は素問。瑞庵と號し、寬文五年京都に歿す。年八十五。
ケンテツ　元哲　ソウテツ(中村宗哲)　幕府の醫官。發現と號す。
ケンテツ　玄徹(井上)　大阪の醫者。名は榮信。

に侍す。延寶五年京に上り、太后及び上皇の服を候し、法印に叙せられ、交泰院の號を贈はる。貞享三年四月十九日歿。年八十五。

ゲンテツ 玄徹（禪僧。奥州松音寺の住持。初め能登總持寺に出世し、後、本寺に移り、晩に塔山に到り正音寺を創立して寂す。

ゲンテツ 玄鐵（松平）徳川家康の臣。能見氏。初名重玄、右衛門と稱す。

ゲンド 元度（高）天平寶字三年遣唐大使を迎へんために入唐す。參河守、左平準令となり、後、事に坐して流さる。

ゲンド 玄度 **タウセン**（山梨稻川）

ケンドウ 見棟（松下）儒者。字は子顧。清田儋川に學ぶ。京師の人。

ゲンドウ 元東 **サウシウ**（河村滄洲）

ゲンドウ 玄洞（井上）醫。京都の人。始め寺井玄策と稱す。曲直瀨道三の門。又葉札に巧みなり。木戸雅房に仕へ、其の薨後、京師に歸る。

ゲンドウ 玄同（菅原）京師の儒者。藤原惺窩の門。又醫を玄朔に學ぶ。播磨姫路の人。鎌田氏。得庵と號す。家を鄰白といふ。寛永五年六月十四日歿す。年四十八。

ゲンドウ 玄同（竹内）越前國九岡藩の醫員。名は幹。西旅と號す。嘉府に徵されて侍醫を兼ね、西洋醫學所長となり、法印に叙せられ、渭川院といふ。明治十三年一月十二日歿す。年七十六。

ゲンドウ 玄同 **バキン** 馬琴 **クワンサイ**（鎌田環齋）

ケンドク 謙篤 **ネウコク**（小野寺鳳谷）

ゲンドク 玄得（印東）醫學士。紀伊新宮の人。阿部泰邕と共に明治生命保險會社を創立す。明治二十八年十一月二十五日歿す。年四十六。

ゲンドク 玄篤（名古屋）京都の醫。名は道甫、允明と號し、享保十八年歿す。年六十一。

ケンドクコウ 謙徳公 **コレタダ**（藤原伊尹）

ケンドクコウキタノカタ 謙徳公北方（羽天皇）

ケイシチコウワ 惠子女王 **ゴトバ テンワウ**（後鳥

ケンドクキン 顯德院（貴）

ゲンナイ 源内（平賀）戯作者。博物學者。讃岐の人。名は國倫、字は士彝、鳩溪と號す。天竺浪人、風來散人、松籟子、森羅萬象、無根叟、福内鬼外の戯號あり。初め高松侯の臣吏たりしが、去つて長崎に行き、唐土より輸入する藥品を鑑別し、又蘭語を學ぶ。本草に精しく、方技に通ず。御種人參の栽培、發電機器の製作、火浣布の創製、砂糖の精製等、世を利する者多し。神靈矢口渡、金毘羅利生記、風流志道軒傳、當世野夫論、日本物産語等の著あり。安永八年發狂して人を殺し、獄中に死す。年五十七。

ゲンナイピャウエ 源内兵衛 **スケタダ**（本間

ケンナン 研南 **ヘキカイ**（柴野碧海）［資忠］

ゲンニウ 玄柔 高倉。字は關中。登後の人。嘉慶元年遷に當りて東福寺を主る。同二年五月化す。年七十一。

ケンニチ 顯日 高倉。號は高峰。

ケンニヨ 顯如 本願寺の十一世。證如の子。名は光佐。弘治中、二品大僧正に叙任せられ、文祿元年十一月二十四日歿す。年五十。

ゲンニン 源仁 高倉。南都の僧正護命に從ひて法相宗を學び、後、實慧に謁して密敎を受く。また眞雅、宗叡二師の門に入る。當時密乘の學、其の右に出づる者無く、圓成寺の發願、醍醐寺の聖寶、皆其の門より出づ。仁和三年十一月寂す。

ゲンニン 元仁 萬葉集の作家。大寶中の人。

ケンノジヨウ 鍵之丞（桑原）陸軍三等軍醫。愛知縣出身。臺灣土匪討伐に從ひ、明治二十九年七月二十七日負傷し、八月三日歿す。

ゲンノジヨウ 源之丞（土門）奈良の茶人。古市

ゲンノジヨウ 源之丞（大庭）駿河國駿東郡深良村の名主。寛永中、同郡二十九村の用水に乏しきを憂ひ、箱根の湖水を分流して灌漑に便にす。

ゲンノジヤウ 源之丞（津田）砲術家。名は重成。松平忠昌に仕ふ。

ゲンノジヤウ 源之丞（橋爪）歩兵少尉。三重縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月旅順に戰死す。

ゲンノシン 源之進（豊間）秋田藩の勤王家。名は愛彦、戊辰の役、藩論を一定し、有志隊を率ゐ、庄内の兵を擊ちて歿す。年三十四。贈正五位。

ケンノスケ 謙之助（西山）勤王家。美濃の人。名は尚義、又要人と稱す。幕府の毛利氏を伐つを憤り、其の徒と下野に奔り、慶應三年十二月幕吏に圍まれて死す。

ケンノスケ 健之助（廣田）**ケンチ**（豊田健治）

ゲンノスケ 源之助（森）歩兵大尉。德島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月病死す。

ケンパ 豪馬 天明頃の俳人。

ゲンパ 玄番（酒井）石州津の茶人。宇佐美默齋の門。

ゲンパ 玄番（宇郷）九條家の諸大夫。名は重國。文久二年八月二十二日浪士に殺さる。

ゲンパ 玄蕃（津田）加賀藩士。名は孟昭。加判の員に列す。酒を嗜みて小節に拘らず、終に職を解かる。

ゲンパ キヨタケ（越智清武）**ヨシヒロ**（阿

ケンパ 兼卿 **ケンイン**

ケンパ 憲房 **ケンパフ**（吉閑憲法）

ケンパ 見芳 僧。字は春麓。攝津多田の人。不見の門弟。播磨屋德寺を創し、永澤、總持、龍泉、興禪の四大寺に歷住す。永享十二年。正月八日寂す。年七十一。

ケンパク 堅白 **タメヨシ** 爲吉 **ソウタン**（千宗

ゲンパク 玄昉 南都興福寺の僧。俗姓阿刀氏。龍門寺義淵に從ひて唯識を究む。養老二年勅を奉じて入唐し、天平六年歸朝、九年僧正に任ぜらる。藤原廣嗣と隙あり。十八年六月寂す。

ゲンパク 彦博 **ケイシヨ**（猪飼敬所）

ゲンパク 元璞 **エキヨウ** 慧琪

ゲンパク 玄白（杉田）蘭醫。甫仙の子。一に元伯に作る。名は翼、字は子鳳。鶴齋、又九幸翁と呼ぶ。幕醫西玄甫の門。又躋官西幸生に蘭語を學び、蘭文解剖書を得、小塚原の刑場に至りて實地と對照し、遂に中川淳庵、桂川周甫等數人と之を飜譯して解體新書と名づく。文化十四年四月十七日歿す。年八十五。

ゲンパク 玄伯（市）醫醫。名は守信、字は仲章。後名を朱、字を章甫と改め、非々、思無邪堂、又臥龍窟と號す。長門の人。家塾を開く。後、毛利氏に擧げられ其の學事に與る。嘉永五年二月十三日歿す。年五十七。

ゲンパク 玄伯（北川）高知藩の醫。名は清、字は子敬、眉來と號す。文化中歿す。年六十九。

ゲンパチ 源八（山岡）德川幕府の士。性剛忍、血を見るを喜ぶ。矢頭等と大小神祇組を設立し、市中を橫行す。終に刑に處せらる。

ゲンパチ 源八（奥平）宇津宮奥平侯の家臣内藏助の子。寛文年中、父の譴、奥平隼人及び其の弟主馬を殺す。

ゲンパチラウ 源八郎（新井）水戸藩士。名は直敏、號は近侍たり。元治元年都奉行に遷る。松平賴德に從ひ、銃子に禁錮せられ、翌年四月三日自刃を命ぜらる。年四十二。

ケンハツ 顯鉢（後藤）歩兵少尉。東京府出身、日露戰役に出征し、明治三十七年十月病死す。

ゲンパノカミ ナホムネ（永井尚志）

ケンパフ 憲法（吉岡）吉岡流の劍術の祖。一に建法、繁法、又筆房に作る。仁右衛門と稱す。名は憲房。祇園縣次に學ぶ。宮本武藏と技を鬪はして勝敗なし。もと京都四條の染屋。始めて黒茶色を染出す。世に之を吉岡染又は憲法染といふ。

ケンハン 顯範 歌僧。興福寺の法印たり。玉葉、撰千載、風雅諸集の作家。

ゲンハン 玄範 醍醐の歌僧。河花集の作家。

ゲンビ 元備 **ギヨソン**（海保漁村）

ゲンビヤウエノジヨウ 源兵衛尉（熱田）伊勢の國司北畠氏の侍。玄齋と號す。永祿頃の人。

ゲンピン 玄賓 高僧。俗姓弓削氏。道鏡の族。河内國の人。唯識を興福寺の宣敎に學ぶ。性清素にして浮華を喜ばず。道鏡の侵紹を挾み、都を出でて備中國に隱る。後、平城天皇鰥蹶天皇の寵遇を受く。弘仁九年六月寂す。年八十九。續古今集の作家。

ゲンプ 玄武 俳人。神谷氏。江西房の門。一亭享、青白子、蠶居子。白山老人と號す。寛政十年正月十九日歿。年八十六。梅翁遠、一茶百話、和詩集の著あり。

ゲンプ 元孚 **モトサネ**（泰山元孚）

ゲンプ 原富 **トミゴラウ**（原富五郎）

ケンプウ 見風（河合）俳人。理右衛門と稱す。明治二年四月歿す。年七十三。

ゲンプウ 元風 俳人。金子氏。通稱伊助。今日菴。元夢の門。

ケンプク 玄伏 僧。越前丹生郡黒川村歡喜寺に住す。一名締淨。平泉寺功存に學び、寛政四年十一月十五日寂す。年五十五。

ケンプツ 見佛 高僧。陸奥松島に住すること十六年、法華を誦すること六萬部に至る。鳥羽天皇、佛像寶器を賜ひて之を旌表す。新後撰集の作家。

ケンプツ 健文（岩田）畜業。字は仲明、成章堂と號す。讀書を好み、書畫を愛し、賓客を喜ぶ。文化十一年五月二十七日歿す。年五十三。

ケンブン 賢文 **デンナイ**（建部傳内）

ゲンブン 玄文 明林の弟子。字は銀江。初め出羽梁慶寺に住す。長祿年間、越の龍澤寺を領し、後、出羽に旋り、瑞光寺を築きて老す。

ゲンペウ 玄豹 相撲取鯨浦能登の僧。和歌を能くす。寛暦頃の人。

ゲンペエ 源兵衛（青海）陸奥國津輕の漆工。もと池田氏。父源兵衛の志を襲ぎ、江戸に出で、青海太郎

左衛門に學び、韓德及び青海波紋を創製し、青海を以て氏とす。

ゲンペエ　源兵衛(一柳)　安藝侯の士。貞享元年事を以て其の族、余吾を刺し、巳も亦自殺す。妻與兵、生家の父母に再醮を迫まられ、納幣の前日、父母の家に自殺す。

ゲンペエ　源兵衛(中澤)　步兵少尉。遠賀縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十一月二百三高地に負傷して死す。

ゲンペエ　源兵衛(福田)　石川縣の人。居村の吏となりて、村利を擧ぐるに努力し、藍綬褒章を賜はる。明治三十九年歿す。

ゲンペエ　源兵衛(鐵屋)　ヒサシゲ(岡本尙茂)

ゲンヘン　顯遍　與福寺東南院の權僧正。新千載集及び新拾遺集の作家。

ケンポ　靈圓　シゲノリ(黒木茂矩)

ケンポ　健甫　セイザン(西山西山)

ゲンポ　玄甫(西)　長崎の外科醫。和蘭陀語の大通事たり。歸化人澤野忠庵を師とす。寛文中、江戸に來り、侍醫に遇み、法眼に叙せらる。

ゲンポ　玄圃(大江)　京師の儒者。名は資衡、字は衡圭。通稱久川親貞。寛政中歿す。年七十。著、友詩玉振集、書家異譜、古琴圖彙等。

ゲンポ　玄圃　ランス井(横谷藍水)

ゲンポ　玄輔　クワウシウ(柳原墓洲)

ゲンポ　元甫(荻生)　醫。通稱敎菴、仲山と號す。徂徠の訓父。寛永十四年五月十日歿す。

ゲンポ　元甫(藤堂)　津藩の國老。伊勢の人。三國地誌百二十卷を編む。寶曆十二年歿す。

ゲンポ　元甫(宮本)　顯醫。名は寛、字は士裕、夢園と號す。吉尾如淵の門。大垣藩士。後、高槻藩の醫員となり、慶應二年歿す。年七十四。腐科新撰、痲科須知の著あり。

ゲンポ　阮甫(箕作)　洋學者。名は虔藩、字は岸西、紫川、又成牛と號す。美作の人。津山侯の侍醫大庭の子。文政五年江戸に來り西洋醫術を學ぶ。嘉永六年魯國の使者長崎に來りし時、筒井肥前に隨行して面接す。明年條約締結の際、其の議に與る。安政二年蕃學調所の敎授となり、幕に擢でられて幕臣となる。文久三年六月十七日歿す。年六十五。

ケンポウ　乾峰(一世)　俳人。門村氏。卜養の門。初名松藏。貞五堂と號す。重頭の門。延享三年十月四日歿。年三十四。(二世)　一世の號。晨笨、眞六堂と號す。一世の門。明和七年四月二十七日歿。年四十七。(三世)　居初氏。初名乾雅。貞七堂と號す。二世の門。二つ日の著あり。

ケンポウ　巖峰　シドン　子曇

ゲンポウ　元鳳　セウヤウ(龜井昭陽)　ロアン(岡魯庵)

ケンポク　見朴(村井)　醫。熊本の人。名は能章、字は淳民、復陽洞眞人と號す。文政頃。明す。寛曆十年歿す。年五十九。又音律に精しく、能く縱笛を吹き、琵琶を彈ず。

ゲンポク　元穆(行德)　江戸の醫。筑後久留米の人。三國醫。名は灘。長春院法印と稱す。明治四年正月二日歿す。年七十二。

ゲンポク　玄朴(伊東)　醫。通稱敎菴、仲山と號す。祖徠の門。享保十二年歿す。名は蘐。字は士裕、夢園と號す。吉尾如淵の門。大垣藩士。後、高槻藩の醫員となり、慶應二年歿す。年七十四。腐科新撰、痲科須知の著あり。

ゲンポク　玄樸(室)　江戸の醫。筑後久留米の人。天和三年一月二十四日歿す。年六十八。

ケンホフ　玄法(歌僧)　新後拾遺集の作家。

ケンノミヤウブ　監命婦　女歌人。續後撰、續古今、風雅、新後拾遺諸集の作家。

ゲンミヤウ　テンワウ　元明天皇　天智天皇の第四女。諱は阿閇。草壁太子の妃。文武元正二帝の母。初め藤原宮に在り、後、平城に遷る。在位七年。葬六十一。倭銅、新古今集に出づ。

ゲンム　元夢　俳人。今日菴と號す。素丸の門。

ケンメイ　賢明　キヨヒサ(田中清久)

ゲンメイ　元明　シウザン(松下秀山)

ゲンメウ　元妙　歌僧。新千載集の作家。

ケンモツ　監物　畫人。狩野元信の弟子。

ケンモツ　監物(柴山)　茶人。千利休の門。秀吉に仕へて、聚樂に聚たり。

ケンモツ　監物(津田)　津田流砲術の祖。紀伊郡智郡の人。種子島に渡りて砲術を學ぶこと十餘年。天文十三年國に歸りて一家を興し、又和泉堺の鍛冶芝辻清右衛門に命じて、纖砲數門を作らしめ、弘く世に傳へしむ。

ケンモツ　監物(卷田)　石州濱の茶人。常菴。

ケンモツ　監物(長岡)　熊本藩の勤王家。本姓米田。名は是容、初名壹岐。西郷隆盛藤田東湖等と深く交る。一藩推して師表とす。安政六年八月十一日歿す。明治二十四年贈正四位。

ケンモツ　監物(齋藤)　櫻田刺客の一人。名は一德。一に周德。水戸志津明神の祠官。目的を遂げたる後、老中脇坂邸に投じて對件を上り、同六日劍のために死す。年三十九。

ケンモツ　監物(三好)　志士。名は淸房、閑齋と號す。字は顯氏、仙臺藩士。戊辰の際、大義を唱へて藩主慶邦を諫めしが用ひられず、八月十五日自刃す。年五十四。

ケンモツ　監物(丸田)　勤王家。大和十津川の人。警尾隊隊長の參謀たり。維新後幾もなく歿す。明治三十一年贈正五位。

ケンモツ　監物(千葉)　勤王の志士。名は良風。一に毛內有之介と稱す。下野の人。慶應三年十一月十九日伊東武明等と共に新選隊士に殺さる。

ケンモツ　監物(大條)　仙臺藩士。名は道直。是水と號す。明治十年歿す。年八十二。

ケンモツ　監物　タカカズ(三刀谷孝和)　ナホキヨ(堀直清)　ナホマサ(堀直政)

ゲンモン　玄門　詩僧。名は惠慶。安政年間、江戸小石川祕圓寺に住す。

ゲンモンサイ　玄門齋(高橋)　本傳三浦流の柔術家。名は辰歷。江戸小石川に道場を開く。天保七年五月歿す。年八十八。

ケンヤ　乾也(三浦)　陶器師。通稱陶藏。乾山派の末流。長崎に遊びて洋船製造の術を學び、後仙臺藩に招かれて軍艦を作る。これ我邦洋形造船の嚆矢なり。性磊落、奇行多し。明治二十二年十月七日歿す。年六十九。

ゲンヤ　玄治(岡本)　幕府の醫員。諸品と號す。平安の人。曲直瀨正慶に學ぶ。秀忠に召され、啓迪院と號す。正保四年四月二十日歿す。

ゲンヤ　玄也　禪僧。字は珍峯。大庵に參し、提撕十五年、得る處なきを以て走らんとし、平常疾る一野叟に激せられ、釋然大悟し、後、其の法席を嗣ぐ。

ゲンヤ　玄也　畫人。狩野元信の弟子。筆法、永德に似たり。

ゲンヤウ　元養　ヒヤクセツ　百拙

ゲンユウ　元雄(薩陀)　俳者。江村北海の門。播磨「國の人。

ゲンユウ　源雄　マサヨシ(藤原昌能)

ケンヨ　兼譽　法眼。覺興の子。新後撰集及び新千載集の作家。

ケンヨ　見譽　トキユキ(水島言之)

ケンヨ　顯譽　イウテン　祐天

ゲンヨ　玄譽　チカン　智鑑

ケンヨウ　謙耶(齋藤)　醫。細菌學者。群馬縣出身。傳染病研究所の技手。明治四十一年其の職に斃る。年三十五。

ゲンラウ　元朗　クワザン(熊本華山)

ゲンラク　殿樂(龜田)　京都の書家。名は廣友、通稱源兵衛、鳳尾と號し、寬政九年四月歿す。年七十三。

ケンラン　兼蘭　美濃國關の刀匠。文明年間の人。

ケンラン　兼蘭　美濃國關の古刀の鍛工。

ゲンラン　玄覽(佐藤)　畫家。京都の人。通稱源助。始め四條風を主とし、後、江戸に來りて谷文晁の畫法を慕ふ。明治十八年歿す。年六十八。

ゲンランサイ　玄覽齋(增井)　豊津藩の儒者。名は勝之、字は彦敬。松本正甫に學び、師の歿後、其の職を承ぐ。安永二年八月歿。年五十三。

ゲンランシ　玄覽子　ホクケイ(狹生北溪)

ゲンリ　元理(遠藤)　京都の書家。名は廣友、通疑五卷を著す。

ケンリヤウ　健良(福岡)　漁業家。福井縣の人。古川家に傳はれ、足尾銅山事業を完備せしむ。明治三十八年六月歿す。

ゲンリヤウ　兼領　美濃國關の刀匠。明應年間の人。

ケンリヤウ　見良(太田)　京師の醫。字は資齋。伊豫の人。晉て大洲侯に仕ふ。享年六十一。

ゲンリヤウ　玄良(小森)　蘭醫。美濃の人。名は義誓、綿瑞なた號等と號す。もと大橋氏。伏見の醫小森吉晴の養子。天保十三年從五位備後守に叙任し、十四年五月十三日卒す。年六十二。

ゲンリヤウ　玄亮　ヤホキチ(荻野八百吉)

ケンリユウ　見龍　シカウ　支考

ケンリユウ　建隆　僧。字は興曼。初め上州龍源寺に住し、後、下總芳顯寺に遷る。宮に召されて說法旨に稱ひ、號を天桂禪師と賜はる。

ケンリユウ　堅隆　禪僧。字は稱歎。出羽の人。養山の弟子。加賀大乘寺に住し、永天寺に移る。文明十七年十一月二十九日寂す。

ゲンリユウ　元龍(藤倉)　堀田侯の醫。勞ら詩を善くす。名は立言、字は汝公、鼻王と號す。文化年間の人。

ゲンリユウ　元龍　伊勢豊宮禪師寺の僧。國學を好み文化十一年本居宣長の門に入る。

ゲンリユウ　元龍(館)　醫者。越中國射水郡の人。名は成章、字は君厚、北洋と號す。江戸三河町に僑居して大に流行す。安政六年十一月十日鄕里に歿す。年六十五。

ゲンリユウ　玄龍　チアン(佐々木池庵)

ゲンリユウ　玄龍(藥科)　米澤藩の醫。天保元年本草彙考二十三卷を著す。

ゲンリユウ　玄隆　京都の俳人。後、幕氏。友貞の門。蓬夜舟の著あり。寛文頃の人。

ゲンリユウ　玄隆　ノブオキ(馬場信意)

ゲンリユウ　元隆　レンケイ　蓮溪

ゲンリユウサイ　玄龍齋　タイト(葛飾戴斗)

ケンリン　見林(松下)　京師の儒醫。衆ねて國學を善くす。名は慶雄、一に秀明、字は諸生、別に西峯散

人の號あり。浪華の人。見朴の子。古林見宜に醫を學び、堀河に業を開く。晩年高松侯に仕へ、著作を事にす。元祿十六年十二月七日歿す。年六十七。著す所、前王廟陵記、諸大臣執柄年表錄、將軍稱制年表錄、國朝佳節錄、異稱日本傳、公事根源集釋等。

ゲンリン 源琳(瓜生) 判官保の弟。初め林次郎と稱す。建武中、兄弟と共に兵を杣山に擧げて、王事に勤む。

ゲンリン 源鱗 **トウカウ**(澤田東江)

ゲンリン 玄林 **トウケイ**(小野東溪)

ゲンリン 玄琳(岡本) 江戸の醫。玄治の子。貞享元年九月二十二日歿す。年五十九。

ゲンレイ 元禮(中邑) 江戸の儒者。名は通方、太助と稱す。太宰春臺の門人。寛保元年歿す。

ケンレイモンヰン 建禮門院 **トクコ**(平德子)

ケンレウ 顯了 甲斐長延寺の僧。武田信玄の孫。慶長十八年大久保長安の事に坐して其の子と共に伊豆に流さる。

ケンレウ 見了 **ソワヤ**(古市宗也)

ゲンレウ 玄了 越中法城寺の住職。字は覺巖。大徹禪師の弟子。

ケンレキ 見櫟 **シンザン**(松下眞山)

ゲンレンシヤ 源蓮社 **ホンヨ** 本譽

ゲンロ 玄鷺 俳人。久留米藩士。名は富昌、通稱松本庄五郎。普雪堂と號す。初號三世四雪庵。明治三十一年二月死す。

ゲンロ 玄路(竹原) 熊本藩士。勘十郎と稱す。藩主重賢に擢でられて用人となり、良吏の名あり。

ゲンロ 玄路 **トウゲン** 統言

ゲンロク 源六(下曾根) 武田氏の臣。天正三年長篠に戰死す。

ゲンロク 源六(佐々木) **カツユキ**(佐久間勝之)

ケンワウマル 賢王丸 **ヨシヒサ**(足利義久)

ゲンヰ 源爲 法印。大納言爲民の子。新後撰集の作家。

ケンヱ 賢慧 高僧。空海と共に唐に遊ぶ。又勅を奉じて參內し寵遇を受く。佛隆寺に寂す。

ゲンヱ 玄惠 比叡山の學僧。虎關の弟。字は健叟。健軒、獨淸軒、洗心子と稱す。後醍醐天皇の侍讀。程朱の說を唱ふ。典故に通じ、足利尊氏及び直義に愛重せらる。庭訓往來の著あり。正平五年六月十日寂す。年八十二。續千載集の作家。

ゲンヱ 源慧 名古屋乘西寺の住持。國學を好み。寛政元年本居宣長の門に入る。

ゲンヱ 源惠 歌僧。大僧正。大納言賴經の子。續拾遺、新後撰、玉葉、續古今、風雅、新千載諸集の作家。

ゲンヱモン 源右衞門(大藏) 大藏流太鼓の祖。南都の樂人。金春及蓮の弟。

ゲンヱモン 源右衞門(片岡) 上總九十九里濱の漁夫。三代力と稱する船を造りて地引網を創む。

ゲンヱモン 源右衞門(石橋) 兵法家。承應年間の人。門人別木莊左衞門の事に坐して、罪を得。

ゲンヱモン 源右衞門(天野) **サクベヱ**(安田作兵衞)

ケンヱン 顯圓 嵯峨大覺寺大僧都。道我の法嗣。建武の亂、護良親王の吉野に走るに從ひて、忠節を竭す。

ケンヱン 蘐園 **ソライ**(荻生徂徠)

ゲンヱン 嚴淵(津輕) 弘前藩の支族。名は貞正。後、韓槩と改む。字は子壯、永孚と稱す。昌平黌に學び、藩に學館を創めて督學となり、尋いで藩宰に列る。後譴を得て屛居す。周易略說を著す。寛政中の人。

ゲンヱン 玄圓 歌僧。比叡山の大僧正。新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

ゲンヱン 玄淵(曲直瀨) 德川幕府の醫。親昌の子。父祖の稱道三を襲ひ、親俊と稱す。後、典藥頭に任ぜられ、延壽院と稱す。貞享三年歿。年五十一。著、醫戒常山方、實醫方、素問考、魚目明珠等。

ゲンヱン ホフシンワウ 玄圓法親王 後醍醐天皇の第十三子。母は從二位藤原守子。南都一乘院第二十二世の門主。興福寺別當。

ケンヲウ 劍翁 **セワヂ** 紹智

ケンヲウ 顯翁(藤村) 庸軒流の茶人。名は芳隆。一に吉隆。藤村正員の門。

ケンヲウ 謙翁 禪僧。一休和尙の師。

ケンヲウ 件翁 **ソワサ**(五世千宗左)

ゲンヲウ 玄翁 高僧。一に源翁に作る。越後の人。俗姓源氏。總持寺峨山の門弟。故ありて永平總持の兩寺に出入するを許されず。到る處に說法弘化す。那須野の殺生石をして祟をなさざらしむといふ。應永三年正月七日寂す。年七十一。

ゲンヲウ 元翁 **ホンゲン** 本元

ゲンヲン 元溫(前田) 蘭醫。元薩摩藩士。舊名杏齋、又信輔。明治三十四年歿す。年八十一。

こ

コ 固(齋藤) 歩兵中尉。石川縣出身。日露戰役に出征し、明治三十七年十月盛京省沙河に戰死す。

ゴア 語阿 **ウヂムラ**(東氏村)

コアヅマヒト 小東人(大倭) 養老律令の刪定に功あり。天平中、改めて宿禰の姓を賜はり、刑部少

輔となる。藤原廣嗣の事に坐して左遷せられしが、再び召されて、參河守に遷る。

コアフミ 古近江 三絃師。江戸の人。通稱石村源左衞門。或は曰く柏屋近江と。もと鼓胴の細工人。三絃の胴の從來楕圓形にて音調純ならざりしを今の形に改造す。

ゴアミ 五阿彌 **ナガユキ** 長行 **ナガヨシ** 長吉 **ナホユキ** 直行 **マサヨシ** 正賀 **マサウヂ** 正氏 **モリユキ** 盛行

コアン 固庵(伊藤) 京都の儒者。名は立誠。尾張藩に仕ふ。正德元年正月歿す。年七十一。

コアン 固菴(佐藤) 熊本の儒員。安藤省庵及び佐藤直方に從學す。名は實祐、字は自大、通稱長之進。もと京野氏。直房の養子となる。享保八年十二月十四日歿す。年四十一。

コアン 壺庵 **シカン** 至簡

コアン 古庵 **カアン**(淀屋个庵)

コイウ 賈友(小谷) 俳人。鈴山堂。享和元年京都に歿す。年九十。

コイウ 古友 俳尼。橋本氏。二世存義の姉。松かさねの著あり。

ゴイウ 吾友 京都の俳人。安永頃。

ゴイウ 五友 **アイザン**(武知愛山)

コイチ 小一(富山) 歩兵中尉。福島縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月高臺嶺に戰死す。

コイチ 戸市(島田) 海軍兵曹長。神奈川縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年十一月軍艦濟遠沈歿の際に死す。

コイチ 故一 **ヂユウスケ**(中村重助)

ゴイチ 吾一(達磨屋) 日本橋の書肆。通稱岩本伊三郎。無物老人、活東子、花の屋蛙麿と號す。和歌俳句を好み、世に珍書屋吾一と呼ばる。

ゴイチ 梧一(中野) 大阪の豪商。始め齋藤逢吉と稱す。幕府旗下の士。維新の際、官軍に抗す。明治三年特典を以て其の罪を免され、姓名を中野梧一と改め、塵埃仙人と稱す。七年山口縣令となり、尋いで商人となる。西南の役、兵糧器械の調達を命ぜられ、富巨萬に上る。後紙幣僞造の嫌疑を受けしが放免せらる。十三年突然自殺す。

ゴイチオンヰンクワンパク 後一音院關白 **フサザネ**(藤原房實)

コイチデウサダイジン 小一條左大臣 **モロタダ**(藤原師忠)

コイチデウセツシヤウ 小一條攝政 **タダヒラ**(藤原忠平)

コイチデウタイシヤウ 小一條大將 **ナリトキ**(藤原濟時)

コイチデウダジヤウダイジン 小一條太政大臣 **タダヒラ**(藤原忠平)

ゴイチデウダジヤウダイジン 後一條太政大臣 **タメミツ**(藤原爲光)

ゴイチデウ テンワウ 後一條天皇 諱は敦成。一條天皇の次子。母は上東門院彰子。在位二十年。壽二十九。

コイチデウナイダイジン 小一條內大臣 **タカフヂ**(藤原高藤)

コイチデウヰン 小一條院 名は敦明。三條天皇の長子。母は皇后娍子。長和五年太子に立ちしが、寛仁元年之を辭し、院號を賜りて小一條院といひ、上皇に准ぜらる。永承六年正月八日薨ず。年五十八。其の詠歌、後拾遺、金葉、詞花、玉葉諸集に出づ。

コイチベヱ 小市兵衞(新井) 姫路の藩士。靑蕃堂と號す。文化文政年間の人。愛泉に名あり。

コイチラウ 小一郎(川田) 男爵。土佐の人。三菱會社の幕僚。日本銀行總裁、貴族院議員たり。明治二十九年十一月七日歿す。年六十一。

コイチラウ 小一郎(三橋) **マサトキ**(間瀨正辰)

ゴイチラウ 伍一郎(鶴田) 舊熊本藩士。名は直好。明治九年十月敬神黨の擧に與し、事破れて自刄す。年四十八。

ゴイマデガハサダイジン 後今出川左大臣 **キンユキ**(藤原公行)

ゴイン 梧陰 **キ**(井上毅) **フイチ**(林孚一)

コウ 鴻(矢田堀) 舊幕府の士。景藏と稱す。初名敏、字は孟彰。本姓荒井氏。軍艦奉行に進み、讚岐守と改む。維新後、沼津兵學校長となり、後海軍工部に歷任し、明治二十年十一月十七日歿す、年五十九。

コウ 鴻 **ソワシウ**(赤松滄洲)

コウ 貢(乳々井) 津輕藩士。通稱建福。藩の勘定奉行たり。後、罪を得。寛政四年四月歿す。

コウ 弘(內田) 海軍大尉。新潟縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年五月三日旅順口閉塞事業に與りて戰死す。

コウ 弘 **タイユ**(赤松太庾)

コウアミ 功阿彌(菊池) 水戸の裝劍彫工。通稱與五郎。

コウアン 洪庵(緒方) 蘭醫。足守藩士。惟因の季子。名は章、字は公裁、三平と稱す。坪井信道、宇田川玄眞に學ぶ。藩侯の侍醫となり、後召されて幕府の醫官となる。文久三年六月十日歿す、年五十四。

コウアン 恒庵(天沼) 儒者。名は爵、字は樂善。初名有美、字は子濟。淨遵の子。幕府に仕へて伍長となる。一旦職を棄てて川越に歸り學を講ず。寛政六年歿す。年五十二。

コウアン 恒庵(伊藤) 江戸の儒者。名は履仁、字は天爵。文化七年歿す。

コウアン 恒庵 クワウショ(岡田篁所) デイケイ(伊地知貞馨)
コウアン 弘庵(藤森) 勤王家。江戸の儒者。通稱恭助。字は淳風、名は大雅。柴野碧海、長野豐山等に學び、詩及び書を能くす。土浦侯に聘せらる。嘉永六年海防備論及び芻言を著す。安政中、其の言論人心を鼓するを以て江戸を逐はる。後赦されて歸り、文久二年歿す。
コウアン 弘庵 ムネノリ(寺島宗則)
コウアンサイ 弘安齋 トシナガ(二世壽命)
コウイ 公伊 高僧。園城寺の積藥に投じて顯密の二教を學ぶ。性磊落不羈、酒を好む。長承三年十二月寂す。
コウイ 興意 ジヤウゲウ 常曉
コウイ 興以(狩野) 畫家。一に興意に作る。名は定信、初め彌左衛門、後彌兵衛と改む。法橋に叙せらる。寛永十三年歿す。
コウイウ 公遊 ソウテツ(中村宗哲)
コウイウ 公猷 歌僧。律師。新古今、新勅撰、續後撰、續拾遺諸集の作家。
コウイワ 公猷 マサミチシンワウ 正道親王
コウイン 興胤 滿仁親王の子。尊興の弟。權僧正。東大寺別當。安祥寺務を兼ぬ。
コウイン 公胤 三井寺の僧正。源憲俊の子。大貳僧正と稱す。源空の法を嫌ひて決疑抄を作り、後源空と語りて之を燒く。建保四年六月二十日寂す。年七十三。新古今集の作家。
コウイン 孔寅(長山) 畫家。出羽秋田の人。大阪に住す。字は子亮、紅園と號す。五嶺、牧齋の別號あり。四條風の畫を能くす。
コウウ 恒宇 シユンサイ(林春齋)
コウウン 吼雲 俳人。仙花の從者。元祿の人。
コウウン ホフシンワウ 恒雲法親王 龜山天皇の皇子。早世す。新千載集の作家。
コウエイ 弘永 大阪の俳人。維舟の門。
コウエキ 興益(狩野) 狩野派の畫人。初め平次、後彌右衛門と改む。
コウエフ 紅葉(尾崎) 小說家。通稱德太郎。明治十八年硯友社を興して筆を執る。大學に居る二年にして退學す。以後文壇の驍將たり。三十六年十月三十日歿す。年三十七。著、色懺悔、多情多恨、不言不語、金色夜叉等。又俳句を能くす。
コウエフテイ 紅葉亭 シカナリ 鹿成
コウエン ホフシンワウ 公延法親王 閑院典仁親王の子。俗名保業。或は曰く方仁と。安永六年毘沙門堂に入り、天明六年關東に歸りて隱居し、安樂心院と號す。享和三年四月二十七日寂す。年四十一。
コウカイ 公海 高僧。花山院定熙の猶孫。左少將忠長の子。慈眼大師に從ひて剃髮し、其の後を繼ぎて寛永寺に住す。晩に京師に退きて、元祿八年寂す、年八十九。
コウガイ 孔凱 キウザン(松井九山)
コウガウ 公豪 大僧正。叡山天台の座主。三條實房の子。續古今、續拾遺、新後撰、新拾遺、新續古今諸集の作家。
コウカク ホフシンワウ 弘覺法親王 大覺寺の門主。邦良親王の子。大金剛院と號す。
コウキ 弘毅(中村) 舊高知藩士。工部少輔、元老院議官に至る。明治二十年薨ず。
コウキ 洪基(渡邊) 貴族院議員。越前武生の人。明治十九年大學總長となり、二十三年墺國特命全權公使に轉ず。公私の會に長たるもの三十六の多きに至る。三十四年五月二十四日薨ず。年五十四。
コウキ 公祺 トウケイ(井上東溪)
コウギ 興義 畫僧。近江國三井寺に住す。
コウキヤウ 古右京 ミツノブ(狩野光信)
コウキン 公均(吉田) 畫家。名は均、江上漁夫と號す。越中に生る。慶應年間の人。
コウキン 公錦 フエウ(毛利扶搖)
コウキン 公謹 クワウタク(細井廣澤) セツサイ(岡節齋) キヨシ(松山清)
コウクウ 勾空 加賀の俳人。柳陽軒。芭蕉の門。卯辰集、北の山の著あり。
コウクワウシヨウ 興光鐘 モウシヨ(新興蒙所)
コウクワン 公觀 山城醍醐山の僧。字は成就。元永九年定海に傳法灌頂を受く。
コウクワン 公寛 法師。新拾遺集の作家。
コウクワン 公寛(吉田) 儒者。越前敦賀の人。宗左衛門と稱す。猪飼敬所の門に入り、賴山陽に交る。教恤に力を盡す。享年八十五。
コウクワン 公寛 カクリン 覺霖
コウクワン シンワウ 公寛親王 東山天皇の第三子。母は內侍局。初め圓滿院を主どり、又徵賀院に徙る。寛尊と稱し、後東下して公寛と改め、輪王寺にて傳法灌頂す。享保二年三月二十四日二十二歲にして一品天台座主となる。
コウケイ 鴻卿 ガクホ(井上學圃)
コウケイ 弘卿 エンモク(吉田淵默)
コウケイ ホフシンワウ 公啓法親王 ヒロヨシシンワウ 廣義親王
コウケツ 鉤月 僧。中院家に和歌を修めしが、後除名せらる。新題林集の著あり。享保頃の人。
コウケツ 公潔 韶仁親王の子。初め聖護院に入る

を約す。後更に權中納言藤原寛孝の養子となり、侍從に任ぜられ、禁色昇殿を聽され、右近衛中將に累進し、天保七年五月薨ず。年十九。文を好み、又筆を善くす。
コウケン 弘賢 僧正。鎌倉若宮の別當。新後拾遺集の作家。
コウケン 公儉 マサノリ(堀正禮)
コウケン 恒軒(稻生) 儒醫。名は正治、字は見茂。宮津侯永井尙征及び其の子尙長に歷仕す。延寶八年歿す。年七十。
コウケン 鉤軒 京都の俳人。若江氏。名は令之。似船の門。
コウケン ホフシンワウ 公顯法親王 コウシヤウホフシンワウ 公璋法親王
コウゲン ホフシンワウ 公現法親王 ヨシヒサシンワウ 能久親王
コウコウ 鴻溝(松田) 江戸の儒者。名は久徵、字は子文。寶曆四年四月十二日歿。
コウコウ ホフシンワウ 恒弘法親王 常盤井直明王の子。滿仁親王の孫。後崇光院の猶子。勸修寺に入り、永正六年薨ず。
コウコク 興國 ゲンシン 玄信
コウコク 鴻谷 タダマサ(山內董正)
コウサ 鴻佐 タザン(堤他山)
コウサイ 公濟(最里) 越前の醫者。名は幹。六右衛門の季子。京師に住す。文化頃。
コウサイ 恒齋(吉田) 京都の儒者。名は武明、通稱力五郎。如玉の第五子。久米訂齋に學ぶ。文政元年七月四日歿す。年四十六。
コウサイ 恒齋(片山) 津藩の儒者。名は盛器、字は君彝、通稱利助。嘉永中歿す。年六十八。
コウサイ 恒齋(矢野) 江戸の儒者。名は道積、字は元懷。寶曆三年七月二十四日歿。
コウサイ 恒齋(早田) 舊平戸藩士。名は彝憲、字は伯弼、治五平と稱す。吉田秋陽に就きて陽明學を修む。藩の權大參事たり。明治七年三月五日歿す。年四十九。
コウサイ 弘濟(伊藤) 京都の儒者。通稱壽賀藏。享保三年京都に歿す。
コウサイ 弘齋(小川) 儒者。名は成材、通稱茂輔。東里の子。弘化二年八月歿す。
コウサイ 弘齋(今井) 江戸の儒者。字は將興、別號魯齋。元祿二年正月十二日歿す。年六十八。
コウサイ 弘齋 リヨウコ(卷菱湖)
コウサイ 興齋(宇田川) 蘭學者。名は滈、紅海樓と號す。津山藩士。安政年間江戸に住す。
コウサイ 興齋 タンシン(狩野探信)
コウサイ 厚齋(深田) 尾張の儒者。名は正純、一に正韶に作る。字は奐之、通稱佐市郎。遜性齋、啓德論の著あり。天明四年歿す。
コウサイ 公栽 コウアン(緒方洪庵)
コウサイ 溝材 通譯師。柳江齋と號す。
コウザウ 公三(鈴木) 砲兵大尉。德島縣人。日露の役に從ひ、明治三十八年三月一日戰死す。
コウザウ 興三(中村) 國學者。舊高松藩士。名は尙輔。蘚舍と號す。明治二年皇學寮の教授となり、次いで督學を兼ぬ。十二年七月八日歿す。年七十一。蘚舍歌集の著あり。
コウザウ 鴻藏(黑澤) 海軍大尉。兵庫縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年五月十五日旅順口外に戰死す。
コウザン 鴻山(高井) 信州高井郡の豪家。通稱三九郎、一に鴻臺と稱す。文人墨客を愛す。明治十年頃歿す。年八十餘。
コウザン 鴻山(平林) 江戸の書家。東嶽の子。可儀と稱す。文政四年歿す。
コウザン 工山 俳人。尾張に住す。
コウザン 恒山(坂田) 羽州の兵法家。拳法に達す。之を柔道と云ふ。
コウザン 恒山 ハウキウ(堀田方舊) リウケイ(畑柳啓)
コウザン 緱山(野々山) 畫人。彌兵衛と稱す。名は正禎、字は子祥。狩野美信の門。法眼に叙す。晩年江戸根岸に住す。
コウシツ 公質 キザン(星野耆山)
コウジツ 興實 リヤウハン 良範
コウジツ 公實 コザン(酒井虎山)
コウジフ 公什 叡山の座主。般若院大僧正。實隆の子。新後撰、玉葉、風雅諸集の作家。
コウシヤウ 公章(土屋) 越前鯖江藩の侍醫。名は煥、通稱得所。伊東玄朴の門。牛痘術の普及に盡力す。慶應三年正月十五日歿す。年五十四。
コウシヤウボサツ 興正菩薩 エイソン 叡尊
コウシヤウ ホフシンワウ 恒性法親王 後醍醐帝の皇子。大覺寺門跡第十代。大覺寺宮と稱す。身を釜水に托し、越中國射水郡二塚に薨ず。
コウシヤウ ホフシンワウ 公璋法親王 輪王寺第七世の門主。閑院典仁親王の子。俗名保和。方宮といふ。安永三年二品に叙せられ、五年七月十日寛永寺に薨ず。年十七。
コウジヤク 恒寂 ツネサダシンワウ 恒貞親王
コウシユク 功叔 僧。茶道を千利休に學び、山崎寶寺の傍に住し、妙喜庵と號す。豐臣秀吉の恩遇を受く。
コウジユン 恒順(七里) 眞宗の僧。越後飯塚村の人。本山の執事たり。明治三十三年一月寂す。年

六十六。
コウジユン 公順 三井寺法印。續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。
コウジユン ホフシンワウ 公遵法親王 輪王寺五世の門主。俗名保良。中御門天皇の第二子。母は權典侍濟水谷實業の女。天台座主となり、三后に准ぜられ、一旦辭職して隨自意院宮と號し、公啓親王の薨後、再任し、又退隱して隨宜樂院宮といふ。天明八年三月二十五日薨ず。年六十七。
コウショウ 公承 太政大臣藤原實冬の子。僧正。天台座主。文明十七年十一月二十八日寂す。
コウジョ ホフシンワウ 恒助法親王 後深草天皇の第七皇子。金龍寺宮と號す。圓滿院第二十一世の門主。延慶三年七月薨ず。年二十。或は云ふ二十三と。新後拾遺集の作家。
コウシン 興信 法師。俗名出羽守紀宗信。新後撰集及び續千載集の作家。
コウシン 興心 京師の醫僧。文曆嘉禎頃の人。
コウシン 厚信(新庄) 舊岡山藩の志士。岡山市長たり。明治三十六年三月歿。年六十九。
コウシン 工呻 江戸の俳人。山下町に住す。
コウシン 弘眞 醍醐寺の法務。東寺の長者。名は文觀。後醍醐天皇の叡旨を奉じて北條高時を討つ謀議に預り、流に處せらる。正平十二年八月化す。
コウスヰサイ 紅翠齋 シゲマサ(北尾重政)
コウセイ 公成(河郁) 京都の俳人。慶應四年歿す。年六十一。
コウセイ 公聲 テイショウ(都賀庭鐘)
コウセイク 孔生駒 セイク 生駒
コウセウ 公紹 醍醐權僧正。中納言實世の子。新後撰集及び續千載集の作家。

コウセウケン 後嘯軒 ゲンコク(溝口源谷)
コウセウ ホフシンワウ 公紹法親王 俗名影信。有栖川韶仁親王の子。雅宮といふ。文政十年六月二日關東に下向す。
コウセキ 興碩(狩野) 畫人。福井藩の醫。狩野永叔の門。了章と號す。元文四年三月六日歿。年七十三。
コウセン 梈船(永田) 禪僧。長崎の人。名は道鱗、字は禹門。半雲栖主、蓮華道人、松古堂の數號あり。詩を廣瀨淡窓に學び、一宗の碩學を以て推さる。明治の初め、布教の事に就きて管長と議合はず。乃ち居士となり、明治十七年歿す。
コウゼン 公禪 法印。玉葉集の作家。
コウゼン 恒善(歐陽) 長崎の書家。其明の父。
コウゼンジノミヤ 興善寺宮 ダウシウホフシンワウ道周親王
コウソウケン 後素軒 モリクニ(橘守國) ヤスクニ(橘保國)
コウソン 莊郁(和田) 越後小千谷の俳人。通稱忠右衞門。弘化年間の人。
コウソン 莊郁 トヨヒコ(岡本豐彦)
コウダイ 公大(室町) 伯爵。舊公卿。貴族院議員たり。明治四十年九月七日卒す、年四十。
コウダウ 惶堂(志賀) 儒者。名は重職、字は士由。明治六年十一月京都に歿す。年三十七。
コウダウ 弘堂(渡邊) 儒者。名は毅、通稱新藏。寶曆十年十一月京都に歿す。年七十二。
コウダウ 弘堂(島村) 出石藩の文學。名は鑑、字は千金、通稱條甫、後、衛平と改む。但馬豐岡の人。下村信來の子。藩臣島村光猋の養子。維新後、勘定奉行、出石藩小參事を勤め、九年一月歿す。年五十五。

コウダウ 公道 ネンサイ(原念齋)
コウタウノナイシ 勾當內侍 後醍醐天皇の宮人。後新田義貞に賜ふ。義貞の越前金崎に在るや、慕ひて其の地に向ひ、途に其の戰歿を聞き、琵琶湖に投じて死す。或は云ふ尼となりて嵯峨に隱ると。
コウタウノナイシ 勾當內侍 後土御門帝より後柏原帝に至る迄の中に數人の內侍ありて皆土佐風の畫を能くす。但其の傳詳ならず。
ゴウダ テンワウ 後宇多天皇 諱は世仁。龜山天皇の第二子。母は後京極女院藤原佶子。在位十三年。位を東宮熈仁に讓り、薙髮して金剛性と號す。元亨四年崩。壽五十八。其の御製、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集に出づ。
コウチウ 興儔 高僧。字は心越、一に東皐と號す。もと明人。延寶五年渡來。德川光圀に聘せられて祇園寺開山となり、元祿九年九月晦日寂す。年五十七。書畫琴及び篆刻を善くす。
コウチヤウ 公長(上田) 浪花の畫家。字は有秋。嘉永頃の人。著、公長畫譜、木雲畫譜。
コウチヨウ 公寵(今村) 畫人。雕川文麟の門。越前敦賀の人。
コウチヨウ ホフシンワウ 公澄法親王 ヒロミチシンワウ 弘道親王
コウチン ホフシンワウ 恒鎭法親王 梶井第三十二世の門主。龜山天皇の皇孫。恒明親王の子。應安五年正月三日薨ず。
ゴウテイ 五雨亭 エウセン(芳村天仙)
コウテウ 公朝 大僧正。遠江守朝時の子。續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新後拾遺諸集の作家。

コウテウ 後凋(森本) 岡本政次郎の三男。森本氏を繼ぎ深く南畫に通ず。京都及び奈良帝室博物館長に任ぜらる。明治三十八年五月十八日歿す。年五十九。
コウト 公圖 セイガン(梁川星巖)
コウトク 興德 大和慶田寺の住職。字は海門。
コウトクコウ 恒德公 タメミツ(藤原爲光)
コウネイ 公寧 ヨシナガ(松平慶永)
コウネン 孔年(關根) 江戸の畫人。名は議勝。通稱錄之助。
コウバイノニヨウバウ 紅梅女房 歌人。右大辨時輔の妻。村上天皇の時代。
コウハウ 弘邦(菅原) 俳人。字は古音。寶曆十二年京都に歿す。年五十一。
ゴウハウ 杲寶 高僧。洛東八阪吉祥園院の住職。東寺觀智院の開祖。學識あり。その師賴寶、弟子賢寶と共に東寺の三寶と稱せらる。著述註釋の書、頗る多し。文和四年二月足利直冬當寺に籠りし時、流矢に中りて死す。
コウバウ 公望 ロクザン(小田村郞山)
コウハウ シンワウ 弘保親王 孝仁天皇の子。妙法院を繼ぎ、名を敎仁と改む。二品一身阿闍梨、天台座主。嘉永二年十二月牛車宮中に出入するを聽さる。
コウハク 興伯(狩野) 狩野派の畫人。興以の門。
コウハン 公範 ウンシツ 雲室
コウビ 公美 キエン(柳澤淇園)
コウヒツ 公弼(大草) 江戸の國學者。字は德夫、通稱大次郞、野木瓜と號す。
コウヒツ 公弼 ウンショ(蒔田雲處)
コウフクジ 興福寺 大和の刀匠。建武年中の人。忠光坊承仕法師と稱す。或は云ふ。承久頃の人。乙太郞と同人にして東大寺に住すと。

コウフクヰン 弘福院 ヨシツグ(藤原眞繼)
コウフクヰンダイジン 弘福院大臣 タネツグ(藤原種繼)
コウブン テンワウ 弘文天皇 諱は大友。天智天皇の長子。博學多通、詩文を善くす。天智天皇の十年太政大臣に任ぜられ、後、位を繼ぎしが、叔父大海人皇子(天武天皇)と戰ひて崩ず。在位僅に八ケ月。明治三年弘文天皇と謚す。
コウヘイ 公平 サントウ(小澤山東)
コウヘイ 公平(佐藤) 步兵中尉。福島縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年十月盛京省本溪湖に戰死す。
コウヘイ 公平(庄司) 步兵中尉。新潟縣出身。明治二十七八年戰役に出征中、病死す。
コウヘイ 孔平(天愚) キウコク(荻野鳩谷)
コウベン ホフシンワウ 公辨法親王 輪王寺門跡第三世。後西院天皇の第十六子。母は六條局。一品、天台座主。正德六年四月十七日寂す。年四十八。
書を狩野常信に學ぶ。
コウホ 紅圃 江戸の俳人。寒川氏。立圃の門。
コウホ 厚甫(後藤) 京都の儒者。芝山の季子。名は師張、通稱小三郎、小芝山と稱せらる。天明六年四月五日歿す。
コウホ 興甫(狩野) 狩野派の畫人。興以の弟。彌右衞門と稱す。兄に學ぶ。
コウトク 恒德(太田) 儒者。通稱熊太郞。東谷、又不知庵と號す。盛岡藩の侍講たり。廢藩後、高野山に聘せられ、又東京に移り、明治三十四年三月二十四日歿す。年六十八。
コウマノミヤウブ 小馬命婦 女歌人。攝津守藤原棟世の女。拾遺、後拾遺、新古今、玉葉、新千載諸集の作家。

コウヤ 興也(狩野) 畫家。初め理右衞門。後、刑部と稱し、又名を伯甫と改む。法橋に叙せらる。
コウユ 公瑜 ワウキン 王謹
コウヨ 公譽 叡山椙嚴院の僧正。續拾遺集及び玉葉集の作家。
コウヨク 公翼 ロアン(岡魯庵)
コウラン 紅蘭 女傑。梁川星巖の妻。詩を善くし、又畫を竹洞に學ぶ。明治十二年三月歿す。年七十六。
コウリユウ 興隆(唐金) 詩人。和泉岸和田の豪族。梅所と號す。著、梅所詩稿。
コウレウ 紅蓼 ビンゴノスケ(兒島備後介)
コウヰ 厚爲 加賀の俳人。河地氏。芭蕉の門。
コウヱ 公惠 日吉別當法印。三條實房の子。續千載集及び續後拾遺集の作家。
コウヱ 恒惠 後白河天皇の第九皇子。圓滿院門跡第十一世。建永元年薨ず。
コウヱン 鴻遠 ダイロク(松浦大麓)
コウヱン 紅園 コウイン(長山孔寅)
コウヱン 公圓 僧都。心如院に住す。中納言經家の子。金葉集の作家。
コウヱンノハハ 公圓母 二條關白の女。後拾遺集の作家。
コウン 孤雲 タカトモ(西大路隆共) クワイサウ 懷裝
ゴウン 五雲(三谷) 畫人。名は粲、字は子如。松村月溪の風を慕ふ。
ゴウン 五雲 京の俳人。岡氏。太祇の門。
ゴウンテイ 五雲亭 サダヒデ(橋本貞秀)
ゴエイ 午影 俳人。勝見氏。五曲庵。白羽の門。
コエイトク 古永德 エイトク(狩野永德)
コエキクワン 古易館 ハクガ(新井白蛾)
ゴエフ 五葉 俳人。田丸氏。通稱新九郞。畫中園と號す。玄武の門。

ゴオシコウゲナイダイジン　後押小路内大臣
キンタダ(藤原公忠)
コオヂ　小祖父(阿部)　萬葉歌人。一に小路に作る。從五位下武藏守。
コオユ　小老(日置)　歌人。萬葉集の作家。
コオン　古音　俳人。大倉氏。近道幾子烏の著あり。
コガ　呼我(吉原)　儒學者。龍谷宕陰の門。名は順、字は仲馴。韶南、又有鄰翁と號す。吉原守捌の養子。伊豆三島に私塾を開く。陸軍教授たり。明治三十三年三月二日歿。年五十九。書及び篆刻を能くす。著、韶南文集。
コガイ　瑚海　**チユウサン**　仲珊
コガイ　古厓(宮崎)　儒者。名は忠、字は舜臣。元文四年八月京都に歿す。年五十三。
コカウ　古香(村井)　熊本藩醫。名は禎、字は子陽。勞ら養童に通ず。
コカウ　故考　俳人。通稱岸屋庄右衞門。蜈考の門。
コガウ　小督　女歌人。法眼行濟の女。昭訓門院に仕ふ。續千載、續後拾遺、新千載諸集の作家。
コガウ　小督　女歌人。田樂道遠の女。懷子內親王家に仕ふ。新千載集及び新後拾遺集の作家。
コガウ　小督　女歌人。中務卿宗尊親王家の女房。
コガウ　小督　高倉帝の寵妃。權中納言藤原成範の女。坊門院を生む。或は云ふ。藤原通憲の季女。三條小河に居り、小河殿と稱すと。爲に建禮門院の寵衰へしかば、憤懣怒りて尼となして之を遠ふ。時に年二十三。後大堰川に投じて死す。
コガウノツボネ　小督局　**マンノカタ**　萬の方
ゴカウ　吳江(荒木)　江戸の書家。名は克之、字は子猷、通稱長藏、東水と號す。寛政五年五月二十日歿す。年六十五。
ゴカウ　吳江(藤田)　一に蒼山落の世臣。名は鑒、は鑒草。藤森天山に學ぶ。戊辰の役、藩の參謀となり、長岡の兵と戰ふ。明治十八年歿。
ゴカウランホンニダウツグ(藤原師綱)　後香園院入道　モロ
コカク　壺角　京の俳人。吉田氏。巴人の門。
コカク　鼓岳(西)　肥前の儒。名は贊、字は叔襄、芳隣舍と號す。草場佩川及び古賀侗庵に學ぶ。芳隣舍詩鈔の著あり。島津氏の艦に依りて生徒を教授す。安政四年等中の奇勝を探らんとし、多羅山の絕頂に凍死す。
コガク　鼓岳　**コモン**(櫻田虎門)
ゴガク　古嶽　**ソウタン**　宗旦　畫家。僧後の人。大阪に住す。
ゴガク　五岳(福原)　畫家。俗稱を市郎兵衞と稱す。大雅に學びて人物畫に長ず。
ゴガク　五岳　眞宗の僧。豊後國日田願正寺に住す。平野氏。名は陶慧、古竹と號す。明治二十六年三月三日寂す。年八十三。
コガクセンセイ　古學先生　**ジンサイ**(伊藤仁齋)
コガクダウジン　古學道人　**リツサイ**(小南栗齋)
コガクバウ　古河公力　**シゲウヂ**(足利成氏)
コガクレラウ　木隱翁　**ナタリ**(澤田名垂)
ゴカシハバラ　テンワウ　後柏原天皇　諱は勝仁。後土御門天皇の皇子。母は贈皇太后源朝子。大永六年四月崩ず。春六十三。
ゴガダジヤウダイジン　久我太政大臣　**マサザネ**(源雅實)
ゴガナイダイジン　久我內大臣　**マサミチ**(源雅通)
ゴガメヤマ　テンワウ　後龜山天皇　諱は惠成、長慶天皇の第。在位二十年。神器を後小松天皇に傳へて、兩統の爭、始めて一に歸す。其の御製、新撰古今集に出づ。
コカエン　五架園　**ナタリ**(澤田名垂)
コカエン　古硯(大石)　畫家。狩野常信の門人。
コカエン　古硯　畫僧。名は明譽、鷹舟と號す。初め大和國郡山西嚴寺に住し、後京師法恩寺に徙り、晩に東山西岩倉に退隱し、享保二年五月二十三日寂す。初め狩野永納に學び、後雪舟の風を慕ふ。
コカン　古硯　**ジンセン**　仁泉
コカン　故巖(澁谷)　國學者。越前の人。通稱嘉之丞。松平昌勝に仕ふ。故ありて島寺村に閑居し、歌を詠じて獨り樂しむ。隣女百首の著あり。
コキウ　古臼　俳人。許六の門。
コキウ　壺邱　**フエウ**(毛利扶搖)
コキウ　五休(大岩)　俳人。通稱四郎兵衞。蕙明庵と號す。安政年間江戸に住す。
コギダウ　古義堂　**マサズミ**(鹿持雅澄)　**ジンサイ**(伊藤仁齋)　「郎」
コギチラウ　吾吉郎　**ゴロクラウ**(野老山五六)
コギツネ　小狐　越前福井の儒師。天明頃の人。妙技の譽あり。
コキデン　チユウグウ　弘徽殿中宮　**モトコ**(藤原源子)
コギフ　胡及　元祿の俳人。芭蕉の門。
コキヤウ　居敬　**セウキヨウ**　昭恭
コキヤウ　古鏡　**ミヤウセン**　明千　「經」
コキヤウコクドノ　後京極殿　**ヨシツネ**(藤原良

コキヤウゴクヰン　後京極院　**キシ**(藤原藤子)
コキヤウセイ　古狂生　**ミキサブラウ**(穎三樹三郎)
コキユウ　古弓(土田)　弓術家。幕年戶藩士。名は宣次、通稱岩次郎。明治二十一年五月十三日歿す。年八十一。
コク　谷(古郡)　步兵少尉。初木疑人。日露戰爭に從ひ、明治三十八年十月十六日病死す。
コク　國　**ベイサンジン**(岡田米山人)
コク　克　**サンセイ**(小倉三省)
コグ　古愚　**ハククワク**(遠藤白鶴)　「齋」
コクアウラウジン　谷鶯老人　**井サイ**(玉木葦)
コクアン　克庵(八尾)　書家。名は維徳、字は孝聲、通稱景復。もと喜三郎と稱す。
ゴクウネン　悟空念　高僧。太宰府の人。業を承天寺の塔主に受け、寛元中、宋に入り、歸朝後、文永九年十月八日寂す。
コクガ　穀我(稻垣)　俳人。通稱猶藏。綠葉亭、又雨雀園と號し、安政年間江戶に住す。
コクガ　谷我(梅暮里)　(初世)小說家。通稱反町與左衞門、初名三郎助、露亭と號す。久留里侯の臣。大目附たり。本所埋堀の邸に居る。文政四年九月三日歿。年七十二。著、頓城買二筋道。(二世)
オトヒコ　(萩原乙彥)　「す。二世晉阿の門。
コクカウ　國香　俳人。堀氏。二十日坊、露菊人と號す。
コクカウ　國香(中村)　儒者。上總夷隅郡の人。字は子蘭。居總志料の著あり。天保頃の人。
コクガン　國巖　**タイサ**　大佐
コクキヨウ　國興(桂川)　蘭醫。甫賢の長子。字は綠卿。曾祖の號月池を襲ぎ、又甫周と稱す。幕府の侍醫たり。安政四年和蘭字彙を刊行す。
コククワ　國華(松永)　名古屋藩の儒者。名は德永、號藏と稱す。尾張の人。文化元年歿す。年七十七。
コククワ　國華(西川)　儒醫。近江の人。醫を東皐に學び、醫を桃源に學び、越前侯に仕ふ。通稱元章、名は瑞、字は子瑞。江戶に住す。其の詩三萬八千首に至る。文政の初に歿す。
コククワイ　國鬼　**シウチン**
コクケイ　國景　**ケイシュン**(南部景春)
コクゲン　古愚軒　**リツザン**(柴野栗山)
コクゲン　黑犬　**アイザン**(武智愛山)
コクグンボ　谷玄圃　**ゲンホ**(横谷玄圃)
コクザウサン　穀藏院　**トシマス**(前田利太)
コクザン　穀山(小田)　江戶の儒。名は纘章、字は子文。越後頸城郡竹直村の人。片山兼山に學ぶ。文化元年六月六日歿。年六十三。著、周易古傳、尙書古傳、毛詩古傳、論語異太成、越風舊歌、穀山子、穀山文集。
コクシセイ　黑指生　**シキヨウ**(關黑恭)　「秋」
コクシヤウジドノ　國清寺殿　**ノリアキ**(上杉憲)
コクシュンロウ　國春樓　**エイセン**(池田英泉)
コクシヨウ　國松(狩野)　畫人。鈴勢の季子。早折す。
コクシンサイ　谷神齋　**リユウミン**(佐藤隆眠)
コクズキ　國瑞　**ホシウ**(桂川甫周)
コクセウ　黑樵　**ネイショ**(岡田寧處)
コクセツ　黑雪(觀世)　觀世家九代の猿樂師。元尙の長子。名は身愛、左近太夫と稱す。又書を本阿彌光悅に學ぶ。寬永三年死す。
コクセンダウ　黑仙堂　**ゲイドウ**(湯川甕洞)
コクソン　國村　俳人。加茂氏。巢兆の門。
コクタウ　黑稻　**ダイゴラウ**(二代三桝大五郎)
コクチ　黑痴　**ダウエイ**(林道榮)　「國甫の門」
コクヂヤウ　國杖　俳人。平野氏。白尉號と號す。
コクチユウ　克忠(大塚)　肥前の儒者。名は顯。佐賀藩に仕ふ。安永七年歿す。
ゴクデフサキノナイダイジン　後九條前內大臣
モトイヘ(藤原基家)
コクトク　克德(益田)　實業家。鳳の二男。佐渡國相川の人。後慶應義塾に學び、又歐米を巡視す。歸朝後、東京海上保險會社を創立す。明治三十六年四月九日歿す。年五十二。茶道及び遊園に通ず。
コクハイ　國拜　古刀の鍛工。山城國の人。來氏。
コクフウ　谷風　俳人。中村氏。谷德の門。二十日會の著あり。
コクブン　國分　嘉錄頃の刀匠。大和國廣瀨郡國分寺の門前に住す。刀銘國分の二字を用ひ、又菜枝、若くは瀧の一字を刻す。或は云ふ、千手院派の刀匠。名は乘持。金王の子。又重弘の第四子。國分寺の僧なりと。
コクブンジ　國分寺　備前國長船の刀匠。助國を見よ。
コクホ　國步　俳人。元祿寶永頃。芭蕉の門。
コクホ　國甫　俳人。吉田氏。通稱彌十郎。椿隣菴と號す。三世宴和の門。復古集、その跡、しがらみ　「集の著あり。
コクホ　克補　**ケイギヨク**　契疑
コクマ　倩麿(北副)　勤王家。土佐藩の士。變名本山七郎。元治元年六月六日京都の旅寓吉田屋にて新選隊士に襲はれ、同志と共に闘ひて死す。

コクミン　國民（安宮）儲者。京都の人。明治十三年殁す。

コクメイ　克明（關）江戸の書家。其事の子。字は子徳、通稱忠蔵、漢雨と號す。業を父に受け、子思恭と共に行書頗る著す。天保六年四月二十八日殁す。年六十八。

コクロ　黒露俳人。山口氏。馬光の門。葉堂の甥。宗鷺、稻中卷と號す。寶曆頃の人。

コグワイ　湖外俳人。一松軒と號す。湖春の門。

コグワイ　壺外俳人。乾氏。龍井と號す。素外の門。

コグワウゴンキン　後光嚴院北朝の主。名は彌仁。光嚴院の第三子。崇光院の同母第。正平二十三年正月二十九日崩ず。年三十七。書及び和歌を善くす。其の詠歌、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集に出づ。

コグワウミヤウセウキン　後光明照院　ミチヒラ（藤原道平）

コグワウミヤウ　テンワウ後光明天皇　諱は緒仁。後水尾天皇の太子。母は壬生院（藤原基任の女）。在位十一年にして崩ず。壽二十二。

コグワウミヤウブジセツシヤウ後光明峰寺攝政　**イヘツネ（藤原家經）**

コグワクサイ　孤鶴齋　シンセウ（狩野眞笑）

コグワサンジン　五華山人　カウザン（井部香山）

コグワザンキンナイダイジン後花山院内大臣　**モロノブ（藤原師信）**

コグワザンキンニフダウ後花山院入道　**サダマサ（藤原定雅）**

コグワザンキンノダジヤウダイジン後花山院入道前太政大臣　**ミチマサ（藤原通雅）**

コグワジユジナイダイジン後勸修寺内大臣　**ツネアキ（藤原經顯）**

コクワン　虎關　シレン　師錬

コグワン　五丸京の俳人。安永頃。

コクワンケン　固冠軒　ソウケン（生駒宗健）俳人。鈴木氏。柳養元。國甫の門。

コケイ　平兮俳人。坂部氏。一に彌堅と號す。豊前の俳人。

コケイ　胡兮俳人。到來集の著あり。

コケイ　湖桂筑前の俳人。

コケイ　古溪（高橋）詩人。名は宗彰、字は有當、清三郎と稱す。會津の人。昌平黌に學ぶ。

コケイ　古溪　シユウチン　宗陳「の門。

コケイ　虎溪俳人。泉氏。無由庵、抱一坊。大初

コケイ　虎溪　エイギ　永義　シヤウリユウ　昌隆

シヤウジユン　正淳　リヤウニウ　良乳俳人。富竹坊、春郎。宋屋の門。明和六年八月二十七日殁。年五十三

コケイ　五溪（宮田）悟者。名は準龍、字は子雲、滴藏と稱す。江戸の人。水戸藩に仕ふ。尚書古文訳譯、毛詩約注、三禮攝彙解等の著あり。

コケイ　五溪　ヨヘイ（一世清風與平）

コケイウンキン　後桂運院　チカカタシンワウ

コケイ　五桂俳人。富竹坊、春郎。宋屋の門。明和六年八月二十七日殁。年五十三

コケイ　五溪（宮田）悟者。名は準龍、字は子雲、滴藏と稱す。江戸の人。水戸藩に仕ふ。尚書古文訳譯、毛詩約注、三禮攝彙解等の著あり。

コケイ　五溪　ヨヘイ（二世清風與平）

コケイ　古溪俳人。泉氏。無由庵、抱一坊。大初

コケイ　古溪（高橋）詩人。名は宗彰、字は有當、清三郎と稱す。會津の人。昌平黌に學ぶ。

コケイ　古溪　シユウチン　宗陳「の門。

コケイ　湖桂筑前の俳人。

コケイ　古溪（高橋）詩人。名は宗彰、字は有當、清三郎と稱す。會津の人。昌平黌に學ぶ。

コケイ　古溪　シユウチン　宗陳「の門。

コケイ　胡兮俳人。到來集の著あり。

コケイ　平兮俳人。坂部氏。一に彌堅と號す。豊前の俳人。

コクワン　虎關　シレン　師錬

コグワン　五丸京の俳人。安永頃。

コクワンケン　固冠軒　ソウケン（生駒宗健）俳人。鈴木氏。柳養元。國甫の門。

コケイ　胡兮俳人。到來集の著あり。

コグツサイ　湖月齋　キギン（北村季吟）

コケン　古劍　メウタク　妙澤

コグン　顧言　クワウケイ（中村棠溪）

コグン　古源醫師。源氏。名は諒元。御幻道人、又物外子と稱す。越前國の人。南山和尚、又歸國後、京都岩倉持院、東福寺等に住せしが、又播州法雲寺に遷り、後再び東福寺に入り、貞治三年十一月十一日寂す。年七十。

コグン　湖元（北村）歌人。御巻の子。和歌所に補せられ、再昌院法印と號す。寛延二年五月四日殁す。年七十四。

コグンキウ　古元休　ミツナガ（出目滿永）

コグンスケ　古源助　ヒデミツ（出目秀滿）

コグンタイ　湖支岱　ザンタイ（多湖支岱）

コグンリ　古元利　エイマン（出目榮滿）

ココ　古湖俳人。曾氏。青蓑庵。存義の門。

ココウ　壺公（永安）俳人。明治十年五月京都に殁す。年六十六。

ココウ　五口俳人。長谷川氏。曦月庵。十口の門。

ココウアン　蜈蚣庵　ヨシカタ（稻垣義方）

ココガダジヤウダイジン後久我太政大臣　**ミチミツ（源通光）**

ゴコガナイダイジン後久我内大臣　**ミチモト（源通基）**

ココク　古谷　ガクホ（井上學圃）

ゴコシンキンクワンパク後已心院關白　**タダモト（藤原忠基）**

ゴコマツ　テンワウ後小松天皇　諱は幹仁。後圓嚴院の皇子。元中元年後龜山帝の讓を受く。永享十六年十月崩ず。壽五十七。其の御製、新續古今集に出づ。

ココモ　甲許母（大羊）驚。從六位下。神龜元年姓

ココラウ　小五郎（柳川）陸軍一等軍吏。佐賀縣出身。日淸戰役に從軍し、明治二十九年六月三日病死す。

ゴコラウ　小五郎　カウザン（木戸孝允）

ココロノタネナリ　心の種成　タネヒコ種彦

コサイ　壺齋　マサトシ（佐川田昌俊）

ゴサイ　語齋俗曲語齋節の祖。通稱岡島吉左衞門。吉原に住し、近江大掾と號す。三絃を森其之丞に、淨瑠璃を杉山丹後の門に受け、頗髪して語齋と改名し、承應明曆の間、語齋節を創む。

コザイシヤウ　小宰相女歌人。鹽安門院の女房。風雅、新拾遺、新續古今諸集の作家。

コザイシヤウ　小宰相女歌人。土御門院の女房。藤原家隆の女。新勅、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

コサイシヤウ　小宰相上西門院の宮女。刑部卿藤原憲賢の女。平通盛の妻。壽永の亂、其の夫の戰死を悲しみて海に投じて死す。

ゴサイロウ　五彩樓　クニマロ（狄川國麿）

ゴサイキン　テンワウ後西院天皇　諱は眞仁。後水尾天皇の第六子。母は逢春門院。慶安元年親王となりて花町を號し、後光明天皇の崩後、即位す。在位八年。貞享二年崩ず。壽四十九。

ゴサイランジニフダウネ（藤原實兼）後西園寺入道　**サネカ**

ゴサウ　梧莊（曾我）畫人。名は立、通稱卓爾。明治七年十月京都に殁す。

ゴサウ　晤叟（岡本）阿波の儒臣。字は知充、通稱賢三郎。明治十四年三月十六日殁す。年七十四。

ゴサガ　テンワウ後嵯峨天皇　諱は邦仁。土御門天皇の皇子。北條泰時に迎へられて後嵯峨殿に入る。文永九年崩ず。壽五十三。御製、續後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新後撰、新拾遺、新續古今諸集に出づ。

ゴサキヤウ　小左京　チユウジヤウノツボネ　中將局

コサク　小作（照井）儒者。侍讀たり。明治十四年二月殁。

ゴサク　伍作（松永）蠶業家。越前の人。京都蠶業講習所長たり。藍綬章及び瑞寶章を賜はる。明治四十一年四月一日殁、年五十六。

ゴサクラマチ　テンワウ後櫻町天皇　諱は智子。櫻町天皇の長女。母は青綺門院。寶曆十二年七月即位。在位八年。文化十年閏十一月三日崩ず。壽七十四。

コサコン　小左近女歌人。「三條小左近と稱す。後拾遺集の作家。

コサブラウ　小三郎（成田）

コサブラウ　小三郎（毛受）

コサブラウ　小三郎（本多）

コザエモン　小左衞門（伽羅）

ゴサブラウ　小三郎（黒澤）水戸正義派の黨與。武田耕雲齋に從ひて越前に入り、慶應元年二月七日死に處せらる。

コサミ　古佐美（紀）蝦呂の孫。宿禰蝦呂の子。寶龜中、銀夷反して起つや、古佐美征夷副使となり、大使藤原繼縄に從ひて之を討つ。天應七年征東大將軍兼大和守となり、蝦夷を征して克たず。後大納言に至り、十六年皇太子の傳を兼ね、幾ばくもなくして薨ず。年六十五。

コザエモン　小左衞門（死人）（初代）江戸の俠客。武士と爭鬪し、遂に共に死す。

コザエモン　小左衞門（濱田）商。長崎の人。頼兵衞の子。父に從ひて臺灣に航し、爽人を脅す。

ゴザエモン　小左衞門（達磨）江戸の俠客。伊右衞門の弟。「に住す。

コザエモン　小左衞門（伽羅）落語家。江戸中橋

コザエモン 小左衛門（幸）奈流第四世の小鼓師。名は一宗。

コザエモン 小左衛門（伊藤）實業家。伊勢の人。製茶製絲の業を興す。明治十二年五月二十一日歿す。年六十二。

コザエモン 小左衛門 ジョウチク（磯野乗竹）

コザエモン 五左衛門（池原）正天狗流剣術の祖。名は正重。日医刑部左衛門の門。水戸に仕へ、彰考館及び光圀の師範たり。一に判官流といふ。

コザエモン 五左右衛門（松脇）勤王家。名は正睦。鹿兒島藩士。元治元年東國に奔り、姓名を新宮牛次郎と改め、筑波太平の擧に預し、十一月五日斬らる。年二十五。

コザエモン 五左衛門（沼浪）**ジラウ**（萬古舘次郎）

コザン 孤山（鼓）熊本藩の儒員。名は愈、字は士厚、別に影陽山人と號す。通稱茂次郎。養菴の子。時習館教授たり。寛政元年病を以て職を辭し、幾もなく歿す。著、樂神集あり。

コザン 孤山 俳人。小島氏。大梅、剰庵と號す。

コザン 孤山（海内）詩人。字は勝成。越中の人。岸亮の長子。また書に巧なり。

コザン 孤山（吉田）儒者。名は有隣、字は臣哉、小字琢兵衛。秩生徂徠に學び、森川侯に仕ふ。

コザン 虎山（阪井）廣島藩の儒者。名は華、字は、公實通稱百太郎、一に臥虎と號す。猿の子。嘉永三年歿す。年五十三。

コザン 壺山 タダノリ（本多忠恕）

コザン 湖山（小野）詩人。名は長愚、字は伺翁近江の人。屋敷の門に學ぶ。三河大河内侯に聘せられて藩政に參す。志士に交り、國事に奔走す。皆て御親を賜はり、腸祝樓と稱す。明治四十三年四月十日卒す。年九十七。湖山樓集及び鄭情餘意の著あり。

コザン 皷山 俳人。中村氏。琴松堂と號す。延享四年九月二十三日歿。年四十六。雲鈴の門。

コザン 顧山（中谷）愛果家。大阪の人。無盡齋と號す。孔方圖鑑、珍貨孔方鑑の著あり。本邦錢譜の始。享保中の人。

コザン 古山 俳人。森川氏。乙由の門。青嶋樓。

コザン 巨山 センテキ 泉滴

コザン 固山 イッキョウ 一豪

コザン 五三 俳人。桐亭、柿實庵。白英の門。

コザン 五山（菊池）高松侯の儒官。名は禎琢、字は無絃。通稱左大夫。別號蝸庵、詩を以て鳴る。安政六年歿す。年八十七。

コザン 五山 俳人。仙果堂。東潮の門。〔十四。

コザン 吾山（三浦）江戸の儒者。和多理と稱す。瓶山の男。父に學びて性理に精し。文化三年四月二十四日歿す。年四十七。

コザン 吾山 俳人。越谷氏。師竹庵。二世沽山の門。

コザン 吾山 俳人。越谷氏。師竹庵。二世沽山の門。

コザン 吾山 ヒデザネ（越谷秀眞）

コザン 梧山 俳人。重田氏。高松侯の儒官。名は禎琢、字は士玉、小字琢兵衛。秩生徂徠に學び、森川侯に仕ふ。

コザン 梧山 ケイウ（中村敬宇）〔の著あり。

コザン 梧山（杉林）京都の儒者。名は維修。文政元年十二月歿す。

コザン 吳山（坂本）江戸の儒者。名は德明、通稱仁右衛門。高田侯に仕へ、明和八年八月二十五日歿す。年五十六。

コザンエンキン 後三條院ミツノリ（藤原滿敬）

サネタダ（藤原實忠）**キンノリ**（柳川滄洲）

コザンジ 小三次 サウシウ（柳川滄洲）

コザンダウ 孤山堂 タクラウ 卓郎

コザンダウジン 湖山道人 テンイウ 天祐

コザンデウサダイジン 後三條左大臣 サネカズ（藤原實量）

コザンデウダジャウダイジン 後三條太政大臣 サネフユ（藤原實冬）

コザンデウ テンワウ 後三條天皇 諱は尊仁。後朱雀天皇の次子。母は陽明門院禎子内親王。性剛健、精勵治を圖り、藤原氏の權を抑ふ。又學を好みて大江匡房に師事す。在位四年。延久五年崩。壽四十六。御製、後拾遺、新古今、玉葉諸集に出づ。

コサンパ 小三馬 江戸の戯作者。三馬の子。本名菊池庵之助。嘉永六年歿す。年四十二。

コシ 五始 京の俳人。中島氏。鳥車園、春雲齋。

コシ 五志 俳人。關氏。行齋、六世五志の門。

コシウ 孤舟 安永頃の俳人。

コシウ 孤舟（問屋）書家。名は德風、又張銜、通稱吉之助、別號一陣堂。松山藩士。祐筆たり。又篆刻を能くす。文久三年八月十四日歿す。年八十五。

コシウ 古秀（八田）京都の畫人。字は子愛、號は希賢。應擧の門。人物を能くす。文政五年歿す。

コシウ 五周房 俳人今井氏。五瓶房の門。

コシウ 梧舟 野州佐野の俳人。以蛇坊の門。

コシキア 古式部（岸澤）常磐津の三絃家。式佐の子。幼名仲助、後六世式佐と稱し、更に古式部と改む。慶應二年十二月十九日歿す。

コシキブ 小式部 女歌人。敦子内親王家の女房。下野守藤原義忠の女。後拾遺集及び千載集の作家。

コシキブノナイシ 小式部内侍 女歌人。上東門院の女房。陸奥守橘道貞の女。其の母和泉式部に先ちて歿す。後拾遺、金葉、詞花、續後撰、玉葉、新千載、新後拾遺諸集の作家。

コシジ 越二（津田）步兵中尉。岐阜縣出身。日露戰役に從ひ、明治三十七年十一月旅順に戰死す。

コジジユウ 小侍從 女歌人。石清水別當光清の女。太皇太后に仕ふ。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續後拾遺、風雅、新千載、新後拾遺、新續古今。諸集の作家。

コジジユウノミヤウブ 小侍從命婦 加賀守藤原正光の女。後拾遺集の作家。

ゴシチ 五七（春川）江戸の浮世繪師。神谷遙州と號す。俳優の似顔を畫く。後京都に住す。

コシヂノキミノイラツメ 越道君伊羅都賣 天智天皇の宮人。施基皇子を產む。

コシチラウ 小七郎（楯岡）熊本藩の孝子。天明二年二月七日歿す。

コシチラウ 小七郎 ゼラウ（眞野是翁）

コジヒ 古悲悲（大伴）小吹負の孫。祖父麻呂の子。寶龜六年銀青光祿大夫を授けらる、八年卒す。年八十三。

コジフ 湖十（初世）俳人。深川氏。木者庵、鼠肝、老鼠。其角の門。元文三年七月二十七日歿。年六十二。（二世）深川氏。初め曾氏。鬚窓、一點香。初世湖十の子。延享三年正月二十四日歿。（三世）深川氏。晉窓、黃花庵。二世の門。寬政元年五月二十七日歿。（四世）深川氏。九窓、饑池庵、六處庵、舞說庵。四世の門。天保四年十月二十日歿。

コシヒラ 古十郎（山本）騎兵中尉。龜岡縣出身。日露戰役に從軍し、明治四十年二月傷死す。

コジフラウ 小十郎（岩崎）貴族院議員。舊大村藩士。銀行局長、秋田遞信局長、秋田縣知事たり。明治二十八年六月二十二日卒す。

コジフラウ 小十郎 ガゲツグ（片倉景綱）

ツナ（片倉景綱）

コジフリンサン 後十輪院 ミチムラ（中院通村）「村」

コジマ 兒島 筑紫の遊女。萬葉集の作家。

コジマノミヤ 兒島宮 ヨリヒトシンワウ 賴仁親王

ゴジヤウ 五城（志村）仙臺藩の儒員。陸奥江刺郡羽黑堂の人。名は實因、又士毅、字は子殷、東華と號し、蛻に五條と改む。朱子學を奉ず。天保三年五月十八日歿す。年八十七。

ゴジヤウオンジクワンパク 後成恩寺關白 カネヨシ（藤原兼良）

ゴジヤウメウジサダイジン 後淨妙寺左大臣 ツネヒラ（藤原經平）

コジヤク 故雀 伊勢の俳人。安永頃。

コジヤク 吾雀 大阪の俳人。升六の門。

ゴジヤク 五雀（葛山）俳諧。西馬の門。名は大良。武州南豐島村泰雲寺に住す。明治二十三年八月寂。年七十七。

ゴシヤティ 五車亭 キザン 龜山

ゴシユ 五株 俳人。八木氏。化醒舘と稱す。文石の門。天明八年六月二十八日歿。年六十六。

コシラウ 小四郎 トモマサ（小山朝政）**マサタネ**（小山政種）

コジラウ 小次郎 美濃國の刀匠。康正年間の人。關乘家の子。

コジラウ 小次郎（根津）上杉憲顯の臣。延元中、日露戰役に從軍中、明治三十七年八月盛京省胡家屯に戰死す。

コシユン 吳春 ゲツケイ（松村月溪）

コシヨ 古處（原）洗前の詩人。秋月侯の世臣。名は辰、字は士蔚、震平と稱す。著、隨月山房集。文政十年歿す。

コシヨ 古處（石野）儒者。通稱耕吉。名は精。儒醫兼。安政年間江戸に住す。

ゴシヨ 梧所 テイサイ（石川）經齋

コシヨ 孤松（沼田）儒。名は信誼。機部と稱す。秋田藩士。島學に精し。詩鈔あり。安政二年歿す。

ゴシヨウアン 五升庵 テフム 蝶夢 ヒヤクカ 百可

コシヨウケン 古松軒 シエウ（古川子曜）

ゴシヨウケン 後松軒 チユウアン（平野仲安）

ゴシヨウミヤウ井ン 後稱名院 キンヤス（藤原公保）

コシラウ 小四郎（藤田）勤王家。東湖の第三子。先憂樓と號し、一に小野信と稱す。變名小野崇雄。幾洲山の擧に謀主たり。慶應元年二月四日武田耕雲齋と共に死刑に就く。「拜水に受く。

コシラウ 小四郎（今井）水戸藩の儒官。榮を朱

コシラウ 小四郎（武部）蒼龍岡藩士。武彥の子。西南の亂に興して大隊長となり、事破れて斬らる。

コシラウ 小四郎（齋藤）夢兵中尉。茨城縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十七年八月盛京省胡家屯に戰死す。

コシラウ 小四郎 トモマサ（小山朝政）**マサタネ**（小山政種）

コジラウ 小次郎 美濃國の刀匠。康正年間の人。關乘家の子。

コジラウ 小次郎（根津）上杉憲顯の臣。延元中、

足利尊氏を刺さんとし、事成らず。

コジラウ 小次郎(編井) 京都の人。文明十五年十二月父源左衛門と共に幡前宮岡城に據り、山名俊豊等と戰ひて死す。

コジラウ 小次郎(三浦) 江戸吉屋組俠客の領袖。大番組より納戸役に進む。赤阪祭禮に人と爭ひ、其の父に預けらる。後赦さる。

コジラウ 小次郎(小坂) 熊本藩の勤王家。名は雄宗。元治元年天王山に敗れて自殺す。年二十二。明治三十五年贈正五位。

コジラウ 小次郎(幡崎) 歩兵少佐。愛媛縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月沙河に戰死す。

コジラウ 小次郎(伊藤) 歩兵少尉。三重縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月沙河に戰死す。

コジラウ 小次郎(高田) 第百銀行頭取。蓬島取藩士。明治四十五年三月三十日歿す。年六十五。

コジラウ 小次郎 ヨシシゲ(和田義茂) ヨシキヨ(土屋義清) コレズミ(阿蘇惟澄) チカビラ(泉親衡)

ゴシラカハウダイジン 後白川右大臣 キンミツ ゴシラカハテンワウ 後白河天皇 諱は雅仁。鳥羽天皇の第四子。崇徳天皇の同母弟。在位三年。位を太子守仁に讓り、燕髪して行眞と號し、院に在ること三十四年。延久三年三月十三日崩。壽六十六。御製、千載、新古今、續古今、玉葉、新千載諸集に出づ。

ゴシラカハニフダウ 後白河入道 キンフユ(三条公冬) コシン 虎臣(河東) 松山藩士。名は熾、小字瀧之助、後手藏と改む。高村の子。天保十五年贈使長崎に至りし時、藩命を奉じ往きて讓し、備に委領を得。嘉永四年九月十九日歿す。年四十七。

コシン 故信 僧。武田勝賴の臣子。元和七年伊豆に歿す。

ゴシン 午心 俳人。岩淡氏。雅号蕎、山花人。寥太の門。文政元年正月十三日歿。

ゴシン 悟心 伊勢國正端寺の住僧。京師洛東一雨庵に住す。名は元明、懶庵、また道遙と號す。書及び詩文に巧なり。

コジアン 故人庵 ゲンキ(松平玄駿)

ゴシンジ 悟眞寺 タケマサ(菊池武政)

ゴシンジンサンサキノクワンパク 後深心院前關白 ミチツグ(藤原道嗣)

コシンサンサキノセッシャウサダイジン 己心院前攝政左大臣 モロノリ(藤原師敎)

ゴスクワサン 後崇光院 後花園帝の父。崇光院の次子。名は貞成。應永三十二年七月踐祚。法名道欽。後花園天皇位に即き、尊號を上りて太上天皇といふ。康正二年八月二十九日薨。年八十五。正統興隆記、看聞御記、砂玉和歌集の著あり。

ゴスケ 小輔(田岡) 藩學明倫館の助敎たり。明治十八年六月歿す。年五十三。

コスケ 小介(隅田) キノスケ(生田木屋之助) 十七年日露戰役に從ひ、二十七日戰死す。

ゴスケ 五助(岩田) 大谷吉隆の家人。關ケ原の軍に戰死す。

ゴスケ 五助(上林) 歩兵中尉。山口縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、旅順攻圍軍に從ひ、十月戰死す。

ゴスケ 悟助(野晒) 佐々木氏の臣。一休禪師に從ひて是雲と號す。後遯俗して、大阪の俠客となる。

ゴスケ 語助(野澤) 藪太夫三統師の民次郎と稱し、語意齋と號す。明治元年三月歿す。

ゴスザク テンワウ 後朱雀天皇 諱は敦良。一條天皇の第三子。後一條天皇の同母弟。在位九年。寛徳二年正月十八日崩。壽三十七。御製、後拾遺、新古今、續古今、新千載諸集に出づ。

コセイ 虎睡 俳人。通稱各務吉右衛門。竹隱亭、笑見子。文化十一年四月二十日歿す。「蜜和の門」。

ゴセイ 吳竹 俳人。玉井氏。

コセイ 古井 俳人。玉井氏。

コセイ 孤精(西舘) 元津藩の勤王家。舊稱平馬。明治二十五年歿す。年六十四。贈從四位。

ゴセイ 湖西 ランシツ(岡井蘭室)

ゴセイ 吳井 井ガク(荒木惟岳)

ゴセイアン 梧井庵 エイテイ(有澤永貞)

ゴセイエン 五清園 ハウジ 方慈

コセウシャウ 小少將 女歌人。上東門院の女房。參議源扶義の女。新古今集及び新勅撰集の作家。

コセウシャウ 小少將 女歌人。後光嚴院に仕ふ。新拾遺集の作家。

コセ シンワウ 巨勢親王 平城皇天の皇子。母は宮人伊勢繩子。元慶六年八月薨。

ゴセキ 午寂 俳人。人見氏。一鳩林、香山野。其角の門。寛保元年十二月歿。

コセキヤウ 古昔陽 セキヤウ(古屋昔陽)

ゴセダウジン 五是道人 キヨシ(松山清)

ゴセチ 五節 女歌人。三條帝の皇后宮の女房。千載集の作家。

ゴセチ 五節 上東門院の女房。風雅集の作家。

コセツ 詠舌 京都の俳人。安永頃。

コセマロ 巨勢麻呂(藤原) 武智麻呂の子。參議從

式部卿に遷み、兄仲麻呂と反を謀りて誅に伏す。

コセン 壺仙(日下部) 俳人。彦根藩士。名は令文、通稱内記、後三郎右衛門と改む。井伊直孝の世子直富の近侍たり。又頴林に功あり。

コセン 胡僊 タクシウ(卓洲)

コセン 狐阡 サダラ(瀬名貞雄)

コセン 鼓川 クワウシャウ(鮫島黄裳) クニハシラ(白尾國柱)

コセン 固禪(裏松) 故實家。權中納言資光の子。名は光世。竹内式部と往來して、蟄居を命ぜらる。松平定信の皇居造營を管せし時其の著大内裏圖考證を見て大に感じ、奏して其の蟄居を解く。又皇居年表の著あり。文化元年七月二十九日卒。年六十九。明治二十四年贈從四位。

ゴセン 悟泉 俳人。通稱綿屋清兵衛。竹室と號す。寒木の門。

ゴセン 後川 俳人。通稱綿屋市郎左衛門。蓉柳庵。蓉柳句集、梅の草紙の著あり。

コセンソウ 古川曳 ツネノブ(狩野常信)

コソウ 雁齋(齋藤) 茶人。寒木の門。通稱長八郎。

ゴソウ 梧窓 シャウザウ(本木昌造)

ゴソクサイ 悟則齋 テフム(高畠蝶夢)

コソベニフダウ 古曾部入道 ノウイン 能因

コソン 孤村(池田) 畫人。名は三信、一に蒼松軒と號す。越後の人。酒井抱一の門。晩年明畫を學ぶ。慶應二年二月十三日歿す。年六十六。

ゴタイ 五岱(齋藤) 越後水原の俳人。通稱養碩。弘化頃の人。

ゴダイ 吳大 俳人。羽根氏。紫谷隣と號す。二世宇多天皇の第二子。母は誤天門院藤原忠子。建武五年百野に崩ず。壽五十二。御製、新後撰、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新葉諸集出づ。

コダイシン 小大進 女歌人。花園左大臣(有仁)家の女房。雲葉、千載、新勅撰、玉葉、新千載、新後拾遺、新千載、新後拾遺、新續古今等の作家。

コダイノキミ 小大君 サコン左近

ゴダイフ 五太夫(式守) 角力の行司。式守氏の元祖。元祖二年十月四日歿す。年六十九。花日記に「乾什の門。」の著あり。

コダウ 古道 俳人。村井氏。無名園と號す。來山の門。寛延二年十月四日歿す。年六十九。花日記

コダウ 古道(美月軒) 捕花美月軒の祖。七夕安之丞と稱す。安永五年十月歿す。

コダウ 古堂 イハホ(松本巖) コレトキ(平松維時)

ゴダウ 午道 俳人。深川氏。一窓。六世瀾十の門。

ゴダウ 梧堂(石川) 德川幕府の臣。書を能くす。名は惠明、字は錫我、一字竜甫、知秋庵と號す。嘉永五年正月歿す。年十餘。

ゴチク 吳竹 俳人。辻氏。初世沽涼の門。

ゴチク 五竹 キンタイ(山下琴峯)

ゴチクケン 吳竹軒 タイハクダウ 太白堂

ゴチクサ 五竹沙 チクサ 竹沙

ゴチクバウ 五筑房 美濃の俳人。醫。田中氏、琴左、蹄童仙。蘆元坊の門。

ゴチクヲウ 吳竹翁 サウロ(龍草廬)

ゴチソクサン 後知足院 フサツグ(近衛房嗣)

コチヤ 古茶 マンノカタ 萬の方

コチヤウ 虎杖 信濃の俳人。通稱八朗。天祐と號す。白雄の門。

コタラウ 小太郎(小松) 勤王家。土佐舟谷の人。名は榮盛。文久三年東北視察の途に上り國館に歿す。年二十一。明治三十一年贈從五位。

コタラウ 小太郎(奥平) 志士。丹波亀山侯の臣。名は穩。蔵六山人又遜齋と號す。梁川星巖及び蘐藤樹堂の門。國事に奔走して國せられ、萬延元年歿す。年二十七。

コタラウ 小太郎(山縣) 元皇後岡藩の志士。蓋稱河野藤太郎。明治二十八年歿す。年五十九。

コタラウ 小太郎 ウヂハル(小田氏治) タダハル(堀尾忠晴) ヨシハル(堀尾吉晴) ヨシモリ(和田義盛) ヒロカタ(入江弘毅)

コタラシヒメ 小足媛 孝徳天皇の紀。左大臣安倍倉梯麿の女。有間皇子を生む。

コタンジ 小圓次(市川) (初代) 江戸の俳優。家名高島屋。俳名米升。本姓堀越氏。幼名米藏。七代白猿の門人。應屋二年五月八日歿す。年五十五。

ゴダンヲツ 碁檀越 ダンヲツ 檀越

ゴチ 五智 ユウゲン 融源

ゴチク 五竹 俳人。辻氏。初世沽涼の門。

ゴチクケン 吳竹軒 タイハクダウ 太白堂

ゴチクサ 五竹沙 チクサ 竹沙

ゴチクバウ 五筑房 美濃の俳人。醫。田中氏、琴左、蹄童仙。蘆元坊の門。

ゴチクヲウ 吳竹翁 サウロ(龍草廬)

ゴチソクサン 後知足院 フサツグ(近衛房嗣)

コチヤ 古茶 マンノカタ 萬の方

コチヤウ 虎杖 信濃の俳人。通稱八朗。天祐と號す。白雄の門。

コタユウ 五仲 俳人。渡邊氏。柳後園。馬才人。

友考の門。梅のわかれの著あり。

コチユウインジヤ 壺中隠者 数学者。醫紬某の女。名は幸子。初め播津に居り、後江戸に出でて臺中醫者と稱す。安永四年算法に關する書を著す。

ゴチユウシヨワウ 後中書王 **トモヒラシンワウ** 具平親王 「著あり。

コチン 古珍 俳人。風菊房と稱す。ひたいびきの

コチンサイ 壺洗齋 **クワエイ** 和英

コツアンネイ 兀庵寧 **フネイ** 普寧

コツウ 兀雨 俳人。大島氏。通稱仙右衞門。松雨庵。二世烏酔の門。

コツカ 克牙 俳人。山氏。恥齋。季信の門。

コツシ 兀子 俳人。臺太の門。撰夏引集の著あり。

コツシヨ 克所(田邊) 儒者。名は希明。享保四年京都に歿す。年七十。

ゴツチミカド テンワウ 後土御門天皇 諱は成仁。後花園天皇の太子。母は嘉祥門院藤原氏。在位三十六年。長享九年九月崩ず。壽五十九。

ゴツチミカドナイダイジン サダミチ(源定通) 後土御門内大臣 儒人。醫前の人。芭蕉の門。

コツホウ 兀峯

コテイ 顧亭 **バイガイ(十時梅崖)**

コテイ 五鼎 **ゼンアン(朝川善庵)**

ゴテイ 梧亭(竹田) 藺岡藩の儒者。梅巖の子。復齋の弟。名は定夫、字は子毅、通稱助大夫、また茂兵衞。藩主黑田齋清の伴讀たり。天保十一年六月七日歿す。年五十四。

ゴデウ 五條 宣光門院の女房。新千載集の作家。

ゴデウノキサキ 五條后 ノブコ(藤原順子)

ゴデウノサンミ 五條三位 トシナリ(藤原俊成)

ゴデウバウ 五條房 名古屋の俳人。伊藤氏。支考の門。秋の音の著あり。

コテツ 虎徹 (一世) 近江の名鍛工。初め加賀金澤、後江戸東叡山下に住す。名は祐里。越前に生る。寛文頃の人。 (二世) 江戸の俠客。本名上坂仙吉。安政中、人と爭ひて之を殺し、匿れて會津侯に投ず。維新後、京都に住し、明治十八年三月十九日「弘化頃の人。

コテツ 小鐵(會津) 江戸の俠客。本名上坂仙吉。死す。

ゴテフ 吾蝶(山澤) 越後長岡の俳人。通稱藤四郎。

コテン 壺天 **ソワセツ(千宗拙)**

コデンジ 小傳次(中條) 分部侯の臣。關ケ原の役、力戰して敵を斥け、東小傳次と稱せらる。

コデンジ 小傳次(和田) 勤王家。長藩士。文久三年十月但馬の義擧に加り、敗れて割腹す。年二十九。明治三十五年贈從五位。

コト 琴 伊勢松坂森光保の妻。國學を好み、天明四年夫と共に本居宣長の門に入る。

ゴトウ 五渡 俳人。巢兆の門。

コトウ 虎頭 トツゲン(田中訥言)

コトウ 古童 (一世) 尺八の名手。通稱荒木半三郎。一世の郎。酒を嗜む。 (二世) 通稱豊田勝五門。

コトウ 湖東(大塚) 雜學者。通稱嘉十郎。名は重文、碧蘆館と號し、安政年間江戸に住す。

コトウ 呼童 俳人。正木氏。余小庵。

ゴトウアン 梧桐庵(後藤) 本草家。名は光正、字は製若、通稱太中。江戸の人。始めて物産の學を唱へ、稻生若水と名聲を等しうす。明和八年四月八日歿。年七十五。

ゴトウエン 梧桐園 リヤウチク(奥村其竹)

ゴトキハヰウダイジン 後常盤井右大臣 **サネトシ(藤原實後)**

ゴトクダイジサダイジン 後德大寺左大臣 **サネサダ(藤原實定)**

ゴトクダイジダジヤウダイジン 後德大寺太政大臣 **キンタカ(藤原公孝)**

コトコ 古登子(小松崎) 戸田渡武田浅瀬刀の師範。明治四十五年五月二十一日東京に歿す。年六十七。

コトシロヌシノカミ 事代主神 大國主神の長子。母は屋楯比賣神。一名葛城一言主神。又八重事代主神。出雲に居りしが、父の國を天孫に歌ずるに及び、三輪に退く。

コトスガ 士清(谷川) 國學者。伊勢の人。名は昇、淡齋と號す。國史及び語釋に力を盡し、日本紀通證、和訓栞等の著あり。安永五年十月歿す。

ゴトテイ 五渡亭 クニサダ(歌川國貞)

コトナホ 言直(藤原) 安繩の子。六位。昌泰三年因幡權掾に任ず。古今集の作家。

コトナホ 言直(西) 國學者。本居大平の門。通稱齋司。伊勢山田の人。

コトヌシ 事主(小田) 萬葉歌人。大寶中。

コトノヤ 琴舍 **ヒデナリ(堀秀成)**

コトヒコ(橘本稻彦) ナホイリ(河津直入) マドカ(月の圓)

ゴトバ テンワウ 後鳥羽天皇 諱は尊成。高倉天皇の第四子。母は藤原殖子。四歲にして卽位す。在位十五年。位を太子爲仁に讓り、院に在りて政を聽く。承久の亂、隱岐國に遷幸し、延應元年二月二十二日崩。壽六十三。 (304)

新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集に出づ。

コトミチ 言道(大隈) 歌人。筑前福岡の人。夏應四年歿す。年七十一。

コトラ 小寅(大谷) 步兵中尉。高知縣人。日露の役に從ひ、明治三十七年八月二十四日旅順盤龍山に戰死す。

コナカ 子半(大伴) 萬葉歌人。寶龜年間。

ゴナカノキンダジヤウダイジン 後中院太政大臣 ナガミチ(藤原長通)

ゴナカノキンナイダイジン 後中院內大臣 ミチシゲ(源通重)

ゴナラ テンワウ 後奈良天皇 諱は知仁。後柏原天皇の太子。母は豊樂門院藤原藤子。在位三十一年。弘治三年九月五日崩。壽六十三。

コナン 湖南(辻) 儒者。近江辻村の人。名は敎尙、字は穉卿。徂徠の門。丹波篠山侯に仕ふ。

コナン 湖南 コガ(吉原呼我)

コナン 胡南 ゲンジラウ(梅田源次郎) ウンタク(原雲澤)

ゴニデウ テンワウ 後二條天皇 諱は邦治。後宇多天皇の子。母は西花門院源基子。在位六年。德治三年八月二十五日崩。壽二十四。御製、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新後拾遺、新續古今諸集に出づ。

ゴニデウドノ 後二條殿 モロミチ(藤原師道)

コノキミアン 此君庵 マンシ(伊駒萬子) カンシチ(石川勘七) ケイザン(島津溪山)

ゴノスケ 五之助(宮之原) 步兵大尉。鹿兒島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月二十七日傷きて死す。

ゴノミヤダジヤウダイジン 後野宮太政大臣 キヨ(藤原公俊)

ゴノミヤナイダイジン 後野宮內大臣 キンサダ(藤原公俊)

コノハナサクヤヒメノカミ 木之花佐久夜毘賣神 大山津見神の女。一名吾田鹿葦津比賣。天孫須勢理命及び火々出見命を生む。

コノハナチルヒメノカミ 木之花智流比賣神 大山津見神の女。八島士奴美神の妻。布波能母遲久奴須奴之神を生む。

ゴノマルドノ 五丸殿 デン 傳 仕ふ。續古今、續拾遺、新後拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新續古今諸集に出づ。

コノエ 近衞 女歌人。鷹司伊平の女。今出川院に

コノエキタドノ 近衞北殿 モトタダ(藤原基嗣)

コノエテンワウ 近衞天皇 諱は體仁。鳥羽天皇の第八子。母は美福門院得子。三歲にして卽位す。在位十四年。久壽二年七月二十三日崩。壽十七。書及び和歌を好む。御製、千載、新古今、續古今、玉葉諸集に出づ。

コノエノナイシ 近衞內侍 後拾遺集、新千載集の作家。

コノエノナイシ 近衞內侍 コバイ 古梅 揷花家。美雪軒の第三世。延寶中の人。

コハウ 胡保(岡本) 書家。保考の子。花山院愛德の門に正四位下甲斐守。書博士。天保七年七月二十四日卒。年六十三。

ゴハウ 吾寶 ソウサン 宗燦 俳人。小幡氏。通稱硏屋彌忠兵衞。菊莞と號す。

ゴハウオンサン 後報恩院 **ツネノリ(藤原經敎)**

コハク 古白(牧野) 初名利成、後成時と改む。三左衞門尉と稱す。父田口成富三河の牧野村に居るを以て氏とす。今川氏親に屬し、讒せられて、永正三年十一月今橋城に戰死す。

コハク 虎白 俳僧。加賀の人。字は月曉。加賀寶圓寺僧外に學び、能登諸嶽寺に住し、太農寺及び寶圓寺に移り、元祿三年八月二十日寂す。

コハク 琥珀 京都の俳人。安永頃。

コバタノゴンソウヅ 木幡權僧都 ジヤウエン 靜圓 「刑せらる。

コハチ 小八(冥途) 町奴。慶安中、幕府に捕はれ

ゴハチデウナイダイジン 後八條內大臣 サネツグ(藤原實繼)

コハチデウミヤスドコロ 小八條御息所 民部卿昇の女。後撰集の作家。

コハチラウ 小八郎(幸若) 幸若曲の名人。名は吉信。粮田信長に貫ぬられ、知行を賜はる。文祿四年正月二十九日歿す。

コハチラウ 小八郎(中山) 長順を善くす。中山萬太夫の門。寬延中の人。

コハチラウ 小八郎(寺尾) 蒼渡島藩士。維新の後、舊藩士の救濟に力を盡し、縣令千田貞斐を援けて、宇品築港を完成す。明治二十七年八月八日歿す。年六十一。

ゴハナゾノテンワウ 後花園天皇 諱は彥仁。崇光天皇の曾孫。貞成親王の子。母は秋欽門院藤幸子。寬正五年七月位を太子成仁に讓り、出家して圓滿智と號す。文明二年十二月崩。在位三十六年。 (305)

壽五十一。詠歌に長じ、自ら風雅集を撰す。御製、新續古今集に出づ。

コハヤト 小隼人 ゼンノスケ(水郡善之祐) 俳人。藤生氏。通稱富次郎。道彦の門。

コハン 壺牢 俳人。藤生氏。通稱富次郎。道彦の門。

コヒキチ 鯉吉(市川)ジユスケ(花桃壽輔) 玉葉集の作家。

コフウテイ 五風亭 サダトラ 貞虎

コフカクサ テンワウ 後深草天皇 諱は久仁。後嵯峨天皇の第二子。母は藤原姞子。在位十三年。薙髪して素實と號す。嘉元二年崩。壽六十二。御製、玉葉集に出づ。

コフクセウヰン 後福照院 トキモト(藤原時基)

コフクワウユンゐン 後普光園院 ヨシモト(二條良基)

コフシミ テンワウ 後伏見天皇 諱は胤仁。伏見天皇の太子。母は藤原經子。存位三年。殤變して理髪と號す。延元元年崩。壽四十九。御製、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺集に出づ。

コブツ 護物 俳人。谷川氏。田舍庵、清齋。道彦の門。弘化元年十月二十八日歿。年七十三。あしの一本、新五百題、新々五百題の著あり。

コフンダリケホンクワンバク 後分陀利花院關白 ツネミチ(藤原經通)

コヘイ 小平(小林) 歩兵少尉。新潟縣出身。日露戰役に出征し、明治三十七年十月揚城塞に戰死す。

コベイ 孤米 俳人。岳氏。宜雨軒。大梅の門。

ゴヘイ 五瓶(並木)(初代) 演劇作者。大阪の人。道頓堀芝居八。正三の門。明和中、江戸に下り、始めて淨瑠璃を工夫す。文化五年歿す。(二代) 幕府旗下の士。篠田金次と稱す。葛葉山人、萬壽亭、風愚軒の別號あり。初め並木宗六といふ。文政二年歿す。(三代) 江戸の人。因幡屋小平次と稱し、初め並木宗六といふ。安政三年歿す。

コヘイザ 小平治(冬木) 國學を好み、寶暦九年賀茂眞淵の門に入る。

コヘウシ 孤瓢子 フゴン(水村不言)

コヘキ 古辭 マサモト(高橋正意) 萬葉歌人。天平寶龜間。

コヘマロ 許邇麻呂(秦) 萬葉歌人。

コヘヱ 小兵衛(坊主) 江戸の俳優。延寶貞享頃の人。道化形を以て名高し。

コヘヱ 小兵衛(武藤) 歌人。幕府旗下の士。

コヘヱ 小兵衛(鑓見) 京師の蒔繪師。名は政識。研出を善くし、鑓見蒔繪師と稱せらる。又狩野風に近き繪畫に長ず。寶永頃の人。

コヘヱ 小兵衛(立川) 文化頃の木工。雛形畫の名手。

コヘヱ 小兵衛(熊谷) 名は正長、初め織田信雄に仕へ、後、越前家に仕ふ。

コヘヱ 小兵衛(小佛) 江戸の俠客。延寶天和頃。

コヘヱ 小兵衛(四郷) 隆盛の弟。西南の亂に加り、木山路に戰死す。

ゴヘヱ 五兵衛 江戸中橋槇町の產。性任俠、勇力あり。牛の五兵衛と稱せらる。事に坐して、島に在ること四十餘年。赦されて還りし時、已に六十七歳、尙ほ躍課たり。

ゴヘヱ 五兵衛(錢屋) 加賀の豪商。清水氏。藩の用達となり、多く結納を造りて、密に通商を營む。又藩の財政を整理す。後、河北潟を掘立てゝ疑獄起り、嘉永五年十一月牢死し、家財を沒收せらる。

ゴヘヱ 五兵衛(淺野) 銀客。富山藩士。名は清恭。明治三年歿す。

ゴヘヱ 五兵衛(米屋) ムネフサ(前原宗房) 萬葉集の作家。天平寶龜間の人。

コベン 小辨 女歌人。萬葉集の作家。

コベン 小辨(小日) 織田信長の小姓。本能寺の變に死す。年十四。

ゴヘンシヤ 五返舍 ハンク 半九 「作家。

コベンノミヤウブ 小辨命婦 女歌人。千載集の後撰、續古今、續拾遺、千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、玉葉、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

コホウ 虎峰(武藤) 儒者。名は青緯、字は子燃。豐後杵築藩に仕ふ。慶應元年歿す。年五十六。知言齋集、先代行實等の著あり。

コホウ 孤峰 シユンメイ(五十嵐浚明) フハク(川上不白) サンクワウ 三光 ハクガン 白巖 鳥酢の門。

コホウアン 孤蓬庵 マサカズ(小堀政一)

ゴホウケン 五峰軒 ソウチク(望月宗竹)

ゴボクアン 五木庵 テウス井 潮水

コホフゲン 古法眼 モトノブ(狩野元信)

ゴホリカハ テンワウ 後堀河天皇 諱は茂仁。高倉天皇の孫。守貞親王の子。母は藤原陳子。在位十一年。位を太子秀仁に讓り、文暦元年崩。壽二十三。御製、新勅撰集に出づ。

コホル 凝(濃) 古梵 六位。續古今集の作家。

コホン 俳人。蓼風。

コマ 駒(東漢直) 蘇我馬子の命を受けて崇峻天皇を弑し、其の寵遇厚きに藉れて其の女 河上娘を姦し、馬子に總殺せらる。

コマキ 駒喜(山縣) 歩兵中尉。福岡縣出身。日清戰役に從軍し、明治二十八年二月傷つきて死す。

コマキチ 駒吉(林) 歩兵少佐。福井縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月奉龍山に戰死す。

コマザウ 高麗藏(市川) カウシラウ(四、五、六世松本幸四郎)

コマジラウ 駒次郎(大中) 歩兵少佐。佐賀縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月奉天大會戰に參加して負傷し、四月十五日歿す。

コマジラウ 駒次郎 ハンザン(松林飯山)

コマソウジヤウ 狛僧正 ギヤウキヤウ 行慶 ダウチ 道智

コマタラウ 駒太郎(白川) 歩兵少尉。香川縣出身。日露戰役に從軍中、明治三十八年三月盛京省倭家臺溝橋附近に戰死す。

コマタラウ 駒太郎(鈴木) 歩兵少尉。山形縣人。日露戰に從ひ、明治三十八年三月四日盛京省倭家堡附近に戰死す。

コマチ 小町(小野) 女歌人。出羽守良貞の女。姿色あり。古今、後撰、新勅、續後撰、續古今、玉葉、續千載、續後撰、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

コマチノアネ 小町姉 女歌人。古今集及び後撰集の作家。

コマチノマゴ 小町孫 女歌人。後撰集の作家。

コマツチユウジヤウ 小松中將 コレモリ(平維盛)

コマツチユウナゴン 小松中納言 トシツネ(前田利常)

コマツドノ 小松殿 モロイヘ(藤原師家)

コマツナイフ 小松內府 シゲモリ(平重盛)

コマツノミカド 小松帝 クワウカワ 光孝天皇

コマツノミヤ 小松宮 アキヒトシンワウ(彰仁親王)

コマノミヤ 狛宮 ソンエホフシンワウ 尊惠法親王

コマロ 古麻呂(上) 歌人。萬葉集の作家。

コマロ 古麻呂(調) 養老中、明經第二博士となり、後皇太子學士に任じ、正六位上に至る。

コマロ 古麻呂(長谷部) 萬葉集の作家。天平寶龜年間の人。

コマロ 古麻呂(紀) 大人の子。文才あり。天智天皇の時、御史大夫たり。享年五十九。

コマロ 古麿(伊吉) 大寶の初、遣唐使に從ひて唐に赴き、天平の初め、從五位上下野守となる。

コマロ 古麻呂(鑞屋) 明法博士。葛城襲津彥の裔。養老中、律令を刪定す。藤原廣嗣の事に坐して、配流せられしが、後赦されて大學頭となる。

コマロ 古麻呂(下毛野) 豐城入彥の裔。文武天皇の御代に律令撰定に與りて功あり。朝政に參預す。兵部卿、式部卿、大將軍を經て、和銅二年十二月卒す。

コマロ 古麻呂(大伴) 天平寶子の初め、陸奥鎭守府將軍、衆按察使たり。橘奈良麻呂に黨し、事露れて獄間の杖下に死す。

コマロ 子麻呂(狛竪部) 畫工。もと高麗の人。高麗畫師と稱す。孝德天皇の勅を奉じ、佛像を畫き、川原寺に安置す。

コマワマル 駒王丸 ヨシナカ(源義仲)

コマヲ 駒雄(八代) 國學者。檀田道助の門。甲斐の人。明治三十年十一月二十七日縣下玫瑰の衝突を憂ひ、桂川に投じて歿す。

コマン 小萬 忠禪。豐臣秀賴の臣某氏の侍女。

コマン 小萬 ユキ 雪

ゴミ 五味 畫人。慶長頃。

コミチ 小道(今西) 狂歌師。柳條亭。京都の人。

ゴミノヲ テンワウ 後水尾天皇 諱は政仁。後陽成天皇の太子。母は中和門院藤原氏。十六歳にして即位す。在位十八年、院に在ること五十一年。延寶八年崩。年八十五。和歌及び書を善くし、又佛教を崇む。

ゴミヤウ 護命 高僧。美作國の人。南都元興寺に投じて修學し、德聲高し。弘仁年中、擢でて僧都たらしめんとす。辭して山田寺に遁れ、後元興寺小塔院に寂す。年八十五。

コミン 胡民(中山) 蒔繪師。原羊遊齋の門。文政

ゴムアン 五無庵 タウリン(太白堂桃隣)

ゴムラカミ テンワウ 後村上天皇 諱は義良。後醍醐天皇の第七子。母は新待賢門院藤原廉子。在位二十九年。正平二十三年三月十一日崩。壽四十一。

コムラサキ 小紫 吉原三浦屋の妓。江戸裏輪の人。明暦頃、平井權八と情交あり。權八の殺するや、殺歳目黒冷法寺に至りて自害す。

コメイ 虎明 面打。古作八人の一。

ゴメイ 吳明(御立) 名醫。初め奧齋胡圓と稱す、養老五年從五位上に叙し、神龜元年姓御立連を賜ふ。

ゴメイ　五明（清岡） 歩兵中尉。子爵公勝の子。日露戦に出征し、明治三十七年七月三十一日横子嶺攻撃に重傷を負ひて死す。年二十四。

ゴメイロウ　五明樓　ボクカ（扇屋墨可）　タマスケ　玉輔

コメモリ　米守（俵） 江戸本所の狂歌師。通稱瀧澤堪兵衛。花暁庵、東榮子、江左居、東住、泰喬山人、閑善亭、銀華亭の別號あり。寛永元年六月歿す。

コメンヲウ　古面翁 江戸の狂歌師。日本橋萬町の仕立屋の主人。通稱藤木彦八。初め面堂安久樂と號せしが、禿後之を門人二人に別ち與ふ。明治十四年十一月八日歿す。年八十三。

コモジダイフ　小文字太夫　モジダイフ　（二、三、四代常磐津文字大夫）

ゴモゾノテンワウ　後桃園天皇 諱は英仁。桃園天皇の長子。母は恭禮門院藤原富子。在位十年。安永八年十一月崩、壽二十二。

コモン　虎門（櫻田） 仙臺の儒臣。志村五城及び服部栗齋に學ぶ。景明の仲子。名は貫、字は仲文、通稱周輔。欽齋、鼓岳子等の別號あり。江戸藩邸の順造館督學たり。晩年病を以て退き、著述に力め、天保十年十月三日歿す。年六十六。

ゴモン　吳門（慶巢） 岡藩の儒者。名は公朝、字は子聘、通稱甚三郎。古屋昔陽、岳東溟、葛西因是、大城震堂等に學ぶ。藩の司業たること前後四十一年。文政十年擢でられて中扈從となり、十一年八月二十一日歿す。年五十七。

ゴモントクヰン　後文德院　ゴハナゾノテンワウ　後花園天皇

ゴヤウゼイ　テンワウ　後陽成天皇 諱は周仁。誠仁親王の子。母は新黑門院。在位二十五年。元和三年八月二十六日崩、壽四十七。

ゴラウ　五郎（羽田） 足利時代の漆工。奈良法華門の邊に住す。故に法界門漆と呼ぶ。茶器最も多し。

ゴラウ　五郎（小田） 孝朝の子。其の父足利氏滿に叛きて男體山に據るや、氏滿孝朝を招き降す。五郎從はず、鎌倉兵に破られて自殺す。

ゴラウ　五郎（安積） 勤王家。名は武貞。東海と號す。江戸の人。文久三年八月中山忠光の義擧に從ひ、劍を潔り縛に就く。元治元年二月十八日京師の獄に斬らる。年三十五。

ゴラウ　五郎（黑澤） 勤王家。常陸の人。同士と共に品川東禪寺の英國公使館を襲ひ、又文久二年平山榮義と安藤閣老を坂下門外に襲ふ。享年三十。贈從五位。

ゴラウ　五郎（冷泉） 勤王の志士。長州藩士。名は綏豊。文久三年佛艦と赤間關に戰ふ。慶應二年二月俗論黨に殺さる。年二十五。

ゴラウ　五郎（小南） 高知藩の志士。一に五郎右衛門と稱す。安政の大獄に繫がれしが、後赦され、明治十五年歿す。年七十一。贈從四位。

ゴラウ　五郎（遠藤） 歩兵中佐。宮城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年八月二十四日鉢龍山に戰死。

ゴラウ　五郎（守口） 陸軍三等軍醫。宮城縣出身。日露戰役に從ひ、明治三十八年十一月十二日病死。

コラウ　五郎（神） 歩兵中尉。青森縣人。日露の役に從ひ、明治三十七年鉢龍山に戰死す。

ゴラウ　五郎（川崎） 歩兵中尉。茨城縣人。明治二十八年臺灣に出征し、六月十七日病死す。

ゴラウ　五郎（藤井） 海軍大機關士。三重縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年九月軍艦三笠の火

藥に死す。

ゴラウ　五郎（高野） 歩兵大尉。茨城縣人。日露戰爭に從軍中、明治三十八年三月七日戰死す。

ゴラウ　五郎（中野） 歩兵少尉。廣島縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月奉天に戰死す。

ゴラウ　五郎（篠崎） 鹿兒島縣人。數縣の知事を歷て、明治四十二年八月卒す。

ゴラウ　五郎（殿野）　カヂヒサ（大塙景久）

ゴラウ　五郎　マサダダ（和田正忠）　マサトホ（和田正邇）　トキムネ（曾我時宗）　クンザン（小野君山）　ホクウン（大久保北雲）　ロサイ（赤松魯齋）

ゴラウ　五老　俳人。通稱大和屋五郎兵衛。月居の門。

ゴラウサイ　五老齋　マサモチ（石川雅望）

ゴラウセイ　五老井　キヨロク（森川許六）

ゴラウヂ　五郎治　キヨカゼ（秋山清風）

ゴラウニフダウ　五郎入道　マサムネ　正宗

ゴラウホウ　五老峰　タイセイ（渡邊岱青）

ゴラウヤ　五郎哉（村上） 歩兵大尉。東京府出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十一月二十六日旅順攻圍山に戰死す。

ゴラクケン　五樂軒　イヘヒロ（近衛家熙）

ゴラン　五蘭（長亭）　クルマル（錦久留丸）

コリウ　孤柳（望月）　越後吉田の俳人。通稱休庵。弘化頃の人。

コリウ　古柳（山月庵）　江戸の小銳家。通稱米澤屋四郎兵衛。文化の頃、馬喰町に油屋を營む。

コリウ　湖柳　安永頃の俳人。

コリウ　小柳　新橋の俠妓。安政慶應頃の人。

ゴリウサイ　五流齋　俳人。井上氏。來山の門。寛政元年二月二十二日歿。

ゴリウティ　五柳亭　トクシヨウ　德升

ゴリツ　五律　安永頃の京都の俳人。

コリフ　湖鯉鮒（梗々舘）（初代）　狂歌師。通稱大久保平兵衛。名は正武。幕府麾下の士。朱樂菅江の門。後唐衣橘洲に從ふ。文政十五年四月歿す。年七十。

ゴリフバウ　伍立坊　俳人。梶山氏。

コリヤウ　古梁　安永頃の京都の俳人。

コリヤウ　湖凉　江戸の俳人。麥太の門。

ゴリヤウ　胡凉　豊後の俳人。以哉坊の門。

ゴリヤウ　吾梁（西鄕）　浦賀の俳人。幼名嘉吉。十二歲にて明を失し、陶意と稱し、鍼治を業とす。文化五年十月二十六日死す。年四十八。

コリヤウギヨシ　古梁漁史　シウガン（萩原秋巖）

コリヤウクワン　古艮寬　リヤウクワン（岩本艮寬）

コリヤウバウ　古梁坊　美濃の俳人。多賀氏。

ゴリユウ　五龍　オキカツ（青木興勝）　セイリウ（玉乃世履）

コリユウサイ　湖龍齋（磯田）　浮世繪師。通稱庄兵衛。江戸土屋家の浪人。法橋に叙せらる。

ゴリヨウ　五陵　俳人。牧氏。旬樹庵と號す。初世冬映の門。

ゴリヨウ　五陵　カウザン（楠原香山）

ゴリヨウ　梧陵（濱口）　紀伊の人。儀兵衛と稱し、名は成則、字は公輿。和歌山縣大參事たり。明治十七年歐米を視察せんとし、先づ米國に到り、十八年四月ニューヨーク府に歿す。

コレウヂ　維氏（武田）　政氏の子。十郎。

コレウヂ　惟氏（源）　惟綱の子。但馬守。

コレウヂ　惟氏（今井）　新田義重八代の裔。五郎。

コレカ　伊香（甘南備）　寓葉歌人。神護景雲二年越中守となり、正五位下に進む。

上に卒す。

コレアキラ　惟明（藤原）　惟經の子。信濃守。

コレアキラ　惟明（藤原）　惟秀の子。播磨守。

コレアキラ　シンワウ　惟明親王　高倉天皇の第三子。後鳥羽天皇の兄。大炊御門宮、又承安第三宮といふ。出家して聖圓と號す。承久三年五月三日薨。年四十三。新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

コレイ　五嶺（北村）　秋田藩士。名は實泰、字は仲等、通稱平四郎。町奉行及び勘定奉行等となりて治績あり。從職を解して澁庵と號す。天保十年九月五日歿す。年六十一。

コレイ　五嶺（前川）　畫人。名は晃。明治九年十月京都に歿す。年七十二。

コレイ　五嶺　コウイン（長山孔寅）

コレイ　梧嶺　シンテイ（山本岑鼎）

コレイゼイ　テンワウ　後冷泉天皇　諱は祝仁。後朱雀天皇の太子。母は贈皇后藤子。父帝の禪を受けて即位し、在位二十三年。治曆四年四月十九日崩。齋四十四。御製、後拾遺、金葉、詞花、新古今、玉葉諸集に出づ。

コレイヘ　惟家（平賀）　源氏。惟義の子。「人。

コレイヘ　惟家（善積）　左兵衛尉。後冷泉天皇頃の人。

コレイヘ　伊家（藤原）　公基の子。右中辨。後拾遺、金葉、詞花、千載、新古今諸集の作家。

コレカゲ　維景(狩野)二階堂經理の子。駿河守たり。任滿ちて後伊豆狩野に住す。

コレカズ　是一　武藏の刀匠。石堂氏。元祿以來の中興と稱せらる。安政元治年間の人。

コレカズ　是一　(初世)近江蒲生郡の刀匠。初名是勝。藤原氏。石堂氏。又川上氏。左近、武藏大掾と稱す。武藏江戸に移る。寛永寛文年間の人。或は曰く萬治延寶頃と。(二世)初名是長、通稱甚平。石堂左近、或は川上左近、武藏大掾と稱す。延寶元祿年間の人。(三世)通稱甚平、石堂左近と稱す。法名是三。享保年間の人。(四世)武藏に住し、石堂を稱す。寛永明和年間の人。(五世)天明年間の人。(六世)文化年間の人。

コレカズ　惟一(千賀)國學者。本居大平の門。通稱傳一郎。三河岡崎の人。

コレカズ　惟一(緒方)福島縣の人。西南の役二等少警部を以て從ひ、明治十年三月十五日肥後橋平山に戰死す。

コレカゼ　惟風(源)愛子六郎賴景の子。同稱風の「養子。雄州に死す。

コレカタ　是賢(增田)伊勢松坂の人。通稱元藏。安永九年本居宣長に從ひて國學を修む。

コレカタ　維方(平)直方の子。上總介、越前守。

コレカタ　惟方(藤原)櫻中納言顯賴の子。平治の亂、藤原信賴に薰せしが、經宗と謀り、二條帝を奉じて大內を脫し、六波羅に至る。後白河上皇の怒に觸れ、阿波に流され、仁安元年召還せらる。世に小別當、中小別當、又粟田別當といふ。千載、新古今、續古今、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載諸集の作家。

コレカツ　是勝　近江の刀匠。初代是一を見よ。

コレカツ　之勝　新刀の鍛工。橋氏。石道氏。信濃守と稱す。山城の人。又江戸にても作ると云ふ。

コレカド　惟門(筑紫)少貳氏の族。筑前の人。弘治三年大友宗麟の兵に破られ、遁れて毛利元就に依る。

コレカネ　雅兼(二階堂)維遠の子。從五位下。

コレカネ　惟兼(大宮)惟忠の子。入條藏人と稱す。

コレカネ　惟兼(藤原)章經の子。伊勢守。

コレカネ　玆監(龜井)薯津和野藩主。幼名格助、勤齋と號す。有馬賴徳の二子。龜井玆方の養子。明治十七年三月二十三日薨ず。年六十三。「の作家。

コレキ　惟材(平)吉野朝の臣。惟繼の子。新葉集の作家。

コレキミ　是公(藤原)武智麻呂の子。初名黑麻呂。右大臣に陞る。天應八年薨ず。從一位を贈らる。世「時の人。

コレキヨ　惟清(藤原)丹波守、右馬介。白河帝の朝に仕ふ。

コレキヨ　惟清(藤原)三河守。筑後守仲宗の子。

コレキヨ　惟清(入江)二階堂時信の子。右馬允、從五位下。馬太夫と稱す。

コレキヨ　惟清(鈴木)田中藩士、忠右衛門と稱す。代官に擢でられて瀨戸川沿岸の地を管す。又北總を治めて功績多し。赤貧常に洗ふが如し。

コレキヨ　惟清(戸田)國學者。本居大平の門。通稱金左衛門。紀伊和歌山の人。

コレキヨ　惟清(森本)陸軍一等主計。和歌山藩出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年十一月十二日病死す。

コレクニ　惟國(源)惟賴の子。藏人。

コレクニ　惟國(村上)爲國の子。入條院の藏人。

コレサダ　惟貞(北條)馭人。平氏。宗貫の子。修理太夫、陸奥守。寬曆三年卒す。玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載諸集の作家。

コレサダ　維貞(平)繁清の子。左衛門尉石見守。

コレサダ　惟貞　筑前の刀匠。源氏。金剛兵衛と稱す。文龜永正年間の人。

コレサダ　惟貞(阿部)國學者。本居大平の門。通稱新之允。長門萩の人。

コレサダ　惟貞(座田)勤王家。起氏。學習院雜掌たり。和氣清麿の贈位を請ひて許され、又國基一卷を著はして仁孝帝の御覽に供ふ。安政六年歿す。明治四十五年贈正五位。

コレサダ　之貞　薩藩の刀匠。正房の門。天和年間の人。或は曰ふ國貞の初名なりと。

コレサダ　惟貞(高階)惟賴の子。新續古今集の作家。

コレザネ　惟眞(平賀)大內帶刀惟信の子。新五郎。

コレザネ　惟眞(安藤)邦輔親王の應子。初名邦茂、惟尋と號す。元龜元年歿す。年四十一。

コレザネ　伊實(藤原)世尊寺行房の孫。行實の子。「集の作家。新葉集の作家。

コレザネ　伊實(藤原)伊通の子。中納言。新勅撰

コレシゲ　是茂(源)光孝天皇の皇子。中納言。天慶四年薨。年五十七。後撰集の作家。

コレシゲ　是重　大和千手院の刀匠。正應年間の人。或は曰く建久素縁年間の人。行信の弟。或は建治德治年間の人と。

コレシゲ　是重　大和千手院の刀匠。正平年間の人。或は曰く大永頃の人。定重の子なりと。「間の人。

コレシゲ　是重　和泉の刀匠。貨則の子。永承天喜年

コレシゲ　是重　和泉の刀匠。永享年間の人。或は曰く應永頃の人。一名景重と。

コレシゲ　是重　加賀藍倉派の刀匠。明徳應永年間の人。或は曰く嘉吉頃の人。或は二世友重の門と。

コレシゲ　是重　伯耆の刀匠。元重の流。小鴨に住す。應永年間の人。

コレシゲ　是重　備前大鍛の刀匠。奥國年間の人。或は曰く正平頃。又安貞頃の人と。

コレシゲ　是重　備中青江の刀匠。建武年間の人。或は曰く正和頃の人と。

コレシゲ　是重　備中の刀匠。正平年間の人。或は曰く片山に住すと。或は弘家の子。或は文安頃の人。貞次の子なりと。

コレシゲ　是重　備中の刀匠。寛正年間の人。或は曰く重末の子。青江に住すと。

コレシゲ　是重(巨勢)書家。巨勢氏第六代。弘高の子。貞元中の人。左近衛將監に任ぜらる。

コレシゲ　惟重(藤原)隱岐判官。從五位下。保元頃の人。「稱す。從五位下。

コレシゲ　惟重(藤原)四條惟孝の子。島田權守と

コレシゲ　惟重(竹内)惟永の子。從三位。延享二年薨ず。年三十七。

コレスケ　是介　備前長船の刀匠。管恒の子。正治建仁年間の人。番鍛冶二十四人の一。

コレスケ　是介　備前國岡一文字派の刀匠。承元中の番鍛冶二十四人の一。

コレスケ　是介　備前長船の刀匠。是吉の子。正平「頃の人。

コレスケ　是介　筑前の刀匠。良西を見よ。

コレスケ　是介　備前の刀匠。正平年間の人。或は曰く長船に住す。爲是の子。正平至德年間の人。或は是吉の門。丹波太と稱す。或は一名是分と。

コレスケ　是助　備前の刀匠。天祿頃の人。

コレスケ　是助　備前の刀匠。信房の長子。永延頃の人。或は曰く助平の父。天元頃の人と。

コレスケ　是助　備前の刀匠。建久年間の人。或は曰く繼岡一文字の派。初代助房の四子。天福頃の人。或は助眞の流。弘長頃の人と。

コレスケ　是助　備前長船の刀匠。天福頃の人と。

コレスケ　是助　備前の刀匠。曆仁年間の人。或は曰く吉岡の刀匠。助則の門。建保承久年間の人と。

コレスケ　是助　周防高田の刀匠。次郎太郎と稱す。

コレズミ　惟澄(阿蘇)勤王家。文安年間の人。

コレスケ　伊祐(壬生)爲賴の子。

コレスケ　惟典(緒方)二等少警部。薩鹿兒島藩士。西南の役に從ひて傷死す。

コレスケ　是助　備前長船の刀匠。助則の門。建保承久年間の人。

コレスケ　是助　備前の刀匠。曆仁年間の人。天福頃の人と。

コレスケ　伊季(今出川)右大臣晴季の玄孫。右大臣右近衛大將に至る。琵琶を善くす。寶永六年二月薨ず。年五十。

コレスエ　惟季(大神)南都の笛師。惟遠の次子。左近衛將監。寬治八年二月卒す。年六十六。

コレタカ　是高　大和の刀匠。藤太と稱す。高包の子。奈良に住す。天仁天永年間の人。或は云ふ高包の門人と。

コレタカ　是高　大和千手院の刀匠。曆仁年間の人。或は曰く是重の二子。寶喜頃の人と。

コレタカ　惟隆(春杵)畳後の人。

コレタカ　惟孝(但馬)海軍大佐。鹿兒島縣人。日露戰役に、濟遠艦長として從軍中、明治三十七年十一月三十日同艦沈沒の際に戰死す。

コレタカ　惟孝　イカウ(愛洲惟香)

コレタカ　シンワ　惟喬親王　文德天皇の子。母は更衣紀靜子。詩歌を善くす。外戚藤原良房の寵により、貞觀十四年皆に太子たるを得ず。四品に叙せられ、貞觀十四年皆となり、寬平九年二月薨ず。年五十四。小野宮と稱す。古今、後撰、新古今、新千載諸集の作家。

コレタケ　惟武(阿蘇)阿蘇明神の大宮司。父惟澄の遺訓を守り、足利勢と戰ふ。天授二年八月二十一日戰死す。

コレタダ　是忠(管原)五位。千載集の作家。

コレタダ　惟薫(交野)時香の養嗣。從三位。元亨四年薨ず。年三十四。「の子。

コレタダ　惟忠(藤原)建禮門院の藏人。大宮義定

コレタダ　惟忠(平賀)左衛門尉。源惟信の子。

コレタダ　惟忠(高階)灌口八郎と稱す。刑部永惟長の子。

コレタダ　惟忠(竹内)京都の人。性溫厚篤實。貴族院議員たり。明治四十年十二月二十五日卒す。年四十八。

コレタダ　惟忠(速水)砲兵少尉。愛知縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月奉天に負傷して死す。

コレタダ　伊忠(大中臣)秀忠の子。祭主に任ぜられ、大永二年薨ず。年六十五。

コレタダ　伊忠(松平)徳川家康の臣。淵潤氏。又八郎と稱し、後主殿助と改む。天正三年五月長篠の役に從ひて奮戰に戰死す。年三十九。

コレタダ　伊尹(藤原)右大臣師輔の子。攝政太政大臣正二位に進み、天祿三年薨ず。正一位を贈り、參河公に封し、謚徳と謚す。一條攝政と稱す。後撰、拾遺、新古今、新勅撰、續古今、玉葉、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

コレタダ　以忠　チユウザウ(岡部忠藏)

コレタダ　シンワ　是忠親王　光孝天皇の長子。母は女御班子女王。宇多天皇の同母兄。源姓を賜はり、中納言從三位に至りしが、また親王に復し、一

品式部卿に叙任す。式部卿宮、又兵部宮、南院親王と號し、和歌を能くす。延喜十八年出家。二十二年十月二十二日薨ず。後撰集の作家。

コレタフ 惟任(源) 惟氏の子。栗田蔵人と稱す。

コレタフシヤウグン 惟任將軍 ミツヒデ(明智光秀)

コレタミ 惟民 ドウセウ(尾形洞簫) [長結に住す。

コレタリ 惟足(吉川) 神道家。江戸の人。初名元成、次に惟足、後從時と改む。通稱五郎左衛門。親吾堂、又稚山勝士と號す。卜部兼從の門。會津侯松平正之に聘せられ、遂に幕班に列す。元祿七年十一月十六日歿す。年七十九。

コレチカ 惟親(堀切) 歌人。通稱紋二郎、金花と號し、安政年間江戸に住す。

コレチカ 惟親(兒玉) 藤原氏。惟行の子。矢島六「郎と稱す。

コレチカ 惟前(菊池) 武經の子。永正十年阿蘇惟豊を攻めて之を走らす。後敗れて子惟監と共に薩摩に赴く。

コレチカ 維周(辻村) 伊勢神戸の醫。通稱恕庵。國學を好み、文政十年本居翁庭の門に入る。

コレチカ 伊周(藤原) 關白道隆の二子。小字小千代。父の薨ずるや、叔父道兼と關白を爭ひ、道兼の薨後、また道長と爭ふ。東三條太后を咒詛して事露れ、太宰權帥に貶せらる。後赦に遇ひて京に歸り、正二位に叙す。寛弘七年薨ず。儀同三司、又帥内大臣と稱す。後拾遺、詞花、續古今、玉葉諸集の作家。

コレチカ 是分 備前長船の刀匠。貞治年間の人。

コレツグ 維次(時原) 奥宗の孫。天暦中、權醫博士、兼尾張權介となる。

コレツグ 惟繼(平) 高棟の子。中納言、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺諸集の作家。

コレツグ 伊繼 四位。玉葉集の作家。

コレツグ 伊嗣(藤原) 四位左中將。續後撰集の作家。

コレツグ 是次 備前古刀の鍛工。應永年間の人。

コレツグ 是次 筑後の刀匠。寶德年間の人。

コレツグ 是次 武藏石堂派の刀匠。是一の門。「年間の人。

コレツグ 是次 筑前福岡の刀匠。守次の弟。元祿年間の人。

コレツグ 維綱(鷲尾) 將綱の子。桑名三郎と稱す。

コレツナ 維綱(二階堂) 忠行の次男。從五位下豊後介。

コレツナ 維綱(舟越) 入江右馬允稚清の子。四郎「藏人たり。

コレツネ 維綱(源) 弓の名手。藏人惟長の子。非藏人たり。

コレツネ 維綱(佐々木) 廣綱の子。萬木六郎左衛門尉と稱す。承久の役に戰死す。

コレツナ 惟綱(壬生) 因幡守。藤原良門七代の裔。

コレツナ 伊綱(藤原) 家基の子。中務大輔たり。永暦頃の人。千載集及び新古今集の作家。

コレツナ 是綱(高辻) 同家の祖。嘉承二年卒す。年七十八。

コレツナ 自綱(姉小路) 侍從。參議綱親の子。本名光親。承は綱親に作る。天正三十年八月豊臣秀吉の枠、金森長近を訪ぎて歿す。年四十八と。正十五年京師に卒す。年四十八と。

コレツネ 伊經(藤原) 伊行の子。太皇太后宮亮。建久頃の人。千載集及び新勅撰集の作家。

コレツネ 惟庸(竹内) 後治の子。從二位刑部卿。貞永元年薨ず。年六十九。

コレツネシンワウ 惟恒親王 文德天皇の皇子。母は宮人藤原今子。貞觀十三年四品に叙せられ、後三品に進み、延喜四年四月薨ず。

コレトキ 維時(平) 維將の子。上總介。

コレトキ 維時(大江) 千古の子。音人の孫。博聞强記。從三位中納言に至る。應和三年薨ず。年七十六。日觀集の著あり。新撰集の作家。

コレトキ 維時(平松) 國學者。字は學然。無名園、古道、葉廼屋等の別號あり。又傳語を小西來山に學び、信千と號す。文久三年七月十二日歿す。年五十三。奈良坊目拙解、奈良神社沿革誌、奈良年中行事等の著あり。

コレトキ 惟時(大内) 惟信の子。木工助。

コレトキ 惟時 クワンカイ(松崎觀海)

コレトキ 以言(大江) 玉淵の孫。仲宣の子。文章博士兼式部權大輔に至る。寛弘七年卒す。年五十六

コレトシ 玆俊(櫻山) 勤王家。鎗術の人。四郎と稱す。楠木正成の義兵を擧ぐるや、兵七百餘を以て本國一宮に城きて之に應ぜしが、竟に陷るに及び、其の兵皆散ず。吉備津神祠に詣りて嬰子を刺殺し、祠を焚きて自殺す。

コレトシ 惟俊(高階) 惟範の三男。泉五郎と稱す。

コレトシ 惟俊(布施) 下總左兵衛太夫正弘の次男。三郎と稱す。保元頃の人。

コレトシ 維敏(平) 貞盛の子。陸奥守、常陸介。

コレトシ 是俊 新刀の治工。初名繩男。

コレトシ 是俊 出羽米澤の刀匠。初名繩俊。

コレトシ 伊俊(藤原) 伊家の子。從三位。新千載集の作家。

コレトホ 惟還(二階堂) 時信の次男。駿河守。

コレトホ 惟還(大神) 南都の醫師。後冷泉天皇の

時の人。

コレトモ 是友 備前の刀匠。元暦前の人。

コレトモ 是友 備前の刀匠。弘安年間の人。或は云ふ、長船の刀匠。足後の二字と。

コレトモ 惟朋(黒川) 國學者。本居大平の門。通稱榮一郎。江戸の人。

コレトモ 惟朝(梅園) 國學者。元祿時代の人。國史神祇集の著あり。

コレトヨ 是豊(山名) 宗全の第二子。應仁の亂、父に背きて和川勝元を援け、備後の兵を伐つ。文明元年又兵庫より山崎に到り、父の軍を襲ひ、畠山義就と相抗衡す。

コレトヨ 惟豊(阿蘇) 阿蘇神社の大宮司。惟憲の第二子。天正十二年歿す。

コレトラ 惟寅 トナン(淺井圖南)

コレナカ 惟中(藤田) 歌人。香川景樹の門。京都の商賈。「年薨ず。年七十七。

コレナガ 惟永(竹内) 惟庸の子。從二位。寶暦四

コレナガ 惟長(源) 源義光九代の後胤。又太郎と「下。陸奥信夫郡を領す。稱す。

コレナガ 惟長(高階) 源賴朝の臣。刑部丞、從五位後鏡、續古今、續拾遺、新續古今諸集の作家。

コレナガ 是長 武藏の刀匠。二世是一を見よ。

コレナガ 是永 筑後の刀匠。藤原氏。嘉吉年間の人。或は云ふ、寛正頃の人。大石に住すと。

コレナホ 惟直(字治) 勤王家。阿蘇大宮司惟時の子。通稱八郎。元弘三年護良親王の令旨を奉じて兵を擧ぐ。後菊地武敏に從ひて足利尊氏を多々良濱に拒ぎ、屢創を蒙りて自殺す。

コレナホ 維直(生田) 國學者。靜理考の著あり。

コレナリ 是成(犬上) 鎗師。仁明天皇の時の人。

コレナリ 伊成(小熊) 尾張の刀工。弘光に勝ちて金剛力士の名を得。小熊權頭伊遠の子。弘光に勝ちて金剛力士の名を得。小熊權頭伊遠

コレナリ 伊成(藤原) 成忠の子。從三位。新續古今集及び續後撰集の作家。

コレナリ 惟齊(善積) 五郎左衛門と稱す。辻岡基齋の子。

コレナリ 惟業(田中) 左衛門尉と稱す。辻岡基

コレナリ 伊成(藤原) 初名惟方。雅材の子。藏人左中辨に至る。畢山帝の朝、藤原義懷と共に時弊を匡救する所多し。帝遜位の際、從ひて僧となり、寂室と號し、恬抄と更め、永延元年卒す。拾遺、新千載、新後拾遺諸集の作家。

コレナリ 惟成(藤原) 初名惟方。雅材の子。藏人左中辨に至る。畢山帝の朝、藤原義懷と共に時弊を匡救する所多し。帝遜位の際、從ひて僧となり、寂室と號し、恬抄と更め、永延元年卒す。拾遺、新千載、新後拾遺諸集の作家。

コレノブ 是信 キウザン(狩野休山)

コレノリ 玆矩(龜井) 出雲須佐城主永綱の子。豊臣秀吉に屬し、鹿野城に封ぜらる。庆子の亂、東征に從ひ、關ケ原の軍終りて山陽を徇ふ。慶長十七年正月卒す。年五十六。

コレノリ 惟範(平) 高棟の子。字多天皇の勅を受けて、弘仁以後の詩を選し、又藤原時平と共に延喜格を撰す。中納言兼右近衛大將に至る。延喜九年薨ず。

コレノリ 惟範(千秋) 藤原氏。範宗の子。三河大「夫。元弘の頃の人。

コレノリ 惟範(藤原) 時直の子。伊豫介。

コレノリ 惟德(羽倉) 京都の歌人。荷田御風の嗣子。通稱東之進、字は子肇。文政十年歿。

コレノリ 是則(坂上) 歌人。父親不詳、或は云ふ、好藤の子と。大内記たり。延長二年從五位下加賀介となる。古今、後撰、拾遺、新古今、新勅撰、續後撰、新後拾遺、新續古今、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後撰諸集の作家。

コレノリ 伊紀(齋部) 國學者。元久三年歿す。年「九十。

コレハル 惟治(佐伯) 豊後國揖羊機城主。大友氏に屬す。後臣の讒に遭ひ、大友義鑑に圍まれて自殺す。義鑑後、之を悔い、其の墓を祀り、且つ其の繼嗣を立つ。

コレヒサ 伊久(藤原) 貢家。萬所到。正五位下加賀守。

コレヒサ 惟久(賀茂) 四位。風雅集の作家。

コレヒサ 惟久(巨勢) 巨勢派の畫家。元寧中の人。武芸書を能くし、飛彈守に任ぜらる。後三年軍記の圖を作る。後人引きて當時の考證に充つ。

コレヒト 是人(藤原) 是公の子。伊豫親王の事に座して下野に貶せられ、弘仁中赦されて相摸守と

なり、官に卒す。

コレヒラ 惟平(土肥)二郎左衛門尉。和田合戦に「死す。

コレヒラ 惟衡(平)真盛の孫。次は四子と云ふ。武名あり。源頼信、藤原保昌、平致頼等と四天王と稱せらる。一條帝の頃、下野守となり、後致頼と私闘して談路に流さる。

コレヒラ 伊衡(藤原)歌人。敏行の三男。正四位下参議刑部卿に叙任す。承平八年薨ず。後撰、拾遺、續古今、玉葉諸集の作家。

コレヒラ 伊平(藤原)頼平の子。大納言。新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、玉葉、新拾遺、新續古今諸集の作家。

コレヒラ 伊平 遠江の刀匠。建保年間の人。次は云ふ、天龍仁治年間の人。友吉の門。次は關東と同人。或は文明頃の人と。

コレヒラ 是平 加賀金澤の刀匠。藤原氏。辻村高平の弟。寛文年間の人。

コレヒラ 是平 寛文年間の刀匠。攝津守。

コレヒラスダ 是平官 豊後の刀匠。善永頃の人。

コレヒラノムスメ 伊衡女(藤原)**イマキ** 今木 駿河藤枝の刀匠。元治年間の人。

コレヒロ 惟熙(菅)古今集の作家。

コレフサ 伊房(藤原)行經の子。中納言。後拾遺、金葉、千載、新勅撰、續後撰諸集の作家。

コレフサ 惟房(大江)従五位下。正和中の人。

コレフサ 惟房(藤原)内大臣。崇徳院と親す。元徳四年薨ず。

コレフサ 惟房(伊藤)歩兵少佐。茨城縣人。明治三十七年日露役に従ひ、十一月三十日旅順赤坂山に戦死す。

コレブミ 惟文(高山)大阪の歌人。通稱元節。文「化頃の人。

コレブミ 維文 **モクダワ**(緒方默堂) 國學者。本居大平の門。通稱久右衛門。伊勢松坂の人。

コレフミ 是文(福掛)國學者。「著あり。

コレマサ 以正(尼田)小右衛門と稱す。神風記の縁二年八月十八日殺さる。年十三。

コレマサ 是政(猪木)源氏。三郎衛門尉。

コレマサ 是政(米田)細川藤孝の臣。助右衛門と稱す。宗堅の子。慶長五年岐阜城攻撃の際、城に中りて死す。年四十二。

コレマサ 是正 山城の刀匠。建武前の人。次は云ふ、保元頃の人。彌太郎と稱すと。

コレマサ 是正(高垣)紀伊和歌山の歌人。通稱圓。

コレマサ 是正 文化年間の人。

コレマサ 維将(平)北條氏の一族。貞盛の次男。肥前守従五位下。天元四年卒す。

コレマサ 惟将(阿蘇)惟豊の族人。次は曰く惟豊の子と。天文年間の人。

コレマサ 惟正(善積)源氏。基正の子。辻五郎と稱す。寛喜頃の人。

コレマサ 惟正(大塚)楠氏の族。和泉守護代たり。屡軍功を立つ。後正行に従ひ、高師直の兵を拒ぎて戦死す。

コレマサ 惟正(和田)近江甲賀の人。伊賀守と稱す。織田信長に屬す。信長の足利義昭と隙あるや、義昭に屬し、天正元年七月芥川に據りて敗死す。年三十八。

コレマサ 惟正 **シゲマサ**(深瀬繁理) 弘治年間の刀匠。大神氏。

コレマス 惟増 弘治年間の刀匠。永暦元年太政大臣正通の子。永暦元年太政大臣正通の子。永暦元年太政大臣正通の子。永暦元年太政大臣正通の子。

コレミチ 伊通(藤原)宗通の子。永暦元年太政大臣正通の子。永暦元年太政大臣正通の子。永暦元年太政大臣正通の子。永暦元年太政大臣正通の子。

コレミツ 惟光(福島)光義の子。

コレミツ 惟光(高階)澁口次郎。惟長の三男。

コレミツ 惟光(阿蘇)惟豊の長子。佐々成政に依り、後加藤清正に従ふ。人あり之を秀吉に譲す。文祿二年八月十八日殺さる。年十三。

コレミツ 伊光(藤原)伊綱の子。五位。新勅撰集及び續後撰集の作家。

コレミツ 是光 加賀藤島派の刀匠。建武年間の人。次は曰く初代友重の弟なりと。

コレミツ 是光 備前の刀匠。明應年間の人。次は曰く長船小反の刀匠。信長の子。應永頃の人と。

コレミツ 是光 備前長船の刀匠。應永年間の人。

コレミツ 是光 備前長船の刀匠。明應年間の人。

コレムネ 是宗 備前の刀匠。元暦年間の人。次は曰く宮吉の三子。長船に住す。正中頃の人と。

コレムネ 是宗 大和十手院の刀匠。是重の子。覺喜頃の人。

コレムネ 是宗 大和十手院の刀匠。應永年間の人。

コレムネ 惟宗(大原)徳川氏の臣。通稱左兵右衛門。清廉及び廣忠に歴事す。

コレムネ 惟宗 備前の刀匠。元暦年間の人。

コレムラ 惟村(野尻)結万惟義の子。

コレモチ 伊持(三宅)國學者。本居大平の門。通稱善輔。紀伊和歌山の人。

コレモチ 維茂(平)貞盛の養子。餘五と稱す。陸奥に在る時、豪族藤原師種と田を争ひ、終に兵を交へて之を斬る。後、鎮守府將軍に任ぜらる。世に餘五將軍と云ふ。

コレモト 惟基(大内)惟信の子。左衛門尉。

コレモト 惟基(源)基輔の子。入山五郎。

コレモト 惟基(岡松)頼基の子。左衛門尉。

コレモト 惟幹(藤原)一に雅幹に作る。六位。陸奥縁。古今集の作家。

コレモト 維幹(平)陸奥守鎮盛の二子。平太夫と稱す。長元年間、源頼信の平忠常を討ちし時、従ひて功あり。

コレモト 維職(狩野)伊豆押領使。維景の子。

コレモリ 維盛(平)重盛の長子。源頼朝の兵を起すに方り、追討使となり、富士川に敗れ、又源義仲と砺波山に戦ひて大敗し、族を挙げて西に従ひ、既にして脱して高野山に到り僧となり、憤いで紀伊半嶋郡藤縄に置る。

コレモリ 惟盛(源)爲善の子。従五位下。

コレヤス 是安 古刀の鍛工。陸奥月山の流。

コレヤス 是安 古刀の鍛工。備前の人。

コレヤス 是保(伊達)國學者。通稱源三郎。伊勢四日市の人。寛政五年本居宣長の門に入る。

コレヤス 惟雅(木島)嫡後小千谷の歌人。通稱孝左衛門。友軒と號す。弘化頃の人。

コレヤス 惟棐(福田)源康信の子。左衛門と稱す。

コレヤス 惟泰(逸見)氏義の子。七郎。

コレヤス 惟恭(今井)歌人。濱田藩士。通稱謙生。文化頃の人。

コレヤス シンワ 惟康親王 宗尊親王の子。三歳にして北條時宗に迎へられ、父に繼ぎて征夷大將軍となる。正應二年北條貞時に廢せられて京師に還り、鎌蔵に居り、十二月薨逝し、嘉暦元年十二月薨ず。年六十三。

コレユキ 伊行(山田)伊賀の人。行季の孫。小三郎と稱す。保元の亂、源爲朝に射殺さる。

コレユキ 惟行(白川)二階堂行村の子。五郎。式部大夫と稱す。

コレユキ 惟行(大平)高階惟忠の子。周防守。

コレユキ 惟行(横田)源行家の子。駿河入道。

コレユキ 惟行(二階堂)糟糠の子。倶馬守。

コレユキ 惟行(有道)藤原伊周の子。武蔵守に任ぜられ、延久元年薨ず。

コレユキ 惟恭(今井)國學者。本居大平の門。稱勤右衛門。石見濱田の人。

コレヨシ 是吉 備前長船古刀の鍛工。或は云ふ、長志の後名。嘉暦年間の人。或は是宗の子。正慶頃の人。或は建保頃の人と。

コレヨシ 是善 筑前博多の刀匠。文明年間の人。

コレヨシ 是善 肥後玉名の刀匠。石貫派。應永年間の人。

コレヨシ 是善(菅原)道真の父。清公の子。文章博士、大学頭、左京大夫、彈正大弼、刑部卿等を経て、参議に任ぜられ、勘解由長官、近江守を兼ね、従三位に叙せられ、元慶四年薨ず。年六十九。文徳實録の撰に與り、其の他著書數種あり。

コレヨシ 以義 **トモノスケ**(小橋友之介) 豊後の人。泰永二年上皇の宣旨を奉じ、平氏の九州に在るを逐ふ。

コレヨシ 惟義(大内)平賀義信の子。大内冠者と稱す。伊賀守護たり。源義經に従ひ、平氏を西海に壓ちて功あり。相模守、修理權大夫に至る。

コレヨシ 維義(緒方)豊後の人。

コレヨシ 惟義(逸見)判官基義の子。源太郎と稱す。承久の役、關東守護たり。

コレヨシ 惟義(源)歳人行家の孫。義久の子。

コレヨシ 維義(源)爲義の子。松井冠者と稱す。

コレヨシ 惟義 **シュンアン**(赤松春庵)國學者。本居大平の門。通稱元節。

コレヨシ 惟美(奥村)

稱七兵衛。和歌山の人。

コレヨシ 惟善 石見田尻の刀匠。應永年間の人。

コレヨリ 惟頼(源)雅行の子。倶馬守。

コレヨリ 維頼(高階)惟章の子。大高大夫と稱す。

コレヨリ 維頼(河島)越前の勤王家。左近藏人と稱す。新田義貞に従ひて金崎城に入る。後終る所を知らず。

コレヲ 是雄(豊岐)壹岐の人。本姓卜部氏。世々亀卜を掌る。貞觀中、従五位下丹波權掾に至る。

コレヲ 是雄(弓削)播磨の人。陰陽推算の術に通ず。累遷して陰陽頭となり、宿禰の姓を賜はる。

コレヲカ 惟岳(紀)大位。古今集の作家。

ゴレン 五璉 俳人。足高氏。梅隣菴。蒼狐の門。安永八年九月二日歿す。年七十六。

コレン 古璉 俳人。鳳雪の門。

コレン 古濂(沼)大阪の儒學者。甘白と稱す。名は遠、字は文遠。觀花小說、活語鉄の著あり。

ゴロイチ 五郎市(松本)俳優。松本幸四郎の門人。振付を兼業とす。弘化初年歿す。年六十餘。

ゴロウ 五樓 俳人。沙鷗亭。鳥惣の門。

ゴロウ 梧樓(那珂)博識家。陸中の人。名は通高。初め江幡五郎と稱す。安積艮齋、森田節齋に從學す。後、藩の督學たり。維新の際、王師に抗して幽囚せらる。赦いで文部省に入り、榊原芳野と古事類苑を修む。居常甚だ酒を嗜み、明治十二年五月一日友人と對酌中に逝く。年五十二。

ゴロウ 吳樓 俳人。三世桃隣の門。

ゴロク 小六(川井)元秋田藩の勤王家。名は忠誠。戊辰の役藩論を定めて皇師を迎ふ。明治十七年歿す。年六十九。贈正五位。

ゴロク 小六(吉田) **サンユモン**(嵐三右衛門)

ゴロク　虎六（萩原）勤王家。姫路藩士。名は政興。元治元年自殺を命ぜらる。年二十二。明治三十一年七月正五位を贈らる。

ゴロク　五六（高崎）薩藩兒島藩士。名は惟愛、初め猪太郎といふ。東京府知事たり。

ゴロク　五鹿　江戸の俠人。捷兆の子。

ゴロクラウ　五六郎（森）櫻田の刺客。水戸藩士。名は直長。奥左衛門の五男。斬らるる時、年二十二。明治三十五年贈従五位。

ゴロクラウ　五六郎（野老山）高知藩の勤王家。名は矩朗、始め吾吉郎と云ふ。元治元年池田屋事件に關し、會津兵と闘ひて殁す。年十九。明治三十一年贈従五位。

ゴロクラウ　五六郎（齋藤）勤王家。名は定廣。藤岡藩士。稚斬の除、反對黨の讒に遭ひて自刃す。年三十七。

ゴロクラウ　五六郎（松田）勤王家。名は安定、始め久我家に奉仕し、後中原氏に改む。藤岡藩士。岸顚養元に學ぶ。後、入德宮嗣官の家を襲ぐ。元治元年藩の老好を暗殺して長門に走り、同六月國老益田右衛門介に從ひ京師に入る。七月天王山に據り、眞木保臣等と自殺す。年三十八。明治三十五年従五位を贈らる。

ゴロサク　五郎作（柴山）結核病學者。醫學博士。傳染病研究所部長たり。大正二年三月五日卒す。年四十三。

ゴロサブラウ　五郎三郎（金谷）錺工。道圓と號す。寛永年間京師に住す。

ゴロサブラウ　五郎三郎（金谷）錺工。明治二十二年九月京都に殁す。

ゴロサブラウ　五郎三郎（林）勤王家。水戸藩士。名は正德。元治元年松平賴德の軍に投じて東南方の首將となり、負傷して死す。

ゴロサブラウ　五郎三郎　スケキヨ（安藤助清）天草の亂に將となりて屢寡軍を破る。寛永十五年二月城落る日、鎗島直澄と捺して首を直澄に授く。直澄亦其の衷に感じ、其の子を求めて祿千石を給す。

ゴロザエモン　五郎左衛門（油屋）大阪天滿の人。放逸無慚。下人を役すること奴卒の如し。世呼んで山椒太夫といふ。貞享年中の人。

ゴロザエモン　五郎左衛門（橋本）豊後の商賈。寛文中、蘭苗を琉球に求めて蘇鐵を製し、國産となすに至る。之を七島蘆といふ。享保二年殁す。

ゴロザエモン　五郎左衛門（矢野）尼子國久の二男敬久に從ひて戰死す。

ゴロザエモン　五郎左衛門　タダツグ（松平忠次）井カン（吉田爲閑）スケタケ（武田助武）ミツアキ（秋月光秋）

コロシ　葫蘆子　畫家。雲舟の門人。景德の人。

ゴロジラウ　五郎次郎（幸）李流第二世の小鼓師。忠能の子。名は正能、月軒と號し、宇治幸太夫と稱す。

ゴロスケ　五郎助　ケンタイ（松井元泰）

ゴロダイフ　五郎大夫　シャウズ井（伊勢祥瑞）

ゴロハチ　五郎八　ナホモト（松平直基）江戸淺草の米穀商。元津輕藩士五郎左衛門の子。早く家を出でて仕を求む。隣人島田菊左衛門の好計により獄に投ぜらる。一心太助之を聞いて寃を大久保彦左衛門に訴ふ。島田の奸顏はれ、五郎兵衛父子赦下の班に列せらる。松前藩刀は卽ち其の後名なりと云ふ。

ゴロベエ　五郎兵衛（三田）某人。服部貿齋の門。

ゴロベエ　五郎兵衛（八幡風呂）江戸の俠客。後名を貴朴と更め、醫を業とす。然も尙俠客の徒に狹り、遂に業を得て越後に走り、寡婦と號す。晩年江戸に歸りて殁す。

ゴロベエ　五郎兵衛（中條）江戸の艀客。寛永九年艀衛上總の時、樋口惠郎兵衛と角して敗る。

ゴロベエ　五郎兵衛（間宮）一刀流の劍客。名は久也、伊藤忠也の門。毛利氏に仕ふ。晩年名を高津市左衛門と改む。

ゴロベエ　五郎兵衛（若山）淨瑠璃太夫。若山節を語り出し、又小唄を善くす。貞享元祿間の人。

ゴロベエ　五郎兵衛　ナガノリ（岡部長敎）

ゴロベエ　五郎兵衛（富田）富田流劍法の達人。九郎右衛門の長子。眼疾を以て家を弟に讓り、祝髮して勢源と號す。永祿頃の人。

ゴロエモン　五郎右衛門（喧嘩屋）大阪の俠客。播磨國池尻村の人。元祿十四年六月爭鬪して捕へられ、十二月三日獄中に殁す。

ゴロエモン　五郎右衛門（柳生）新陰流の艀客。父宗嚴に學ぶ。松平伯耆守忠一の臣、横田村詮に寄食す。村詮罪ありて其の居城を圍まる。五郎右衛門奮鬪して死す。

ゴロエモン　五郎右衛門（天野屋）**ジヤウツウ**（安富常通）

ゴロエモン　五郎右衛門　サコンシヤウゲン（山崎左近將監）「成」

ゴヰノセツシヤウ　五位攝政　コレナリ（藤原惟

コエモン　小右衛門（柳原）大阪の實業家。大阪株式取引所頭取、大阪商業會議所會頭、大阪株式

取引所理事長、堂島米穀取引所理事長たり。明治三十六年六月十一日歿す。年七十九。

コエモン　小右衛門（田沼）**ガクスケ**（四世給馬屋額輔）

ゴエモン　五右衛門（石川）大盜。三好氏の家臣石川明石の子。寛永九年四月九日油を以て煎殺さる。年三十七。

ゴエモン　五右衛門（飯室）會津侯の儒官。長澤「少貳の門人。

ゴエモン　五右衛門（御園）金澤藩の志士。名は紹元。元治元年藩論に痛れて幽せられ、慶應三年歿す。年三十一。

ゴエンクワウ井ンクワンパク　後圓光院闕白

フユノリ（藤原冬敎）

ゴエン　ホフシンワウ　悟圓法親王

シンワウ　致平親王

ゴエンユウヰン　後圓融院　北朝の主。名は緒仁。後光嚴院の子。母は崇賢門院。明德四年崩。年三十六。新後拾遺集及び新撰古今集の作家。

コヲウ　壺翁　マサトシ（佐川田昌俊）

ゴヲカヤサキノクワンパク　後岡屋前闕白　モトツグ（藤原基嗣）「攝あり。

コヲク　孤屋　俳人。小泉氏。芭蕉の門。炭俵集の

ゴヲノミヤ　後小野宮　サネスケ（藤原實資）

ゴン　長（吉村）歩兵中尉。廣島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月三十日旅順東鷄冠山に戰死す。

ゴンア　巖阿　耿僧。上人。新後拾遺集の作家。

ゴンガ　嚴雅　侗都。參議雅經の子。續古今集及び續拾遺集の作家。

コンガイ　鯤匡（伊藤）醫者。通稱深藏、名は賢之、經訓堂と號し、安政年間江戸に住す。

コンカウ　今更　俳人。打田氏。十芳庵、嵐雪の門。

コンカウ　崑岡　ヲカザ（清原雄風）

奇南番の著あり。

コンカウ　金剛　駿河の新刀の鍛工。關の流。或は云ふ、金剛丸、又金王丸と稱すと。

コンガウ　金剛　大和國千手院派の刀匠。貞應頃。

コンガウ　金剛　ヤストキ（北條泰時）

コンガウジユヰン　ノミヤ　金剛壽院宮　ヤスヒトシンワウ　輕仁親王

コンガウシンヰン　ノミヤ　金剛心院宮　シヤウシンホフシンワウ　性眞法親王

コンガウヂヤウヰン　ノオムロ　金剛定院御室

ダウシンホフシンワウ　道深法親王

コンガウドウ　金剛童　シニン　千忍

コンガウヒヤウエ　金剛兵衛　ナガツナ　長綱

タカツナ　高綱

コンガウヒヤウエノジヨウ　金剛兵衛尉　モリツグ　盛次

コンガウホフ　金剛法　エンユウテンワウ　金剛王院僧正

コンガウワウヰンソウジヤウケンジヨ　金剛王院僧正　賢助　ジツケン　實賢

コンガウワウヰンニフドウ　金光院入道　イヘサダ（藤原家定）

コンガク　昆岳（宇津木）彦根藩儒。字は德卿、名は久純。幼名建三郎、後兵庫と改め、隱居して圖書と稱す。文化九年八月四日歿す。年六十六。

コンガクダウ　髡岳堂　カジヤウ（小林歌城）

コンガワイ　混外　王子金輪寺の住僧。文化年間の人。名は宥欣、絲菴と號し、よく寶珠を畫く。

コンガワン　昆寬（岩本）江戸の金工。通稱喜三郎。白峯亭、春曙堂、又南甫と號す。享和元年九月歿す。年五十八。

コンケイ　昆溪（長谷川）儒者。名は城、字は子榮、釣耕屋と號し、安政年間江戸に住す。

コンケウ　殿敎　僧都。玉葉集及び續千載集の作家。

コンケン　艮軒　キシユン（諸葛歸春）

コンゴラウ　權五郎　カゲマサ（鎌倉景政）

コンコンラウ　混々翁　リユウカン（德力龍澗）

コンサイ　坤齋（乾）江戸の醫、文政中の人。

コンサイ　坤齋　ランケイ（西島蘭溪）

コンサイ　鯤齋（舟橋）詩人。通稱振太郎。摘澤の子。安政年間江戸に住す。

コンサイ　混齋　クワツダウ（丸山活堂）

カイセキ（野呂介石）

コンサイ　艮齋（安積）儒者。通稱祐助、名は重信。安藤親重の子。陸奥安積郡郡山の人。佐藤一齋及び林祭酒の門に遊ぶ。丹羽侯の文學、二本松藩學敎授、昌平黌敎授等を經て、萬延元年十一月二十一日歿す。年七十六。著、艮齋文略、尨詩略、論語良註、等。

コンザウ　權三（金津）越前坂井郡金津の刀工。名は國長。元應年中の人。

コンザウ　權藏　孝子。長門國阿武郡小畑村の農。

コンザウ　權藏　ナガミチ（三善長道）

コンザブラウ　權三郎（莊野）賓藏院僧衛の名人。名は義胤。種田長俊と技を較して之に勝つ。後、長俊に謀られて刑に陷らんとす。事顯はれ、妹と力を合せて之を殺す。後立花氏に仕ふ。

コンザエモン　權左衛門（原田）馬術家。荒木元誦に學ぶ。名は種明。德川家康に仕ふ。

コンザエモン　權左衛門　貞享中の三絕家。小唄に巧にして、小唄權左衛門と稱せらる。

コンザエモン　權左衛門　チカタツ（本目親辰）

チカノブ 本目親信）**ヨシツグ**（赤尾吉次）

コンザン 昆山（宮川）儒者。名は徳。字は子調。江戸の人。天明七年十月十五日没す。

コンザン 崐山（今井）佐倉侯の儒臣。名は衆規。字は子範。安永五年没す。年六十。

コンザン 崐山 **テイクワン**（草加定環）**イツシヤウ**（芳賀一晶）**カネノリ**（今井兼則）

コンザン 坤山（宝田）暦学。字は子観。退蔵と称す。紀伊の人。本姓泉氏。国学佛典等に通ず。又書を好くす。起平洲に従ふ。文化中没す。年五十五。

ゴンザン 艮山（後藤）暦。名は建。字は有成。通称左一郎。初め養庵と號す。江戸の人。経義を林祭酒に受く。後京師に従り、享保十二年九月十八日没す。年七十五。

ゴンシチ 権七（資生）貿生流謳師の祖。春藤権七の次子。兄新之丞なきを以て家を嗣ぎ、改めて貿生氏を称す。

ゴンジフラウ 権十郎（市川）東京の俳優。京都禁裏御番匠伊勢屋喜三郎の子。本名岡田衛三郎。初め嵐璃寛丸と称し、猪鹿と改め、後市川團十郎の弟子となりて権十郎と改む。明治三十七年三月二十七日死す。年五十七。

ゴンジフラウ 権十郎（森）佐土原藩士。西南の乱に興して、田原坂の守備に當り、銃創を受けて死す。年四十二。

コンシヤウ 金性 法眼。玉薬集及び風雅集の作家。

ゴンジヤウ 嚴浄 越前の刀匠。國長を見よ。

ゴンジヤウ 権助（畔田）茶人。利休と同時の人。

ゴンスケ 権助（林）会津藩士。名は安定。洋式の操練を採用して兵制を改革す。明治元年伏見の戦に、重傷を負ひて没す。年六十三。

ゴンス井 言水（池西）俳人。紫藤軒、又風下堂と號す。南部の人。江戸及び京都に住す。高島玄札の門。或は曰く季吟に學ぶと。享保四年九月二十四日没す。年七十二。

コンセイダウ 坤井堂 **セウズ井**（久世宵瑞）

コンタイ 昆奎（宇津木）京師の醫。名は益夫、字は天放。通称、太一郎。尾張の人。嘉永元年五月八日没す。年七十。

ゴンダイナゴンノラヂジ 権大納言典侍 **タメコ**（藤原爲子）

ゴンダイフ 権大夫 女歌人。七條院の女房。左京大夫光親の女。新古今集及び、續古今集の作家。

ゴンダイフ 権太夫（久保）茶人。大和春日の醸造家。古影堂を移して茶室長閑堂を營む。長閑子と號す。古影堂記の著あり。

ゴンダイフ 権大夫（河合）**サンエモン**（白興三右衛門）

ゴンチユウナゴン 権中納言 女歌人。左中將藤原基平の女。今出川院に仕ふ。玉葉集の作家。

コントク 坤徳 **ショサイ**（小宅處齋）

コントンケン 混沌軒 **テイカウ** 貞右

ゴンナイ 権内（下津）細川藤孝の家臣。一に権七と称し、岩成左通の首を取るや、江戸に還れ、後賈人を殺して金銀を奪ひし罪に依り、延寶七年品川に誅せらる。

ゴンナイ 権内（河路）尾張藩士。大阪夏の役に先鋒左兵衛を聯み、之を斬り、己亦死す。

コンニチアン 今日庵 **ソダウ**（山口素堂）**ソウイツ**（鳥居宗逸）**ソウシツ**（千宗旦）

ゴンニフ 権入 **ゴンエモン**（米村権右衛門）古牟方 竹本政長の女。徳川家光に寵せらる。享保八年二月二十一日卒す。

ゴンノジヨウ 権之丞（鷲）猿楽狂言師。本姓長命氏。攝津の人。豊太閤に召されて狂言を演ず。頗る長くして鷺の餌を覆む狂言をなすに、其の態度頗る奇なり。依りて鷺太夫と名けらる。

ゴンノジヨウ 権之丞（柄田）蘭井藩士。名は直孝。馬術の師範たり。竟文中の人。

ゴンノジヨウ 権之丞（阿部）勤王家。名は信足、字は貞廉。初め猪三郎と稱す。近江國藤所の人。慶應元年隊に遇ひ、十月二十一日自刃す。年三十九。

ゴンノスケ 権之允（山縣）長藩の志士。名は信篤。元治元年七月禁門の變後に從ひて上京し、遂に獄死す。年三十二。

ゴンノスケ 権之助 姫路侯の臣上田左太輔の傳。文政中、數人と謀り、侯家の手を假りて其の主の讐を復す。

ゴンノスケ 権之助（河原崎）（初代）俳優。京都の人。慶安年中、江戸に出づ。（七代）慶應年間、賊に傷けられて死す。

ゴンハ 嚴潘 茶智。周文の弟子。

ゴンパチ 権八（河村）加藤嘉明の家臣。一に権七に作る。

ゴンパチ 権八（平井）鳥取藩士。事を以て同僚を斬り、江戸に還れ、後賈人を殺して金銀を奪ひし罪に依り、延寶七年品川に誅せらる。

ゴンペイ 権平（寺尾）勤王家。土佐安藝浦の郷士。名は良利。元治元年武市半平太を救はんとして捕へられ、斬らる。年二十四。贈從五位。

ゴンペエ 権兵衛（唐犬）俠客。幡隨院長兵衛の子分。流刑に處せらる。或は云ふ、品川に梟せらるゝと。

ゴンペエ 権兵衛（萱野）書律藩の老臣。浅野の家臣。

城陥るに及び、自ら首謀と稱し、一藩の罪を負ひて朝譴を待つ。明治二年五月十八日自殺す。年四十。

ゴンペエ 権兵衛 **クワンドウ**（藤田還童）

コンヤウ 昆陽（青木）徳川幕府の儒者。名は敦書、字は厚甫、通稱文藏。延享中、評定所の儒者となり、後書物奉行に遷る。警察考を著し、其の種子を諸州に配布す。當時和蘭の學未だ開けず。或は長崎に往きて譯官に質し、或は轉く其の書に考へ、遂に粗了會するを得。明和六年十一月十二日没。年七十二。贈正四位。著、経濟緊要、官職略記、昆陽漫錄、長崎聞書、和蘭文字略考、和蘭語譯、和蘭貨幣考。

コンヤウ 昆陽（筑井）儒者。通稱左衛門、名は清。安政年間江戸に住す。

コンリヨウ 昆陵（石川）書家。名は陽、字は東丈。河内の人。又篆を能くす。

ゴンロクラウ 権六郎（牧野）池田侯の臣。名は成憲、柁軒と號す。河上忠品に學ぶ。大に勤王の事に盡す。徳川慶喜に大政返上の實を擧げん事を勸告す。贈正四位。

コンロン 崐崙（川井）儒。名は明、崐六と稱す。字は召舜。京都の人。物徂徠に學び、西條藩の書室となる。享保十三年正月没。年四十八。

コンワウ 金王 筑前の刀匠。盛國を見よ。

コンワウマル 金王丸（澁谷）源義朝の從童。義朝の長田父子に殺さるるや、奮鬪數十人を斬り、馬を取りて遁れ去る。後、僧となる。

コンワウマル 金王丸 大和國千手院の刀匠。文治年間の人。名は國吉、重弘の子。又金王に作る。或は曰く名は定重。また國吉、國守、正枝の名あり。義上に仕へ、正治頃の人。又嘉元頃の國吉と同人なりと。

コンワウマル 金王丸 **コンガウ** 金剛 **ウヂミツ**（足利氏滿）

コンヰンウダイジン 近院右大臣 **ヨシアリ**（源能有）

ゴンエモン 権右衛門（来村）大野治長の臣。大阪城陥る時、秀頼母子救免の事を計る。後高野山に入りて權入と號す。復遁俗して淺野長治に仕ふ。

ゴンエモン 権右衛門（竹澤）義太夫節三味の開祖。井上播磨掾の弟子。淨瑠璃節を善くし、三絃に巧なり。初め井上氏。後竹澤と改む。

ゴンエモン 権右衛門（太田）鳥取藩の勤王家。城國山科の人。

ゴンエモン 権右衛門（進藤）製世座の謡師。山名は貫輯。昔雨と號す。元治元年長州に投じて國事を共にせんとし、露はれて關死す。年三十一。贈正五位。

さ

サ 左 筑前の刀匠。源氏。左衛門尉と稱す。隱岐清に住す。實朝の子。相摸鎌倉に移り、正宗の門に入る。元應延元年間の人。世に大左と稱す。或は曰く文保頃、或は正平十年没。年八十五。或は通稱左衛門三郎、法名安源。或は名は安吉、又は外孫なりと。

サ 左 安藝の刀匠。安行の子。或は曰く安吉の子。左と稱す。同名二世。初代は喜太郎と稱すと。

サ 左 筑前の刀匠。源氏。左衛門尉と稱す。實朝の子。相摸鎌倉に移り、正宗の門に入る。元應延元年間の人。世に大左と稱す。或は曰く文保頃、或は正平十年没。年八十五。或は通稱左衛門三郎、法名安源。或は名は安吉、又は外孫なりと。

サ 左 安藝の刀匠。安行の子。應永年間の人。後の左と稱す。同名二世。初代は喜太郎と稱すと。

サ 左 筑前の刀匠。應永年間の人。後の高野等の寺務を歷管す。天慶六年冬寂す。年九十一。

サイア 西阿 **スエミツ**（大江季光）

サイア 歳阿 筑前國左の渕の刀匠。國弘の門。康安頃の人。或は曰く元德頃と。

サイアン 細菴 **ウンザン**（宮澤雲山）

ザイアン 在庵 **エンイウ** 圓有

サイイウバウ 西遊房 **クワンシユン** 桓舜

サイイチ 才市（大塚）岩兵中尉。初木縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、八月十三日盛京省胡家屯附近に戰死す。

サイイン ホフシンワウ 最胤法親王 天台座主。邦輔親王の子。正親町天皇の猶子。二品。寛永十六年正月薨ず。

サイウケン 左右軒 **ウネメ**（長野采女）

サイウン 彩雲 **イウカン**（藤田友閑）**センケイ**（佐々木泉景）**サウセキ**（村瀬蟾石）

サイウン ホフシンワウ 最雲法親王 鶴川天皇の第二子。母は伊勢守時綱の女。天台座主。楊井宮第十三世の門主。應保二年薨ず。年五十九。

ザイエイ 在榮（三輪）畫家。花信齋と號す。江戸の人。寛政九年四月二十七日没。

サイオン 西音 歌僧。續古今、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新古今諸集の作家。

サイカ 採下（長谷川）俳人。抱琴舍と號す。

サイガ 再賀（芝）俳人。一滴仙、又希來軒と號す。

サイガ 再賀（守）俳人。一日仙、希來軒と號す。二世音峨の門人。明和元年七月十七日没す。年七十三。

サイカアン 崔下庵 **センリヤウ**（菊岡沾涼）

サイカウ 濟高 僧。東寺の長者、後、東大、貞觀、

サイカウ 細香(江馬) 美濃の儒。頼山陽の妻。頼齋の女。詩及び書画を善くす。嫁せずして、文久三年九月歿す。

サイガウノツボネ 西郷局 アイノカタ 愛の方

サイカク 西角 俳人。寺井氏。輪花堂、村雲菴、翠心居士の號あり。京都の人。貞徳の門。享保十五年八月八日歿。年七十。

サイカチ 西海枝 羽前國小野の領主。太郎左衛門と稱す。書を好み、雪村に倣ひて筆力あり。

サイガン 彩巖(桂山) 江戸の儒者。名は義樹、字は君蕃。別號天水漁者。通稱三郎左衛門、後三郎兵衛と改む。幕府に仕ふ。寛延二年三月二十一日歿す。年七十二。

ザイガン 在顔 常陸國眞壁郡山尾村光明寺の僧。一に在関に作る。眞壁城主宗幹の子。兵略に通じ、又書を好みて雪村の奥旨を得。

サイギウ 才牛 ダンジフラウ(市川團十郎)

サイギク 採菊(條野) 新聞記者。通稱傳平。江戸の人。東籬園、山々亭、芳月庵等の號あり。鶴堵源一郎と共に東京日々新聞を興し、晩年劇評に執筆す。明治三十五年歿す。

サイギヤウ 西行 歌僧。圓位と號す。俗名佐藤義清。左衛門尉康清の子。鳥羽上皇に仕へて北面の士たり。二十三歳の時、出家し、身を雲水に托して四方に周遊し、建久元年二月十六日、京師に寂す。年七十三。其の著、山家集あり。千載、新古今、新勅撰、続後撰、続古今、続拾遺、新後撰、玉葉、続千載、続後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サイキヨ 柴居 俳人。鴨立庵。西奴の門。

ザイギヨ 在漁 ウンケイ(頼雲溪)

サイギヨクケン 碎玉軒 マサノシン(佐柄政之進) タンアン

サイギン 西吟 永照寺の住僧。一に昭默と號す。豊前の人。東福寺に入りて禪教を學び、小倉に遊りて學徒を教育す。正保三年本山の教頭となり、寛文四年八月十五日寂す。年五十九。

サイギン 西吟 俳人。水田氏。落月庵と號す。西鶴等の別號あり。元祿六年八月十日歿。年七十九。

サイキン 西吟 俳人。水田氏。落月庵と號す。西鶴の門。鬼の目、鍋牛山、栗の花の著あり。延寶元祿頃の人。

サイグウノナイシ 齋宮内侍 女歌人。拾遺集の「作家。

サイグウノニヨウゴ 齋宮女御 ヨシコデヨウワウ 柔子内親王

サイグウノみこ 齋宮のみこ ジウシナイシンワウ

サイグワウ 才藏(天野) 海軍少佐。廣島縣人。日露の役に従ひ、明治三十八年二月二十二日病死す。

サイザウ 才藏(可兒) 名は吉長。一に重長に作る。前田利家及び豊臣秀吉に仕へ。後關原正則に従ひ、終に剃髪して才入と稱し、竹葉軒と號す。慶長十八年六月二十四日歿す。年六十。

サイザウ 宰三 セイサイ(小川靖齋) 山林家。名は時明。熊本藩士。明和年間、雲城郡の諸山の荒廢を慨き、山支配役となり、專ら杉檜を植う。文化六年歿す。

サイジ 才二(川久保) 歩兵少佐。千葉縣人。日露戦役に従ひ、明治三十八年三月三日盛京省饒家屯附近に負傷し、六日歿す。

サイジ 才二(野村) 東海生命保險相互會社取締役。大正元年十月十五日歿す。

サイシキ 在色 延寶頃の俳人。野口氏。談林風。

サイシニヨウワ 齋子女王 小一條院の第三女。賀茂の齋院となり、春日齋院と稱し、また廣瑞女御と號す。

サイジバウ 再兒房(加藤) 俳人。通稱彌太夫。有賢、又花水亭と號す。玄武房の門。

サイシヤウ 宰相 湯子内親王家の女房。新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

サイシヤウ 宰相 四條中宮の女房。後拾遺集の作

サイコク 西國 最後の俳僧。宗因の門。花見すきの著あり。

ザイゴチユウジヤウ 在五中將 ナリヒラ(在原業平)

サイゴン 最厳 叡山の阿闍梨。藤原雅弘の子。

サイサアン 採茶庵 サンプウ(鯉尾杉風)

サイザイ 采齋 ゼンカウ(二世司馬全交)

サイザウ 才藏(可兒) 名は吉長。一に重長に作る。前田利家及び豊臣秀吉に仕へ。後關原正則に従ひ、終に剃髪して才入と稱し、竹葉軒と號す。慶長十八年六月二十四日歿す。年六十。

サイザウ 才藏(天野) 海軍少佐。廣島縣人。日露の役に従ひ、明治三十八年二月二十二日病死す。

サイザウ 宰三 セイサイ(小川靖齋)

サイジ 才次(木原) 山林家。名は時明。熊本藩士。明和年間、雲城郡の諸山の荒廢を慨き、山支配役となり、專ら杉檜を植う。文化六年歿す。

サイジ 才二(川久保) 歩兵少佐。千葉縣人。日露戦役に従ひ、明治三十八年三月三日盛京省饒家屯附近に負傷し、六日歿す。

サイジ 才二(野村) 東海生命保險相互會社取締役。大正元年十月十五日歿す。

サイシキ 在色 延寶頃の俳人。野口氏。談林風。

サイシニヨウワ 齋子女王 小一條院の第三女。賀茂の齋院となり、春日齋院と稱し、また廣瑞女御と號す。

サイジバウ 再兒房(加藤) 俳人。通稱彌太夫。有賢、又花水亭と號す。玄武房の門。

サイシヤウ 宰相 湯子内親王家の女房。新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

サイシヤウ 宰相 四條中宮の女房。後拾遺集の作

家。

サイシヤウ 宰相 還子内親王家の女房。新勅撰集「の作家。

ザイジヤウ 在上 貴人。朱雀天皇に仕ふ。

サイシヤウサンミ 宰相三位 ムネコ(平棟子)

サイジヤウジヨウインノミヤ 最上乘院宮 コウケイホフシンワウ 公啓法親王 ヒロヨシンワウ 廣義親王

サイシヤウノキミ 宰相君 アリコ(源在子)

サイシヤウノスケ 宰相典侍 後宇多帝の朝の女房。參議藤原雅有の子。新後撰、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

サイシヤウノツボネ 宰相局 順徳天皇の宮人、法印公雅の女。

サイシヤウホフイン 再昌院法印 キギン(北村季吟)

サイジユン 西順 京都の歌僧。夫木抜書二十一代集等を編纂す。

サイジユン 西淳 エタク 慧鐘

サイジヨウ 宰承 法印。續千載集及び詞花集の作「家。

サイシヨウクワウホフイン ノミヤ 最勝光院宮 ソンインホフシンワウ 尊胤法親王

サイシヨウジ 最勝寺 サダトキ(北條貞時)

サイジヨウバウ 西乘坊 シング 信救

サイシヨウワンジドノ 最勝園寺殿 サダトキ(北條貞時)

サイジヨホフシンワウ 最助法親王 後醍醐天皇の皇子。母は按察使三位局。弘和九年十一月二十九日座主となる。

サイシラウ 才四郎(鎌田) 志士。名は基豊、初名孝精。礫堂と號す。下野の農。中島孝兵衛の子。壬生藩士緑田基吉の養子。元治元年田丸直允等の太平山に兵を擧ぐるや、才四郎密に水戸藩士に通ず。六月獄に繋がれしかば、大に憤りて、同十七日自殺す。年二十五。

サイジラウ 才次郎(後藤) 陶工。名は吉定。加賀の人。寛文中、古九谷燒を製出す。

サイジラウ 才次郎(大竹) 輜重兵少尉。熊本縣人。日露戦役に際し、運送船常陸丸に乘組みて出征し、六月十五日敵艦の襲撃を受けて死す。

サイシン 最信 歌僧。源義氏の子。叡山諸長吏の別當。續古今、續拾遺、新後撰諸集の作家。

サイシン 濟信 仁和寺の門主。敎實親王の孫。左大臣雅信の第三子。雅慶の弟子。東大寺の別當を兼ね。仁和寺大僧正、また眞言院大僧正と號す。長元三年六月薨ず。

サイシン 齋眞 ウジタケ(宍木田氏筠)

ザイシン 材親(北畠) 伊勢の國司。政卿の子。本名具敎。永正八年五月薨ず。年四十四。

サイシン ホフシンワウ 濟深法親王 豊元天皇の長子。母は中納言典侍。一宮と稱す。俗名覺濟。一覺修寺に入り、東大寺別當に補せられ、元祿十四年十二月二日薨。年三十一。

サイシンホフシンワウ 濟信法親王 有栖川宮仁親王の子。俗名修道。文化五年八月二十五日入寂得度、七年十二月二日一品に叙せらる。

サイスケ 才助(志水) 熊本藩士。名は清冬。一に治兵衛と稱す。藩主を輔けて藩政を釐革す。寛政四年九月二十四日歿す。

サイスケ 齋助 マツネ(村山松根) 俳人。早川氏。宗因の門。

サイズヰ 西隨 俳人。早川氏。宗因の門。字は子榮。

ザイセイ 在正(原) 畫家。在中の子。字は子榮。

サイセウ 西笑 叡山文殊精舎の住僧。伊豫の人。

サイチ 左一(今泉) 歩兵中尉。愛知縣人。明治三十七年日露戦役に従ひ、十月十六日盛京省魏家屯に戦死す。

サイチ 磋一(幡川) 歩兵大尉。群馬縣人。日露の役に従ひ、明治三十七年八月遼陽附近に戦死す。

サイチ 佐一(堀川) 歩兵大尉。熊本縣人。日露戦役に従ひ、明治三十八年三月七日瀋城堡に戦死す。

サイチ 佐一(石川) 歩兵中尉。神奈川縣人。日露戦役に従ひ、明治三十七年八月二十一日水師營附近に戦死す。

サイチ 佐一(太田) 歩兵大尉。愛知縣人。日露戦役に従ひ、明治三十八年三月六日盛京省救兵臺に戦死す。

サイギ　才治（鶴澤）三絃家。絲遊と號す。鶴澤覓治の弟子。安政五年八月歿す。

サイチユウ　再仲　シンタク（柳川震澤）

サイヂユウ　西住　法師。俗名季政。千載集の作家。

ザイチユウ　在中（原）京都の貴人。名は敦遠、字は子重、別號臥遊、天保八年歿す。

ザイチユウ　在中　ハクセキ（新井白石）

サイチヨウ　蔡徴　紀伊の畫人。野呂介石の門。

サイチヨウ　最澄　デングウ

サイチラウ　佐一郎（川又）水戸の勤王家。文久三年生野銀山の擧に加りて捕へられ、牢死す。年四十七。明治四十年贈從五位。

サイテイ　榮亭（三浦）越後水原の詩人。名は耘農。弘化頃の人。

サイテツ　寥哲　禪僧。字は明叟。文保二年元に入り、嘉暦の初歸朝、洛の眞如院、甲斐の惠林寺等に住す。後正法寺を開く。正平二年七月歿す。

サイトウ　濟棟　僧勅して得度大法師の位に任ず。延喜四年大僧都に昇り、五年六月寂す。年六十七。世に唐禪院僧都と稱す。

サイドウ　西洞（藤井）京都の書家。兼ねて醫を善くす。名は玄之、字は子祥、別號祥庵、伊織と稱す。明和七年歿す。

ザイナゴン　在納言　ユキヒラ（在原行平）

ザイニチ　西日　法師。源猶隆の子。新古今集の作家。

サイニン　濟忍　越前圓藏寺の僧。名は圓琳。香月院深勵に學ぶ。嘉永六年四月十三日寂す。年六十七。

サイニン　ホフシンワウ　最仁法親皇　土御門天皇の第七子。母は法眼圓譽の女。出家して梶井に入り、第二十世の門主たり。弘長三年天台座主となり、永仁三年二月薨ず。中山宮と稱す。

サイネン　西念　信濃長命寺の僧。井上盛長の子。越後に至りて親鸞上人に仕ふ。正應二年三月十五日寂す。年百八。

サイバ　西馬（樂亭）江戸の小說家。三馬の門。初名、鸚亭鸚馬、また爽籟山人、爽籟亭宮守と號す。通稱西宮新六、後久兵衞。安政五年八月十四日歿、年六十。

サイバ　塞馬　俳人。通稱板倉七左衞門。一歲と號す。三河足助の人。卓池の門。慶應三年十一月歿す。

サイハク　塞白　畫人。牧牛の畫を能くす。

サイヒ　濟美（櫻田）仙臺藩の儒者。名は通、字は子惠、通稱甫助。

サイヒ　齋美　エイシヤウ（土岐瑛昌）

サイヒ　蔡徴　畫家。紀伊の人。野呂介石の門。

サイヒビダウ　採薇堂　セイサ（淺野井佐）

サイヒン　采蘋（原）女詩人。古島の女。

サイフクヰン　西福院　一に最福院に作る。茶人。珠光の門。南都興福寺中の人。

サイヘ　載甫（爾）岡藩の儒者。通稱幸輔。享保十五年歿す。年八十五。

サイホウ　西鵬　サイワク（北原西鵬）

サイマロ　才麿（椎本）大阪の俳人。名は則武。字は小文。狂六堂、蕉翁、松笠の號あり。又西丸、西鷺ともいふ。初め西武の門に入り、後西鶴に從ふ。元文二年正月二日歿す。年八十二。著、千葉集、伊丹句合。

サイミヤウジニフダウ　最明寺入道（北條時頼）

ザイメイ　在明（原）畫家。在中の二子。字は子德、寫照と號す。父に學ぶ。天保十五年歿す。

サイメイテンワウ　齋明天皇　クワウキヨク

テンワウ　皇極天皇

サイヤウ　榮陽（堀越）江戸の狂言作者。初名澤村二三次。寶暦中、堀越氏と改む。森田座中村座に屬し、明和九年八月歿す。一に安永七年二月十八日歿。年五十八。

サイヤウ　榮陽　俳人　鵬翅卷と號す。初世吾山の門。

サイヤウ　暉陽（野口）儒者。名は之布、字は士政、加賀の人。昌平黌に學び、藩の家老橫山氏に仕ふ。維新の際、王師に從ひ北越を征す。後文部省、司法省に出仕す。明治三十一年三月二十二日歿す。年六十九。

サイライキヨ　西來居　ミブツ　未佛（六十九）

サイリツシ　柴立子　セイクワ（藤原惺窩）

サイレン　西蓮（銀工）名は國吉。良西の子。筑前の國博多祇園寺の僧。建治頃の人。求は曰く貞應頃、又建保頃、同名二世なりと。又正應文保年間、左文字の父なりと。

サイレン　西蓮　尼。新續古今集の作家。

ザイレン　財蓮　一に西連に作る。足利時代の面打。假面中作七人の一。越前永平寺の僧。

サイロ　榮路　俳人。裏太の門。笠山人と號す。通夜物語の著あり。

サイヰンティ　西院帝　ジユンナテンワウ　淳和天皇

サイヰンノクワウゴウ　西院皇后　ケイシ（藤原馨子）

サイヰンノソウジヤウ　西院僧正　クワンセイ　寛靜

サイエン　西園　法師。俗名宇都宮楊麿。新後撰集に數首入る。

サイエン　西園　曼後直入郡牧村の農。兩目早く盲せしが、能く農を勤む。天明二年四月領主より貨を受く。

サイエン　最園　檀少僧都。三條藤表の子。西院と號す。

ザイエン　在淵（乾）江戸の茶人。臨雪と號す。寛政十二年正月八日歿す。

サイヲウ　濟翁　書僧。明兆に學ぶ。名は景樹。明雲子、又紫塞逸民といふ。東福寺の開山士雲の弟子。萬壽寺に住す。

サイヲウ　榮翁　サウテウ（建部榮兆）

サイヲクケン　柴屋軒　ソウチヤワ　宗長

サイヲンジダジヤウダイジン　西園寺太政大臣　キンツネ（藤原公經）

サイヲンジナイダイジン　西園寺內大臣　サネヒラ　藤原實衡

サイヲンジニフダウ　西園寺入道　キンツネ（藤原公經）

サウ　壯（佐藤）步兵少尉。宮城縣出身。明治三十七八年戰役に出征し、三十七年五月金州城附近に戰死す。

サウアミ　相阿彌　畫家。眞譽の子。名は眞相。鑑岳、また松雲齋と號す。足利義政に仕ふ。造庭書法詩歌香茶等の諸技にも通ず。香は相阿彌流の祖たり。

サウアン　草庵（池田）豊岡藩の儒者。名は賴藏、字は子歡。春日潛庵と友とし善し。著。大學說蠡、書經贅說。

サウイウ　蒼右　明和頃の俳人。

サウイチ　莊一（古谷）步兵大尉。東京の人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十月十一日旅順二〇三高地に戰死す。

サウイチラウ　莊一郎（松本）工學博士。播磨の人。明治三年米國に留學し、歸朝後、工科大學教授たり。二十六年鐵道鑛長官となり、正三位に進む。明治三十三年薨ず。年五十六。

サウウ　雙烏　日向の俳人。文政頃の人。

サウウ　草雨　陸奧の俳人。文政頃の人。

サウウ　草羽　俳人。都因の門。

サウウン　巢雲（淺見）儒。正辰の子。名は正敬、字は子樸、通稱又兵衞。德山侯の世臣。侍讀、判司、目付に轉じ、皆職に稱ふ。安政五年二月二十九日歿す。年七十四。

サウウン　草雲（田崎）畫家。下野國足利の人。梅溪、白石生、硯田農夫、七里香草堂、蓮宿山人等の數號あり。明治三十二年歿す。年八十餘。

サウエン　草偃（佐久間）畫家。山水の畫を能くす。名は顯、字は叔德。京師の人。法橋に叙せらる。文政十一年十月二日歿す。

ザウエン　藏緣　僧。神藏法師の上足。容貌醜し。北國に遊化し、惠施を好み、晩年白山に庵を結ぶ。

サウオウ　相應　高僧。近江淺井郡の人。檗氏。叡山の慈覺大師に事ふ。其の昵禁にて天皇の齒痛及び藤原皇后の疾患を癒すといふ。享年八十八。

サウオウケン　相應軒　バイシツ

サウオウヰン　相應院　カメノカタ　龜之方

サウガ　草雅　江戸の俳人。文政頃の人。

サウカイ　藻海　テキサイ（河田迪齋）

サウカイ　蒼海　タネオミ（副島種臣）

サウグ　鰫救　ダウシユウ　道宗

サウクワ　草化（淺井）茶人。名は義品、字は松軒。實歷九年京都に歿す。年四十一。

サウケイ　鰫桂（原）儒醫。京都の人。名は瑜、字は公琰、通稱三右衞門。衙署の別號あり。伊藤東涯の門。醫を以て土井侯に聘せらる。論孟を講讀として洙泗微言を作る。明和四年九月江戸に歿す。

サウケウ　鰫橋（林）儒者。名は英、字は俊仲。明治二十九年京都に歿す。年六十九。

サウギ　鰫蠙（白土）江戸の醫者。もと下總の人。名は泰、字は子乘、龍翠、又龍峰と號す。泰氏。吉益南涯の門。文政頃の人。

ザウキ　藏器（有吉）儒前の儒者。名は以顯、字は叔孝、通稱和介。閑谷黌の講學及び閑谷奉行たり。寛政十二年九月歿す、年六十七。

サウキウ　蒼虬（成田）俳人。對塔庵と號し、天保十三年三月京都に歿す。年八十三。

サウキウ　爽鳩（鷹見）儒。祖徠の門。田原侯の老職。名は正長、字は子方、通稱三郎兵衞、三河の人。本莊石川氏、藩の財政を整裕ならしむ。享保二十年四月十二日歿す。年四十六。

サウキウサンジン　巢丘山人　セツサイ（增山雪齋）

サウキチ　操吉（中川）蒼仙盛藩士。西南の役に少警部を以て從軍し、明治十年九月鹿兒島に戰死す。

サウキチ　壯吉　フツドウ（若山勿堂）

サウキヨ　巢居　俳人。白居の門。籬庭と號す。

サウキヨ　草璃　陸奧の俳人。文政頃。

サウギヨ　鰫魚　天明頃の俳人。

サウギヨクモンヰン　蒼玉門院　アサコ（源朝子）

サウキン　草錦　蕉風の俳人。享保年間。

サウキン　草均　加賀の俳人。文政頃。

サウグ　鰫救　ダウシユウ　道宗

サウクワ　草化（淺井）茶人。名は義品、字は松軒。實歷九年京都に歿す。年四十一。

サウケイ　鰫桂（原）儒醫。京都の人。名は瑜、字は公琰、通稱三右衞門。衙署の別號あり。伊藤東涯の門。醫を以て土井侯に聘せらる。論孟を講讀として洙泗微言を作る。明和四年九月江戸に歿す。

サウケウ　鰫橋（林）儒者。名は英、字は俊仲。明治二十九年京都に歿す。年六十九。

サウキヨ　宗規　筑前黑田藩の藩儒。字は月堂。水月老人と號す。宋氏。太宰府の人。寛安元年九月二十七日歿。

サウケン 蒼軒(白石) 金工。名は正好、幼名正治、後、勘十郎と改む。俚名其業。盲僧池田明都の第三子。金工正治の養子となる。早田子世の門に入り、家道平戸藩眼の術を再興す。明治二十一年二月二十七日歿す。年六十五。

サウケン 草軒(加藤) 江戸の儒者。名は眞由、別號富希、又號庵と號す。六國史論等の著あり。

サウケン 操軒(米川) 儒者。名は貞、字は幹叔、儀兵衛と稱す。淨光の子。三宅尚齋の門。延寶六年八月十九日歿す。年五十三。

サウコ 蒼狐(小菅) 江戸の俚人。名は謙丈、通稱習平次、柳圃齋、また五千堂と號す。明和三年十一月六日歿す。年五十五。

サウコ 草古(南部) 俚人。守川希、宗專の門。

サウコ 桑古(天野) 俚人。養志軒、橘山居と號す。西馬の門。明治二十年四月三日歿す。年七十。

サウコ 桑堂(松下) 浦賀の俚人。通稱國五郎、吉兵衛、又九兵衛と改む。仙臺南部兩藩の米穀運漕を扱ふ。文政七年六月十八日歿す。年八十。

サウコ 双湖 武藏の俚人。文政頃。

サウゴ 霜後 俚人。增氏。二世松韻庵 又六仙堂と號す。太祇の門。寛政三年十二月二十九日歿す。年八十三。

サウゴ 雙梧(增田) 詩人。通稱道太郎、名は成龍、借月居と號す。阿波藩士。安政年間江戸に住す。

サウゴ 蒼梧 ヨシキ(大塚嘉樹)

サウコク 蒼谷(名和) 俚人。梅人の門。

ザウコク 象谷 漆工。通稱玉猪敬藏。讃岐高松の人。蘆川理右衛門の子。一種の漆法を創む。明治二年二月一日歿す。年六十四。

サウゴラウ 想五郎 若狭國の刀匠。永祿年間。

サウサイ 操齋 モトダダ(石川幹忠)

サウサイ 草齋 俚人。初代百堂の門。

ザウサイ 慥齋(山田) 京都の儒者。名は疇、字は思叔、綱二郎と稱す。佐野藩に仕ふ。著、先哲畧記言貞行錄、經世叢論等。

ザウサイ 慥齋(叟戸) 陽明學者。名は正、字は士道。土佐の人。佐藤一齋の門。

サウザブラウ 莊三郎(關) 長崎の天文家。諏貞五年五月廿三日歿す。年六十五。

サウザブラウ 莊三郎(山越) 夢兵少佐。長野縣田身。日露戰役に從軍し、明治三十七年九月二十一日歿す。

サウザブラウ 莊三郎(糸尾) 穀語流の茶人。佐「の門。寛文中の人。

サウザン 宗三(間宮) 一に馬見谷氏に作る。會津藩名氏の畫師。狩野玉崇に學ぶ。

サウザン 霜山(金子) 安藝の儒者。名は清民、字は伯成。慶應元年歿す。

サウザン トクノスケ(金子德之助)

サウザン 蒼山(三谷) 儒者。又和歌を能くす。字は猷民、通稱萬四郎。伊勢飯高郡の人。明齋の子。里正たり。天保十二年五月十二日歿す。年六十三。

サウザン トウガイ(伊藤東涯) 名は正好、幼名正治、後、勘十郎と改む。俚名其業。盲僧池田明都の第三子。金工正治の養子となる。早田子世の門に入り、家道平戸藩眼の術を再興す。明治二十一年二月二十七日歿す。年六十五。

サウシ 巢一 俚人。巢兆の門。

サウシ 草宇(田中) 俚人。長阿坊と號す。

サウシ 雙二(八木) 儒兵中尉。東京府出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月二十四日傷死す。

サウシウ 滄洲(益戸) 秋田佐竹侯の重臣。名は秀興、字は伯惇、君猷、又仙鳳。通稱勘四郎。別に沙鷗閑人、南華道人、春芽堂、紙醫子等の別號あり。俚名巴鈎、又查綺。安永六年七月歿す。年五十二。著、猿すべり、鹿の和道、梅の杖、鷗草等。

サウシウ 滄洲(新井) 仙臺侯の儒者。名は養貫、字は子敬。通稱市郎。佐久間洞嵓の子。服部南郭に學ぶ。

サウシウ 滄洲(磯谷) 尾張の儒者。名は正卿、字は子相。通稱覺左衛門。松平君山に學ぶ。享和二年歿す。年六十六。著、尾張國志、滄洲文集。

サウシウ 滄洲(木部) 江戸の儒者。名は敦、字は子敏、世々郡山侯に仕ふ。讒に遭ひて祿を致し、明和三年十一月二十二日歿す。年四十六。

サウシウ 滄洲(安井) 日向の儒者。名は朝宗、字は子全、平右衛門と稱す。獻肥藩に仕ふ。文化六年歿。年六十餘。

サウシウ 滄洲(柳川) 京師の儒者。名は三省、字は省甫、小三次と稱す。もと向井氏。攝津の人。休寛の子。木下順菴に學ぶ。又其の高足柳川震澤に兄事し、其の家を嗣ぐ。然れども晩年また本姓に復す。享保十六年正月十九日歿。年六十六。

サウシウ 滄洲 俚人。青精堂と號す。

サウシウ 滄洲(河村) 江戸の醫。名は卷長、字は子巢、元東と稱す。もと太田氏。伊勢山田の人。幕府に仕ふ。寛政四年五月十三日歿す。年七十七。

サウシウ 滄洲(向井) 儒者。名は三省、字は子發。

享保十六年正月京都に歿す。年六十六。

サウシウ 滄洲 ヨシトキ(增子淑時) レウケイ(三角了敬)

サウジュ 草壽(南部) 京師の儒。字は子壽、陸沉軒と號す。寛文十二年長崎奉行に徵されて長崎に教授す。後京に歸り、富山侯に聘せらる。職原抄支流の著あり。元祿元年歿す。

サウシュン 草春(淺井) 醫。字は白一。蓄名將成。淺井盛政の養子。諸藝に通ず。延寶九年歿す。年七十六。

サウショウ 巢松(小谷) 津藩の文學。名は薰、字は德臨、左金吾と稱す。安政元年歿す。年六十七。

サウショウ 巢松 詩僧。京師の人。薩摩の桂庵に學び、其の高足たり。巢松詩集の著あり。

サウショウ 雙松 ソライ(荻生徂徠)

サウジラウ 莊次郎 マタイチ(小粟又一)

サウスケ 莊助(伊形) 肥後の詩人。名は貫、字は大業。熊本の學館に遊び、擧げられて學師となる。後致仕して鄉に歸る。

サウスケ 莊助佐々木) 內國通運會社の創立者。其の社長たり。茨城縣下妻町の人。明治二十五年四月七日自殺す。年五十八。

サウスケ 莊介 イヘテル(毛受家照)

サウスケ 壯介(橋口) 勤王家。鹿兒島藩士。文久二年四月所司代酒井忠義を襲殺して攘夷を決行せんとす。同藩の鎭使奈良原幸五郎に斬られて死す。明治二十四年贈從四位。

サウスケ 壯輔(田所) 高知藩の志士。海部流砲術の師範。名は恒誠、後長州に投じ、元治元年招賢閣に自殺す。年二十五。明治三十一年贈從四位。

サウセキ 雙石(高力) 儒者。肥前平戸藩士。名は一貫、字は忠顯、通稱惟一郎、一に長齋と號す。文久元年十二月歿す。年三十三。

サウセキ 雙石(村瀨) 畫人。名は魚、一に彩雲と號し、明治十年京都に歿す。年五十六。

サウセキ 雙石(落合) 日向の儒者。名は貴、字は子載、通稱敬助。飫肥藩に仕ふ。明治四年歿す。年八十四。

サウセキ 桑石(中山) 儒。丹波宮津藩士。名は晦三。朝川善庵及び一柳千古に學ぶ。致仕の後、帷下して子弟に教授す。安政三年歿す。

サウセキ 草石(村上) 俚人。す松齋と號す。寒太の門。

サウセツ 蒼雪(宮原) 儒者。名は擧、字は士顯、通稱成太。別に抱天と號す。伊藤松山の子。松崎慊堂、柴碧海、長野豐山等に學ぶ。後安部侯の儒臣たり。明治九年二月二十一日歿す。年七十三。

サウセツ 草拙(廬) 幕府の學職。通稱元右衛門、字は元敬、別に滴菴、葆眞等の號あり。長崎の人。支琢の子。正德中、奉行石河政鄕に擧げられ、擧直監となり、兼ねて滴館の譯士たり。晩年道欵を好み、天地一指編を著す。享保十四年五月歿す。年五十九。

サウセツ 巢雪 畫人。雪舟の法を學ぶ。堺に住し、後宮野山の廬に歿す。

ザウセン 象先 畫僧。明兆に學びて、觀音の像を畫く。或は曰く相國寺の衆先と同人なりと。

サウセン 相泉 畫家。周文の彌陀の像を畫く。

サウセン 巢南 畫人。眞相の風あり、又雙舟の法を兼ぬ。

サウハ 雙把(大島) 俚尼。花實庵と號す。以蕊坊「の門。

サウハ 草坡(內梅) 津藩の俚人。通稱吉六。

サウハ 滄波 俚人。一葉庵三世と號す。初世烏水事を傳言して閉せられ、五月暴死す。

サウタク 桑宅(木原) 舊廣島藩の儒者。名は籍之、字は君茅、晩に撰自老人と號す。阪井虎山の門。明治十四年八月二十五日歿す。年六十八。

サウタラウ 想太郎(伊庭) 儒者。江戸の人。代々鍼法師範たり。明治三十四年星亨を刺殺す。後獄中に病死す。

サウタラウ 壯太郎(越) 勤王の志士。名は溫。常陸の人。農民を募りて筑波の擧に應ぜんとし、棚倉藩兵に捕へられ、斬らる。年四十一。

サウタン 壯丹(高柳) 俚人。通稱新十郎。舊庵、又菜窓と號す。寒太の門。文化十二年二月十四日歿す。寒の實、三翁旬解の著あり。

サウチク 雙竹 ブンコウ(山田文厚)

サウチユウ 桑中(喜多村) 俚人。通稱琢之丞。溫故庵と號す。貫齋の門。

サウテウ 巢兆(建部) 俚畫家。武藏千住の人。山本歌齋の子。名は英親。秋香庵、小雲庵、菜翁等の號あり。谷文晁の門。文化十年十一月十七日歿す。

サウテウ 巢鳥(平田) 俚人。通稱喜藏。餘月庵と號す。南架の門。

サウテウノキミ 雙調君 ノヲヨシ(源信義)

サウデン 早田 シンカク 眞覺

サウト 草兎 俚人。初世宗瑞の門。

サウド 草土 俚人。露月堂と號す。

サウナン 巢南 畫人。雪舟の法を學ぶ。

サウソンサイ 操存齋(申島) 秋月藩の儒臣。名は恒誠、後長州に投じ、元治元年招賢閣に自殺す。年二十五。明治三十一年贈從四位。

サウセキ 雙石(高力) 儒者。肥前平戸藩士。名は

の門。

サウハ 滄波 俳人。芭蕉の門。

ザウハウ 象匏 禪僧。名は文雅。別に櫟谷と號す。天保の頃勅を奉じて玉鳳院塔主となる。六十二歳にして寂す。勅諡號納鑑獨。

サウヒ 雙飛 俳人。都因の門。

ザウヒコ 象彥 ヒコベヱ(西村彥兵衞)

サウフ 雙鳧 (一世) 俳人。瀨上氏。井下庵、叉春蛾房と號す。二世平砂の門。(二世) 瀨上氏。萬年、青齋と號す。二世乾什の門。

サウフウ 藻風 俳人。可都見房と號す。東故の門。

サウヘキモンヰン 藻壁門院 ヨシコ(藤原竴子)

ザウマン 藏滿 僧。東大寺奏藏の高足。

サウヤ 草也 明和頃の俳人。

サウヤウ 蒼陽 伊豫の俳人。文政頃。

サウヤウアン 桑揚庵 ヒカル(頭光)

サウライ 莊來 陸奥の俳人。天明頃の俳人。

サウラウ 滄浪(三宅) 連俳家。宋屋の門。名は方隆、一に嘯山、葎亭と號す。享和元年四月十四日歿す。年八十四。著、俳諧古選、同新選、かな手本、通俗酔菩提傳、俳諧蟹集等。

サウラウ 滄浪(間崎) 儒者。勤王家。土佐の人。通稱哲馬、名は則弘。房之助の子。安積艮齋の門。藩主の命によりて藩政を改革せんとし、遂に反對派に陷れられ、慶應三年六月八日自刄を命ぜらる。年三十。

サウラウ 滄浪(深尾) 江戶の儒者。名は元僑、字は君初、九疇と號す。天明四年歿す。

サウラウ 滄浪(秦) 尾張藩の儒者。名は鼎。字は子鉉。梭刊する所、左氏傳、國語、古詩紀、周易解、莊子因等あり。天保二年歿す。

サウラウ 滄浪(富永) 儒。近江淺井郡の人。名は瀾、字は子源、左仲と稱す。易經詩經論語等の彙註あり。明和二年八月歿す。

サウラウ 滄浪(墨江) 熊本侯の儒者。名は昭猷、字は君徽、通稱萬之助。服部南郭と交りて詩を能くし、書に巧なり。

サウラウ 滄浪(石川) 江戶の儒。名は濟、字は灝、通稱滿平。井上金峨の門人。米倉侯に聘せられ、天明中歿す。年三十九。

サウラウ 滄浪(土田) 越後岡野新田の俳人。通稱磯次。弘化頃の人。

サウラウ 滄浪 キウサウ(室鳩巢)

サウラウ 滄浪 ナンメイ(入江南溟)

サウラウ 莊郎 俳人。麥太の門。二峯庵と號す。

サウラウテイ 滄浪亭 シゲカツ(中村重勝)

サウリツ 雙笠(江戶) 江戶節を善くす。江戶河東及び江戶半太夫の門。本名常磐屋仁左衞門。後庭香と號す。

サウリユウ 蒼龍(竹中) 醫。名は恭。文久三年京都に歿す。年六十三。

サウリユウクツ 蒼龍窟 ツグノスケ(河井繼之助)

サウリユウケン 雙龍軒 ナホヨシ(關直吉)

サウリウシ 蒼龍子 タケチカ(吉田武親)

サウリンシ 巢林子 モンザヱモン(近松門左衞門)

サウリンジノミヤ 雙林寺宮 鳥羽天皇の皇女。母は光滿法印の女。

サウリンジノミヤ 雙林寺宮 ニンヱホフシンワウ(仁惠法親王)

サウロ 草廬(龍) 京師の儒者。もと武田氏。名は公美、字は君玉。中頃、名を元亮、字を子明と更め、後再び舊に復す。竹隱、松菊、吳竹翁、明々窓、綠鬘洞、鳳鳴等の號あり。通稱彥二郎、後衞門と改む。山城伏見の人。彥根の文學となり、晩年致仕して平安に歸り、專ら著述を事とし、寛政四年二月二日歿す。年七十九。叉歌を善くす。

ザウロク 操六(川上) 陸軍大將。子爵。舊鹿兒島藩士。日淸の役、大本營陸軍參謀たり。明治三十一年參謀總長に補せられ、三十二年五月十一日薨ず。

ザウロク 藏六(秦) 鑄工。山城の人。孝明天皇の勅を奉じて銅印を、叉德川慶喜の爲に征夷大將軍の金印を鑄る。明治六年御璽國璽を鑄る。二十三年歿す。

ザウロク 藏六(眞淸水) 陶工。もと淸水氏。幼名田三郎。山城國乙訓郡久我村の人。叔父和氣龜亭に學ぶ。弘化元年開窯して名を藏六と改め、遂に一家をなす。後、妙法院宮の命により姓を眞淸水と改む。明治十年六月歿す。

ザウロク 藏六(龜山) 俳人。通稱松太郎。如秋、江山亭と號す。篤老の門。

ザウロク 藏六 (初世) 篆刻家。大島芙蓉の門。名は茂喬、字は君樹、濱村氏。武藏葛飾の人。性朴直。寛政六年十一月歿す。(二世) 名は參、字は乘德、別號貫齋、幼名仙吉。初代の姪にして其の養子となり、文政二年七月十八日歿す。年四十八。(三世) 二世の門。小林氏。名は籍、字は子牧。南溪、雋齋、龜禪と號す。天保十四年八月十八日歿す。年五十三。

ザウロク 藏六(小林) 下總の畫家。明治十三年歿す。

ザウロク 藏六(秦) 鑄金家。通稱米藏。明治二十二年京都に歿す。年六十八。

ザウロク 藏六(高橋) 步兵少尉。廣島縣人。日露戰爭に從軍中、明治三十七年十月二十日盛京省五

里臺子附近に傷つきて死す。

ザウロク 藏六 ヨシスケ(西川吉輔)

ザウロクサンジン 藏六山人 コタラウ(奧平小太郎)

ザウロクダウ 藏六堂 キヨツネ(朝山淸常)

サウヱ 莊衞(三澤) 步兵中尉。長野縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年六月常陸丸に乘組み、玄海灘航行中、敵艦に襲擊せられて死す。

サウヱン 桑園 サンクワン(澁谷三貫)

サウヱンバウ 相園坊 ケンサイ(猪苗代兼載)

サオウ 沙鷗(赤松) 儒者。播磨の人。名は薦邦、字は新甫。元祿中、松山侯に仕ふ。明和四年十一月晦日歿す。年百。

サガインクンシ 嵯峨隱君子 醍醐天皇の皇子。童形にして白髮なり。

サカウ 蓑香(金子) 篆刻家。名は好爵、また孚、字は際之、叉魚吉、通稱與一。幕府の先手與力。明治二十五年九月二十九日歿す。年七十八。

サカウ 左更 俳人。麥太の門。梅の痩の著あり。

サカウ 左交 ヂスケ(初世櫻田治助)

サカヱ 榮(植田) 高知の人。帝國大學撰科に入りて、政治經濟の學を修め、敎育に從事す。明治二十四年四月一日歿す。年二十八。

サカヱ 榮(島内) 砲兵中尉。高知縣出身。明治三十八年八月周防灘にて金城丸沈沒の際溺死す。

サカヱ 榮(山内) 步兵中尉。愛媛縣出身。臺灣守備に從事し、明治二十九年十二月負傷して死す。

サカキ 榮木(羽田) 三河の國學者。名は敬雄。常陸と稱す。平田篤胤に學び、藏書一萬三百餘卷あり。權少敎正たり。明治十五年六月歿す。

サカク 左角 江戶の俳人。左月堂と號す。不角の門。

サカク 左角 俳人。馬場氏。壺中園。支考の門。

サカク 共覺 俳人。萬木氏。通稱九兵衞。風羅窓と號し、安政年間江戶に住す。

サガコジ 嵯峨居士 ユウレン(涌蓮)

サガソウヅ 嵯峨僧都 ニンカウ(仁斅)

サガダジヤウダイジン 嵯峨太政大臣 ノブツグ(藤原信嗣)

サガ テンワウ 嵯峨天皇 桓武天皇の第二子。平城天皇の同母弟。諱は神野、一に賀美野に作る。詩を能くし、最も書法に精し。在位十四年。位を皇太弟大伴に讓りて、嵯峨に居り、承和九年崩ず。壽五十八。續後拾遺集の作家。

サガナイダイジン 嵯峨內大臣 イヘツグ(藤原家次)

サカノウヘノオホイラツメ 坂上大孃 大伴家持の妻。大伴宿奈麻呂の長女。母は大伴坂上郎女。萬葉集及び新拾遺集の作家。

サカヒクロヒコ ワウジ 境黑彥皇子 允恭天皇の皇子。母は忍坂大中姬皇后。大泊瀨皇子に逼られて、大臣葛城圓の邸に焚死す。

サカヒマロ 界麿(巨勢) 黑麿の孫。兄邑治の養嗣。聖武孝謙の兩朝に事へ、參議、紫薇大弼、兼兵部卿となり、五年薨ず。

サカホ 佐香保 江戶吉原の妓樓並木の妓。正保中の人。尼となる、法名貞閑。

サガミ 相撲(小寺) 源氏。元弘頃の武人。

サガミ 相摸 女歌人。初名乙侍從。父は不詳。或は曰く中宮進賴光と。母は慶滋保章の女。祐子內親王の侍女。橘則長及び藤原定賴等に通じ、相摸守大江公資に嫁す。後拾遺、金葉、千載、新勅撰、續後撰、續拾遺、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サガミジラウ 相摸二郎 トキユキ(北條時行)

サガミダイフ 相摸太夫(猷澤) 端唄の名人。本名虎右衞門。明治の初年に歿す。

サガミタラウ 相摸太郎 トキムネ(北條時宗)

サガミニフダウ 相摸入道 タカトキ(北條高時)

サガミノハハ 相摸母 能登守保章の女。金葉集の作家。

サカモトシンワウ 坂本親王 桓武天皇の皇子。母は宮人河上眞好。四品治部卿。弘仁九年十一月薨ず。年二十六。

サカリノセウシヤウ 盛少將 女歌人。式部丞貞孝の女。後拾遺集の作家。

サキ 左器 俳人。曾良、叉潮東軒と號す。

サキウ 左丘 俳人。安永天明頃。

サギウ 左牛(奧野) 俳人。玉露堂と號す。京都に住す。

サキコ 禧子(藤原) 後醍醐帝の中宮。實兼の三女。謙子內親王を生む。帝隱岐に遷幸するに及び、剃髮して尼となる。元弘三年帝の宮に還るや、髮を蓄へ、また中宮となる。此年崩ず。後京極院と稱す。續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新葉諸集の作家。

サキコ 禧子(藤原) 後陽成帝の女御。太政大臣前久の女。後水尾帝を生む。天和六年三宮に准じ、中和門院と號す。寬永七年薨ず。年五十六。

サキチ 佐吉(武田) 利休と同時代の茶人。

サキチ 佐吉(永田) 畫人。名は皆澄、覺翁と號す。美濃竹鼻の人。篤行家。佛佐吉の稱あり。寬政元年十月十日歿す。

サキチ 佐吉(石田) 三成の第二子。關ヶ原の敗後、漂泊して虜となり、京師に斬らる。

サキチ 佐吉(小川) 慷慨家。久留米藩士。本名宮田半四郎。名は師久。文久三年南山の擧に加り、軍

敗れて還逃し、元治の京變に與り、後長州奇兵隊に投ず。明治元年正月十日馬關に歿す。年三十九。

サキチ　瓊吉　リユウミン(正木龍珉)　大阪の俳人。水足氏。蒼竹齋と號す。

サキツ　左橘　大立の門。天寿集、古親幷の著あり。

サキツグ　前次(三浦)　默人。美作勝山城主。志摩守。寶曆頃の人。

サキトヨ　前豊(廣幡)　初名輔忠。近衛關白內前の猶子。青雲と號し、丹青を能くす。從一位內大臣に至る。廣幡殿、又樂圓樹院と稱す。天明三年薨ず。

サキノタイクワンレイ　前大官令　ヒロモト(大江廣元)

サキノチユウシヨワウ　前中書王　兼明親王

サキノヤ　佐紀廼舍　タカマサ(野々口隆正)

サキノヤマシナウダイジン　前山科右大臣　ソノンド(前原園人)

サキヒサ　前久(近衛)　槇家の子。木名晴嗣。龍山と號す。詩歌及び草圓流の書を善くす。從一位太政大臣に至り、慶長十七年五月薨ず。年七十七。

サキミツ　前光(柳原)　伯爵。戊辰の役、東海道先鋒總督たり。維新後、各國公使、元老院議長、樞密顧問官を經、明治二十七年九月三日薨ず。年四十四。

サキヤウ　左京(青木)　(初世)　幾部流の茶人。拂歷と號す。四世古田織宮の門。　(二世)　除齋庵と號す。

サキヤウ　左京(仙石)　逸臣。その主出石侯仙石政善を毒害せんとして果さず。天保六年十一月二十二日伏罪して死せらる。

サキヤウ　左京(藤井)　天一坊の黨與。伊豫藤ヶ森の人。事露見し、享保十一年死に處せらる。

サキヤウ　左京(本多)　石州流の茶人。德川氏の先手組頭。隱居して宗鶴と號す。名は高智、又希關庵宗利と云ふ。飯塚宗與の門。明治元年歿す。年八十餘。

サキヤウノカタ　左京方　キヨノカタ(喜與之方)　房。鳳雅集の作家。

サキヤウノタイフ　左京大夫　後伏見帝の朝の女「義賢」

サキヤウノタイフ　(左京大夫)　ヨシカタ(六角左金吾(松平)　德川幕府旗下の士。書畫を愛し、其の培養につとむ。大坂町奉行たり。植物を好み、殊に菖蒲と稱す。天明三年薨ず。

サキンゴ　左金吾　サウシヨウ(小谷巢松)

サキンゴゼンモン　左金吾禪門　ヨリイヘ(源頼家)

サク　朔(今村)　步兵少佐。石川縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年九月二日盛京省黑英臺の戰に負傷して歿す。

サク　朔(新谷)　步兵少尉。愛媛縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月二日戰死す。

サク　作(柴田)　步兵少尉。鹿兒島縣人。日露戰役に八年戰役に出征、三十七年五月南山の激戰に死す。

サクアン　策庵　シヤウシツ(里村昌叱)　越後の俳人。五洲房の門。

サクイン　索隱子　ハウシウ(山田芳洲)

サクインシツ　惜陰室　ナルチカ(中山愛親)

サクウン　昨雲　江戸の俳人。笠原氏。通稱半左衛門。宗因の門。

サクウン　策雲(三崎)　インセツ(井上因節)

サクゲン　策彦　シウリヤウ　周良

サクゴ　昨五　天明頃の俳人。

サクサイ　錯齋(櫛引)　弘前藩の儒者。名は清蓁、通稱慥三郎。職務の暇、職を辭す。

サクザワ　作藏(高木)　陸軍少將。明治三十一年陸軍士官學校長に任じ、三十八年六月卒す。

サクザエモン　作左衛門(高橋)　歷學者。名は至時、字は子春。東岡また梅軒と號す。元亮の子。寬政七年幕府の曆官となり、源秀升、平德風等と所謂寬政曆を成す。曆說の著あり。文化元年正月十五日(一に五日)歿す。年四十一。

サクザエモン　作左衛門(高橋)　歷學者。名は景保、通稱作助、字は子昌、蟹灑と號す。父作左衛門の後を受けて書物奉行兼天文方となる。文政十二年伊能忠敬實測の地圖を蘭醫シーボールトに贈りて警告と交換し、事發覺して獄中に歿す。年四十六。

サクザエモン　作左衛門(古屋)　久留米藩士。出でて、幕府の聽下古屋家を繼ぐ。戊辰の役、幕兵を率ゐて囹館に據り傷つきて歿す。年三十七。

サクザエモン　作左衛門　シヤウツグ(本多重次)　リヤウクワン(小川貞寬)　リツアン(渡邊立庵)

サクジ　作次(岡)　步兵中尉。兵庫縣人。日露戰役に從ひ、明治四十年四月二十九日病死す。

サクジユン　策順(齋藤)　越前府中本多家の俳醫、眼科專門。芳桂堂と號す。日野鼎哉に從ひ、洋方醫を修む。また除痘術を講張す。安政四年九月歿す。年三十六。

サクジラウ　作次郎(村瀨)　工兵中尉。愛知縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年一月一日旅順鉢巾山に戰死す。

サクジラウ　作次郎(村上)　步兵中尉。石川縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年七月二十九日英各百附近に戰死す。

サクジラウ　作次郎(野村)　步兵中佐。鹿兒島人。日露の役、明治三十八年一月黑溝臺に戰死す。

サクジラウ　作次郎　(横山)　柔道家。講道館八段。大正元年九月二十三日歿す。年五十。

サクスケ　作助(野村)　勤王家。名は定省、水戶藩士。幕譴によりて本藩に幽閉せられ、慶應元年十月二十五日同志と共に死に處せらる。

サクセ　昨非　俳人。乾氏。蕨眷軒と號す。立圃の門。後宗因に從ふ。繩すだれ、悲の巻、根合の著あり。

サクセン　作仙　畜人。雪舟の筆意を學ぶ。

サクダイフ　作太夫(信太)　周防德山藩の勤王家。名は徹胤、秋琴と號す。俗論蓬に罪せられ、慶應元年殺さる。年四十一。贈從四位。

サクダウ　索道(堀)　狩野派の畫人。鎗澤探山の門。名は守保。法眼に叙せらる。享和二年六月京都に歿す。

サクタラウ　作太郎(藤岡)　國文學者。文學博士。東圃と號す。加賀藩士通學の長子。明治二十七年文科大學卒業。第二高等學校教授、文科大學助教授となり、四十三年二月三日歿。年四十一。著、日本風俗史、國文學全史、國文學史講話、松雲公小傳、近世詩書史、東圃遺稿等。

サクヂ　作治(松田)　步兵大尉。群馬縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月十四日負傷し、三十九年一月二日歿す。

サクデン　策傳　茶人。金森宗和の弟子。又其の弟なりともいふ。通稱平林平太夫。京都誓願寺中竹林院に住し、安樂院を號る。寬永十九年正月八日歿。年八十九。醒興笑の著あり。

サクナウ　昨嚢(岸名)　越前三國の俳人。支考の門。通稱勘助。材木商。元文二年八月二十六日歿す。

サクノスケ　作之助(中橋)　步兵中尉。大阪府出身。日露の役に從ひ、明治三十八年八月病歿す。

サクヒ　昨非(野上)　備前の俳人。

サクヒコジ　昨非居士

サクヘイモンイン　朔平門院　伏見天皇の長女。後伏見天皇の同母妹。瑞子內親王といふ。延慶三年薨。年二十四。玉葉集及び風雅集の作家。

サクベエ　作兵衛(安田)　明智光秀の臣。三羽烏の一。本能寺の變に森蘭丸を殺し、又信長を刺す。後、寺澤志摩守に仕へ、姓名を天野源右衛門と改め、文祿中、征韓の役に從ふ。

サクベエ　作兵衛(今中)　慷慨家。名は爲重。守道の子。慶應元年二第守直守忠の罪に坐し、蟄居を命ぜらる。

サクボクジ　昨木子　ボクラウ　朴翁　露戰役に從ひ、明治三十七年八月三十一日首山堡に戰死す。

サクマ　佐久馬(市村)　步兵大尉。佐賀縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十二月病死す。

サクマ　咲麻(佐藤)　國學者。本居大平の門。通稱市右衛門。未澤の人。

サクラ　作樂(丸山)　蕉島原藩の志士。外務大丞たり。明治の改革を晉ばず、神政回復を企て、終身禁錮に處せられしも、十三年特赦に遭ふ。後貴族院議員に勅選せらるも、三十二年八月十九日卒す。年六十。

サクラウ　朔郎(丸田)　步兵大尉。長野縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月三十一日首山堡に戰死す。

サクラコ　櫻兒　萬葉歌人。才色あり。二壯士に懇慕せられ、林中に入りて縊死す。

サクラゾノ　作樂園　キヨヤス(山田清安)　通稱權之助。材木商。元文二年八月二十六日歿す。

サクノスケ　作之助(中橋)　步兵中尉。大阪府出身。日露の役に從ひ、明治三十八年八月病歿す。

サクヒ　昨非(野上)　備前の俳人。

サクヒコジ　昨非居士

サクヘイモンイン　朔平門院　伏見天皇の長女。後伏見天皇の同母妹。瑞子內親王といふ。延慶三年薨。年二十四。玉葉集及び風雅集の作家。

サクベエ　作兵衛(安田)　明智光秀の臣。三羽烏の一。本能寺の變に森蘭丸を殺し、又信長を刺す。後、寺澤志摩守に仕へ、姓名を天野源右衛門と改め、文祿中、征韓の役に從ふ。

サクベエ　作兵衛(今中)　慷慨家。名は爲重。守道の子。慶應元年二第守直守忠の罪に坐し、蟄居を命ぜらる。

サクボクジ　昨木子　ボクラウ　朴翁　露戰役に從ひ、明治三十七年八月三十一日首山堡に戰死す。

サクマ　佐久馬(市村)　步兵大尉。佐賀縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十二月病死す。

サクマ　咲麻(佐藤)　國學者。本居大平の門。通稱市右衛門。未澤の人。

サクラ　作樂(丸山)　蕉島原藩の志士。外務大丞たり。明治の改革を晉ばず、神政回復を企て、終身禁錮に處せられしも、十三年特赦に遭ふ。後貴族院議員に勅選せらるも、三十二年八月十九日卒す。年六十。

サクラウ　朔郎(丸田)　步兵大尉。長野縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月三十一日首山堡に戰死す。

サクラコ　櫻兒　萬葉歌人。才色あり。二壯士に懇慕せられ、林中に入りて縊死す。

サクラゾノ　作樂園　キヨヤス(山田清安)　通稱權之助。材木商。元文二年八月二十六日歿す。

サクラゾノ　櫻園　サダトホ(岩下貞龍)

サクラダノゴテン　櫻田御殿　ツナシゲ(徳川綱重)

サクラド　櫻戶　タマヲ(宮崎玉緒)

サクラノヤ　櫻舍　メイセン(小倉明原)

サクラマチユウナゴン　櫻町中納言　ナリノリ(藤原成範)

サクラマチ　テンワウ　櫻町天皇　中御門天皇の第一子。諱は照仁、母は新中和院。在位十六年、寬延三年四月二十三日崩ず。壽三十一。

サクラヰダイソウジヤウ　櫻井大僧正　ギヤウギ

サクラヰノアマ　櫻井尼　女歌人。金葉集の作家。

サクラヰノツボネ　櫻井局　スザノナイシ(菅內侍)

サクラヰノミヤ　櫻井宮　カクニンホフシンワウ「覺仁法親王」

サクエン　昨淵(成瀨)　熊本藩士。名は久敬、次郎左衛門と稱す。歷後調誌を著す。元文二年四月十七日歿す。年七十九。

サクラヲ　作夫(小泉)　步兵中尉。大分縣出身。明治三十七年旅順攻圍軍に屬し、八月首山堡に戰死す。

サクラウ　策翁　ソウクン(大森宗勳)

サクイ　茶溪(古賀)　江戶の儒者。詞庭の子。名は增、字は卻川。通稱謹一郎、一に謹堂と號す。幕府に仕へ、書書取調所監督及び昌平學事たり。明治十七年十月三十一日歿す。年六十九。

サクイ　渉鷄　江戶の俳人。住風の門。

サクツ　沙月　京都の俳人。安永頃。

サクノキミ　酒公(森)　崇神皇の裔。將軍綱吉の子、雄略帝に仕へ、庸調の絹絲を進めて殿前に充つ。因りて姓うづまさを賜ふ。後いで大藏長官に任ぜらる。

サクノキミ　酒君(百濟)　百濟王の孫。仁德天皇の

朝葛城襲津彦に從ひて來朝し、鷹の使用法を傳ふ。

サゲン 左玄(石塚) 陸軍藥劑官。越前福井の人。泰輔の子。雙龜、又鈙叟と號す。外科繃帶材料脱脂法、死體貯藏法、古書畫煤出法等を案出す。明治四十二年十月十七日歿す、年五十九。食養長壽法の著あり。

サゲン 左彥 俳人。安永天明の頃の人。

サゲンタ 左源太(津田) 岡山藩の經世家。名は永忠、藩主光政及び綱政を輔けて治績あり。寛永四年歿す。年六十八。明治四十三年贈從四位。

サゴク 茶谷 **ニザヱモン**(片岡仁左衛門)

サゴラウ 佐五郎(杜) 步兵大尉。佐賀縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十二月十七日東雞冠山に戰死す。

サコン 左近 女歌人。三條院の女藏人。拾遺、後拾遺、千載、新古今、續後撰、續拾遺、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

サコン 左近(高力) 慶長五年七月德川家康東征の軍に從ふ。

サコン 左近(渡邊) 浮世繪師。享保中の人。

サコン 左近(伊東) 勇士。山形伊賀守に斃たれて死す。

サコン 左近(島) 兵法家。名は勝猛。一に清興、又友之に作る。石田三成の上客となり、屢奇計を献ずれども用ひられず。關ヶ原の役に敗れ、終る所を知らず。

サコン 左近(島田) 美濃の人。名は龍章。烏丸家及び九條家に仕ふ。和宮降嫁の事に關りて力あり、又井伊直弼の臣長野主膳と謀を合せ、朝臣の間に周旋して幕府を救はんとせしが、浪士に惡まれて、文久二年七月二十一日暗殺せらる。

サコン 左近(多賀) 織部派の茶人。流祖に學ぶ。

サコン 左近 畫人。狩野光信の門。一に右近に作る。名は種次、宗仙と號す。

サコン 左近(杉本) 白山中居神社の神職頭。名は義宜。林泉と號す。天保九年三月歿す。

サコン 左近(長谷川) 畫家。等伯の男。

サコン 左近 **バンサイ**(岡田盤齋)

サコンシヤウゲン 左近將監(加藤) 石州流の茶人。名は養衛、春庵と號す。上總介たり。天明四年正月歿す。年五十四。

サコンシヤウゲン 左近將監(三條) 鎌倉の醫。建久中の人。

サコンシヤウゲン 左近將監(山崎) 富田流の劍法家。富田越後の門。初め朝倉氏、後前田氏に仕ふ。晩年五郎右衛門と稱す。

サコンタラウ 左近太郎(恩地) 楠正成の臣。屢軍に從ひて功あり。正成戰死するに及び、其の子正行を助けて兵を擧ぐ。

サコンタラウ 左近太郎 **ムラムネ** 村宗

サコンヱモン 左近衛門(服部) 伊賀の人。名は宗重。島津義久の近習。性煙草を嗜み、始めて國府梅木に煙草を栽培す。

サコンヱモン 左近右衛門 **ナリモチ**(吉田業茂)

サザアン 些々庵 **チヤウデン**(尾關長傳)

サザウ 左三(三木) 勤王家。伊豫垣生の郷士。明治二年歿す。同三十六年贈從五位。

ササガハドノ 笹川殿 **ミツタダ**(足利滿直)

ササギノヤ 鷦鷯舍 **キミヲ**(小原君雄)

ササキヤマノナイシ 佐々貴山内侍 萬葉歌人。天平中の人。

サザナミノヤ 泊酒舍 **ハマオミ**(淸水濱臣)

ササノヤ 篠舍 **キミヲ**(小原君雄) **ナホカヒ**(西田直養)

ササノヤ 笹廼屋 **アツマル**(神田庵厚丸)

サザン 茶山(菅) 詩人。儒者。那波魯堂の門人。名は晉帥、字は禮卿、通稱太冲。備後神邊の人。其の塾を黄葉夕陽村舍といふ。福山侯に擢用せられ、後、私塾を郷校となし、廉塾と稱す。文政十年八月十三日歿す、年八十。

サザン 蓑山(穗坂) 通稱喜代平。名は礦。安政年間江戸に住す。

サシウ 蓑洲 **ハクク**(關白駒)

サシウ 沙洲 **カトウ**(十寸見河東)

サシウ 左舟(川村) 俳人。八百彥の門。

サジユン 佐潤 江戸の彫家。字は君澤、文介と稱す。

サシヨク 左色 蕉門の俳人。

サジヱモン 佐次右衛門(三島) 出雲松江の豪商。名は榮、睡雨と號す。藍綬褒章を賜はる。明治四十二年一月歿す。年五十九。

サシン 左信 **ギヨクエイ**(狩野玉榮)

サスケ 佐助(春藤) 小柄笄の裏師。京都の人。

サスケ 佐助(久田) 日本郵船會社の船長。石川縣人。商船學校出身。明治三十六年東海丸に乘組み、露船と衝突して死す。

サスケ 佐介(猿渡) **ジハク**(村山自伯)

サスケ 佐助 **ナホモチ**(依田直有)

サスタマイリヒメ 刺瓊入姬 垂仁天皇の妃。丹波道主王の女。日葉酢姬皇后の妹。池速別命及び稚淺津姬命を生む。

サスヰヲウ 簑翠翁 **イツテフ**(英一蝶)

サセイ 渉青 江戸の俳人。吏登の門。享保頃。

サゼン 左膳(岡部) 福井藩の家老。名は起革。寶曆八年八月歿す。

ザゼンヰンソウヅ 座禪院僧都 **シンクワン**(深觀)

サソ 左素 畫僧。初め周文に學び、後可翁の風を慕ふ。

サソン 茶村 **スヰウン**(宮本水雲)

サダ 貞(酒井) 和歌を善くし、婦德高し。澤草庵の妻。酒井玄高の女。寶永七年死す。年四十四。

サダ 貞 日向の刀匠。源氏。永正年間の人。或は曰く貞行と同人なりと。

サダ 貞〔一世〕 備前國長船の刀匠。元中年間の人。〔二世〕 應永頃の人。

サダアキ 貞秋(今川) 仲秋の子。中務少輔。

サダアキ 貞顯(二階堂) 爲綱の子。三郎。

サダアキ 貞曉(上部) 國學者。本居大平の門。通稱左近。伊勢山田の人。

サダアキ 貞明 但馬法城寺派の刀匠。天授年間の人。國光の門。或は曰く、正平頃と。

サダアキ 貞明(宮田) 佐原貞清の三男。

サダアキ 貞明 **ナガフサ**(陶長房)

サダアキ 定顯(上杉) 滴方の子。兵庫頭。

サダアキ 定明(安藤) 定賢の子。通稱新太郎。了翁と號す。寛永十四年歿す。

サダアキ 定昭(菅沼) 丹波亀山城主定芳の子。左近將監と稱す。畫を善くす。正保四年九月二十一日歿す。

サダアキラ 貞亮(源) 時盛の子。長久年間土佐守たり。金葉集の作家。

サダアツ 貞溫(長江) 國學者。本居大平の門。通稱縫殿。德島の人。

サダアツシンワウ 貞敦親王 邦高親王の子。母は藤原教季の女。二品中務卿に叙任せられ、後薙髪して澄空と號し、元龜元年七月薨ず。年八十五。

サダアリ 貞在 出雲國の刀匠。文明年間の人。

サダイチ 貞一(吉田) 步兵大尉。廣島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年七月二十八日大白山に戰死す。

サダイチ 佐太一(井深) 步兵大尉。岐阜縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年十一月二十六日旅順口に戰死す。

サダイフ 左太夫(一宮) 一宮流拔刀術の祖。名は照信。武田氏の麾下土佐穗藏に仕ふ。天正年間の人。

サダイフ 左太夫(上田) 姬路藩士。江戸邸の留守たり。文政元年六月水野勘解由に殺さる。

サダイフ 左太夫(井上) 砲術家。德川幕府の臣。

サダイヘ 貞家(溝杭) 源氏。滿村の子。左衞門尉。

サダイヘ 貞家(吉良) 源氏。上總介經家の子。修理太夫と稱す。

サダイヘ 貞家(伊勢) 因幡守貞長の子。備前守と稱す。永享頃の人。

サダイヘ 貞家 大和國古刀の鍛工。保昌派。文保年間の人。

サダイヘ 貞家 備前長船の刀匠。應永年間の人。或は曰く建長頃の人と。

サダイヘ 貞家 備後鞆の刀匠。應永年間の人。藤原氏。正眞の門。

サダイヘ 貞家 薩摩國の刀匠。永祿年間の人。また波平に住すともいふ。

サダイヘ 貞家 **ソウアン**(松浦宗案)

サダイヘ 定家 京都の刀匠。永享頃の人。

サダイヘ 定家 京都綾小路の刀匠。嘉曆年間の人。定利の子。或は曰く永仁正安頃の人。藤五郎と稱す。又正平二十二年八十五歲にて歿す。又定利の門。延元頃の人と。

サダイヘ 定家 古刀の鍛工。武藏高麗郡の人。下原の流。享祿年間の人。

サダイヘ 定家(藤原) 歌人。俊成の子。後鳥羽上皇の詔を奉じて新古今和歌集を又後堀河帝の勅を奉じて新勅撰和歌集を撰す。正二位權中納言に至る。京極黄門と稱し、薙髪して明靜といふ。詠歌大概、顯注密勘、拾遺愚草、明月記の著あり。仁治二年薨ず。年八十。千載、新古今、新勅撰、新後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サダイヘノハハ 定家母(藤原) 女歌人。藤原親忠の女。新古今集及び新勅撰集の作家。

サダウヂ 貞氏(京極) 宗氏の次男。遠江守と稱す。正中頃の人。

サダウヂ 貞氏(足利) 家時の子。尊氏の父。三郎と稱す。讚岐守たり。元弘元年九月五日卒す。

サダウヂ 貞氏(吉見) 滿代の子。三郎と稱す。

サダウヂ 貞氏 備前國長船の刀匠。正平年間の人。

サダオキ 貞置(織田) 茶人。織田有樂に學び、一谷芽翁、三過(一に山花)、黄雀軒、文芳翁、如齋子、永年堂と號す。信貞の子。寶永三年六月卒す。年八十九。

サダオキ 貞興(宇佐美) 伊豆の守護代。祐孝の子。延德三年北條長氏と戰ひて敗死す。

サダオキ 貞興(石井) 肥前長瀨村の人。竹之助と稱す。佐賀縣大屬たり。江藤新平の亂に應じ、又西郷隆盛に與し、明治十年捕へられて斬らる。

サダオキ 貞興〔一世〕 大和國保昌流の刀匠。貞清の子。藤原氏。一に貞奥に作る。正平年間の人。或は曰く元應頃。又嘉元頃の人。又壽永頃の人と。〔二世〕 正平頃の人。

サダオキ 貞興 但馬國の刀匠。正平年間の人。一

に貞興に作る。又法城寺派。又國光の門。建武年間の人ともいふ。

サダオキ 定興(紀) 文貴の子。備前守。

サダオキ 定興(河地) 國學者。本居大平の門。通稱十郎兵衛。美濃大垣の人。

サダオキ 貞起 **ナンガク岡部南嶽**

サダオキ 貞臣(和氣) 播磨守仲世の子。字は和仁。安部吉人に就いて老莊を學ぶ。承和中、秀才に擧げられ、大内記に遷る。享年三十七。

サダオミ 貞臣(今川) 貞世の子。左京太夫。

サダオミ 貞臣(横瀬) 歌人。日野家の門。江戸幕府の高家。駿河守。實歴頃の人。

サダカ 貞香 桓武天皇の紀。百濟氏。敦慥の女。駿河内親王を生む。

サダカ 定香 **レウイ(古筆了意)**

サダカ 貞馨(伊地知) 薩摩の儒者。明治の初年歿す。著、神陵志

サダカゲ 定景 山城古刀の鍛工。正應年間の人。

サダカゲ 定景(長尾) 新六と稱す。石撰山の役、犬延氏に屬し、佐奈田與市を刺す。

サダカゲ 貞景(朝倉) 越前一條谷の城主。長享元年將軍足利義尚に從ひて、佐々木高頼を攻めて功あり。後一族元景を亡し、永正九年卒す。

サダカズ 定員(北條) 但馬前司。寛元四年歿ず。

サダカズ 定一(牧野) 國學者。通稱七兵衛。志摩鳥羽の士。文化八年本居翁庭の門に入る。

サダカズ 定一 刀匠。出羽新庄藩士。高橋氏。文久年間の人。

サダカズ 貞一 陸奥國津輕藩の刀匠。是一の門人。元治年間の人。

サダカズ 貞一 越後國の刀匠。是一の門。元治年間の人。

サダカズ 貞一(上部) 國學者。通稱越中。伊勢山田の師職。文政二年本居翁庭の門に入る。

サダカズ 貞敷(斯波) 家氏の子。木城三郎と稱す。

サダカズ 貞勲(伊勢) 貞方の子。下總守。永享頃の人。

サダカズ 貞敷親王 清和天皇の皇子。

サダカズ 定豪(富山) 國學者。本居宣長及び大平の門。又歌を西涸眺名及び香川景樹に學ぶ。通稱四品。從撰集及び新拾遺集の作家。

サダカタ 定方(藤原) 高藤の子。承平二年八月四日薨ず。年五十七。古今、後撰、玉葉、新千載、新續古今、新勅撰、續後撰、續今古、玉葉、新千載、新續古今集の作家。

サダカタ 貞方(新田) 一に義直に作る。義貞の孫。兵部大輔と稱す。綸旨を襲はんとし、結城直名を破る。後、從兵漸く散ずるを以て、終に薙髪して、洗兵庵と號す。延寶二年九月卒す。年四十三。

サダカタ 貞方(二階堂) 宗島の子。左衛門尉。元弘三年出家す。

サダカタ 貞固(瀬名) 國學者。通稱權藏。文政二年本居翁庭の門に入る。

サダカタ 定堅(菅沼) 德川家康の臣。主膳と稱す。自ら股肉を截取りて世子の病を治せしむ。延寶五年歿す。七十三。

サダカツ 貞勝(堀口) 涼天愛清清劍法の祖。亭山と稱す。通稱將內。根來重明に從ひて獨名流の劍を學び、後水戸侯に仕ふ。延寶中の人。

サダカツ 貞勝(伊勢) 貞種の子。右京亮。寛正頃の人。

サダカツ 貞勝(小川) 源氏。孫一郎と稱す。永祿の頃、近江に住す。

サダカツ 貞勝(村井) 織田信長の臣。初字吉兵衛。民部、又長門守と稱す。元龜七年京師所司代となる。九年薙髪して春長軒と號す。十年六月關光院を奉じて禁闕に護送し、信忠に從ひて二條城に戰死す。

サダカツ 貞勝(奥平) 德川家康の臣。文祿四年十月九日歿す。年八十四。

サダカツ 定豪(富山) 國學者。本居宣長及び大平の門。又歌を西涸眺名及び香川景樹に學ぶ。通稱四品。從撰集及び新拾遺集の作家。

サダカツ 定方(藤原) 高藤の子。承平二年八月四日薨ず。年五十七。古今、後撰、玉葉、新千載、新續古今集の作家。

サダカツ 貞方(新田) 一に義直に作る。義貞の孫。兵部大輔と稱す。綸旨を襲はんとし、結城直名を破る。後、從兵漸く散ずるを以て、終に薙髪して、洗兵庵と號す。延寶二年九月卒す。年四十三。

サダカツ 貞方(二階堂) 宗島の子。左衛門尉。元弘三年出家す。

サダカツ 定勝(種田) 加賀金澤の彫工。青之丞と稱す。演藥の門人。

サダカツ 定勝(坪内) 國學者。本居大平の門。通稱左馬太。德島の人。

サダカツ 定勝 **クラタ 内藏太**

サダカツ 貞勝(宇佐美) 定行の子。上尾に戰死す。年十七。

サダカツ 定勝(上杉) 朱澤の城主。景勝の子。初字喜平次。正保二年九月卒す。年四十三。

サダカツ 定勝(松平) 德川家康の異父弟。小字長福、後三郎四郎と改む。桑名城を領す。寛永元年三月卒す。年六十五。

サダカツ 定勝(種田) 加賀金澤の彫工。青之丞と稱す。演藥の門人。

サダカツ 定勝(坪内) 國學者。本居大平の門。通稱左馬太。德島の人。

サダカツ 定勝 **クラタ 内藏太**

サダカツ 貞包 古刀の鍛工。京都三條の人。

サダカネ 貞懐(大江) 五位。風雅集の作家。

サダカネ 貞兼(今川) 貞世の子。左京亮。

サダカネ 貞兼(平) 稚茂の裔。奥山平太夫と稱す。

サダカネ 定兼(平) 筆季の子。右兵衛尉。

サダカネ 定兼(平) 左京大夫。定成の子。玉葉集の作家。

サダカネ 定兼(山田) 源氏。佐々木氏に屬し、永「祿三年九月歿す。

サダカネ 定猿(山本) 源氏。親定の子。入道。

サダキ 貞樹(小野) 石見王の子。貞觀年間肥後守に任ず。古今集の作家。

サダキ 貞樹(吉川) 夢兵中尉。東京府出身。日露戰役の際、常陸丸に搭乘出征中、明治三十七年六月十五日敵艦に擊撃せられて死す。

サダキ 貞樹(横瀬) 歌人。德川幕府の高家日野家の門。駿河守貞臣の子。通稱中務。實歴頃の人。

サダキ 貞材 保昌派の刀匠。元應年間の人。大和高市に住す。或は曰く彌二郎と稱し、後越中に移住す。又貞吉の子。正平頃の人と。

サダキチ 貞吉(松本) 夢兵中尉。岡山縣出身。日露役に從軍し、明治三十七年九月盛京省早鼠庵附近に傷つきて死す。

サダキチ 定吉(松本) 洋風理髪業の祖。五番の定と稱せらる。元治元年外人に學び、慶應三年横濱に開業す。明治三十九年一月十一日歿。年六十三。

サダキヨ 定清(佐々木) 定時の子。建久頃。

サダキヨ 定清(源) 定平の子。左近衛中將、鎭中守に任ず。足利尊氏の反するや、任國に死す。

サダキヨ 定清(武田) 津輕藩士。通稱源左衛門。隱引退貞の子。大目付兼元締役たり。正德元年二月十三日讒に遭ひて刑せらる。年六十餘。「人。

サダキヨ 定清 周防國二王流の刀匠。天文年間の人。

サダキヨ 定靜(松平) 歌人。冷泉家の門。伊豫松山城主。隱岐守。實歴頃の人。

サダキヨ 貞清(畠山) 清義の子。左近將監。天授「頃の人。

サダキヨ 貞清(小笠原) 時清の子。六郎。

サダキヨ 貞清(伊勢) 三郎左衛門尉。天文頃の人。

サダキヨ 貞清(二階堂) 貧綱の子。左近將監。建治頃の人。

サダキヨ 貞清(佐原) 貞連の子。太夫判官。

サダキヨ 貞清(安濃津) 掃部助の子。三郎。

サダキヨ 貞清(源) 義黒の子。伊豫守。

サダキヨ 貞清(中原) 螺鈿工。永祿三年大喜會の時召されて諸調度に銘工す。

サダキヨ 貞清(石川) 一に光吉に作る。備前守。秀吉に仕へて屋敷犬山城主たり。石田三成に黨し、東軍を拒ぐ。關髪後宗休と號し、京師に居る。或は曰く德川氏の家人となると。

サダキヨ 貞清(石谷) 德川氏の世臣。通稱十藏。寛永十五年板倉重昌と共に島原の賊を擊つ。慶安四年江戸町奉行となる。萬治二年致仕、遊入度と稱す。寛文十二年歿す。年七十九。

サダキヨ 貞清(和田) 佐々木秀義の裔。和泉守と稱す。永祿頃の人。

サダキヨ 貞清 大和國の刀匠。元亨年間の人。

サダキヨ 貞清(多氣) 清幹の玄孫。常陸國府中に居り、府中大掾と稱す。佐竹義重を援けて、北條氏政を防ぎ、利あらず。

サダキヨ 貞清(宗) 對馬の領主。盛國の次子。應仁二年成親の後を襲ぐ。幼字彦七、刑部少輔と稱す。武藏刑忠を援けて、大内氏を破る。明應元年致仕、三年七月九日卒す。年七十三。

サダキヨ 貞清 大隅國の古刀の鍛工。文保年間の人。

サダキヨ 貞清 薩摩國の刀匠。藤原氏。田口氏。次郎兵衛と稱す。寛文年間の人。

サダキヨ 貞清 尾張國夕の刀匠。寛文年間の人。又駿河國安西に住す。

サダキヨ 貞清 (一世) 相摸國の刀匠。山内の一派。正和年間の人。本國備前。(二世) 建武年間の人。法城寺但馬守と稱す。

サダキヨ 貞清 江戸の刀匠。萬治年間の人。橘氏。

サダキヨ 貞清親王 邦房親王の子。後陽成天皇の猶子。二品兵部卿。永應三十七年薨ず。

サダクニ 定國(藤原) 高藤の子。大納言。延喜六年「薨ず。泉大將と稱す。

サダクニ 定國(村上) 醍清の子。崇德帝の朝、流罪に處せらる。

サダクニ 定國 山城國の刀匠。正平頃の人。了派八傍の子。或は曰く應永頃の人。五條に住し、後名を信國と改むと。

サダクニ 貞國(平) 五位。新撰古今集の作家。

サダクニ 貞國(畠山) 時國の子。民部少輔阿波守。

サダクニ 貞國(伊勢) 貞信の子。伊勢守。文明頃の人。

サダクニ 貞國(櫻田) 治部大輔。元弘頃の人。

サダクニ 貞國(今川) 無國の子。三郎と稱す。射を善くす。

サダクニ 貞國(關口) 源義家九代の後胤。常氏の子。今川四郎と稱す。

サダクニ 貞國(和田) 佐々木秀義の裔。和泉守と稱す。

サダクニ 貞國(多氣) 清幹の玄孫。常陸國府中に居り、府中大掾と稱す。佐竹義重を援けて、北條氏政を防ぎ、利あらず。

サダクニ 貞國(宗) 對馬の領主。盛國の次子。應仁二年成親の後を襲ぐ。幼字彦七、刑部少輔と稱す。武藏刑忠を援けて、大内氏を破る。明應元年致仕、三年七月九日卒す。年七十三。

サダクニ 貞國 播津の刀匠。藤原氏。田口氏。次郎兵衛と稱す。寛文年間の人。

サダクニ 貞國 尾張國夕の刀匠。寛文年間の人。又駿河國安西に住す。

サダクニ 貞國 (一世) 相摸國の刀匠。山内の一派。正和年間の人。本國備前。(二世) 建武年間の人。法城寺但馬守と稱す。

サダクニ 貞國 江戸の刀匠。萬治年間の人。橘氏。

サダクニ 貞國 越中國宇津流の刀匠。正平年間の人。貞宗の門。

サダクニ　貞國　越中國宇多派の刀匠。元亀年間。
サダクニ　貞國　石見國出羽の刀匠。大永年間。
サダクニ　貞國　備後國の刀匠。三原の一派。永享年間の人。尾道に住す。正眞の子。
サダクニ　貞國　筑前國左派の刀匠。正平年間の人。貞弘の子。次は曰く應永頃の人。國弘の子。
サダクニ　貞國　肥後同田貫の刀匠。慶長年間の人。藤原氏。「二見嘉右衛門と稱す。
サダクニ　貞國　大隅國の刀匠。弘化安政年間の人。
サダクニ　貞子(藤原)　仁明帝の女御。右大臣三守の女。成康親王及び二内親王を生む。帝崩ぜ、尼となり、貞觀元年薨ず。
サダコ　貞子　貞嬪。大内義隆の妻。内大臣藤原秀綱の女。「房の女。
サダコ　婧子(藤原)　仁孝帝の生母。大納言綱邊の女。東京極院と號す。
サダコ　定子(藤原)　一條帝の皇后。關白道隆の女。修子内親王、敦康親王、妾子内親王を生む。長保二年崩ず。
サダコ　定子(藤原)　後西院帝の宮人。六條局と稱す。聖安女王及び秀望親王を生む。眞松院遷生と號す。
サダコ　ナイシンワウ　貞子内親王　後陽成天皇の女。清子親王の同母妹。齋宮と稱す。猶敖藤原康道に降嫁して、光平を生み、延享三年六月薨ず。
サダゴラウ　貞五郎(佐藤)　歩兵中尉。山形縣出身。明治三十八年戰役に從軍中、三十七年八月盛京省小東溝に戰死す。
サダザウ　定三(湯池)　海軍歩佐。水雷學校教官。明治四十五年四月八日歿。年三十五。
サダザウ　貞造(松浦)　歩兵中尉。大阪府出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月十五日盛京省張良堡附近に戰死す。
サダサト　貞里　備中國青江古刀の鍛工。張次と同一人なりともいふ。
サダネ　定實(安藤)　椎貫の子。快翁と號し、慶長十年歿す。「享文安頃の人。
サダネ　貞實　紀伊國入鹿の刀匠。景實の子。永大和國の刀匠。延元應永間の人。
サダネ　貞實　備前國籍岡一文字派の刀匠。永久頃の人。宗長の子。
サダネ　貞實　古刀の鍛工。備前國の刀匠直宗の流。貞綱の子。又正眞の子。正平頃の人といふ。
サダネ　貞實　備前國古刀の鍛工。左兵衛尉と稱す。正應年間の人。
サダネ　貞實　古刀の鍛工。法便定眞と稱す。
サダノブ　定次(大塚)　海軍中尉。熊本縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年七月三十一日旅順口外に戰死す。
サダシゲ　貞重(後藤)　賴重の子。繼殿頭たり。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺集の作家。
サダシゲ　貞重(大江)　歌人。賴重の子。繼殿頭たり。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺集の作家。
サダシゲ　貞重　越後國高田の刀匠。正保年間。
サダシゲ　貞重　石見國の刀匠。天文年間の人。
サダシゲ　貞重　播磨國の刀匠。寛文延寶年間の人。藤原氏。
サダシゲ　貞重　大和國千手院派の刀匠。文永年間の人。行吉の子。又定利の子。延慶頃の人ともいふ。
サダシゲ　貞茂(宗)　對馬の領主。賴茂の子。刑部少輔、讃岐守に任じ、昌榮と號す。應永十二月襲封、筑前國守護代となり、二十六年六月朝鮮兵、對馬來寇の際之を破る。「と稱す。
サダシゲ　定重(上杉)　賴顯の子。修理亮。小山田
サダシゲ　定重(源)　忠重の次男。右衛門尉。
サダシゲ　定重(讀訪部)　善積 齋時の七男。太郎。僧徒と事を構へ、遂に辛崎に梟首せらる。賴朝時代の人。
サダシゲ　定重　美濃國千手院派の刀匠。初代康道の子。或は曰く天授頃の人。本國は大和なりと。
サダシゲ　定重　美濃國關の刀匠。寛文年間の人。重虎の族。又攝津大阪にも居る。
サダシゲ　定重　播磨國姫路の刀匠。正德享保年間の人。津田市郎兵衛と稱す。
サダシゲ　定重　備前國長船の刀匠。天文年間の人。
サダシゲ　定滋(清原)　賴隆の子。大外記。天喜二年卒す。年五十二。
サダシラウ　定四郎(濱野)　英學者。蕃中津藩士。慶應義塾に敎ふ。明治四十二年十一月歿す。
サダジラウ　定次郎(大野)　歩兵少尉。東京府人。日露戰役に從ひ、明治三十八年一月二十六日旅順

サダスケ　貞資(平)　時國の子。五位。備前守。續千載集の作家。
サダスケ　貞資(藤原)　五位。新千載集の作家。
サダスケ　貞資　陸奥國磐城の刀匠。元禄年間の人。
サダスケ　貞輔(水野)　忠正の子。武藏守。
サダスケ　貞輔(西條)　貞長の次男。彌五郎。壹岐守と稱す。
サダスケ　貞祐(堀口)　美濃守貞滿の子。暫れて堅田に居る。足利義詮の東奔するや、之を慫慂(嘱)せ、佐々木秀綱を斬る。終る所を知らず。
サダスケ　貞助　(一世)　駿河國島田派の刀匠。寛永年間の人。三河守と稱す。(二世)　來氏。三河大掾。貞享年間の人。
サダスケ　貞助　相摸小田原の刀匠。天文年間の人。定廣の門。或は曰く、文明延德頃の人。又龍廣の子。又助眞の弟子。永享頃の人とも。
サダスケ　定助(藤田)　戰學家。有馬侯の臣。樣平と稱し、雄山と號す。關流の算法に達す。文化四年八月歿す。
サダスケ　定助　備前國籍岡の刀匠。建歷天福年間の人。初代助房の門。或は曰く元歷文治年間の人と。
サダスケ　定助　備前國籍岡の刀匠。定久の次子。正應永仁の人。
サダスケ　定介　備前國籍岡の刀匠。正嘉年間の人。
サダスケ　定祐　山城國鞍馬の刀匠。寛文年間。
サダスケ　定資(藤原)　中納言。後定の子。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後撰、新續古今諸集の作家。
サダスケノムスメ　定輔女(藤原)　女歌人。後拾遺集の作家。
サダスケ　貞資(平)　時國の子。五位。備前守。續千載集の作家。
サダスケ　貞資(藤原)　五位。新千載集の作家。
サダスケ　貞資　陸奥國磐城の刀匠。元禄年間の人。
サダスケ　貞輔(水野)　忠正の子。武藏守。
サダスケ　貞輔(西條)　貞長の次男。彌五郎。壹岐守と稱す。
サダスケ　貞祐(堀口)　美濃守貞滿の子。暫れて堅田に居る。足利義詮の東奔するや、之を慫慂(嘱)せ、佐々木秀綱を斬る。終る所を知らず。
サダスケ　貞助　(一世)　駿河國島田派の刀匠。寛永年間の人。三河守と稱す。(二世)　來氏。三河大掾。貞享年間の人。
サダスケ　貞助　相摸小田原の刀匠。天文年間の人。定廣の門。或は曰く、文明延德頃の人。又龍廣の子。又助眞の弟子。永享頃の人とも。
サダスケ　定助(藤田)　戰學家。有馬侯の臣。樣平と稱し、雄山と號す。關流の算法に達す。文化四年八月歿す。
サダスケ　定助　備前國籍岡の刀匠。建歷天福年間の人。初代助房の門。或は曰く元歷文治年間の人と。
サダスケ　定助　備前國籍岡の刀匠。定久の次子。正應永仁の人。
サダスケ　定介　備前國籍岡の刀匠。正嘉年間の人。
サダスケ　定祐　山城國鞍馬の刀匠。寛文年間。
サダスケ　定資(藤原)　中納言。後定の子。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後撰、新續古今諸集の作家。
サダスケノムスメ　定輔女(藤原)　女歌人。後拾遺集の作家。
サダスミ　定澄(長井)　國學者。通稱惣兵衛。伊勢松阪の人。文政二年本居春庭の門に入る。
サダスミ　貞澄(野崎)　陸軍中將。鹿兒島の人。西南及び日清の役に功あり。明治三十九年一月薨ず。年六十七。
サダスミ　貞澄　山城粟田口の刀匠。嘉禎寛元年間の人。景國の子。
サダスミ　貞住　越中國佐伯。佐伯荘祐原の刀匠。
サダスミ　貞隅　薩摩國波平派の刀匠。永正年間。
シンワウ　貞純親王　清和天皇の第六子。又勳子の父。四品、常陸太守。延喜十六年薨。桃園親王と稱す。
サダスエ　貞末　大和國高市保昌派の刀匠。正平年間の人。又嘉元頃の人ともいふ。
サダスエ　貞末　大和國の刀匠。嘉吉年間の人。千手院派ともいふ。
サダスエ　貞末　石見國の刀匠。享德年間の末眞の子。或は曰く行貞の子。元中頃の人。又長禎に住す。
サダスエ　貞末　備前國長船の刀匠。正平明德年間の人。貞光の子。或は曰く良國の子。
サダスエ　貞末　備前國長船の刀匠。明應年間の人。
サダスエ　定季(源)　賴定の子。長曆年間右少將たり。後拾遺集の作家。
サダタカ　貞隆(岩城)　岩城平城主。佐竹義重の第三子。慶長五年上杉景勝に屬し、出羽由利に移さる。元和六年十月卒す。年三十八。
サダタカ　貞隆(片桐)　豐臣秀吉の臣。且元の弟。小字駒千代、加兵衛尉と稱す。大阪の役起るや、兄

サダスミ　定澄(長井)　國學者。通稱惣兵衛。伊勢松阪の人。文政二年本居春庭の門に入る。
サダスミ　貞澄(野崎)　陸軍中將。鹿兒島の人。西南及び日清の役に功あり。明治三十九年一月薨ず。年六十七。
サダスミ　貞澄　山城粟田口の刀匠。嘉禎寛元年間の人。景國の子。
サダスミ　貞住　越中國佐伯。佐伯荘祐原の刀匠。
サダスミ　貞隅　薩摩國波平派の刀匠。永正年間の人。
シンワウ　貞純親王　清和天皇の第六子。又勳子の父。四品、常陸太守。延喜十六年薨。桃園親王と稱す。
サダスエ　貞末　大和國高市保昌派の刀匠。正平年間の人。又嘉元頃の人ともいふ。
サダスエ　貞末　大和國の刀匠。嘉吉年間の人。千手院派ともいふ。
サダスエ　貞末　石見國の刀匠。享德年間の末眞の子。或は曰く行貞の子。元中頃の人。又長禎に住す。
サダスエ　貞末　備前國長船の刀匠。正平明德年間の人。貞光の子。或は曰く良國の子。
サダスエ　貞末　備前國長船の刀匠。明應年間の人。
サダスエ　定季(源)　賴定の子。長曆年間右少將たり。後拾遺集の作家。
サダタカ　貞隆(岩城)　岩城平城主。佐竹義重の第三子。慶長五年上杉景勝に屬し、出羽由利に移さる。元和六年十月卒す。年三十八。
サダタカ　貞隆(片桐)　豐臣秀吉の臣。且元の弟。小字駒千代、加兵衛尉と稱す。大阪の役起るや、兄と異に茨木城に入る。元和元年大和小泉を領し、寛永四年十月卒す。年六十八。
サダタカ　貞隆(九鬼)　守隆の第二子。通稱長助。兄良隆早世せしかば、其の後を繼ぐ。
サダタカ　貞隆　山城粟田口の刀匠。建保貞應年間の人。國友の門。
サダタカ　貞孝(伊勢)　貞忠の子。永祿五年九月一族を率ゐて三好黨を伐ち、敗死す。
サダタカ　貞孝二阿部)　歩兵少尉。大分縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年八月傷つきて死す。
サダタカ　貞高(池田)　定信の子。宇都宮三郎左衛門と稱す。
サダタカ　貞高(京極)　貞氏の子。龍登守。
サダタカ　貞高(伊勢)　貞忠の子。元弘頃の人。
サダタカ　定幸(澤侯)　齊時の入男。四郎。
サダタケ　定武(多羅尾)　佐々木氏。天文頃の人。
シンワウ　貞建親王　邦永親王の子。母は藤子内親王。東山天皇の猶子。兵部卿。寶暦四年七月一品に進み、尊いで薨ず。年五十五。
サダタダ　貞忠(伊勢)　貞隆の子。伊勢守と稱す。永祿頃の人。
サダタダ　貞忠(小笠原)　定基の子。六郎彌正忠。盛忠の子。四郎左衛門尉。伊豫守。元弘三年五月八日近江番場に自殺す。持千載集、續後拾遺集の作家。
サダタダ　貞忠　古刀の鍛工。備前長船の人。
サダタダ　定忠(大中臣)　定世の子。從三位祭主。正和五年薨ず。年四十五。新後撰、玉葉集。風雅集の作家。
サダタダノハハ　定忠母(渡)　風雅集の作家。
サダタネ　定胤(大多和)　義胤の五男。大夫房

サダタネ 定胤(和田)京都の國學者。五郎左衛門と稱す。著、神學辨證、武家編要錄、武士鑑。

サダタネ モリタネ(相馬盛胤) 定胤(千葉)胤綱の玄孫。千葉介、修理大夫と稱す。始め大佛貞直に從ひ、中頃、新田氏に屬し、後足利氏に降り、正平六年京に殪す。

サダタネ 貞胤(國井)師胤の子。小二郎。

サダタネ 貞種(小笠原)長棟の子。孫二郎。

サダタネ 貞種(伊勢)貞長の子。加賀守。

サダタフ 貞任(阿倍)頼時の長子。磨川二郎と稱す。康平五年源頼義、清原武則等と兵を合して來り攻め敗死す。年四十四。

サダタフ 定任(齋藤)則延の子。左兵衛尉。

サダタヘ 貞巧(中野)[二]國學者。本居大平の門通稱文兵衛。德島の人。

サダタメ 貞爲(條山)國學者。通稱藤右衛門。伊勢松阪の人。文政四年本居春庭の門に入る。

サダタメ 定爲 **ボクワ(安藤朴翁)**

サダチカ 定親(藤原)吉野朝の臣。賴定の子。參議。

サダチカ 貞親(大友)親言の子。出羽守。左近入道と稱す。編西奉行たり。

サダチカ 貞親(足助)賴方の子。六郎二郎と稱す。

サダチカ 貞親(伊勢)貞國の子。備中守。文明五年正月二十一日卒す。

サダチカ 貞近 備前國長船の刀匠。正平年間の人。

サダチカ 貞近 備前國長船の刀匠。永享年間の人。

サダチカ 定近 備後國の刀匠。永仁頃の人。

サダチカ 定近 備前國長船の刀匠。永享年間の人。

サダツグ 貞次 備後の國三原の刀匠。天文年間。

サダツグ 貞次 土佐國石立村の刀匠。天正慶長年間の人。青江の子孫。畑田次郎右衛門と稱す。後不動善昌と稱し、劇業後、宗敬と號す。

サダツグ 貞次 薩摩國の刀匠。天文年間の人。

サダツグ 貞次(二階堂) 賴綱の子。三郎左衛門。

サダツグ 貞綱(牧野)清貞の子。武者所。右馬允。

サダツグ 貞綱(倉垣)賴貞の子。藏人。

サダツグ 貞綱(紀)奉貞の三男。紀八と稱す。治承五年隱倉に戰死す。

サダツナ 貞綱(長田)胤信の二男。四郎。

サダツナ 貞綱(狩野)賴綱の子。元弘頃の人。

サダツナ 貞綱(宇都宮)藤原氏。景綱の子。下野守。參三河守、備後權守等に任ぜらる。條倉の引付衆たり。出家して遷昇と號す。正和五年七月二十五日卒す。年五十一。玉葉集の作家。

サダツナ 貞綱(初代)石見國の刀匠。正平年間の人。初代直綱の子。(二世)明德應永年間の人。石見國出羽に住す。(三世)永享嘉正年間の人。

サダツナ 貞綱 肇津國の刀匠。貞享年間の人。藤原氏。一竿子の門人。

サダツナ 貞綱 伯耆國大原の刀匠。應和年間の人。貞綱の子。求は曰く仁壽貞製年間の人。

サダツナ 貞綱 備前國の刀匠。寛元年間の人。直宗の流。岡貞の子。求は曰く弘長文永年間の人。又寛嘉頃の人、二郎と稱すと。

サダツナ 貞綱 備中國の刀匠。文永年間の人。

サダツナ 貞繩 備後國の刀匠。寛和年間の人。

サダツナ 定繩 備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サダツグ 貞次 備後の國三原の刀匠。天文年間。

サダツグ 貞次 土佐國石立村の刀匠。天正慶長年間の人。青江の子孫。畑田次郎右衛門と稱す。後不動善昌と稱し、劇業後、宗敬と號す。

サダツグ 貞次 薩摩國の刀匠。天文年間の人。

サダツグ 貞綱(二階堂) 賴綱の子。三郎左衛門。

サダツグ 貞綱(牧野)清貞の子。武者所。右馬允。

サダツグ 貞綱(倉垣)賴貞の子。藏人。

サダツグ 貞綱(紀)奉貞の三男。紀八と稱す。治承五年隱倉に戰死す。

サダツナ 貞綱(長田)胤信の二男。四郎。

サダツナ 貞綱(狩野)賴綱の子。元弘頃の人。

サダツナ 貞綱(宇都宮) 藤原氏。景綱の子。下野守。參三河守、備後權守等に任ぜらる。條倉の引付衆たり。出家して遷昇と號す。正和五年七月二十五日卒す。年五十一。玉葉集の作家。

サダツナ 貞綱(初代) 石見國の刀匠。正平年間の人。初代直綱の子。(二世)明德應永年間の人。石見國出羽に住す。(三世)永享嘉正年間の人。

サダツナ 貞綱 肇津國の刀匠。貞享年間の人。藤原氏。一竿子の門人。

サダツナ 貞綱 伯耆國大原の刀匠。應和年間の人。貞綱の子。求は曰く仁壽貞製年間の人。

サダツナ 貞綱 備前國の刀匠。寛元年間の人。直宗の流。岡貞の子。求は曰く弘長文永年間の人。又寛嘉頃の人、二郎と稱すと。

サダツナ 貞綱 備中國の刀匠。文永年間の人。

サダツナ 貞繩 備後國の刀匠。寛和年間の人。

サダツナ 定繩 備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サダツナ 定綱(佐々木) 源賴朝の臣。秀義の長子。太郎と稱す。近江守護たり。延曆寺僧徒の事に關して、子廣綱定高と共に流され、後、赦さる。

サダツナ 定綱(松平)德川秀忠の臣。定吉の子。小字通松、後三郎四郎と改む。大阪の役に功あり。伊勢桑名を領す。慶安四年十二月卒す。年六十。

サダツネ 貞經(和氣)朝廷の醫。貞綱の長男。文元安の子。

サダツネ 貞經(芳賀)禪可の子。伊賀守。「す。

サダツネ 貞經(土岐)定親の子。蜂屋遠江守と稱菊池武敏に破られて死す。

サダツネ 貞經(少貳)資賴五代の孫。薇髮して妙慧といふ。元弘中、菊池武敏に破られて死す。

サダツネ 貞經(大內)朝村の子。上總介。

サダツネ 貞經(武田)信隆の子。八郎。

サダツネ 貞經(足利)經家の子。吉良左近將監と稱す。

サダツネ 貞經(藤原)歌人。參議。藤房の子。千載拾遺、續千載諸集の作家。

サダツネ 貞經(工藤)二階堂雜戰の子。伊豆國押土狩に住す。文化年間の人。

サダツネ 定恒(奥平)南部藩士。通稱八左衛門。寛文五年和賀郡村崎野を開墾し、延賀七年功成りて、千二百石の良田を得。

サダツネ シンワウ 貞常親王 後崇光院の子。二品中務卿に叙任せられ、文明六年七月薨ず。年五十。伏見宮と稱す。

サダツラ 貞連(佐原)持明の子。因幡守。射を善くす。

サダツラ 貞連(三浦)時信の子。

サダツラ 貞連(佐原)實連の三男。十郎。

サダツラ 貞連(齋藤)國學者。本居大平の門。播磨守と稱す。尾張滿須の人。

サダツラ 貞羅 古刀の鍛工。石見國出羽の人。天文永祿頃の人。

サダトキ 定時(佐々木) 定高の子。太郎。建久頃の人。

サダトキ 定時 山城國了戒派の刀匠。大永年間の人。後豐後國に移る。

サダトキ 貞時(北條)鎌倉第七代の執權。時宗の子。弘安七年父の職を嗣ぐ。正安三年辭職、薙髮して崇演といひ、最勝寺と號す。應長元年卒す。年四十二。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載諸集の作家。

サダトキ 貞時(金澤)貞顯の子。武藏守と稱す。北條高時に殉死す。

サダトキ 貞常 天和年間の刀匠。越後守。

サダトキ 貞辰(伊勢)朝廷の醫。

サダトキ 貞說(和氣)朝廷の醫。

サダトキ シンワウ 貞齋親王 貞敦親王の子。母は藤原實香の女。後崇光天皇の猶子。圓融房に入

サダツグ 貞胤(鹽田)和歌山の針醫。通稱順造。國學を好み、寛政十二年本居宣長の門に入る。

サダツグ 定次(乙部)伊勢長野家の輿力。八郎と稱す。天文頃の人。

サダツグ 定次(筒井)順慶の養子。筒井順國の子。上野城主。慶長五年德川氏に從ひ、伊豫に流され、元和元年三月死を命ぜらる。

サダツグ 定次(安藤)家重の第四子。通稱次右衛門。初め德川家康に仕へ、後內藤彌次右衛門に屬す。慶長五年伏見城を守りて戰死す。年六十一。

サダツグ 定次 京都綾小路の刀匠。正平年間の人。定家の子。求は曰く定家の門。

サダツグ 定次 加賀の刀匠。弘治年間の人。

サダツグ 定次 播磨の刀匠。應永年間の人。

サダツグ 定次 備前岡山藩の刀匠。文永年間の人。片山の流。又曰く定基の子。延慶頃の人。又定俊の孫。應永年間の人と。

サダツグ 定次 備前國長船の刀匠。建武年間の人。

サダツグ 定次 備中國青江の刀匠。應永後の人。

サダツグ 定次(都) 秋成の子。本姓桑原氏。弘仁中、兄服部と共に請ひて、姓を都宿禰と改む。承和中、主計頭となり、後、吏部に遷る。

サダツグ 貞繼(小野澤) 時仲の子。八郎。

サダツグ 貞繼(今川)範氏の三男。伊豫守。筑後守貞世の弟。平田四郎と稱す。文明五年卒す。

サダツグ 貞繼(平) 筑後守貞能の弟。平田四郎と稱す。伊賀の人。元暦元年六月四日誅せらる。

サダツグ 貞繼(伊勢) 伊勢流乘馬術の祖。足利義滿の臣。

サダツグ 貞胤(藤原) 朝忠の子。大納言。新續古今集の作家。

り、剃髪して應嵐と稱し、天台座主となり、後還俗して、名を尊悟と改め、又瑞龍と號す。慶長三年五月薨ず。

サダトシ 貞俊(惟宗) 四位。新後拾遺集の作家。

サダトシ 貞俊(平) 歌人。五位。右京亮。續千載、續後拾遺、新千載諸集の作家。

サダトシ 貞俊(安藝) 婦人科の醫。天正中、後宮の醫業を掌る。

サダトシ 貞俊 常陸國木戸の儒士。葛原氏。通稱平井友右衞門、清心子と號し、鍛治を善くす。安政元治年間の人。

サダトシ 貞俊 加賀國の刀匠。寛文年間の人。

サダトシ 貞俊 石見古刀の鍛工。天文年間の人。

サダトシ 貞俊 肥前國の刀匠。寛永年間の人。

サダトシ 貞俊 **サダマサ(片桐貞昌)** 徳川幕府の蒔繪師。八郎左衞門と稱す。元祿二年宗阿彌長救と共に日光東照廟に蒔繪す。

サダトシ 貞利(金田) 歌人。友益香之の門。通稱平左衞門。椎谷藩求之と號す。

サダトシ 貞利 備前國福岡一文字派の刀匠。弘長弘安年間の人。貞吉の二子。

サダトシ 貞利 古刀の鍛工。大和國千手院の人。

サダトシ 貞利 備前國の刀匠。助平の次子。萬壽頃の人。又助平の門。吉包の子。長久頃の人と。

サダトシ 貞利 備前國長船の刀匠。應仁文明年間の人。貞行の子。或は曰く則恒の子。寛正頃の人と。

サダトシ 貞利 備前國尾道の刀匠。慶長年間の人。藤原氏。

ザダトシ 貞敏(藤原) 琵琶の名手。雅彦の子。遣唐使渤海官となり、路に赴き、琵琶を劉二郎と云ふ者に學ぶ。歸朝して、播部頭、備前介に至り、貞觀九年卒す。

サダトシ 貞壽 越後國高田藩の刀匠。松井英太郎と稱す。文久元治年間の人。

サダトシ 定壽(安藤) 茶人。

サダトシ 定利 京都綾小路の刀匠の祖。文永年間の人。求は曰く永昌の子。通稱彌太郎。了阿彌と號し、元亨元年九十五歳にて歿す。又永昌の婿と。

サダトシ 定利 京都綾小路の初名定俊、彌五郎と稱す。定利の門。

サダトシ 定利 大和國の刀匠。歷仁延應頃の人。千手院派。興福寺邊に住す。承仕法師及び友忠光坊と同人なりと。又定宗の子。弘安頃の人と。

サダトシ 定利 備前國福岡の永德治頃の人。

サダトシ 定利 備前長船の刀匠。正安頃の人、定俊の子。剃髪して道阿と號す。又弘長頃の人。

サダトシ 定利 備後國三原の刀匠。元德年間の人。

サダトシ 定利 古刀の鍛工。備後國一乘派。

サダトシ **ショウミンサイ(荻野松眠齋)** 醫。

サダトシ 定俊(源) 敎任の子。大膳大夫。越前守。

サダトシ 定俊(大多和) 黒畔の四男。大貳房。

サダトシ 定俊(山中) 佐々木氏。清定の子。次郎。

サダトシ 定俊(野宮) 國學者。寶暦七年三月三十日京都に歿す。年五十六。

サダトシ 定俊 山城國大宮の刀匠。正安頃の人。正歷年間の人。

サダトシ 定俊 山城國の刀匠。永昌の子。了阿と號し、綾小路に住す。或は曰く永昌の外孫。次保頃の人。次の定俊と同人なりと。

サダトシ 定俊 山城國信國派の刀匠。正平頃の人。或は曰く二世信國の門。

サダトシ 定俊 尾張國名古屋の刀匠。

サダトシ 定俊 常陸國水戸藩士。刀冶を好み、一流潔と號す。安政元治年間の人。

サダトシ 定俊 加賀國の刀匠。文明年間の人。

サダトシ 定俊 備前國福岡の刀匠。文保正中年間の人。定利の子。

サダトシ 定俊 備前國長船派の刀匠。正平頃。

サダトシ 定逸(花山院) 忠長の子。權大納言。武家傳奏に補せらる。

サダトシ 定敏(石澤) 歩兵少佐。秋田縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年九月一日威鋭道昌斗嶺に戰死す。

サダトシ シンワ 定敏親王 後木尾天皇の第八子。母は新廣義院。昭宮と稱す。剃髪後、名を堯如と改め、業を堯然入道親王に受け、天台座主に補す。元祿八年四月薨ず。年五十六。詩賦、佳蹟、及び揷花を善くす。

サダトモ 貞遠(足利) 義詮律師の子。三郎と稱す。

サダトモ 貞遠(伊勢) 貞衡の子。彌九郎、右京亮。文明頃の人。

サダトモ 貞遠(伊勢) 貞數の子。加賀守。大永頃「の人。

サダトモ 定遠(高屋) 源氏。實遠の次男。四郎と稱し、近江に住す。

サダトモ 貞融(岩下) 國學者。通稱多門。字は會候。遊野氏。櫻園と號す。信濃善光寺の僧人。慶應三年歿。年六十七。

サダトミ 定富(田坂) 歩兵大尉、新潟縣人。日戰役に從軍中、明治三十七年十一月二十七日病死す。

サダトモ 定朝(鷹屋) 左近太夫。寛喜頃の人。

サダトモ 定朝(森) 泰朝の子。太郎。

サダトモ 定智(安藤) 徳川氏の臣。通稱傳十郎。御書院番たり。大阪夏の役に功あり。寛永十三年九月二日卒す。年五十一。

サダトモ 貞共 古刀の鍛工。備中國青江の人。

サダトモ 貞朝(下妻) 藤原氏。宗長の子。小四郎。下野守。

サダトモ 貞朝(坂上) 北條氏。貞房の子。遠江守。

サダトモ 貞朝(宇都宮) 泰業の子。安藝守。

サダトモ 貞朝(小笠原) 弓術家。修理大夫。長朝の子。永正十二年六月一日薨。年五十五。

サダトモ 貞知(小田) 常陸小田の領主。治久の父。「元中頃の人。

サダトモ 貞友(春日) 赤松氏の臣。六郎右衞門尉。

サダトモ 貞友 **カズミツ(石川一光)** 江戸の浮世繪師。歌川國貞の弟子。

サダトラ 貞虎 通稱興之助。五風亭と稱す。

サダナカ 貞仲(伊勢) 因幡守。寶德頃の人。

サダナカ 貞仲(中原) 螺鈿工。壽永三年大晉會の時、諸調度に螺鈿を施す。「に叙せらる。

サダナカ 定仲(源) 中務少輔。寶德二年從五位下

サダナカ 定央(阿部) 國學者。通稱狩五郎。阿波の人。寛政二年本居宣長の門に入る。

サダナガ 定長(藤原) 儕俊卿の子。俊成に養はる。中務少輔たり。定家生るゝに及び、逐れて僧となり、寂蓮と改む。丹青及び和歌に妙なり。建仁二年奏す。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今薗集の作家。「作家。

サダナガ 定長(藤原) 參議。元房の子。千載集の

サダナガ 定長(藤原) 五位。風雅集の作家。

サダナガ 定長(大中臣) 神祇大副。近江守。公長の子。金葉集の作家。

サダナガ 定長(北條) 時長の子。

サダナガ 定長(岡部) 通稱次郎助。遠江の人。貢茂眞淵の祖父。

サダナガ 定長(荒木田) 伊勢宇治の神主。通稱佐八、彖醫。天明八年本居宣長の門に入る。

サダナガ 定長(和氣) 朝廷の醫。相摸介。平濟盛の請によりて醫方抄を著す。又方書の勘撰に與る。

サダナガ 貞長(親部) 五位。忠長の子。續千載集の作家。

サダナガ 貞長(清岡) 長香の子。文章得業生。寶曆九年卒す。年十二。

サダナガ 貞長(小笠原) 長氏の子。因幡守。左衞門尉。永享頃の人。

サダナガ 貞長(伊勢) 貞信の子。因幡守。左衞門「稱す。

サダナガ 貞長(安田) 義定の四男。逸見孫四郎と稱元順。伊勢松坂の人。

サダナガ 貞長 古刀の鍛工。備中國の刀匠。正平頃。

サダナガ 貞長 備前國長船の刀匠。明德年間の人。又曰く正平頃。貞長と同人なりと。

サダナガ 貞長 古刀の鍛工。備後國新市の人。求は曰く長祿年間の人。三原の派。貞廣の子。

サダナガ 貞命 京都法城寺派の刀匠。元祿年間の人。橘氏。

サダナガ シンワ 貞良親王 邦永親王の子。東山天皇の養子。聖護院に入り、剃髪して、名を道永と改め、業を道尊法親王に受け、園城寺長吏に補せられ、三山及び熊野の檢挍を兼ぬ。大峯に入り、正德四年七月薨ず。年二十。

サダナガ 定長(藤原) 參議。元房の子。千載集の作家。

サダナガ 定長(藤原) 五位。風雅集の作家。

サダナガ 定長(大中臣) 神祇大副。近江守。公長の子。金葉集の作家。

サダナガ 定長(北條) 時長の子。

サダナガ 定長(岡部) 通稱次郎助。遠江の人。貢茂眞淵の祖父。

サダナガ 定長(荒木田) 伊勢宇治の神主。通稱佐八、彖醫。天明八年本居宣長の門に入る。

サダナガ 定長(和氣) 朝廷の醫。相摸介。平濟盛の請によりて醫方抄を著す。又方書の勘撰に與る。

サダナガ 貞長(親部) 五位。忠長の子。續千載集の作家。

サダナガ 貞長(清岡) 長香の子。文章得業生。寶曆九年卒す。年十二。

サダナガ 貞長(小笠原) 長氏の子。因幡守。左衞門尉。永享頃の人。

サダナガ 貞長(伊勢) 貞信の子。因幡守。左衞門「稱す。

サダナガ 貞長(安田) 義定の四男。逸見孫四郎と稱元順。伊勢松坂の人。

サダナガ 貞長 古刀の鍛工。備中國の刀匠。正平頃。

サダナガ 貞長 備前國長船の刀匠。明德年間の人。又曰く正平頃。貞長と同人なりと。

サダナガ 貞長 古刀の鍛工。備後國新市の人。求は曰く長祿年間の人。三原の派。貞廣の子。

サダナガ 貞命 京都法城寺派の刀匠。元祿年間の人。橘氏。

サダナガ シンワ 貞良親王 邦永親王の子。東山天皇の養子。聖護院に入り、剃髪して、名を道永と改め、業を道尊法親王に受け、園城寺長吏に補せられ、三山及び熊野の檢挍を兼ぬ。大峯に入り、正德四年七月薨ず。年二十。

サダナガ 定長(城) 歌成の子。太郎。

サダナガ 定長(佐々木) 越中守。天文七年卒す。

サダナガ 貞成(島田) 惟宗の子。近藤武者と稱す。

サダナガ 貞成(牧野康成) 江戸法城寺派の刀匠。元祿年間の人。橘氏。

サダナリ 貞業 京都綱小路の刀匠。定利の子。求は曰く利定の門。又定安の子。康安元年薨。年八十

サダナリ 定齋(善積) 齋時の三男。三郎と稱す。後齋伸と改む。

サダナリ 貞成(城) 歌成の子。太郎。

サダナリ 貞成(佐々木) 越中守。天文七年卒す。

サダナリ 貞成(島田) 惟宗の子。近藤武者と稱す。

サダナリ 貞成(牧野康成) 江戸法城寺派の刀匠。元祿年間の人。橘氏。

サダナリ 貞業 京都綱小路の刀匠。定利の子。求は曰く利定の門。又定安の子。康安元年薨。年八十

サダナリ 定齋(善積) 齋時の三男。三郎と稱す。後齋伸と改む。

サダナリ 貞成(坂上) 明法博士。河內守。贈親の子。寛治二年三月卒す。後拾遺集の作家。

サダナリ 定成(藤原) 肥前守。明元の子。千載集の作家。

サダナリ 定成(藤原) 歌人。經朝の子。四位。玉葉集、續千載集、風雅集の作家。

サダナリ 定成(馬淵) 佐々木氏。廣定の次男。八郎。長江入道と稱す。

一と。

サダヌシ　貞主　豐後國佐伯の刀匠。文龜永正年間の人。一名貞正。或は曰く稱光天皇頃の人。主守の子と。

サダヌシ　貞主(滋野)　儒者。尾張守家譯の子。文德天皇即位の初め、正四位下に叙せられ、相模守を兼ね、仁壽二年卒す。年六十九。秘府略及び經國集を撰す。

サダノ　貞野(藏)　貞享中、侍醫となり、導いて美作權介を兼ね、後、坂上宿禰の姓を賜はる。

サダノジヨウ　定之丞(岡村)　勤王家。名は勝知。越後村松藩士。執政に忌まれ、慶應二年五月自裁を命ぜらる。年四十一。明治三十一年贈正五位。

サダノスケ　定之助(石崎)　砲兵大尉。宮城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年六月病歿す。

サダノブ　貞述(神奴)　典選登の弊。長保中の人。

サダノブ　貞啓　セイノス(安藤誠之介)

サダノブ　貞信(武田)　時家の子。甲斐守。

サダノブ　貞信(伊勢)　貞種の子。七郎左衛門尉。

サダノブ　貞信(武田)　時家の子。甲斐守。正平頃の人。

サダノブ　貞信(石川)　一光の族。貞綱の弟。雅樂助と稱す。豐臣秀吉に仕ふ。庆子の役、三成に黨す。後癈疾して宗巴と號し、今出川に閑居して終る。

サダノブ　貞信(狩野)　畫家。狩野氏第七世。光信の長男。四郎次郎、後左近、又右京進と改む。元和九年九月二十日歿す。年二十七。

**サダノブ　貞信　**　攝津國生玉の刀匠。法城寺派。橘氏。但馬守と稱す。寛文年間の人。

サダノブ　貞信　備前國長船の刀匠。永正年間の人。

サダノブ　貞信　備後國尾道の刀匠。明應年間の人。

サダノブ　貞信　土佐國の刀匠。嘉永安政年間の人。

サダノブ　貞信　肥前國佐賀の刀匠。萬治年間の人。

サダノブ　貞信(源)　信宗の子。刑部大輔。康和四年出家す。金葉集及び千載集の作家。

サダノブ　定信(京極)　池田氏の祖。宗氏の子。左衛門尉。「備門尉」と稱す。

サダノブ　定信(藤原)　範信の子。東宮少進。

サダノブ　定信(松平)　田安宗武の第七子。白川城主松平定邦の嗣となる。天明三年對を攝きて越中守と稱し、文政十二年卒す。年七十二。學を好み、和歌檜書を善くす。著、三神集、園本論、花月雜紙等。

サダノブ　定信(岡部)　奥三郎。賀茂眞淵の父。享保十七年歿す。年七十九。

サダノブ　定信(春原)　國學者。字は子成。號は桂蔭、出雲寺大和守と稱す。明治十九年十月歿す。年七十九。

サダノブ　定信　備前長船の刀匠。天文年間の人。

サダノブ　定信　備前古刀の鍛工。大永年間の人。

サダノブ　定延　備前國の刀匠。正平年間の人。或は曰く大宮の一派。應永頃の人と。

サダノミヤ　早田宮　シンカク　眞覺

サダノミヤ　真宮　ソンショウニンワ　尊勝尼王

サダノリ　貞憲(藤原)　通憲の子。少納言。保延六年流弾守に任じ、保元四年歿し、其の後出家す。千載集の作家。

サダノリ　貞憲(編井)　譽。初名章。明治三十三年一月京都に歿す。年七十一。

サダノリ　貞範(赤松)　足利尊氏の臣。則村の子。筑前守。建武二年北條時行を征し、尊いて又皇師を竹下に禦ぎ、後薙髪して名を貞世と改む。

サダノリ　貞載(大伴)　貞宗の長子。初め新田義貞に從ひしが、竹下の戰に尊氏に降る。後結城親光に殺さる。

「本居著庭及び大平の門。

サダノリ　貞度(楠垣)　國學者。伊勢山田の醫官。

サダノリ　貞則(赤松)　氏範の子。雅樂介。

サダノリ　貞則(堀)　信濃村上氏の臣。金太夫と稱す。もと加藤氏、小鴨景憲及び岡本賢貞等に學びて甲州流の兵法を學ぶ。

サダノリ　貞則(安田)　貴族院議員。醫學の人。明治四年陸軍大尉に任じ、後札幌縣參事、元老院議官、奚城縣知事を歷て、明治二十五年三月八日卒す、年四十九。

サダノリ　貞則　寛文享保年間の刀匠。肥後國菊池の人。藤原氏、鈴木氏。通稱佐右衛門。加賀守と稱す。攝津國大阪に住し、後内藤氏の刀匠となりて陸奥國磐城に移住す。

サダノリ　貞則　越前國綱井の刀匠。元祿年間の人。下坂氏。五郎兵衛と稱す。

サダノリ　貞則　備前國綱廣一文字派の刀匠。鎌元

正和年間の人。吉眞の子。或は曰く貞利の子と。

サダノリ　貞則　備前國の刀匠。正平年間の人。定則の子。又長船に住す。定則の門。元弘頃の人と。

サダノリ　貞則　古刀の鍛工。肥前の人。

サダノリ　定則(宮田)　土佐の儒醫。功名辰之助、通稱用藏。醫を淺井習伯及び武藤以仙に、儒を淺見安正に學び、藩の留守居たり。寶暦二年十一月歿す。年七十八。

サダノリ　定則　京都殺小路の刀匠。元暦頃の人。

サダノリ　定則　備前國長船の刀匠。治承年間の人、眞定の子。或は曰く永保天仁間の人、吉宗の子と。

サダノリ　定則　備前國の刀匠。長承元暦間の人。

サダノリ　定則　備前國長船の刀匠。永仁頃の人。定宵の子。

サダノリ　定則　備前國福岡の刀匠。定利の子。元

サダノリ　定則　備前國長船の刀匠。正平頃の人。

サダノリ　定則　古刀の鍛工。備前國吉井の人。應永年間の人。

サダノリ　定則　備前國の刀匠。天文年間の人。

サダノリ　定範(宮崎)　左衛門尉と稱す。承久の役、官軍の將として北陸道を守りしが、北條朝時及び仁科盛遠に破られ、終る處を知らず。

サダノリ　定矩(長谷川)　國學者。通稱平藏、伊勢松阪の人。安永八年本居宣長に從ふ。

サダノリ　定憲(蜂屋)　教育家。舊幕臣。貞勝の子。靜岡縣學務課長、同師範學校長、同貴族都長等を經

サダヒコ　定彦(江幡)　勤王家。名は廣光。水戸の人。元治元年六月京都に自刃す。年二十六。

サダヒコ　定彦(長谷川)　國學者。本居大平の門。永年間の人。

サダヒサ　定八郎　サダム(松浦定)　國學者。周防の人。

サダヒデ　貞晴　シゲナガ(桑山重長)　「と稱す。

サダヒデ　貞治(大森)　源氏。俊治の子。三郎四郎と稱す。

サダヒデ　貞春(小笠原)　延孝流槍術中興の祖。内藤利常に仕ふ。

サダヒデ　貞春(伊勢)　國學者。眞次の子。萬助。

サダヒデ　貞治(森)　歌人。文化の頃、江戸に住す。

サダヒデ　定春　豐後國の刀匠。文永年間の人。定順の子。或は曰く紀の一派、行平の門、承久頃の人。

サダヒデ　貞秀　江戸の刀匠。文化年間の人。正秀の子。初名正厳、熊次郎と稱し、永心子と號す。

サダヒデ　貞秀　出羽國の刀匠。嘉永年間の人。城戸芳藏と稱す。

サダヒデ　貞秀　越前國下坂派の刀匠。寛文年間の人。加賀守と稱す。

サダヒデ　貞秀　備前國古刀の鍛工。文明年間の人。

サダヒデ　貞秀　筑前左派の刀匠。左貞吉の門。或はいふ其の子。平戸に移住し、世に平戸左といふ。或は曰く安吉の門、正平頃の人。薩摩に居ると。

サダヒデ　貞秀　筑後國大石派の刀匠。永德年間の

サダヒデ　定久　豐後國高田の刀匠。寛文年間の人。藤原氏。伊賀大掾と稱す。

サダヒサ　貞久(藤原)　賀茂氏。忠久の子。從三位。新後拾遺集の作家。

サダヒサ　貞久　攝津國の刀匠。寛文年間の人。

サダヒサ　貞久　備前國古刀の鍛工。寛元年間。定助の子。弘長間。

サダヒサ　貞久　備中國の刀匠。天永永久年間の人。

サダヒサ　貞久　備後國尾道三原流の刀匠。文明年間の人。

サダヒデ　貞秀(宗)　對馬守と稱す。天文頃の人。

サダヒデ　貞秀(土屋)　原伽親の子。遠江守。後花園天皇頃の人。

サダヒデ　貞秀(平)　歌人。五位。松田左衛門尉と稱す。新拾遺、新續拾遺、新續古今諸集の作家。

サダヒデ　貞秀(橋本)　畫家。三世豐國の門。葵三郎と稱し、玉蘭齋、五雲亭の號あり。繪草紙及び山水花鳥等を描く。

サダヒデ　貞秀　江戸の刀匠。文化年間の人。正秀の子。初名正厳、熊次郎と稱し、永心子と號す。

サダヒデ　貞秀　出羽國の刀匠。嘉永年間の人。城戸芳藏と稱す。

サダヒデ　貞秀　越前國下坂派の刀匠。寛文年間の人。加賀守と稱す。

サダヒデ　貞秀　備前國古刀の鍛工。文明年間の人。

サダヒデ　貞秀　筑前左派の刀匠。左貞吉の門。或はいふ其の子。平戸に移住し、世に平戸左といふ。或は曰く安吉の門、正平頃の人。薩摩に居ると。

サダヒデ　貞秀　筑後國大石派の刀匠。永德年間の

人。平戸左の門。三池の末流。

サダヒデ　貞秀　甲斐逸見の刀匠。天正年間の人。

サダヒデ　貞秀　備前長船の刀匠。大永年間の人。

サダヒデ　貞秀（蒲生）　近江日野の城主。下野入道と稱す。

サダヒデ　貞秀（垣本）　伊勢の歌人。通稱貞藏。文三年卒す。年七十二。

サダヒデ　貞衡（唐橋）　清能の子。治部少輔。仁安

サダヒラ　貞衡（二階堂）　行貞の子。美作守と稱す。正中三年出家す。

サダヒラ　貞衡（平）　正度の子。安濃津次郎と稱す。

サダヒラ　貞衡（泉）　源氏。賴衡の子。五郎。

サダヒラ　貞平（三重）　行平の子。孫次郎。

サダヒラ　貞平（福間）　鐘谷高貞の郎黨三郎の嫡子。備前守と稱す。多力勇武。元中五年八月山名氏清に屬し、楠正勝と河内に戰ふ。

サダヒラ　貞平（富山）　國學者。通稱岩次郎。貞泰の子。伊勢伊射和の人。享和元年本居宣長の門に入る。

サダヒラ　貞平　陸奥國磐城の刀匠。元祿年間の人。

サダヒラ　貞平　伯耆國の刀匠。寛弘年間の人。貞綱の子。

サダヒラ　貞平　古刀の鍛工。備後國三原の人。永

サダヒラ　定平（源）　吉野朝の臣。陸奥守定成の二子。初名良定。大納言たり。新葉集の作家。

サダヒラ　定衡（鈴木）　國學者。通稱其十郎。伊勢松坂の人。文政四年本居翁庭の門に入る。

サダヒラ　定衡（矢部）　歌人。幕府の新番。通稱源太郎。剃髮して空山と稱す。寶曆頃の人。

サダヒロ　貞廣（大江）　歌人。時秀の子。五位。玉葉、續千載、風雅千載、圓光寺等の作家。

サダヒロ　貞廣（大多和）　義廣の二男。七郎。

サダヒロ　貞廣（小澤）　大江氏。廣顯の子。因幡守。

サダヒロ　貞廣　新刀の鍛工。攝津國久保田の人。

サダヒロ　貞廣　尾張國犬山の刀匠。貞享年間の人。

サダヒロ　貞廣　武藏國法城寺派の刀匠。元祿年間「化頃の人。

サダヒロ　貞廣　新刀の鍛工。出羽國來澤の人。

サダヒロ　貞廣　越前國下坂派の刀匠。寛文享保年間京大阪に住す。藤原氏。高柳氏。加賀守と稱す。正中三年出家す。

サダヒロ　貞廣　伯耆國倉吉の刀匠。弘治年間の人。

サダヒロ　貞廣　石見國古刀の鍛工。天文年間の人。

サダヒロ　貞廣　備後國尾道の刀匠。明德頃の人

サダヒロ　貞廣　備後國三原の刀匠。文安應仁間の子。正長頃の人。又貞國の子、尾道に住氏清に屬し、楠正勝と河内に戰ふ。

サダヒロ　貞廣　備後國三原の刀匠。永正頃の人。「氏廣の子。

サダヒロ　貞廣（陰山）　德川家康の臣。通稱佐介。

サダヒロ　貞燃（平）　五位。武藏將監。慶長の子。續「原氏。千載集の作家。

サダヒロ　貞弘　尾張國の刀匠。享保年間の人。藤出羽國秋田の刀匠。文化年間の人。

「正年間の人。

サダヒロ　貞弘　古刀の鍛工。石見國長濱の人。永

サダヒロ　貞弘　備後國福山の刀匠。康正年間の人。

「國左弘安の門。

サダヒロ　貞弘　安藝國の刀匠。正平頃の人。筑前

サダヒロ　貞弘　筑前國左の派の刀匠。正平頃の人。

サダヒロ　貞弘　山城國の刀匠。寶治年間の人。一條に住す。

サダヒロ　定弘　能登國の刀匠。永正年間の人。重「の人。

サダヒロ　定弘　備後國三好の刀匠。弘化嘉永年間の人。橋氏。

サダヒロ　定弘　筑前左派の刀匠。永享年間の人。

サダヒロ　定廣　駿河國富士郡下方の刀匠。天文年間の人。相摸の貞廣と同人なりともいふ。

サダヒロ　定廣　相摸國の刀匠。永正年間の人。家守と稱す。

サダヒロ　貞廣　伯耆國倉吉の刀匠。弘治年間の人。

サダヒロ　貞廣　石見國古刀の鍛工。天文年間の人。

サダヒロ　貞廣　備後國尾道の刀匠。明德頃の人

サダヒロ　貞廣　備後國三原の刀匠。文安應仁間の子。正長頃の人。又貞國の子、尾道に住す。一に定廣に作るも。

サダヒロ　貞廣　備後國三原の刀匠。永正頃の人。

サダヒロ　貞廣　越前國下坂派の刀匠。寛文享保年間の人。相摸の貞廣と同人なりともいふ。

サダヒロ　定廣　相摸國の刀匠。永正年間の人。家廣の門。或は曰く天正頃の人、小田原に住す。又靑助新三郎の門。明應大永年間の人と。

サダヒロ　定廣　尾張國名古屋の刀匠。享保年間の人。本國美濃。藤原氏。近江大掾、又守と稱す。

サダヒロ　定廣　備後國尾道の刀匠。享祿天文年間人。又貞次の子。正長頃の人。一に定廣に作るも。

サダヒロ　貞廣　備後國三原の刀匠。永正年間の人。

サダヒロ　貞廣（陰山）　德川家康の臣。通稱佐介。

サダヒロ　貞燃（平）　五位。武藏將監。慶長の子。

サダフサ　貞房　陸奥國の刀匠。正和頃の人。又玉葉、續千載、風雅千載、圓光寺等の作家。

サダフサ　貞房　筑前左派の刀匠。正平年間の人。

サダフサ　定房（源）　雅定の子。正二位。大納言。千載集の作家。

サダフサ　定房（藤原）　經長の子。家を吉田と稱す。後醍醐帝の傳たり。從一位內大臣、兼民部卿に陞り、吉野に奔ず。吉續記の著あり。新後撰集、續千載、續後拾遺、新葉集の作家。

サダフサ　定房（加藤）　國學者。通稱善七。名古屋の人。寛政元年本居宣長の門に入る。

サダフヂ　貞藤（二階堂）　北條高時の臣。檢非違使、出羽守たり。蘆鼓と稱す。一たび蹄順せしが、叛を圖り、終に誅せらる。

サダフヂ　貞藤（伊勢）　貞親の弟。備中守。默存居士と號し、入道して常喜と稱す。圓寂を好む。

サダフミ　貞文（平）　歌人。一に定文に作る。少納言新風の子。左兵衞佐。延喜元年卒す。古今、後撰、拾遺、新古今、續後撰、續千載、新千載諸集

サダフミ　貞文　サンタイ（松井元泰）　「の作家。

サダマサ　貞將（金澤）　北條氏の族。貞顯の子。六波羅南方となり、越後守、武藏守等に任ず。北條高時滅亡の際に戰死す。

サダマサ　貞政（土水）　貞親の子。

サダマサ　貞政（紀）　奉貞の次男。七郎と稱す。治承中戰死す。

サダマサ　貞政（平）　氏政の子。右近將監。

サダマサ　貞政（小笠原）　長朝の子孫。右近將監。

サダマサ　貞政（堀口）　新田義貞の一族。一井孫三郎と稱す。兵部大輔たり。延元二年三月九日越前沿都大輔たり。

サダマサ　貞政（島山）　天正の初年、根來雜賀の徒に擁立せられて關主となり、岩室城に居る。同十三年豐臣秀吉に陷れらる。

サダマサ　貞政（石川）　美濃の人。伊豆守と稱す。豐臣秀吉及び秀賴に仕ふ。既にして高野山に奔る。慶長十九年德川家康に從ひて大阪を攻む。後髮を削りて佳春と號す。

サダマサ　貞政（桑山）　石州流の茶人。片桐貞昌の弟子。貞晴の孫。初名猪兵衞、可齋と號し、元祿十三年九月二十五日歿す。年八十八。

サダマサ　貞正（平）　正盛の子。伊豫守。

サダマサ　貞正（加藤）　重光の子。瀧口大夫。

サダマサ　貞正（高村）　國學者。本居大平の門。通稱源五郎。劍髮して空山と稱す。寶曆頃の人。

サダマサ　貞正　美濃國の刀匠。文安年間の人。若狹守たり。蘆鼓と稱す。一たび蹄順せしが、叛を圖り、終に誅せらる。

サダマサ　貞正　備前國長船の刀匠。弘和頃の人。

サダマサ　貞正　備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サダマサ　貞正　備後國古刀の鍛工。文明年間の人。

サダマサ　貞正（高村）　國學者。本居大平の門。通稱民五郎。美濃

サダマサ　貞正（長澤）　國學者。通稱民五郎。美濃大垣藩士。文化十五年本居翁庭の門に入る。

サダマサ　定雅（藤原）　忠綱の子。右大臣に進む。粟田口入道、又後花山院と稱す。續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉諸集の作家。

サダマサ　定雅（大中臣）　歌人。六位。千載集、新古今集の作家。

サダマサ　定政（小笠原）　貞朝の子。左兵衞尉。

サダマサ　定政（三田村）　淺井忠致の次男。新七と稱す。長享年中、三田村權守の家名を襲ぐ。

サダマサ　定政（土岐）　美濃の人。德川家康に仕へて、菅沼氏を冒し、藤藏と稱す。文祿中土岐氏に復し、慶長二年三月歿す。

サダマサ　定政（松平）　定勝の第四子。小字吉五郎。將軍家光の近侍。累進して參河刈屋城主となる。慶安四年遺世。不怡と號し、東叡山に入る。後其の行、狂疾に近きを以て、松山に閉居せらる。寬文十二年十二月卒す。年六十二。

サダマサ　定政（北浦）　勤王家。善助と稱す。大和の人。蕃生君平の山陵志を考訂し、又打裂纏を著す。御陵御用掛となり、明治四年一月七日歿す。年七十五。

サダマサ　定政　ギヨクザン（秋山玉山）　金ケ崎陷落の際、尊良親王に從ひて自殺す。

サダマサ　貞政（島山）　天正の初年、根來雜賀の徒に擁立せられて關主となり、岩室城に居る。同十三年豐臣秀吉に陷れらる。

サダマサ　貞政（石川）　美濃の人。伊豆守と稱す。豐臣秀吉及び秀賴に仕ふ。既にして高野山に奔る。慶長十九年德川家康に從ひて大阪を攻む。後髮を削りて佳春と號す。

サダマサ　貞政（桑山）　石州流の茶人。片桐貞昌の弟子。貞晴の孫。初名猪兵衞、可齋と號し、元祿十三年九月二十五日歿す。年八十八。

サダマサ　貞正（鳴）　源四。永正頃の人。

サダマサ　貞正（古川）　次兵衞。永正頃の人。

サダマサ　貞正（上杉）　一に定政に作る。扇谷家第六代の主。持朝の四子。修理大夫。曇上杉顯定と兵を交ふ。明應二年十月卒す。年五十二。

サダマサ　貞正（安藤）　家忠の子。今川氏眞に仕ふ。後鳥居元忠に屬す。永祿十八年岩覺城を攻むる時戰死す。年四十三。

サダマサ　定正（長澤）　國學者。通稱民五郎。美濃大垣藩士。文化十五年本居翁庭の門に入る。

サダマサ　定雅（藤原）　忠綱の子。右大臣に進む。粟田口入道、又後花山院と稱す。續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉諸集の作家。

サダマサ　定雅（大中臣）　歌人。六位。千載集、新古今集の作家。

サダマサ　定政（小笠原）　貞朝の子。左兵衞尉。

サダマサ　定政（三田村）　淺井忠致の次男。新七と稱す。長享年中、三田村權守の家名を襲ぐ。

サダマサ　定政（土岐）　美濃の人。德川家康に仕へて、菅沼氏を冒し、藤藏と稱す。文祿中土岐氏に復し、慶長二年三月歿す。

サダマサ　定政（松平）　定勝の第四子。小字吉五郎。將軍家光の近侍。累進して參河刈屋城主となる。慶安四年遺世。不怡と號し、東叡山に入る。後其の行、狂疾に近きを以て、松山に閉居せらる。寬文十二年十二月卒す。年六十二。

サダマサ　定政（北浦）　勤王家。善助と稱す。大和の人。蕃生君平の山陵志を考訂し、又打裂纏を著す。御陵御用掛となり、明治四年一月七日歿す。年七十五。

サダマサ　定昌（上杉）　房定の子。左馬介。

サダマサ　定昌（片桐）　石見國の刀匠。永正年間の人。

サダマサ　貞昌（片桐）　大和小泉城主。石州流茶道の祖。貞隆の子。初名徳兵衞。貞昌と改む。又淨圓軒と號す。延寶元年十一月二十日卒す。年六十九。

サダマス 定加(和氣) 醫。一名光英。雄譽と號す。元龜二年正親町帝の病を治す。織田豊臣兩氏に優遇せらる。
サダマス 貞倍(伊勢) 貞泰の子。左京亮。寛正頃「の人。
サダマル 定丸(紀) 狂歌師。名は義方。通稱吉見儀助。幕府の勘定組頭たり。蜀山の甥。初號野原雲輔。天保十二年正月十六日歿す。年八十餘。
サダミチ 貞通(稻葉) 一徹の長子。本名以鈍。右京亮と稱す。豊臣秀吉に仕へ、後徳川氏に歸す。慶長八年九月三日歿す。年五十六。
サダミチ 貞道(村岡) 源頼光の臣。五郎。
サダミチ 貞道 越前國下坂派の刀匠。藤原氏。
サダミチ 貞道 越後國高田の刀匠。寛永年間の人。藤原氏。佐渡大掾と稱す。
サダミチ 貞道 周防國岩國の刀匠。享保元文年間の人。京の伊賀守金道の門。阿部甚太夫と稱す。
サダミチ 定道 尾張國名古屋の刀匠。寛文天和年間の人。源氏。三品氏。越前守と稱す。一名定俊。本國美濃關。三阿彌兼則の裔。伊賀守金道の門。
サダミチ 定道 遠江國掛川の刀匠。元祿年間の人。
サダミチ 定通(藤原) 歌人。通俊の子。右少辨。天永三年正月二十九日卒。金葉集、千載集、新古今集の作家。
サダミチ 定通(藤原) 保實の子。康和の初め、右少辨となり、七日にして卒す。七日辨といふ。
サダミチ 定通(大村) 佐々木經方の三男。
サダミチ 定通(源) 通親の子。嘉禎二年六月內大臣となり、三年十二月辭任。寶治元年九月薨ず。後土御門と稱す。新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後拾遺集諸の作家。
サダミツ 貞光(淸原) 平文師。後鳥羽天皇の時の「人。
サダミツ・貞光(林) 貞宗の子。加賀介。
サダミツ 貞光(佐々木) 兵部少輔。天文二十一年戰死す。
サダミツ 貞光(村田) 政盛の子。左衞門。
サダミツ 貞光 古刀の鍛工。來氏。山城國の人。或は曰く鎌倉來の派、德治元亨年間の人。又國秀の子。正平頃の人。又國次の門と。
サダミツ 貞光 大和國の刀匠。保昌の祖。
サダミツ 貞光 大和國の刀匠。正平頃の人。藤原氏。保昌貞吉の子。
サダミツ 貞光 大和國の刀匠。嘉吉頃の人。
サダミツ 貞光 攝津國の刀匠。貞享年間の人。
サダミツ 貞光 美濃國の刀匠。應永永享年間の人。本國若狹。若狹五郎と稱し、後名を兼貞と改む。
サダミツ 貞光 美濃國關の刀匠。天文年間の人。藤原氏。或は曰く明應永正年間の人と。
サダミツ 貞光 加賀國の刀匠。天文年間の人。
サダミツ 貞光 備前國長船の刀匠。良國の子。延元頃の人。初代重吉の門。
サダミツ 貞光 備前國長船の刀匠。宗光の子。應永頃の人。又倫光の子。天授頃の人。貞行の門。
サダミツ 貞滿(吉良) 滿氏の子。彌二郎。後上總介と稱す。正平頃の人。
サダミツ 貞滿(源) 相模守賴宗の子。
サダミツ 貞滿(京極) 宗氏の四男。五郎左衞門と稱す。高谷の祖。
サダミツ 貞滿(堀口) 新田義貞の臣。上野の人。義三郎と稱す。貞義の子。延元元年後醍醐帝足利尊氏の降を容るるや、貞滿泣きて義貞の苦忠を訴ふ。帝慚色あり。遂に皇太子を義貞に付し、越前に赴かしむ。貞滿之に從ふ。
サダミツ 定光(碓井) 賴光四天王の一。靱負尉と稱す。碓井峠の人。
サダミツ 定光 備前國長船の刀匠。天文永祿年間「の人。
サダミツ 定光 豊前國宇佐の刀匠。應永年間の人。本國山城。三世信國の子。後信國と改む。筑紫信國の祖。
サダミツ 定盈(菅沼) 德川家康の臣。定村の子。通稱新八郎。織部正と稱す。長島城主たり。慶長九年七月歿す。年六十三。
サダミツ 定滿(源) 滿基の子。堀河帝頃の人。
サダム 定(源) 嵯峨帝の皇子。母は尙侍百濟慶命。天長五年源姓を賜はる。仁壽三年左兵衞督を兼ね、左近衞大將となり、貞觀元年大納言に進み、五年正月薨ず。年四十九。
サダム 定(松浦) 勤王家。肥前平戸城主。答の長子。八郎と稱す。松浦黨の一人。驍勇絶倫。鬼八郎の稱あり。元弘二年後醍醐帝の隱岐に幸するや、義兵を起す。爾後三十五年、節を守りて變ぜず。明治四十五年贈從三位。
サダム 定(田宮) 國學者。通稱藤太。美濃中西鄉の人。文化十年本居春庭の門に入る。
サダム 定(鄉) 步兵中尉。岐阜縣人。日露の役、旅順攻圍軍に屬し、明治三十七年八月二十一日盤龍山に戰死す。
サダム 定(村上) 步兵少尉。愛媛縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月十日旅順に戰死す。
サダムネ 定宗(藤原) 歌人。中納言。家親の子。風雅、新千載、新拾遺、新後撰、新續古今諸集の作家。
サダムネ 定宗(源) 顯定の子。建久年間少納言た「り。千載集の作家。
サダムネ 定宗 古刀の鍛工。大和國の人。藤五郎

と稱す。應永頃の人。千手院派。或は曰く正平頃の人と。
サダムネ 定宗 出羽月山派の刀匠。永正頃の人。
サダムネ 定宗 大和國千手院の刀匠。建長頃の人。是高の子。
サダムネ 貞宗 大和國高市郡の刀匠。文永頃の人。初名國光、また貞光。昌保國光の子。昌保五郎と稱す。又元亨間の人と。
サダムネ 貞宗 相摸國鎌倉の刀匠。延元頃の人。もと近江國高木村の人。初名弘光、また助貞、彦四郎と稱し、相摸五郎正宗の養子。名を貞宗と改む。又正平四年年五十二歳にて歿すといふ。
サダムネ 貞宗 近江國高木の刀匠。建武年間の人。相摸國貞宗の子。
サダムネ 貞宗 越中國宇津流の刀匠。建武年間の「人。國光の門。
サダムネ 貞宗 肥前國平戸の刀匠。天文年間の人。輿四郎と稱す。
サダムネ 貞宗 大隅國の刀匠。弘化嘉永年間の人。「生駒太郎と稱す。
サダムネ 貞宗(小笠原) 幼名豊松。彦五郎と稱す。信濃の人。宗長の子。元弘の役、北條氏に應じ、一度歸順せしも、亦尊氏に屬す。今川伊勢二氏と共に武家の禮節を集め、三儀一統と云ふ。正平五年歿す。年五十七。修身錄の著あり。
サダムネ 貞宗(大友) 貞親の子。左近大夫。新千載集の作家。
サダムネ 貞宗(林) 齋藤宗助の子。豊前守。
サダムネ 貞宗(宇都宮) 宗知の次男。小田太郎と稱す。左衞門尉。常陸介。
サダムネ 貞宗(佐原) 宗明の次男。二郎。左衞門「尉と稱す。
サダムネ 貞宗(二階堂) 宗光の子。次郎左衞門と稱す。元弘三年自殺す。
サダムネ 貞宗(二階堂) トンア 頓阿
サダムネ 貞宗(伊勢) 足利義政の臣。貞親の子。兵庫助と稱す。
サダムネ 貞宗(大伴) 豊後の人。親時の子。豊後守護を襲ぎ、薙髮して具簡と號す。元弘中、少貳貞經と共に北條英時を攻めて之を殺す。延元元年足利尊氏に應じ、後直義に從ふ。
サダムネ シンワウ 貞致親王 邦尙親王の子。邦道親王の後を承く。兵部卿、式部卿に累遷し、元祿七年五月薨ず。年六十三。伏見宮と稱す。
サダムラ 貞村(須田) 賓村の子。小太郎。
サダムラ 貞村(赤松) 足利義教の臣。貞範の曾孫。
サダムラ 貞村 大和國の刀匠。保昌貞吉の子。
サダムラ 貞村 備前の刀匠。長曆年間の人。
サダムラ 定村 大和の刀匠。文保年間の人。千手院派。彌三郎といふ。一に貞村に作る。
サダムラ 定村(菅沼) 今川氏の臣。定盈の父。織部と稱す。三河國野田の人。土岐氏の支族。弘治二年八月奥平貞勝を攻めて戰死す。年三十六。
サダモチ 貞茂(星野) 範政の子。藏人。
サダモト 定基(大江) 齊光の子。文章を能くす。參河守に任ぜらる。後僧となりて寂昭と號す。長元七年宋に卒す。
サダモト 定基(野宮) 有職家。正三位權中納言。正德元年薨ず。本朝故實記、新野問答、平家物語考等の著あり。
サダモト 定基(錦小路) 典藥頭。篤忠の子。
サダモト 定基 備前國の刀匠。文永年間の人。或は曰く片山の一派、福岡に住すと。又定助の子。延慶頃の人と。
サダモト 定基 備前國長船の刀匠。正和年間の人。定利の子。又正應頃の人と。
サダモト 定基 備前國長船の刀匠。長祿年間の人。
サダモト 貞基(加古) 基氏の子。建武頃の人。
サダモト 貞基(布施) 五郎。嘉吉頃の人。
サダモト 貞基(平) 盛基の子。右兵衞尉。
サダモト 貞幹(石川) 志士。初名眞魁。通稱一。因幡鳥取の別封松平伊勢守の家人。安政三年八月忠光に從ひ、軍敗れて獄に繋がれ、元治元年七月十九日斬らる。年二十二。
サダモト 貞幹(濱田) 陸軍一等軍醫。高知縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年十月病死す。
サダモト 貞幹(千葉) 奈良縣人。東京控訴院判事、大分長野の縣知事たり、大正二年三月二十六日卒す。年六十二。
サダモト 貞幹(石川) タカアキラ(仙石隆明)
サダモト 貞元 石見國長濱の刀匠。文龜永正年間の人。
サダモト 貞元 備前國長船の刀匠。嘉吉年間の人。
サダモト シンワウ 貞元親王 淸和天皇の第三子。母は藤原仲統の女。四品に叙せられ、閑院宮と稱す。延喜九年十一月二十六日薨ず。後撰集の作家。
サダモリ 貞盛(平) 國香の子。天慶元年藤原秀郷と共に、平將門を討ちて之を誅す。功を以て鎭守府將軍に任ぜらる。天祿天延の間、丹波陸奥守を歷て、從四位下に叙せらる。
サダモリ 貞盛(宗) 對馬の領主。貞義の子。應永二十六年襲封。讃岐守と稱す。朝鮮と約して貿易船五十艘を限る。享德元年六月二十二日卒す。年六十八。
サダモリ 貞盛 新刀の鍛工、山城國の人。永正年間の人。陸奥守「と稱す。

サダモリ 貞盛 備前大原の刀匠。永正年間の人。
サダモリ 貞盛 筑前博多の刀匠。正平年間の人。左の一派。冷泉貞盛といふ。
サダモリ 貞盛 薩摩國の刀匠。天和年間の人。弓削氏。藤右衛門と稱す。
サダモリ 貞盛 山城國の刀匠。天和年間の人。來氏。近江守と稱す。
サダモリ 貞守 筑前國金剛流の刀匠。弘治年間の人。
サダモリ 貞守 豊後國高田の刀匠。天文年間の人。平氏。或は曰く文明頃の人、長盛の子。又元中頃の人と。
サダモリ 貞守 大和國の刀匠。正應年間の人。千
サダモリ 貞守 石見國出羽の刀匠。明徳應永年間の人。直貞の二子。
サダモリ 貞守 備前國長船の刀匠。文保年間の人。光重の子。又明徳頃の人ともいふ。
サダモリ 貞守（初世）備前國長船の刀匠。應永年間の人。安部の一派。新三郎と稱す。（二世）長禄頃の人。
サダモリ 貞守 備中國青井古刀の鍛工。應永頃の
サダモリ 貞守 筑前國古刀の鍛工。平氏。延徳年間の人。
サダモリ 定守 出雲國の刀匠。天文年間の人。
サダモリ 定守 古刀の鍛工。筑後國三池の人。
サダモリ 定守 古刀の鍛工。豊後國高田の人。平氏。或は曰く大永年間の人、又守家の次子。永正頃の人と。
サダヤス 貞安（清原）平文飾。後鳥羽天皇の時の人。
サダヤス 貞安 安藝國佐伯莊左派の刀匠。應永年

サダヤス 貞安 古刀の鍛工。薩摩國谷山波平の人。同名數世相承く。又長暦頃の人。一名安定。行安の婿なりと。
サダヤス 貞安 薩摩國谷山波平の刀匠。天文年間の人、信光の子。或は曰く元亨正中年間の人と。
サダヤス 貞泰（源）歌人。五位。隆泰の子。風雅集の作家。
サダヤス 貞泰（佐々木）師泰の子。三郎。
サダヤス 貞泰（伊勢）貞誠の子。左京亮。寛正頃の人。「手院派。
サダヤス 貞泰（片切）爲貞の子。源太。元暦頃の
サダヤス 貞泰（加藤）光泰の子。關ヶ原の戦、徳川氏の先鋒となりて宇喜多氏の兵を破る。元和三年伊豫大洲城に封ぜらる。九年五月二十二日卒す。「集の作家。
サダヤス 貞康（三善）五位。町野備後守。嶺千歳年卒す。年七十二。
サダヤス 貞康（秋田）宗景の子。陸奥太郎。
サダヤス 貞康（畠山）豊後國栂嶋の刀匠。康正文明年間の人、則貞の門、
サダヤス 定安（吉貞）義定の子。山城守。
サダヤス 定安（畑）源軍少尉。宮城縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年八月黄海に戰死す。
サダヤス 定安 山城國綾小路の刀匠。元中年間の人。一名家安。延慶正和年間の人。又正平十四年に生れ、應永十年に殁すと。
サダヤス 定安 薩摩國波平の刀匠。永正年間の人。
サダヤス 定安 女醫博士。姓不詳。藤原定家の撰を治す、二子光成顯成亦名あり。

サダヤス 定康（清原）定滋の子。大外記。天永四年卒す。年七十二。
サダヤス 定保（波多野）天文二十三年肇津にて「殺さる。
サダヤス 定保（片柳）建築家。初名泰貴。もと中井氏、天保二年死す。年八十二。「江戸に住す。
サダヤス 定保（隅田）歌人。通稱圖聞。文化の頃
サダヤス 定保（加藤）國學者。本居大平の門。通稱善右衛門。名古屋の人。
サダヤス 定保（竹田）國學者。本居大平の門。通稱純道。紀伊和歌山の人。
サダヤス 定靜（菅沼）宗偏流の茶人。白井善朴の門。左京亮。四方赤搥松と號す。
サダヤス 定靜（西尾）歌人。蔭庭の門。字は仲憲。享和元年五月殁す。
サダヤス シンワウ 貞康親王 邦輔親王の子。母は藤原公朝の女、二品式部卿。永祿十一年四月薨ず。
サダヤス シンワウ 貞保親王 清和天皇の皇子。南宮、二品式部卿。延長六年薨ず。年五十五。
サダヤス シンワウノムスメ 貞保親王女 女歌人。後撰集の作家。
サダユキ 貞幸（和氣）朝廷の警官。貞經の五男。典薬權助、兼内藏助たり。
サダユキ 貞幸（久保）慈善家。陸奥磐前郡藤村の里正。天保年間の人。
サダユキ 貞幸 ハルユキ（山本晴行）
サダユキ 貞幸 尾張名古屋の刀匠。萬治寛文年間の人。藤原氏。越中守と稱す。
サダユキ 貞幸 尾張國名古屋の刀匠。元祿年間の人。源氏。河内守と稱す。
サダユキ 貞之 加賀國の刀匠。天保年間の人、
サダユキ 貞行（平）五位。新續古今集の作家。

サダユキ 貞行（源）五位。風雅集の作家。
サダユキ 貞行（安倍）安仁の子。元慶中、從四位上太宰大貳に叙任せらる。
サダユキ 貞行（源）季貞の子。左衛門尉。
サダユキ 貞行（伊勢）貞信の子。七郎左衛門。伊勢守。正平頃の人。
サダユキ 貞行（根津）信濃守と稱す。木曾義仲の「の財。
サダユキ 貞行（二階堂）行藤の子。三郎左衛門
サダユキ 貞行（後藤）彫工。馬形に名あり。明治三十六年殁す。
サダユキ 貞行 大和國高市郡の刀匠。正平年間の人。保昌貞吉の子。或は曰く元應頃の人、保昌國光の次子、一名貞吉、弘安頃の人と。
サダユキ 貞行 攝津國大隅の刀匠。天和年間の人。藤原氏。多田氏。治兵衛尉と稱す。「人。橘氏。
サダユキ 貞行 江戸法城寺派の刀匠。貞享年間の
サダユキ 貞行 陸奥國の刀匠。元治頃の人。
サダユキ 貞行 出羽月山の古刀の鍛工。永正年間の人。「長右衛門二世と稱す。
サダユキ 貞行 加賀國の刀匠。寛永年間の人。仲
サダユキ 貞行 新刀の鍛工。越後國高田の人。
サダユキ 貞行 石見國の刀匠。正長康正年間。初代貞綱の子。或は曰く正中頃、同國出羽に住すと。
サダユキ 貞行 備前國長船の刀匠。元中年間の人。長船小反行貞の子。兼光の族。或は曰く兼光の門と。「の人。
サダユキ 貞行 備前國長船の刀匠。應仁文明年間
サダユキ 貞行 備後國の刀匠。天福頃の人。一文字吉貞の子。「問の人。
サダユキ 貞行 備後國尾道三原派の刀匠。長享年

サダユキ 貞行 安藝國廣島藩士。坂原氏、彌右衛門と稱し、治刀を好みて相摸の鍛法を得。慶安頃の人。
サダユキ 貞行 筑前國左派の刀匠。正平年間の人。
サダユキ 貞行 豊後國高田の刀匠。應永年間の人。
サダユキ 貞行（二世）豊後國高田の刀匠。承應年間の人。
サダユキ 貞行（三世）天保年間の人。
サダユキ 貞行 豊後國高田の刀匠。時行の子。
サダユキ 貞行 日向國の刀匠。治安年間の人。月
ヲカユモン（木村岡右衛門）上杉氏の宿將。一名長景及び上杉輝虎に歴仕して功多し。
サダユキ 貞行 山城國了戒派の刀匠。應永年間。
サダユキ 貞行 越中國宇多派の刀匠。文明年間。
サダユキ 貞行 備前國古刀の鍛工。正平年間の人。「人。其阿彌と號す。
サダユキ 貞行 備前尾道の刀匠。天文永祿年間の
サダユキ 貞行 筑前國の刀匠。建武年間の人。左「と號す。
サダユキ シンワウ 貞敬親王 邦輔親王の子。後桃園天皇の猶子。下野太守。兵部卿に至り、天保十二年正月一品に進み、尊いて薨ず。年六十七。
サダユキ シンワウ 貞行親王 桃園天皇の第二子。母は恭禮門院。二宮と稱し、伏見宮を相續し、明治九年六月二十日薨ず。

サダヨ 貞世（今川）範國の次子。足利義詮に仕ふ。遠江守護たり。薙髪して了俊と號す。建徳二年鎮西探題となる。後機せられて遠江に歸る。應永の末卒す。著、鎌太平記、落書露顯、今川狀式、九州合戰記、言歴集。
サダヨ 貞世（今出川）源氏。五位。伊豆守。風雅、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。
サダヨ 貞世（二瓶）國學者。本居大平の門。通稱忠四郎。會津の人。
サダヨ 貞代（桑山）石州浜の茶人。貞政の子。隠居して紹悳と號し。享保十三年六月十四日殁す。年
サダヨ 貞代（村上）義久の子。修理亮。（一八十一。
サダヨ 定世（大中臣）隆世の子。祭主。永仁五年薨ず。
サダヨシ 貞能（平）家貞の子。治承四年菊池高直を討滅し、導いて緒方惟能と戰ひて敗績す。「に戰死す。
サダヨシ 貞能（伊勢）貞陸の子。享祿四年天王寺
サダヨシ 貞能（奥平）徳川氏の家臣。一に定能といふ。貞勝の子。通稱九八郎、美作守と稱す。慶長三年十二月卒す。年六十二。
サダヨシ 貞能 ソウケン（米田宗堅）
サダヨシ 貞慶（小笠原）信濃の人。長時の子。喜三郎、後右近太夫といふ。信長、秀吉、北條氏直等に轉屬す。後古河に老し、文祿四年五月殁す。年五十。「藏人たり。
サダヨシ 貞義（源）隆慶の子。後堀河天皇の朝に
サダヨシ 貞義（佐竹）秀義六世の孫。遠江守となり、上總守を兼ぬ。北條高時及び足利尊氏に屬し、「して定阿と稱す。
サダヨシ 貞義（大内）朝村の子。通稱五郎。出家

サダヨシ 貞義(大多和) 豪行の三男。彌六と稱す。射を善くす。

サダヨシ 貞義(糸田) 左近太夫。後醍醐帝頃の人。

サダヨシ 貞義(堀口) 美貞の子。右馬頭。美濃守。

サダヨシ 貞義(逸見) 宗義の子。二郎三郎と稱す。

サダヨシ 貞義(小柴) 山口流の劍家。六郎右衛門と稱す。加賀の人。前田正甫に仕ふ。享保二年二月二十三日歿す。

サダヨシ 貞義(坂本) 歩兵大尉。東京府出身。明治三十七年戰役從軍中、三十八年三月盛京省八家子に戰死す。

サダヨシ 貞義 古刀の鍛工。備前國長船の人。

サダヨシ 貞能 山城國了戒派の刀匠。永正年間の人。

サダヨシ 貞吉 大和國高市郡の刀匠。元弘年間の人。保昌國光の子。藤原氏。左衛門尉。或は曰く保昌五郎貞宗の門。寛元頃の人。又貞宗の子。

サダヨシ 貞吉 尾張の刀匠。元祿年間の人。

サダヨシ 貞吉(一世) 三河國八原の刀匠。寶德年間の人。盛國の子。或は云ふ正安頃の人。又永享頃の人と。(二世) 越後永正年間の人。信濃上野兩國に住す。

サダヨシ 貞吉 出羽の刀匠。水心子の門人。月山と稱す。

サダヨシ 貞吉 加賀國の刀匠。寛永年間の人。

サダヨシ 貞吉 加賀藩の刀匠。寛文年間の人。藤原氏。

サダヨシ 貞吉 越後國高田の刀匠。貞享年間の人。

サダヨシ 貞吉 石見國の刀匠。天文年間の人。

サダヨシ 貞吉 備前國鍛冶の刀匠。天祿文永年間の人。或は貞直の初名なりといふ。

サダヨシ 貞吉 備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サダヨシ 貞吉 筑前國の刀匠。左安吉の子。一名安貞。正平年間の人。又吉貞の子と。

サダヨシ 貞吉 肥前國の刀匠。寛永年間の人。

サダヨシ 貞祥(松嶋) 歩兵少佐。鹿島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十二月病死す。

サダヨシ 貞資 丹波國天田の刀匠。永祿元亀年間「稱河内」。紀伊那智郡の人。

サダヨシ 貞好(宮本) 國學者。本居大平の門。通稱興五郎。山城守と稱す。元和四年歿す。

サダヨシ 貞吉(阿部) 三河の人。大藏大輔と稱す。徳川清康に仕へ、家政を執る。子正豊勝りて清康を弑す。定吉自殺せんとす。人に止められ。廣忠嗣ぎて立つ。其の輔佐となる。天文十八年十一月(一に七年)歿す。

サダヨシ 定吉 相模國の刀匠。文明年間の人。或は曰く天文頃の人。小田原に住すと。

サダヨシ 定吉 備前國古刀鍛工。片山の流。岡山に住す。或は曰く則吉の子。正應永仁年間の人と。

サダヨシ 定吉 備前國長船の刀匠。嘉元年間の人。定俊の門。或は曰く文永頃の人。定俊の次子。又永徳頃の人と。

サダヨシ 定吉 備後國古刀の鍛工。天文年間の人。尾道に住す。三原の一派。

サダヨシ 定吉 筑前國の刀匠。左の門。或は曰く左の一派。文明間年の人と。

サダヨシ 定吉 豐後國古刀の鍛工。天文年間の人。

サダヨシ 定好(日下部) 徳川氏の臣。初名吉定。兵右衛門と稱す。長篠の役、先鋒たり。甲府幸行、伏見留守居番等を歴、元和二年八月晦日歿す。年七十五。

サダヨシ 定好(吉川) 浮世繪師。明和年中の人。

サダヨシ 定好(岡村) 國學者。通稱儀八郎。伊勢松阪の人。寛政八年本居宣長の門に入る。

サダヨシ 定芳(菅沼) 定盈の子。兄定仍の後を繼ぎて、綾部正と稱す。大阪の陣に功あり。正保四年卒す。

サダヨシ 定義(菅原) 孝標の子。大學頭。贈從一位。長元頃の人。

サダヨシ 定義(土岐) 宗政の子。通稱興五郎。山城守と稱す。元和四年歿す。

サダヨシ 定吉(阿部) 三河の人。大藏大輔と稱す。徳川清康に仕へ、家政を執る。子正豊勝りて清康を弑す。定吉自殺せんとす。人に止められ。廣忠嗣ぎて立つ。其の輔佐となる。天文十八年十一月(一に七年)歿す。

サダヨシ 定吉 相模國の刀匠。文明年間の人。或は曰く天文頃の人。小田原に住すと。

サダヨシ 定吉 備前國古刀鍛工。片山の流。岡山に住す。或は曰く則吉の子。正應永仁年間の人と。

サダヨシ 定吉 備前國長船の刀匠。嘉元年間の人。定俊の門。或は曰く文永頃の人。定俊の次子。又永徳頃の人と。

サダヨシ 定吉 筑前國の刀匠。左の門。或は曰く左の一派。文明間年の人と。

サダヨシ 定吉 豐後國古刀の鍛工。天文年間の人。

サダヨシ 定好(日下部) 徳川氏の臣。初名吉定。兵右衛門と稱す。長篠の役、先鋒たり。甲府幸行、伏見留守居番等を歴、元和二年八月晦日歿す。年七十五。

サダヨシ 定好(吉川) 浮世繪師。明和年中の人。

サダヨシ 定好(岡村) 國學者。通稱儀八郎。伊勢松阪の人。寛政八年本居宣長の門に入る。

サダヨシ 定芳(菅沼) 定盈の子。兄定仍の後を繼ぎて、綾部正と稱す。大阪の陣に功あり。正保四年卒す。

サダヨシ 貞頼(源) 歌人。五位。續千載集及び風雅集の作家。

サダヨシ 貞頼(涌川) 義春の子。兵部太夫。

サダヨシ 貞頼(小島) 重遠の子。世保又次郎と稱す。後鳥羽天皇頃の人。

サダヨシ 貞頼(土岐) 國經の子。五郎。隱岐守。

サダヨシ 貞頼(伊勢) 貞數の子。次郎左衛門尉。大永頃の人。

サダヨシ 貞頼(土水) 忠季の子。因幡守。

サダヨシ 貞頼(小原) 時重の次男。備中守。判官。正平頃の人。

サダヨシ 貞頼(一條) 倍重の子。與一郎。

サダヨシ 貞頼(武田) 倍畤の子。彌五郎。

サダヨシ 貞頼(菊池) 肥後守。元中九年楠正勝と共に兵を挙げ、八月二日自殺す。

サダヨシ 貞頼(小笠原) 倍濃深志城主。長元の子。彦七郎と稱す。民部大輔たり。文祿二年小笠原島を發見す。寛永二年上野龍林に蟄封す。

サダヨシ 貞齊(佐藤) 近江國の國學者。字は子純。隼人と稱し、松園と號す。彦根藩に仕へて代官となる。天保九年歿す。年六十八。

サダヨシ 定頼(佐々木) 高頼の第二子。小字四郎。相國寺に入りて僧となりしが、還俗して、兄近綱の後を嗣ぎ、足利幕府に近侍し、天文二十一年正月歿す。書を能くす。

サダヨシ 定頼(藤原) 歌人。公任の子。又書に巧なり。長元中、權中納言に任ぜられ、乗いで兵部卿を兼ね、寛徳二年薨ず。後拾遺、千載、新古今、詞花撰、續後撰、續古今、續拾遺、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サダヨリノハハ 定頼母(藤原) 女歌人。賜平親王の女。後拾遺集、千載集、玉葉集の作家。

サダヨリノムスメ 定頼女(藤原) 兼平の母。千載集及び新勅撰集の作家。

サダラウ 佐太郎(田中) 歩兵少尉。霧城等に從軍中、明治三十七年八月旅順に戰死す。

サダラウ 佐太郎(尾崎) 輜重兵少尉。香川縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年六月十五日乏海灣航行中、敵艦に襲はれて戰死す。

サダラウ 佐太郎(南條) 砲兵中尉。和歌山縣出身。日露役に從ひ、明治三十八年九月病死す。

サダラウ 佐太郎(西岡) 輜重兵少尉。和歌山縣出身、日露戰役に從軍し、明治三十八年二月盛京省柳樹屯に死す。

サダラ 佐多雄(仙石) 勤王家。國學者。平田篤胤の門。名は隆明。文久三年足利氏の木像を斬り、幕兵に殺さる。年二十二。贈正五位。

サダラ 貞雄(二階堂) 政雄の子。三郎兵衛尉。

サダラ 貞雄(瀬名) 有職家。源氏。通稱源五郎。狐評翁と號す。江戸の人。幕府に仕へて、右衛士頭に進み、寛政六年十月四日歿す。年八十一。

サダラ 貞雄(細井) 國學者。幕府の士。通稱藤十郎、後昌阿といふ。號は詞花堂。山本正臣及び本居宣長に從ふ。姓氏有職に精し。文政六年九月二日歿す。年五十二。著、姓氏考、三代實錄補遺、古方疑服考、職位考、地名類聚、宇津保物語玉琴等。

サダラ 貞雄(贊川) 幾河長澤の歌人。通稱五兵衛。文化頃の人。

サダラ 貞雄(長谷川) 貴族院議員、勤王の志士。遠江の人。維新の際、同志を糾合して、有栖川大總督宮に隨從す。明治三十八年二月卒す。

サダラ 貞雄(亀山) 東京府の人。明治十年二等少警部を以て西南の役に從ひ、三月二十三日肥後國八代郡宮原に戰死す。

サダラ 貞夫(太田) 歩兵大尉。石川縣人。日露の役に從ひ、明治三十七年八月二十二日旅順終攻に戰死す。

サダラ 定雄(山口) 新派俳優。阿波の人。明治二十三年東京に來り新富座に出演す。三十年東京座に與行す。三十五年京都に負傷し、身體意の如くならず、爾來昔日の名聲なし。四十年十月信濃に歿す。年四十七。

サダンジ 左團次(市川) 〔四世〕 江戸の俳優。初名小米。三世の門弟。後其の養子となり、左團治と改む。大阪の人。

サダンジ 左團次(市川) 團十郎菊五郎と併びて、明治劇團の三名優と稱せらる。本名高橋榮三。大阪の人。初め小米と稱し、弱若と改め、後小團次の養子となりて左團次と改む。明治三十七年八月七日歿す。年六十三。

サチコ 葛子 松平能登守の妻。明和年間賀茂眞淵の門に入りて國學を修む。

サチコ さち子 筑後久留米場江善治の妻。和歌を好む。文化年間の人。

サチトシ 幸年(稻葉) 祀伊の歌人。通稱衛士郎。文化年間の人。

サチノミヤ 幸宮 ヤスヒトシンワウ 穆仁親王 稱號總、僧前和氣郡の人。

サチブミ 幸翰(本木) 國學者。本居大平の門。通稱藤次郎。

サチブミ 幸文(木下) 歌人。通稱兵藏、備中の人。亮々舍と號す。狹谷直好等と桂園門下の十哲と稱

せらる。文政四年十一月殁す。年四十三。亮々草紙、萬葉集註釋、十佐日記仕幕等の著あり。

サチユウ 左仲(溝口) 尾張荒子の醫。和歌を善くす。文化頃の人。

サチユウ 左仲(佐鰻) 遣鮮大使。工學博士。加賀の人。英國に留學すること九ケ年。歸朝後、横須賀造船所の經營完成に勉む。明治三十八年十月卒す。年五十四。

サチユウ 左仲 ザンガイ(荻野元凱)

サヂラウ 佐治郎 元祿年間の儒醫。信濃國下諏訪の農家の子。

サチヲ 幸緒(衣川) 畫人。字は白鷺。浪花の人。伊勢國山板倉侯に仕ふ。後致仕して京師に移る。寶暦三年四月二十一日殁す。年五十五。

サツ 佐都 烈女。演劇には之を初に作る。毛利甲斐守の卒長松田助八の女。石見濱田侯松平康豊の中老みちに仕ふ。老女澤野、性頑陋みちを辱しめ、みも爲に自殺す。佐都遂に澤野を刺して讎を復す。時に享保九年四月三日。後、中老となり、松の尾と稱す。翌年みちの父岡本佐五右衛門の養女となり、二十七歳にて藩臣 神尾某に嫁す。

サツキ 五月(岩田) 工學士。鹿兒島縣人。明治四十三年七月殁す。

サヅク 授(源) 源頼政の臣。省の子。薩摩兵衛。

サツクワ 文字鉄く 筑前國左派の刀匠。正平頃の人。後越前國金津に移住す。或は曰く行吉の隱名なりと。

ザツクワダウ 雜華堂 ムイン 無隱

ザツサイ 雜齋(一松) 近江の人。もと漢海氏。通稱左兵衛。名は直泰。天正元年八月大風雨にて唐崎の松樹を。雜齋之を歎き、十八年樹植す。これより氏を一松と改む。

サツサツ 颯々(伊東) 近江の歌人。名は巨矩、源兵衛と稱し、秋の舍と號す。鍛冶を業とし、纖纖丁々の裡に吟藷を絶たず。萬葉集の註釋を著す。安政五年二月殁す。

サツマダイフ 薩摩太夫 ジャワウン(薩摩淨雲)

サツマノジヨウ 薩摩掾(富士松) 宮古路豊後掾の門人。初め富士松加賀太夫と稱し、後一派の曲節を出して富士松節と稱す。錦賀新内節はその支流なり。

サデヒコ 狹手彦(大伴) 金村の子。宣化天皇二年任那を鎭め百濟を救ふ。欽明天皇二十三年大將軍となり、高麗を伐ちて之を破る。

サデヒメ 紗手媛 安閑天皇の妃。

サテン 左轉(北) 俳人。露說庵、又宵樹庵と號す。

サト 佐登 シウラン(吉田袖蘭) 【吉門の門。

サド 佐渡(松井) 細川忠興の臣。後長岡氏を稱す。

サドアヂヤリ 佐渡阿闍梨 ニツカウ 日向 學者。通稱大黒屋新兵衛。石本居宣長の門に入る。

サトカゼ 佐登風 國學者。通稱大黒屋新兵衛。石見上市の人。寛政二年本居宣長の門に入る。

サトク 左德(廣瀨) 俳人。通稱孫助。涼木庵と號す。萬獄の門。

サトコ さと子 紀伊和歌山安政頃の人。

サトコ を好む。文化頃の人。

サドノカミ 佐渡守(奥山) 平維茂の裔。天正頃の人。

サドノカミ ヒサ(秋月種冨) 佐渡守 **マサノブ(本多正信)** タネ

サドノヰン 佐渡院 ジュントクテンワウ(順德天皇)

サトヒロ 覺弘(井戸) 對馬守と稱す。通稱大藏。天保十三年目付となり、弘化二年長崎奉行に轉ず。安政元年米艦來航の際、浦賀奉行となりて彼我の應接す。安政五年殁す。

サトミツ 鄕光 備前國長船の刀工。寛正頃の人。

サトミノクワンジヤ 里見冠者 ヨシナリ(新田義成)

サトヤス 達安(戸川) 宇喜多秀家の臣。助七郎と稱す。征韓の役に功あり。慶長庚子の變、東軍に與し、寛永中、嗣衆に列し、寛永四年殁す。

サトヤス 鄕安 肥後國小國の刀匠。康正頃の人。

サトリ 悟里(清水) 國學者。通稱恒右衛門。能登の人。寛政十一年本居宣長の門に入る。

サトル 覺(源) 仁明帝の皇子。母は宮人山口氏。學を好む。元慶元年宮内卿となる。三年十月卒す。年三十一。

サトル 覺(田上) 陸軍少佐。岡山藩士。日淸の役に從ひ、平壤の戰に死す。

サトル 覺(原田) 歩兵大尉。福井縣出身。日露の役に從ひ、明治三十七年十一月二龍山に戰死す。

サナイ 左內(岡野) 始め上杉氏に從ひ、後備生氏に仕へて一萬石を食む。殖利を營くし、數萬金を貯ふ。慶長庚子役、豊臣氏に三萬金を獻ず。蹈絵の際、蒲生氏に三萬金を獻る。

サナイ 左內(片岡) 江戸の茶人。名は可匡、文之進と稱す。享保二十一年正月殁す。年五十八。

サナイ 左內(橋本) 福井藩の志士。名は綱紀、字は伯綱。黌園、景岳の號あり。醫を結万弘庵に學び、藩醫となる。專いて藩學を幹す。安政戊午の大獄に繫がれ、翌年江戸小塚原に斬らる。年二十六。左內全集あり。「門。

サナイ 佐內(打見) 打見流槍術の祖。富田生の天保十三年目付となり、弘化二年長崎奉行に轉ず。安政元年米艦來航の際、浦賀奉行となりて彼我の應接す。安政五年殁す。

サナイ 佐內 淨瑠璃家。佐內節の祖。江戸の人。薩摩淨雲の門。杉山丹後等と京師に上る。

サナヘ 早苗(橘樹園) 江戸の狂歌師。黒田氏名は鈴、字は德整、通稱山田屋勘左衛門。質業。安政二年十二月九日殁す。

サナヘノスケ 早苗之助(五月) 尼子十勇士の一人。もと播磨上月城外農夫の子。義久の亡後其の嗣勝久を扶け、山中鹿之助等と共に兵を起して遺業を復す。

サニフ 左入 樂燒工の第六世。吉左衛門と稱す。

サヌキ 讃岐 女歌人。後照念院殿白太政大臣冬平家の女房。新後撰、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サヌキ 讃岐 讃岐守安部清行の女。古今集の作家。長治二年殁す。世に神の石の讃岐と云ふ。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サヌキノスケ 讃岐典侍 堀川院の女房。新勅撰「集の作家。

サヌキノヰン 讃岐院 ストクテンワウ 崇徳天皇 實(源) 五位。信濃守。舒の子。昌泰二年(一に三年)卒す。古今集の作家。

サネ 實(藤原) 太政大臣。出家して忍禪と稱す。

サネアキ 信明(源) 歌人。公忠の子。陸奥守。康保二年十月八日卒す。後撰、拾遺、新古今、新勅撰、續後撰、玉葉、續千載、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネアキノムスメ 實明女 前大納言實明の女。風雅、新千載集、新拾遺集の作家。

サネアツ 實淳(藤原) 太政大臣。出家して忍禪と稱す。

サネアリ 實有(藤原) 公經の子。大納言。新勅撰、新古今、新勅撰、千載、新古今、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺集の作家。

サネアリ 實有 石見國長濱の刀匠。永享嘉吉年間の人。實經の子。一條太政大臣と稱す。續拾遺集及び新後撰集の作家。

サネイヘ 實家(藤原) 歌人。公能の子。正二位大納言。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後拾遺集の作家。

サネイヘ 實家(伊庭) 近江六角家の旗下。民部少輔と稱す。永享年間の人。蓮阿と號す。

サネイヘ 實家 備後國の刀匠。永享年間の人。

サネイヘ 眞屋 古刀の鍛工。求は曰く甲斐の人。

サネイヘ 眞家 大和國の刀匠。正中頃の人。千手院の流。藤五郎と稱す。求は曰く「長賀の人。豊後の子。又天國頃の人。家宗の子と。

サネイヘ 眞家(松村) 歩兵中尉。熊本縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月三十一日盛京省首山堡に戰死す。

サネイヘ 實家(藤原) 公忠の子。陸奥守。康保二年十月八日卒す。後撰、拾遺、新古今、新勅撰、續後撰、玉葉、續千載、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネアキノムスメ 實明女 前大納言實明の女。風雅、新千載集、新拾遺集の作家。

サネアツ 實淳(藤原) 太政大臣。出家して忍禪と稱す。

サネアリ 實有(藤原) 公經の子。大納言。新勅撰、新古今、新勅撰、千載、新古今、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺集の作家。

サネアリ 實有 石見國長濱の刀匠。永享嘉吉年間の人。實經の子。一條太政大臣と稱す。續拾遺集及び新後撰集の作家。

サネイヘ 實家(藤原) 歌人。公能の子。正二位大納言。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後拾遺集の作家。

サネイヘ 實家(伊庭) 近江六角家の旗下。民部少輔と稱す。永享年間の人。蓮阿と號す。

サネイヘ 實家 備後國の刀匠。永享年間の人。

サネイヘ 眞屋 古刀の鍛工。求は曰く甲斐の人。

サネイヘ 眞家 大和國の刀匠。正中頃の人。千手院の流。藤五郎と稱す。求は曰く「長賀の人。豊後の子。又天國頃の人。家宗の子と。

サネイヘ 眞家 備前國眞宗流の刀匠。永享嘉吉年間の人。

サネイヘ 眞家(松村) 歩兵中尉。熊本縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年八月三十一日盛京省首山堡に戰死す。

サネウヂ 實氏(藤原) 公經の子。土御門帝以下の六朝に仕へ、從一位太政大臣に至る。文應元年薨。法名實空。世に常盤井入道と稱す。文永六年薨ず。新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、風雅、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネウヂ 實氏(眞田) 盛明の次男。又太郎。

サネウヂ 眞氏 古刀の鍛工。備前國長船の人。

サネエダ 實枝(三條) 歌人。初名實世、又實遠。公綱の子。權大納言に至る。永正十三年夫人を失ひ、悲いで之を辭し、又薙髪、三光院業安と號す。後幾もなく卒す。年六十九。

サネオキ 實起(小倉) 本名季雅。實綱の嗣。正二位。學を好み、音律に精し。元和元年事に坐して佐渡に流さる。

サネオミ 眞臣(廣澤) 醫王家。荻澤士。通稱兵助。小字季之進、又金吾。幕軍來征の時、外盤砲撃の事に坐して獄に投ぜらる。後赦されて、國政に與る。明治元年征東大總督參謀たり。後參議に任ず。明治四年剃官に斃さる。贈正三位。

サネカ 實香(藤原) 中納言。公教の子。玉葉集及び續千載集の作家。

サネカ 實香(藤原) 歌人。公秀の子。從一位。新後拾遺集及び新續古今集の作家。

サネカゲ 實景(大井田) 實孚の二男。甲斐守。

サネカゲ 實景(齋藤) 實信の子。勢田と稱す。

サネカゲ 眞景 大和國古刀の鍛工。千手院の流。

元中頃の人。

サネカゲ 眞景 〔一世〕加賀國の刀匠。建武頃の人。藤原氏。友重の弟。越中則重の門。或は曰く正中頃の人。又伯耆の眞景と同人なりと。又和泉伯耆越後等に住すと。〔二世〕加賀國岩瀧の刀匠。天授頃の人。或は曰く應永頃の人と。

サネカゲ 眞景 越中國古刀の鍛工。宇多流。

サネカゲ 眞景 伯耆國の刀匠。元曆前の人。

サネカゲ 眞景 備前國の刀匠。嘉禎頃の人。長船の派。或は曰く吉秀の子。又正平頃の人と。

サネカゲ 眞景 備中國古刀の鍛工。正平年間の人。片山に住す。眞利の門。

サネカゲ 眞景 備前國長船の刀匠。應永後の人。

サネカゲ 眞景 備後國尾道の刀匠。延德頃の人。

サネカゲ 眞景 古刀の鍛工。因幡小鍛治の派。

サネカゲ 眞景 備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サネカゲ 實陰(武者小路) 歌人。實信の子。權大納言。元文三年九月薨ず。年七十八。

サネカズ 實數(藤原) 吉野朝の臣。公秀の子。大納言。新葉集の作家。

サネカズ 實量(三條) 伊冬の子。藤原氏。初名實敎。北朝に仕へて、左大臣に進み、文明五年薨ず。年五十九。

サネカズ 眞員(齋藤) 實盛の弟。元曆頃の人。

サネカゼ 眞風 出羽國山形の刀匠。水心子の門人。安藤市左衞門と稱す。

サネカタ 實方(藤原) 歌人。家時の子。叔父濟時に養はる。一條帝に仕へて、左近衞中將たり。一日和歌の事に依りて、行成と爭ひ、陸奥守に貶せられ、長德四年十二月任所に卒す。拾遺、後拾遺、詞花、千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネカタ 實方(廣澤) 遵養の子。餘三。

サネカタ 眞方 豐後高田の刀匠。天文年間の人。

サネカタ 實賢(高屋) 重綱の子。山田八郎と稱す。大炊介。

サネカタ 實賢(飯牟禮) 薩摩藩の志士。舊稱喜之助。明治三年歿す。年三十。

サネカツ 實勝(藤原) 四位。公高の子。新續古今集の作家。

サネカツ 實勝 日向國の刀匠。永祿年間の人。實昌の子。或は曰く實昌の族、應永頃の人と。又實昌の父なりともいふ。

サネカツ 眞葛(上) 南都の樂家。上氏の祖。初め野田氏と稱す。狛近眞の第三子。正應元年五月二十日歿す。年五十七。

サネカド 實廉 ロクモン(小倉鹿門)

サネカネ 實兼(藤原) 公相の子。正應四年太政大臣となる。元亨二年薨ず。後西園寺入道と稱す。續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネカネ 眞包 石見國長濱の刀匠。眞元の養子。應永頃の人。

サネカネノムスメ 實兼女(藤原) 玉葉集の作家。

サネカヒ 實穎(竹内) 三等少警部。鹿兒島の人。西南役に從軍中、三月二十三日戰死す。

サネキ 實材(北條) 實時の子。越後太郎と稱す。

サネキ 實樹(倉田) 國學者。通稱太左衞門。伊勢白子の人。天明四年本居宣長の門に入る。

サネキ 眞材(平) 時景の子。伊勢守。安和元年卒す。年六十九。

サネキヨ 實淸(藤原) 中納言。公時の子。新續古今集の作家。

サネキヨ 實淸(藤原) 歌人。公信の子。仁平年間右馬權頭たり。千載集及び續後撰集の作家。

サネキヨ 實淸(西園寺) 太政大臣實氏の裔。世々伊豫を領す。永祿三年左近衞少將となり、八年國を子公廣に讓り、京師に入り、剃髮して松叟と號す。

サネキヨ 實淸(藤原) 淸豢の子。若狹守。上西門の藏人たり。

サネキヨ 實淸(大井田) 實元の子。五郎八。

サネキヨ 實淸(村上) 實信の子。又四郎。

サネキヨ 實淸(粟田) 實次の子。次郎。

サネキヨ 實淸(寄合) 實信の子。孫四郎と稱す。射を善くす。

サネキヨ 實淸(田井) 實秋の子。次郎。

サネキヨ 實淸(齋藤) 實忠の子。太郎。

サネキヨ 眞淸(石川) 江戶の國學者。野村篠齋の門人。

サネキヨ 眞淸(水野) 步兵中尉。東京府出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年十月三十日旅順東鷄冠山に戰死す。

サネキヨ 眞淸 山城國三條の刀匠。寛治頃の人。宗永の子。或は曰く永承康平年間の人。眞利の子と。

サネキヨ 眞淸 山城古刀の鍛工。弘長年間の人。國延の門。藤七郎と稱す。或は曰く建長頃の人。又國眞と同人なりと。

サネキヨ 眞淸 伯耆國の刀匠。治安頃の人。安綱の子。又天長頃の人といふ。

サネキヨ 眞淸 安藝の國三入の二王流の刀匠。永正年間の人。

サネキヨ 眞淸 安藝國三入二王流の刀匠。天正年間の人。本國周防。

サネキヨ 眞淸 周防國古刀の鍛工。二王派。

サネキヨ 實淸 周防國古刀の鍛工。二王派。永祿頃の人。

サネクニ 實國(藤原) 歌人。正二位。大納言。千載、新勅撰、續後撰、續拾遺、新後撰、續千載、風雅諸集の作家。

サネクニ 實國(田上) 上野左近と稱す。後田上甲斐守と改む。天文二年七月歿す。

サネクニ 實國(源) 賴國の三男。左衞門尉。佐渡に流さる。

サネクニ 實國(仁木) 義實の子。太郎。

サネクニ 實國(高島) 源氏。越中守と稱す。弘治年間近江に住す。

サネクニ 眞國 山城國三條の刀匠。眞利の子。長曆頃の人。

サネクニ 眞國 山城國粟田口の刀匠。弘長文永年間の人。國綱の門。後相摸鎌倉に移住して國綱と改む。或は曰く國延の門。眞淸と同人なりと。

サネクニ 眞國 京都の刀匠。嘉元頃の人。後相摸鎌倉に住す。

サネクニ 眞國 相摸山内の刀匠。建長頃の人。備前三郎の弟。國安の弟子。鎌倉に住す。

サネクニ 眞國 古刀の鍛工。陸奥國の人。或は曰く又伯耆國に居る。元曆前の人と。

サネクニ 眞國 越中國宇多派の刀匠。文正文明年間の人。或は國定の子。永祿頃の人なりと。

サネクニ 眞國 備前國の刀匠。文永年間の人。國安の門。或は曰く國安の子。又眞宗の流。貞永頃の人なりと。

サネクニ 實邦(平井) 實康の子。將監と稱す。

サネコ 實子(藤原) 花園天皇の妃。大納言實明の女。建武五年宣光門院と號し、正平三年尼となる。法名還照智。

サネサキ 實前(藤原) 歌人。中納言。冬季の子。續千載集、新千載集、新拾遺集の作家。

サネサダ 實貞(岡本) 甲州流の兵法家。小幡景憲に招かれ、江戶に出でて顧問となる。

サネサダ 實定(藤原) 公能の子。正二位左大臣に至る。藏書に富み、最も和歌を喜ぶ。薙髮して如圓と號し、建久二年薨ず。後德大寺と稱す。千載、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネサダ 實定 古刀の鍛工。備後國の人。嘉吉年問。三原に住す。

サネサダ 實定(秋山) 光定の子。七郎。

サネサダ 實貞(柳) 實茂の子。太郎。

サネサダ 實貞(青地) 駿河守。近江の住人。弘治頃。

サネサダ 眞定 信濃國の刀匠。寛永年間の人。

サネサダ 眞定 備前國長船の刀匠。久安年間の人。眞則の子。或は曰く保弘の子。又眞利の子。

サネサダ 眞定 備前國の刀匠。承安頃の人。或は曰く眞宗の流。眞忠の子。曆仁頃の人なりと。

サネサダ 眞貞 出雲道永派の刀匠。文龜年間の人。則貞の子。或は曰く文安頃の人。淸則の子と。

サネサダ 眞貞 備前國の刀匠。安元頃の人。長船に住す。有正の子。或は曰く天治頃の人。有行の弟子と。

サネサダ 眞貞 備前國の刀匠。應永年間の人。福岡一文字派。初名貞吉。或は曰く嘉元頃の人と。

サネサダ 眞貞 備中國の刀匠。正平年間の人。片山に住す。

サネサダ 眞貞 備中國の刀匠。應永年間の人。有弘の子。靑江に住す。片山の派。

サネサダ 眞貞(善道) 文章博士。伊與部家守の子。表請して姓を善道宿禰と賜はり、承和中、從四位下に進む。後東宮學士となりしが、皇太子廢せらるる時、備後權守に貶せられ、幾もなく許さる。享年七十八。

サネサト 眞里 備中國靑江の刀匠。天福頃の人。宗恒の子。或は曰く文保頃の人と。

サネサト 眞里 備中國片山の刀匠。永享頃の人。一名貞重。或は曰く佐平の子。長祿頃の人。又直平の子。應永頃の人なりと。

サネシゲ 眞重 備前國長船の刀匠。乾元頃の人。

サネシゲ 眞重 紀伊國入鹿の刀匠。應永年間の人。

サネシゲ 實重(藤原) 公親の子。文保二年太政大臣となり、元德元年薨ず。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネシゲ 實重(平) 昌隆の子。久安年間五位に叙せらる。詞花集及び千載集の作家。

サネシゲ 實重(富樫) 中務少輔と稱す。文明九年將軍義尙に隨ひて六角氏を討つ。

サネシゲ 實重(佐々木) 丹波守。弘治頃の人。

サネシゲ 實重(佐々木) 美作守。天文頃の人。

サネシゲ 實重(土肥) 實平の子。彌太郎。

サネシゲ 實重(齋藤) 實信の子。木田次郎と稱す。壽永年中、木曾義仲と戰ひて死す。

サネシゲ 實重(小野) 實時の子。岡田四郎と稱す。

サネシゲ 實重(吉田) 吉田流の弓術家。出雲と稱す。重賢の子。父の射法を傳へて精妙を極む。佐々木義高の臣。

サネシゲ　實重　但馬國糸井長房派の刀匠。明德年間の人。

サネシゲ　實重　備前國長船小反の刀匠。應永頃の人。實正の同族。一に眞重に作る。

サネシゲ　實重　備前國三原辰房派の刀匠。嘉吉頃の人。

サネシゲ　實重　備後國尾道長房派の刀匠。延德明應頃の人。求は曰く重俊の子。

サネシゲ　實重　紀伊國入鹿の刀匠。正平年間の人。本宗の次子。

サネシゲ　實重　古刀の鍛工。薩摩國の人。谷山波「平の派。

サネシゲ　實鎭　豐後國高田の刀匠。元龜年間の人。

サネシゲ　實茂　**サネナガ**（藤原實長）　一藤原氏。

サネシゲノツマ　實重妻（藤原）　女歌人。內大臣通成の女。玉葉集及び續千載集の作家。

サネスケ　實資（藤原）　右大臣。初字大學丸。齊敏の子。深く三條帝に信賴せらる。永正元年薨ず。後小野宮と稱し、日錄を小右記と曰ふ。拾遺、新古今、新勅撰、續後撰、續古今、續後拾遺、新千載諸集の作家。

サネスケ　實相（多々良）　重光の三男。大內九郎と稱す。

サネスケ　眞助　大和千手院の刀匠。寬元頃の人。

サネスケ　眞助　古刀の鍛工。備前國長船の人。

サネスケノムスメ　眞資女（藤原）　玉葉集の作家。

サネズミ　眞澄　薩摩國の刀匠。寶曆安永年間の人。

サネズミ　實澄　**サネエダ**（三條實枝）

サネズミ　實純（齋藤）　土佐の國學者。谷重遠の門。通稱平兵衛。明君遺事を著す。

サネズミ　實純（後藤）　國學者。本居大平の門。通稱幸之丞。紀伊和歌山の人。

「後拾遺集の作家と

サネスエ　實季（大井田）　實平の子。禰田三郎と稱す。實治二年誅せらる。

サネスエ　實季（秋田）　初名下國。安東太郎と稱す。愛季の子。慶長庶子の亂、關東に與し、七年宗戶城主となる。後故ありて伊勢朝熊に竄せられ、萬治二年卒す。

サネスエ　眞末　古刀の鍛工。大和國の人。正平年間の人。奈良に住し、藤太夫と稱す。

サネスエ　眞末　石見國出羽の刀匠。文安頃の人。

サネスヘ　眞末　備前國長船の刀匠。應永年間の人。求は曰く貞末の子。又貞光の弟と。

サネタカ　實孝（藤原）　中納言。後德大寺公孝の子。通成の女。玉葉集及び續千載集の作家。

サネタカ　實隆（藤原）　中納言。公實の子。新勅撰集の作家。

サネタカ　實隆（三條）　公保の次男。公條の父。內大臣。剃髮して諸國を周遊す。高野參詣日記、雪玉集あり。天文年間薨ず。年八十三。

サネタカ　實隆（安原）　實利の子。矢木左衞門尉と稱す。永正頃の人。

サネタカ　實隆（河合）　景實の子。越前介。稻津新介と稱す。

サネタカ　實高（伊藤）　宗直の三男。春日部左衞門尉と稱す。

サネタカ　實高（多賀）　近江京極高峯の臣。新右衞門尉と稱す。永正頃の人。

サネタカ　實高（上坂）　泰貞の子。兵庫助、後治部大輔と稱す。

サネタカ　實堯（里見）　成義の第三子。初字權七郎。紀伊國入鹿の刀匠。永正年間の人。

サネタカ　實堯（里見）　成義の第三子。初字權七郎。上總宮本城及び久留里城に居る。兄義通の遺兒義豐を佐く。後、義豐長ぜしが國を讓らず。天文二年七月號はれて自殺す。年四十五。

サネタカ　眞高　備前國長船の刀匠。貞應頃の人。

サネタカ　眞高　備前の刀匠。文永寬元頃の人。

サネタカ　眞高　紀伊國入鹿の刀匠。永正頃の人。

サネタカ　眞隆　山城國葉田口の刀匠。弘長年間の人。國延の門。

サネタカ　眞隆　山城國葉田口の刀匠。弘安年間の人。求は曰く嘉元頃の人と。

サネタケ　眞節（上）　雅樂家。狛氏。近興の子。宮內省出仕。明治二十八年一月三十日歿す。年七十一。

サネタダ　實忠（藤原）　公茂の子。後三條內大臣と稱す。續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネタダ　實忠（平）　盛國の子。左近太夫と稱す。建仁四年伊勢關谷を領す。

サネタダ　實忠（大井）　實春の子。二郎。

サネタダ　實忠（齋藤）　宗近の子。左衞門尉と稱す。正元年間の人。

サネタダ　實忠（平井）　實相の子。又三郎。

サネタダ　實忠（眞田）　義忠の子。岡轄左衞門尉と稱す。和田の戰に死す。

サネタダ　實忠　上野國吉光流の刀匠。應永年間。

サネタダ　實忠　備前國の刀匠。寬仁治安年間の人。永包の子。助包の門。

「の子。吉光の流。

サネタダ　實忠　土佐國の刀匠。應永頃の人。吉忠

サネタダ　眞忠　日向國古屋の刀匠。天正年間の人。實正の子。求は曰く應永頃の人と。

サネタダ　眞忠　大和國千手院の刀匠。正和年間の人。求は曰く大井川太夫弘直と同人なりと。又大中川太夫直弘に作ると。

サネタダ　眞忠　備前國の刀匠。仁平頃の人。直則の子。求は曰く眞定の子。康和永久年間の人。又保弘の子。康治頃の人と。

サネタダ　眞忠　備前國重宗流の刀匠。天福頃の人。求は曰く直恒の子。建仁元久年間の人と。

サネタダ　眞忠　備前國畠田の刀匠。文永頃の人。眞守の次子。

サネタダ　眞忠　備前國長船の刀匠。元弘頃の人。一に實忠に作る。

サネタダ　實井（藤原）　業季の子。大納言。風雅集

サネタダ　誠忠（眞野）　國學者。通稱次郎八。名古屋の人。寬政五年本居宣長の門に入る。

サネタダノイモウト　實忠妹（藤原）　女歌人。後撰集の作家。

サネタネ　實胤（千葉）　下總市川城主。胤將の子。上杉氏に屬す。慶正二年足利成氏に攻められて石濱に走る。世亂に倦み、美濃に閑居す。

サネタネ　實胤（大多和）　宗胤の四子。出家す。

サネタネ　實種（風早）　公雄の子。姉小路氏の庶流。中納言。茶抜に通ず。

サネタフ　實任（藤原）　歌人。正二位中納言。公經の子。續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネタメ　實爲（藤原）　吉野朝の臣。季繼の孫。實村の子。內大臣。新業集の作家。

サネチカ　實親（藤原）　公房の子。右大臣。白河、又淨土寺入道と稱す。

サネチカ　實親（逸見）　實欽の子。四郎。

サネチカ　實親（齋藤）　實利の子。安原十郎と稱す。

サネチカ　實親（齋藤）　實重の子。太郎と稱す。父と共に戰死す。

サネチカ　實近　備前國直宗流の刀匠。文永年間の人。國安の門。又眞國の子。永仁正安年間の人と。

サネチカ　眞近　備前國の刀匠。建武前の人。

サネツグ　眞次（松平）　大給の領主。三郎次郎、左近、又縫殿助と改む。眞乘の二男。大阪の役に功あり。寬永四年香頭となる。正保三年九月十四日歿す。年七十。

サネツグ　眞次　備前國長船の刀匠。正平年間の人。

サネツグ　眞次　備中國青江の刀匠。延久頃の人。

サネツグ　眞次　備中國青江の刀匠。建暦頃の人。守次の子。求は曰く貞次の門。次郎と稱す。番鍛冶なりと。又恒次の子。弘安頃の人。又貞次の次子。又延次の子。

サネツグ　眞次　備中國の刀匠。元弘頃の人。又青江の賴次の子。又應永頃の人と。

サネツグ　眞次　備後國尾道の刀匠。文龜年間の人。

サネツグ　眞次　豐後國三原の刀匠。正平年間の人。

サネツグ　眞次（平井）　實綱の次男。三郎。

サネツグ　實次　陸奥古刀の鍛工。寬和頃の人。

サネツグ　實次　備中國の刀匠。大同頃の人。青江

サネツグ　實次　備中國の刀匠。永仁年間の人。又青江に住す。但次の弟。元暦承久年間の人。

サネツグ　實次　紀伊國入鹿の刀匠。正平年間の人。求は曰く建保頃の人。本宗の子。熊野に住すと。又應永頃の人と。

「間の人。

サネツグ　實次　紀伊國熊野入鹿派の刀匠。應永年間の人。

サネツグ　實次　筑前國福岡の刀匠。元祿年間の人。

サネツグ　實繼（藤原）　歌人。公秀の子。後入條內大臣と稱す。新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネツグ　實繼　紀伊國入鹿の刀匠。文明年間の人。

サネツグ　實繼　紀伊國入鹿の刀匠。永正年間の人。

サネツグ　實繼（河合）　實隆の子。新介と稱す。

サネツナ　實綱（藤原）　歌人。實衆の子。式部大輔。永保二年三月二十三日卒す。後拾遺集及び金葉集の作家。

「集の作家。

サネツナ　實綱（藤原）　中納言。公實の子。新勅撰集の作家。正三位。公直の子。續千載

サネツナ　實綱（佐々木）　遠江守と稱す。永祿三年二月卒す。

サネツナ　實綱（佐々木）　實秀の子。太郎。從五位下。永仁五年四月十五日卒す。

「一稱す。

サネツナ　實綱（梅林）　景綱の子。山上七郎二郎と稱す。

サネツナ　實綱（平井）　景能の子。十郎。

サネツナ　實綱（小野澤）　定綱の子。二郎。修理亮と稱す。

サネツナ　實綱（眞田）　實元の子。三郎太郎と稱す。

サネツナ　實綱（杉原）　仲綱の子。掃部之助と稱す。

サネツナ　實綱（一世）　大和國の刀匠。正平頃の人。本宗の子。紀伊國入鹿に住す。求は曰く藤原氏。又實次の子。又正治建暦年間の人。一名實經と。

（二世）　一世の子。紀伊國名草郡に住す。文中頃の人。又應永頃の人ともいふ。

サネツナ　實綱　伯耆國の刀匠。永平年間の人。守綱の子。求は曰く天德頃の人。大原に住し、一に眞種に作る。又眞守の子。承和仁壽年間の人と。

サネツナ　眞綱　石見國古刀の鍛工。元中年間の人。又出羽に住すといふ。

サネツナ　眞綱　備前國長船の刀匠。元暦頃の人。眞忠の子。刑部四郎と稱す。求は曰く永長頃の人。

真定の子。又承安頃の人と。

サネツナ 眞綱　備前國吉井の刀匠。應永年間の人。

求は曰く永享頃の人と。「剛兵衛と稱す。

サネツナ 眞綱　抗前國の刀匠。天文年間の人。金

サネツナ 眞經　備前國の刀匠。建武前の人。又長

綿の派。元應頃の人といふ。

サネツネ 眞恒　備前國の刀匠。承歷頃の人。恒次

サネツネ 眞恒　備前國の刀匠。元歷前の人。或は

の子。求は曰く一名經次と。又近包の子。長歷頃

曰く仁平頃の人。直宗の族。又直宗の子。又嘉應

の人と。

頃の人。直家の次子と。「守近の門。眞貞の子。

サネツネ 眞恒　備前國畠田の刀匠。天福頃の人。

サネツネ 眞恒　備中古刀の鍛工。嘉元頃の人。

サネツネ 眞恒　豊後國佐伯三池流の刀匠。弘安年

間の人。求は曰く治安頃の人と。

サネツネ 眞當(和田)宗貫の子。田井太郎と稱す。

サネツネ 眞經(藤原)道家の子。關白。弘安七年

サネツネ 眞經　備前國の刀匠。建暦頃の人。長船の流と。

創製。名を行作と改む。辭いて免ず。家を一條と號

す。續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續古今、續

後拾遺、風雅、新千載、新拾遺諸集の作家。

サネツネ 眞經(山田)實村の子。和南三郎。又大

炊介と稱す。

サホツネ 實經　備前國の刀匠。鎌倉後治

たり。求は曰く眞則の子。元永頃の人。長船の流と。

サネツネ 實經　備前一文字派の刀匠。元應頃の人。

サネツネ 實經　美作國の刀匠。文應頃の人。備前

の實經の子。求は曰く承元中の番鍛冶二十四人の

一。又備前に住す。朝忠の弟。又應長頃の人。同名

二世に及ぶと。

サネツネ 實經　紀伊國入鹿の刀匠。眞應頃の人。

サネツネノムスメ 實經女(藤原)女歌人。玉葉

集及び新續古今集の作家。

サネツミ 實積(風早)姉小路氏の臨況。參議。入

道して爲空と號す。寶暦中薨ず。

サネツム 實萬(三條)勤王家。公修の子。實美の

父。光格、仁孝、孝明の三帝に歴仕し、内大臣に至り

しが、睦年幕府の譴を受けて、閉居し、安政六年十月

六日薨ず。年五十八。贈正一位。

サネトキ 實時(藤原)公満の子。太政大臣。應永

十一年薨ず。野宮と稱す。

サネトキ 實時(藤原)歌人。參議。公薗の子。新

後撰集及び玉葉集の作家。

サネトキ 實時(小野)宗實の子。次郎。藏人。

サネトキ 實時(河合)平泉寺の長吏齊明の子。小

太郎と稱す。

サネトキ 實時(南部)實光の子。又二郎。

サネトキ 實時(爺澤)北條氏の族。書籍を愛し、文

庫を武藏金澤に營む。

サネトキ 實時　平文師。正和四年朝命を奉じて、近

江國日吉神社の遷宮に從事す。

サネトシ 實俊(藤原)公宗の子。後常盤井右大臣

と稱す。新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の

作家。

サネトシ 實俊(藤原)歌人。參議。公相の子。新

後撰、玉葉、續千載集の諸作家。

サネトシ 實俊(平)平判官と稱す。保元中の人。

サネトシ 實俊(源)藏人所の雜色。師光の子。

サネトシ 實俊(壬生)惟繼の子。中宮遷。

サネトシ 實俊(山岡)近江大日山の城主。六角家

の旗下。美作守と稱す。弘治頃の人。

サネトシ 實俊(岸下)大炊助俊綱の子。

サネトシ 實俊(柳)實泰の子。彌二郎。

サネトシ 實利(橋)歌人。天祿年間四位に叙せら

「す。

後撰集の作家。

サネトシ 實利(齋藤)實盛の子。安原武者所と稱

サネトシ 眞利(伊岐)槍術家。御生侶屬の門。後

鐵槍を工夫して一流を創む。信長、秀吉、家康、及び

宇喜田秀家に仕ふ。秀家遠後池田氏に預けられ、備

前に死す。

サネトシ 眞利　山城三條の刀匠。長久頃の人。宗

近の子。求は曰く粟弘安仁年間の人。又宗近の門。

又宗利の門。本國綿前。油小路に住す。

サネトシ 眞利　山城國粟田口派の刀匠。建久年間

の人。求は曰く五條坊門に住す。國延の門と。

サネトシ 眞利　(一世)備前國長岡の刀匠。文暦

頃の人。則房の門。後備中國片山に住す。求は曰

く初め助房の門。又助房の第六子。又則房の養子。

右馬允則房と改むと。(二世)初代の子。初名眞

則。備前國長船に住す。文永年間の人。又天授頃の

人ともいふ。「景行の子。

サネトシ 眞利　備前國長岡の刀匠。永仁頃の人。

サネトシ 眞利　備前國長船の刀匠。興國頃の人。

サネトシ 眞利　備中國片山の刀匠。文觀年間の人。

サネトシノハハ 實俊母　大納言資名の女。新千

載集の作家。

サネトホ 實遠(藤原)從三位。公冬の子。新後撰、

新千載、新拾遺諸集の作家。

サネトホ 實遠(藤原)歌人。中納言。季雄の子。

新後拾遺集及び新續古今集の作家。

サネトホ 實遠(西園寺)西園寺家第十五世の

主。公名の子。左大臣。後竹林院と號し、書を能く

す。明應四年十二月薨ず。年六十二。

サネトホ 實遠(後藤)實倍の子。孫三郎。

サネトホ 實遠(高屋)爲房の子。二郎。

サネトホ 實遠(長井)助宗の子。左馬頭。

サネトホ 實遠(粟田)實家の子。又二郎。

サネトホ 實遠(佐々木)堀江河内守と稱す。弘

安三年六月殁す。

サネトミ 實美(三條)維新の元勳。正一位。公爵。

實萬の子。文久二年勅を奉じて攘夷の實行を期す。

三年九月朝議遂に變ぜしかば、同志六卿と共に長門

に奔る。慶應三年赦されて議定となり、明治元年右

大臣、三年太政大臣に進む。十八年内閣の制改まる

に及び、退きて内大臣となる。明治二十四年二月十

九日薨ず。年五十六。

サネトモ 實躬(源)綠倉第三代の征夷大將軍。賴

朝の次子。小字千幡。右大臣に進む。承久元年拜

賀の際を鶴岡八幡宮に行ひ、歸途公曉に殺さる。年

二十八。和歌を藤原定家に學ぶ。家集に、金槐集あ

り。新勅撰、續拾遺、續古今、續拾遺、玉葉、續

千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、

新續古今諸集の作家。

サネトモ 眞友　石見國長濱の刀匠。應永年間の人。

サネナ 實名(藤原)公儀の子。大納言。風雅、新拾

遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネナ 實名(藤原)公時の男。大納言。新續古今

集の作家。

サネナガ 實永(西園寺)公永の子。右大臣。慶

「喜院と號す。

サネナガ 實永(齋藤)實茂の子。兵部丞。

サネナガ 實長(藤原)公行の子。正二位大納言。千

載集の作家。

サネナガ 實長(藤原)公重の子。本名實茂。中納

言。正平七年河内天野に卒す。年二十三。

サネナガ 實長(平井)實次の三男。三郎。

サネナガ 實長(土屋)實光の子。平三郎。

サネナガ 實長(南部)光行の三男。小三郎。

サネナガ 實長(小野澤)時仲の子。彦二郎。

サネナガ 眞長　越中國石谷の流。應永頃の人と。

サネナガ 眞長　越後國の刀匠。應永年間の人。

(初代)備前國長船の刀匠。光忠

サネナガ 眞長　備中國古刀の鍛工。萬壽莊に住し、

の子。文永弘安年間の人。或は曰く紀次郎、又平九

郎と稱す。「賢行の子。順慶の門人なりと。(二世)正安正和年

間の人。

サネナガ 眞長　備前國長船の刀匠。天正年間の人。

サネナガ 眞長　備中國古刀の鍛工。萬壽莊に住し、

新左衛門尉と稱す。延慶頃の人。同名二世に及ぶ。

サネナガ 眞長(和氣)シュンラン(牛井春蘭)

日向國の刀匠。永祿年間の人。實昌

の子。

サネナガ 眞永　備前國長船の刀匠。應永頃の人と。

サネナガ 眞永　筑後國大石の刀匠。大永年間の人。

サネナガ 實尚(齋藤)實重の子。木田次郎と稱す。

サネナガ 實直(齋藤)實遠の子。實盛の父。藤太

と稱す。

サネナガ 實直(伊藤)守隆の子。兵三。

サネナガ 實成(藤原)公季の子。中納言。太宰權

帥。寛德元年卒す。閑院帥と稱す。

サネナリ 實成(藤堂)善兵衛尉と稱す。天文頃の

人。

サネナリ 實成(潮田)清景の子。六郎。

サネナリ 實成(坂上)佐々木氏。主稅介と稱す。

サネナリ 實成　山城粟田口の刀匠。永仁頃の人。

サネナリ 實成　備前國の刀匠。友成の父。延永中、

天皇の御劍を作る。

サネナリ 實就　紀伊國入鹿の刀匠。應永年間の人。

サネナリ 實成　クワクダウ(山田蟆堂)

サネナリ 實齋(小坂)美濃國關の人。通稱宗十郎、

北叢と號し、學を好み、弓術及び圍碁を善くす。嘉

永五年歿す。年七十七。

サネナリ 實業(清水)歌人。三條實條の孫。清水

谷公榮の養嗣。權大納言。實永六年歿す。年六十二。

サネナル 實愛(嵯峨)正親町三條實義の子。王

政復古に盡瘁し、刑部卿、大納言、證宮、明宮の御用

掛となる。明治四十二年十月二十日薨ず。年九十四。

サネノブ 實信(源)爲朝の子。上西門の藏人たり。

サネノブ 實信(宮田)公實の子。左衛門尉。後白

河院の武者所の士。

サネノブ 實信(齋藤)勘宗の子。武者所の士。承

サネノブ 實信(村上)惟信の子。四郎。

サネノブ 實信(曾禰)善阿彌陀の子。

サネノブ 實信(飯田)爲實の子。小太郎。

サネノブ 實信(寄合)惟信の子。四郎。

サネノブ 實信(高屋)實忠の子。源二。

サネノブ 實信(平井)實長の子。彦二郎。

サネノブ 實信(依田)爲實の子。二郎太夫。

サネノブ 眞信　備中國青江の刀匠。建武前の人。一

名貞里。

サネノブ 眞信　備後國尾道派の刀匠。明應年間の

サネノブ 眞延　薩摩國派平の刀匠。正平年間の人。

サネノブ 眞信(青山)左近太夫と稱す。近江六角

氏の臣下。弘治頃の人。

サネノブノハハ 實信母(藤原)女歌人。金葉集

の作家。

サネノミヤ 眞宮　徳川吉宗の室。伏見宮文仁親王の女。寶永三年三月入輿、七年六月薨。寛徳院と謚す。

サネノリ 實範(木戸)　歌人。三條公條に學ぶ。

サネノリ 實範(近藤)　頼綱の子。公雄の子。大納言。新後撰、玉葉、續千載、續後撰、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネノリ 實教(藤原)　歌人。公雄の子。淡路守。

サネノリ 實教(三條)　實光の子。又三郎。

サネノリ 眞乘(松平)　親乘の子。小字源二郎。左近太夫と稱す。徳川家康に仕ふ。天正十年三月卒す。年三十。(一に三十七)。

サネノリ 眞則　山城國三條の刀匠。長久頃の人。宗伯善國の刀匠。保元年間の人。

サネノリ 眞則　伯耆國の刀匠。應永後の人。

サネノリ 眞則　出雲國の刀匠。正平年間の人。

サネノリ 眞則　備前國の刀匠。永久年間の人。眞恒の子。波は曰く承保頃の人。村守の子。又眞利と同人なりと。

サネノリ 眞則　備前國の刀匠。承安安元年間の人。波は曰く有行の子。大治頃の人。又康和頃の人。有行の門と。

サネノリ 眞則　〔初世〕備前國重宗派の刀匠。文暦嘉禎年間の人。親依の次子。〔二世〕初代の子。弘長文永年間の人。

サネノリ 眞則　備前國長船の刀匠。弘安年間の人。

サネノリ 眞則　備前國長船の刀匠。元應頃の人。

サネノリ 眞則　「貮則の子。

サネノリ 眞則　備前國吉井の刀匠。正平年間の人。

サネノリ 眞則　備前國長船の刀匠。正平頃の人。

サネノリ 眞則　備中國古刀の鍛工。應永年間の人。片山に住す。

サネノリ 眞則　古刀の鍛工。出雲道永派。

サネハル 實範(西園寺)　公益の子。左大臣。薨去十三年正月十一日

サネハル 實春(伊藤)　實直の子。三郎左衛門。

サネハル 實治(源)　備前守。六角氏に屬す。

サネヒサ 實久(清水谷)　公知の子。西園寺家の納言。明應七年出家、奉いて薨ず。年六十七。

サネヒサ 實久(徳大寺)　花山院定熙の子。公維の養子。從二位右近衛少將。元和二年薨ず。

サネヒサ 實久(滋越)　荅師。三昌の弟。一旦と號す。文祿三年桃山百間廊下の金燈籠を造る。慶長八年豊臣氏の命に依りて、丈六の佛像を造る。慶長十四年豊臣氏の滅亡後、家康の命に依りて、方廣寺大佛殿の再興に從事す。元和元年十一月薨ず。今出川と稱す。玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネヒサ 實久(水原)　眞田義忠の三男。千三郎。豊後國の鍛工。永祿年間の人。

サネヒサ 實久　豊後國の鍛工。天文年間の人。實行の門と。

サネヒサ 實久　薩摩國波平の古刀の鍛工。正平年間の人。

サネヒサ 實久　出雲國の刀匠。明應年間の人。

サネヒサ 實久　日向國の刀匠。天文年間の人。實正の弟。藤原氏。

サネヒサ 實久　薩摩國の刀匠。慶長年間の人。

サネヒサ 實久(浪越)　豊後國の刀匠。天正年間の人。

サネヒサ 實衡　豊後國の刀匠。天正年間の人。

サネヒサ 實衡(源)　歌人。公衡の子。内大臣。嘉暦元年十一月薨ず。今出川と稱す。玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネヒサノムスメ 實衡女(藤原)　女歌人。風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネヒロ 實熙(洞院)　藤原氏。初名實博。左大臣從一位に陞る。長禄元年致仕、薨去して元觀と號す。東山左府と稱す。朝儀に熟し、古今に通ず。拾芥抄、名目抄の著あり。

サネヒロ 實熙(藤原)　四位。風雅集の作家。

サネヒロ 實廣(齋藤)　實盛の子。勢多と稱す。

サネヒロ 實弘(山際)　國學者。通稱七右衛門。伊勢松坂の人。本居春庭及び大平の門。

サネヒロ 眞廣　相模國の刀匠。天文年間の人。

サネヒロ 眞弘　石見國の刀匠。享祿天文年間の人。

サネヒデ 實秀　備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サネヒデ 實秀　山城國粟田口の刀匠。寛元年間。

サネヒデ 實秀　備前國長船の刀匠。建武年間の人。

サネヒデ 實平(土肥)　次郎と稱す。源頼朝に信任せられ、西海の軍事を管す。平氏の滅後、椙原景時と共に播磨美作三備の追補使となる。

サネヒラ 實平(春日部)　實高の子。大和守。實治頃の人。

サネヒラ 眞平　古刀の鍛工。備中國の人。波は曰く正恒の流。貞應年間の人。又國末の子。左衛門尉と稱す。正平年間の人。

サネヒラ 眞平　備中國片山の刀匠。眞行の門。左衛門尉と稱す。波は曰く眞則の子。應永頃の人と。

サネヒラ 眞衡　豊後國の刀匠。天正年間の人。

サネヒラ 實衡(源)　歌人。公衡の子。内大臣。嘉暦元年十一月薨ず。今出川と稱す。玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネヒラノムスメ 實衡女(藤原)　女歌人。風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネヒデ 實秀(大胡)　三郎。壽永頃の人。

サネヒデ 實秀　備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サネヒデ 實秀　山城國粟田口の刀匠。寛元年間。

サネヒデ 實秀　備前國長船の刀匠。建武年間の人。

サネヒデ 實平(土肥)　次郎と稱す。源頼朝に信任せられ、西海の軍事を管す。平氏の滅後、椙原景時と共に播磨美作三備の追補使となる。

サネヒラ 實平(春日部)　實高の子。大和守。實治頃の人。

サネヒラ 眞平　古刀の鍛工。備中國の人。波は曰く正恒の流。貞應年間の人。又國末の子。左衛門尉と稱す。正平年間の人。

サネヒラ 眞平　備中國片山の刀匠。眞行の門。左衛門尉と稱す。波は曰く眞則の子。應永頃の人と。

サネヒラ 眞衡　豊後國の刀匠。天正年間の人。

サネヒラ 實衡(源)　歌人。公衡の子。内大臣。嘉暦元年十一月薨ず。今出川と稱す。玉葉、續千載、續後拾遺、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネヒラノムスメ 實衡女(藤原)　女歌人。風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネヒロ 實熙(洞院)　藤原氏。初名實博。左大臣從一位に陞る。長禄元年致仕、薨去して元觀と號す。東山左府と稱す。朝儀に熟し、古今に通ず。拾芥抄、名目抄の著あり。

サネヒロ 實熙(藤原)　四位。風雅集の作家。

サネヒロ 實廣(齋藤)　實盛の子。勢多と稱す。

サネヒロ 實弘(山際)　國學者。通稱七右衛門。伊勢松坂の人。本居春庭及び大平の門。

サネヒロ 眞廣　相模國の刀匠。天文年間の人。

サネヒロ 眞弘　石見國の刀匠。享祿天文年間の人。

サネヒロ 眞弘　古刀の鍛工。紀伊國入鹿の人。永正年間の人。

サネフサ 實房(藤原)　公敎の子。左大臣。嘉祿元年薨ず。三條と號す。千載、新古今、新勅撰、續古今、新勅撰、續古今、新拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、新續古今諸集の作家。

サネフサ 實房(野上)　國學者。通稱雅樂。石見上市の人。寛政二年本居宣長の門に入る。

サネフサ 眞房　陸奥國鎧草の刀匠。治安頃の人。

サネフサ 眞房　備前國重宗流の刀匠。承元年間の番鍛冶。波は曰く眞恒の子。又眞定の子。建治頃の人と。

サネフサ 眞房　備前國長船の刀匠。元應建武年間

サネフミ 實文(藤原)　従三位。公藤の子。玉葉集の作家。

サネブミ 實文(河鯖)　子爵。三條實美の弟。錦織

十三年六月十六日薨ず。年六十六。

サネフユ 實冬(藤原)　公忠の子。應永九年太政大臣に任ず。後三條と稱す。新續古今集の作家。

サネフユ 實冬(藤原)　公光の子。大納言。續拾遺、新後撰、續千載、新續古今諸集の作家。

サネフユ 實冬(馬淵)　丹後守。天文十八年卒す。

サネフユ 實冬(永原)　大炊助と稱す。近江六角氏の家臣。弘治頃の人。

サネホ 眞穗(松本)　砲兵大尉。廣島縣出身。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月旅順に傷死す。

サネマ 實馬(小川)　騎兵少尉。高知縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年九月遼陽に戰死す。

サネマサ 實政(大見)　伊豆の豪族。源頼朝に從ひて奥州を征し、藤原泰衡の幕大河兼任に殺さる。

サネマサ 實政(藤原)　寛治二年八幡宮の神輿を射し罪に依り、伊豆に流さる。

サネマサ 實政(藤原)　歌人。參議。貴族の子。後拾遺集及び續後撰集の作家。

サネマサ 實政(北條)　實時の三男。上總介に任ず。元寇の役、鎭西探題に補して功あり。正安四年五月十八日卒す。年五十四。

サネマサ 實政(池田)　丹波守。天文二十三年八月卒す。

サネマサ 實政(駒井)　志摩守。天文十三年卒す。

サネマサ 實政(南部)　時實の子。彦二郎。

サネマサ 實雅(藤原)　公雅の子。青蓮花院内大臣と稱す。新續古今集の作家。

サネマサ 實雅(三條)　内大臣。應仁元年薨ず。

サネマサ 實雅(佐々木)　泰通の二男。少納言房と稱す。寶暦頃の人。

サネマサ 實政(高井)　歌人。冷泉家の門。伊豆守

サネマサ 眞政　備前古刀の鍛工。波は曰く延元頃に住す。又眞正に作ると。

サネマサ 眞政　武藏國の刀匠。明暦年間の人。藤原氏。石道氏。

サネマサ 眞政　備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サネマサ 眞政　杷伊國入鹿の刀匠。永祿年間の人。

サネマサ 眞政　日向國の刀匠。永祿年間の人。實昌の子。

サネマサ 實昌　日向國の刀匠。天文年間の人。波は曰く文安頃の人。實正に作ると。

サネマス 實益(土屋)　實政の子。平二郎。

サネマロ 信滿(山根)　國學者。通稱民部。石見上市八幡社の神主。寛政二年本居宣長の門に入る。

サネミ 實躬(藤原)　公實の子。大納言。新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

サネミチ 實通(徳大寺)　公胤の子。權大納言參右近衛大將に至る。天正十四年京師を遁れて、越中に往き、富山高歳に依りて、放生津城に據る。長尾爲景に攻められて死す。

サネミツ 眞光(小室)　忠兼の子。壽永年中、木曾光房の子。伯耆守。

サネミツ 眞光(杉原)　歌人。三條西家の門。通稱市三郎。慶長の新參。實歷頃の人。

サネミツ 眞光(神谷)　直心流劍術の祖。通稱文左衛門。傳心齋と號す。小笠原長治の門。

サネミツ 眞光　大和國勝の刀匠。正平年間の人。波は曰く千手院の一派。勝に住すと。

サネミツ 眞光　大和國手搔の刀匠。正平年間の人。

サネミツ 眞光　大和國塔本の刀匠。永正年間の人。

サネミツ 眞光　美濃國關の刀匠。正平年間の人。

サネミツ 眞光　伯耆國の刀匠。元暦前の人。

サネミツ 眞光　伯耆國の刀匠。天正年間の人。

サネミツ 眞光　備前國福岡一文字派の刀匠。宗長の第三子。承久建長年間の人。

サネミツ 眞光　備前國長船の刀匠。弘安正和年間の人。初代長光の次子。波は曰く光忠の次子。

サネミツ 眞光　備前國福岡一文字派の刀匠。文保延元間の人。長船初代長光の門。平氏。左近將監と稱す。「家の門」

サネミツ 眞光　備前國長船の刀匠。長享頃の人。光忠の人。新左衛門と稱す。

サネミツ 眞光　備前國長船の刀匠。應永文安年間の人。

サネミツ 眞光(藤原)　備前國長船の刀匠。長祿頃の人。有信の子。中納言。金葉集の作家。

サネミツ 實躬(安藝)　土佐の士。通稱太郎。實康

の子。屋島の役、平軟經を執へんとし、相抱き海に投じて死す。

サネミツ 實光(南部) 南部氏二世の主。永久の役、北條泰時に從ひて、宇治川に戰ふ。建長六年卒す。

サネミツ 實光(土肥) 源頼丸龜藩の志士。孟輝と稱す。維新の際、藩侯に勸め、兵を出して京都に會せしむ。又卒先して殿藩武裝の擧を決行す。後贈從二位に叙せらる。

サネミツ 實光(安保) 武藏の諸黨。通稱次郎。治承四年源頼朝に從ふ。

サネミツ 實光(源) 義光の次男。二郎。

サネミツ 實光(伊藤) 滿實の子。品川三郎と稱す。

サネミツ 實光(岡崎) 實盛の子。彦三郎。

サネミツ 實光(林) 光綱の子。藤次郎。

サネミツ 實光(齋藤) 助遠の子。中村次郎と稱す。

サネミツ 實光(田井) 光義の子。三郎。

サネミツ 實光(山上) 七郎實綱の子。又二郎。

サネミツ 實光(久下) 直光の子。次郎と稱す。治承中、源頼朝に屬す。

サネミツ 實光 備前長船の刀匠。延德頃の人。

サネミツ 實滿(奥) 義盛の子。三郎二郎と稱す。

サネミネ 實岑(押小路) 一に公音といふ。本名公起。權大納言正二位に至る。寛延三年薨ず。年七十二。

サネムネ 實宗(藤原) 西園寺公道の子。内大臣。出家す。坊號、又大宮と稱す。千載集及び新古今集の作家。

サネムネ 眞宗 山城國の刀匠。永元頃の人。

サネムネ 眞宗 山城國の刀匠。康元頃の人。或は曰く粟田口に住す。又眞國の刀匠。正應頃の人とも。

サネムネ 眞宗 大和國千手院の刀匠。建長頃の人。家譜の子。又眞德頃に同名の人あり。

サネムネ 眞宗 大和國千手院の刀匠。永仁年間の人。信眞の子。直宗と同人なりと。

サネムネ 眞宗 大和國千手院の刀匠。正長永享年間の人。

サネムネ 眞宗 伯耆國の刀匠。寛和年間の人。眞「稱の子。

サネムネ 眞宗 備前國の刀匠。元暦前の人。

サネムネ 眞宗 備前國福岡の刀匠。或は曰く直宗の子。正治建保頃の人。又福岡則宗と同人なりと。

サネムネ 眞宗 古刀の鍛工。備前國長船の人。

サネムネ 眞宗 (一世) 播磨國姫路の刀匠。享保年間の人。黒田正家四世の孫。太郎左衛門と稱す。

サネムラ 實村(入山) 基時の子。太郎。「く死す。

サネムラ 實村(高井) 實茂の子。太郎。父と同じ

サネムラ 實村(須田) 盛泰の子。又太郎。

サネムラ 實村(平井) 實相の二男。次郎。

サネムラ 實望(藤原) 内大臣。後慈光院と號す。出家して盛空と稱し、享禄三年薨ず。

サネモチ 實茂(柳) 實景の子。四郎。

サネモチ 實茂(和田) 高茂の子。四郎兵衛尉と稱す。三浦義村に與し、實治元年自殺す。

サネモト 實基(後藤) 藤原秀郷の裔。右兵衛尉と稱す。平治の亂、源義平に屬し、後源義經に從ひて義仲を攻め、又屋島の戰に功あり。「作家。

サネモト 實基(源) 左中將。經房の子。千載集の作家。

サネモト 實基(藤原) 公績の子。德大寺太政大臣、又水本太政大臣といふ。續古今集及び續後拾遺集の作家。

サネモト 實元(伊藤) 實直の子。五郎。

サネモト 實元 日向國の刀匠。天文永祿年間の人。實晶の第。藤原氏。

サネモト 眞元 大和國の刀匠。建武年間の人。或は曰く千手院派。元弘頃の人と。

サネモト 眞元 能登國珠洲郡の刀匠。應永年間の人。又石見國出羽にも住す。

サネモト 眞元 古刀の鍛工。越中國の人。或は曰く鎌倉都に住す。本國石見。正利の門。又能登の眞元と同人なりと。

サネモト ノムスメ 實基女(藤原) 續拾遺集の作家。

サネモリ 眞守 三河國小原の刀匠。天文年間の人。又文龜頃ともいふ。「銘の子。

サネモリ 眞守 伯耆國六原の刀匠。寛祥頃の人。安

サネモリ 眞守 伯耆國の刀匠。眞綱を見よ。

サネモリ 眞守 伯耆國稲津の刀匠。天保弘化年間の人。

サネモリ 眞守 備前國長船の刀匠。正應年間の人。家助の子。右馬允と稱す。或は曰く島田の刀匠守近の子。又守家の子。一名光吉。又島田彌次郎と稱す。

サネモリ 眞守 備中國片山の刀匠。正治年間の人。

サネモリ 眞守 備中國青江の刀匠。承元年間の人。則高の門。守遠の子。

サネモリ 眞守 豊後國高田の刀匠。文明年間の人。

サネモリ 眞森 伯耆國の刀匠。文化年間の人。初名眞守。廣瀬助七と稱す。

サネモリ 眞盛(大宮) 面打。井關家重の門。大和と稱し、入道して空入と號す。もと奈良の社人。江戸に來り、寛文十二年歿す。

サネモリ 眞盛 古刀の鍛工。豊後國高田の人。眞守と同人なりともいふ。

サネモリ 實盛 備前國長船の刀匠。應永年間の人。或は曰く天文頃の人と。

サネモリ 實盛(藤原) 公俊の子。大納言。新撰古今集の作家。

サネモリ 實盛(齋藤) 世々越前に居りしが、實盛の時、武藏長井に遷る。源義朝に仕へ、後、平宗盛に從ひ、篠原の役、手塚光盛に殺さる。年七十三。

サネモリ 實盛(佐々木) 實綱の二男。次郎。

サネモリ 實盛(伊東) 實景の子。左衛門。

サネモリ 實盛(柳) 實貞の子。孫六。「の作家。

サネモリ 實守(藤原) 中納言。公能の子。千載集

サネモリ 實守 三河國小河の刀匠。慶長頃の人。

サネモリ 實守 備前國の刀匠。正應年間の人。或は曰く行利の子。又行利の弟。又眞守と同人と。

サネモリ 實守 古刀の鍛工。紀伊國入鹿の人。或は應安年間の人といふ。

サネモリ 實守 豊後國の刀匠。永享頃の人。

サネモリ 實守 豊後國の刀匠。明應年間の人。時行の子。正平頃の人。

サネモリ 實守 豊後國の刀匠。天文年間の人。

サネヤス 實泰(藤原) 公守の子。後山本左大臣と稱す。嘉暦二年薨ず。新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺諸集の作家。

サネヤス 實泰(山田) 時實の子。次郎。

サネヤス 實泰(北條) 義時の五男。小字五郎。龜ケ谷と稱す。金澤氏の祖。

サネヤス 實泰(田井) 源氏。眞實の子。

サネヤス 實泰(佐々木) 實綱の子。永仁頃の人。

サネヤス 實泰(田井) 實茂の子。四郎。

サネヤス 實康(齋藤) 實信の子。八郎。

サネヤス 實康(平井) 景實の子。十郎。兵庫頭。

サネヤス 實安 古刀の鍛工。薩摩國谷山派平の一派。正平年間の人。又安綱の弟。寛元寶治頃の人。一名光守と。

サネヤス 眞安 薩摩國の刀匠。永久年間の人。

サネヤス 眞安 古刀の鍛工。薩摩國の人。藤原氏。

サネユキ 實行 備後國尾道の刀匠。永正年間の人。

サネユキ 實行 紀伊國入鹿の刀匠。應永年間の人。

サネユキ 實行 豊後國島田の刀匠。永享頃の人。

サネユキ 實行 豊後國高田の刀匠。寛文天和年間の人。

サネユキ 實行(大見) 源五郎。天文頃の人。「す。

サネユキ 實行(平井) 實邦の子。小檢校二郎と稱す。

サネユキ 實行 美濃國關の刀匠。正平年間の人。

サネユキ 實行 美作國の刀匠。元享頃の人。忠貞の子。一名貞經。石貫に住す。

サネユキ 實行 備後國尾道の刀匠。永正年間の人。

サネユキ 實行 紀伊國入鹿の刀匠。應永年間の人。

サネユキ 實行 豊後國島田の人と。

サネユキ 實行 豊後國高田の刀匠。寛文天和年間の人。

サネユキ 實行 古刀の鍛工。薩摩國谷山派平の人。正平年間の人。又實安の子。建長頃の人と。

サネユキ 實幸 豊後國高田の刀匠。寛文天和年間の人。藤原氏。

サネユキ 眞行 備前國福岡一文字派の刀匠。貞應年間の人。或は曰く宗長の次子。建長頃の人。

サネユキ 眞行 備前國の刀匠。元弘年間の人。或は曰く長船の一派。西大寺行長の門。又行長の子と。

サネユキ 眞行 讃前國長船の刀匠。應永年間の人。或は曰く則恒の子。永享頃の人。一名貞行と。

サネユキ 眞行 備中國青江の刀匠。承安頃の人。備前眞忠の子。初名直綱。刑部四郎と稱し、後眞行と改む。

サネユキ 眞行 古刀の鍛工。備中の人。瀨尾氏、刑部丞と稱す。或は曰く片山派。正平年間の人。又則高の子。佐平の門。

サネユキ 眞行 豊後國高田の刀匠。延寶年間の人。藤原氏。

サネユキ 眞行 備後國三原派の刀匠。永正年間の人。

サネユキ 眞行 美濃國關の刀匠。正平年間の人。

サネユキ 眞行 美濃國關の刀匠。承應頃の人。

サネユキ 眞之(細川) 持隆の子。播部頭と稱す。天正十年十河存保に攻められて死す。

サネヨ 實世(藤原) 公實の子。後醍醐天皇に仕へ、義貞と皇太子を奉じて越前に赴く。後村上帝の位に即くや、隆實と共に機務を參決す。左大臣從一位に陞る。正平十三年薨ず。

サネヨシ 實世 古刀の鍛工。紀伊國入鹿の人。

サネヨシ 實世 古刀の鍛工。筑後國三池の人。

サネヨシ 實世 新刀の鍛工。日向國吉屋の人。

サネヨシ 實世 古刀の鍛工。薩摩國派平の人。天正年間の人。

サネヨシ 實吉 日向國の刀匠。應永嘉吉頃の人。

サネヨシ 實吉 備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サネヨシ 實吉 播磨國明石の刀匠。寛文年間の人。

サネヨシ 實可 紀伊國入鹿の刀匠。文龜年間の人。

サネヨシ 實善 古刀の鍛工。紀伊國入鹿の人。

サネヨシ 實能(藤原) 公實の子。近衛後白河二帝に仕へ、寵髪して眞理と云

サネヨシ(三條實枝)

ふ。鐘大寺、又大炊御門と稱す。金葉、詞花、千載、新古今、續後撰、續古今、續拾遺、新千載諸集の作家。

サネヨシ　實能(伊藤)　實直の三男。堪六郎と稱す。

サネヨシ　實能　山城國の刀匠。文明年間の人。了戒派。

サネヨシ　實義(町田)　歩兵大尉。鹿兒島の人。日淸戰役に從ひ、明治二十七年九月十九日平壤に負傷して死す。年四十三。

サネヨシ　實義　ジユンジラウ(石川潤次郎)　備後國三谷の刀匠。應永年間の人。

サネヨシ　實吉　伯耆國大原の刀匠。正平年間の人。或は曰く時眞の子。弘長頃の人。成近の子。

サネヨシ　眞吉　備前國の刀匠。承元年間の人。長船の人。有行の子。或は曰く眞則の兄。承德頃の人と。

サネヨシ　眞吉　〔一世〕　備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サネヨシ　眞吉　〔二世〕　備前國福岡の刀匠。建長年間の人。勘吉の子。或は曰く左助と稱す。〔三世〕正應年間の人。

サネヨシ　眞令(蒲生)　初め藩生氏郷に仕へ、蒲山事內と稱す。後石田三成に從ひて眞令と改む。關原の役に戰死す。

サネヨシ　眞能　豐後國の刀匠。應永正長年間の人。

サネヨシ　眞能　越中國の刀匠。元祿年間の人。

サネヨシ　誠美(石原)　國學者。本居大平の門。通稱久甫。石見濱田の人。

サネヨリ　眞依　備前の刀匠。大治年間の人。或は曰く永富の子。承歷年間の人と。

サネヨリ　眞依　備前國長船の刀匠。應永年間の人。

サネヨリ　實賴(藤原)　忠平の長子。初名牛養、治泉帝の朝、關白太政大臣に任ず。圓融帝の時、攝政たり。天祿元年薨ず。尾張公に追封し、潤溝と謚す。世に小野宮殿と稱す。水心記の著あり。後撰、拾遺、新古今、玉葉、新千載、新拾遺、新後撰、續古今、新勅撰、續後撰、續拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新續古今諸集の作家。

サネヨリ　實賴(大森)　小田原城主。氏賴の子。筑前守、陸奧守、又式部少輔と稱す。不二庵と號す。明應四年北條早雲に襲はれ、眞田城に遁る。抗戰三年、城陷りて自殺す。

サネヨリ　實賴(入山)　椎基の子。九郎。「の作家。

サネヨリノムス　實賴女(藤原)　女歌人。玉葉集に歷仕し、左大臣に遷る。文永十年薨ず。山階と稱す。積後撰、積古今、新拾遺、新後撰、玉葉、積千載、積後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今集の作家。

サネヲ　眞雄(篠原)　歩兵中尉。山梨縣出身。明治三十七八年戰役に從軍中、明治三十七年八月盛京省小東溝に戰死す。

サノスケ　佐之助(土井)　勤王の志士。土佐の人。名は金英。文久三年國を脫し、中山忠光の擧に加り、津藩に捕へられ、元治元年十二月獄中に斬らる。明治三十一年贈正五位。

サノスケ　佐之介　リサブラウ(尾上鯉三郎)　「下に叙せらる。

サハ　澤　女優人。常姫の門。

サバ　鯖(六人部)　萬葉歌人。天平寶字中、外從五位下に叙せらる。

サハイチ　澤一(大神)　針灸。筑前佐原郡の盲人。學を講ず。享保十年十二月歿す。年四十二。

サハジ　澤次(關谷)　歩兵少尉。栃木縣出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十八年三月盛京省大檢樹堡に戰死す。

サハノミヤ　澤宮　靈元天皇第十一の皇子。應法親王といふ。

サハヱモン　澤右衞門　カネサダ(吉田兼貞)　尾張國守。壬申の變、衆二萬を率ゐて、天武帝に從ひ、近江の兵と戰ひ、山に匿れて自殺す。

サヒチ　鎖鎌(小子部)　楠木正成の臣。よく泣きて敵軍を欺く。

サヒヤウヱ　佐兵衞(杉本)　歩兵少佐。東京府出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十七年十月一日旅順に戰死す。

サブ　左武(島田)　「持。明治十六年歿す。

ザブウン　雜雲　農家の創。越前今立郡淨圓寺の住

サブツラウジン　茶佛老人　リヨクイン(山本綠陰)

サブラウ　三郎(洲崎)　加藤景廉の乳母の子。源賴朝の平家隆を襲ひし時、景廉に代りて死す。

サブラウ　三郎(竹田)　申樂笛子の始祖。太鼓の名手。始めて觀世今春の能の太鼓を打つ。今春勝淸の次子。觀世世阿彌の弟。大和國竹田に住す。

サブラウ　三郎(森田)　富山藩士。名は直寬。戊辰の際、鎭撫使に從ひて轉戰し、長岡落城の夜、敵營を受けて、戰死す。年二十八。

サブラウ　三郎(鹽田)　外交官。名は寫信、松雲と號す。通辯を勤め、公使に隨つて英佛兩國に赴く。維新後、職を外務に奉じ、明治十六年北京駐劄全權公使に任ぜられ、二十二年五月十二日卒す。年四十六。

サブラウ　三郎(澤)　歩兵大尉。廣島縣出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十八年五月病死す。

サブラウ　三郎(緒方)　歩兵中佐。愛知縣人。征露の役に從ひ、明治十八年九月十三日歿す。

サブラウ　三郎(和田)　歩兵少尉。山口縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年一月三十一日盛京省鴨子

泊に戰死す。

サブラウ　三郎(富永)　歩兵大尉。山形縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年一月森屋堡に戰死す。

サブラウ　三郎(山口)　砲兵少佐。福島縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月病死す。

サブラウ　三郎(中條)　海軍少機關士。長野縣出身。日淸の役に從ひ、明治二十八年八月病歿す。

サブラウ　三郎(件)　歩兵少尉。東京府出身。日露の役に從ひ、明治三十八年九月病死す。

サブラウ　三郎(安齋)　歩兵少尉。福島縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月田義屯に戰死す。

サブラウ　三郎(鐘崎)　筑後の人。明治二十七八年戰役の際、間諜となりて殊功あり。遂に淸軍に捕へられて金州に殺さる。年二十六。

サブラウ　三郎(笠原)　海軍大尉。山形縣人。日露戰後に從ひ、明治三十七年五月三日第三回旅順口閉塞事業に參加して戰死す。年二十七。

サブラウ　三郎(岩男)　錦繪問屋。熊本の人。秋田宮崎德島等の縣知事たり。明治四十二年卒す。

サブラウ　三郎(高木)　米國に留學し、又領事として桑港駐剳に在勤し、官を辭するの後、卒先して生絲直輸出業を營む。明治四十二年三月二十八日歿す。年六十九。

サブラウ　三郎(鈴木)　海軍大佐。明治四十二年「八月廿六日卒す。

サブラウ　三郎(島海)　ムネタウ(安倍宗任)

サブラウ　三郎(泉)　タダヒラ(藤原忠衡)

サブラウ　三郎　ツネハル(鷲尾經春)　ヨシヒデ(朝比奈義秀)　タメヤス(岡田爲恭)　スケノリ(赤松祐則)　タネナガ(秋月種長)　タダノリ(桃忠德)　モトノリ(平基度)　「年間の人。

サブラウザ　三郎左(生島)　長崎の洋畫家。元和

サブラウシラウ　三郎四郎　サダカツ(松平定綱)

サブラウジラウ　三郎二郎　キヨナガ(小瀨淸長)　「有隆」

サブラウニフダウ　三郎入道　アリタカ(赤星)　天平寶字中の遊女。萬葉作家。

サブル　佐夫流　天平寶字中の遊女。萬葉作家。

サブロヱモン　三郎右衞門(安藝)　土佐製紙家の祖。名は家友。土佐國安藝郡安藝城主備後守國虎の子。初名龜之助、又勘四郎と稱す。正德四年山村座に出で、後森田座の頭取となる。暫くの受公家惡の名人。寬曆十二年歿す。〔二代〕俳名天幸。初め三浦藏と稱す。仇名を湯島天神と云ふ。明曆二年歿す。〔三代〕二代の子。俳名賢十。初め志賀藏、後三浦藏と改む。天明三年歿す。〔四代〕三代の子。幼名三浦藏。文政五年歿す。〔五代〕四代の子。幼名三浦藏、又市川馬十。

サブロエモン　三浦右衞門(中島)〔初代〕江戸の俳優。俳名東笠。幼名龜之助、又勘四郎と稱す。正德

サブロスケ　三郎助(三井)　三井物產會社長。明治六日歿。年六十三。

サブロスケ　三郎助　モクケイ(中島木雞)

サブロスケ　三郎兵衞(本阿彌)　刀劍鑑定家。代々三郎兵衞を通稱とす。名は光剣。本阿彌光心の子。世々前田家に仕ふ。

サブロヘエ　三郎兵衞(石井)　禮賀の鄕老。謠曲を好み、書を善くす。享和元年歿す。年三十九。

サブロヘエ　三郎兵衞　孝子。江戸湯島の紙屑買の子。父も亦同名。町奉行より賞を受く。

サブロヘエ　三郎兵衞(栖原)　鍛冶松前の人。天明六年に百り、始めて北海道に漁場を開く。名は萬章、一に武雄といふ。赤穗落士。慶應三年十一月十八日新撰組に殺さる。

サブロヘエ　三郎兵衞　マサカゲ(飯富昌景)　チカヨシ(丸毛親吉)

サブロヘエノツマ　三郎兵衞の妻　常陸久慈郡の農三郎兵衞の妻。氣剛に守操あり。藩主に貰せらる。

サブロヱモン　三郎右衞門(大谷)　一に大八木氏に作る。名は濱倫。津山の人。小倉藩士大谷氏を繼ぐ。諦定奉行となる。文久三年長藩、外艦砲擊の事あるや、幕吏に從ひて下關に至る。長人上陸を許さず却つて之を捕へんとす。三郎右衞門悲憤して舟中に自刃す。

サヘヱ　左兵衞　慶增　槍術家。名は直種、庶安と稱す。

サヘヱ　佐兵衞(丸屋)　京師の陶工。磁器を作る。

サヘヱ　佐兵衞(佐久間)　長藩の志士。名は義濟。使番たり。元治元年禪原越後に從ひて伐見に在り。京師の變に坐し、兄九郎と共に獄に下り、十一月十

二日斬らる。年三十二。

サヘエ 佐兵衛 義儀。吉野木津の人。よく其の主義川為助に仕ふ。明和中殁す。年八十二。「王

サホサダイジン 佐保左大臣 ナガヤワウ 長屋

サホヒコ 狭穂彦 彦坐王の子。垂仁天皇の四年叛を謀り、翌年誅せらる。

サホヒメ 狭穂姫 垂仁天皇の后。彦坐王の女。一名佐波遅媛。天皇の四年、兄狭穂彦叛を謀り后を誘ふ。后忍びずして之を天皇に告ぐ。五年天皇兵を遣はして狭穂彦を討たしむ。后兄の城に走りて、崩ず。「皇妃誤の人。

サホヤマ 佐保山 紀伊侯の奥女房。和歌を善くす。

サマ 左馬(瀬川) 茶人。千利休の門。

サマ 左馬(加藤) 砲兵少尉。和歌山県人。日露戦役に従ひ、明治三十八年三月盛京省奉天に戦死す。

サマノジヨウ 左馬允(今川) 伊勢の國司北畠具教の臣。永禄二年正月勢南籠城に従ふ。

サマノジヨウ 左馬允 イヘモリ(山崎家盛)

サマノスケ 左馬助(岩手) 徳川家康の臣。天正三年五月二十一日長篠の戦に死す。

サマノスケ 左馬助(古市) 茶人。千利久の門。

サマノスケ 左馬助 肥後國同田貫の刀匠。天正年間の人。或は曰く國勝の通稱なりと。

サマノスケ 左馬助(松林) 顧流剣法の祖。常陸鹿島の人。後、顧流と改名す。伊藤忠右衛門に仕ふ。発後劇死して鯰也と號し、仙臺に殁す。

サマノスケ 左馬之介(宍戸) 長州藩の志士。名は眞澄。初め九郎兵衛と稱す。元治元年京師の變、大阪の藩邸に在り。獄に下りて十一月十二日死す。「太」

サマノスケ 左馬之助(細川) クラタ(池内蔵之介 ノブシゲ(武田信繁) シゲトモ(堀内重朝) ミツハル(明智光春) マタジラウ(高橋又次郎)

サマノスケ 瑳磨介(岡谷) 上野舘林侯の臣。名は勝登。慶長元年殁。年五十九。

サマノスケ 瑳磨介(田中) 勤王家。河内介の子。名は濂徹、東郊と號す。文久二年寺田屋事件に關して捕へられ、父と共に薩州に遣らるる途次、憾殺せらる。年十七。明治三十一年贈正五位。

サミ シンワウ 佐味親王 祖武天皇の皇子。母は夫人多治比真宗。容儀閑雅。中務卿に遷み、天長二年三十三。

サメ 佐米 柳澤吉保の妻。将軍徳川綱吉の寵を得。

サメイ 左明 俳人。松露庵二世。初世烏酔の門。江戸の人。

サモン 左門(水谷) 勤王家。もと修験者。通稱水口坊観清。豊前の人。文久三年長州に至りて七卿を守護し、元治元年七月京都の變、鷹司邸に戦死す。年二十一。明治三十五年贈正五位。

サヤマ 佐山 発蔓法師。檢挍、又三絃を能くす。

サユウ 左雄 肥前の俳人。以蔵坊の門。

サユリ さゆり 朽木土佐守の臣。通稱和年間舊淀藏廻の門に入りて國學を修む。

サユリ 小百合 孝女。大和高市郡の人。左兵衛の長女。

サヨ さよ 水戸吉沼村の貞婦。伊平太の妻。享保十九年貧窮して、曾て賣る處の田を購ひて賜ふ。

サヨアン 小夜庵 ゴメイ 五明 女歌人。貞潤の門。

サヨコ 斜與子 左代二(久本) 歩兵中尉。岡山県出身。日露の役に従ひ、明治三十七年十月本渓湖に戦死す。

サヨヒメ 佐用姫 大伴狭手彦の妻。狭手彦の任那に赴く時、別を惜みて高山に登り、領巾を振りて船を麾く。後世、その山を領巾振山といふ。

サラ 沙羅(堀田) 俳人。通稱佐太郎。別號牛家、又牛歌。雑太の門。文化十三年十一月殁す。

ザライ 柴來 俳人。松露庵と號す。初世烏酔の門。

ザライバウ 沙來坊 江戸の俳人。五筑坊の門。乙

サリ 簑里 美濃派の俳人。元禄頃。「什氏。

サリツアン 蓑笠庵 リイツ 梨一

サリツィンシ 蓑笠隆士 バキン 馬琴

サル 猿(巨勢) 武内宿禰の孫、雄柄宿禰の子。大和高市郡巨勢村に住す。船史最鷹及び百濟博士王淑貴に従ひて儒學を修め、欽明天皇の三十一年、漢著高麗鎗の接待を命ぜらる。

サルダヒコノカミ 猿田毘古神 国つ神。天孫降臨の時、導路す。世に岐神、また道祖神といふ。

サルマルダイフ 猿丸太夫 歌人。近江國甲賀郡櫟葦郷の人。後近江國曾束山中に隠るといふ。

サルミノアン 猿蓑庵 テンラウ(新井天郎)

サルンド 猿人(日歳庵) 狂歌師。江戸本所桂遠の剣者。初め曾根猿人、後桃の本猿人と改む。通稱永来新左衛門。諸侯の金用達を業とす。明治十六年殁す。

サレン 左簾 〔一世〕江戸の俳人。笠家氏。業歸庵古道と號す。半局庵逸志の門。安永九年十一月二十三日殁。年六十六。〔二世〕一世の門人。初め頃氏。閑雲齋、楠齋庵、弄花坊、徳義、齋謎の諸號あり。寛政五年五月二十一日殁。年六十五。〔三世〕初め笹井氏、東雲齋、通雲齋、古音庵、北楽の

歿説あり。二世の門。文政五年正月二十三日殁す。

〔四世〕 岡松庵、又醒虹堂と號す。二世晋賓齋の門。明治二年四月四日殁す。〔五世〕 四世の門。通稱中村鍾。景雲齋、野梅齋、又四世秋來の別號あり。明治十九年六月二十一日殁す。「仙臺の門。

サロク 左兎(秋野) 俳人。通稱左六。暁堂と號す。

サワイノカミ 狭井神 大己貴神の荒御魂。

サヱモン 左衛門 上杉禅秀の妻。武田信満の女。逃れて甲斐に在りしが、禅秀の計を聞きて自殺す。

サヱモン 左衛門(秋山) 儒者。會津藩士。藩校北學館の教授となる。戊辰の役、力竭きて歸順に決するや屠腹して死す。

サヱモンシラウ 左衛門四郎 肥前國平戸左の渓の刀匠。農國頃の人。

サヱモンタイフ 左衛門大夫 ウヂシゲ(北條氏繁) ウヂカツ(北條氏勝) ツナナリ(北條綱成)

サヱモンノカミノキタノカタ トシカタノツマ(藤原俊賢妻)

サヱモンノカミノツボネ 左衛門督局 後鳥羽天皇の宮人。為忠の女(一に平成輔の女)。遊義門院に侍し、天皇に幸せられ、一皇女を生む。歿を善くす。萬里小路藤房之を愛せしが、後大井川に投じて死すといふ。

サヱモンノジヨウ 左衛門尉(遠山) 江戸町奉行。名は景元、通稱金四郎。少時放蕩なりしが、嶷然

行を改む。在職十一年、近代の良市尹なり。曾て艱庵を撰り、西遊寂日記を著す。安政二年二月卒す。

サヱモンノジヨウ 左衛門尉 ウヂハル(小田氏治) 「紫葉の作家。

サヱモンノスケ 佐衛門佐 章義門院の女房。玉

サヱモンノスケ 左門衛佐 シゲノリ(渡瀬繁) 〔註〕

サヱモンノスケ 左門衛佐邪)

サヱモンノジヨウ 左衛門尉 井算二巻を著す。

サン 贊(増田) 安井息軒、藤森天山等に學ぶ。列事を勤め、幹職後、日本弘道會に與す。明治三十五年五月一日殁す。年六十四。

サン 贊(渥味) 歩兵大尉。北海道の人。日露戦役に従ひ、明治三十七年十二月二百三高地に戦死す。

サン 瓚(立原) 水戸藩士。通稱杜二郎。元治元年甲子の變に戦死す。年三十二。

サン さん 孝女。越前足羽郡鎌尾村農茜太夫の女。た與竹園と號す。

サンイウ 三友 江戸小説家。三馬の門人。益亭、

サンイウサイ 三友 ジヤウハク(苗村常伯) サンイウサイ 三友齋(山本) 石州流の茶人。宇佐美默齋に學ぶ。

サンイク 三育(谷村) 江戸の茶人。名は正英、清水釣玄、有源、及び道玄に學び、徳川氏の數寄屋頭となる。寛暦三年十二月殁す。

サンイク 三育(安富) 醫。肥前の人。藥を西三博に受け、長崎に住す。

サンイン 山陰(佐野) 阿波侯の儒官。清家の門。京師の人。名は憲、字は元章、通稱少遠。文化中殁す。

サンウサイ 参雨齋 ソウヨン(志野宗信) 三永(高田) 茶人。三齢の子。父に學び、徳川氏の數寄屋頭となり、後二世三齢と稱す。

サンエイ 三榮(高田) 茶人。三永の子。

サンエイ 三英(望月) 徳川幕府の醫官。名は乗、字は君彦、鹿門と號す。丸越侯の醫官雷山の子。幕府の醫官元橙の家を嗣ぎ、享保中、侍醫に遷み、法眼に叙せらる。明和六年十一月四日殁す。

サンエイ 三英(小園) 蘭醫。寫齋と稱す。名は好義。初名貞吉。出羽庄内の人。岸和田藩の醫員。後幕府の和解方たり。渡邊崋山と交り、屢時事を論して之に與ふ。天保十五年崋山捕へらるるに及び、三英亦縛せらる。五月二十三日自殺す。年五十三。

サンエイ 三英(村瀬) 海軍軍醫大監。大正元年十一月十一日卒す。

サンエキ 三益(泉) 醫。書家。名は水良、觀海堂と稱し、京都に住み、寛保二年殁す。年七十五。

サンエキ 三益(武田) 醫醫。伊藤介亭の門。秋田の人。立齋と號す。古義堂四傑の一。文化九年十二月殁す。年七十八。

サンエキ 三益 シヤウハク(江左尚白)

サンオウ 三鴬(春水) 京都の醫。花卉を愛し、観年花道を教授す。享保四年殁す。

サンカ 傘下 蔵門の俳人。元禄頃の人。

サンガ 三雅(樋口) 俳人。通稱仁左衛門。安政年間江戸に住す。

サンガ 三雅 バンシヤウ(二世森羅萬象)

サンカウ 三香(小松) 将棋の名手。本名定吉。六段に進む。明治四十年四月殁す。年四十九。

サンカウ 三幸(徳亭) 江戸の小説家。式亭三馬の門人。初め一得齋樗風成と稱す。小石川の米商。又

狂歌を善くす。

サンカウ 山辛　俳人。雪窓庵と號す。寒太の門。

サンカウ 殘香(深田)　元祿頃の俳人。

サンカク 三鯨(泰)　俳人。振々亭と號す。通稱雪太郎。寒太の門人。三鯨七部抄の著あり。

サンカク 三角(奥田)　津藩の文學。名は士亨、字は容甫、別號蘭汀、又南山。通稱宗四郎。天明三年五月四日歿す。年八十一。

サンカク 三角　安永頃の俳人。

サンガク 算學ネイ(和田寧)

サンガクダウジン 三岳道人　タイカ(池野大雅)

サンカサンジン 山下散人　タツザネ(土橋辰)

サンカツ 三勝(嵐)　キンサク(四代山下金作)

サンカフ 三峽　京都の俳人。安永頃。

サンキ 三喜　醫師。河越の人。田代氏。僧綱の琢。導道と稱し、支山人、また籠翁と號す。妙心寺に入りて禪を修め、又足利學校主利陽に醫を學び、後明に入りて留學十二年、歸朝後、鎌倉及び下總古河に「庵と號す。

サンキウ 三休(佐藤)　茶人。中井紹甫の門。無事

サンキウ 三休(志村)　三齋流の茶人。中井紹甫の門に無事庵宗一、又不遠齋と號す。寶歷七年三月三日歿す。

サンキウ 三休(森戸)　江戸の劍客。もと林氏。隅太と稱す。信濃の人。館林侯の臣森戸某に學び、其の養子となる。寶曆十四年歿。年七十八。

サンキウ 三休　岩城國宮隆の畫人。筆致、元信に酷似す。

サンキヨ 三去　四日市の俳人。通稱明石屋喜八。

サンキヨシヤウニン 山居上人　エンヨ　圓譽

サンキンシ 三近子　ケイネンサイ(中村綱錦齋)

サンク トンアン(宇都宮遯庵)　江戸の戯作者。初め二世楚滿人の門に入り、後、十返舍一九に戯き、其の死後、二世一九と稱す。

サンクワン 三賈　京都の俳人。安永頃。

サンクラウ 三九郎(金剛)　能役者。後三太郎と稱す。德川綱吉に仕へて、岩田右衞門と改め、勝下總守に列す。

サンクラウ 三九郎(山打)　漆工。飛彈の人。延寶天和の頃、出羽國能代に來りて漆器を製す。之を能代塗といふ。

サンクワ 杉化　延寶頃の俳人。

サンクワ 三華(是心軒)　松月堂古流の挿花家。京都の人。辻本仁兵衞と稱す。慶應二年九月第五世を嗣ぐ。明治三十一年一月歿す。

サンクワ 山花(田中)　俳人。德庵と號す。二世春過　サダオキ(織田貞置)　江戸の俳諧。四世桃隣の門。

サンクワ 三化　江戸の俳諧。四世桃隣の門。

サンクワ 三禾　安永天明頃の俳人。曉臺の門。

サンクワウ 山廣　俳人。遇日庵と號す。露庵の門。

サンクワウ 三光(松下)　尾張國知多郡常滑村の陶工。名は恒藏。高橋道八に學ぶ。明治二年三月十八日歿す。

サンクワウ 三光　酣。名は聖明、孤峯と號す。奥州の人。初め天台に入り、後法華の奥儀を極む。性說敏、後醍醐天皇に信ぜられ、國師の號を賜り、九十一歲にして寂す。

サンクワウバウ 三光坊　文明年中の假面打。假面六作の一。越前國平泉寺の住僧。後比叡山に住す。

サンクワウホン 三光院　サネエダ(三條實枝)

サンクワウダウ 三果堂　ブリン(谷口蘇村)

サンクワテイ 三花亭　ソウホ(山科宗甫)

サンクワン 三貫(遯谷)　越後の俳人。名は雖。別に桑園と號す。弘化頃の人。

サンクワン 山敬　信濃高井郡の俳人。石田氏。高巢と號す。弘化中の人。

サンケイ 三溪(菊池)　漢學者。紀伊の人。名は純、字は子顒。京都に住す。戯文と詩とに名あり。明治二十四年歿す。年七十三。本朝農初新志等あり。

サンケイ 三溪(藤川)　漢學者。讃岐の人。名は忠獻、通稱求馬。後、能登と改む。勤王を唱へて獄に下る。維新後、官軍に從ひて、奥羽に轉戰す。修史局御用掛たり。明治二十四年七月歿す。年七十四。著秋大成、維新實記の著あり。

サンケイ 三圭(萩原)　醫。土佐の人。明治二年薙逸伯林に留學す。歸朝後、大學教授となり、再び獨逸に赴き、二十二年侍醫に任ぜらる。二十七年歿す。

サンケイ 三徑　トウウン(山本洞雲)

サンゲウ 三曉　大阪の俳人。安永天明年間。

サンケウ 山曉　俳人。遇日庵と號す。山奴の門。

サンケウテイ 三橋亭　ナガネ(芍藥亭長根)

サンゲツコジ 山月居士　ノブタカ(二世信高)

サンゲン 參玄　法師。新後拾遺集の作家。

サンコ 三湖(深川)　俳人。七澤庵と號す。六世湖十の門。

サンコウ 山呼　宮津の俳人。安永天明頃。

ザンコウ 殘口(增穗)　國學者。名は最中、大和と稱す。別號繩翻子、又似功齋。豊後の人。近衞公に仕ふ。旁ら儒術に通ず。享保二年九月二十一日歿。年六十三。珍口入部書の著あり。

サンコクアン 三谷庵　チクコク(依田竹谷)

サンゴクヒツカイダウ 三國筆海堂　セイシン正心

サンゴラウ 三五郎(村本)　植物家。周防玖國珂郡室木村の人。文政三年歿。年八十五。

サンゴラウ 三五郎(平田)　島津氏の臣。增宗の男。宗次と稱す。慶長四年戰死す。

サンゴラウ 三五郎(嵐)　(初代)　大阪の俳優。俳名雷子。京都岡崎村の人。島田氏。幼名喜之助。初め嵐勘四郎を師とし、後嵐三右衞門に從ふ。元文四年七月十二日死す。年五十三。(二代)　初代の子。通稱富三郎。俳名雷之、後來芝と改む。家號京屋。享和二年五月六日死す。年七十二。(三代)　二代の子。初名松之助。(四代)　三代の子。幼名三四郎後七代三升の門に入りて、市川三十と改め、後三五郎といふ。俳名雷子。天保八年六月二十九日死す。年三

サンサイ 杉齋　シンセン岡田新川)　(十四

サンサイ 山齋　ソジュン(山口素絢)　マサズミ(鹿持雅澄)

サンサイ 山材　チヤウザン(石川丈山)

サンサイ 三齋　タダオキ(細川忠興)

サンサウ 三藻　ヨシマサ(宮部義正)

サンサウ 三三(駒井)　歩兵中尉。靜岡縣出身。明治三十七八年戰役に從軍し、三十八年八月病死す。

サンザウ 三藏(嵐)　キンサク(四代山下金作)

サンザウ 三藏　チクハウ(小倉竹苞)

サンザツ 山札　エイシュン(狩野永俊)

サンザブラウ 山三郎(道念)　京師の人。貞享中、道念節を謳ひ出す。

サンザエモン 山左衛門(名古屋)　初名山三郎。尾生氏郷に仕へ、歸して京阪に遊び、出雲阿國と歌舞伎の曲を演ず。後又猿忠政の臣となりて、戰歿す。求は曰ふ、室町氏に仕へ、侍禪國と通じて逐はれ、歌舞伎を業とする。

サンザエモン 參左衛門(市川)　水戸の書生篤。烈公の宰たり。元治中、幕吏と謀を合はせて武田正生を討たんとせしが、後四年正黨に殺さる。

サンザエモン 三左衛門(村田)　劍客。柳生宗冬の門。神蔭流の達人。後源左衛門と改む。德川將軍家の師範たり。

サンザエモン 三左衛門(成田)　和泉の漆工。後桑弾に赴き、盆に髪抜を施して貫せらる。飛彈春慶の始なり。

サンザエモン 三左衛門(そうけい)　江戸の俠客。その徒、金神長五郎と爭ひて名を揚ぐ。

サンザエモン 三左衛門　ナホマサ(堀直政)　ヨシナリ(森可成)　モトミツ(小篠元盈)

サンザエモン 三山(谷)　儒者。大和の人。名は操、字は子正、新助と稱し、淡庵、無牙山人の號あり。晩年眼を患ひて、封事を朝廷及び幕府に上る。慶應三年十二月歿す。

サンザン 三山　キチタラウ(池邊吉太郎)

サンシ 杉枝(杉山)　杉風七世の俳人。

サンシ 山肆　安永天明頃の俳人。

サンシ 三之(木瀨)　歌人。名は隨宜、通稱作兵衞。松永貞德と交遊す。

サンシ 山子(込山)　俳人。通稱彌七、對松亭と號し、安政年間江戸に住す。

サンシ 山市　越後の俳人。五拔坊の門。

サンシ 三只(增山)　俳人。東嶺舍と號す。支考の門。保松山、吾妻からげの著あり。

サンジ 三次(大道)　步兵少尉。鹿兒島縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、八月遼東省に歿死す。

サンジ (三二寺原)　步兵大尉。鹿兒島縣士族。日露の役に從ひ、明治三十七年八月於龍山に戰死す。

ザンジアン 暫時庵　アキフサ(直村昭房)

サンシウ 三舟(百柳)　誹諧の人。名は政勳。大阪府學務課長たり。後實業學校を興して、育英に從ふ。明治三十六年七月歿す。

サンシウ 三就　クワウギク(松田黃牛)

サンシコジ 三芝居士　ブンキヤウ(花笠文京)

サンジツアン 三日庵　ヤハ(竹田野坡)

サンシバウ 三四坊　加賀の俳人。安永頃。

サンシバウ 三四坊　ニリウ　二柳

サンジフラウ 三十郎(關)　(一世)　大阪の俳優。初名中村歌助。(二世)　初名嵐宗太郎。俳名歌山。中村梅玉の弟子となりて、中村歌助といひ、文化四年二世を嗣ぎ、名人の稱あり。天保十年九月二十八日歿す。年五十四。(三世)　三世藤間勘兵衞の子。初め六代目關十郎の弟子となりて、伊達十郎、また五代市川八百藏と稱し、後、關三十郎の名を嗣ぐ。俳名歌山。元治中歿す。(四世)　初名花助。三世の養子となり、元治元年六代目市川八百藏といひ、明治六年關三十郎を名乘り、二十二年七月十日歿す。年五十二。

サンジフラウ 三十郎(岡部)　機田の劍客。名は忠吉。五郎左衞門の子。補へられて斬らる。年四十三。明治三十五年贈從五位。

サンジフラウ 三十郎　ナホヨリ(堀直寄)

サンジフロクホウグワイシ 三十六峯外史　サンヤウ(瀨山陽)

サンシヤ 算砂(本因坊)　碁の名手。元和四年五

月京都に歿す。年六十四。
サンシヤウ 三昌(涙越) 釜師。通稱彌右衛門。淨味と號す。文明中、足利義政に仕へて彌阿彌と稱し、始めて茶の湯の釜を鑄る。慶長十九年大佛殿の巨鐘を鑄る。寛永十五年歿す。
サンジユ 山壽 **ランテイ** 藍亭
サンシユウ 三修 近江伊吹山の僧。長尾彌高太平の三寺を山中に建つ。元慶二年定額を賜はらんことを奏請し、朝廷之を許して國家安全の鎮となす。昌泰二年寂す。年七十餘。
サンシヨウ 三升 **ダンジフラウ**(市川團十郎)
サンシラウ 三四郎(小幡) 幕府の小從人衆。義俠を以て任じ、下谷組の領袖たり。本所組の巨魁太田源藏と爭ふ。後事を以て遠島に處せらる。
サンシラウ 三四郎 能登廣江の孝子。寛政九年旌表せらる。
サンシラウ 三四郎(朝倉) 水戸の志士。名は景敏。松平頼德に從ひて捕へられ、慶應元年斬らる。年十九。明治四十年贈從五位。
サンシラウ 三四郎(今田) 步兵大尉。佐賀縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、八月二十三日盛京省三道溝に戰死す。
サンシラウ 三四郎 **ヘイリヨウ**(松會平陵)
サンジラウ 三二郎(大澤) 孝子。上野新田郡牛澤村の人。
サンシン 三鍼 歌人。蘆庵の門。
サンシン 三信 伊勢松坂の俳人。竹内氏。通稱市左衛門。一葉子と號す。貞德の門。
サンジン 山人 女俳人。神田氏。貞宣の妻。
サンジン 杉尋(久米田) 俳人。其角の門。蘇堂侯の侍醫。享保十四年十二月歿す。

サンスケ 三介(石井) 半三郎の弟。元祿中、兄と共に父祖の讐を龜山に復す。
サンスケ 三介(村田) 鹿兒島藩士。戊辰の役、奥羽の間に轉戰し、陸軍少佐に任ず。西南の亂に賊に與みし、明治十年三月十一日戰死す。年三十三。
サンスヰ 杉翠 **マサハル**(北尾政春)
サンセイ 三正(下石) 下石流槍術の祖。寶藏院胤舜に學び、一法を興す。郡山侯及び白河侯に仕ふ。
サンセイ 三省(小倉) 儒者。土佐侯の老職。名は克、字は政義、彌右衛門と稱す。政平の子。野中兼山と力を協せ國政を輔く。承應三年父の喪に當り、哀悼、疾を起し、七月十五日歿す。年五十一。
サンセイ 三省 **サウシウ**(柳川滄洲) **チヤウジユ**(川口長孺)
サンセイ 山靜 **エイナフ**(狩野永納)
サンセイケン 三省軒 **ロス井**(青木鷺水)
サンセイサイ 三晟齋 **エイリヤウ**(狩野永良)
サンセイヲウ 三生翁 **リンコク**(細川林谷)
サンセフ 三笑(金井) 狂言作者。通稱半九郎、又半兵衛。鳳高と號す。寶曆頃の人。
サンセウ 三蕉(中村) 讚丸龜藩の儒員。名は桑、字は子檢、正藏と稱す。龜井昭陽、帆足里亭に學び、又昌平黌に入る。藩學正名館の敎授たり。明治二十七年八月歿す。年七十八。
サンセウ 三笑(福亭) 戲作者。三馬の門。江戸に住し、筆蹟を敎授す。本名森貞雄。文政時代の人。
サンセウダイフ 山椒大夫 **ゴロザヱモン**(油屋五郎左衛門)
サンセキ 山勺 〔一世〕 江戸の俳人。樋口氏。未得の門。元祿頃の人。〔二世〕 梯井氏。初名仙木。一に鳴蛙井と號す。一世の門。〔三世〕 二世淵十の門。〔四世〕 三世の門。

サンセキ 山夕(巽) 俳人。嵐窓。玄々坊。二世寶井の門。
サンセキ 山夕(藤) 俳人。嵐窓と號す。三世紀逸の門。
サンセキ 山石 俳僧。肥後八代宗雲寺の住職。立圃の門。
サンセキ 三夕(谷村) 江戸の茶人。鍾尺軒只樂と號し、清水流に通ず。吹上瑟方、數寄屋組頭格となる。
サンセキ 三石(澤) 廣島藩士。名は需、字は伯還。初め左仲、後讃岐と改む。梅塢の別號あり。嘉永六年正月十一日歿す。年八十二。
ザンセキ 殘石(市村) 京都の俳人。元祿中の點者。
サンセキ 杉夕 安永天明頃の俳人。
サンセツ 山雪(松山) 畫人。周文及び雪舟の風を學ぶ。
サンセツ 山雪(狩野) 畫家。山樂の養子。もと千賀氏。蛇足軒、又桃源子と號す。慶安四年二月十二日歿す。年六十三。
サンセツ 三折(杏) 富山藩の儒者。名は景高。別に逸翁、又白翁と號す。一洞の子。元文五年八月歿す。年六十。
サンセツ 三節(高田) 〔一世〕 石州流の茶人。名は周。西村士渙に學ぶ。〔三世〕 **サンエイ** 三永。
サンセン 山川(寺村) 俳人。芭蕉の門。通稱彌右衛門。
サンゼンシヤ 參前舍 **ダウニ**(中澤道二)
サンソウ 三窓 **ハルアキ**(河野春明)
サンソク 三足 **チヤウザン**(石川丈山)
サンダイフ 三太夫(則武) 堀尾吉晴の臣。小山田信茂を斬る。
サンダイフ 三太夫 **タカナホ**(村松高直)

サンタウ 三島(篠崎) 大阪の儒者。小竹の父。名は應道。字は安道。別號郁州。通稱七兵衛。商業を營む。財を輕んじ、竟に資產を落し、四十歳、儒を業とし、文化十年十月晦日歿す。年七十七。
サンタウ 三島(栗川) 京都の書家。岸駒に學ぶ。越前鯖井の人。梅泉の養子。名は節、字は士用。享年二十二。
サンダウ 粲堂(滕) 京都の書家。博泉と稱す。
サンダウバウ 山堂坊 **セウハク** 宵柏
サンダクワ 三朶花 **ヲサム**(石井收)
サンタラウ 三太郎(木村) 步兵少尉。宮城縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月三日高臺嶺の戰に負傷し、翌日歿す。
サンダラホフシ 三陀羅法師 江戸の狂歌師。赤松氏。名は正恒、字は已巳。桑揚庵頭の光に學び、千穗庵一葉といふ。落髮後、此の號に改む。文化十一年八月八日歿す。
サンチ 算知(澁川) 碁手。算哲の子。德川家康の寵を受く。
サンチ 算知(安井) 碁の名手。仙知の子。安政五年歿す。年四十九。
サンチ 贊知(永田) 海軍大佐。明治四十五年一月二十八日卒す。
サンヂ 三治(田鎖) 步兵少佐。岩手縣人。日露戰役に從軍中、明治三十八年二月十三日戰死す。
サンヂ 三治(小谷) 神戸藩の儒。古賀侗庵に學び、文政八年藩學の敎授となる。明治五年一月歿す。年八十一。
サンヂガクジン 三痴學人 **カヂアツ**(梶原景惇)
サンチク 三竹 **セイケン**(野間靜軒)
サンチヤウ 杉長(井上) 俳人。名は良民。梅人の門。
サンチヤウ 殘長 安永天明頃の俳人。
サンテイ 三亭 **モトナリ**(南瓜本成)

サンテウ 杉調(吉崎) 加賀の俳人。通稱留藏、又宗助、後宗四郎と改む。寛政十一年五月二十七日死す。年三十一。
サンテウ 三鳥(古今亭) 江戸の戲作者。三馬の門人。通稱三河屋吉兵衛。
サンテウ 三島 **キンロ**(岡島琴顱)
サンテウ 三朝 **ショウロク**(尾上松錄)
サンデウウダイジン 三條右大臣 **サダカタ**(藤原定方)
サンデウクワンパク 三條關白 **ヨリタダ**(藤原頼忠)
サンデウタイクワウタイゴウ 三條太皇太后 **ノブコ**(藤原遵子) **マサコ** 昌子
サンデウダジヤウダイジン 三條太政大臣 **サネユキ**(藤原實行) **サネシゲ**(藤原實重)
サンデウ テンワウ 三條天皇 諱は居貞。冷泉天皇の第三子。母は贈皇后超子。在位三年、眼疾によりて、位を太子敦成に讓り、寛仁元年三條院に崩ず。壽四十二。御製、後拾遺、詞花、新古今、新千載、新拾遺諸集に出づ。
サンデウナイダイジン 三條内大臣 **キンノリ**(藤原公敎) **ヨシナガ**(藤原能長)
サンデウニフダウサダイジン 三條入道左大臣 **サネフサ**(藤原實房)
サンデウニフダウダジヤウダイジン 三條入道太政大臣 **サネシゲ**(藤原實重)
サンデウニフダウナイダイジン 三條入道内大臣 **キンチカ**(藤原公親)
サンデウノオトド 三條大臣 **ヨリタダ**(藤原頼忠)
サンデウノコカヂ 三條小鍛冶 **ムネチカ**「宗近」
サンデウノツボネ 三條局 藤原實明の長女。

德門院に侍し、東御方と稱し、從三位に叙せらる。伏見天皇の幸を得て、道熙法親王及び進子内親王を生み、又後伏見天皇に寵せられて、長助法親王、寛胤法親王、承胤法親王、亮性法親王、章德門院を生み、後に左大臣藤原公賢に嫁す。
サンデウノマチ 三條町 **シヅコ**(紀靜子)
サンデウノミヤ 三條宮 **モチヒトワウ** 以仁王
サンデウバウモンニフダウ 三條坊門入道 **ミチナリ**(源通成)
サンテキ 三的 **ケイサイ**(宇野圭齋)
サンテツ 算哲(安井) 〔初代〕 碁手。名は次吉。河内の人。德川家康に召され、碁所の事を司る。晩年京師に住す。享保七年六月歿す。
サンテツ 三哲(雨宮) 儒者。高松侯の臣。
サンテフ 三蝶 大阪の俳人。安永頃。
サンテン 山店 江戸の俳人。芭蕉の門。元祿頃の人。
サンド 山奴(北見) 俳人。杜格齋と號す。四世桃隣の門。
サントウ 山東(小澤) 儒者。名は舍、字は公平、多仲と稱す。常陸太田の人。彰考館に入り、修撰に與る。寛政九年七月二十九日歿。年四十四。
サンナ 三和(唐來) 江戸の狂歌師。通稱加藤源藏、伊豆爾と號す。もと武士。書肆蔦屋重三郎の義弟。本所松井町の妓樓和泉屋の婿。戲作數種あり。文化十二年八月五日歿す。年六十七。
サンノスケ 三之助(一戸) 弓術家。津輕藩士。名は宗明。寶曆三年十月九日歿す。年七十三。
サンノスケ 三之助(藤田) 步兵少尉。兵庫縣出身。日露の役に從ひ。明治三十八年三月盛京省柳匠屯に戰死す。
サンノスケ 三之介(田宮) 田宮流の劍士。名は朝成、常快と號す。

サンノスケ 三之介(幡山一水戸藩の志士。名は茂高。田丸直元に屬して敗れ、慶應元年斬らる。年二十七。明治四十年贈從五位。

サンノスケ 三之助 **シゲアキ**(松川重明) **マルミツ**(横山丸三)

サンノマルドノ 三之丸殿 **デン** 傳

サンパ 三馬 江戸の小說家。本姓菊池氏。名は泰助、字は久德。式亭本町庵、四季亭、遊戲窩、酒落齋、哆囉哩機等の別號あり。文政五年正月六日歿。年四十八。著、浮世風呂、浮世床、古今百馬鹿、容者評判記等。

サンパウ 三保 安永天明頃の俳人。

サンパウ 三保 京都の俳人。或は伊勢の人ともいふ。通稱堀江八郎右衞門。音頭集の著あり。

サンパウインソウジヤウ 三寶院僧正 **クワウサイ** 光濟 **クワウジョ** 光助 **ケンシュン** 賢俊 **サンパウインダイソウジヤウ** 三寶院 大僧正 **チヤウカイ** 定海

サンパク 山白(河津) 書畫鑑定家。名は定通、字は子產。京都の人。雌語小錄を著す。文化四年十月十七日歿す。

サンパク 三伯(稻村) 因幡侯の藩醫。後、海上隨鷗と稱す。シーボールトに從ひて蘭學を修む。文化八年正月十六日歿す。年五十四。著、ハルマ和解。明治四十四年贈從四位。

サンパク 三伯(西) 醫。名は復、號は東流、延享二年京都に歿す。年六十五。

サンパク 三白(惠美) 薩州侯の醫員。樂固と號す。

サンパク 三白タイセウ(惠美大笑)

サンパク 三博(西) 朝廷の侍醫。名は璧非、號は回春庵。長崎の人。野間成大の門。法眼に叙せらる。元祿十五年歿す。年九十。

サンパチ 三八(坂東) 俳優。家名大和屋。俳名半久。八代目市村羽左衞門の弟子。明和七年歿す。

サンペティ 山巴亭 **セイカウ** 青江

サンピヤクサイ 三百齋 **リツアン**(渡邊立庵) 金江の人なるが故、金江氏を冒す。松浦郡泉山に白墅を得、白磁を製す。今の有田燒の祖。

サンプ 山父 尾張の俳人。

サンプウ 杉風(杉山) 江戸の俳人。通稱鯉屋市兵衞。採茶庵、五雲亭、鶴歩、蓑笠、一元等の號あり。芭蕉を思ふ。芭蕉の高足たり。享保十七年六月十三日歿す。年八十六。江戸俳諧谷、冬かつら、續別座數の著あり。

サンフク 三福(三遊亭) 三遊派の落語家。明治四十年九月歿す。年四十二。

サンペイ 盞瓶(飯塚) 秋田藩士。通稱三兵衞、又桧と稱す。和歌に紀勝也、詩に近市亭橘子叔、狂歌に酒の內直屋、狂詩に酒袋和、俳句に燕雀坊交鶴等の別號あり。文化三年五月歿す。年六十六。著、金許出入帳、いろは短歌等。

サンペイ 算員 **ヒデザウ**(小川秀藏)

サンペイ 參平(李) 慶長三年征韓の師還る時、鍋島茂、多久長門守安順に從ひて歸化す。朝鮮の人なるが故、金江氏を冒す。松浦郡泉山に白墅を得、白磁を製す。今の有田燒の祖。

サンペイ 三平(齋藤) 南部侯の臣。農幕府の開墾上書して、蝦夷開拓の急務を說く。又藩の勘定奉行となりしが、忌まれて脫藩す。後、幕府に仕へ、文久元年九月六日歿す。

サンペイ 三平(萱野) 淺野長矩の臣。名は重實。中小性たり。大石良雄等と密に復仇を志す。父許さゞりしかば、元祿十五年正月十四日自殺す。年二十八。

サンペイ 三平(美玉) 勤王家。名は親補。曾て高橋草山と稱す。鹿兒島藩士。脫藩して長州に赴き、文久三年自ら謀主となり、澤宣嘉を戴き、兵を但馬國生野に擧ぐ。敗後、播磨小谷に走りて死す。明治二十四年贈正四位。

サンペイ 三平(永島) 勤王家。名は秀實、錦山と號す。肥後の人。水戸の諸士と親交あり。慶應元年歿す。年四十二。

サンペイ 三平(松尾) 海軍大機關士。愛知縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年二月十三日旅順方面に戰死す。

サンペイ 三平(松野) **ダンズ井**(久坂玄瑞)

サンペイ 三平 **コワアン**(緒方洪庵) **ハウサイ**(安原方齋)

サンペエ 三兵衞(和田) 幕士。戊辰の役、官軍を小田原に要擊せんとす。山岡鐵舟之を止めて、自盡せしむ。年二十一。

サンペエ 三兵衞(瀨口) 勤王の志士。名は吉一。福岡藩士。佐幕黨に陷れられ、慶應元年十月二十三日死に處せらる。

サンポウ 杉峰 尾張の俳人。元祿頃。

サンポウ 三峰 **ガンセイ** 岸誠

サンポウ 山峰(高橋) 美濃の俳人。通稱文次郎。

サンホウクワン 三峰舘 **クソンテウ**(松林寬)

サンボク 山木 **チヤウザン**(石川丈山) [兆]

サンボク 山卜(狩野) 畫家。不及子と號す。山樂の支裔。

サンボタイ井ン 三菩提院 **シンキヤウホフシンワウ** 眞敬法親王 **ツネカタシンワウ** 常賢親王

サンホフシ 三法師 **ノブタダ**(織田信忠) **ヒデノブ**(織田秀信) **ヒデヲ**(織田秀雄)

サンボラウジン 三浦老人 **レウアン** 丁庵

サンポンダイフジン 三品大夫人 **ハチデウゼンニ** 八條禪尼

サンマチヰンノミヤ 三摩地院宮 **タウキヨウホフシンワウ** 堯恭法親王

サンミ 三位 中納言飯隆の女。千載集の作家。

サンミドノノミツボネ 三位殿御局 **カドコ**(藤原廉子)

サンミノゼンジ 三位禪師 **ロクダイ**(平六代)

サンミノツボネ 三位局 後陽成天皇の宮人。播磨守滿原胤榮の女。二皇女及び道晃法親王を生む。

サンミヤクヰンクワンパク 三窺院關白 **ノブタダ**(近衞信尹)

ザンム 殘夢(高橋) 大阪の歌人。香川景樹の門。名は正澄。嘉永四年歿す。年七十七。

ザンム 殘夢 安永天明頃の俳人。

ザンム 殘夢 陸奥會津實相寺第十二世の住僧。字は日自、秋風道人と號し、又海尊ともいふ。奇行多し。天正四年三月二十九日寂す。

ザンム 殘夢 **ジシン** 慈心

サンムニフダウ 三夢入道 **ゲンジヤウ**(山本「玄常」)

サンヤ 三彌(村井) 國學者。近江の人。書畫を業とす。文久三年歿す。年五十七。

サンヤ 三彌(月田) 勤王家。元大垣藩の家老。名は覺識、白茅と號す。明治二十四年十月震災に歿す。年七十。

サンヤ 三彌(太田) 國學者。鞆井藩士。直溝の養子。和歌を能くす。天保五年七月十七日歿す。

サンヤ 三彌 **マサシゲ**(本多正重) **マサツラ**(本多正貫) **マサカツ**(本多政勝) **シゲアキ**(松川重明)

サンヤウ 山陽(賴) 京都の儒者。勤王家。名は襄、字は子成、通稱久太郎、三十六峯外史といふ。安藝の人。春水の子。從京師に寓す。天保三年九月二十三日歿す。年五十三。著、日本外史、日本政記、通鑑、泰秋講義、先友錄、文集、日本樂府、詩集、遺稿。

サンヤウ 山陽(林) 熊本の儒臣。名は長發、後春齋と改む。初め荒川吉十郎長興と稱す。本朝通鑑の撰に與る。享保二十年歿す。

サンヨ 三餘(土屋) 儒者。名は遙作、通稱宗三。伊豆の人。慶應二年歿す。年五十二。

サンラク 三樂(藤野) 茶人。幕府に仕ふ。又生花に能にして、十一代松應齋三樂と稱す。

サンラク 山樂(狩野) 狩野派の畫人。名は光頼。通稱平三。一に三樂と號す。豊臣秀吉の近侍木村永光の男。永德の養子。修理亮と稱す。寛永十二年八月四日歿す。年七十七。

サンラクアン 三樂庵 **スクマサ**(太田資正) 軒と號し、法眼に叙せらる。曾て後水尾帝の稱を拜診して効あり。貞享元年歿す。年七十一。

サンリツ 山笠 安永頃の俳人。京都に住す。

サンリツ 三立 **セツザン**(北島雪山)

サンリヤウ 山亮 **エイハク**(狩野永伯)

サンリユウ 山隆 **エイジヤウ**(狩野永常)

サンリン 山隣 加賀の俳人。鳳巢下と號す。支考の門。蕉門俳諧の著あり。

サンレン 山蓮 讃岐國の刀匠。文永年間の人。六世の孫。

サンロ 杉露(里見) 俳人。通稱左馬太郎。秋風亭、白老山人と號す。三世宗瑞の門。

サンロ 山路(吉田) 俳人。旭庵と號す。

サンロクヘイ 三六平(勝賀瀨) 志士。名は補堯。堺浦佛人殺殺の黨與。明治元年二月二十三日妙國寺に屠腹す。

サンヰ 散位 京都の刀匠。康治頃の人。萬里小路に住す。或は則末の別稱なりといふ。

サンヰ 散位 肥前國伊佐早の刀匠。或は則末の別稱なりといふ。

サンエモン 三右衞門 攝津國里村の農民。片桐且元の不義を惡み、土民を募りて、之を邀擊す。

サンエモン 三右衞門(齋木) 田宮流の劍客。名は清勝。田宮長家及び朝成に學ぶ。延寶中の人。

サンエモン 三右衞門(白輿) 劍客。任俠の風あり。初め河合權太夫と稱す。兄重右衞門の仇を復せんがため、姓名を改めて白輿三右衞門といふ。延寶年間、反討にせらる。

サンエモン 三右衞門(鳥羽) 江戶の硝子職家。始めて長明メリヤスを彈ず。豊後節も其の手に出づ。後東武專太夫と改め、明和四年歿す。

サンエモン 三右衞門(出目) 大野出目七世の面打。石井氏を稱す。

サンエモン 三右衞門(國分) 馬術家。名は忠勝。愛宕山の坂を乘り下る。延寶頃の人。

サンエモン 三右衞門(樽) 遠江の人。德川家康の臣。日本橋に邸を給せられ、江戶町地割役となる。

初め艦兵衛と稱す。世に樽屋といふ。

サンエモン 三右衛門（蜜藤）武田氏の臣。後藤前藩に仕ふ。

サンエモン 三右衛門（嵐）〔初代〕大阪の俳優。初名西崎新平。名人と稱せらる。元祿三年十月十八日死す。年五十六。〔二代〕初代の子。初名門三郎。元祿十四年十一月死す。年四十一。〔三代〕二代の子。初名新平。杉島と號す。寶曆四年十月死す。〔四代〕三代の養子。初名松之丞。俳名杉風。明和二年七月死す。年二十六。〔五代〕三代の弟。葉島、杉島、友文射と號す。四代の弟子。初め傀儡を業とし、小六といふ。天明五年八月二十六日死す。〔六代〕五代の子。初名岩二郎。徒嵐小七といひ、黒鷺と號す。家號吉田屋。天明六年七月二十六日死す。年七十七。

サンエモン 三右衛門（能登屋）越中伏木の船問屋。伏木港の築場を企て、明治元年に至り、漸く其の大部分を成就する時死す。其の子志を繼ぎて竣功す。

サンエモン 三右衛門 ナホユキ（堀直之）**リンテク**（岡林竹）

サンエン 三猿 ダンザウ（七代市川團藏）**ノブサンエンサイ 三猿齋 タダズミ**（伊木忠澄）

し

シ 支（森岡）海軍大主計。鳥取縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十七年六月旅順口外に戰死す。

シイチ 周一（木下）佐賀の人。埼玉縣知事たり。明治四十年六月四日歿す。年五十九。

シウイチ 秀一（矢吹）陸軍中將。男爵。日清の役に功あり。日露の役には留守師團長たり。明治四十二年十二月十六日薨ず。年五十八。

シウイン 秀胤 法師。新後拾遺集の作家。

シウウン 秀雲（松平）本草家。尾張の人。天明三年四月十八日歿。年八十七。本草正傳の著あり。

シウウン 秀雲 クンザン（松本君山）

シウエイ 周榮 畫人。狩野元信の門。

シウエイ 秀榮（本因坊）碁の名手。土屋秀松の二子。一度家元林屋を襲ぎ、明治十七年再び生家に復し、第十六代本因坊秀元の後を承け、十八代となる。後叔父村瀨秀甫に十八代を譲り、秀甫歿するに及び、又十九代となる。九段に進み、明治四十年二月十日段す。年六十一。

シウエイ 修榮 高僧。或は曰ふ庶人なりと。久しく仙那に從ひて三藏を學ぶ。勅を以て傳燈大法師位に叙せらる。

シウエキ 秀益（賀川）大阪の賢。名は晉、字は四明、晉齋と號す。嘉永頃の人。婦人解剖書の著あり。

シウエフ 萩葉 江戸の俳人。柴舟の門。

シウオウ 周應 ドンパウ 曇芳

シウオウ 収億（安壽田）俳人。天目庵と號す。米

シウオク 秀億（園）俳人。春日塘と號す。二世乾十の門。江戸の人。

シウオン 周愚 禪僧。總州常泉寺の開山。字は斷

シウカ しう（坂東）俳優。幼名玉三郎。四代目三津五郎の養子。文政十三年大阪中座に出演し、女形役者として名あり。一時秀猷と云ふ。安政二年歿す。

シウイチ 周一（木下）佐賀の人。埼玉縣知事たり。明治四十年六月四日歿す。年五十九。

シウイチ 秀一（矢吹）陸軍中將。男爵。日清の役に功あり。日露の役には留守師團長たり。明治四十二年十二月十六日薨ず。年五十八。

シウイン 秀胤 法師。新後拾遺集の作家。

シウウン 秀雲（松平）本草家。尾張の人。天明三年四月十八日歿。年八十七。本草正傳の著あり。

シウウン 秀雲 クンザン（松本君山）

シウエイ 周榮 畫人。狩野元信の門。

シウエイ 秀榮（本因坊）碁の名手。土屋秀松の二子。一度家元林屋を襲ぎ、明治十七年再び生家に復し、第十六代本因坊秀元の後を承け、十八代となる。後叔父村瀨秀甫に十八代を譲り、秀甫歿するに及び、又十九代となる。九段に進み、明治四十年二月十日段す。年六十一。

シウエイ 修榮 高僧。或は曰ふ庶人なりと。久しく仙那に從ひて三藏を學ぶ。勅を以て傳燈大法師位に叙せらる。

シウエキ 秀益（賀川）大阪の賢。名は晉、字は四明、晉齋と號す。嘉永頃の人。婦人解剖書の著あり。

シウエフ 萩葉 江戸の俳人。柴舟の門。

シウオウ 周應 ドンパウ 曇芳

シウオウ 収億（安壽田）俳人。天目庵と號す。米

シウオク 秀億（園）俳人。春日塘と號す。二世乾十の門。江戸の人。

シウオン 周愚 禪僧。總州常泉寺の開山。字は斷

シウカ しう（坂東）俳優。幼名玉三郎。四代目三津五郎の養子。文政十三年大阪中座に出演し、女形役者として名あり。一時秀猷と云ふ。安政二年歿す。

シウガ 周賀 相國寺の住僧。字は謹中。應永中叙

シウガ 秀雅 禪師。新後拾遺集の作家。

シウガン 秀誠 眞宗の僧。鎭照寺派本山十五世。秀山の子。一名念智。宗義の擴張に功あり。本山中興秀如上人と稱す。書を能くす。元祿四年十一月六日寂す。年五十。

シウガン 秋巖（萩原）書家。蓼湖の門人。通稱純助。名は靈、字は文侯。古梁逸史と號し、後に自悟と改む。書法晉韓の著あり。明治十年歿す。

シウキ 秋暉（岡本）畫家。酒德萡之悉、曉に秋蓊といふ。江戸の人。鈴木春齋の門に學ぶ。小田原大久保侯に仕ふ。萬延二年九月歿。年七十八。

シウキチ 周吉（上方）歩兵少尉。群馬縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、九月二十九日戰死す。

ツウキチ 周吉（鷹見）彫刻の名手。讃岐の人。藩主賴恭の命によりて刀架に千鶴を彫る。寛延寶曆頃の人。

シウキチ 收吉（田中）勤王家。土佐長川の里正。名は維濟。元治元年清岡道之助等に同盟して落延に誅殛せしため斬らる。年二十二。贈從五位。

シウキチ 脩吉（松平）歩兵少尉。神奈川縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月傷死す。

シウキヨ 周擧 グウダイ（久村曉臺）

シウキヨ 秋擧 三河の俳人。士朗の門。

シウキン 秋琴 サクダイフ（信太作太夫）

シウク 周覺 ソウヘン（山田宗偏）

シウクワ 周學 ソウヘン（山田宗偏）

シウクワ 周壑 天龍寺の高僧。九條經敎の子。字は綏中。妙龍の弟子。正長中寂す。

シウクワ 秋瓜 江戸の俳人。多少庵と號す。大無の門。初め棚居に從ふ。寛政二年二月十一日歿す。鳥の都、百ほととぎすの著あり。

シウクワ 秋岳 畫人。字は林周。丹波の人。周文の畫風を慕ひしが、後故ありて筆を鄽つ。

シウクワ 秀和 俳人。大野氏。辰狐亭、相水翁の號あり。似春の門。正德四年八月歿す。

シウカン 周鑑 禪僧。伯耆國守山名滋之、瑞仙寺を建立して、之を主らしむ。

シウカン 秀誠 眞宗の僧。鎭照寺派本山十五世。秀山の子。一名念智。宗義の擴張に功あり。本山中興秀如上人と稱す。書を能くす。元祿四年十一月六日寂す。年五十。

シウガン 秋巖（萩原）書家。蓼湖の門人。通稱純助。名は靈、字は文侯。古梁逸史と號し、後に自悟と改む。書法晉韓の著あり。明治十年歿す。

シウキ 秋暉（岡本）畫家。酒德萡之悉、曉に秋蓊といふ。江戸の人。鈴木春齋の門に學ぶ。小田原大久保侯に仕ふ。萬延二年九月歿。年七十八。

シウキチ 周吉（上方）歩兵少尉。群馬縣人。明治三十七年日露戰役に從ひ、九月二十九日戰死す。

ツウキチ 周吉（鷹見）彫刻の名手。讃岐の人。藩主賴恭の命によりて刀架に千鶴を彫る。寛延寶曆頃の人。

シウキチ 收吉（田中）勤王家。土佐長川の里正。名は維濟。元治元年清岡道之助等に同盟して落延に誅殛せしため斬らる。年二十二。贈從五位。

シウキチ 脩吉（松平）歩兵少尉。神奈川縣出身。日露戰役に從軍し、明治三十八年三月傷死す。

シウキヨ 周擧 グウダイ（久村曉臺）

シウキヨ 秋擧 三河の俳人。士朗の門。

シウキン 秋琴 サクダイフ（信太作太夫）

シウク 周覺 ソウヘン（山田宗偏）

シウクワ 周學 ソウヘン（山田宗偏）

シウクワ 周壑 天龍寺の高僧。九條經敎の子。字は綏中。妙龍の弟子。正長中寂す。

シウクワ 秋瓜 江戸の俳人。多少庵と號す。大無の門。初め棚居に從ふ。寛政二年二月十一日歿す。鳥の都、百ほととぎすの著あり。

シウクワ 秀和 俳人。大野氏。辰狐亭、相水翁の號あり。似春の門。正德四年八月歿す。

シウケイ（松崎白圭）

シウイ 士愛 ノブノリ（唐崎信愛）

シウアン 士安 禪僧。肥後國の人。本州大慈嶽山寺嚴寒の弟子。後其の席を繼ぐ。筑後二尊寺を創し、辭して嶽山寺に歸り、延元元年寂す。年九十。

ジイン 自證（渡邊華山）佐賀の儒者。國老尋人氏の臣。名は道忠、字は信甫、通稱忠兵衛。安藝の子。東原座舍の執授たり。享保四年三月十三日歿す。年八十五。

ジアン 自安 京都の俳人。眞芙軒と號す。令德の門。

ジアン 自庵 クワザン（熊本華山）**シヤウゼン**（吉田昌全）**リユウタツ 隆達**

ジアン 慈庵 タンサイ（岡澹齋）儒者。各は宗叔。木下順庵に學ぶ。京都の人。徳島田氏と改む。

ジイ 子彝 クンザン（小野君山）

シイウ 四友（俳人。土屋氏。）

シイウ 四友（田邊）俳人。

シイウ 政年間江戸に住す。

シイウ 支幽 近江膳所の俳人。芭蕉の門。

シイウ 師由（小野崎）眞史。出羽秋田の人。秋田侯の支封に寄ふ。

シイウ 紫遊（宇治）一中節語り。雲文の弟子。通稱太郎。明治四十五年三月歿。年六十四。

シイウ 子友 シメイ（李紫溟）

シイサイ 黒皓齋 クワウタク（細井廣澤）

シイン 紫隆（筑波庵）狂歌師。江戸下谷の人。若葉。通稱丸屋伊兵衛。實商。天保三年十月死す。

シイン 市隱 美濃垂井の俳人。元祿頃。蕉門。

シイン 子允 ハクケイ（松崎白圭）

ジイン 自證 僧。越前福井の人。名は公夏、字は嚴寒の弟子。後其の席を繼ぐ。江戸四谷自性院、愛宕山長床房に住し、京都に閑居す。法印大僧都に至り、元文三年正月十四日寂す。年八十三。

ジイン ホフシンワウ 慈嵐法親王 後陽成天皇の第十三皇子。二品。天台座主たり。讃岐、常修院宮また梶井宮といふ。秀ら茶道を古田織部に學ぶ。元祿十二年十二月二日薨ず。年八十二。

シウ 秀 カウザウ（藻寄行藏）：

シウ 鯤 クワアン（松井蝸菴）

シウ 子羽 ハンカウ（岡田半江）

シウ 修（井上）志士。舊稱千太郎。もと岡山藩士。木戸の謫士と共に國事に奔走す。明治四十二年歿す。年六十五。

シウ 志宇 近江の女俳人。曉臺の門。

シウアン 修庵（香川）醫。姫路の人。名は興德、字は太仲、字を以て稱す。別號一本堂。著、行餘贅言、醫事說約、文集等。

シウアン 鎏華（中井）儒者。阿波藩野の人。大阪に住す。名は誠之、字は叔貫、通稱四郎。又忠藏。三宅石庵に學び、懷德書院を創す。寶曆八年歿す。門はがたりの著あり。

シウアン 就庵（辻澤）醫。越後の人。名は榮、字は一守、觀察。並人と號す。戊辰の役、新發田藩の軍網院副長たり。明治二十七年十二月歿す。

シウアン 洲庵 ランシウ（五井蘭洲）

シウアン 岫庵 ソウクン（大森宗勳）

シウイ 秀意 富山）周防玖珂郡の人。京攝に赴きて、船橋藥製の法を學び、鄉に歸りて、岩國藩を創む。寛延頃の人。

シウクワウ 俯廣 エンカク 圓覺

シウクワク 秀鶴(中村) 名優。森田座の座頭。

シウケイ 周慶(向山) 醫。名は欽章。讃岐の人。池田玄丈に學び、高松藩の醫員に列す。薩摩の製糖家眞勳と謀りて其の製法を改良す。文政二年九月二十六日殁。年七十四。

シウケイ 周溪(渡邊) 土佐派の畫家。名は清。尾張に住す。田中訥言に學ぶ。安政年中の人。

シウケイ 周桂(菅沼) 醫者。鍼灸を主とす。名は長之。攝津國の人。

シウケイ 周奎 井メイ 維明

シウケイ 周繼 セツソン 雪村

シウゲイ 聚藝 禪僧。鎌倉の人。上總東昌寺に出世し、鄕巷の席を繼ぐ。葉衣の勤場を棄り、足利持氏に崇信せらる。永正九年寂。年七十一。

シウゲウ 周曉 リヨウチ(猿山龍池)

シウゲツ 秋月 畫僧。名は等觀。俗姓高城氏。畫法を雪舟に學び、又師に從ひて入唐す。永正年中の人。

シウゲツ 秋月 大阪の俳人。片山氏。通稱淸右衛門。立圃の門。

シウゲツ 舟月 (樋口) 江戸の畫家。法眼。

シウケン 周軒(佐藤) 儒者。播磨の人。名は周義。通稱勘平。晩に歷也と號す。後藤松軒に學ぶ。寶保元年七月十七日殁。年七十七。

シウケン 修軒(山名) 江戸の醫。伊豫西條の人。

シウゲン 周嚴 禪僧。字は東沼。相國寺に住す。

シウゲン 周元 畫僧。雪舟の風を學び、能く半身の達摩を畫く。

シウコ 秋湖 ゲンズ井 (久坂玄瑞)

シウコ 修古(宮本) 俳人。交肖舍と號す。竿秋の門。安永四年八月四日殁す。年五十七。

シウコク 秀國(壽) 俳人。石壽堂と號す。貫明の門。江戸の人。

シウサ 周佐 高僧。俗姓佐竹氏。常陸の人。正覺の葬を營ひて印可を得。勤誠、宗猷恪迪禪師。

シウサイ 秋齋(阪) 京都の國學者。通稱文中。名は儀。字は子儀。木母と號し、天明五年殁す。著。蜻蛉日記解說。

シウサイ 秋齋 ヨシトシ(多田義俊)

シウサイ 萩齋 ヨシモト(林良本)

シウサイ 修齋(原) 越後柏崎の儒者。通稱俊藏。名は世雄。弘化頃の人。

シウサイ 周齋(淺井) 陶工。名は矩賢、鳳卿圖と號す。通稱源兵衛。大阪の巨商。寶曆中、八幡の鳩ケ峰に窯を作る。之を八幡南山燒といふ。寬政三年殁す。年八十。

シウサイ 周齋(坂本) 茶人。宗偏の門。

シウサイ 周齋 シウタツ(谷村周達) モトビロ (藤門元弘)

シウサイバウ 周濟房(土岐) 楠氏の臣。正平五年正月五日四條畷の戰に死す。

シウザウ 周藏(加古川) 儒者。播磨の人。名は周之、通稱、又甚藏。又甚川と號す。幼を江戸に下して、仁齋の學を請ず。文化十四年九月十一日殁す。年七十一。

シウザウ 周藏 カウサイ(小田昂齋)

シウザウ 周三(山本) 蒔繪師。通稱利兵衛。武樣の子。父に學び、常に禁中の調度を作る。寬政三年四月二十日殁。年四十九。

シウザウ 周三(杉浦) 砲兵大尉。愛知縣出身。明治三十七年戰役に出征し、三十七年十二月東雞冠山砲臺に戰死す。

シウザウ 修三(中川) 醫者。名は定求。寬政元年二月京都に殁す。年六十三。

シウザウ 修藏(世良) 長州藩士。名は磁善。戊辰の役、參謀たり。會津侯の仙臺米澤二藩に依りて降を請ふや、修藏破說を排して二藩を誅り、四月十九日仙臺兵に捕へられて斬らる。

シウザウ 脩三 ケイホ(守元溪圃)

シウザウ 秀三 クワウテイ(岡田煌亭)

シウザウ 終藏(河西) 歩兵少佐。長野縣人。日露の役に從ひ、明治三十七年八月二十一日盛京省寺兒溝に負傷し、二十六日殁す。

シウサウシヤ 秋草社 ヤハ(竹田野坡) 「す。

シウサク 周作(武井) 物産家。天保二年魚譜を著

シウサク 周作(千葉) 鹽客。北辰一刀流の始祖。仙臺の人。名は成政。神田松五が池に住し、水戸藩の撃劍師範となる。安政二年十二月殁す。

シウサン 秋算 武藏國目黑新長谷寺の開基。慳正。寬永十八年十月十六日化す。

シウザン 周山(田中) 醫者。長崎の人。西三博に從學して、名を三貞といふ。延寶中、藥を后宮に上り、法橋に叙せらる。後三博と偏はず、辭して鄕し、名を周山と改め、大村侯の客となる。

シウザン 周山(松下) 醫。名は元明、字は昌林。寬山の子。山村道安に學び、法眼に叙せらる。明和二年九月十六日殁。年六十一。

シウザン 周山 タンセン(吉村探仙)

シウザン 秀山 ジユザン 壽山

シウザン 鷲山(大久保) 高田藩の儒者。名は好知、通稱門左衛門。寬永五年十月十八日殁す。年五

十六。著、探芳錄、騷壇錦談等。

シウザン 鷲山(伊藤) 儒者。通稱三平、名は長有。安政年間江戸に住す。

シウザン 秋山(櫻井) 江戸の女畫家。雪館の女。名は雪傑、字は桂月。容貌醜し。

シウザン 舟山(櫻井) 儒者。但馬國伊佐村の豪農。良貞の第四子。名は良輪、字は子鎭、通稱善藏。經を伊藤蘭嵎に學び、文を宇野明霞に質し、仙石侯の儒官となり、寶曆七年二月殁す。年四十一。

シウシ 周之 畫僧。周文に學ぶ。

シウシ 周嗣 茶好法師と同時の禪僧。歌を善くす。新千載集の作家。

シウジ 修二(岩野) 歩兵少尉。新潟縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月四日盛京省連子堡の戰に負傷し、翌日殁す。

シウジ 秋二(大橋) 英濟の陶工。尾張の人。周平の弟子。安政四年十月二十日殁す。年六十三。

シウジ 秋耳 俳人。峯松の門。

シウジ 周次(永山) 歩兵中尉。山口縣出身。日露の役に從ひ、明治三十八年三月攝順に傷死す。

シウシキ 秋色 女俳人。江戸照降町菓子屋大目某の女。峯玉の妻。本名あき。菊後亭と號す。其角の門。享保十年四月十九日殁す。

シウジツ 秀實(赤尾) 江戸の儒者。字は子穀、鷺洲と號す。安永三年五月十二日殁す。

シウシ ナイシンワウ 秋子內親王 東山天皇の女。母は承秋門院。稙宮と稱す。貞建親王に嫁し、寶曆六年二月薨ず。年五十六。光顯院と號す。

ジウシ ナイシンワウ 柔子內親王 字多帝の皇女。後撰集の作家。

シウシフ 周楫 紀伊高野山の畫僧。雪舟の畫法を

シウシヤ 秋榭 チクザン(成島筑山)

シウジユ 秋壽 野州宇都宮の俳人。五十嵐氏。通稱與左衛門。國潤舍と號す。弘化頃の人。

シウシユンクワ 收駿高 チカフミ(高屋近文)

シウシヨ 秋杵 江戸の俳人。星霜庵と號す。

シウショウ 周勝 高僧。古轡と號す。京都の人。足利義滿建立の瑞芝庵に居り、阿波國桂林寺を創め、又天龍寺に主となり、南禪寺及び阿波國寶性寺に移り、永享二年五月寂す。

シウジヨウ 周乘 勤王僧。周訪一向宗照林寺の住持。髮を蓄へ、大谷八郎と稱し、護國團の器械方となる。慶應二年六月幕軍を久賀村に防ぎて死す。年二十五。

シウジラウ 收二郎(平井) 土佐藩の志士。名は義比、隈山と號す。間崎哲馬と共に薩長の聯合を圖り、又藩政を改革せんとし、反對派に陷れられ、慶應三年六月 自殺を命ぜらる。年二十九。贈從四位。

シウシン 秀愼(宇野) 歩兵中尉。農手縣人。日露戰役に從ひ、明治三十八年三月一日盛京省月堡子に戰死す。

シウシン 周信 高僧。字は義堂。元中五年四月三日寂す。年六十四。

シウスケ 周助(高瀨) 大和十市郡生田の大庄屋。文化十三年私財を投じて大澗池を作る。

シウスケ 周助(齋藤) 砲兵少尉。東京府出身。明治三十七八年戰役に從軍中、三十八年三月盛京省三家屯に負傷して死す。

シウスケ 周助(八見) センリウ(四世川柳)

シウスケ 周助 ホウジ(松本奉時)

シウスケ 周介 ナンガイ(吉益南涯)

シウスヤ 秋樹 チクザン(成島筑山)

シウスヰ 秋水(鈴木) 書家。正水の門人。

シウスヰ 秋水(長尾) 志士。越後村上の人。名は景輪、字は文卿。藤次郎と稱す。玉立山樵、臥手山樵、王蓉等の數號あり。文政中、北邊の警衛りなるに當り、諸州を周遊して說く處あり。文久三年三月十八日殁。年八十五。

シウスヰ 秋水(池守) 江戸の儒者。名は識、字は潛夫。もと太田氏。通稱愼右衛門。世々小倉侯に仕ふ。俗に拘ふを喜ばず。職を致して去り、徒に敎授す。嘉永元年七月二十三日殁す。年七十一。著、周易質義、中庸解。

シウスヰ 秋水(村瀨) 畫家。名は儀、字は世猷、平三郎と稱す。美濃國の人。

シウスヰ 秋水(松田) 蒼松江藩主。名は信道、字は德卿。詩及び書畫を善くす。明治三十五年九月二十四日殁す。年八十四。

シウスヰ 秋水 クワンサイ(松井湲齋) マサマロ (深井政圓)

シウスヰ 秋蓼(瀧澤) 俳人。杞柳齋と號す。紺屋の門。大阪の人。

シウセイ 周清(慶光院) 伊勢神宮奉仕の比丘尼。淨財を募りて遷宮を執行す。

シウセイ 周制 文保年間の畫人。佛畫を主とす。

シウセイ 秀正 美濃の俳人。元祿年間の人。蕉門。

シウセイ 脩靜 クンペイ(蒲生君平)

シウセイセンセイ 修成先生 トウガイ(伊藤東涯)

シウセン 周泉(河野) 俳人。雲洞舍と號す。寒鳥の門。

シウセン 周泉 俳人。青羅の門。

シウセン 秋扇(島村) 國學者。寶曆年間貧淡眞

禰の門に入る。

シウセン 秀仙(乾) 俳人。石巻覇と號す。秀國の門。江戸の人。

シウセン 舟川(狩野) 狩野派の畫人。即養の子。

シウゼ 修治(甲斐) 岁兵少尉。大分縣人。日清戰役に從ひ、明治二十九年二月十三日病歿す。

シウソウ 秋巡(土肥) 俳人。秋田藩士。墓石衞門と稱す。名は實虞。別に清江の號あり。吉川五明三世の跡をつぐ。天保五年歿す。

シウチク 周竹 俳人。十住庵、寸松齋と號す。墓雪の門。江戸の人。

シウソウ 周崇 禪僧。一宮氏。阿波國の人。默翁山城龍川寺に移り、次いで寺主となり、又南禪寺天龍寺に住す。應永三十年九月歿す。

シウチク 秀竹(岡) 江戸の書家。名は承篤、通稱權平。林竹の子。元文三年四月二十七日歿。年八十三。

シウソン 周孫 畫家。周文に學ぶ。

シウソン 周村 エイカイ(佐竹永海) 淡路三原郡の人。國學及び畫學を修め、又地理を好みて、朝鮮琉球に遊ぶ。安永七年十一月歿す。淡路常盤草の著あり

シウソン 秋村(紫) 德島侯の儒員。名は帶。字は縣野。德島の人。明治元年同志の死を傷み、病を得て死す。年四十二。

シウチク 修竹(仲野) 伊勢神宮奉仕の比丘尼。淨財を募りて、遷宮を執行す。

シウチヤウ 周長(慶光院) 伊勢神宮奉仕の比丘尼。淨財を募りて、遷宮を執行す。

シウタ 周太(橘) 步兵中佐。長野縣人。日露戰役に從ひ、明治三十七年八月三十一日遼陽に戰死す。

シウチユウ 周仲 建仁寺の住僧。經濟の法嗣。叔芳と交厚し。文章に長ず。年七十五。

シウダウ 萩堂(大野) 江戸の俳人。秀和の子。

シウチヨ 周櫧 僧。字は誠理。京都天龍寺及び相國寺に住せしが、晩年にして辭し、秋葉山に移る。和歌を好みて香川景樹と交厚し。文政六年歿す。年七十五。

シウダウ 周道 禪僧。伊豫國の人。俗姓藤氏。永後。美作守土岐頼成に聘せられて管天寺の開山となる。大永元年七月二十三日寂す。年八十三。

シウテイ 秋汀(鞍懸) 津山藩の儒臣。關谷治路の子。通稱與二郎。明治四年東、名は恕。弘化頃の人。

シウダウ 綺道(田中) 越後長岡藩の詩人。通稱春

シウタク 周澤 リユウシウ(龍湫) 筑前國の畫僧。佛像を畫きて、可翁の髓を學び、又費法に悉し

シウタク 秋澤 筑前國の畫僧。佛像を畫きて、可翁の髓を學び、又費法に悉して

シウタツ 周達(谷村) 勤王家。金澤藩の蘭醫。通稱次郎、名は直、別に周齋と號す。元治元年藩論に觸れて謫せられ、慶應元年宥死す。年二十八。

シウテイ 修亭(中川) 醫者。名は定故。嘉永三年

シウテイ 周貞(慶光院) 伊勢神宮奉仕の比丘尼。淨財を募りて、遷宮を執行す。

シウテイ 秋汀(鞍懸) 津山藩の儒臣。關谷治路の子。通稱與二郎。明治四年東、名は恕。弘化頃の人。

シウテイ 修亭(中川) 醫者。名は定故。嘉永三年

シウテイ 周貞(慶光院) 伊勢神宮奉仕の比丘尼。淨財を募りて、遷宮を執行す。

シウテキ 秀的 僧。越前國の人。永平寺に出世し、上野耕雲寺に遷り、又青松寺に居る。延寶五年九月十八日寂す。年五十七。

シウテツ 周哲 醫者。號は愚齋。京都の人。儀禮及び周禮の調解を作り、寛永十三年上梓す。

シウテツ 周徹 禪僧。字は徹光。支那に入りて、古林禪師に從ふ。歸朝後、播磨の瑞光寺及び實光寺を創む。

シウテフ 繍蝶(田中) 畫人。名は懿。大赤藩儒の妻。明治十三年京都に歿す。年六十四。

シウテフ 秀蝶(春川) 延享年間の畫工。

シウテン 秋天(篠崎) 俳人。曦月庵と號す。岩松「通稱藤四郎」の門。

シウトウ 秋冬(春夏) 江戸の小說家。文化頃の人。

シウトウ 周東(片山) 俳人。文月庵と號す。盧元坊の門。寸長の弟。天明四年六月二十四日歿す。夢「木人物に長ず。

シウトク 周德 畫僧。椎鑿と號す。尊舟に學び、山女俳人。山水亭と號す。曾良の姪。

シウトク 修德 ギヨクザン(岡田玉山) 畫僧。號は惟肖。京都の人。儀禮及び

シウナン 周南(山縣) 長門藩の文學。名は孝蔚、字は次公、少助と稱す。周防の人。長伯の子。物徂徠に師事し、護園の高足たり。明倫養館の祭酒となる。寶歷二年八月十二日歿す。年六十六。著、公室譜牒、諸侯系譜、養子說。

シウナン 鷲南(管間) 加賀國の儒者。名は元輝、字は休卿、通稱貞介。

シウニヨ 秀如 誠照寺派本山第十七世の住持。勝所城主本多飛騨守康慶の子。將軍德川吉宗の恩遇を蒙り、享保十四年十二月六日寂す。年五十四。書を能くす。

シウハ 秋波(町田) 茶人。名は章、玉雪齋と號す。

業を久田家全に受け、庶祖傳に仕ふ。享保八年十一月六日歿。年六十三。

シウハ 秀葩 トヨノブ(石川豐信)

シウハイ 秋佩 タラウ(成田太郎)

シウハウ 秋芳 キクウ(北野鞠塢)

シウハウ 周昉 僧。足利持氏の第六子。天心と號し、早世す。

シウハク 周伯(淺井) 醫。名は正純、京都に住み、寛永二年歿す。年六十一。

シウハン 周磐 ガクホ(井上學圃)

シウハン 秋帆(高島) 砲術家。名は舜臣。幼名斜之丞、後四郎太夫と改む。長崎の人。幕府に召されて、西洋の火技を傳へ、後、譴に遇ひて、禁錮せられしが、赦されて、復び幕府に用ひらる。慶應二年江戸に歿す。年六十九。

シウヒ 洲美(岩田) 畫家。與久打の門。又文を善くす。

シウヒツ 周弼(青木) 長門藩儒。シーボルトの門。文久三年十二月歿す。明治三十六年贈從四位。

シウヒン 秋蘋(金井) 詩人。名は雄、字は飛卿。之卷の次男。嗣逸に留學す。後清國に聘せられて、彼實學堂の總教習となる。明治三十八年六月十四日東京に歿す。年四十二。

シウフ 修夫 ナンガイ(吉益南涯)

シウフウ 秋風(中川) 俳人。二世湖十の門。

シウフウ 秋風 京都の俳人。三井氏。名は時次。梅盧の門。狂遊無の苦あり。

シウフウダウジン 秋風道人 ザンム 殘夢

シウブン 周文 畫僧。京都の相國寺に住す。字は等慶。船渓、岳翁等の號あり。近江の人。如拙に學ぶ。

シウブン 秀文 永和年中の畫家。とも明の歸化人。

シウブン 修文 越前の朝倉家に寄寓し、後彈國に住す。人物山水を畫く。世に周文と稱す。又禪僧ともいふ。

シウブン 修文 江戸の俳人。左右庵と號す。萬歲の門。

シウブンサイ 修文齋 セイサウ(蒲阪青莊)

シウヘイ 周平(木村) 新派俳優。武藏國船橋の人。明治四十年三月十六日歿す。年四十五。

シウヘイ 周平(新興) 書家。本姓牧氏、名は世機、字は子遠。

シウヘイ 洲平(島村) 舊高知藩の勤王家。藩論に與して囚へられしが、後赦され、明治六年歿す。年四十二。三十一年贈正五位。

シウヘイ 修平 ショウサイ(尾崎稱齋)

シウヘイ 秋坪(貧作) 臘學者。菊池四郎の子。英山の人。幼名矩二郎。箕作氏に養はれ、秋坪と改む。古賀侗庵、楮方洪庵に學ぶ。蕃書取調所教授手傳、外國方勤務たり。兩度歐洲に赴く。後、東京師範學校總理、東京學士會員、東京教育博物館長、東京圖書館長等に任ず。明治十九年十二月三日卒す。年六十二。

シウヘイ 秀平(松尾) 畫家。名は壓、字は聽流、芝「存義の門。江戸の人。

シウヘイ 秀平 ハンシユン 繁俊 リンタイ 存

シウヘイ 周蜂(森) 狩野派の畫家。名は貴信、經秀之、通稱新三郎。五山の子。

シウホ 秋浦(菊池) 詩人。名は晉、又武廣、字は漢

シウフク 修夫 ナンガイ(吉益南涯)

シウフク 秋風(中川) 俳人。二世湖十の門。

シウフク 秋風 京都の俳人。三井氏。名は時次。梅盧の門。狂遊無の苦あり。

シウフクダウジン 秋風道人 ザンム 殘夢

シウブン 周文 畫僧。京都の相國寺に住す。字は等慶。船渓、岳翁等の號あり。近江の人。如拙に學ぶ。

シウホ 秀蜂(石田) 畫家。近江の人。白井嶽士

シウホウ 秀蜂(松尾) 畫家。名は壓、字は聽流、芝

シウホウ 秀蜂 ハンシユン 繁俊 リンタイ 存

シウホウ 周蜂(森) 狩野派の畫家。名は貴信、經秀

シウホク 秀木 禪僧。肥前國佐賀の人。源氏。永平寺に出世し、肯龍に移り、又霧殿の席を關き、雲州俵淺野氏、土州俵山内氏等の歸依を受く。享保二年十月二十六日化す。年七十六。

シウホクケン 舟木軒 ハルマサ(山本春正)

シウヤウ 周養(慶光院) 伊勢神宮奉仕の比丘尼。繪旨を承けて淨財を募り、天正十三年及び慶長十四年の兩度、遷宮及び神構造營の功を奏す。明治三十八年贈正四位。

シウヤウ 周陽 禪僧。武藏國訪山吉祥寺の開山。天文十一年七月十八日化す。

シウヤウ 周陽 畫僧。雪舟の風を慕ふ。

シウヤウ 秋陽 江戸の俳人。白之と號す。初世崇瑞の門。

シウヤウ 秋陽(吉村) 廣島藩の儒者。佐藤一齋の門。名は晉、字は麗明、通稱重助。慶應二年十一月歿。

シウヤウ 秋陽 リクソウ(妻木陸叟) 年七十。

シウヤウ 秋洋(岸) 儒者。通稱淵藏、名は元之。安政年間江戸に住す。

シウユ 周瑜 畫僧。名は妙淵、默庵と號す。夢窓國師の法嗣。元國に渡りて法を求め、又牧溪の畫法を墓ひて、其の妙を得。應安六年六月歿す。年五十六。

シウヨ 周譽(狩野) 畫人。名は親信。

シウヨウアン 秋踊庵 ハシメ(千代ほし女)

シウライ 修來 モクイン(森默隱) 陸軍一等軍醫官。東京府人。日露戰役に從ひ、明治三十八年十月十日病死す。